

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

(第 2 分冊)

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

島名熊の山遺跡
(第2分冊)

財団法人

茨城県教育財団

平成 19 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

しま な くま やま い せき
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

(第 2 分冊)

平成 19 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

目 次

第 2 分冊

第 6 節	14区の遺構と遺物	265
1	古墳時代の遺構と遺物	265
	竪穴住居跡	265
2	奈良時代の遺構と遺物	332
	(1) 竪穴住居跡	332
	(2) 掘立柱建物跡	354
3	平安時代の遺構と遺物	359
	(1) 竪穴住居跡	359
	(2) 土坑	363
4	中世の遺構と遺物	365
	(1) 掘立柱建物跡	365
	(2) 方形竪穴遺構	368
	(3) 地下式墳	370
	(4) 溝跡	374
	(5) 火葬土坑	379
	(6) 墓坑	384
	(7) 柵跡	392
5	その他の時代の遺構と遺物	394
	(1) 溝跡	394
	(2) 墓坑の可能性のある土坑	397
	(3) 柱穴の可能性のある土坑	407
	(4) その他の土坑	409
	(5) ピット群	414
	(6) 柵跡	417
6	遺構外出土遺物	424
第 7 節	16区の遺構と遺物	427
1	縄文時代の遺構と遺物	427
	陥し穴	427
2	古墳時代の遺構と遺物	427
	(1) 竪穴住居跡	427
	(2) 土坑	573

第6節 14区の遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の竪穴住居跡28軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第2400号住居跡（第222～226図）

位置 調査区北部のC 9 b1区、標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第135号溝、第3304～3306号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.35m、短軸5.02mの方形で、主軸方向はN - 22° - Wである。壁高は24～39cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅13～16cm、深さ3～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。第135号溝および後世の攪乱によって袖部と焚き口部が壊されており、全体の規模は不明である。袖部は床面を10cmほど掘りくぼめて第15・17層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第9～14層を積み上げて構築している。火床部は床面を3～8cm掘りくぼめ、ローム土を主体とした第16層を充填して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に29cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～8層に分けられ、第3～6層は、袖部および天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 暗灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	10 暗灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量
2 暗灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量	11 暗灰黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量	12 暗灰黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 灰オリーブ色	砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土ブロック中量、炭化物少量	14 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
6 極暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量	15 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
8 極暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック、焼土ブロック少量
9 オリーブ褐色	炭化物・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量		

ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは42～69cmである。P4は深さ54cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

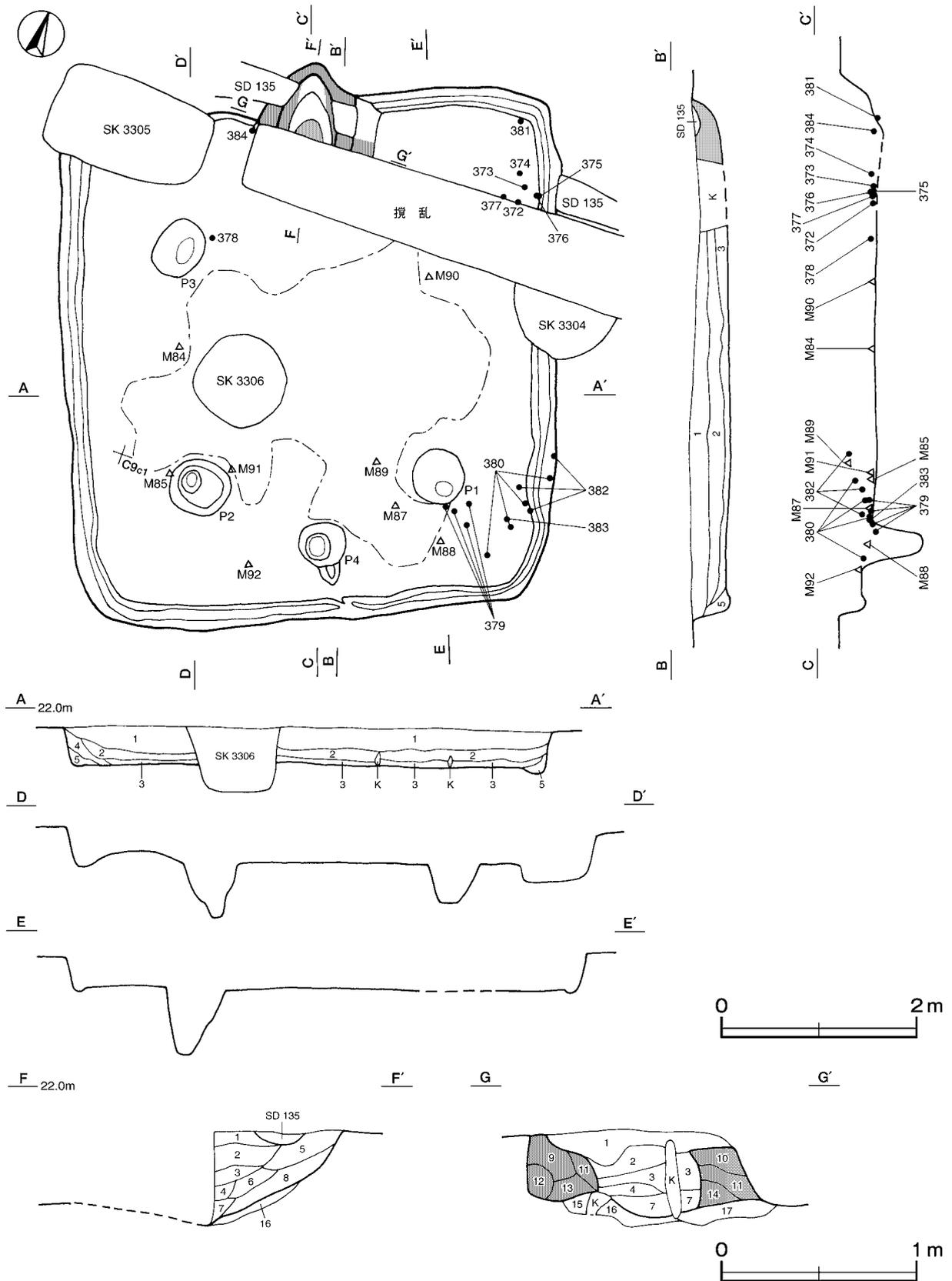
1 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	炭化物・焼土粒子少量、ローム粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片2146点（坏類372、甕類1754、甑20）、鉄製品9点（鎌6、鎌3）が北東コーナー部と南東コーナー部を中心に出土している。また、混入した須恵器片16点、陶器片6点、縄文土器片1点も出土している。372～377・381は北東コーナー部の床面から出土し、中でも375と376は重なった状態で確認されていることから、いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。379・380・382・383は南東コーナー部の覆土中・下層から出土しており、壁際の破片ほど覆土上層から出土していることから、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。M90は東部、M85・M91・M92は南西部、M84は西部の床面から、M87～89は南東部

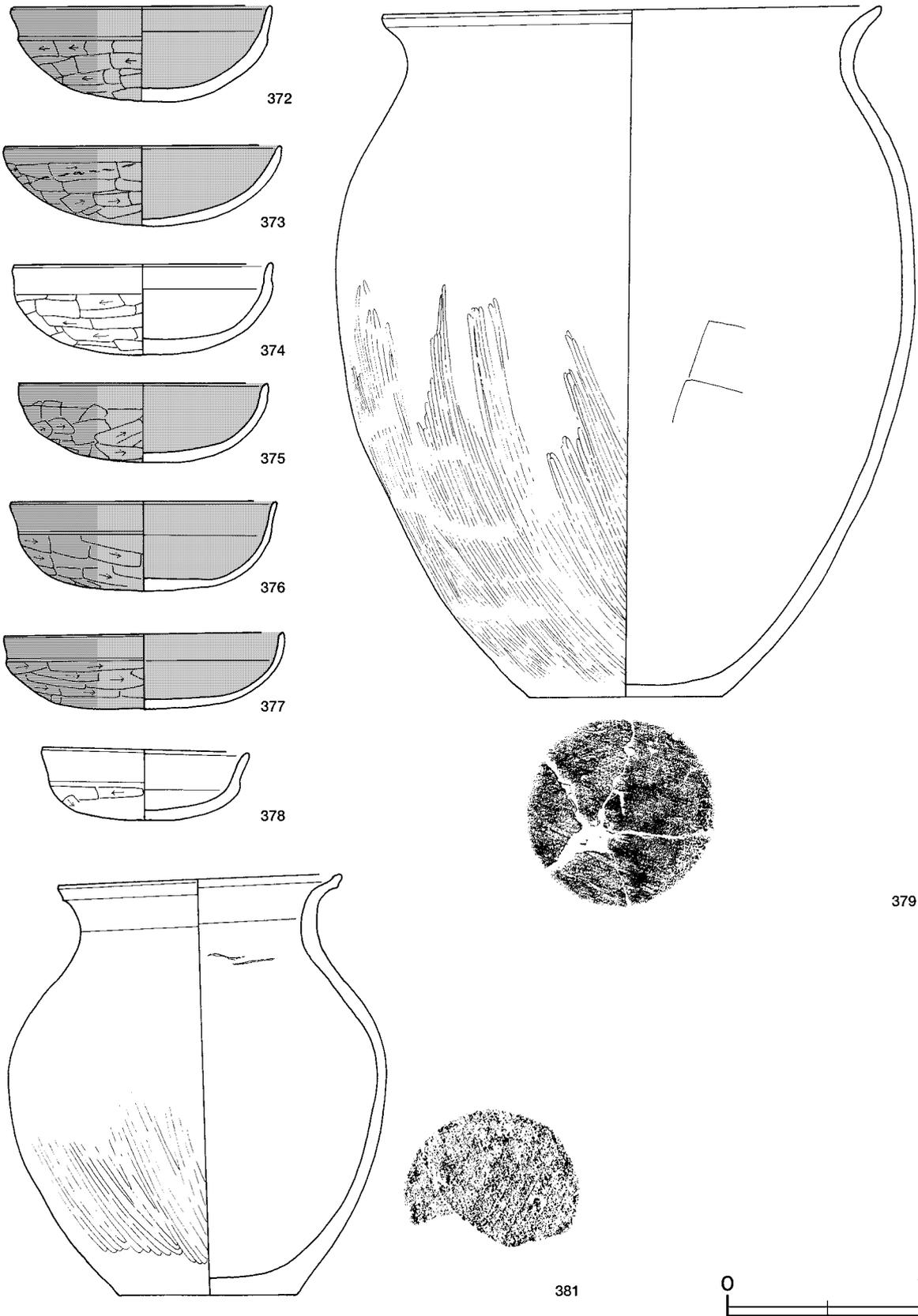
の覆土中・下層からそれぞれ出土している。

所見 出土土器が多量であることや、多数の鉄製品を保有していることから、有力者層の居住が想定される。

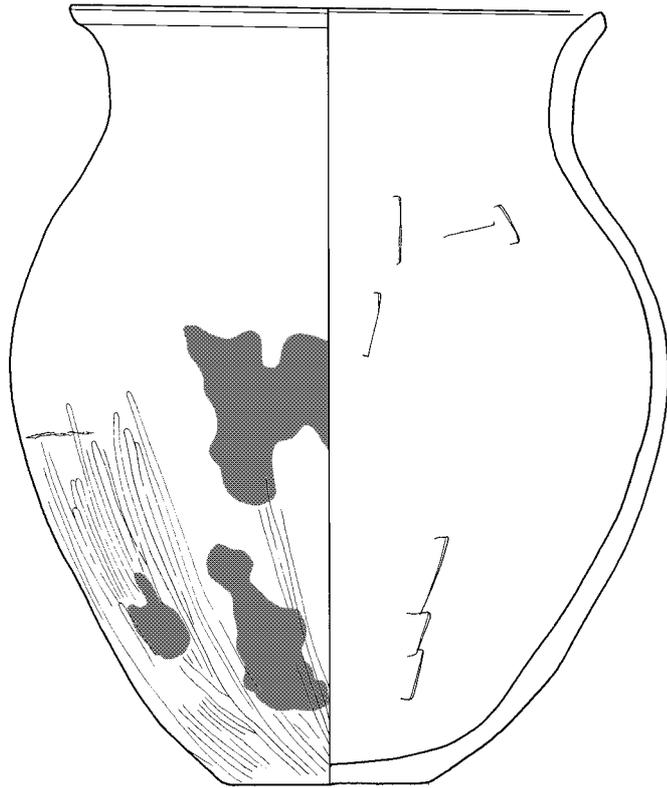
時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



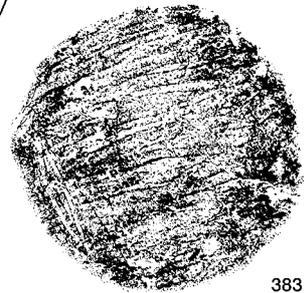
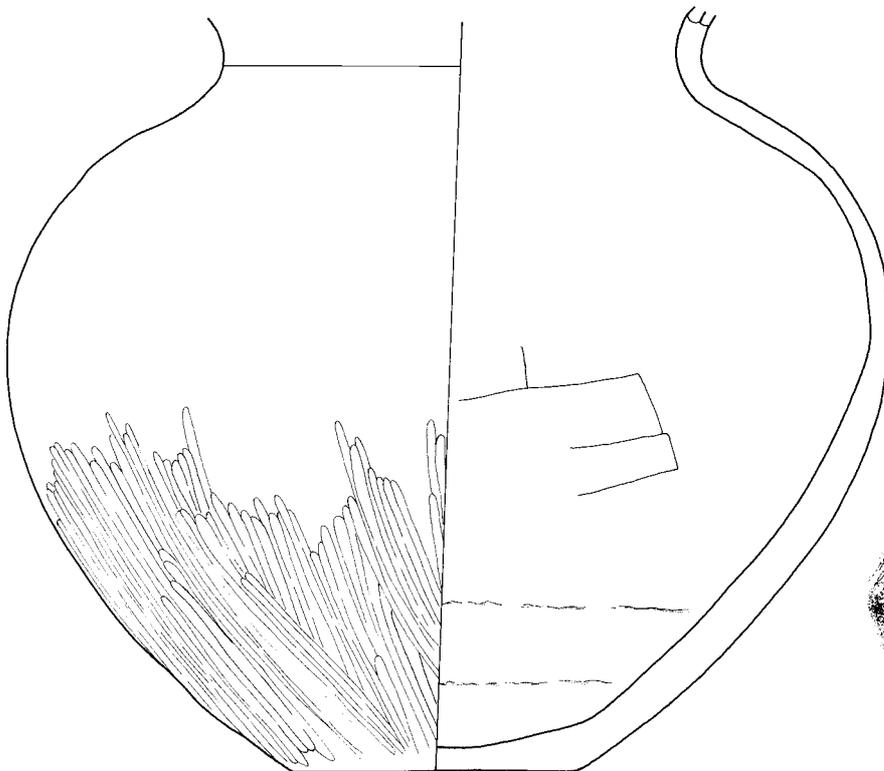
第222図 第2400号住居跡実測図



第223图 第2400号住居跡出土遺物実測図(1)



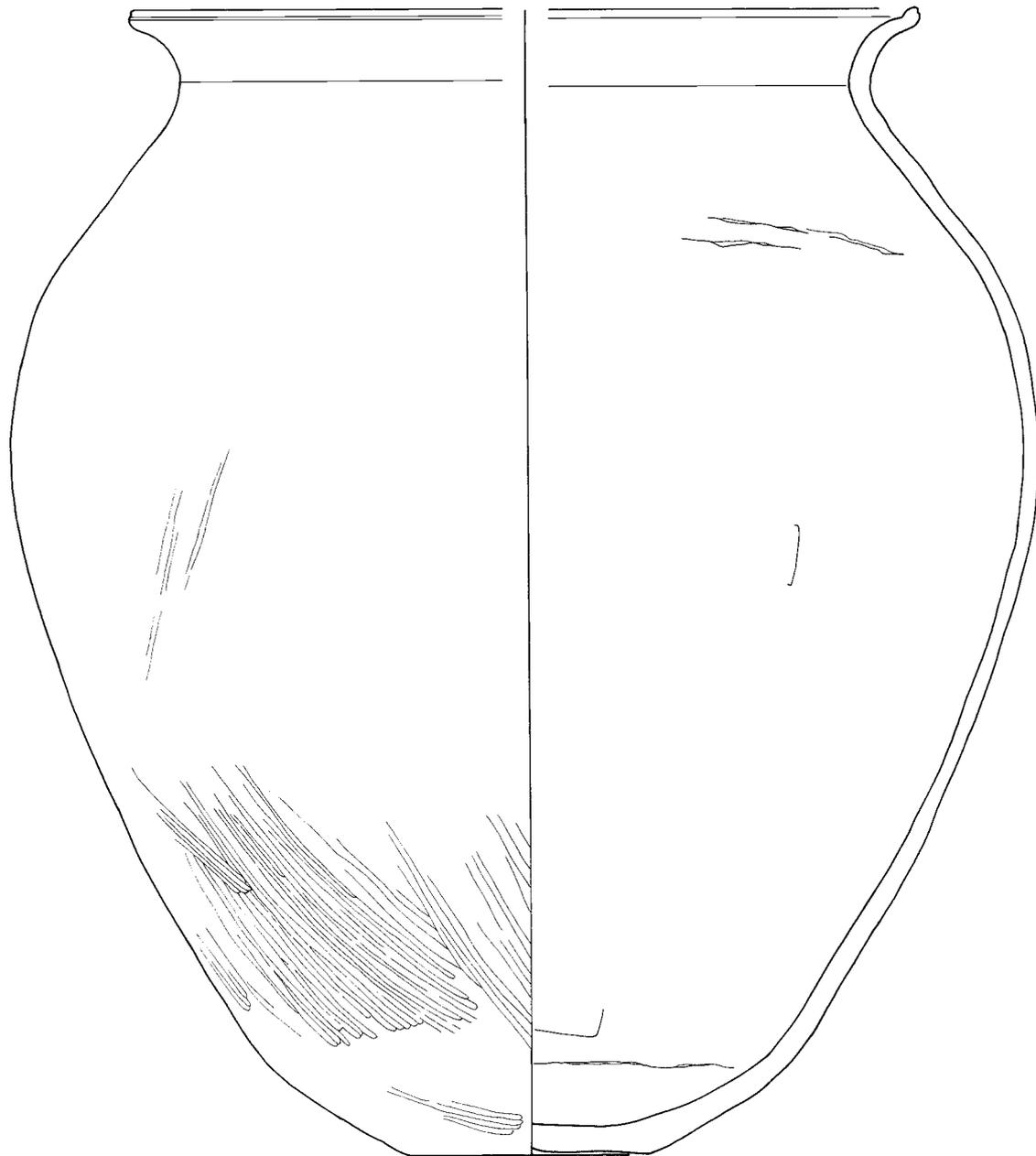
380



383



第224图 第2400号住居跡出土遺物実測図(2)



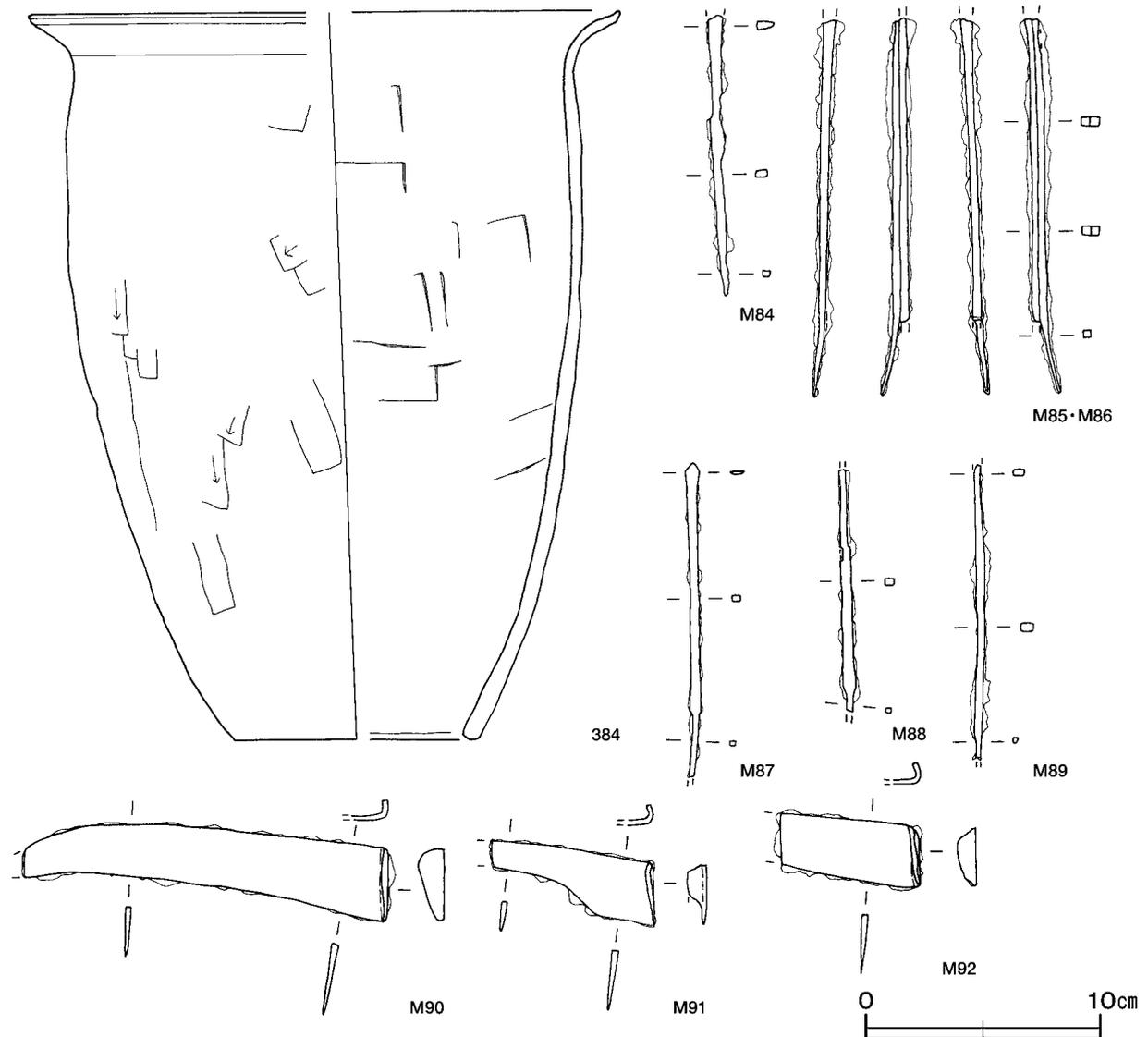
382



第225図 第2400号住居跡出土遺物実測図(3)

第2400号住居跡出土遺物観察表 (第223 ~ 226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
372	土師器	坏	13.0	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL72
373	土師器	坏	13.7	4.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 輪種痕	床面	95% PL72
374	土師器	坏	12.9	4.4	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	95% PL72



第226図 第2400号住居跡出土遺物実測図(4)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
375	土師器	坏	12.3	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	床面	95% PL72
376	土師器	坏	13.3	4.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	床面	95% PL72
377	土師器	坏	13.8	3.9	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	床面	95% PL72
378	土師器	坏	10.3	3.7	-	石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL72
379	土師器	甗	24.8	34.8	9.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ磨き 底部ヘラ磨き	内面ナデ	下層 90% PL73
380	土師器	甗	20.7	31.1	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ磨き 底部ヘラ磨き 輪積痕	内面ナデ	中・下層 70% PL73 外面煤付着
381	土師器	甗	14.0	21.2	8.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ磨き 底部ヘラ磨き 輪積痕	内面ナデ	床面 85% PL75
382	土師器	甗	[34.0]	50.0	10.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ磨き 輪積痕	内面ナデ	中・下層 60% PL73
383	土師器	甗	-	(30.4)	11.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ磨き 底部ヘラ磨き 輪積痕	内面ナデ	下層 85% PL73
384	土師器	甗	[25.6]	31.4	10.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕	内面ナデ	床面 60% PL72

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M84	鐵	(12.2)	0.8	0.4	(7.7)	鐵	鐵身部欠損 断面長方形の棒状 茎尻側が細る	床面	PL81
M85	鐵	(16.2)	0.4	0.4	(22.3)	鐵	鐵身部欠損 断面長方形の棒状 茎尻側が細る 錆のためM86と付着している 重量は2点の合計	床面	PL81
M86	鐵	(13.1)	0.4	0.4	(22.3)	鐵	鐵身部・茎部欠損 断面長方形の棒状 錆のためM85と付着している 重量は2点の合計	床面	PL81

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M87	鏃	(13.5)	0.6	0.3	(7.5)	鉄	片丸造 角関 断面長方形の棒状	下層	PL81
M88	鏃	(10.3)	(0.5)	0.3	(6.9)	鉄	鏃身部・茎部欠損 断面長方形の棒状	下層	
M89	鏃	(12.8)	0.4	0.4	(7.3)	鉄	鏃身部欠損 断面長方形の棒状 茎尻側が細る	中層	PL81
M90	鎌	(15.5)	3.1	0.3	(63.1)	鉄	刃部断面三角形 基部は全体を折り返す	床面	PL80
M91	鎌	(6.9)	2.6	0.3	(20.3)	鉄	刃先部欠損 刃部断面三角形 基部は全体を折り返す	床面	PL80
M92	鎌	(6.0)	2.5	0.3	(23.0)	鉄	刃先部欠損 刃部断面三角形 基部は全体を折り返す	床面	PL80

第2403号住居跡（第227図）

位置 調査区中央部のC 9 j1区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 中央部から南東部は調査区域外であり，南北軸は3.46m，東西軸も2.41mだけが確認された。西壁や竈の位置から，主軸方向N - 22° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は36～39cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部から西壁際まで踏み固められている。確認された部分の壁下には，幅18～20cm，深さ5～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。右袖端部が調査区域外であるため全体の規模は明確でないが，焚口部から煙道部まで124cmが確認された。左袖部の住居内部への張り出しは認められない。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめ，ローム土を主体とした第7層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に67cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。また，煙道部の奥壁には，砂質粘土を主体とした第6層を貼り付けて補強している。覆土は第1～5層に分けられ，第1層は天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土粒子中量，炭化物少量 | 5 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量 |
| 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 極暗赤褐色 砂質粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量 | |

ピット 主柱穴で，深さは56cmである。

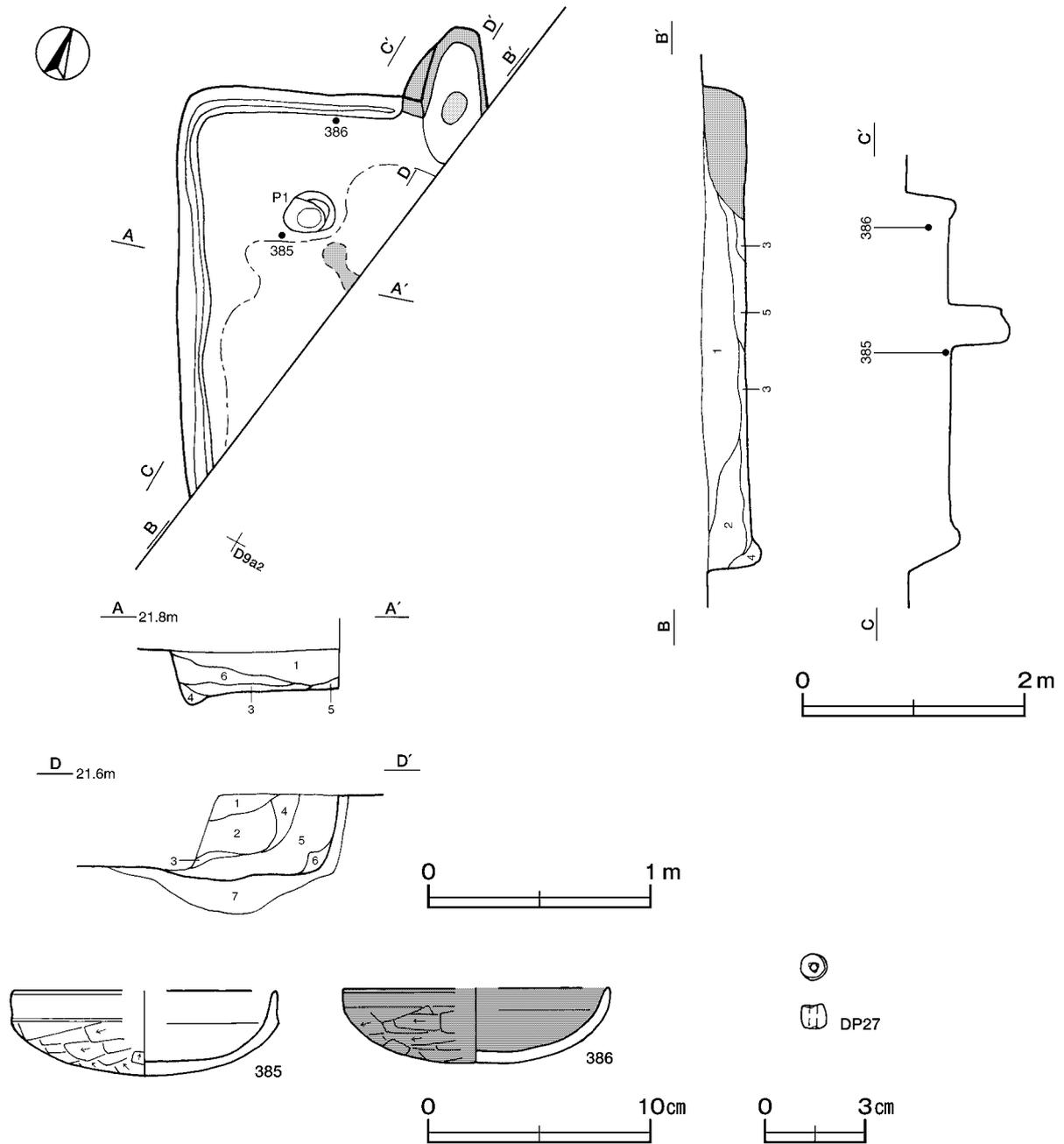
覆土 6層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 5 暗褐色 粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 6 極暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片173点（坏29，椀1，高坏1，甕類142），土製品2点（支脚・小玉）が散在した状態で出土している。出土土器はいずれも細片であり，壁際の破片ほど上層から出土していることから，いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。385は北西部の覆土下層，386は北壁際の覆土中層，DP27は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。



第227図 第2403号住居跡・出土遺物実測図

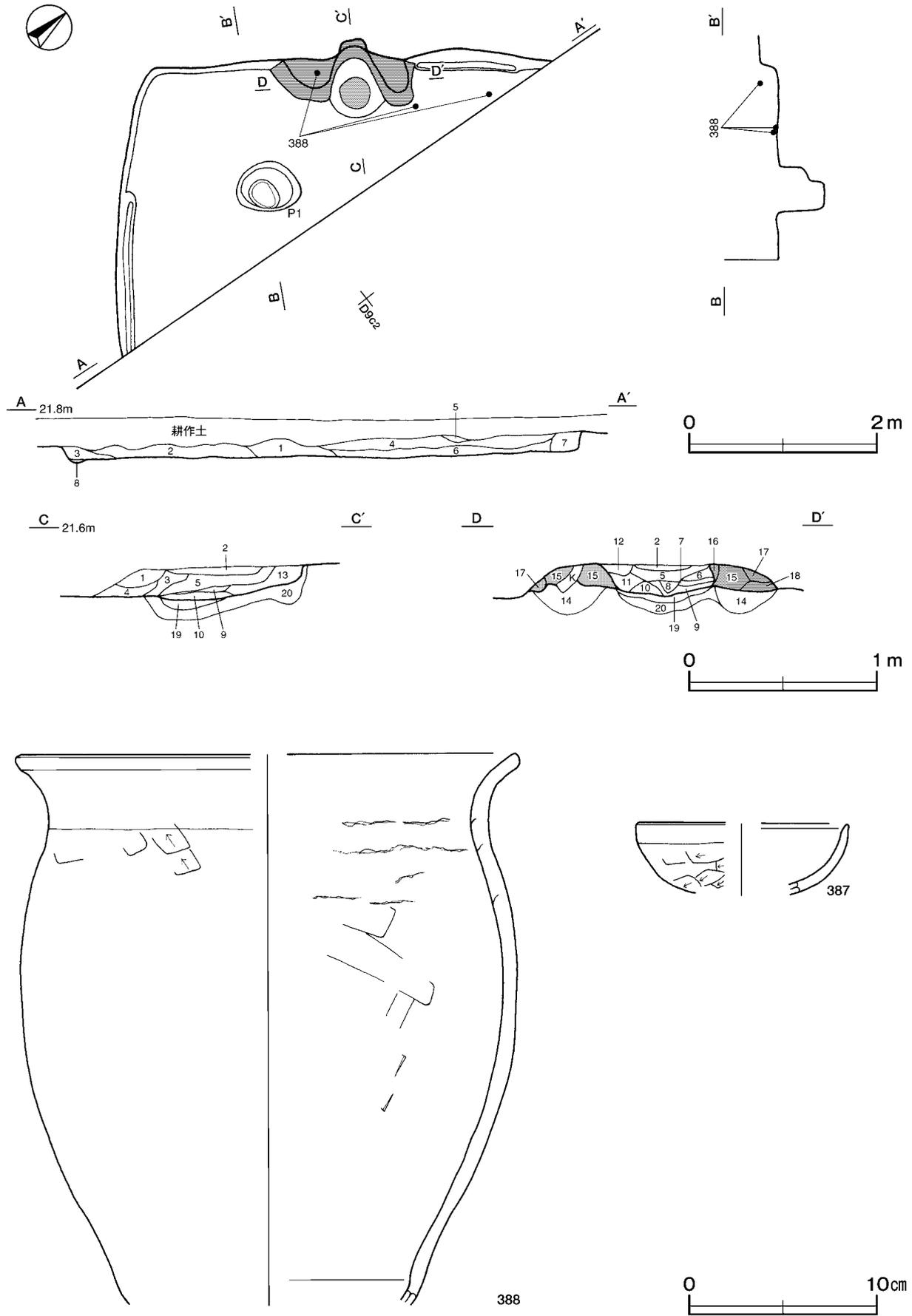
第2403号住居跡出土遺物観察表（第227図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
385	土師器	坏	[11.8]	3.9	-	石英・雲母	浅黄橙	良好	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	60% PL72
386	土師器	坏	[12.0]	3.4	-	雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	中層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP27	小玉	0.8	0.8	0.2	0.5	土(長石・石英)	ナデ 二方向の穿孔	覆土中	PL80

第2405号住居跡（第228図）

位置 調査区中央部のD 9 b1 区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第228图 第2405号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 中央部から東部は調査区域外であり、南北軸は4.24m、東西軸も2.38mだけが確認された。遺存する西・南壁や竈の位置から、主軸方向N - 58° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は西壁際で19cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦であるが、明確な硬化面は認められない。西・南壁下の一部には、幅16cm、深さ4cmでU字状の断面を呈する壁溝が存在している。

竈 西壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで74cm、袖部幅153cmである。袖部は床面を10cmほど掘りくぼめてローム土主体の第14層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とした第15～18層を積み上げて構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ、山砂を含んだ第19・20層を充填して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～13層に分けられ、第1層は天井部の崩落土層、第6・7・11・12層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。左袖上部から出土した土師器甕片と竈右側の覆土下層から出土した破片が接合していることから、住居の廃絶に伴って壊されたと考えられる。また、袖部内からは土師器甕片が出土しており、袖の構築材として使用されていたと考えられる。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 黄褐色 砂質粘土粒子中量 | 12 黒褐色 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 極暗赤褐色 炭化物・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 14 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 にぶい橙色 焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量、炭化物少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 16 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子多量、炭化粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 17 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子多量、炭化物少量 |
| 7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 18 褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 19 明赤褐色 焼土粒子・山砂多量、炭化粒子中量 |
| 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 20 暗褐色 ロームブロック・炭化物・山砂中量 |
| 10 赤褐色 焼土粒子多量、灰中量、ローム粒子微量 | |
| 11 極暗赤褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | |

ピット 主柱穴で、深さは50cmである。

覆土 8層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 5 極暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 極暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 炭化物・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片197点（坏19，椀7，甕類171），土製品4点（支脚），鉄滓1点が散在した状態で出土しており、出土土器はいずれも細片である。387は南東部の覆土中から出土し、388は竈右袖部右側の覆土下層から出土した破片と左袖上部の破片が接合したものである。ともに、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

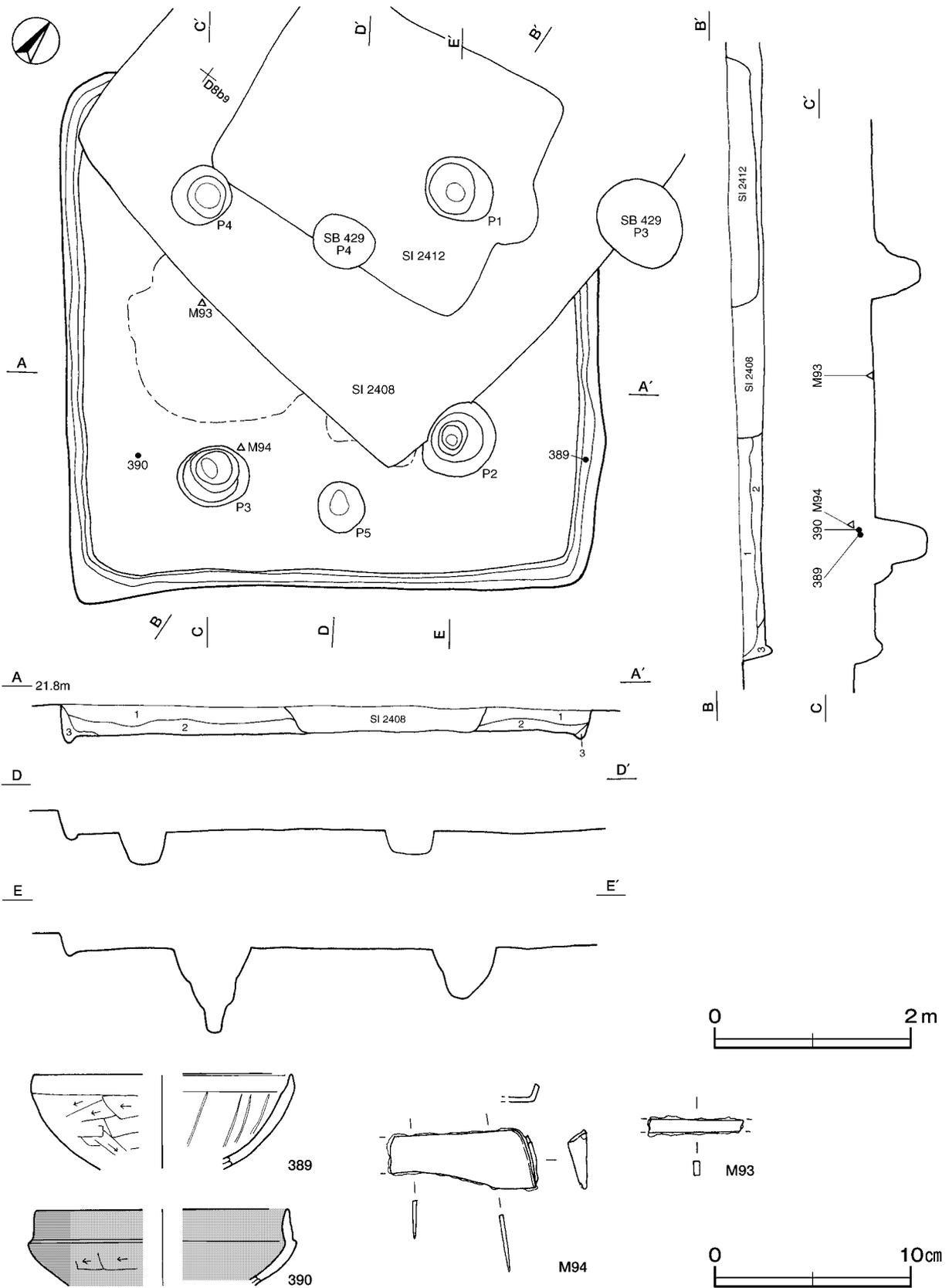
所見 時期は、出土土器から7世紀中葉以前と考えられる。

第2405号住居跡出土遺物観察表（第228図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
387	土師器	坏	[11.2]	(3.8)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	10%
388	土師器	甕	[26.6]	(29.7)	-	長石・石英	黒褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上位ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	中・下層	40%

第2409号住居跡（第229図）

位置 調査区中央部のD 8 b9 区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第229図 第2409号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第2408・2412号住居，第429号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第2408号住居に掘り込まれており，東西軸5.47m，南北軸は5.45mが確認された。主軸方向N - 35° - Wの方形と推定される。壁高は20～32cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅11～15cm，深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは49～87cmである。P5は深さ35cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分けられる。第3層の自然堆積後，第1・2層が人為的に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片525点(坏77，高坏8，甕類440)，鉄製品3点(刀子，鏃，鎌)，鉄滓2点が，覆土中・上層を中心に散在した状態で出土しており，出土土器はいずれも細片である。また，混入した須恵器片10点も出土している。389は南東部壁際，390は南西部の覆土中層，M93は中央部西寄りの覆土下層，M94は南西部の覆土上層からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 第2408号住居に掘り込まれているため竈は確認されていないが，北部の床面に粘土が広がっていることや，本調査区における同時期の住居はいずれも北壁に竈を有していることから，本住居も北壁に竈を有していたと考えられる。時期は，出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。

第2409号住居跡出土遺物観察表(第229図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
389	土師器	坏	[13.2]	(4.9)	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状の暗文	中層	10%
390	土師器	坏	[12.8]	(3.9)	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M93	刀子	(4.8)	0.7	0.3	(5.5)	鉄	刀身欠損 茎部の破片 断面長方形	下層	
M94	鎌	(7.4)	3.1	0.2	(18.1)	鉄	刃先部欠損 刃部研ぎ減り 断面三角形 基部は全体を折り返す	上層	PL80

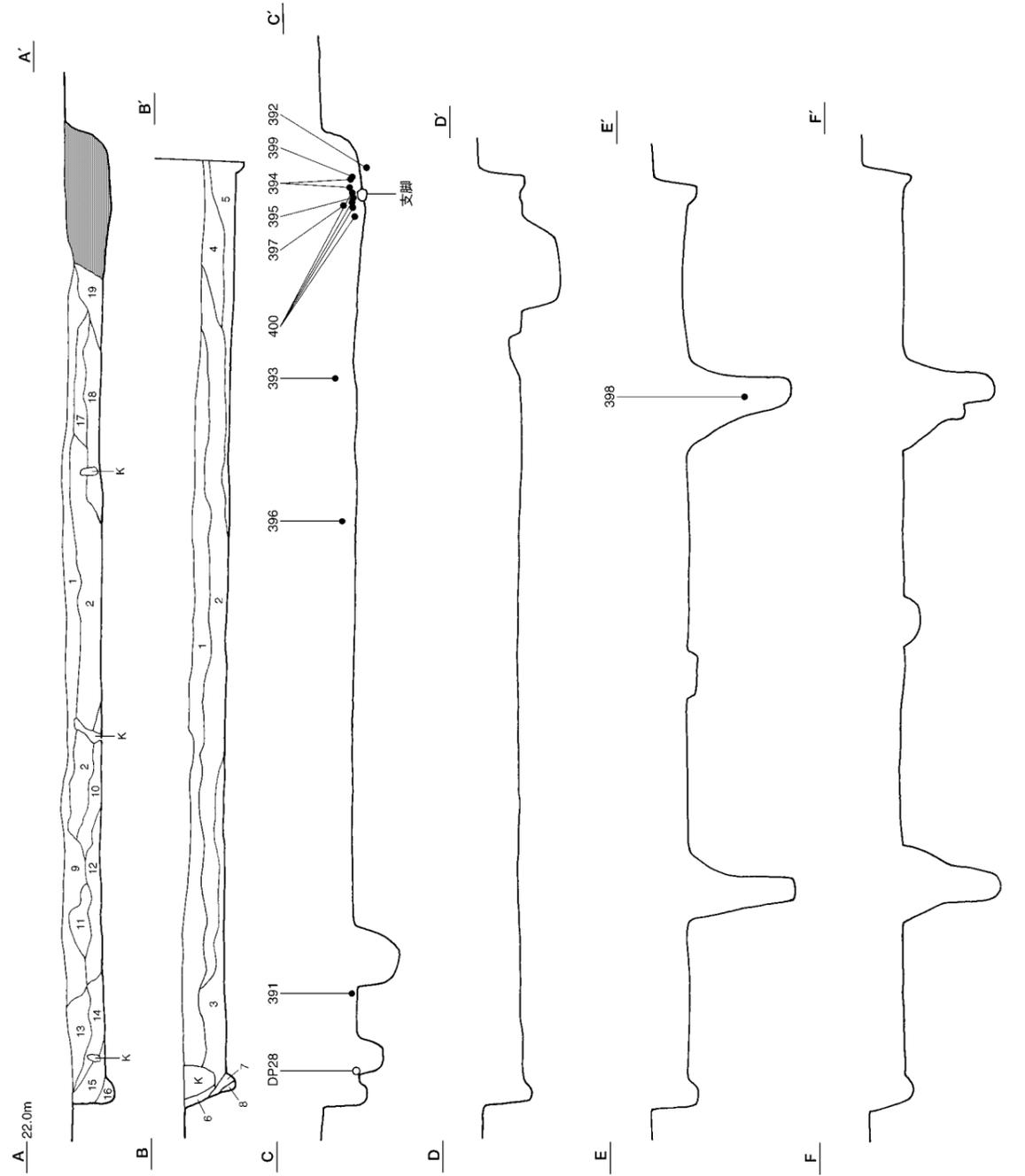
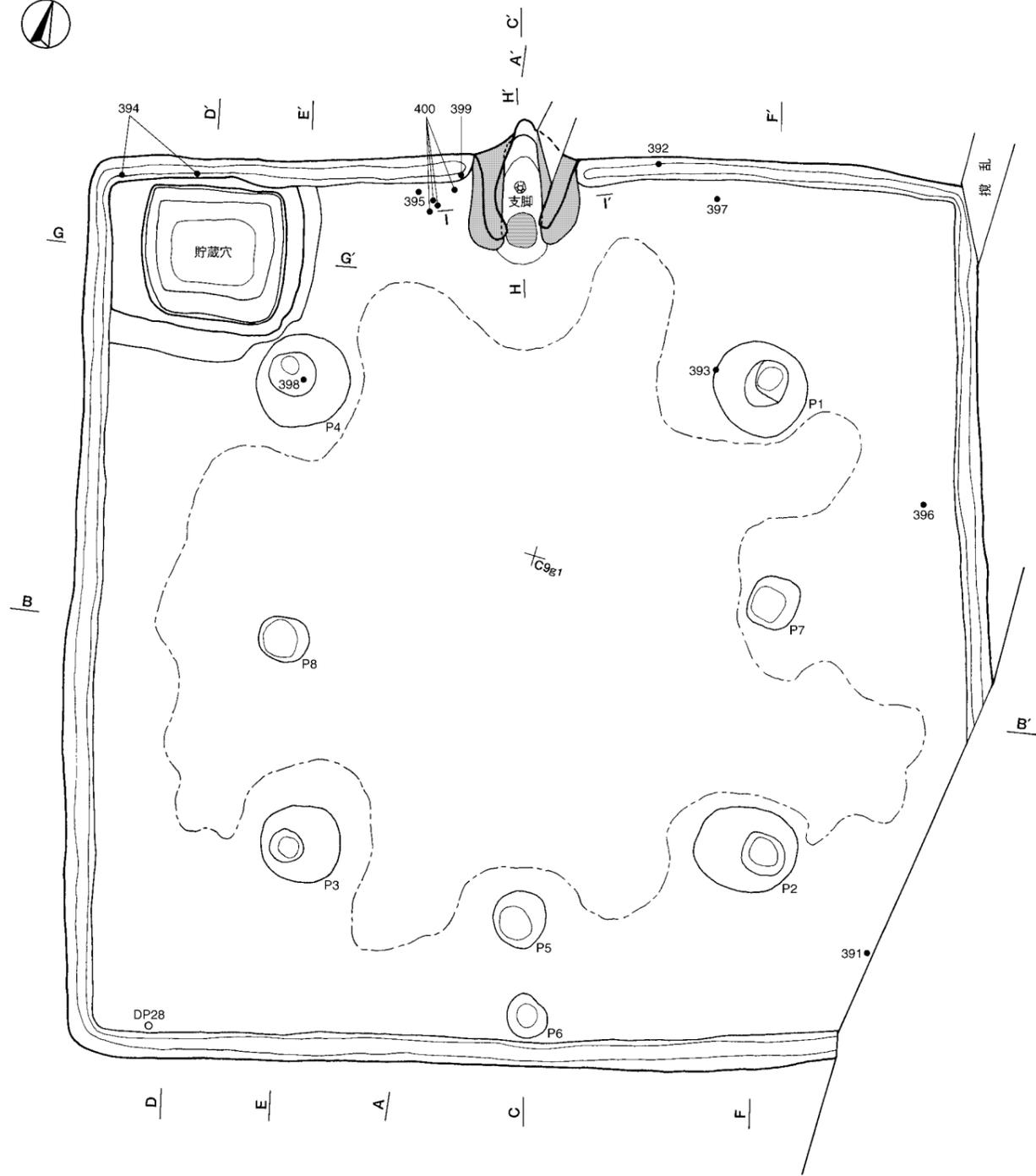
第2411号住居跡(第230～232図)

位置 調査区北部のC 8 f0区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

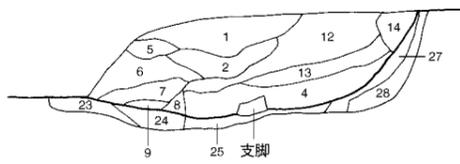
規模と形状 長軸9.04m，短軸8.96mの方形で，主軸方向はN - 17° - Wである。壁高は34～43cmで，外傾して立ち上がっている。南東コーナー部は調査区域外である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅16～26cm，深さ6～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

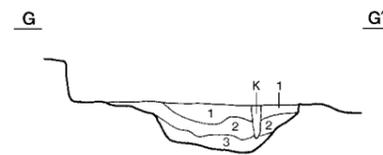
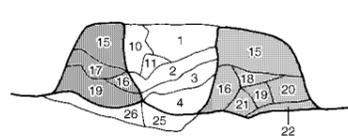
竈 北壁中央部に付設されており，耕作による攪乱で右袖部の一部が壊されている。規模は，焚口部から煙道部まで146cm，袖部幅111cmであり，袖部は砂質粘土を主体とする第15～22層で構築されている。第17層は中量の焼土ブロックを含んでいることから，竈の作り替えが想定される。火床部は床面を5～7cm掘りくぼめて第23～25層を充填し，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に37cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～14層に分けられ，第2・5層は天井部の崩落土層，第10層は袖部の崩落土層に相当する。



H 21.8m



H' I



G'



第230图 第2411号住居跡実測图

竈土層解説

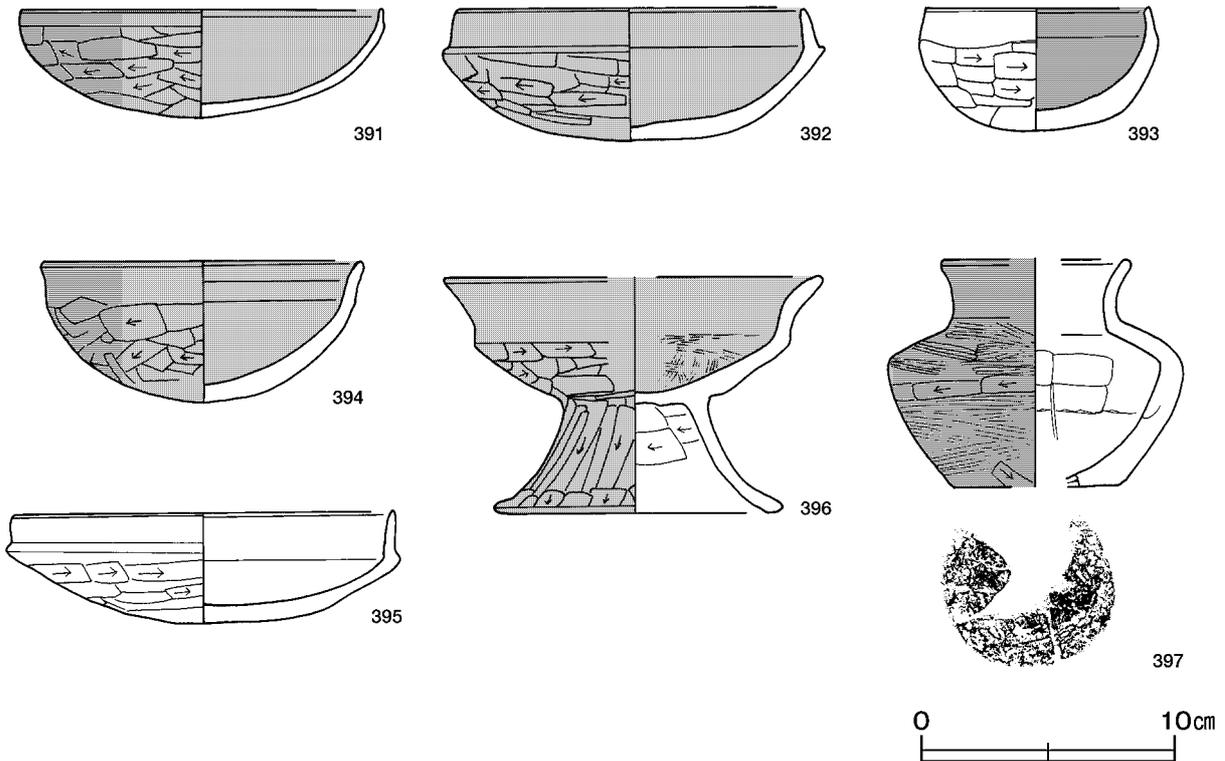
- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 16 暗赤褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 18 暗灰黄色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 | 19 オリーブ灰色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 20 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量 | 21 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化物・ローム粒子少量 | 22 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 8 褐灰色 | 灰多量，焼土粒子少量 | 23 暗赤褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 |
| 9 暗褐色 | 焼土粒子多量 | 24 赤褐色 | 焼土粒子多量，ロームブロック中量 |
| 10 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子中量，炭化物少量 | 25 暗赤褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 11 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 26 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量 |
| 12 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 | 27 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 13 極暗赤褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 | 28 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 14 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | | |
| 15 暗灰黄色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さは88～103cmである。P5は深さ45cm，P6は深さ29cmで、ともに南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ19cmでP1とP2の中央部，P8は深さ12cmでP3とP4の中央部に位置していることから、補助的な支柱穴と考えられる。

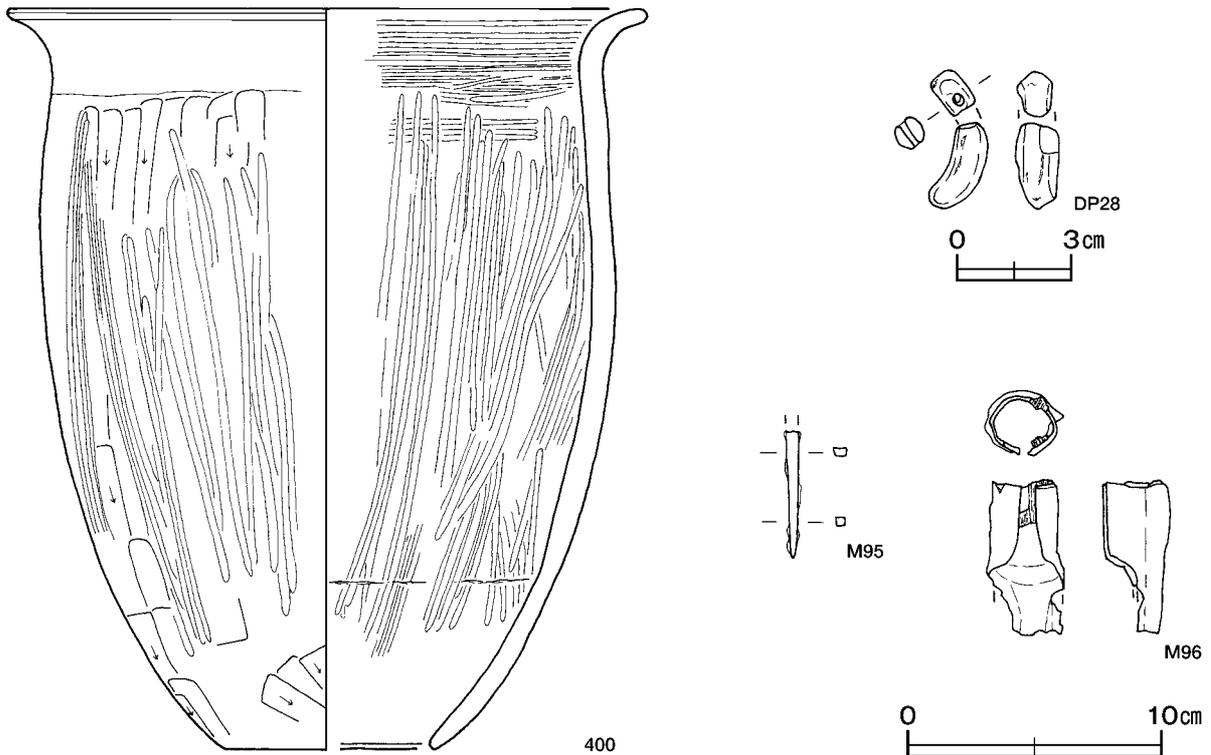
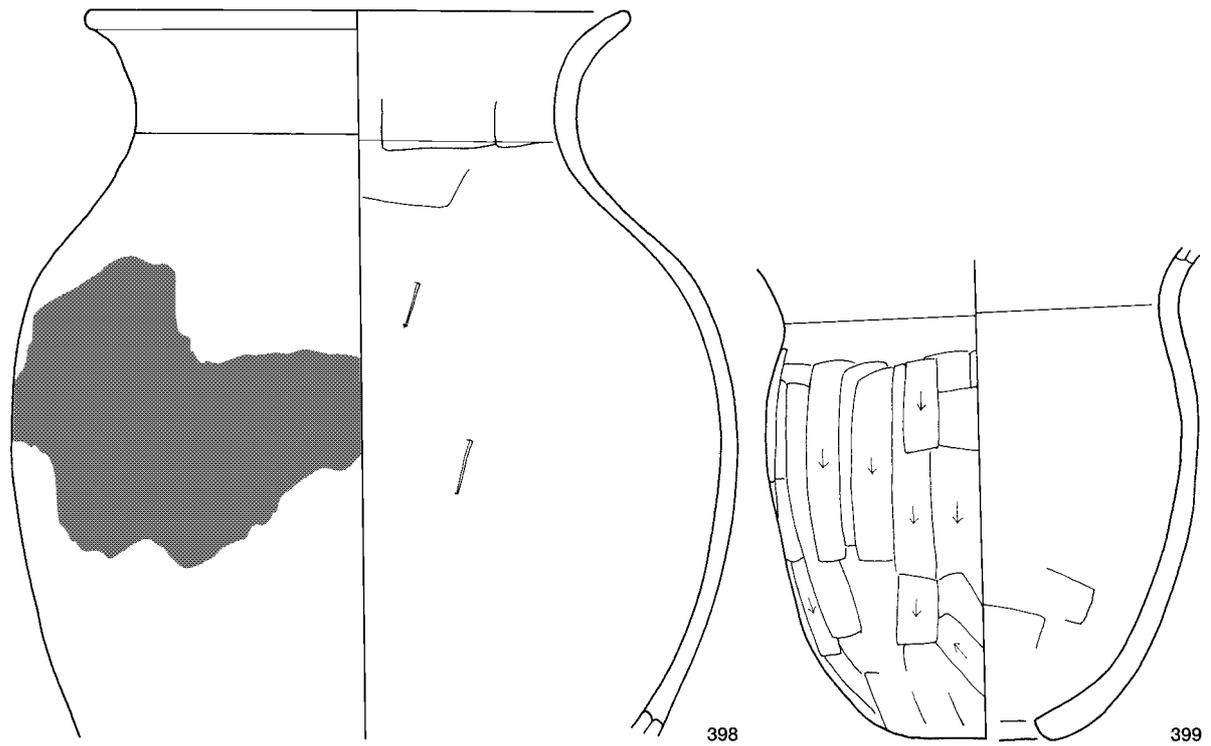
貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸157cm，短軸137cmの隅丸長方形で、深さは47cmである。底面は皿状で外傾して立ち上がり，覆土は自然堆積の状況を示している。また，縁辺部が土手状に高まっていることが確認されており，貯蔵穴が位置する北西コーナー部が区画されていたと想定される。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物少量 | | |



第231図 第2411号住居跡出土遺物実測図(1)



第232図 第2411号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 19層に分けられる。壁際の第7・8・15・16層が自然堆積した後に、人為的に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック少量	13	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子微量
6	褐色	ローム粒子中量	17	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子少量	18	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック少量	19	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
9	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量			
10	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量			
11	褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片2052点(坏258, 椀2, 高坏24, 甕類1745, 甌23), 土製品10点(支脚7, 勾玉3), 鉄製品4点(釘3, 不明1), 鉄滓1点が, 北部を中心に出土している。また, 混入した陶器片16点も出土している。392は北部壁際, 391は南東部の床面, 395・399・400は竈左側の床面から覆土下層にそれぞれ出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。398はP4の覆土中層から出土しており, 柱を抜き取った後に流れ込んだものと考えられる。

所見 出土遺物量が多いことや, 第14区の中で最も広い床面積を有する住居の一つであり, 間仕切り溝や貯蔵穴を有する住居形態などから, 集落の中心的な住居の一つであると考えられる。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2411号住居跡出土遺物観察表(第231・232図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
391	土師器	坏	14.4	4.2	-	長石・雲母	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	95% PL73
392	土師器	坏	13.6	5.2	-	長石・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	95% PL73
393	土師器	坏	9.0	4.8	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	中層	95% PL73
394	土師器	坏	12.6	5.5	-	長石・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	90% PL73
395	土師器	坏	[15.0]	4.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	70% PL74
396	土師器	高坏	[14.6]	9.4	11.0	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面ヘラ削り 内面磨き 脚部内外面ヘラ削り 裾部内外面横ナデ	中層	70% PL75
397	土師器	壺	[7.2]	9.0	[6.6]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕 底部ヘラ磨き	中層	50% PL75
398	土師器	甕	20.8	(29.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	P4中層	60% PL75 外面煤付着
399	土師器	甌	-	(19.5)	5.9	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部穿孔	床面	80% PL74
400	土師器	甌	25.0	29.4	8.1	石英・雲母	浅黄橙	良好	口辺部外面横ナデ 内面横位のヘラ磨き 輪積痕 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	下層	60% PL74

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	勾玉	[3.6]	1.5	0.7	(4.1)	土(長石・雲母)	孔径0.2cm ナデ	床面	PL79

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M95	釘	(5.2)	0.5	0.4	(4.7)	鉄	断面方形の棒状 一端が細る	覆土中	
M96	不明	(6.2)	3.2	2.6	(21.8)	鉄	着柄部の破片 環状 木質残存	覆土中	PL81

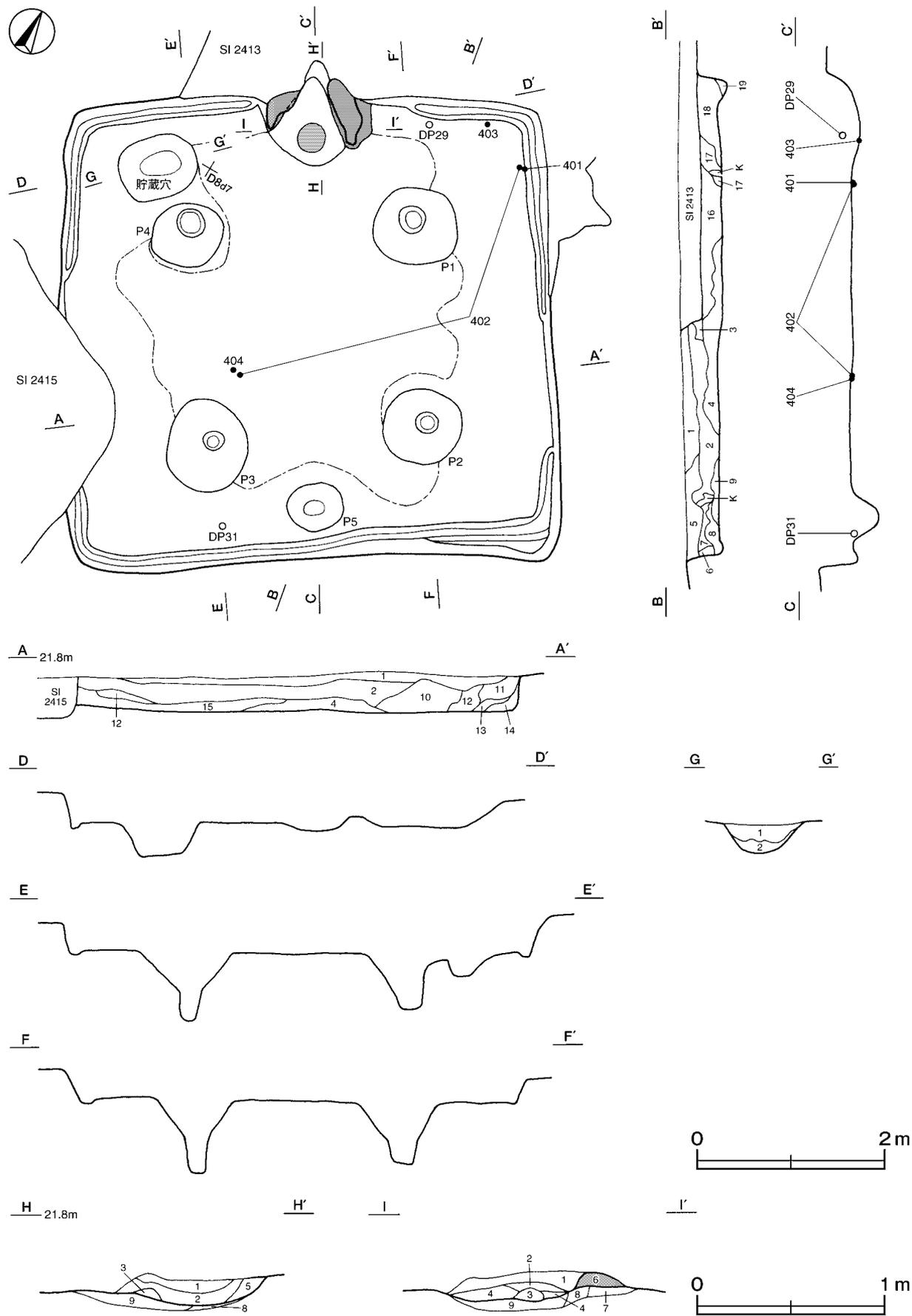
第2414号住居跡(第233・234図)

位置 調査区中央部のD8d7区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2413・2415号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.14m, 短軸5.01mの方形で, 主軸方向はN-26°-Wである。壁高は29~34cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 竈前部から南壁際まで踏み固められている。東壁の一部を除いては, 幅11~17cm, 深さ6~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第233图 第2414号住居跡実测图

竈 北壁中央部に付設されており、上部を第2413号住居に掘り込まれている。確認された部分の規模は、焚口部から煙道部まで113cm、袖部幅119cmである。袖部は、床面を5cmほど掘りくぼめて第7層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とした第6層を積み上げて構築している。火床部は、床面を5～10cmほど掘りくぼめ、ローム土を主体とする第9層を充填して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。壁外への掘り込みは39cmが確認されたが、上部を第2413号住居に壊されているため、煙道部の立ち上がりは明確でない。覆土は第1～5層に分けられ、いずれの層も天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

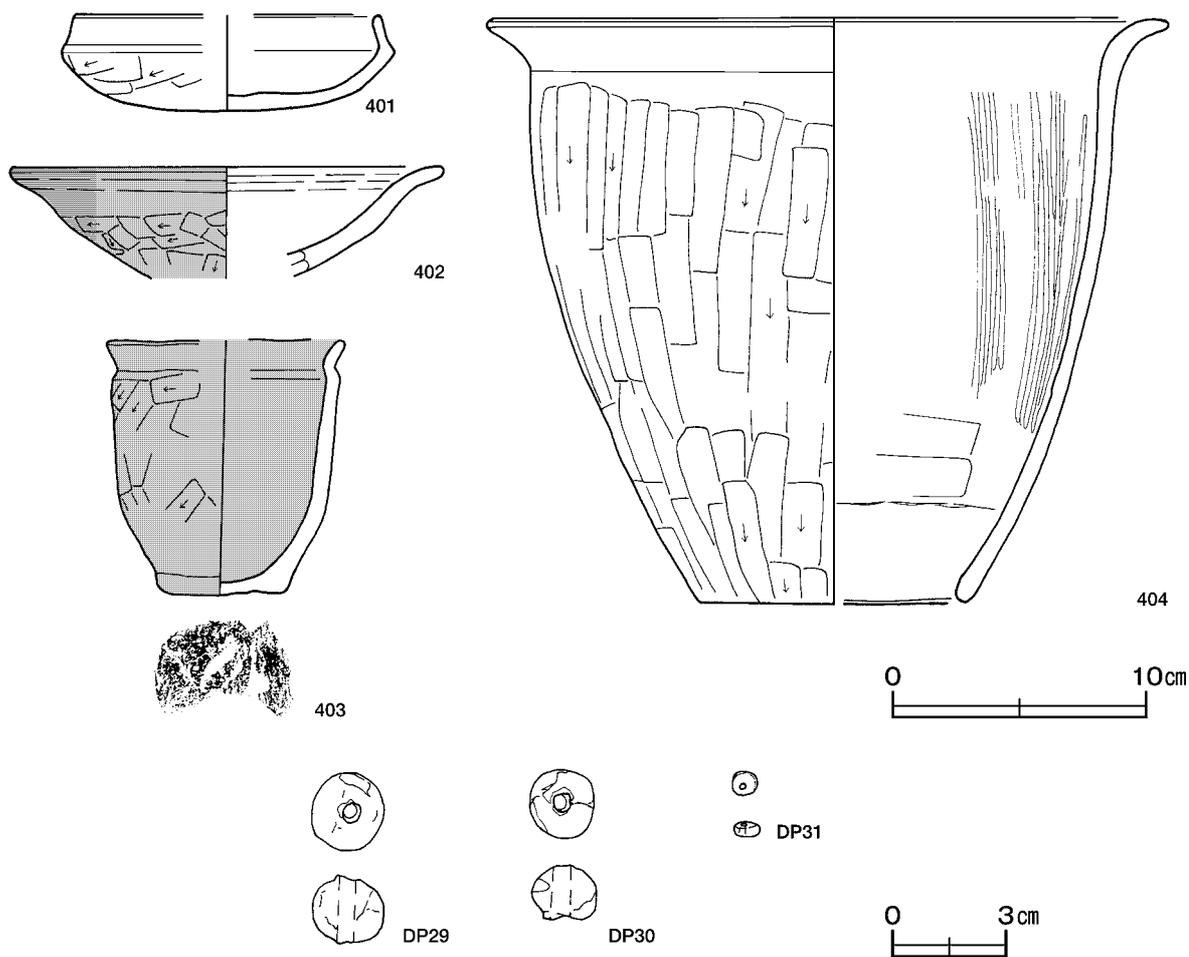
- | | | | | | |
|---|--------|------------------------------|---|--------|--------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | 5 | 褐色 | ローム粒子多量, 砂質粘土粒子中量, 炭化物少量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 6 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 3 | 赤褐色 | 焼土粒子多量 | 7 | 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 4 | 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| | | | 9 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは60～79cmである。P5は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長径86cm、短径66cmの楕円形で、深さは39cmである。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------------|---|----|-------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 2 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
|---|-----|-------------------------------|---|----|-------------------|



第234図 第2414号住居跡出土遺物実測図

覆土 19層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子多量,炭化物少量	11 黒褐色	ローム粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量,炭化物少量	12 暗褐色	ロームブロック中量,炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量	13 暗褐色	ローム粒子中量,炭化物少量
4 褐色	ローム粒子多量,焼土ブロック少量	14 褐色	ローム粒子多量,炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子多量,焼土粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック少量
6 褐色	ローム粒子多量	16 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量,炭化物微量
7 褐色	ロームブロック多量	17 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量,粘土ブロック・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子中量	18 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量,炭化物微量
9 灰褐色	粘土ブロック・ローム粒子多量,焼土ブロック中量	19 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
10 暗褐色	ロームブロック中量,炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片463点(坏類169,高坏8,鉢12,甕類230,甑44),土製品3点(土玉2,小玉1)が散在した状態で出土している。401・403は北東コーナー部の床面から出土している。また,404は中央部西寄りの床面からほぼ完形で出土しているが,同位置から出土した402は北東コーナー部の床面から出土した破片と接合している。いずれも住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は,出土土器から6世紀後葉以前と考えられる。

第2414号住居跡出土遺物観察表(第234図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
401	土師器	坏	[12.0]	3.8	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	30%
402	土師器	高坏	16.8	(4.4)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面ヘラ削り	床面	40%
403	土師器	鉢	[9.4]	10.1	5.0	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部多方向のヘラ削り	床面	75%
404	土師器	甑	26.1	23.3	10.4	長石・石英・小礫	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き 輪種痕	床面	90% PL76

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP29	土玉	2.0	1.8	0.4	6.2	土(長石・石英・雲母)	ナデ 二方向からの穿孔	下層	PL80
DP30	土玉	1.8	1.5	0.6	4.0	土(長石・雲母)	ナデ 二方向からの穿孔	覆土中	PL80
DP31	小玉	0.7	0.4	0.2	0.3	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL80

第2416号住居跡(第235・236図)

位置 調査区中央部のD 8 e5区,標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2415号住居,第138号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.75m,短軸4.68mの方形で,主軸方向はN-38°-Wである。壁高は24~29cmで,外傾して立ち上がっている。

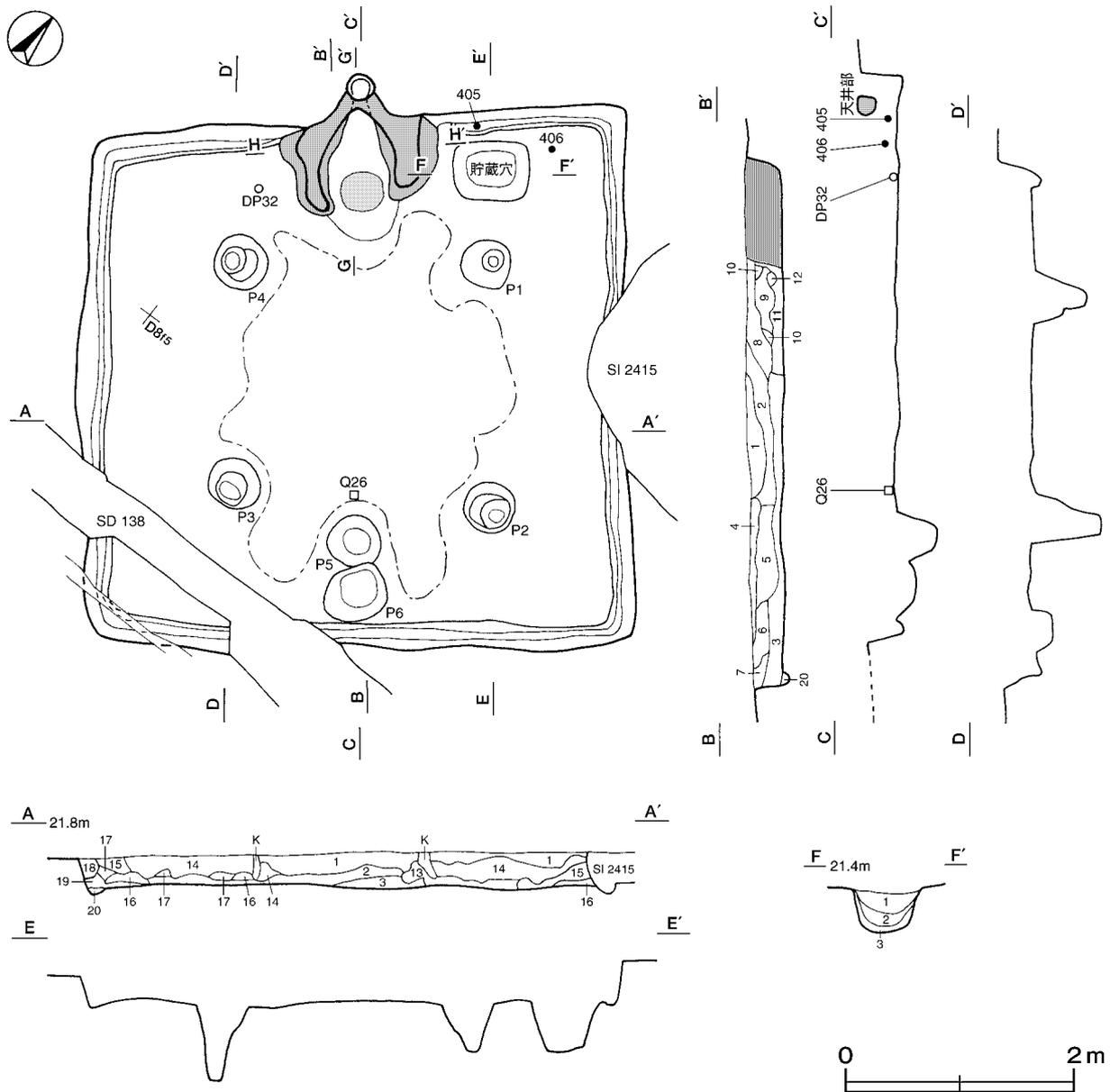
床 ほぼ平坦で,中央部が踏み固められている。壁下には,幅12~19cm,深さ4~7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。天井部が一部遺存し,煙道部も確認されている。規模は,焚口部から煙道部まで141cm,袖部幅139cmである。袖部は,ローム土主体の第20層を基部として,外側を砂質粘土混じりのローム土を主体とする第18・19層,内側を砂質粘土主体の第16層で構築しており,内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さであり,火床面は火を受けて赤変硬化している。また,5~10cmの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ,火床部から急な傾斜で立ち上がっている。覆土は第1~14層に分けられ,第5・6層は,天井部の崩落土層に相当する。

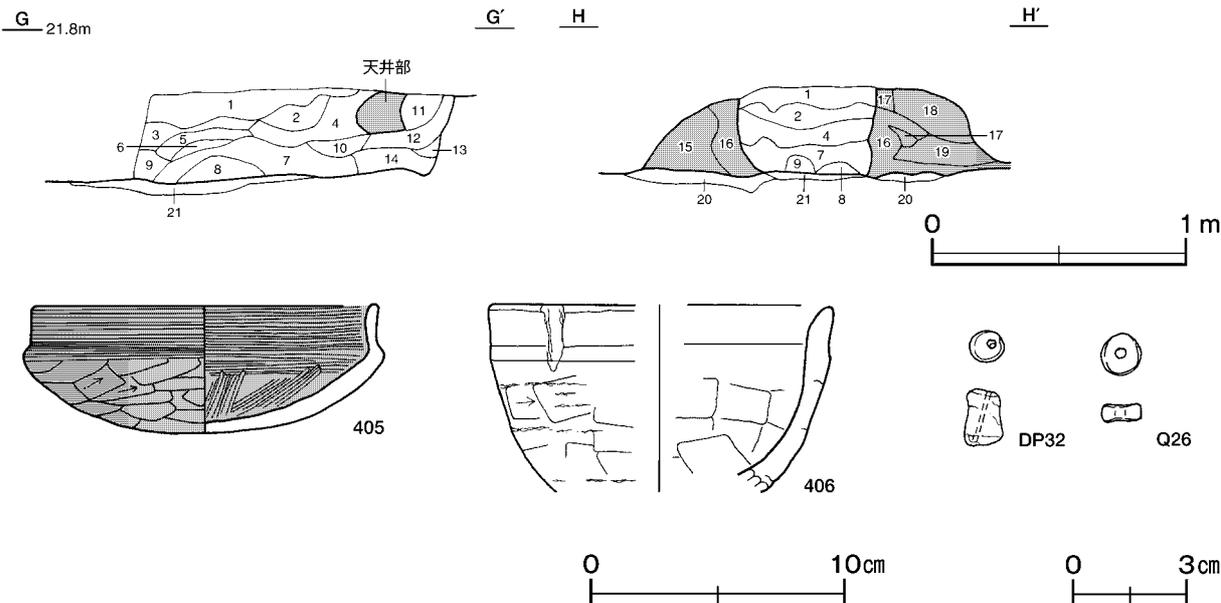
竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|------------------------------|----|--------|----------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 10 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 | 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 3 | にぶい赤褐色 | 炭化物・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 12 | 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 4 | にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 | 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量 |
| 5 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 14 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 | 15 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子少量 |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・灰少量, ローム粒子微量 | 16 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 炭化物・焼土粒子少量 |
| 8 | 灰白色 | 灰多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 | 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 9 | 暗褐色 | 焼土粒子多量 | 18 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 |
| | | | 19 | 褐色 | ローム粒子多量, 炭化物少量 |
| | | | 20 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | | 21 | 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは46～70cmである。P5は深さ37cm, P6は深さ20cmで、ともに南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第235図 第2416号住居跡実測図



第236図 第2416号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴 北東部に位置している。長軸77cm，短軸52cmの隅丸長方形で，深さは52cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，覆土は自然堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

覆土 20層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 極暗褐色 ロームブロック中量
- 7 極暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量
- 9 褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量
- 14 暗褐色 ロームブロック中量
- 15 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
- 17 褐色 ロームブロック中量
- 18 褐色 ローム粒子多量
- 19 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子少量
- 20 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片288点（坏58，椀5，高坏2，甕類222，甑1），土製品1点（管玉），石製品1点（白玉）が，北部を中心に出土している。405は北部壁際，406は北東コーナー部の覆土中層，DP32は竈左側，Q26は中央部南寄りの覆土下層からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。

第2416号住居跡出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
405	土師器	坏	13.6	5.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横位のヘラ磨き 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	中層	90% PL74
406	土師器	椀	[13.6]	(7.5)	-	石英・雲母	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 輪積痕 内面ヘラナデ	中層	15%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP32	管玉	0.8~1.0	1.5	0.1	1.2	土(長石・石英)	あらいナデ 二方向からの穿孔	下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q26	白玉	1.1	0.5	0.3	0.9	滑石	側面縦位の研磨痕 一方向からの穿孔	下層	PL80

第2417号住居跡（第237図）

位置 調査区北部のC 8 d7区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第136号溝，第3317号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部は調査区域外であり，北部は攪乱によって壊されている。東西軸は2.14m，南北軸は2.85mだけが確認された。遺存する東・南壁から，主軸方向N - 19° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は31～36cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部から南壁近くまで踏み固められている。東・南壁下には，幅11～16cm，深さ5～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 深さ31cmで，南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

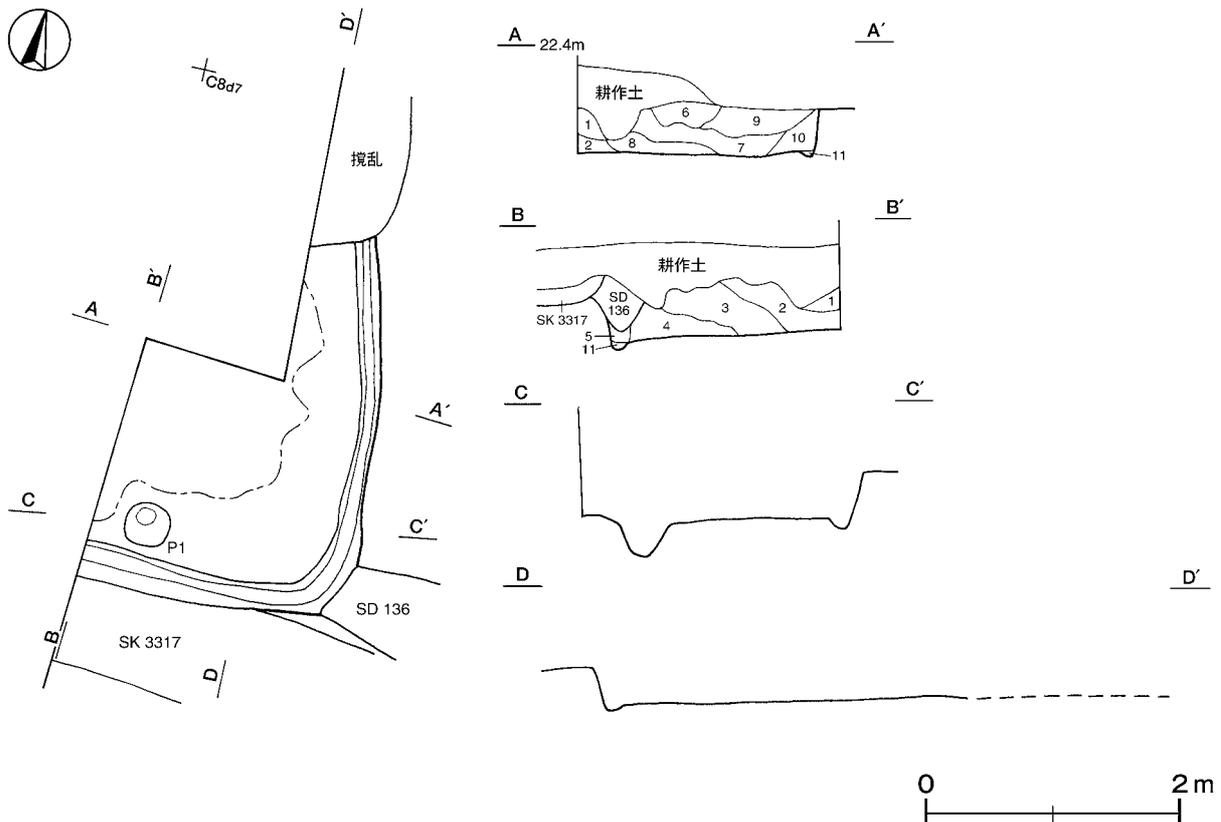
覆土 11層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片49点（坏6，甕類43），鉄製品1点（刀子）が散在した状態で出土している。出土土器はいずれも細片であり，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第237図 第2417号住居跡実測図

第2418号住居跡 (第238・239図)

位置 調査区中央部のD 8 h7区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2419号住居跡を掘り込んでいる。また, 床面全体が東西方向の耕作による攪乱を受けている。

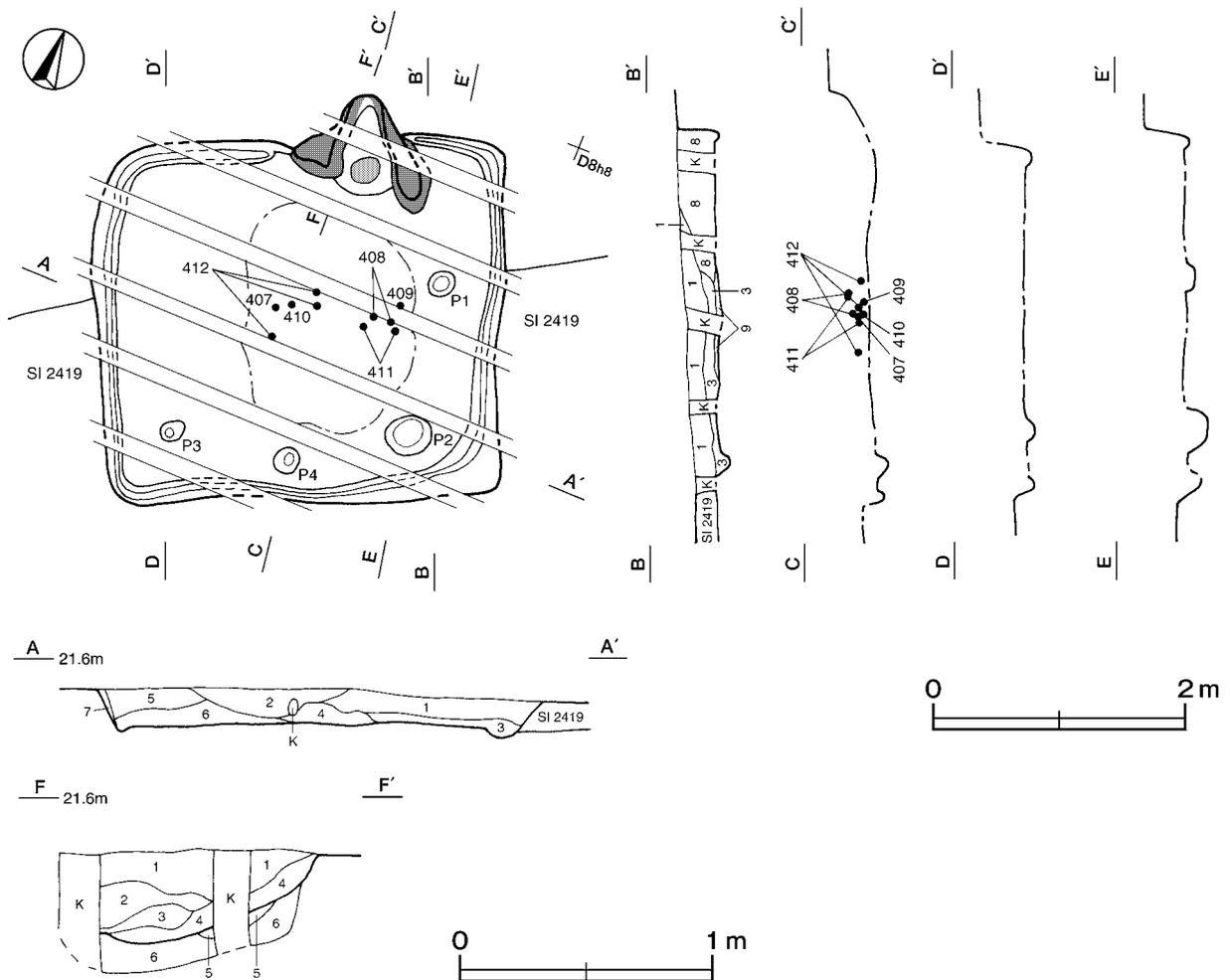
規模と形状 長軸3.21m, 短軸2.88mの長方形で, 主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は12~34cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅7~14cm, 深さ4~7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

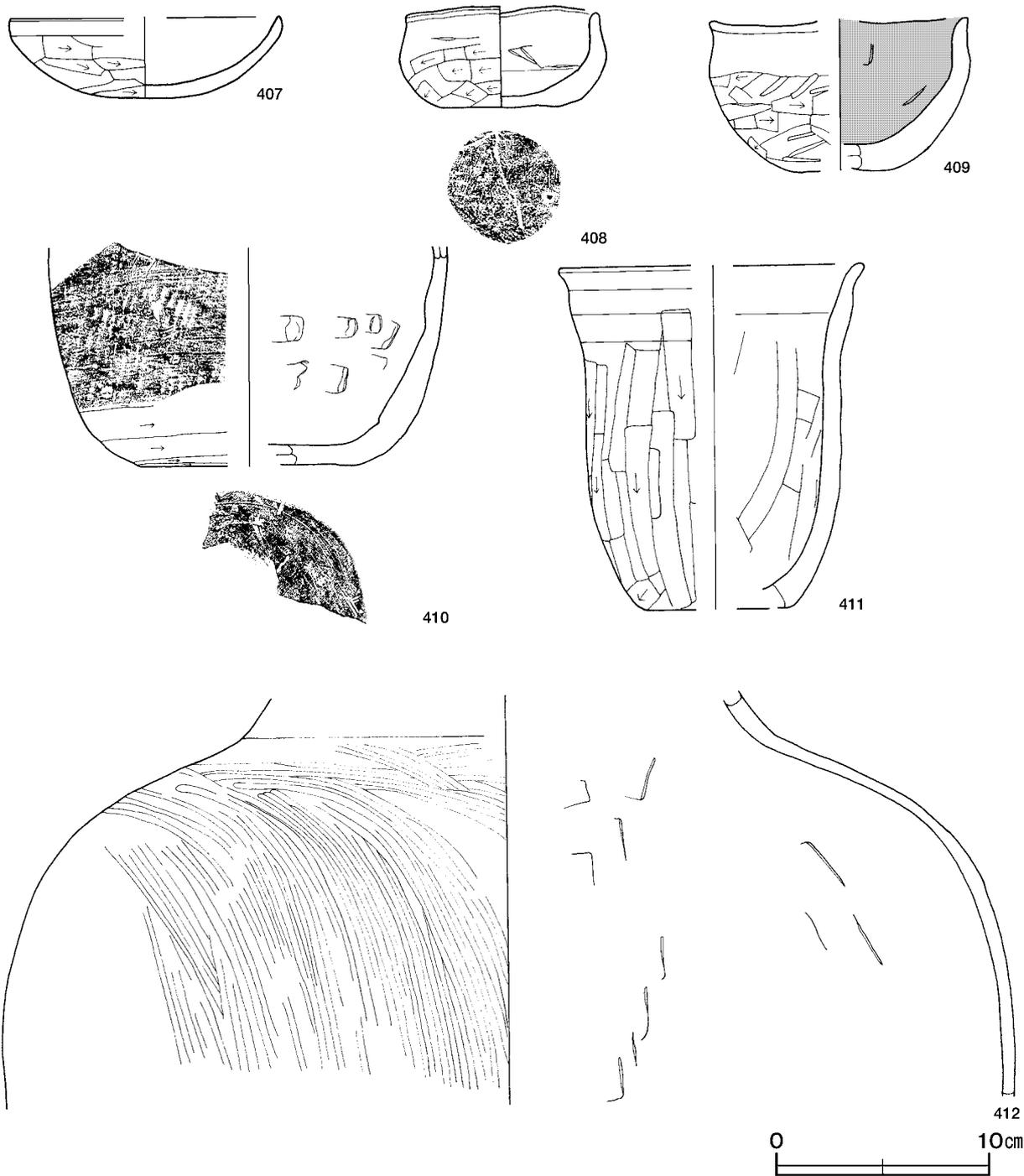
竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで79cm, 袖部幅112cmであり, 袖部は砂質粘土で構築している。火床部は床面を10~15cm掘りくぼめ, ローム土を主体とする第6層を充填して使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に31cm掘り込まれ, 火床部から急な傾斜で立ち上がっている。覆土は第1~4層に分けられ, 第1~3層は, 天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1 灰黄褐色 砂質粘土粒子多量, 炭化物・ローム粒子少量 | 4 赤褐色 焼土粒子多量, 炭化物少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |



第238図 第2418号住居跡実測図



第239図 第2418号住居跡出土遺物実測図

ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは9～20cmである。P4は深さ9cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1に対応する柱穴は、耕作による攪乱で壊されたと考えられる。

覆土 9層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土ブロック微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片731点(坏128, 椀17, 甕類586), 須恵器片1点(鉢), 鉄製品1点(釘), 鉄滓2点が中央部を中心に出土している。また, 混入した須恵器片8点も出土している。407・410・412は中央部の覆土下層, 408・409・411は中央部東寄りの覆土中・下層からそれぞれ出土しており, いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後葉以前と考えられる。

第2418号住居跡出土遺物観察表(第239図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
407	土師器	坏	[12.4]	3.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	60%
408	土師器	椀	8.9	4.8	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ	中層	70% PL71
409	土師器	椀	[11.8]	7.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ	下層	60% PL71
410	須恵器	鉢	-	(10.4)	[10.4]	長石・石英・雲母・小礫	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 下端回転ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	20%
411	土師器	甕	[14.2]	16.2	[7.0]	長石・石英	黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	中・下層	40%
412	土師器	甕	-	(19.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	下層	10%

第2419号住居跡(第240・241図)

位置 調査区中央部のD 8 i7区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2418号住居, 第137号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸9.36m, 短軸9.18mの方形で, 主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は14~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 西部を除いて踏み固められている。壁下には, 幅12~18cm, 深さ6~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 6か所。P1~P4は主柱穴で, 深さは80~110cmである。P5は深さ23cm, P6は深さ28cmで南壁際の中央部に位置していることから, とともに出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸91cm, 短軸57cmの隅丸長方形で, 深さは50cmである。底面は皿状で壁はほぼ直立し, 覆土はロームブロックや焼土ブロックを含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

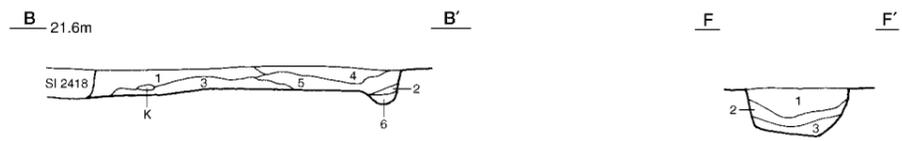
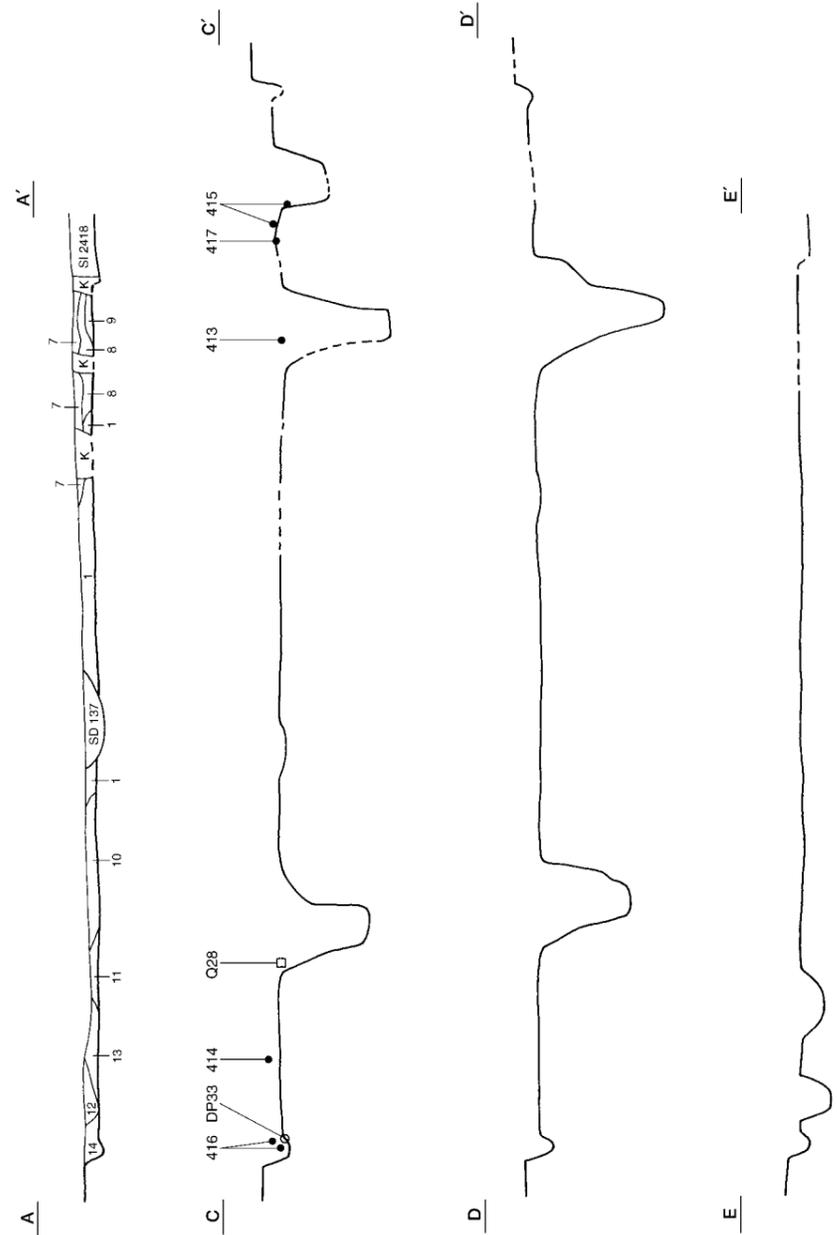
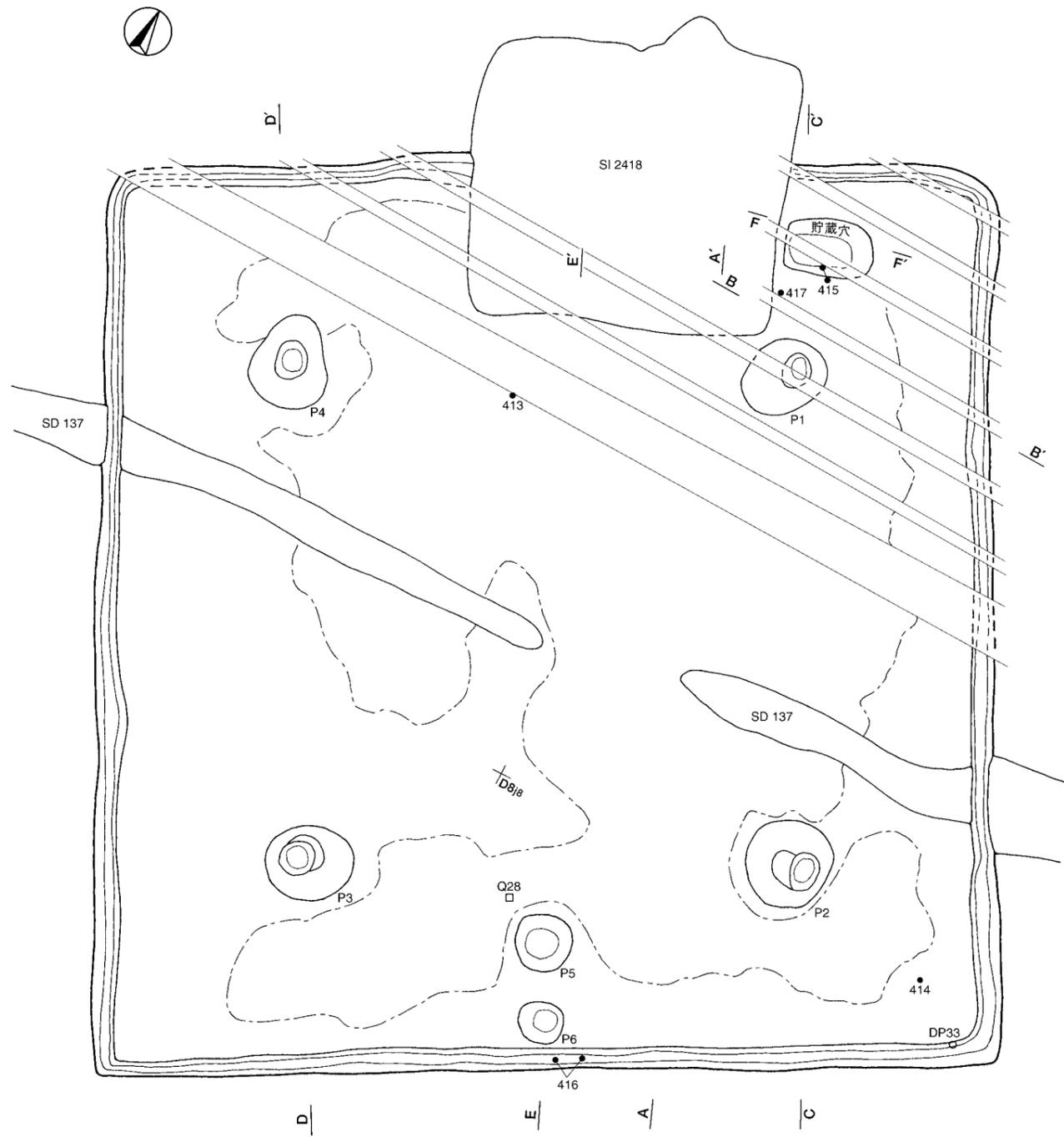
覆土 14層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み, 不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

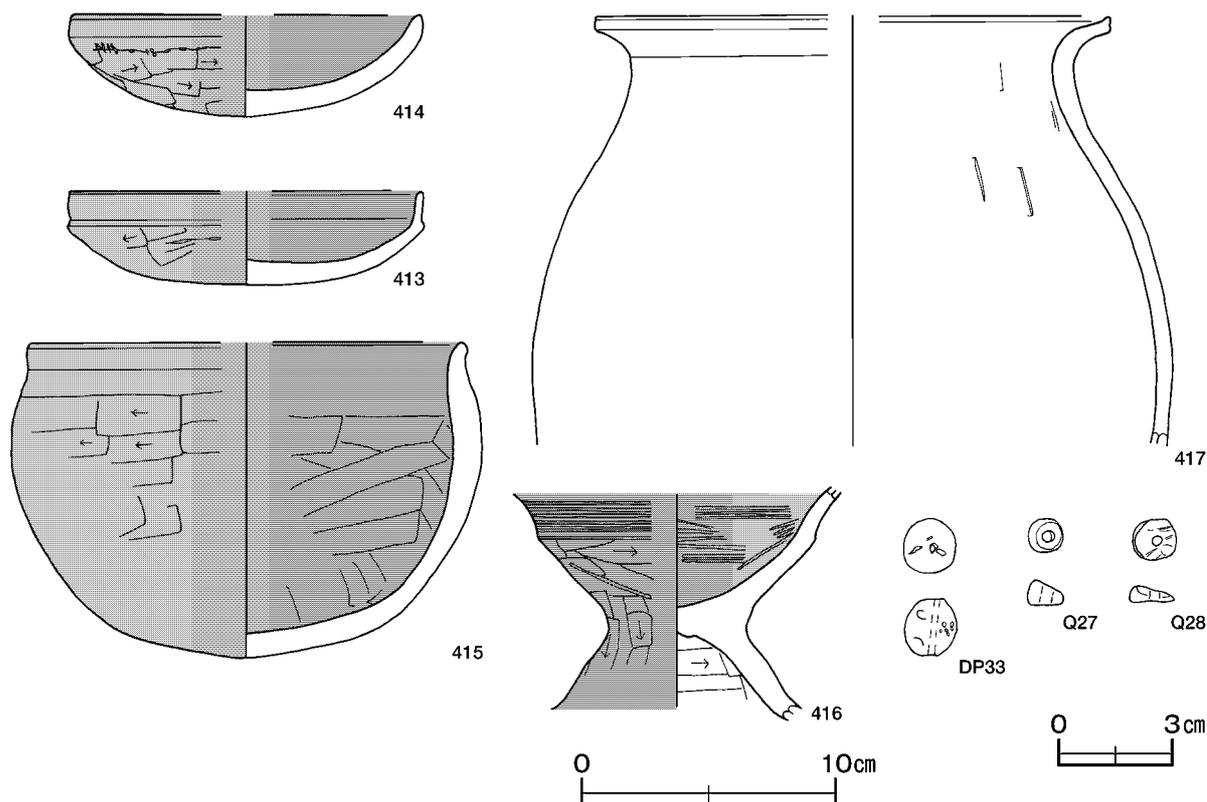
- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 11 暗褐色 ロームブロック少量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量・焼土粒子微量
- 13 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 14 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片628点(坏166, 椀33, 高坏41, 甕類387, 甌1), 土製品1点(丸玉), 石製品2点(白玉), 鉄滓1点が散在した状態で出土している。413は北部, 417は北東部の床面, 414は南東コーナー部, 416は南部壁際の覆土下層からそれぞれ出土しているが, いずれも小片である。また, 415は貯蔵穴の覆土上層と貯蔵穴南部の床面から出土した破片が接合したものである。いずれの土器も住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 14区で最も広い床面積を有する住居の一つであり, 集落の中心的な住居と考えられる。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第240图 第2419号住居跡実測图



第241図 第2419号住居跡出土遺物実測図

第2419号住居跡出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
413	土師器	坏	[13.8]	3.7	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ	床面	20%
414	土師器	坏	[13.6]	4.0	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ	下層	20%
415	土師器	碗	[17.0]	12.5	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面 貯蔵穴上層	40%
416	土師器	高坏	-	(9.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横位の磨き 内面磨き 脚部内・外面ヘラ削り 坏部外面ヘラ削り	下層	40% PL71
417	土師器	甕	[20.2]	[17.1]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP33	丸玉	1.5	1.5	0.2	3.0	土(長石・石英・雲母)	ナデ 一方向からの穿孔	壁溝覆土中	PL80

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	白玉	1.0	0.7	0.3	1.1	蛇紋岩	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL80
Q28	白玉	1.2	0.5	0.3	0.7	滑石	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL80

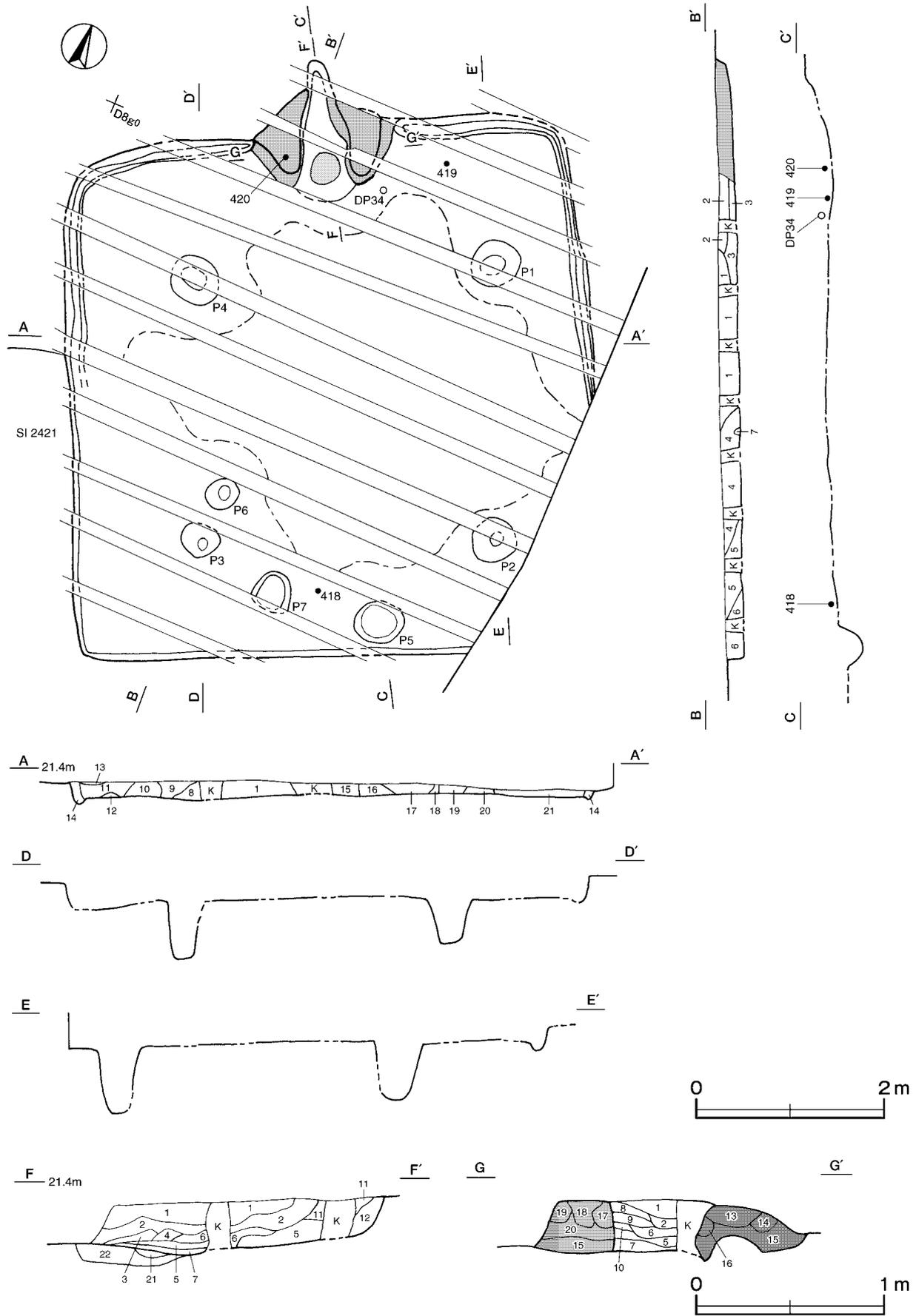
第2420号住居跡（第242・243図）

位置 調査区中央部のD 8 g0区，標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

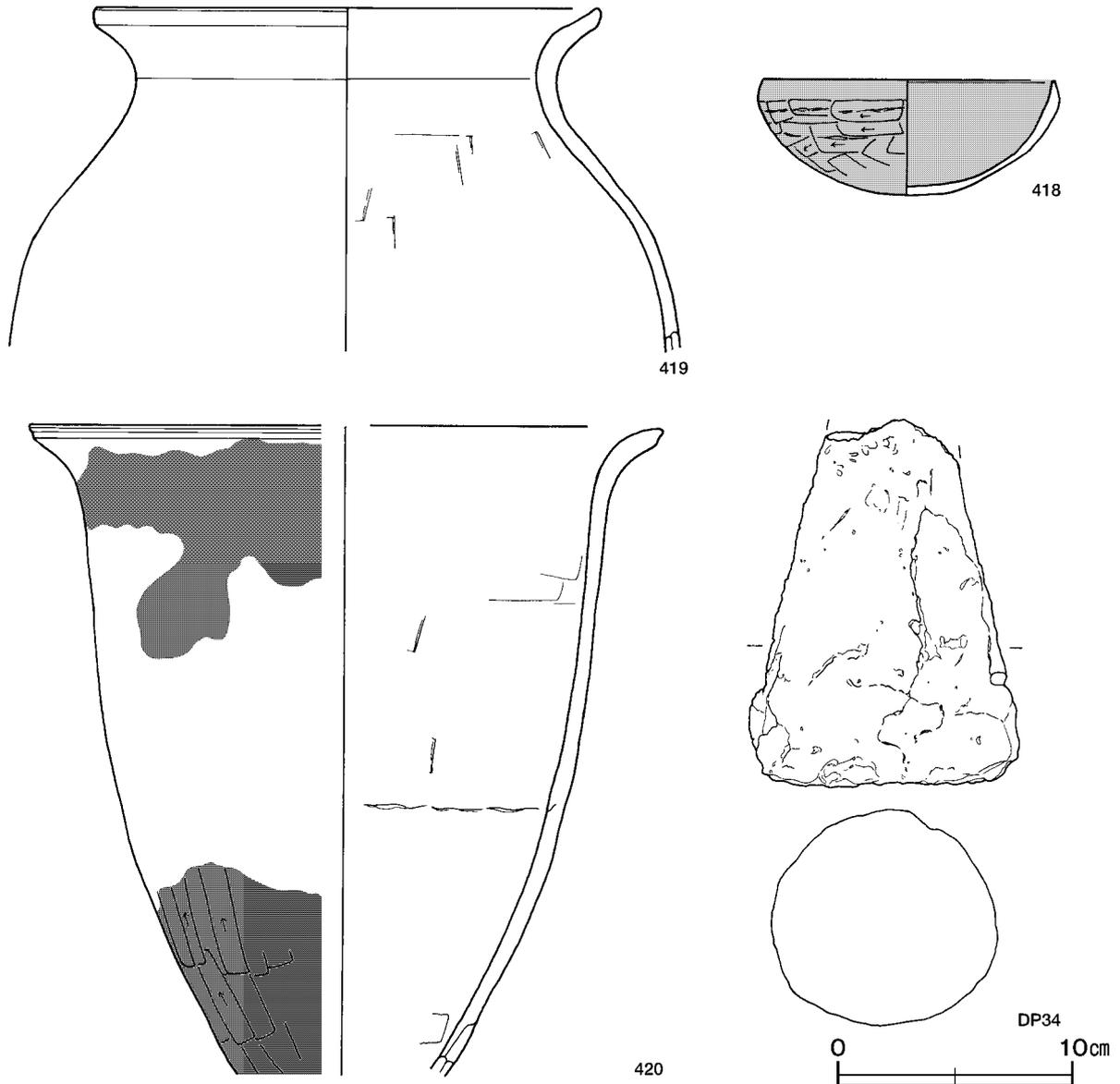
重複関係 第2421号住居跡を掘り込んでいる。また，床面全体が東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 南東コーナー部は調査区域外である。長軸5.53m，短軸5.42mの方形で，主軸方向はN - 23° - Wである。壁高は6～19cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北部の壁下には，幅16～17cm，深さ6～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。



第242图 第2420号住居跡実测图



第243図 第2420号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで151cm，袖部幅153cmである。袖部は砂質粘土を主体とする第13～20層を積み上げて構築しており，内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ，第22層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。また，5cmほどの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に72cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～12層に分けられ，第8・9層は，天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 11 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 暗赤褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 赤褐色 焼土粒子多量 | 13 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 6 灰白色 灰多量 | 14 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量 | 15 暗褐色 砂質粘土粒子多量，ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量 |
| 8 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量 | 16 暗赤褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量 |
| | 17 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |

- 18 暗 褐 色 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量
 19 暗 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
 20 暗 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量
 21 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量
 22 極 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは48～71cmである。P5は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ55cm、P7は深さ11cmで、ともに南西部に位置しているが性格は不明である。

覆土 21層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 13 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 14 明 褐 色 | ローム粒子多量, 炭化物中量 |
| 4 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量 | 15 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 16 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 6 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 17 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 赤 褐 色 | 焼土ブロック多量 | 18 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 8 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 19 褐 色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 9 暗 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 20 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 10 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 21 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 11 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片179点(坏66, 椀11, 高坏1, 甕類99, 甌2), 土製品1点(支脚), 鉄滓4点が散在した状態で出土している。また, 混入した須恵器片4点, 陶器片2点も出土している。418は南部の覆土下層, 419は北東部の床面からそれぞれ出土しているが, とともに小片であることから住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また, 420は竈左袖部から逆位で出土しており, 袖の構築材として使用されていたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀中葉と考えられる。

第2420号住居跡出土遺物観察表(第243図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
418	土師器	坏	12.4	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 輪積痕 内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	下層	95% PL75
419	土師器	甕	21.4	(14.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	25%
420	土師器	甌	[27.0]	(28.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 輪積痕 内面ヘラナデ 体部外面下端ヘラ削り	竈袖部	65% 外面煤付着

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP34	支脚	(15.8)	5.7	11.5	(1192.2)	土(長石・石英・雲母)	ナデ 熱を受けて脆い	床面	PL79

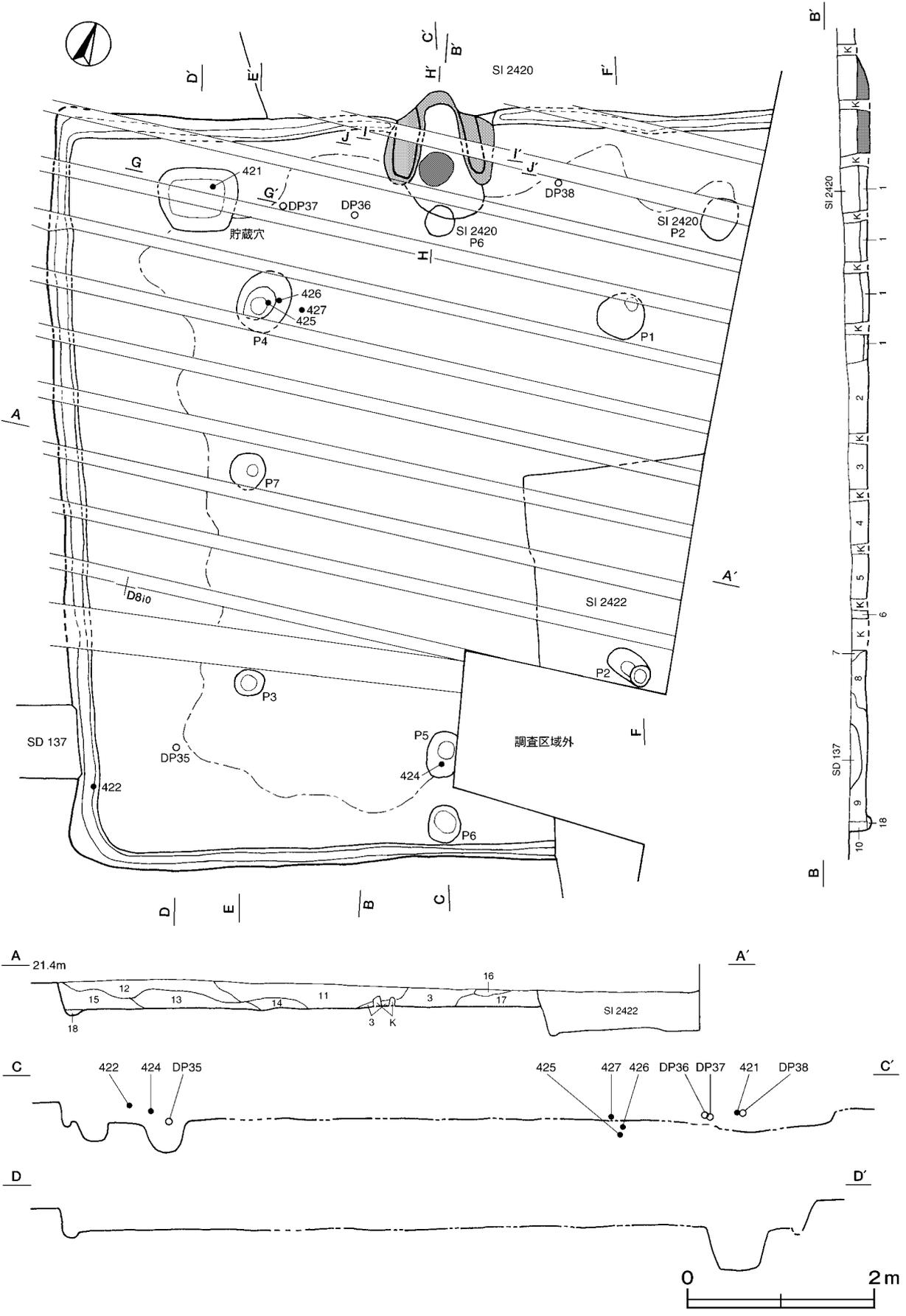
第2421号住居跡(第244～246図)

位置 調査区中央部のD8h0区, 標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

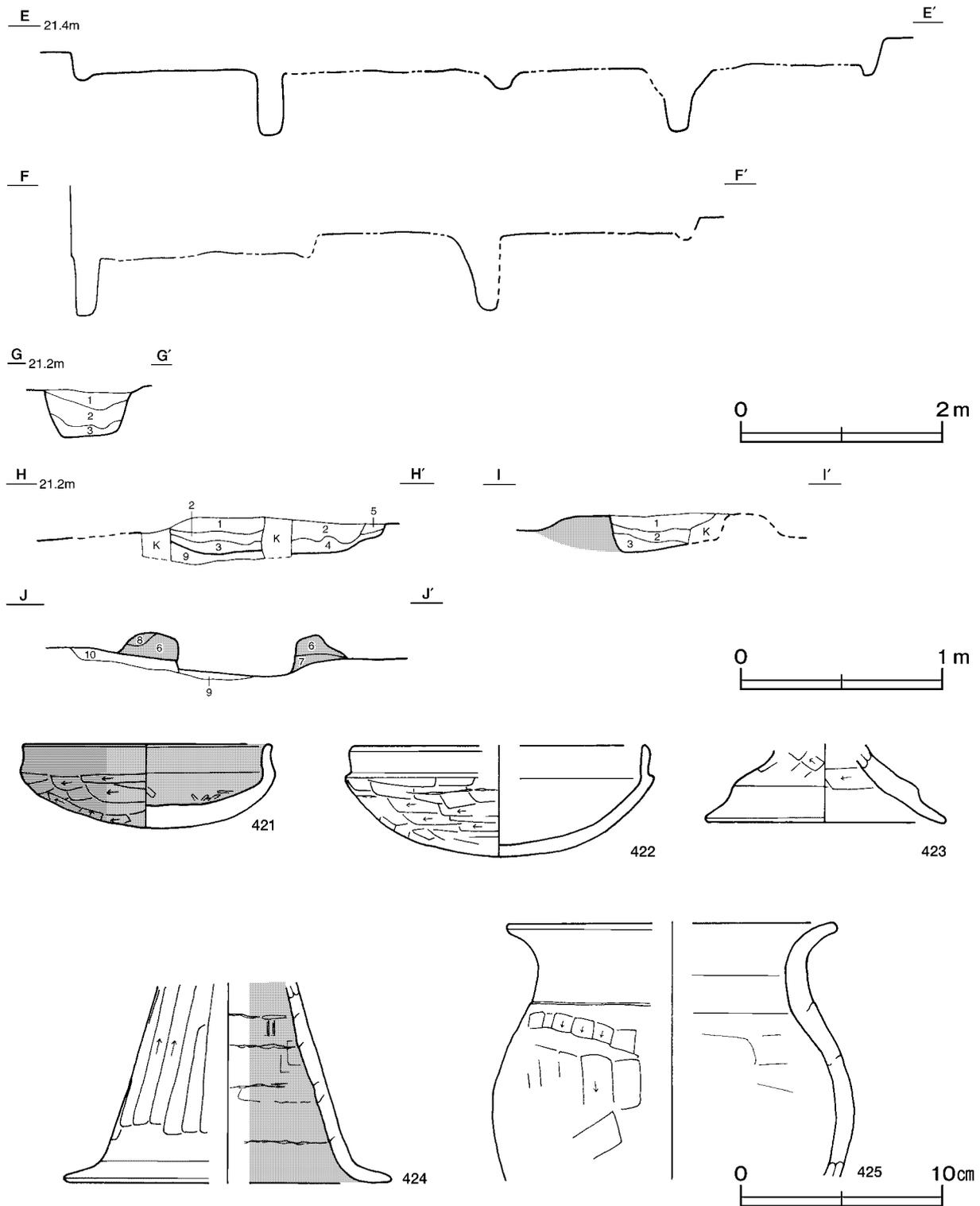
重複関係 第2420・2422号住居, 第137号溝に掘り込まれている。また, 床面全体が東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 東部は調査区域外であり, 南北軸は8.04m, 東西軸は7.60mだけが確認された。遺存する壁や竈の位置から, 主軸方向N-13°-Wの方形と推定される。壁高は18～27cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。遺存する壁下には, 幅11～17cm, 深さ6～11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第244图 第2421号住居跡実测图



第245図 第2421号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されており、上部を第2420号住居に壊されている。規模は、焚口部から煙道部まで141cm，袖部幅111cmである。袖部は砂質粘土を主体とする第6・8層とローム土を主体とする第7層を積み上げて構築している。火床部は床面を5～10cm掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がっている。覆土は第1～5層に分けられ，第1～3層は，天井部の崩落土層に相当する。ロームブロックや焼土ブロックを含む人為堆積の状況を示して

おり、天井部の崩落土層が火床面に接していることから、廃絶に伴って破壊されたと考えられる。また、左袖の基部からは中量の焼土が確認されており、袖の作り替えが想定される。

甕土層解説

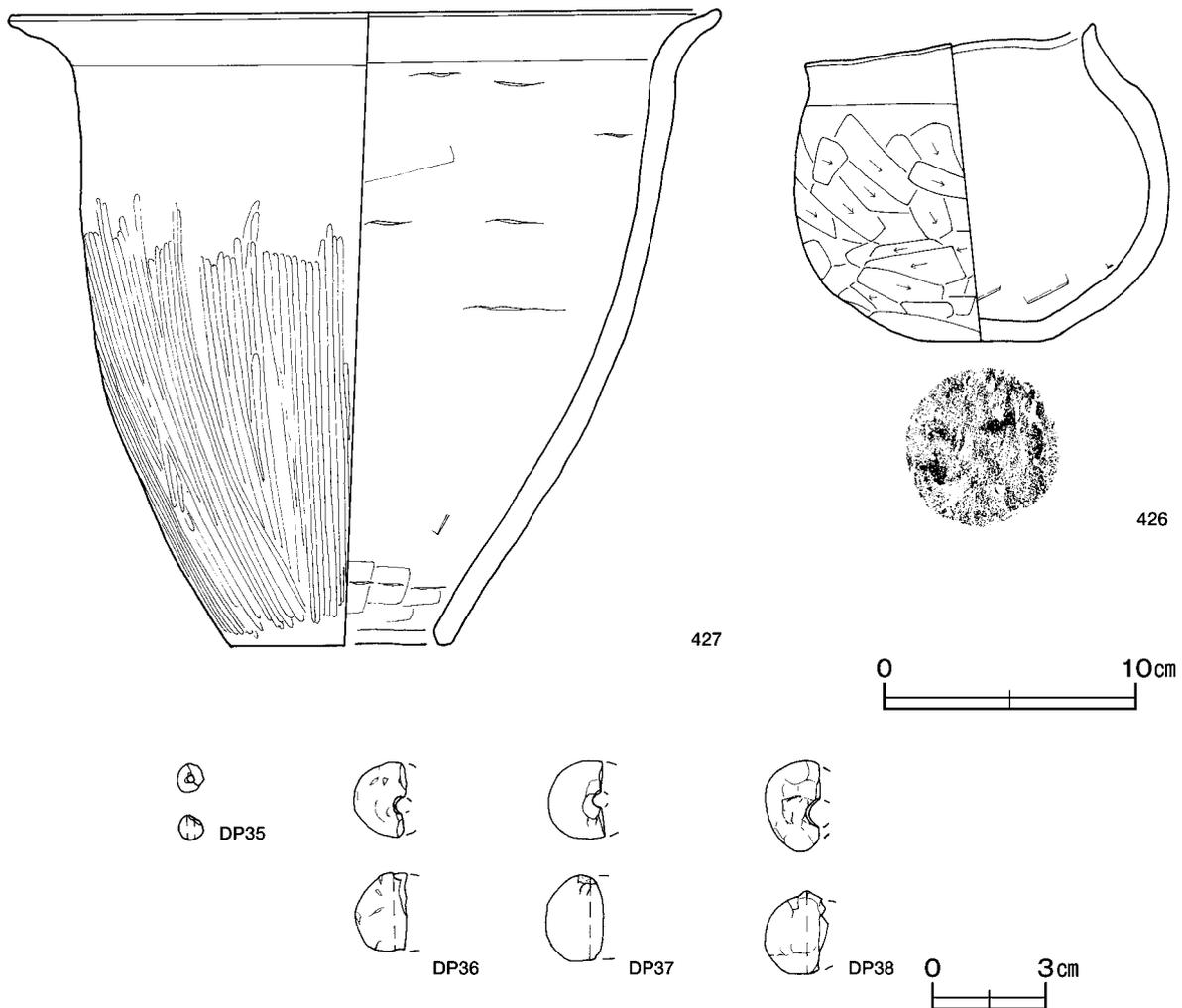
- | | | | |
|-------|-------------------------|---------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土粒子・灰中量、炭化物少量 | 7 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 赤褐色 | 炭化物・焼土粒子中量 | 8 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量 |

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは63～81cmである。P5は深さ35cm、P6は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることから、ともに入出口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ17cmで、P3とP4の中央に位置していることから補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸84cm、短軸69cmの隅丸長方形で、深さは47cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|---------|
| 1 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量 | | |



第246図 第2421号住居跡出土遺物実測図

覆土 18層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックををを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	10 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量	11 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	14 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量
6 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量
7 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	16 褐色	ローム粒子多量
8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	17 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
9 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	18 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片827点（坏178，椀4，高坏30，甕類559，甌55，手捏土器1），土製品5点（支脚1，小玉1，球状土錘3）が散在した状態で出土している。また，混入した須恵器片20点，陶器片4点も出土している。427は北西部の床面から出土しており，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。421は貯蔵穴部，424はP5部の覆土下層，422は南東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。425・426はともにP4の覆土上層から出土しており，住居を廃絶して柱を抜き取った後に流れ込んだものと考えられる。また，DP36・DP37は北部，DP35は南西部，DP38は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。

第2421号住居跡出土遺物観察表（第245・246図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
421	土師器	坏	12.0	4.2	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面磨き	下層	90% PL76
422	土師器	坏	[14.4]	5.5	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 輪積痕 内面ナデ	上層	65% PL76
423	土師器	高坏	-	(3.9)	12.0	長石・石英・小礫	明黄褐	普通	脚部内・外面へラ削り 裾部内・外面横ナデ	竈覆土中	45%
424	土師器	高坏	-	(10.1)	[16.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面へラ削り 内面ナデ 輪積痕 裾部内・外面横ナデ	下層	20%
425	土師器	甕	[16.0]	(12.8)	-	長石・石英・雲母・小礫	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 輪積痕	P4上層	20%
426	土師器	小形甕	11.4	12.8	6.2	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 底部へラ削り	P4上層	95% PL75
427	土師器	甌	28.1	25.5	8.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ 輪積痕	床面	75% PL76

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP35	小玉	(0.7)	0.6	0.2	(0.2)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL80
DP36	球状土錘	2.0	2.1	0.4	(5.0)	土(長石・石英・雲母)	ナデ 二方向からの穿孔	下層	
DP37	球状土錘	2.1	2.2	0.4	(7.2)	土(長石・石英・雲母)	ナデ 二方向からの穿孔	下層	
DP38	球状土錘	2.5	2.2	(0.3)	(7.4)	土(長石・石英・雲母)	ナデ 二方向からの穿孔	下層	

第2422号住居跡（第247図）

位置 調査区中央部のD9h1区，標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2421号住居跡を掘り込み，第137号溝に掘り込まれている。また，北部は東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 中央部から東部は調査区域外であり，南北軸5.94m，東西軸は2.02mだけが確認された。遺存する西壁から，主軸方向N-18°-Wの方形または長方形と推定される。壁高は18~29cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，北西部で硬化面が確認された。遺存する部分の壁下には，幅11~18cm，深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

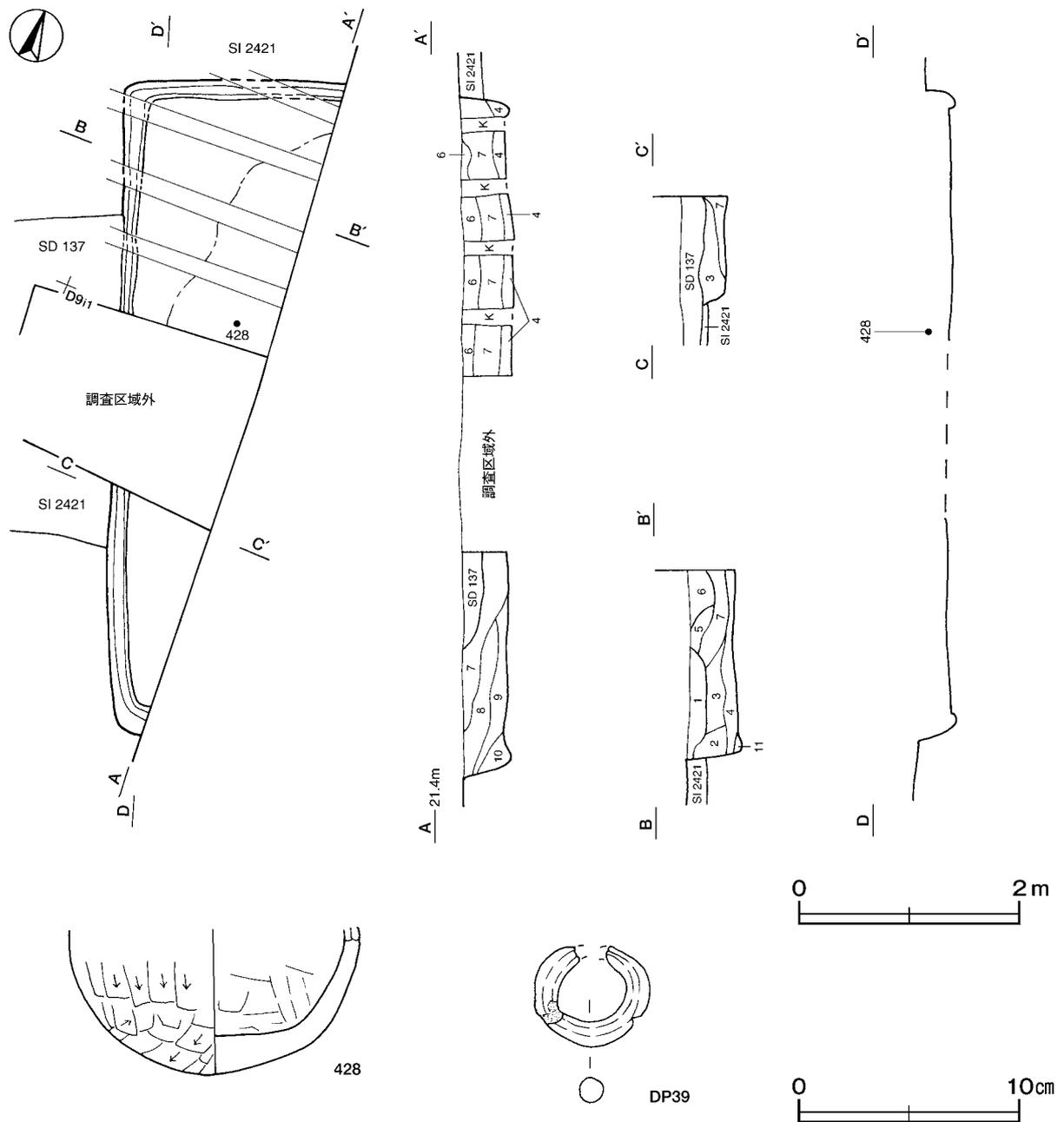
覆土 11層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片16点(坏1, 椀1, 甕類14), 土製品1点(耳環)が散在した状態で出土しており, いずれも細片である。428は東部の覆土中層, DP39は南西部の覆土中からそれぞれ出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第247図 第2422号住居跡・出土遺物実測図

第2422号住居跡出土遺物観察表（第247図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
428	土師器	椀	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	中層	30%

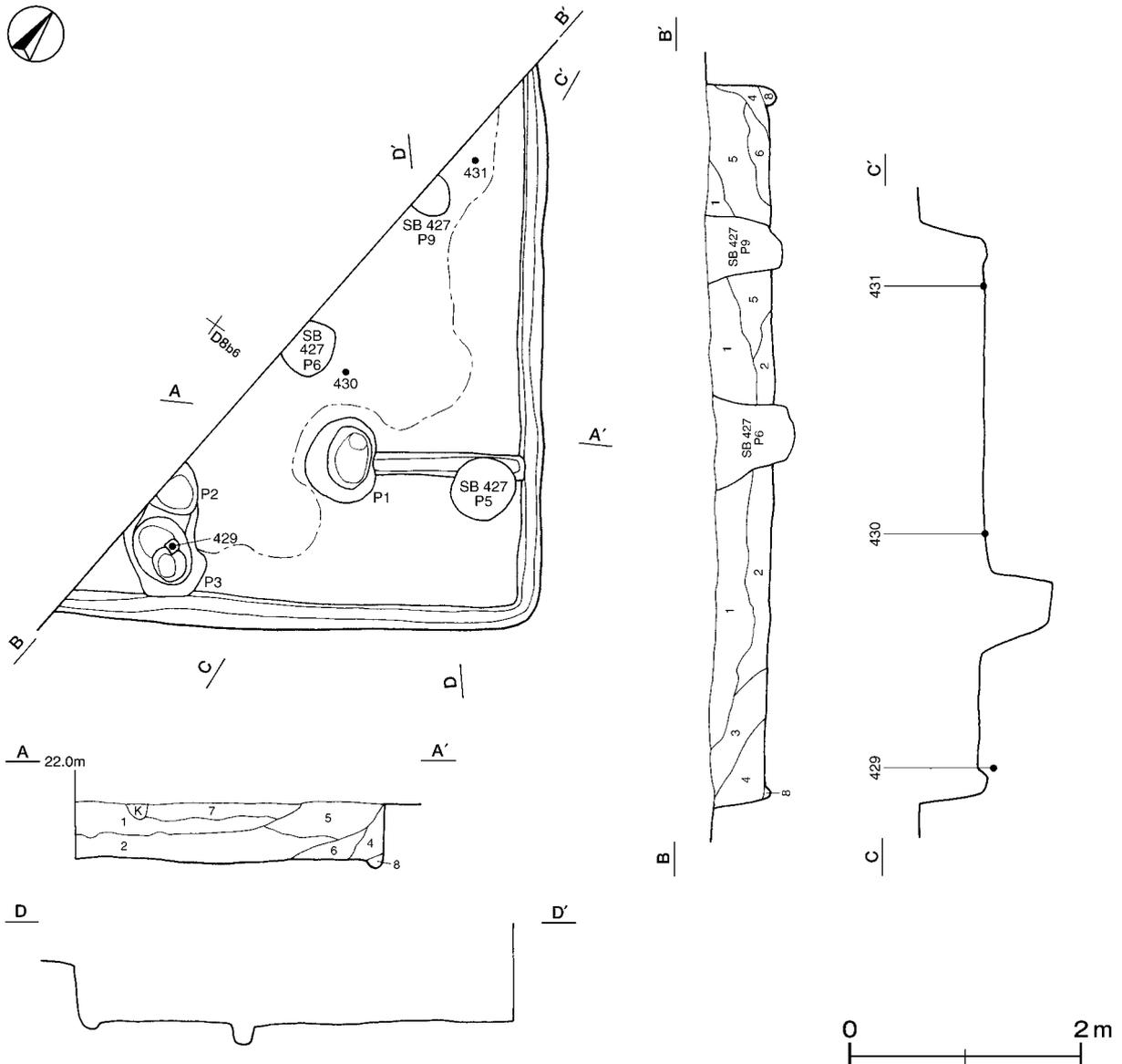
番号	器種	長径	短径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP39	耳環	5.2	(4.6)	1.1	(16.8)	土(長石・石英・雲母)	環状 断面円形	覆土中	PL79

第2423号住居跡（第248・249図）

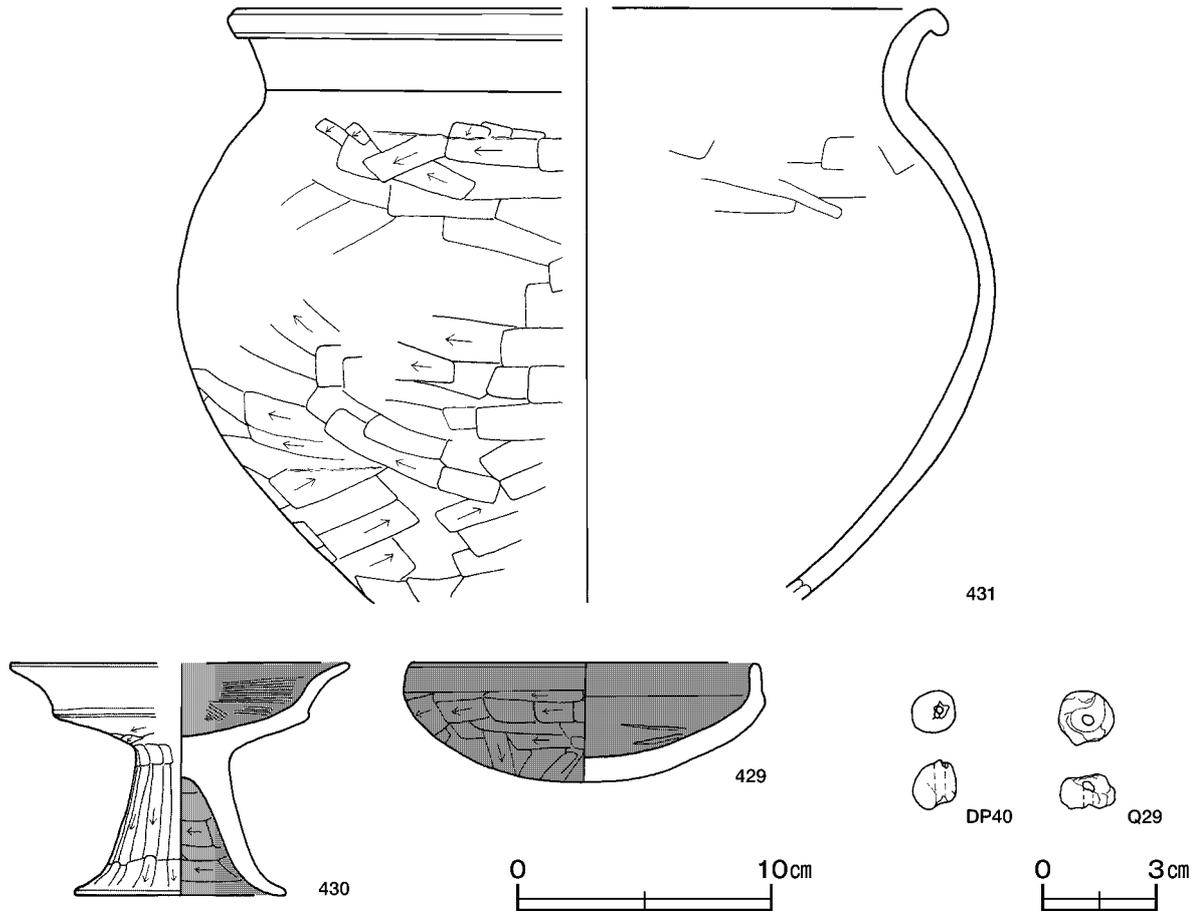
位置 調査区中央部のD 8 b6区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第427号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 中央部から北西部は調査区域外であり，南北軸は4.50m，東西軸は3.88mだけが確認された。遺存する東・南壁から，主軸方向N - 35° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は46～56cmで，ほぼ直立している。



第248図 第2423号住居跡実測図



第249図 第2423号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、中央部から東・南壁近くまで踏み固められている。遺存する壁下には、幅17～22cm、深さ4～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、南東コーナー部には、幅18cm、深さ19cm、長さ132cmでU字状の断面を呈する間仕切り溝が設けられている。

ピット 3か所。P1は支柱穴で、深さは62cmである。P2は深さ23cm、P3は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることから、ともに出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分けられる。第4・6・8層が自然堆積した後人為的に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 5 極暗褐色 ロームブロック・炭化物中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片177点(坏36, 高坏6, 甕類134, 甌1), 土製品1点(土玉), 石製品1点(白玉)が散在した状態で出土している。430は東部, 431は北東部の床面からそれぞれ出土しており、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また, 429はP3の覆土上層から出土しており、住居を廃絶して柱を抜き取った後に廃棄されたものと考えられる。また, DP40, Q29はともに覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から6世紀中葉と考えられる。

第2423号住居跡出土遺物観察表（第249図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
429	土師器	坏	13.5	4.9	-	長石・石英・雲母・微礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ ヘラ状の工具痕	P 3 上層	95% PL74
430	土師器	高坏	[13.3]	9.2	8.2	長石・雲母	赤	普通	口辺部外面横ナデ 内面横位のヘラ磨き 坏部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き 脚部内・外面ヘラ削り	床面	60% PL75
431	土師器	甕	[27.8]	(23.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪種痕 内面ナデ	床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP40	土玉	1.2	1.3	0.3	1.6	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔 被熱痕	覆土中	PL80

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	白玉	1.5	(0.9)	0.3	(1.8)	凝灰岩	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL80

第2425号住居跡（第250・251図）

位置 調査区中央部の E 8 a2 区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2424号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.72m，短軸5.42mの方形で，主軸方向はN - 32° - Wである。壁高は2～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8～20cm，深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面全体に焼土が堆積し，垂木状の炭化材も検出された焼失住居である。焼土層は竈前部で10～15cmの厚みを有している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで123cm，袖部幅98cmである。袖部はローム主体の第16層を基部として，砂質粘土主体の第10～14層で構築しており，内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて第15・16層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～9層に分けられ，第8・9層は，天井部の崩落土層，第5層は袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

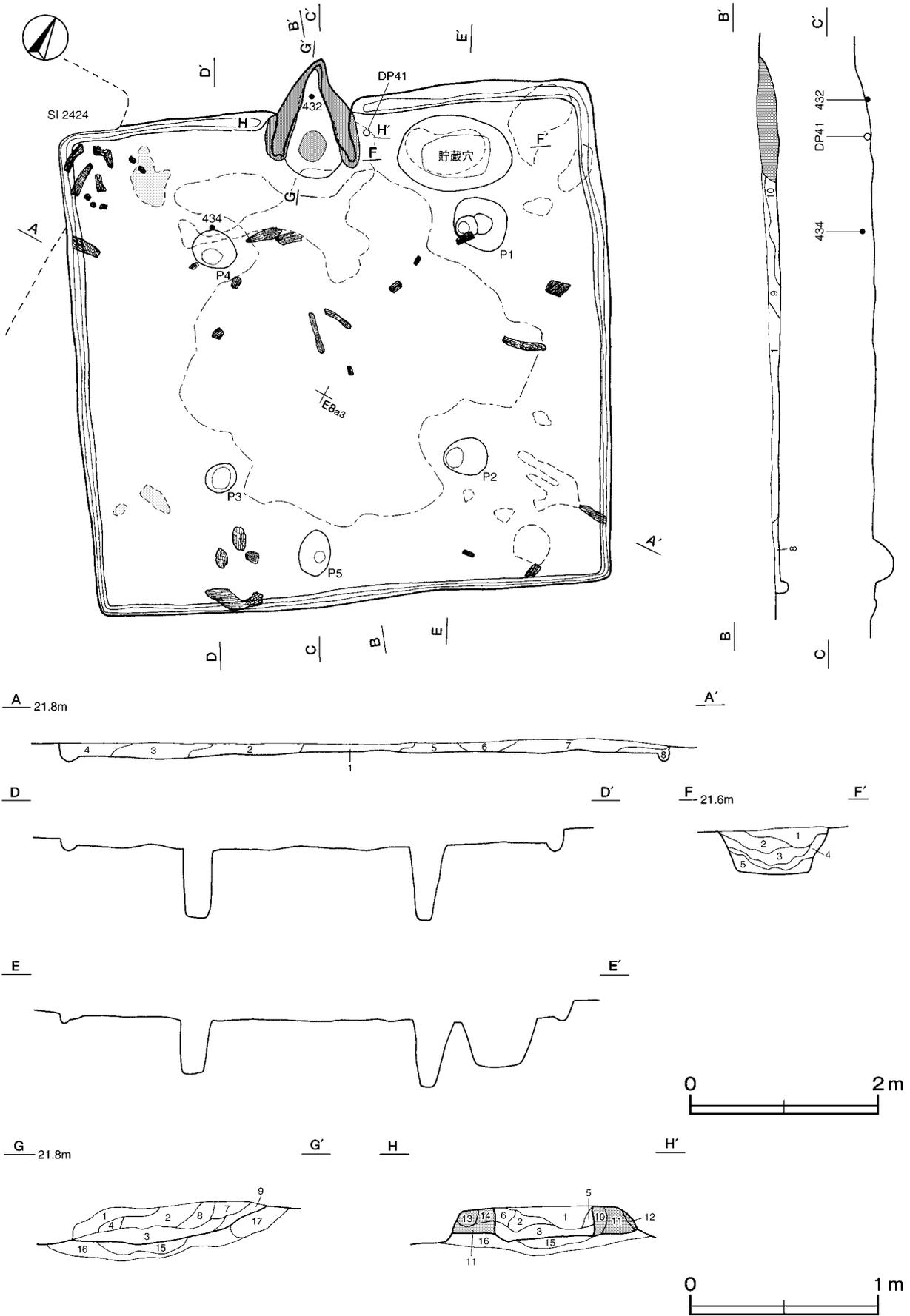
1 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	10 暗赤褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量
2 褐色	ローム粒子多量，焼土粒子少量	11 褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量	12 赤褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量
4 明赤褐色	焼土ブロック多量	13 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量	14 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子中量	15 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
7 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量	16 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量	17 暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量
9 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量		

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは58～80cmである。P5は深さ22cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

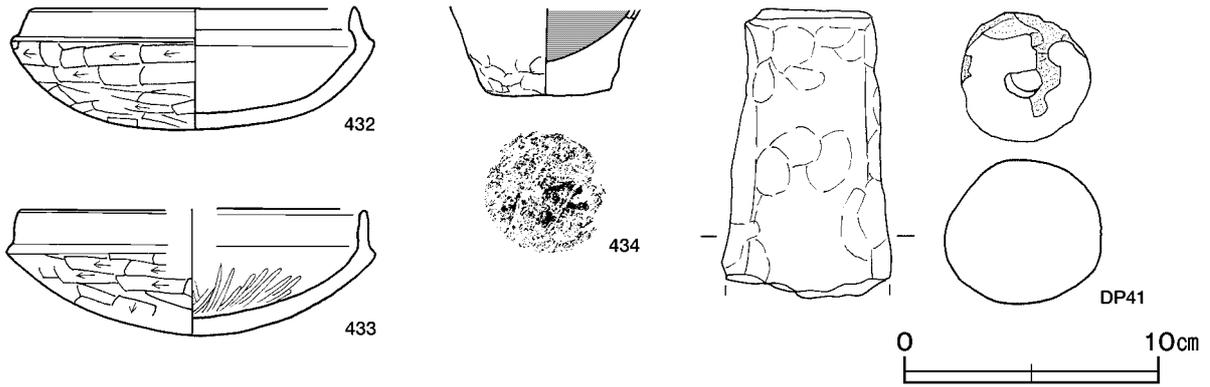
貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径123cm，短径81cmの楕円形で，深さは49cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり，覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 極暗赤褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子中量	4 極暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化物・ローム粒子少量
2 暗赤褐色	炭化物・焼土粒子中量，ローム粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 にぶい赤褐色	ローム粒子多量，炭化物中量		



第250图 第2425号住居跡実测图



第251図 第2425号住居跡出土遺物実測図

覆土 10層に分けられる。各層にロームブロックや焼土ブロック・炭化物を含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1 極暗褐色 炭化物・ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 6 暗褐色 炭化物中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量 | 7 褐色 ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量 | 8 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量 | 9 極暗褐色 焼土粒子多量, ロームブロック・炭化物中量 |
| 5 褐色 ロームブロック・炭化物中量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化物中量, ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片173点（坏78, 椀1, 高坏2, 甕類87, 甑1, 手捏土器4）, 土製品1点（支脚）が散在した状態で出土しており, 出土土器の多くは細片である。432は竈の煙道部から正位で出土しており, ほぼ完形であることから, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。434は北西部の覆土下層から出土しているが床面に堆積した焼土よりも上層であることから, 住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また, 433は北西部の覆土中, DP41は竈袖部右側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 床面に焼土が堆積し, 炭化材も確認されている焼失住居である。柱穴の覆土中には焼土や炭化物がほとんど含まれず, 床面の焼土層は柱穴部の覆土まで続いていることから, 廃絶後間もなく柱を抜き取って埋め戻し, その後に焼失したものと考えられる。時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第2425号住居跡出土遺物観察表（第251図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
432	土師器	坏	12.7	4.8	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈煙道部	95% PL75
433	土師器	坏	[13.6]	4.9	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状の磨き	覆土中	40% PL76
434	土師器	手捏土器	-	(3.5)	4.9	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ナデ	下層	30% PL71

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP41	支脚	(11.5)	5.2	6.7	(410.1)	長石・石英・雲母	ナデ 指頭痕 頭頂部に円形の窪み	下層	PL79

第2426号住居跡（第252図）

位置 調査区西部のD 8 f1区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 中央部から北西部は調査区域外であり, 南北軸は3.02m, 東西軸は2.58mだけが確認された。遺存する東・南壁から, 主軸方向N - 33° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は12~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。南壁下には、幅6～18cm、深さ7～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が見られる。

ピット 中央部から北西部が調査区域外であるため明確でないが、深さ66cmで南東部に位置していることから、支柱穴と考えられる。

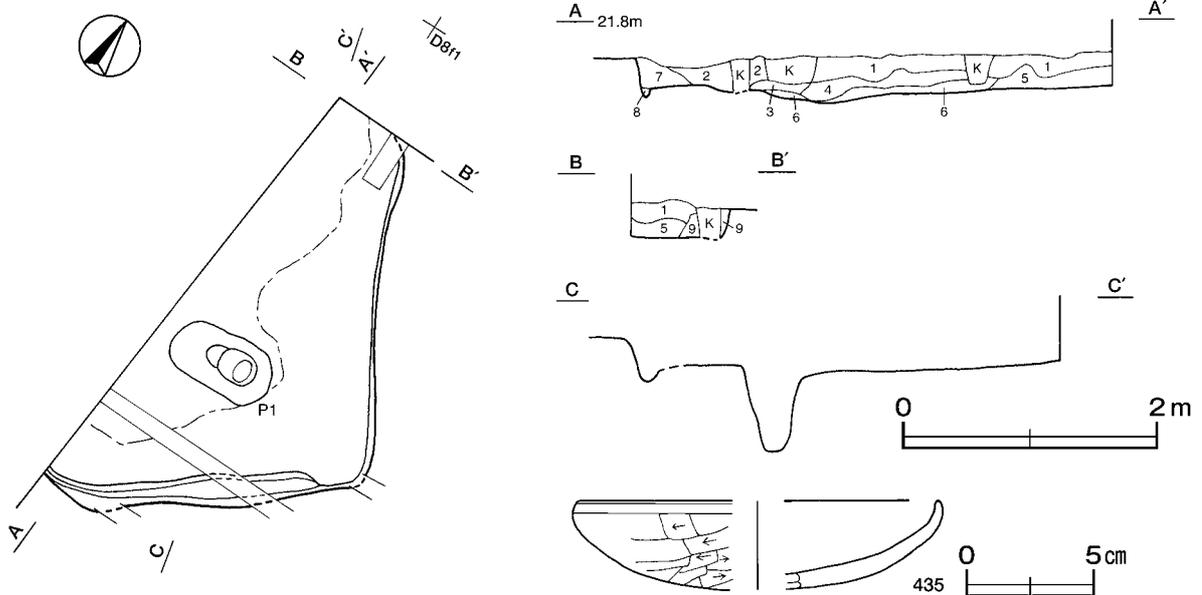
覆土 9層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片14点（坏4，甕類10）が散在した状態で出土しており、いずれも細片である。435は覆土中から出土しており、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 大部分は調査区域外であり遺物も少量であるが、時期は出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第252図 第2426号住居跡・出土遺物実測図

第2426号住居跡出土遺物観察表（第252図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
435	土師器	坏	[14.2]	(3.5)	-	石英・雲母	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	10%

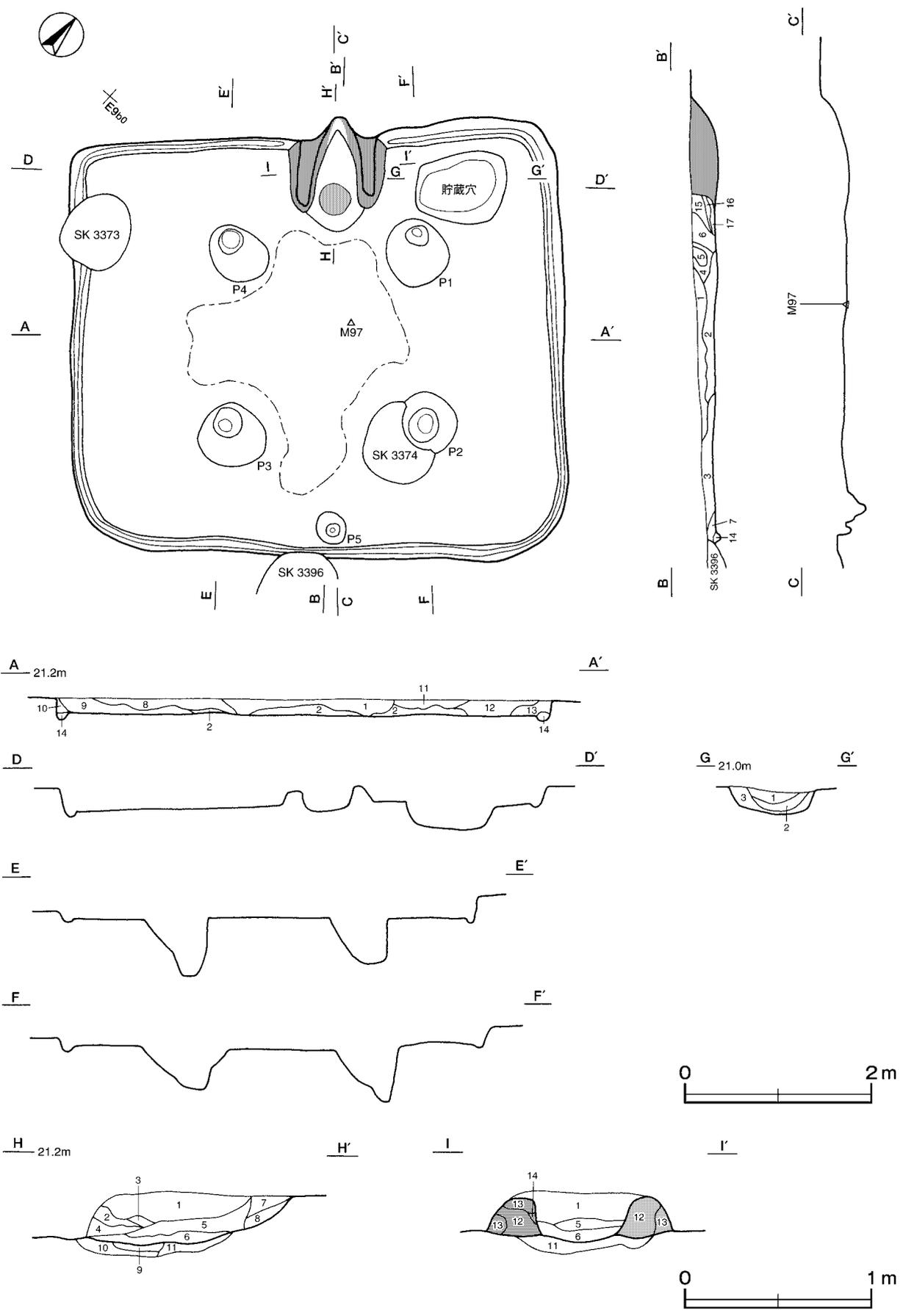
第2427号住居跡（第253・254図）

位置 調査区南東部のE 9 b0区、標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

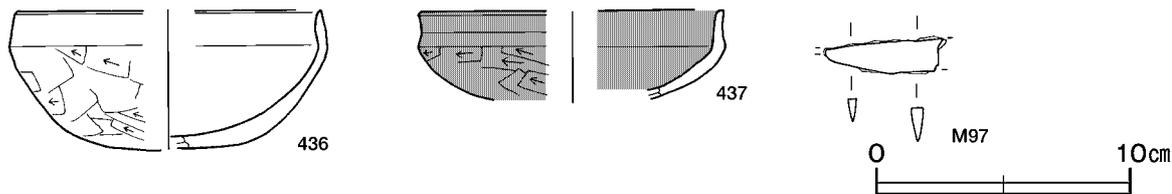
重複関係 第3373・3374・3396号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.28m、短軸4.76mの長方形で、主軸方向はN - 41° - Wである。壁高は10～22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅8～14cm、深さ3～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第253图 第2427号住居跡実测图



第254図 第2427号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで122cm，袖部幅103cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に，砂質粘土やローム土を主体とする第12～14層で構築している。また，内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて第9～11層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に23cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～8層に分けられ，第1～5層は，天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 褐色	砂質粘土粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	7 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2 褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	8 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック少量	10 暗褐色	ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量
5 赤褐色	焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量	11 にぶい赤褐色	焼土粒子多量
6 赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物・灰中量	12 赤褐色	焼土ブロック多量，砂質粘土粒子中量
		13 暗褐色	ロームブロック中量
		14 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量 焼土ブロック少量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは47～65cmである。P5は深さ22cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸96cm，短軸77cmの隅丸長方形で，深さは26cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり，覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量	3 暗褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量		

覆土 17層に分けられる。ロームブロックや粘土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	10 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5 黄褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子少量	13 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
6 黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	14 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	15 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量 焼土ブロック微量	16 にぶい褐色	粘土ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
		17 褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片223点（坏82，椀6，高坏1，甕類134），須恵器片1点（瓶類），鉄製品1点（刀子）が散在した状態で出土しており，出土土器はいずれも細片である。436は北東部，437は南東部の覆土中から出土しており，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また，M97は中央部の床面から出土しているが，刀身部の破片であり，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀前半と考えられる。

第2427号住居跡出土遺物観察表（第254図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
436	土師器	坏	[12.0]	5.4	-	長石・石英・雲母・微礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	40%
437	土師器	坏	[12.0]	(3.4)	-	長石・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M97	刀子	(4.8)	1.4	0.5	(5.4)	鉄	茎部欠損 刃部の破片 断面三角形	床面	PL81

第2429号住居跡（第255図）

位置 調査区中央部のD9 d1区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 中央部から東部は調査区域外であり，南北軸は2.84m，東西軸は0.84mだけが確認された。遺存する西壁の方向から，主軸方向N - 5° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は22~36cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，北西部の一部で硬化面が確認された。壁下には，幅11~16cm，深さ10~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

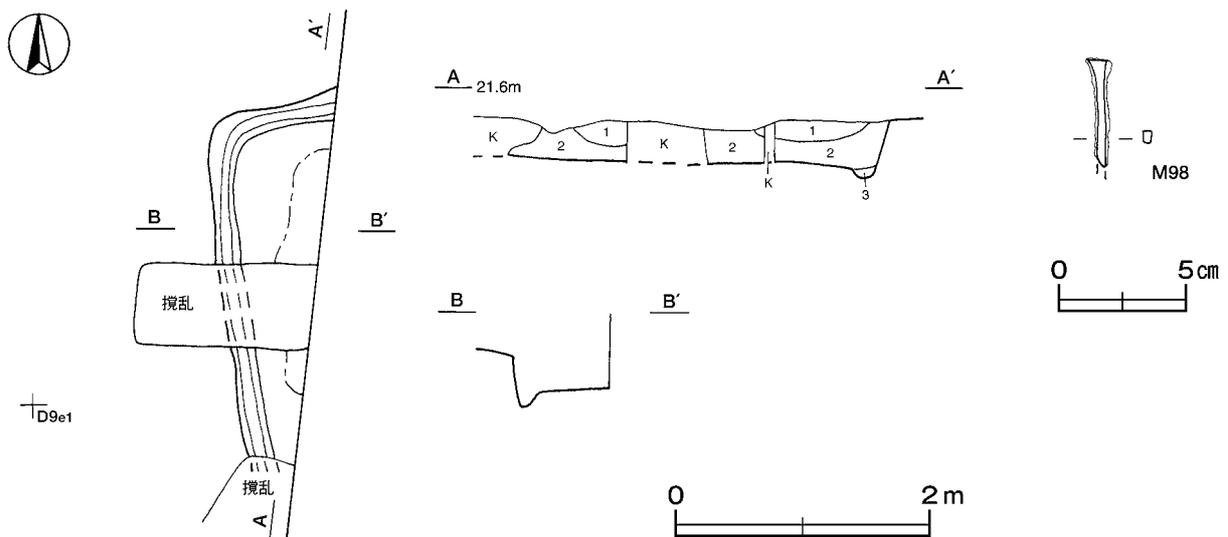
覆土 3層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片45点（坏7，甕38），鉄製品1点（釘）が散在した状態で出土している。また，混入した縄文土器片1点，須恵器片2点も出土している。出土土器はいずれも細片であり，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。M98は覆土中から出土している。

所見 北西部以外は調査区域外であり遺物も少量であるが，時期は，出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第255図 第2429号住居跡・出土遺物実測図

第2429号住居跡出土遺物観察表（第255図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M98	釘	(4.3)	0.8	0.5	(3.5)	鉄	茎部欠損 断面長方形の棒状	覆土中	PL81

第2430号住居跡（第256図）

位置 調査区南部のE 8 d5 区，標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2433号住居跡と重複している。本跡と第2433号住居跡ともに床面が露出した状態で検出されているが，本跡の竈が遺存していることから第2433号住居跡を掘り込んでいると考えられる。

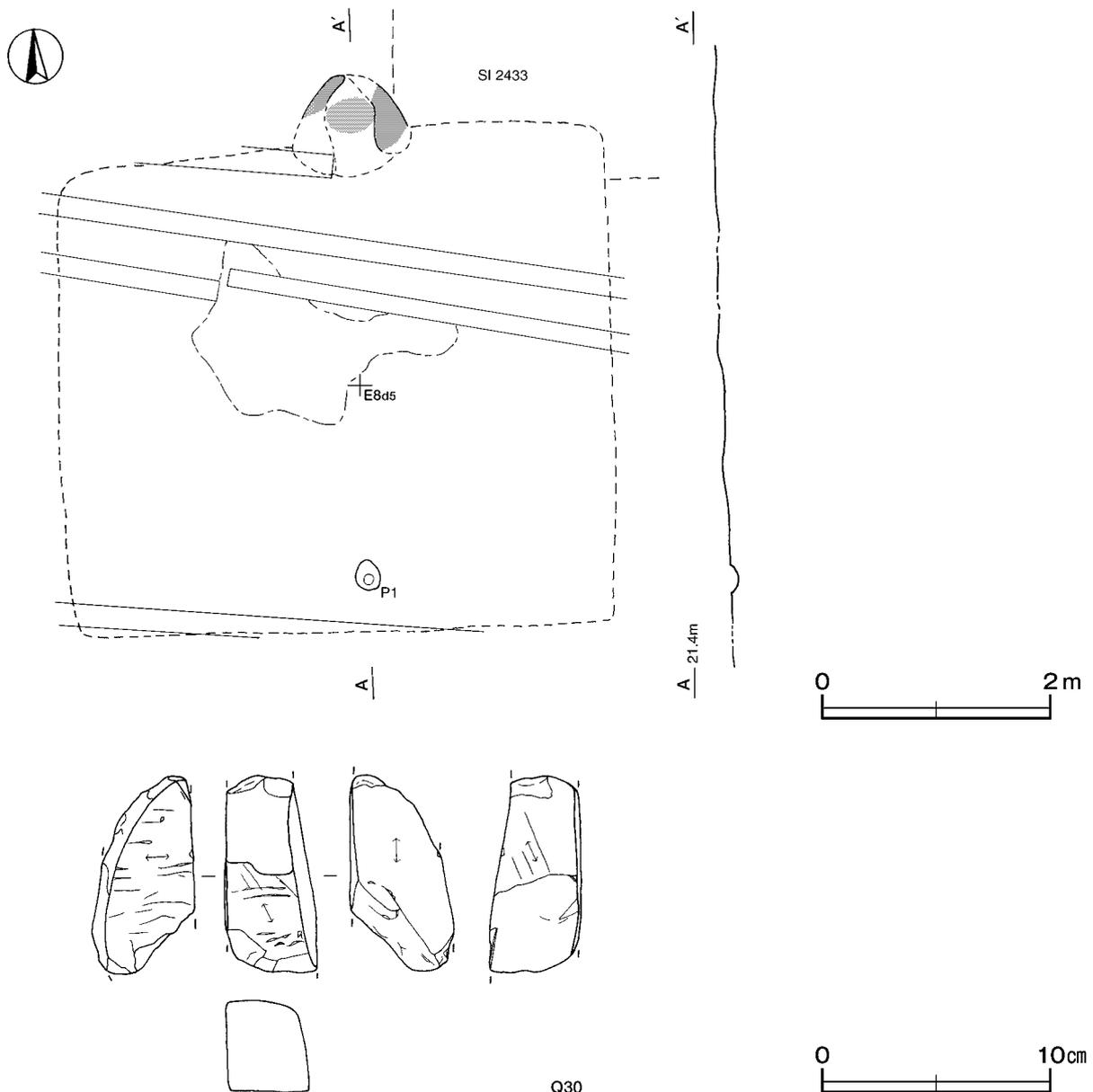
規模と形状 竈やピットの位置，硬化面の広がりから，長軸4.90m，短軸4.40mほどの長方形で，主軸方向はN - 1° - Eと推定される。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されていたと推定される。竈の構築材と考えられる砂質粘土の広がりや火床部だけが検出されており，確認できた部分の規模は，焚口部から煙道部まで約90cm，袖部幅約100cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けてやや赤変している。煙道部の立ち上がりは不明である。

ピット 深さ7cmで南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片12点（坏2，甕10），石器1点（砥石）が確認面から出土し，いずれも細片である。



第256図 第2430号住居跡・出土遺物実測図

所見 床面が露出した状態で検出されており，遺物も少量であるが，時期は出土土器から古墳時代後期と考えられる。

第2430号住居跡出土遺物観察表（第256図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	砥石	(8.7)	4.5	4.1	(166.5)	凝灰岩	砥面4面 両端部欠損	確認面	PL79

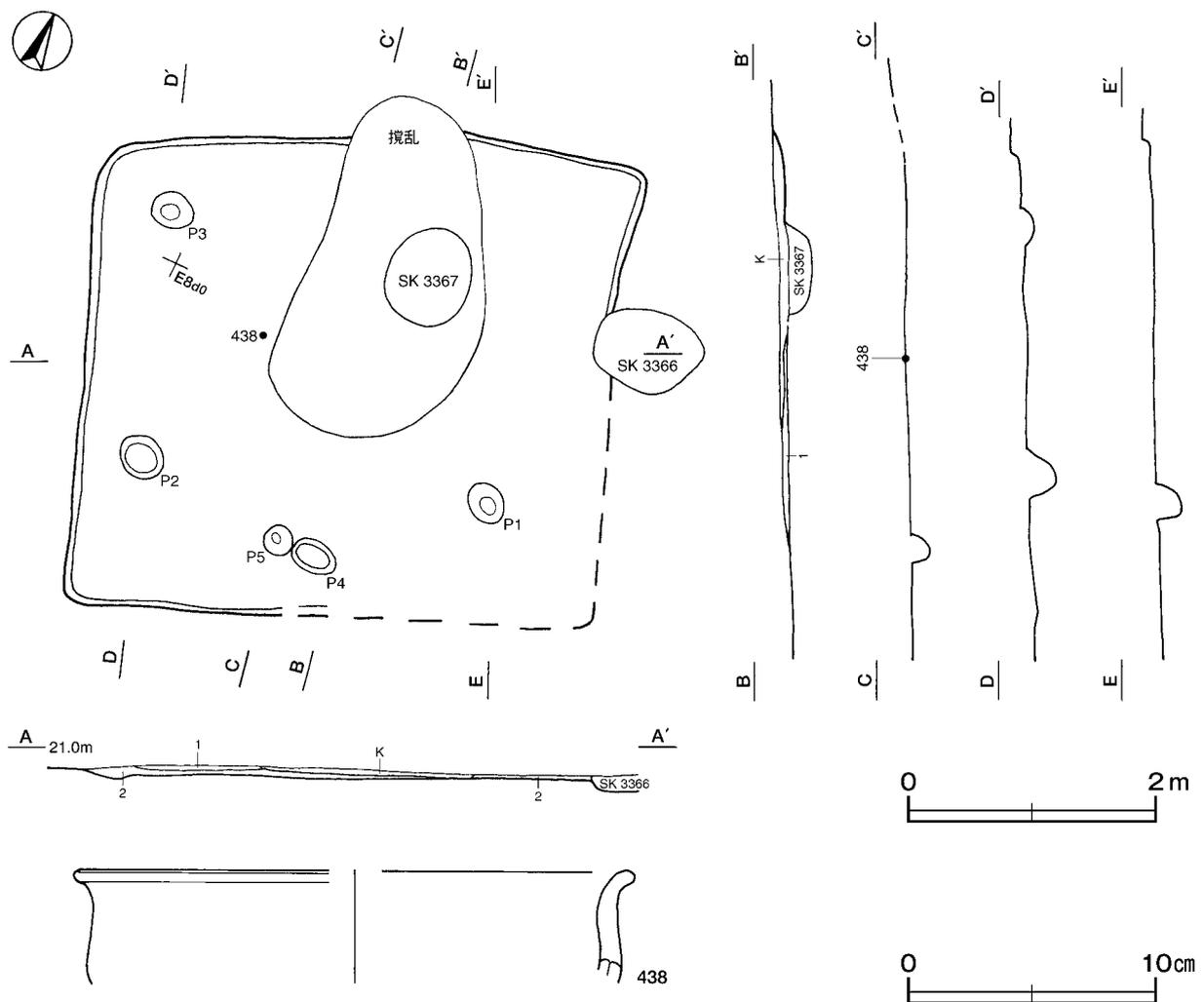
第2431号住居跡（第257図）

位置 調査区南西部のE 8 d0区，標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3366・3367号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北壁の中央部が攪乱によって壊されており，南東部は床面が露出した状態で検出されている。長軸4.18m，短軸3.88mの方形で，主軸方向はN - 18° - Wである。壁高は8cmであるが，層厚が薄いため立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦である。明確な硬化面は認められない。



第257図 第2431号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P3は主柱穴で、深さは10～24cmである。P4は深さ5cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ16cmで、南部の壁際に位置している。性格は不明であるが、P4の西側に隣接していることから、出入口施設に伴うピットの可能性も考えられる。

覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片46点（坏8，甕類36，甑2）が散在した状態で出土している。438は中央部の床面から出土しているが、小片であり住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 北壁の中央部を攪乱で壊されているため、竈は確認されていない。時期は出土土器から古墳時代後期と考えられる。

第2431号住居跡出土遺物観察表（第257図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
438	土師器	甑	[22.2]	(4.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	10%

第2432号住居跡（第258・259図）

位置 調査区中央部のD8i4区、標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第137号溝、第3335・3341号土坑に掘り込まれている。また、中央部は南北方向、北西部は東西方向の耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸6.90m、短軸6.11mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は8～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅11～16cm、深さ3～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面全体に焼土が堆積し、垂木状の炭化材も検出された焼失住居である。焼土層は南東部の壁際に15～20cmの厚みを有している。

炉 中央部の北寄りに位置している。東部は耕作による攪乱を受けており、南北径64cm、東西径は42cmだけが確認された。床面を皿状に掘りくぼめた地床炉であり、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

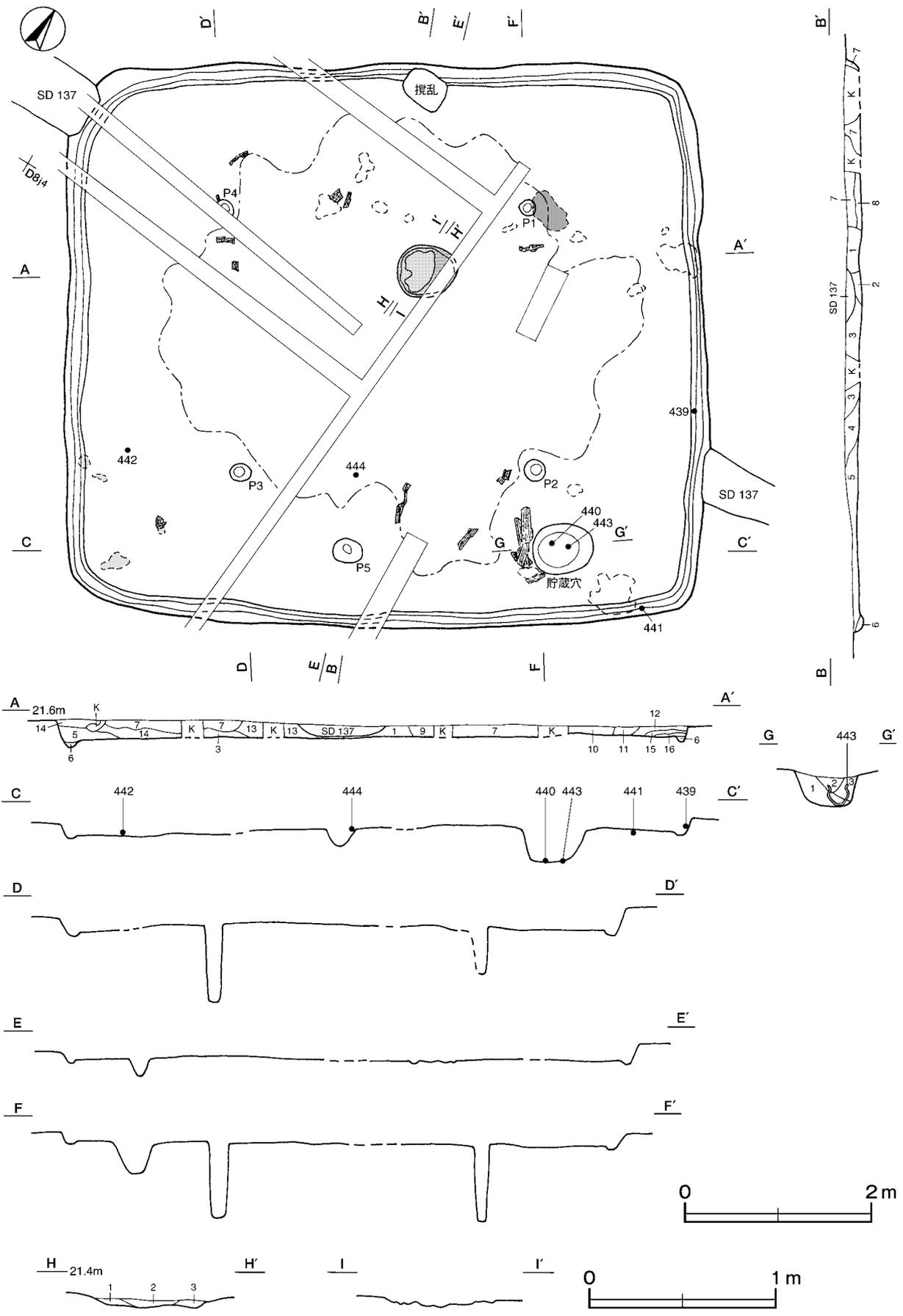
- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量
- 2 極暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは52～85cmである。P5は深さ39cmで、南壁際に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

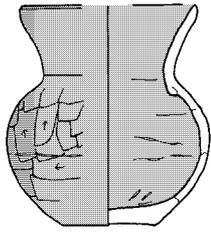
貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径67cm、短径54cmの楕円形で、深さは33cmである。底面は平坦で壁はほぼ外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

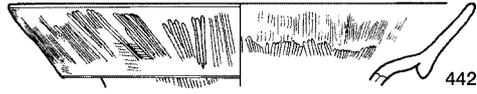
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量，焼土粒子少量



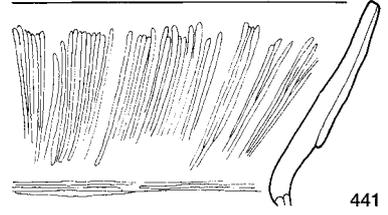
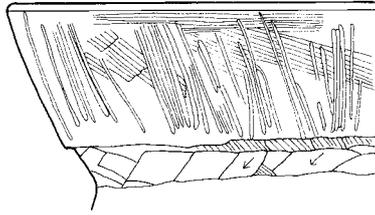
第258图 第2432号住居跡実测图



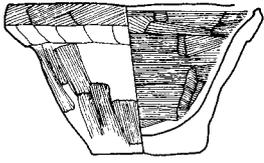
439



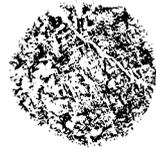
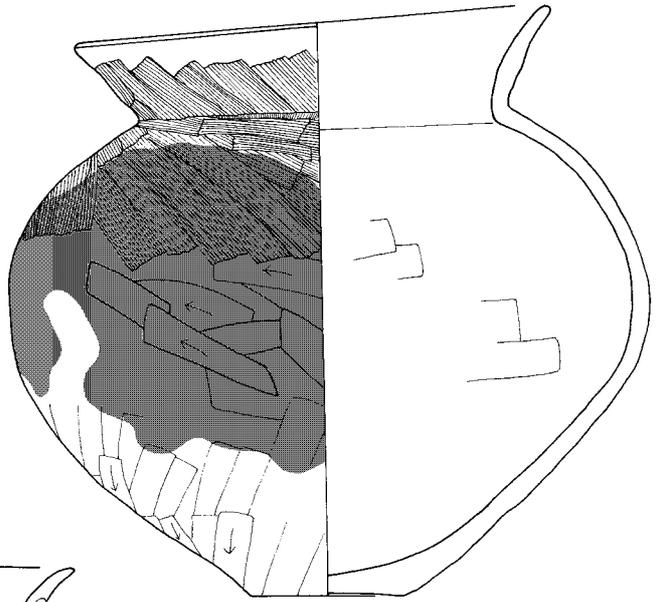
442



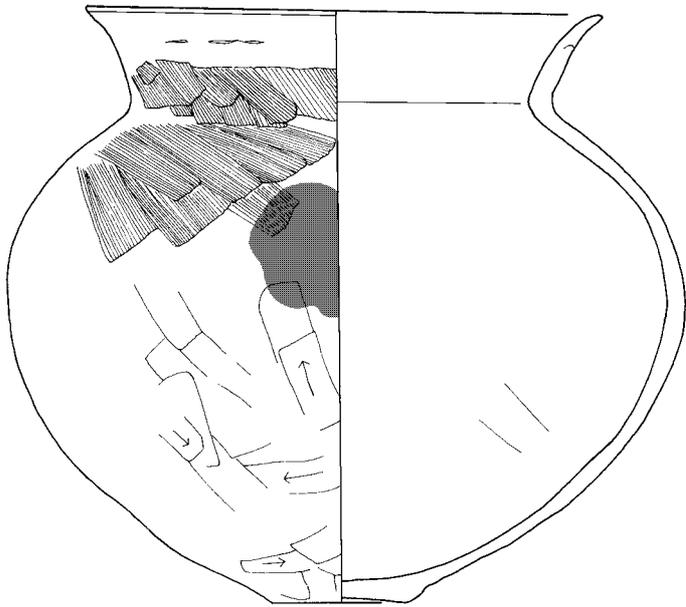
441



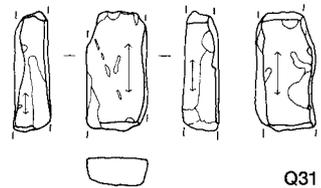
440



443



444



Q31



第259图 第2432号住居跡出土遺物実測図

覆土 16層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロック・炭化物を含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 極暗褐色 炭化物・ローム粒子少量 | 9 黒褐色 ロームブロック中量,炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子中量,ローム粒子微量 | 10 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 炭化物中量,ロームブロック少量 | 11 黒褐色 炭化物中量,ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量 | 12 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量,炭化物少量 | 13 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量 |
| 6 褐色 ローム粒子多量 | 14 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 褐色 ローム粒子多量,炭化物中量 | 15 明赤褐色 焼土粒子多量 |
| 8 黒褐色 焼土ブロック・炭化物中量,ローム粒子微量 | 16 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片246点(埴8,器台6,高坏10,壺64,甕類158),石器1点(砥石)が南部を中心に出土している。また,混入した古墳時代後期の土師器片17点,須恵器片13点も出土している。440・443はともに貯蔵穴の底面,444は南部の床面,439は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており,いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 床面全体に焼土が堆積し,炭化材も確認された焼失住居である。貯蔵穴および柱穴の覆土中には焼土や炭化材がほとんど含まれていないことから,廃絶して柱を抜き取った後に焼失したと考えられる。時期は,出土土器から4世紀後半と考えられる。

第2432号住居跡出土遺物観察表(第259図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
439	土師器	埴	[6.8]	8.8	3.6	石英・雲母	灰赤	普通	体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ 輪積痕 底部ヘラ削り	下層	60%
440	土師器	鉢	9.9	6.0	4.2	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口辺部内・外面ハケ目調整 体部外面ヘラ削り 後ハケ目調整 内面ハケ目調整	貯蔵穴底面	100% PL71
441	土師器	壺	[30.4]	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部外面ハケ目調整後縦位のヘラ磨き 内面縦位のヘラ磨き 頸部外面ハケ目調整後ヘラ削り	壁溝覆土中	10%
442	土師器	壺	18.2	(3.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面ハケ目調整後縦位のヘラ磨き	床面	10%
443	土師器	甕	18.7	23.6	6.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部外面ハケ目調整 内面横ナデ 体部外面上位ハケ目調整 中・下位ヘラ削り 内面ヘラナデ	貯蔵穴底面	100% PL71 外面煤付着
444	土師器	甕	20.2	23.9	5.3	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	口辺部外面ハケ目調整後横ナデ 体部外面上位ハケ目調整 中・下位ヘラ削り 内面ナデ 底部ヘラ削り	床面	60% PL71 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	砥石	(4.8)	2.4	1.1	(23.2)	凝灰岩	砥面4面 両端部欠損	覆土中	

第2433号住居跡(第260図)

位置 調査区南部のE 8 c5区,標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2430号住居跡と重複している。本跡と第2430号住居跡ともに床面が露出した状態で検出されているが,第2430号住居跡の竈の遺存状態から,第2430号住居に掘り込まれていると考えられる。

規模と形状 竈やピットの位置から,長軸4.00m,短軸3.60mほどの長方形で,主軸方向はN-2°-Eと推定される。

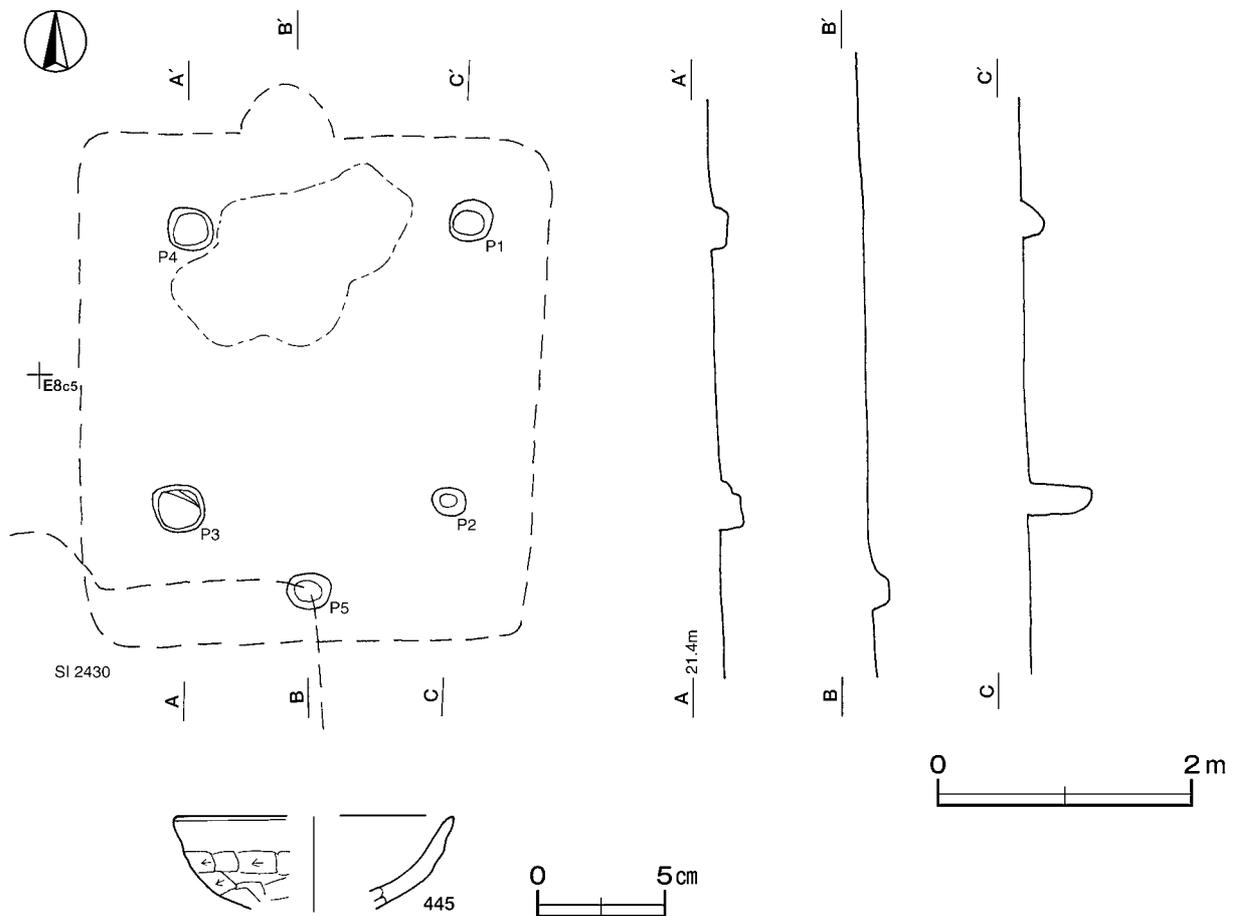
床 ほぼ平坦で,竈前部が踏み固められている。北壁中央部からは焼土が確認されており,竈の火床部と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されていたと推定される。火床部だけが検出されており,規模は不明である。

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で,深さは16~49cmである。P5は深さ13cmで,南壁際の中央部に位置していることから,出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片15点(坏3,甗12)が確認面から出土しており,いずれも細片である。

所見 床面が露出した状態で検出されており遺物も少量であるが、時期は出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第260図 第2433号住居跡・出土遺物実測図

第2433号住居跡出土遺物観察表（第260図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
445	土師器	坏	[11.0]	(3.7)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄澄	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	確認面	10%

第2434号住居跡（第261図）

位置 調査区南西部のE7c9区、標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部は調査区域外であり、中央部から南部は床面が露出した状態で検出されている。南北軸4.58mだけが確認された。柱穴の位置から東西軸は4.65mほどで、主軸方向N-38°-Wの方形と推定される。壁高は北側で5cmほどで、層厚が薄いため立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦で、北東コーナー部から南部が踏み固められている。遺存する壁下には、幅12~17cm、深さ3~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁東寄りに付設されている。煙道部と左袖部が調査区域外であるため全体の規模は明確でないが、焚口部から煙道部まで84cm、袖部幅74cmが確認された。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けてやや赤変している。覆土は第1~3層に分けられ、各層には焼土粒子や砂質粘土粒子を含んでいる。

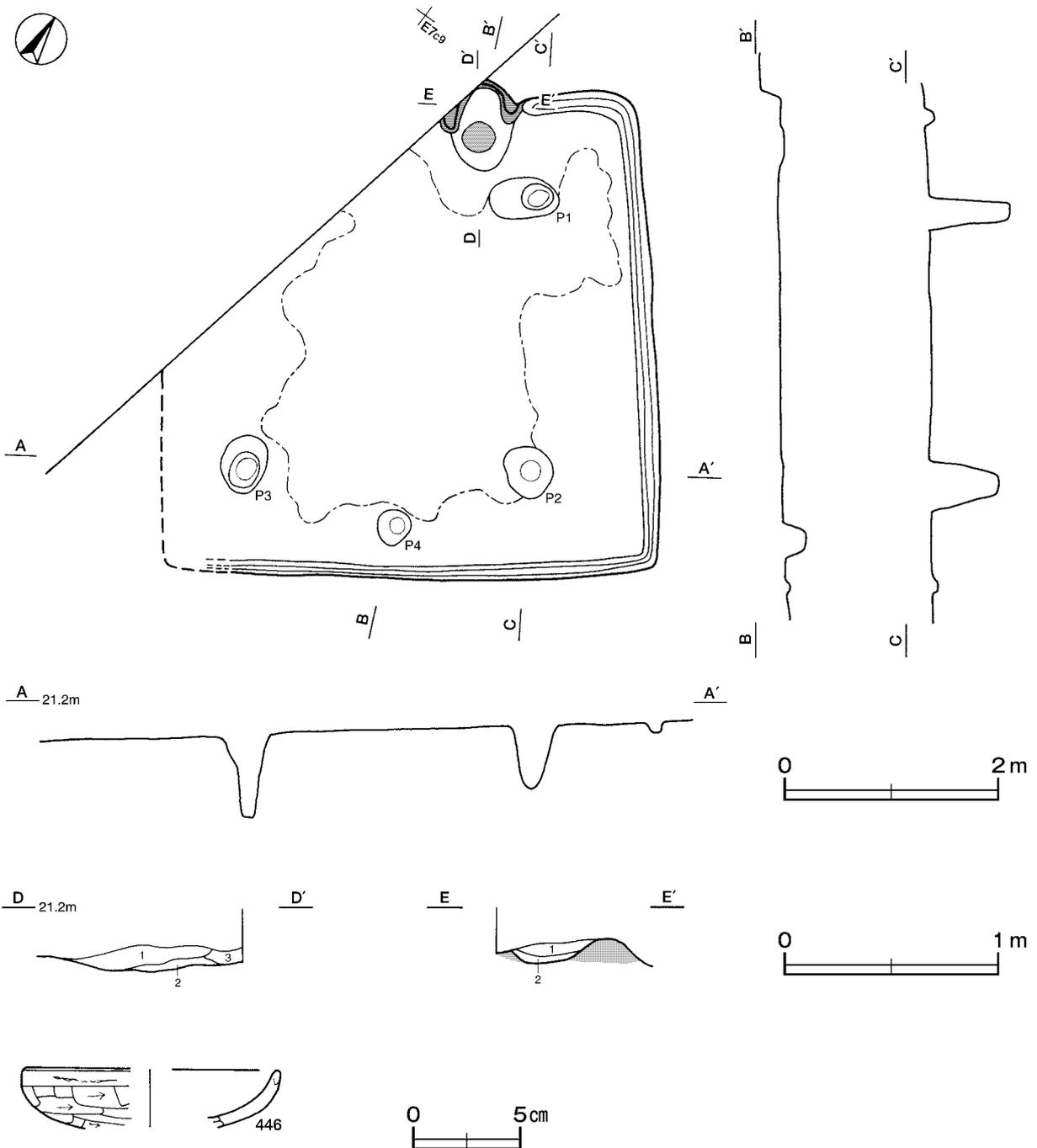
覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量,炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量,炭化物・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 砂質粘土粒子中量,ローム粒子微量

ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは65～80cmである。P4は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片31点(坏17 甕14)が散在した状態で出土しており、いずれも細片である。また、混入した古銭1点も出土している。446は覆土中から出土しており、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第261図 第2434号住居跡・出土遺物実測図

第2434号住居跡出土遺物観察表（第261図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
446	土師器	坏	[11.8]	(2.7)	-	長石・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 積痕 内面ナデ	体部外面ヘラ削り 輪	覆土中	10%

第2435号住居跡（第262～265図）

位置 調査区南部のE 8 j6区、標高20.0mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第144号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部は床面が露出した状態で検出されている。長軸6.19m、短軸6.12mの方形で、主軸方向はN - 29° - Wである。壁高は9～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前部から南部まで踏み固められている。壁下には、幅14～21cm、深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈1は北壁中央部の西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで129cm、袖部幅116cmである。左袖部は貯蔵穴2を埋め戻した上部にローム土と砂質粘土を主体とする第10層で、右袖部は床面を10cmほど掘りくぼめて第11層を充填し、その上部にローム土と砂質粘土を主体とする第8～10層で構築している。火床部は床面を5～8cm掘りくぼめて第12・13層を充填して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がっている。覆土は第1～7層に分けられ、ロームブロックや焼土ブロックを含む人為堆積の状況を示している。竈2は北壁の東寄りに付設されており、煙道部が壁外に28cm掘り込まれている状況だけが確認された。竈2の袖部が遺存していないことや、竈2の火床部に壁溝が確認されていることから、竈2から竈1への作り替えと考えられる。

竈1土層解説

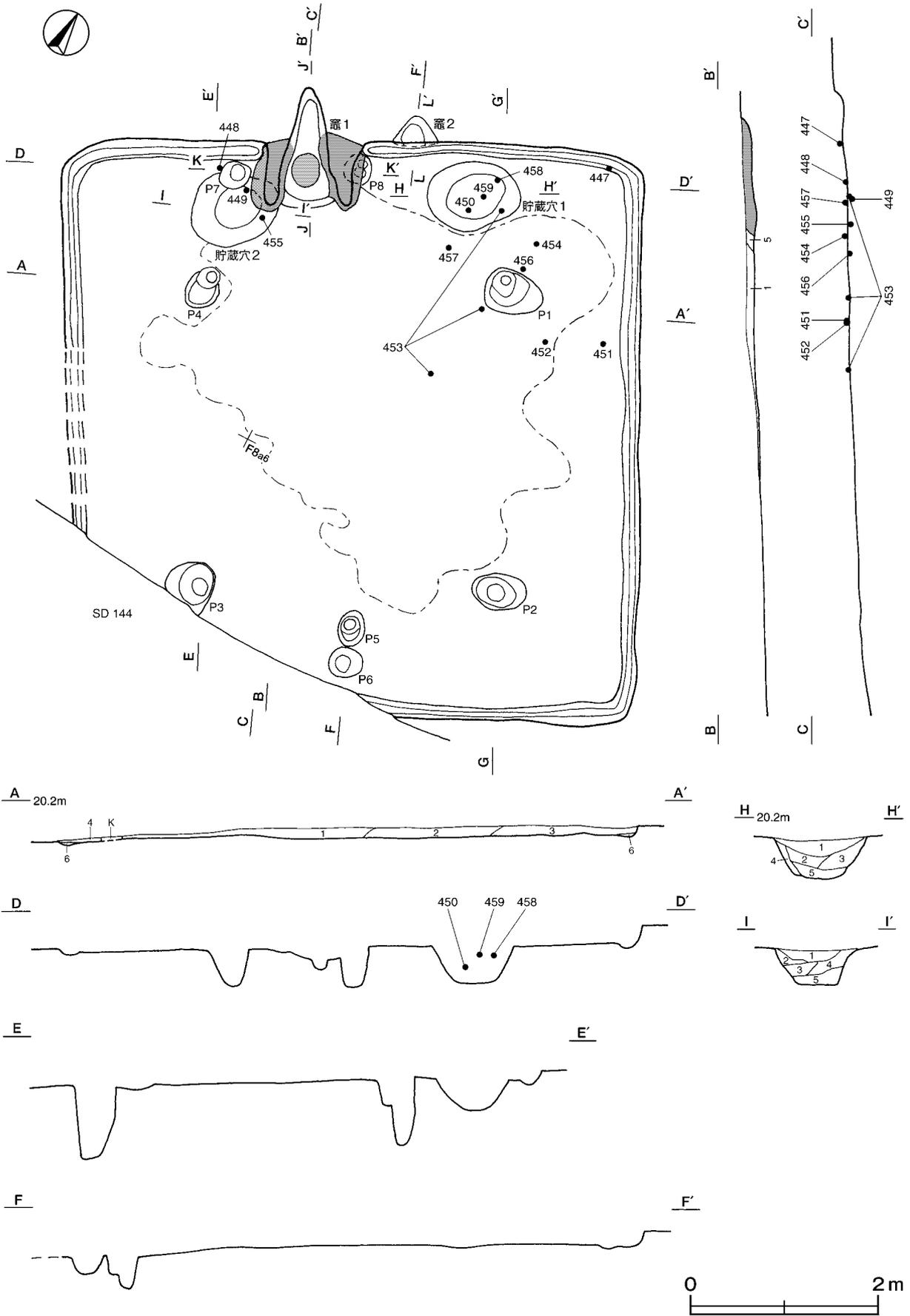
- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量 | 8 極暗褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・灰中量 | 9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 | 12 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子中量，ロームブロック少量 | 13 褐色 ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子中量 | 14 暗褐色 ロームブロック中量 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| | 15 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |

竈2土層解説

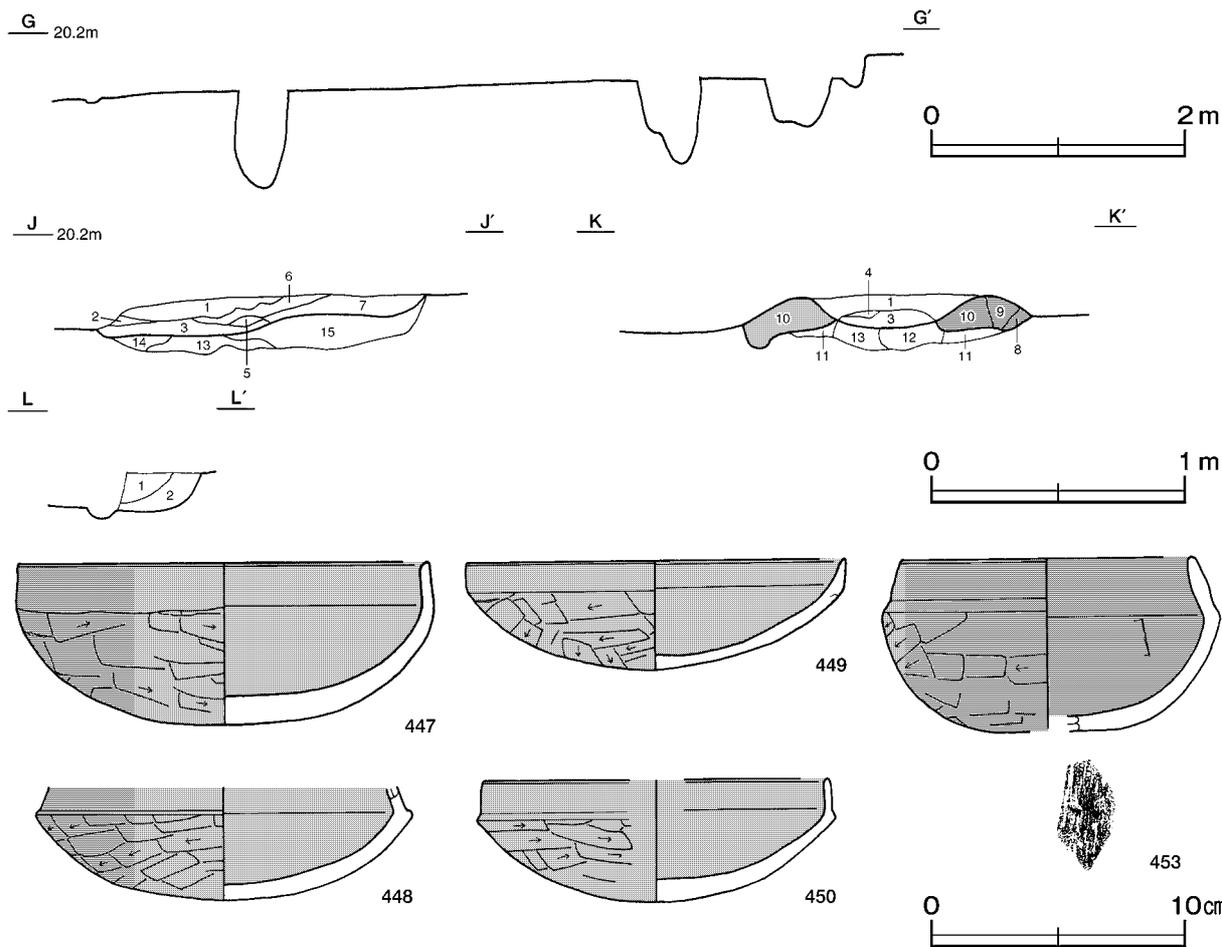
- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子多量，焼土ブロック少量 | 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 |
|-----------------------|-------------------------|

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さは68～80cmである。P5は深さ40cm、P6は深さ22cmで、ともに南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ40cm、P8は深さ49cmで、竈1の左右に位置していることから、竈1に付随する棚などの施設の柱穴と考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北東部の壁際に位置している。長径98cm、短径73cmの楕円形で、深さは45cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。貯蔵穴2は北西部の壁際に位置している。長径98cm、短径81cmの楕円形で、深さは44cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。貯蔵穴2は竈1の左袖部下から検出されていることから、竈の作り替えに伴って貯蔵穴2から貯蔵穴1へと作り替えられたと考えられる。



第262图 第2435号住居跡実测图



第263図 第2435号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴1土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量，粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

貯蔵穴2土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

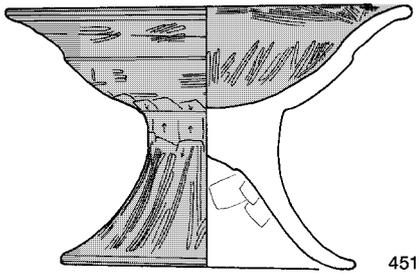
覆土 6層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

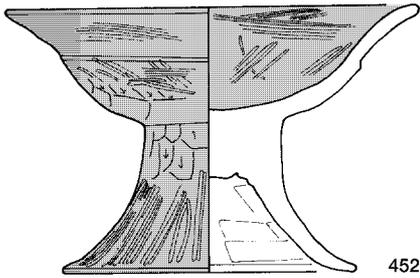
- | | | | |
|--------|---------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子・灰少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片731点（坏89，高坏10，鉢8，甕類545，甑79），須恵器片20点（壺）が北部を中心に出土している。448・449・455は竈左側，451・452・456・457は北東部の床面，454は北東部の覆土下層からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。450は貯蔵穴1の覆土中層，458・459は覆土上層からそれぞれ出土しており，住居を廃絶して柱を抜き取った後に流れ込んだと考えられる。

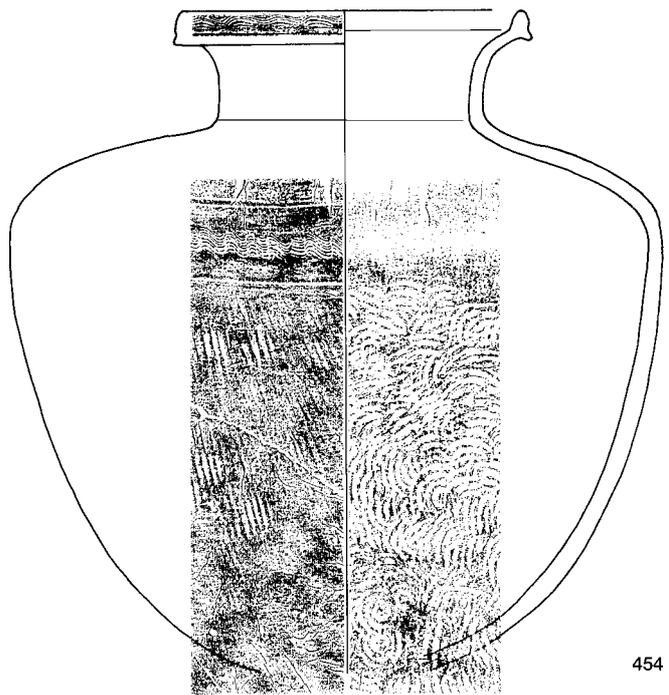
所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



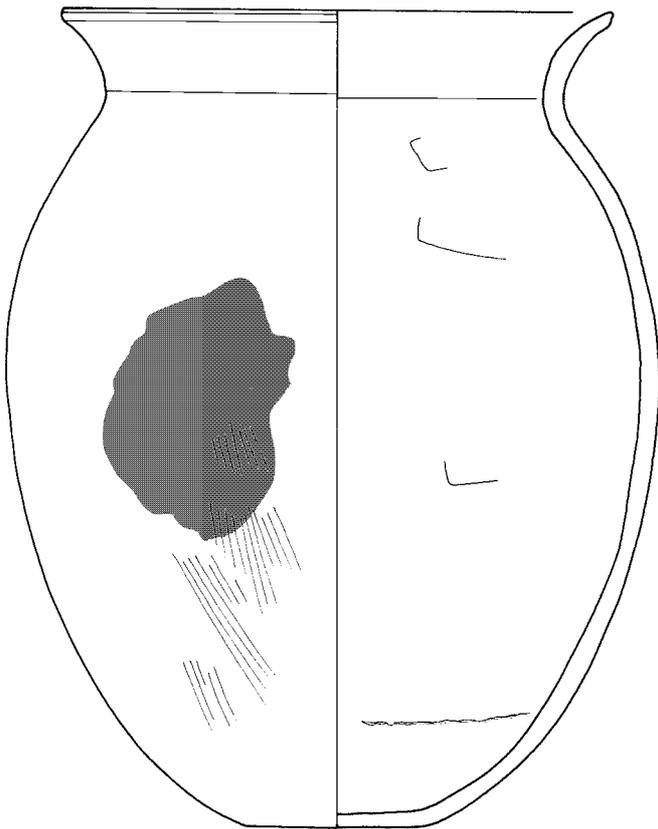
451



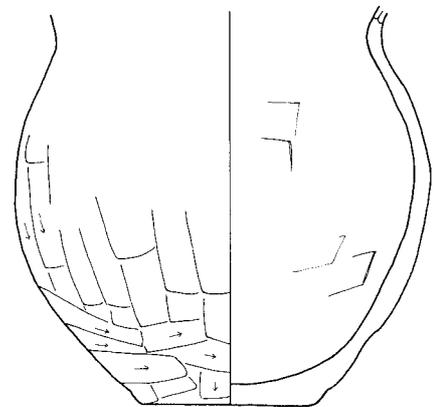
452



454



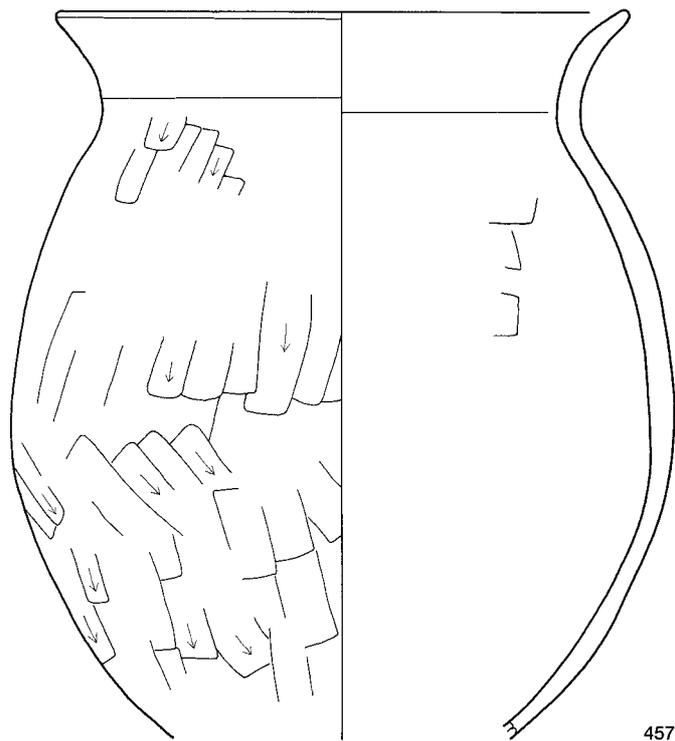
455



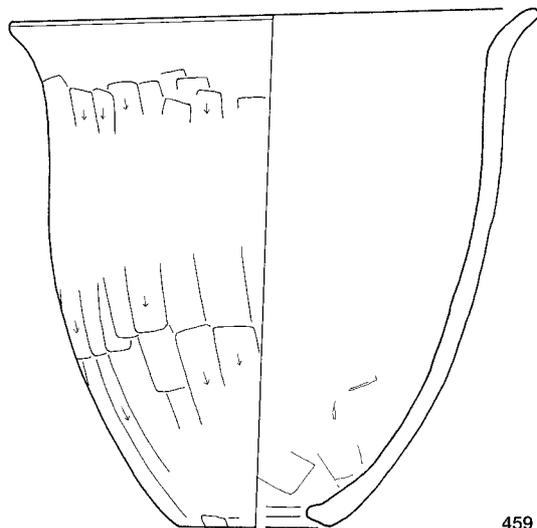
458



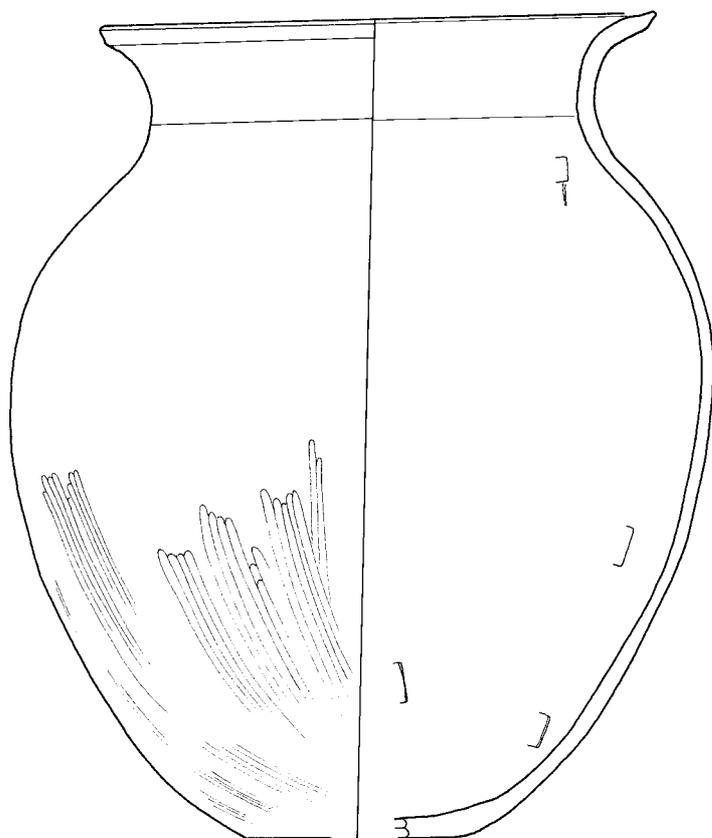
第264图 第2435号住居跡出土遺物実測図(1)



457



459



456



第265图 第2435号住居跡出土遺物実測図(2)

第2435号住居跡出土遺物観察表（第263～265図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
447	土師器	坏	16.1	6.4	-	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 輪積痕 内面ナデ	床面	95% PL77
448	土師器	坏	-	(4.5)	-	長石・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	床面	95% PL76
449	土師器	坏	14.9	4.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 輪積痕 内面ナデ	床面	70% PL77
450	土師器	坏	[13.5]	4.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	貯蔵穴1中層	60% PL77
451	土師器	高坏	15.5	10.6	11.1	長石・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面へら磨き 坏部外面へら削り後へら磨き 内面へら磨き 脚部外面へら削り後へら磨き 内面へら削り後ナデ 裾部外面横ナデ	床面	90% PL77
452	土師器	高坏	16.1	10.6	11.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口辺部内・外面へら磨き 坏部外面へら削り後へら磨き 内面へら磨き 脚部外面へら削り後へら磨き 内面へら削り後ナデ 裾部外面横ナデ	床面	80% PL77
453	土師器	鉢	11.4	6.9	[5.4]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	下層	60% PL77
454	須恵器	壺	13.5	(26.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部外面波状文 体部外面上位波状文 中・下位縦位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	下層	60% PL78
455	土師器	甕	21.5	32.5	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	60% 煤付着
456	土師器	甕	21.6	32.8	[8.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	70% PL77
457	土師器	甕	22.4	(29.0)	-	長石・石英・雲母・小礫	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	床面	70% PL77
458	土師器	小形甕	-	(15.7)	6.7	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ 底部木葉痕	貯蔵穴1上層	90%
459	土師器	甌	20.9	20.6	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	貯蔵穴1上層	85% PL78

第2438号住居跡（第266・267図）

位置 調査区南部のF 8 b3区，標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3414・3421・3476～3478号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.31m，短軸3.96mの方形で，主軸方向はN - 47° - Wである。壁高は6～26cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。粘土層を掘り込んで構築しており床面全体が硬化している。東・南壁下には幅8～10cm，深さ2～3cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，袖部幅90cmで，袖部は砂質粘土を主体とする第5・6層で構築している。火床部は床面を10～15cm掘りくぼめてローム混じりの粘土を主体とする第7～9層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～4層に分けられ，第1・2層は，天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 暗褐色 砂質粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量	5 暗褐色 砂質粘土粒子多量 焼土ブロック・ローム粒子少量
2 黒褐色 砂質粘土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量	6 暗褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	7 暗赤褐色 焼土粒子多量，粘土粒子少量
4 黒色 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	8 極暗褐色 粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
	9 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子中量
	10 暗褐色 粘土粒子多量，ローム粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは31～38cmである。P5は深さ12cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

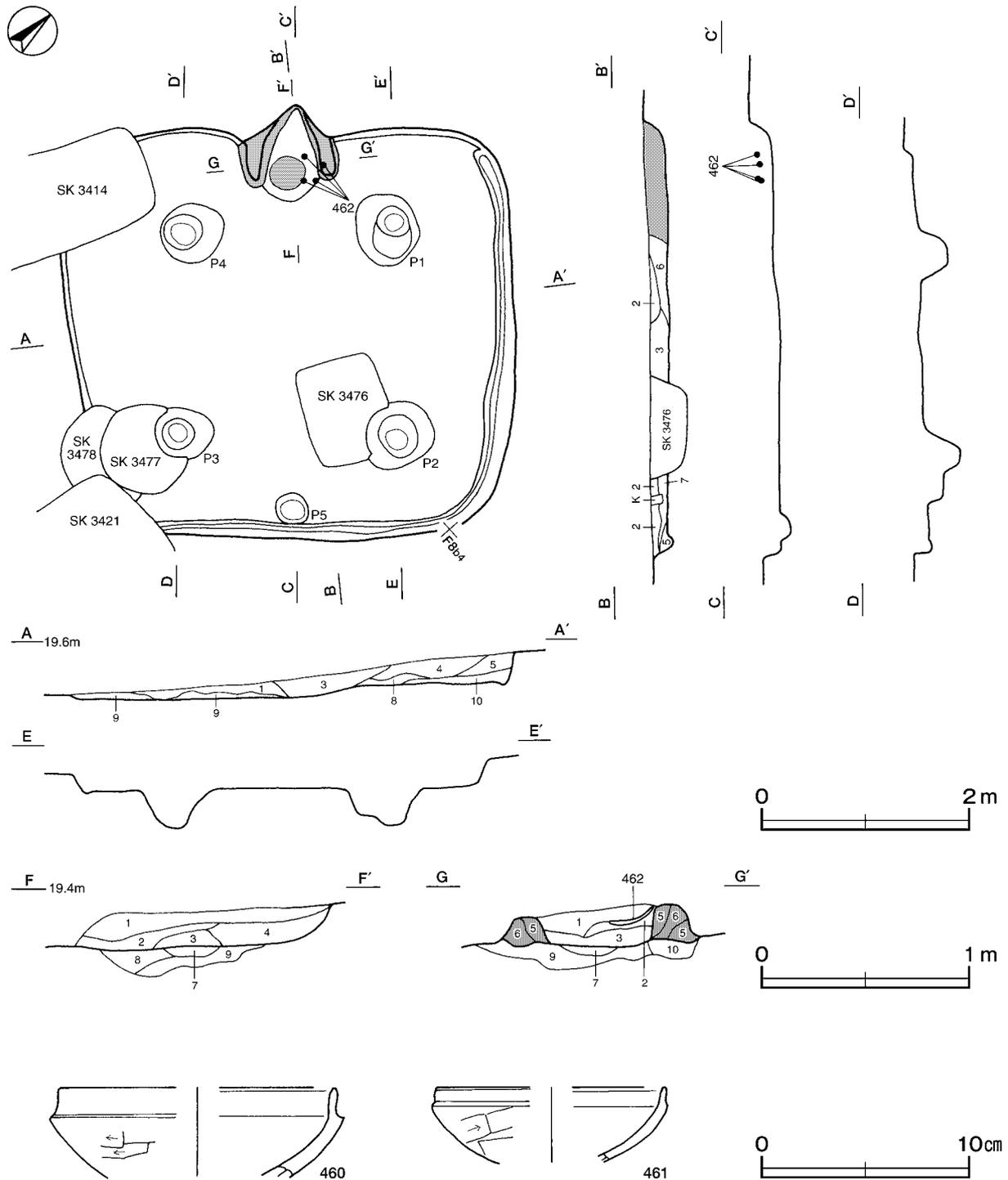
覆土 10層に分けられる。ロームブロックや粘土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

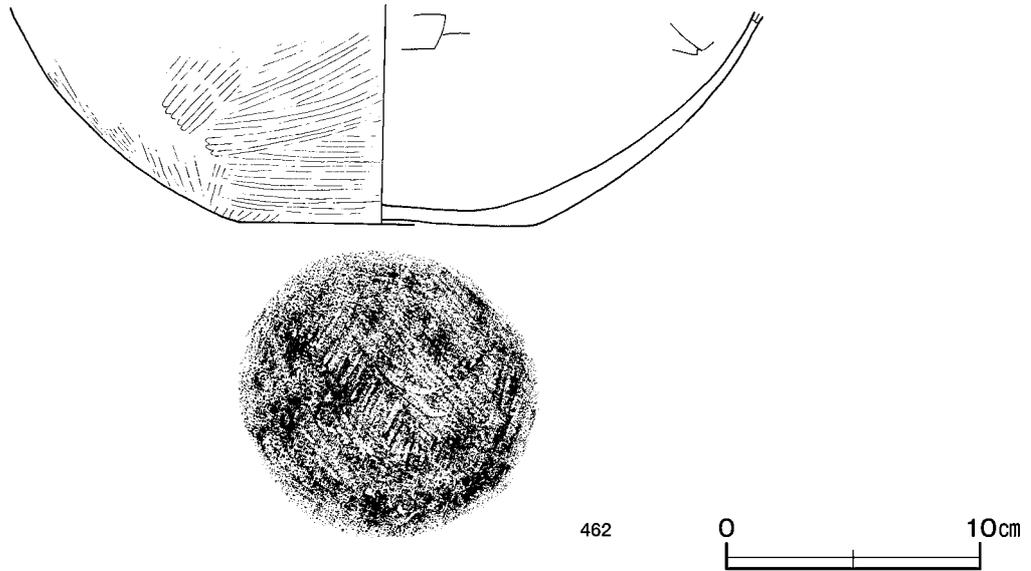
1 黒褐色 ロームブロック少量 粘土ブロック・焼土粒子微量	6 にぶい黄褐色 炭化物・砂粒少量，ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量	7 極暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色 砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物微量
4 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量	9 暗褐色 粘土ブロック中量，炭化粒子少量
5 暗褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量	10 極暗褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片297点（坏59，甕238）が東部を中心に出土している。462は竈の覆土中層から出土しており被熱痕が認められることから、本住居の竈で使用されていたと考えられる。460は南西部，461は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 主軸方向が西寄りで、当遺跡における古墳時代後期の住居としての調査例は少ない。10mほど北西に位置し、本跡と同様の主軸方向を示す第2440号住居との密接な関係が想定される。時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第266図 第2438号住居跡・出土遺物実測図



第267図 第2438号住居跡出土遺物実測図

第2438号住居跡出土遺物観察表（第266・267図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
460	土師器	坏	[13.2]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	10%
461	土師器	坏	[11.0]	(3.7)	-	雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈覆土中	10%
462	土師器	甕	-	(8.6)	11.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部ヘラ磨き	竈中層	15%

第2439号住居跡（第268図）

位置 調査区南西部のE 9 h2区、標高19.5mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第2437号住居、第431号掘立柱建物、第3458・3492・3551・3563号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部以外は床面が露出した状態で検出されており、南東部を第2437号住居に掘り込まれている。長軸5.92m、短軸5.14mの長方形で、主軸方向はN - 40° - Wと推定される。壁高は北東側で8～13cmであり、層厚が薄いため立ち上がりは不明である。

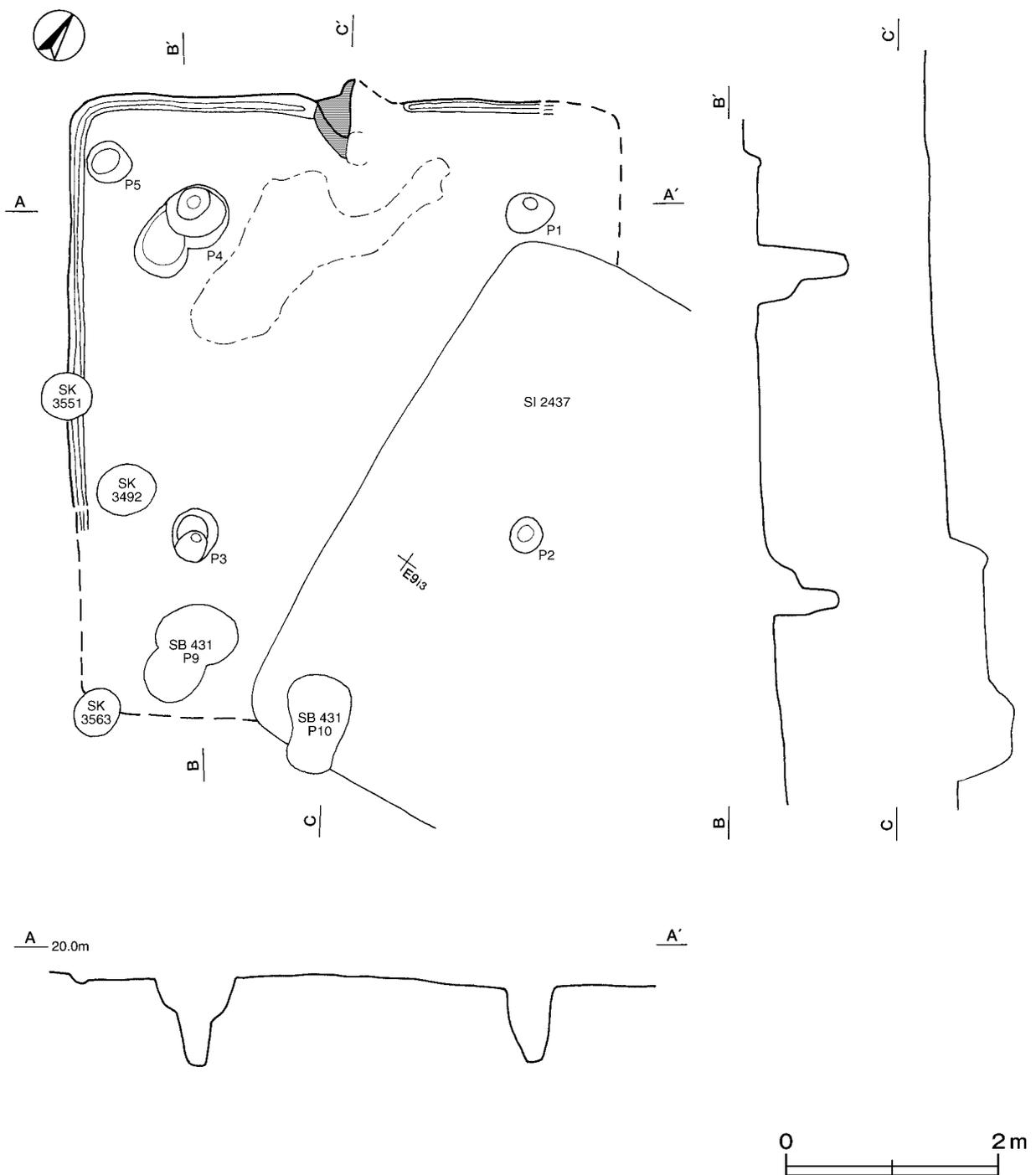
床 竈前部で硬化面が確認された。後世の削平を受けているため、北東部と南西部の床面の状態は不明である。遺存する壁下には、幅9～12cm、深さ3～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、左袖部と火床部、煙道部の一部だけが検出されている。確認された規模は、焚口部から煙道部まで82cm、左袖部幅32cmである。袖部はローム混じりの砂質粘土で構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さであるが、詳細については不明である。煙道部は壁外に21cm掘り込まれている状況だけが確認された。

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは44～85cmである。P5は深さ56cmで、北西コーナー部に位置しているが性格は不明である。

遺物出土状況 土師器片12点(坏6、高坏2、甕類4)が散在した状態で出土しており、いずれも細片である。

所見 時期は、重複関係や出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。



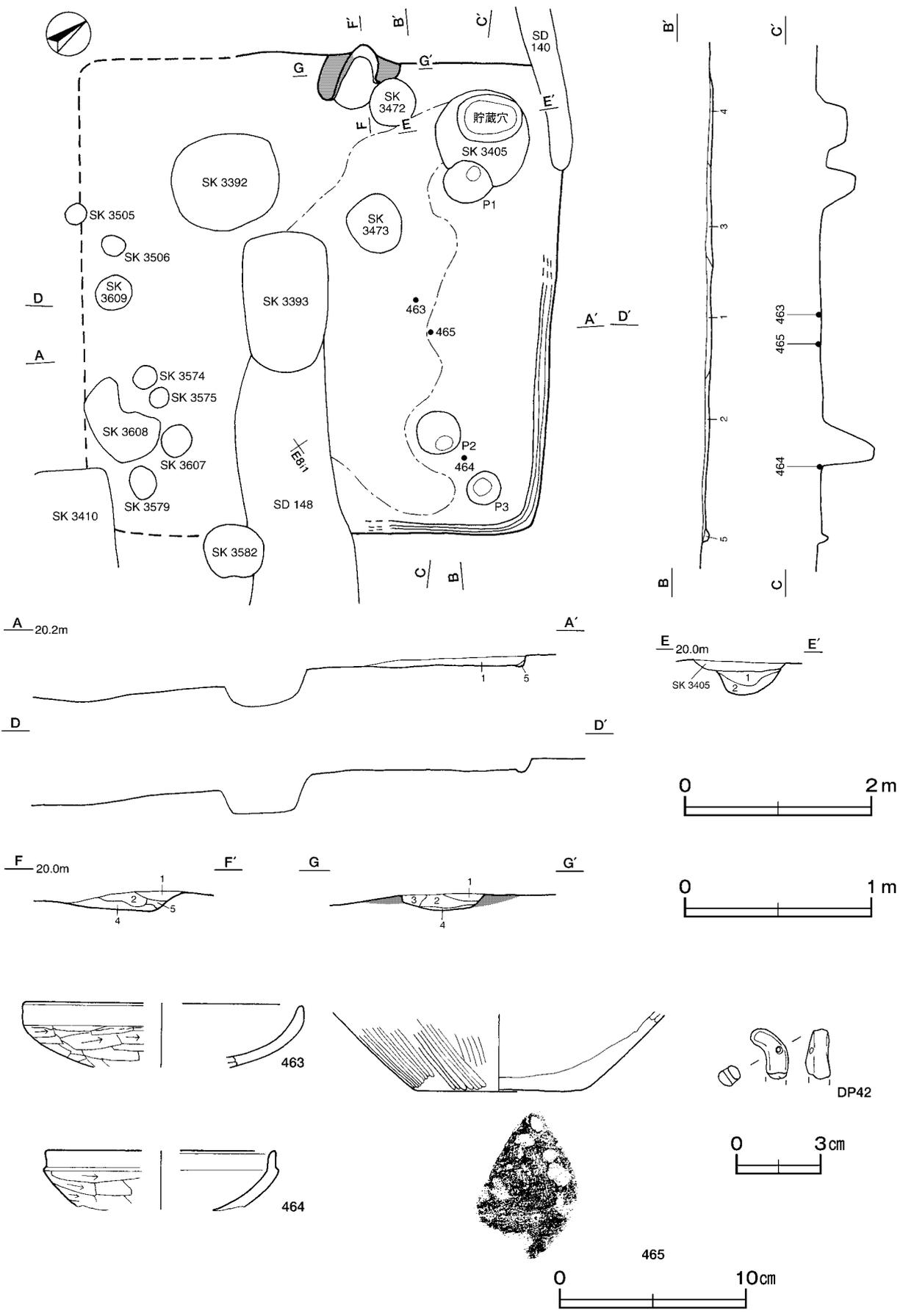
第268図 第2439号住居跡実測図

第2440号住居跡 (第269図)

位置 調査区南西部のE 7 h0区, 標高20.0mほどの南への緩斜面に位置している。

重複関係 第140・148号溝, 第3392・3393・3405・3410・3472・3473・3505・3506・3574・3575・3579・3582・3607~3609号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 中央部から南部の床面は削平された状態で検出されており, また, 多数の遺構に掘り込まれているため全体の規模は明確でない。東西軸5.06mだけが確認された。南北軸は5.00mほどで, 主軸方向はN - 52° - Wの方形と推定される。壁高は北西部で11cmであり, 層厚が薄いため立ち上がりは不明である。



第269图 第2440号住居跡・出土遺物実測図

床 遺存する部分はほぼ平坦で、竈前部から東部が踏み固められているが、中央部から南部の床面の状態は不明である。北東コーナー部の壁下からは、幅10～11cm、深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 西壁中央部に付設されている。第3472号土坑に掘り込まれているため、右袖端部は遺存していない。規模は、焚口部から煙道部まで71cm、袖部幅82cmであり、袖部はローム混じりの砂質粘土で構築している。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめて使用しているが、明確な火床面は確認されていない。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～5層に分けられ、各層に焼土ブロックや砂質粘土ブロックを含んでいる。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------|---|-----|--------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土粒子微量 | 4 | 暗褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 2 | 褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック少量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | | | |

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で、深さは38・58cmである。P3は深さ18cmで、北東コーナー部に位置しているが性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置しており、上部を第3405号土坑に掘り込まれている。長径72cm、短径54cmの楕円形で、深さは39cmである。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量

覆土 5層に分けられる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|---------------------|---|-----|-----------------|
| 1 | 極暗褐色 | 炭化物中量，ローム粒子少量 | 4 | 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 土師器片32点(坏8，甕類24)，土製品2点(勾玉)が散在した状態で出土している。463・465は北部，464は北東部の覆土下層からそれぞれ出土しているが、いずれも小片であり、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 主軸方向が西寄りであり、当遺跡における古墳時代後期の住居としての調査例は少ない。10mほど南東に位置し、本跡と同様の主軸方向を示す第2438号住居との密接な関係が想定される。時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第2440号住居跡出土遺物観察表(第269図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
463	土師器	坏	[14.8]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 輪 種痕 内面ナデ	下層	10%
464	土師器	坏	[12.2]	(3.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	下層	10%
465	土師器	甕	-	(4.4)	9.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ磨き	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP42	勾玉	(1.8)	1.3	0.6	(1.3)	土(長石・石英)	ナデ 二方向からの穿孔	覆土中	PL79

第2441号住居跡 (第270・271図)

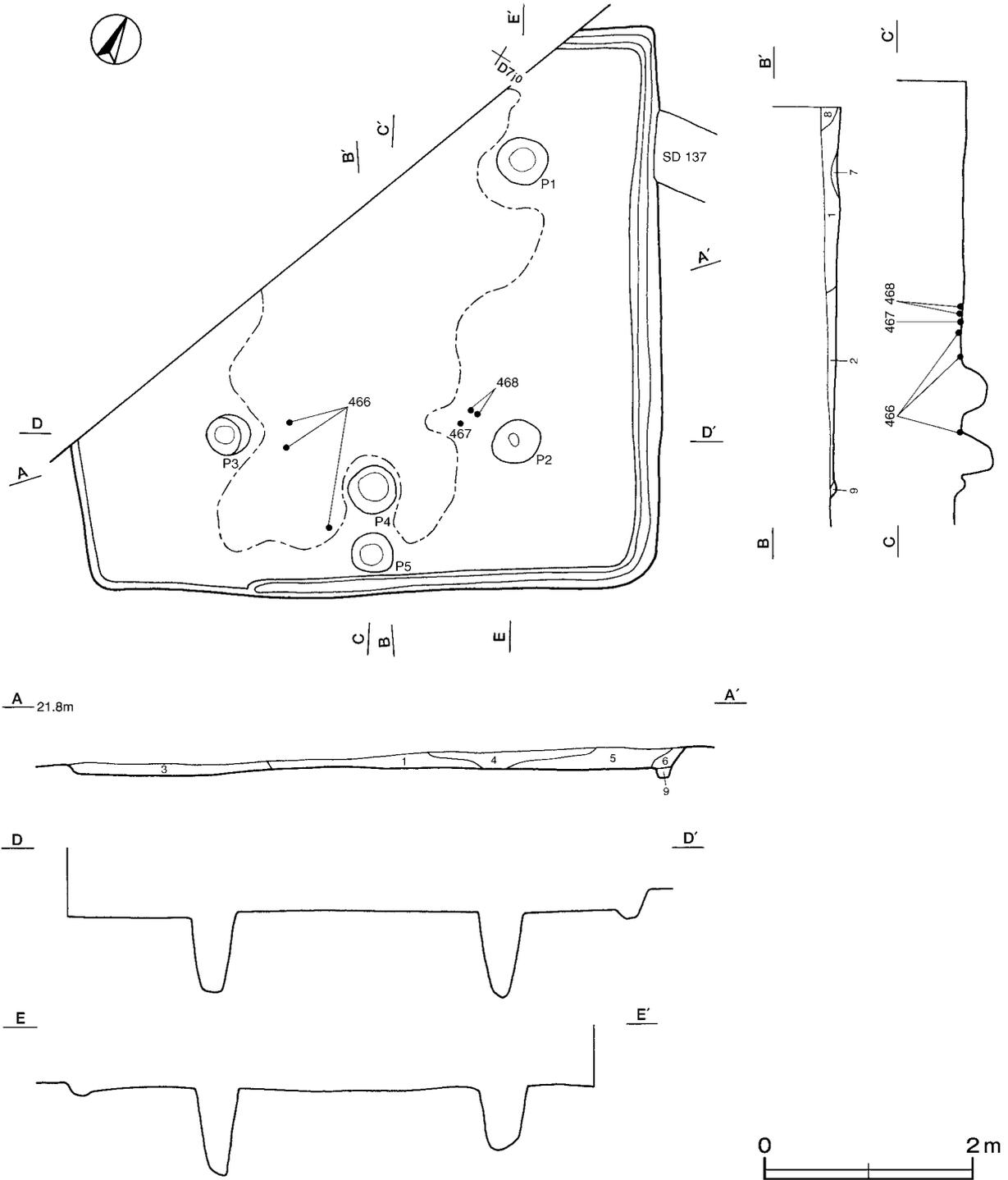
位置 調査区南西部のD7j0区, 標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第137号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西部は調査区域外である。長軸5.62m, 短軸5.41mの方形で, 主軸方向はN - 33° - Wである。

壁高は8~28cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部から南壁際まで踏み固められている。南西コーナー部を除く壁下には, 幅13~19cm, 深さ4~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第270図 第2441号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P3は主柱穴で、深さは57～82cmである。P4は深さ25cm、P5は深さ32cmで、ともに南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

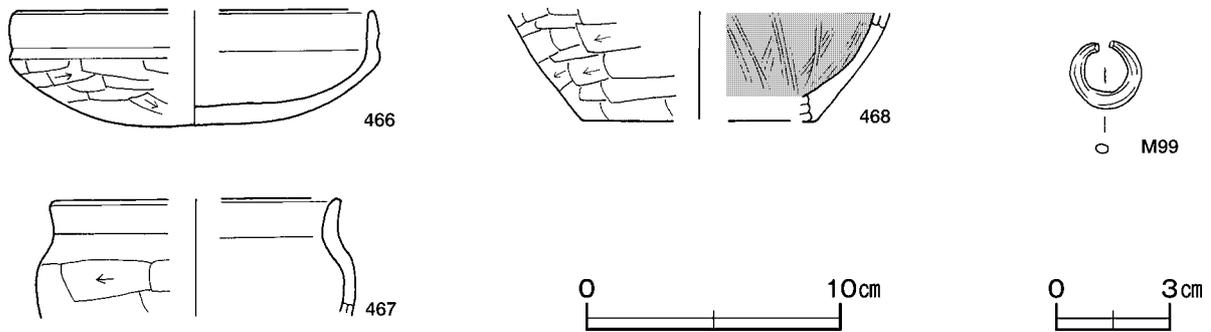
覆土 9層に分けられる。各層にロームブロックや炭化物を含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 6 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 炭化物中量、ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量 | 8 黒色 ロームブロック微量 |
| 4 黒色 ロームブロック・炭化物少量 | 9 褐色 ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片42点（坏20，椀5，鉢4，甕類12，甑1），銅製品1点（耳環）が散在した状態で出土している。466は南部の床面，467は南部の覆土下層からそれぞれ出土しているが、いずれも小片を接合したものであり、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。また，M99は西部の覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第271図 第2441号住居跡出土遺物実測図

第2441号住居跡出土遺物観察表（第271図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
466	土師器	坏	[14.2]	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	60% PL74
467	土師器	鉢	[11.2]	(4.7)	-	長石・雲母	暗黄灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	下層	10%
468	土師器	鉢	-	(4.3)	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラ磨き	下層	10%

番号	器種	最小径	最大径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M99	耳環	1.7	1.8	0.3	3.9	銅	断面楕円形	覆土中	PL80

表26 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2400	C 9 b1	N - 22° - W	方形	5.35×5.02	24～39	平坦	全周	3	1	-	竈1	-	自然	土師器片，須恵器片，鉄鏃，鎌	7世紀前葉
2403	C 9 j1	N - 22° - W	[方形・長方形]	(3.46×2.41)	36～39	平坦	一部	1	-	-	竈1	-	人為	土師器片，支脚，小玉	7世紀前葉以前
2405	D 9 b1	N - 58° - W	[方形・長方形]	(4.24×2.38)	19	平坦	一部	1	-	-	竈1	-	人為	土師器片，支脚，鉄滓	7世紀中葉以前
2409	D 8 b9	N - 35° - W	[方形]	5.47×(5.45)	20～32	平坦	[全周]	4	1	-	-	-	自然・人為	土師器片，刀子，鉄鏃，鎌，鉄滓	7世紀前葉以前
2411	C 8 f0	N - 17° - W	方形	9.04×8.96	34～43	平坦	[全周]	4	2	2	竈1	1	自然・人為	土師器片，支脚，土製勾玉，釘，鉄滓	6世紀後葉
2414	D 8 d7	N - 26° - W	方形	5.14×5.01	29～34	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器片	6世紀後葉以前
2416	D 8 e5	N - 38° - W	方形	4.75×4.68	24～29	平坦	全周	4	2	-	竈1	1	人為	土師器片，管玉，白玉	7世紀前葉以前

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2417	C 8 d7	N - 19 ° - W	[方形・長方形]	(2.85×2.14)	31~36	平坦	一部	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 刀子	古墳時代後期
2418	D 8 h7	N - 10 ° - W	長方形	3.21×2.88	12~34	平坦	全周	3	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 釘, 鉄滓	7世紀後葉以前
2419	D 8 i7	N - 25 ° - W	方形	9.36×9.18	14~20	平坦	全周	4	2	-	-	1	人為	土師器片, 丸玉, 白玉, 鉄滓	6世紀後葉
2420	D 8 g0	N - 23 ° - W	方形	5.53×5.42	6~19	平坦	半周	4	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 支脚, 鉄滓	7世紀中葉
2421	D 8 h0	N - 13 ° - W	方形	8.04×(7.60)	18~27	平坦	[全周]	4	2	1	竈1	1	人為	土師器片, 支脚, 土玉, 球状土錘	6世紀中葉
2422	D 9 h1	N - 18 ° - W	[方形・長方形]	5.94×(2.02)	18~29	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器片, 土製 耳環	6世紀後葉 ~ 7世紀前葉
2423	D 8 b6	N - 35 ° - W	[方形・長方形]	(4.50×3.88)	46~56	平坦	一部	1	2	-	-	-	人為	土師器片, 土玉, 白玉	6世紀中葉
2425	E 8 a2	N - 32 ° - W	方形	5.72×5.42	2~16	平坦	全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器片, 支脚	7世紀前葉
2426	D 8 f1	N - 33 ° - W	[方形・長方形]	(3.02×2.58)	12~20	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為	土師器片	古墳時代後期
2427	E 9 b0	N - 41 ° - W	長方形	5.28×4.76	10~22	平坦	全周	4	1	-	-	1	人為	土師器片, 須恵 器片, 刀子	7世紀前半
2429	D 9 d1	N - 5 ° - W	[方形・長方形]	(2.84×0.84)	22~36	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器片, 釘	古墳時代後期
2430	E 8 d5	N - 1 ° - E	[長方形]	[4.90×4.40]	-	平坦	-	-	1	-	竈1	-	-	土師器片, 砥石	古墳時代後期
2431	E 8 d0	N - 18 ° - W	方形	4.18×3.88	-	平坦	-	3	1	1	-	-	不明	土師器片	古墳時代後期
2432	D 8 i4	N - 32 ° - W	方形	6.90×6.11	8~18	平坦	全周	4	1	-	炉1	1	人為	土師器片, 砥石	4世紀後半
2433	E 8 c5	N - 2 ° - E	[長方形]	[4.00×3.60]	-	平坦	-	4	1	-	竈1	-	-	土師器片	古墳時代後期
2434	E 7 c9	N - 38 ° - W	[方形]	[4.65]×(4.58)	5	平坦	[全周]	3	1	-	竈1	-	-	土師器片	古墳時代後期
2435	E 8 j6	N - 29 ° - W	方形	6.19×6.12	9~20	平坦	[全周]	4	2	2	竈2	2	不明	土師器片, 須恵 器片	6世紀後葉
2438	F 8 b3	N - 47 ° - W	方形	4.31×3.96	6~26	平坦	半周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片	6世紀後葉 ~ 7世紀前葉
2439	E 9 h2	[N - 40 ° - W]	[長方形]	[5.92×5.14]	8~13	平坦	(半周)	4	-	1	竈1	-	-	土師器片	7世紀前葉以前
2440	E 7 h0	[N - 52 ° - W]	[方形]	(5.06)×5.00	11	平坦	一部	2	-	1	竈1	1	不明	土師器片, 土製 勾玉	6世紀後葉 ~ 7世紀前葉
2441	D 7 j0	N - 33 ° - W	方形	5.62×5.41	8~28	平坦	半周	3	2	-	-	-	人為	土師器片, 耳環	6世紀後葉

2 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の住居跡9軒，掘立柱建物跡4棟を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2404号住居跡（第272・273図）

位置 調査区北部のC 8 i0区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.45m，短軸3.41mの方形で，主軸方向はN - 6 ° - Eである。壁高は24~30cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，竈前部から中央部が踏み固められている。壁下には，幅12~15cm，深さ4~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

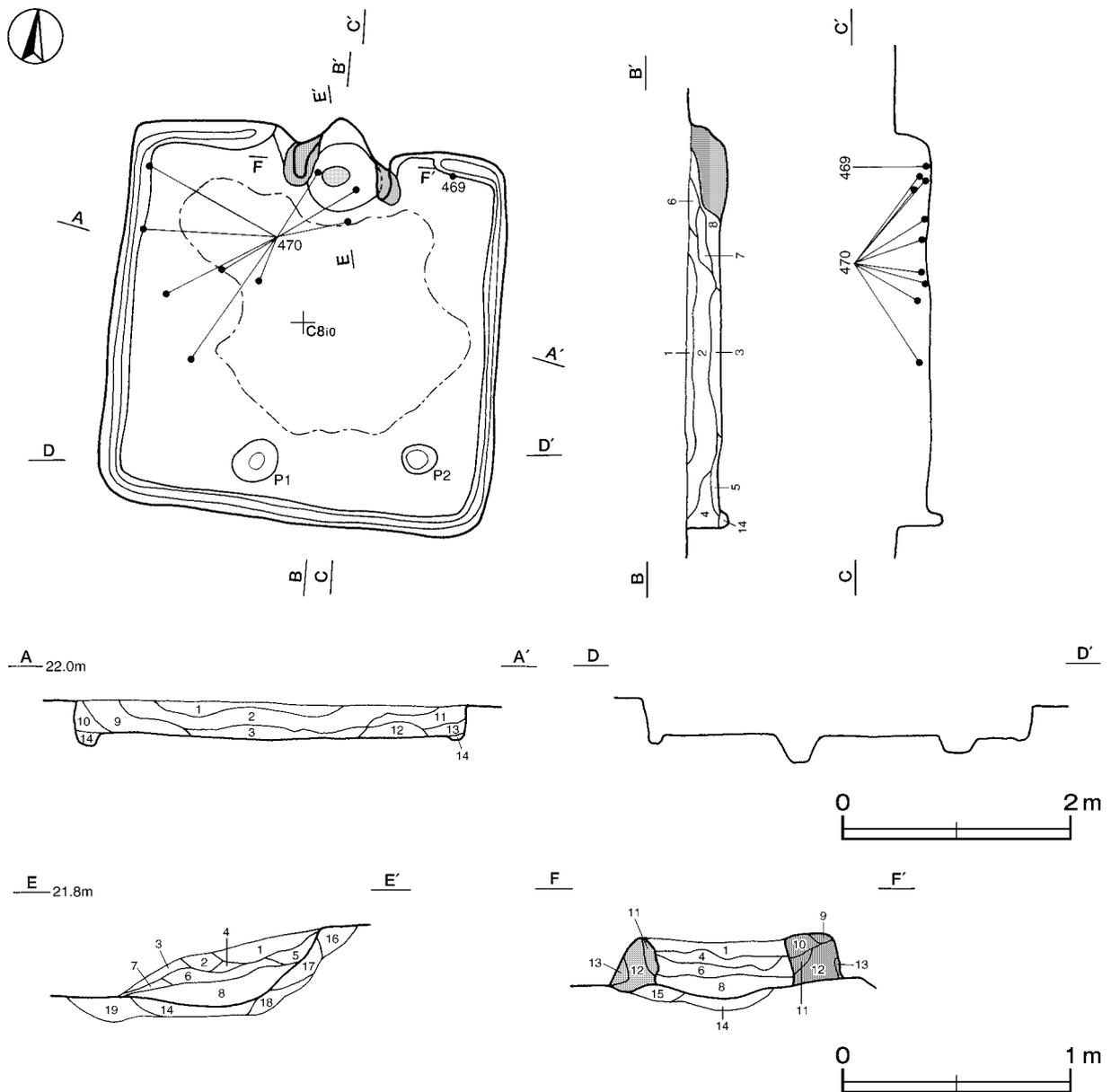
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで82cm，袖部幅105cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を主体とした第9~13層を積み上げて構築しており，内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめ，ローム土を主体とした第14層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に17cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

覆土は第1~8層に分けられ，人為堆積の状況を示している。竈覆土下層から出土した土師器甕の破片と北西部から出土した破片が接合していることから，住居の廃絶に伴って壊されたと考えられる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 | 10 褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 砂質粘土粒子中量 |
| 4 極暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 12 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 14 極暗赤褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 極暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| | | 17 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| | | 18 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | | 19 暗褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 2か所。P1は深さ24cmで、南壁際に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ15cmで、南東コーナー部に位置しているが性格は不明である。



第272図 第2404号住居跡実測図

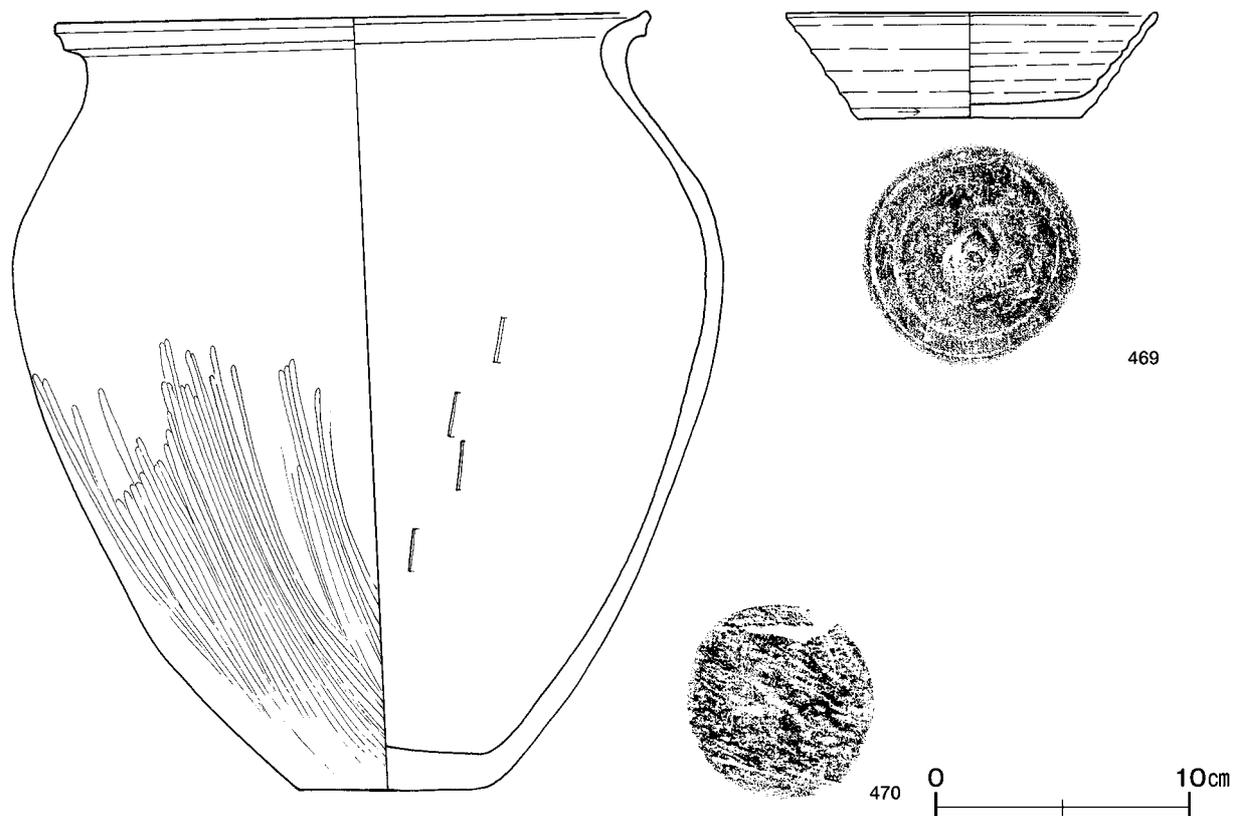
覆土 14層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 極暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量,ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量,炭化物少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量,炭化粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 6 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量,炭化粒子少量 |
| 7 極暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片223点(甕類),須恵器片20点(坏9,蓋4,甕類7),土製品2点(支脚)が北西部を中心に出土しており,出土土器はいずれも細片である。また,混入した土師器片24点も出土している。470は,北西部の覆土中・下層から出土した破片と,竈の覆土下層から出土した破片が接合したものであり,469は北部壁際の覆土下層から出土している。ともに住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は,出土土器から8世紀中葉以前と考えられる。



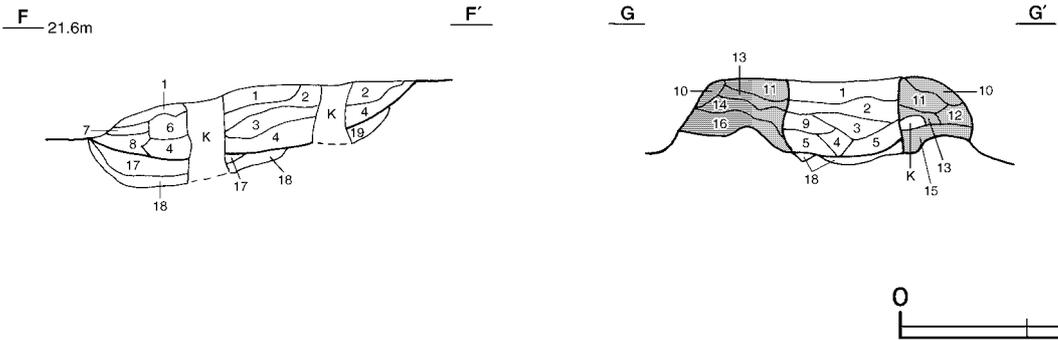
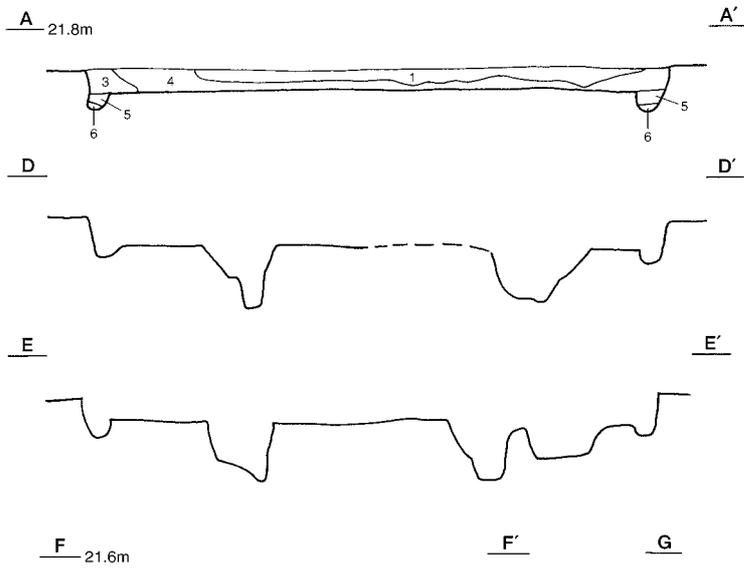
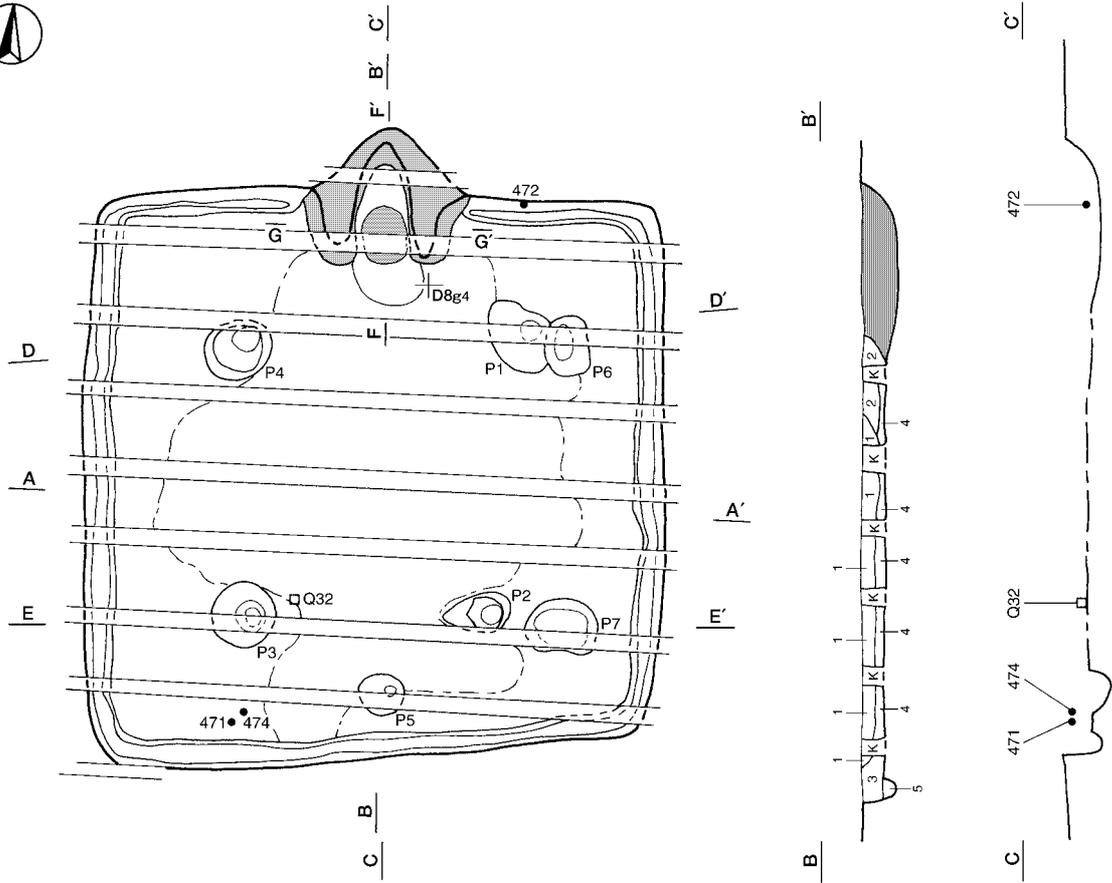
第273図 第2404号住居跡出土遺物実測図

第2404号住居跡出土遺物観察表(第273図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
469	須恵器	坏	14.7	4.2	8.8	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 後一方向のヘ削り	下層	85% PL78
470	土師器	甕	23.4	31.0	7.4	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内 面ヘラナデ 底部ヘラ磨き	中・下層	80% PL78

第2406号住居跡(第274・275図)

位置 調査区中央部のD8g3区,標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第274图 第2406号住居跡実测图

規模と形状 長軸4.58m，短軸4.54mの方形で，主軸方向はN - 2 ° - Eである。壁高は18~24cmで，ほぼ直立している。

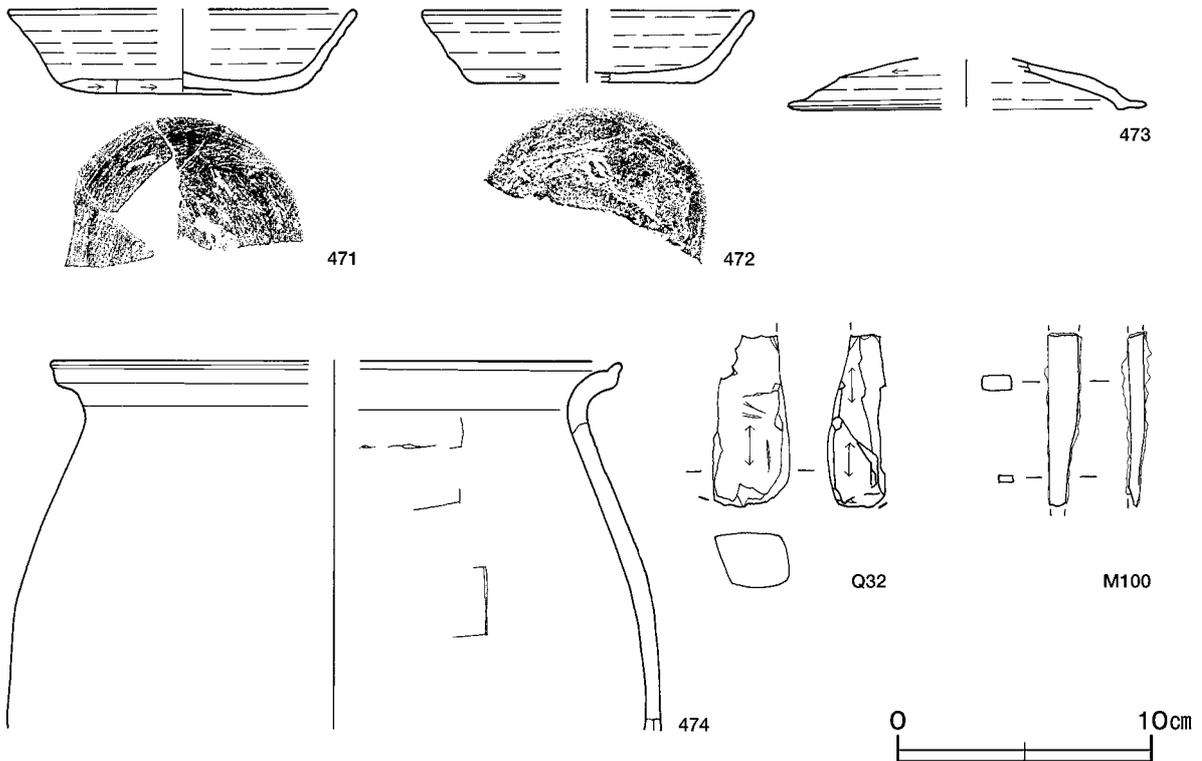
床 ほぼ平坦で，竈前部から南壁際まで踏み固められている。壁下には，幅15~22cm，深さ7~13cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており，耕作による攪乱で袖部と火床部の一部が壊されている。規模は，焚口部から煙道部まで131cm，袖部幅128cmである。袖部は地山のロームを掘り残して基部とし，その上部に砂質粘土を主体とした第10~16層を積み上げて構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ，ローム土を主体とした第17・18層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に41cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1~9層に分けられ，第1~3・6・7層は袖部および天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量 | 11 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量 | 12 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 | 13 赤褐色 | 焼土粒子多量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，炭化物少量 | 14 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子少量 | 15 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子・灰中量，ローム粒子少量 | 16 にぶい赤褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 8 極暗褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 | 18 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・灰少量 | 19 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 10 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 7か所。P1~P4は支柱穴で，深さは42~55cmである。P5は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ25cm，P7は深さ30cmで，ともに支柱穴に隣接していることから補助的な支柱穴と考えられる。



第275図 第2406号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	4 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量
2 褐色	ロームブロック多量, 炭化物少量	5 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量
3 褐色	ロームブロック多量	6 褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片297点(坏31, 椀2, 甕類264), 須恵器片31点(坏13, 蓋8, 甕類10), 土製品4点(支脚), 石器1点(砥石), 鉄製品2点(刀子, 鑿カ)が散在した状態で出土しており, 出土土器はいずれも細片である。471・474は南西部の覆土中層, 472は北壁際の覆土下層, Q32は南西部の床面からそれぞれ出土しており, いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉以前と考えられる。

第2406号住居跡出土遺物観察表(第275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
471	須恵器	坏	[13.6]	3.3	9.0	長石・石英・雲母・白色粒子	灰黄褐	普通	体部外面下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 後多方向のヘラ削り	中層	40%
472	須恵器	坏	[13.1]	2.9	[8.9]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 後一方向のヘラ削り	下層	40%
473	須恵器	蓋	[14.2]	(2.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
474	土師器	甕	[22.4]	(14.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ 輪積痕	中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	砥石	(6.8)	(3.0)	(2.3)	(44.3)	凝灰岩	砥面2面 他は破断面	床面	PL79

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M100	鑿カ	(7.0)	1.1	0.6	(18.4)	鉄	刃部欠損 断面長方形 茎尻部が細る	覆土中	

第2407号住居跡(第276・277図)

位置 調査区中央部のD8a7区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3330号土坑を掘り込み, 第3322・3323・3325号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.66m, 短軸3.37mの方形で, 主軸方向はN-3°-Wである。壁高は57~60cmで, 外傾して立ち上がっている。

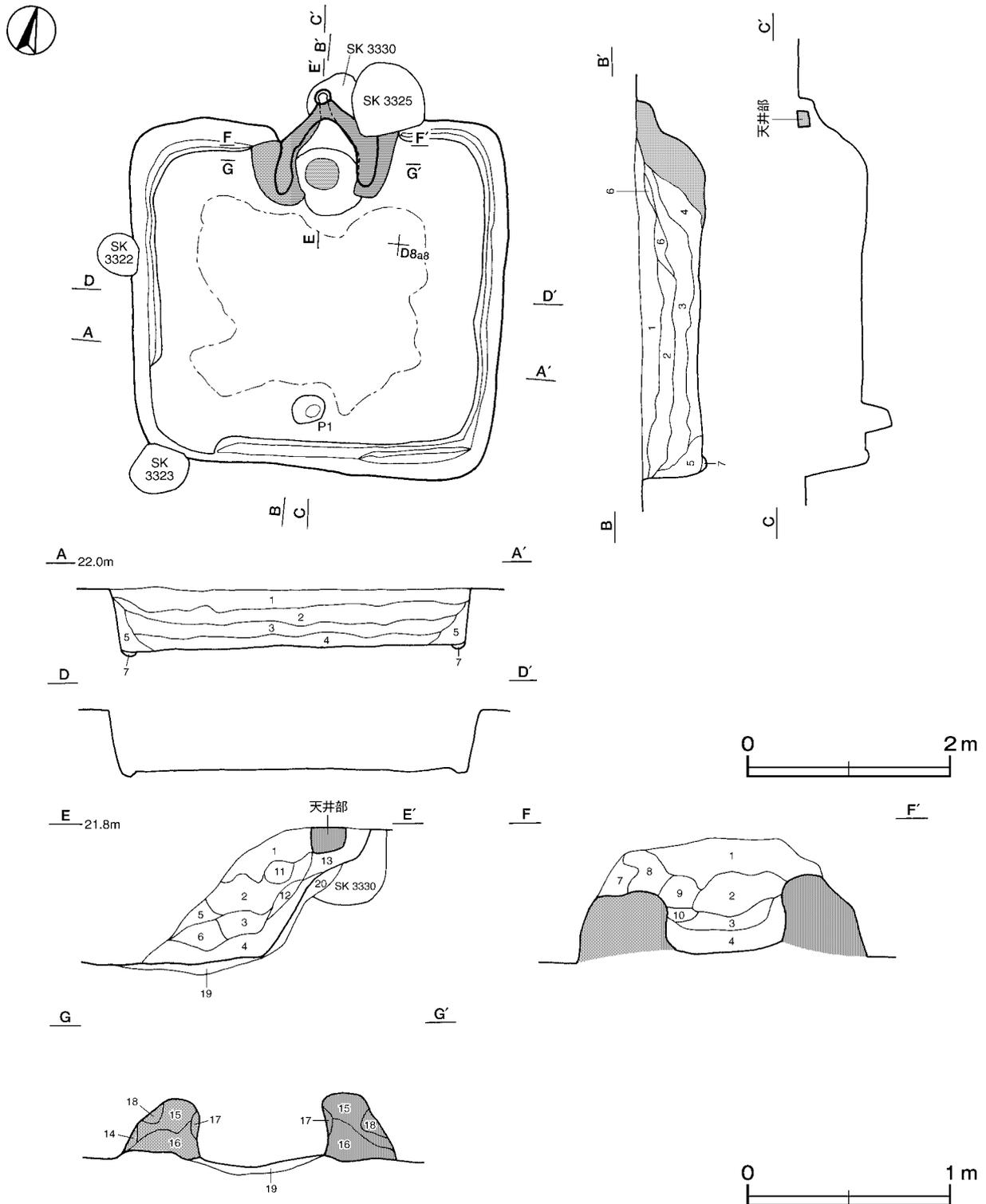
床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。南西コーナー部を除く壁下には, 幅14~16cm, 深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで124cm, 袖部幅139cmで, 天井部が一部遺存している。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に, 砂質粘土を主体とした第14~18層を積み上げて構築しており, 内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さであり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ, 火床部から急な傾斜で立ち上がっている。また, 煙道部の奥壁には, 砂質粘土を主体とした第20層を貼り付けて補強している。覆土は第1~13層に分けられ, 第2~6・9~12層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。天井部の崩落土が火床部と直に接していることから, 住居の廃絶に伴って壊されたものと考えられる。

竈土層解説

1 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量	3 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
2 にぶい褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量		

- | | | | |
|------------|---------------------------------|------------|----------------------------------|
| 4 暗 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック多量，ローム粒子中量，炭化物少量 | 12 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 褐 色 | ローム粒子多量 | 13 暗 褐 色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 6 暗 赤 褐 色 | 砂質粘土粒子多量 焼土ブロック・ローム粒子中量 | 14 暗 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 7 褐 色 | ロームブロック多量 | 15 灰 黄 褐 色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 8 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 16 灰 黄 褐 色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量 |
| 9 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量 | 17 赤 褐 色 | 焼土粒子多量 |
| 10 黒 褐 色 | 焼土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子微量 | 18 極 暗 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 11 灰 黄 褐 色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量 | 19 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック多量，ロームブロック中量 |
| | | 20 極 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量，
焼土粒子微量 |



第276図 第2407号住居跡実測図

ピット 深さ29cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

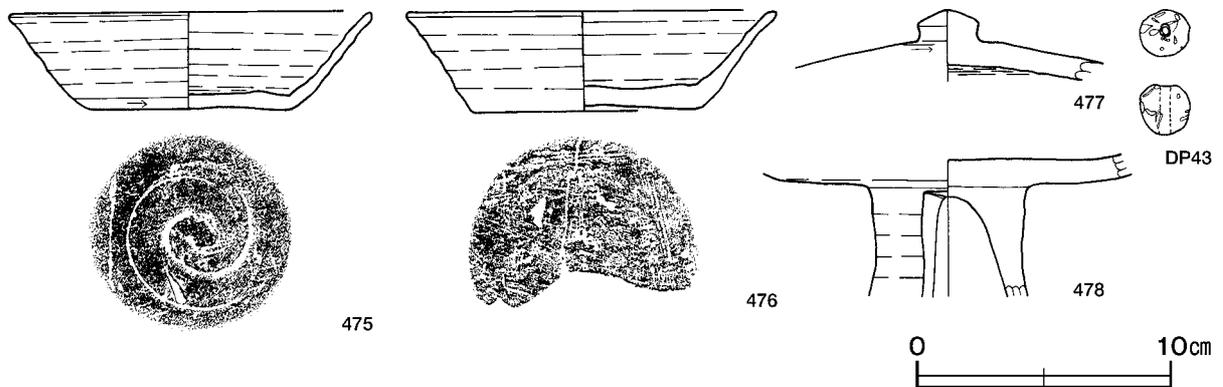
覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物少量 | 6 極暗赤褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量 | 7 褐色 ローム粒子多量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 土師器片163点（甕類），須恵器片34点（坏24，蓋5，高盤1，甕類4），土製品2点（支脚，球状土錘）が、覆土上層を中心に散在した状態で出土している。475・476・478は北東部，477は北西部，DP43は南東部の覆土中からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉以前と考えられる。



第277図 第2407号住居跡出土遺物実測図

第2407号住居跡出土遺物観察表（第277図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
475	須恵器	坏	14.2	3.9	7.9	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向のヘラ削り	覆土中	95% PL78
476	須恵器	坏	14.5	4.0	9.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	覆土中	70%
477	須恵器	蓋	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
478	須恵器	高盤	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部に透かし有り	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP43	球状土錘	2.0	2.1	0.4	6.0	土(長石・石英・雲母)	あらいナデ 二方向からの穿孔	覆土中	PL80

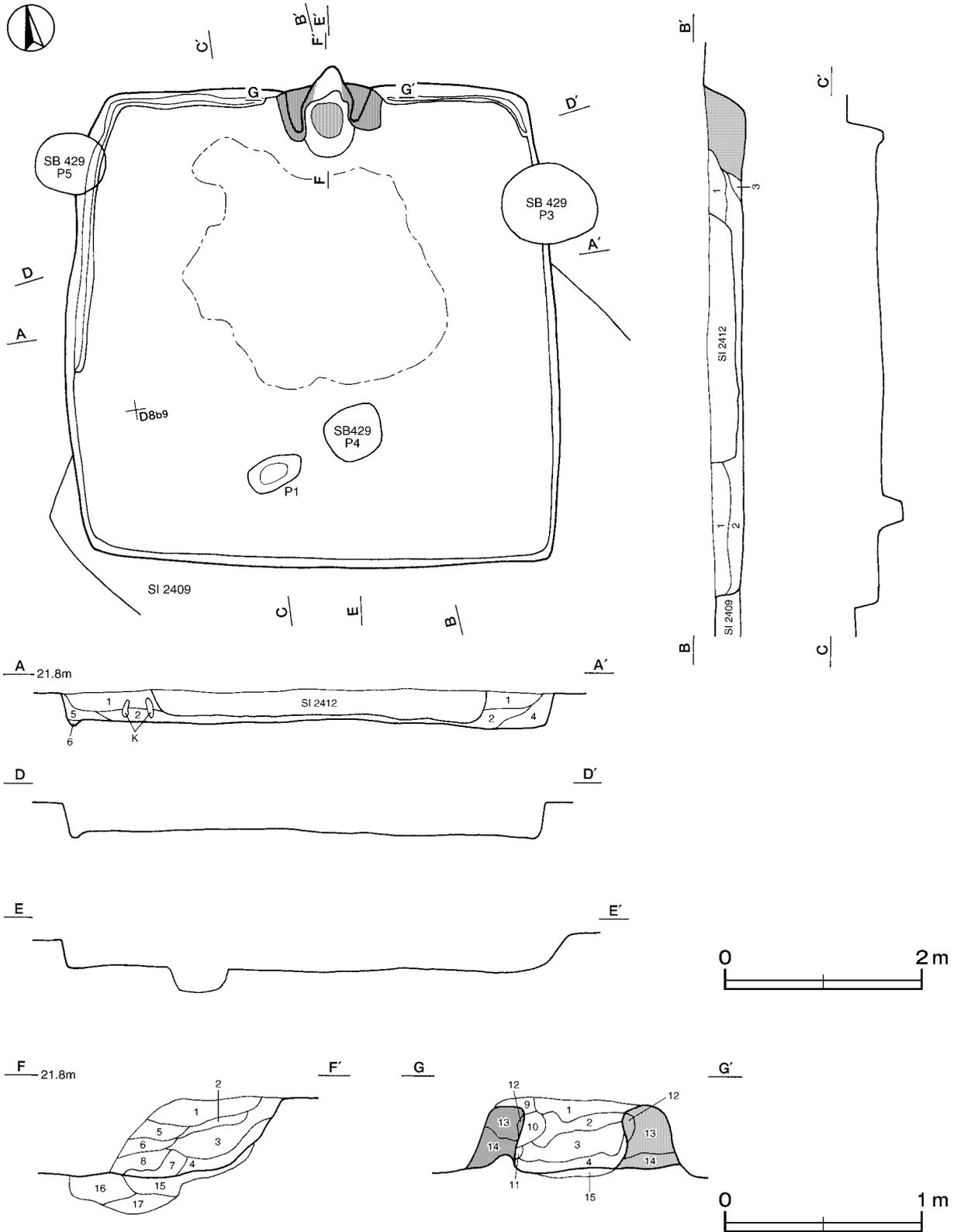
第2408号住居跡（第278・279図）

位置 調査区中央部のD8 a9区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2409号住居跡を掘り込み，第2412号住居，第429号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.91m，短軸4.86mの方形で，主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は30～39cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北部および北西部の壁下には，幅8～14cm，深さ3～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。



第278図 第2408号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで94cm，袖部幅105cmである。袖部は地山のロームをやや高く掘り残し，その上部にローム土を主体とした第14層と砂質粘土を主体とする第13層を積み上げて構築している。また，内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめ，第15～17層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に39cm掘り込まれ，火床部が

ら外傾して立ち上がっている。覆土は第1～11層に分けられ、第2・3・10・11層は、袖部および天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 9 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子少量 | 10 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 13 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物・ローム粒子少量 | 14 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 15 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | | 16 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| | | 17 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 深さ24cmで、南部に位置しているが性格は不明である。

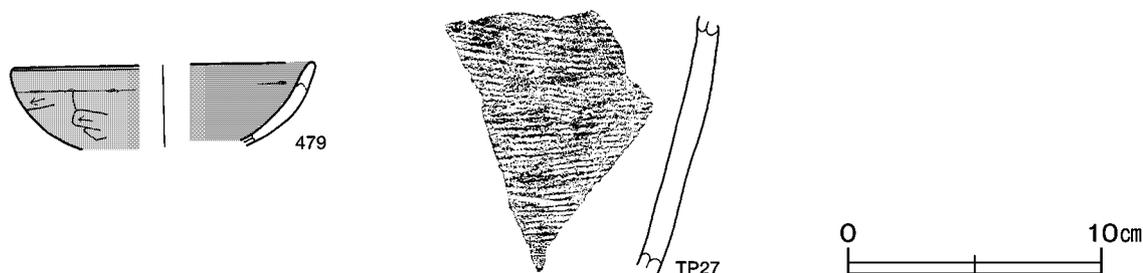
覆土 6層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片331点(坏63, 甕類268), 須恵器片18点(坏10, 蓋1, 甕類7), 鉄製品1点(不明)が、覆土上・中層を中心に散在した状態で出土しており、出土土器はいずれも細片である。479は南西部の覆土中, TP27は竈の覆土中からそれぞれ出土しており、いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器および重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。



第279図 第2408号住居跡出土遺物実測図

第2408号住居跡出土遺物観察表(第279図)

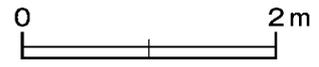
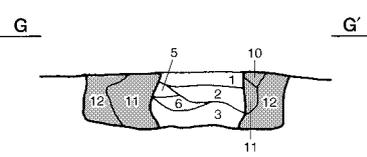
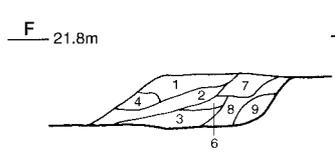
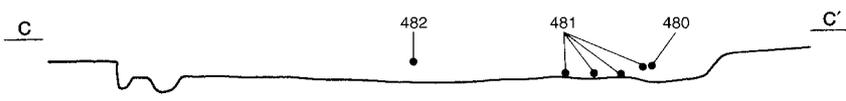
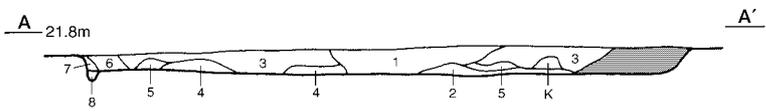
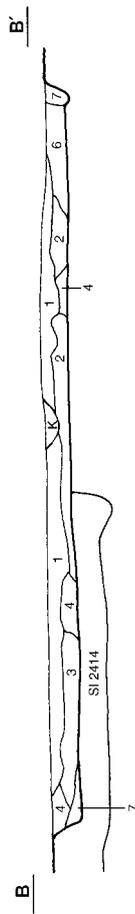
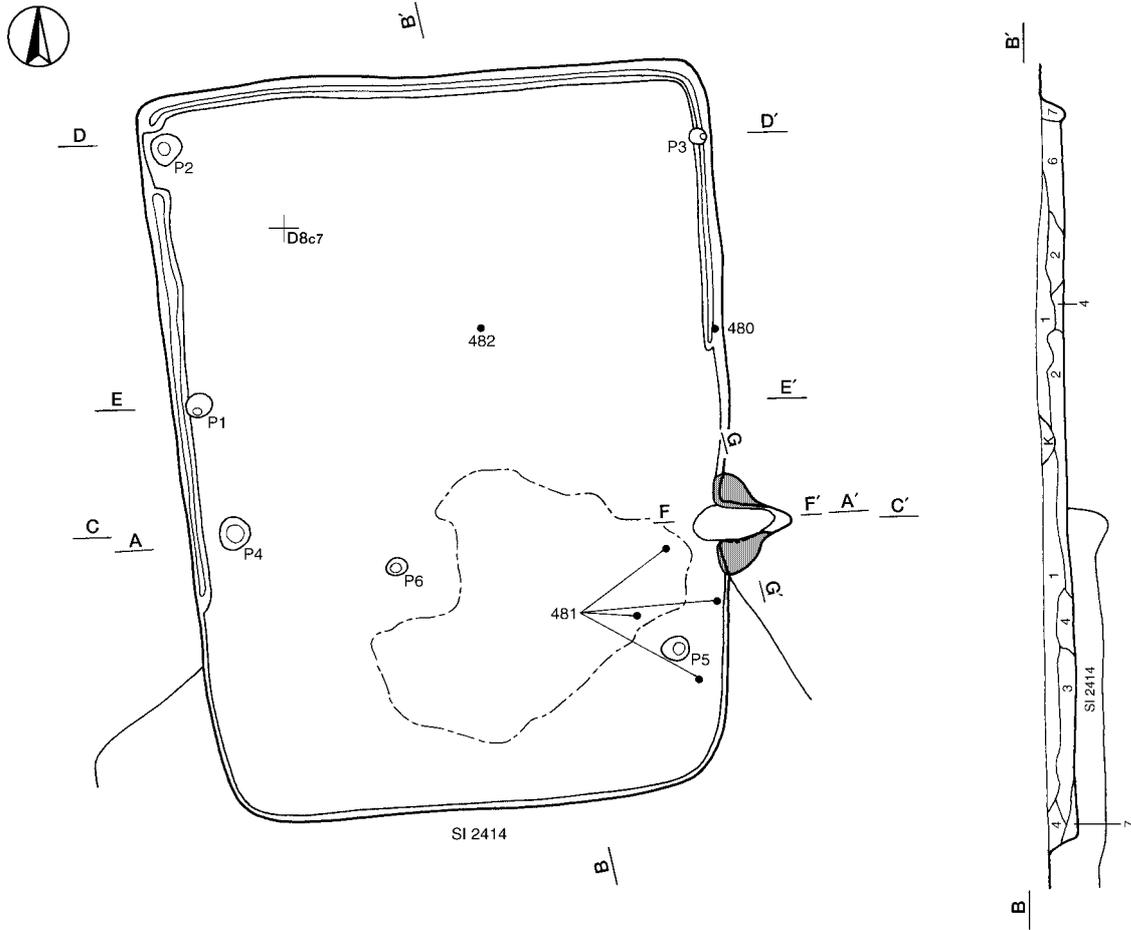
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
479	土師器	坏	[11.8]	(3.2)	-	雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 積痕 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ 輪積痕	覆土中	10%
TP27	須恵器	甕	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰色	普通	体部外面横位の平行叩き 内面ナデ	竈覆土中	

第2413号住居跡(第280・281図)

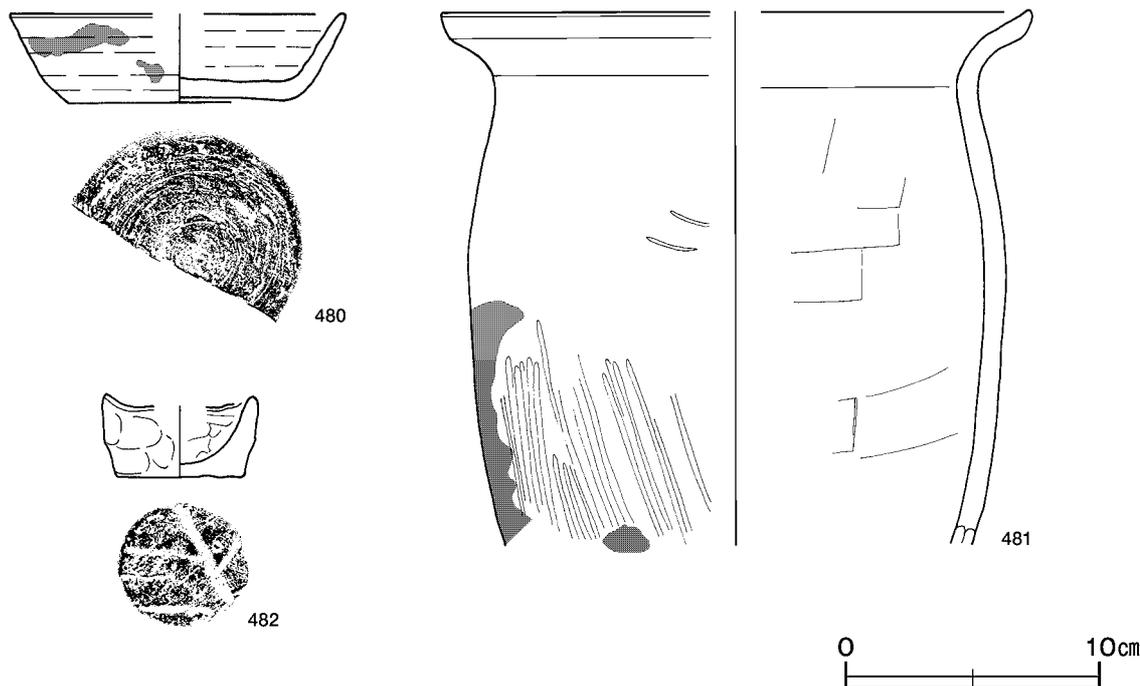
位置 調査区中央部のD8c7区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2414号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.82m, 短軸4.34mの長方形で、主軸方向はN-85°-Eである。壁高は15~19cmで、外傾して立ち上がっている。



第280图 第2413号住居跡実測图



第281図 第2413号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、南東部が踏み固められている。北壁下および東・西壁下の一部には、U字状の断面を呈する壁溝が存在しており、規模は、西壁下で幅13cm、深さ9cmである。

竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで76cmであり、住居内部への袖の張り出しは確認されていない。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けてやや赤変している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。覆土は第1～9層に分けられ、第5～7層は、天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 3 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量 | 10 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 11 極暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | |
| 7 褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量 | |

ピット 6か所。いずれのピットも性格不明であるが、P1～P3は深さ22～23cmで、いずれも壁際に位置していることから、壁柱穴の可能性が考えられる。また、P4は深さ23cmで、西壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットの可能性が考えられる。P5・6の性格は不明である。

覆土 8層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 6 にぶい褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック・焼土粒子少量 | 7 褐色 ローム粒子多量 |
| 4 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片263点（甕類262，手捏土器1），須恵器片10点（坏6，甕類4），鉄製品1点（釘）が散在した状態で出土しており、出土土器はいずれも細片である。480は東壁際の覆土中層，482は中央部北寄りの覆土上層からそれぞれ出土しており，481は南東部の覆土中・下層から出土した破片が接合したものである。いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 南北に長い住居形態である。時期は、出土土器から8世紀中葉以前と考えられる。

第2413号住居跡出土遺物観察表（第281図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
480	須恵器	坏	[13.2]	3.9	8.8	長石・石英・雲母	浅黄	普通	底部回転ヘラ削り	中層	50% 外面煤付着
481	土師器	甕	[23.2]	(21.2)	-	長石・石英・雲母・微礫	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	中・下層	20% 外面煤付着
482	土師器	手捏土器	[5.8]	3.3	5.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 指頭痕 内面ナデ 底部木葉痕	上層	70% PL71

第2415号住居跡（第282・283図）

位置 調査区中央部のD 8 e6 区、標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2414・2416号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.14m、短軸4.94mの方形で、主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は20～34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10～17cm、深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで97cm、袖部幅109cmである。袖部は床面を5～10cmほど掘りくぼめて第13層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第8～10層で構築している。また、内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて第11～14層を充填し、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に29cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～7層に分けられ、第4・5層は天井部の崩落土層、第7層は袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量,焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
2 にぶい赤褐色	炭化粒子少量,ロームブロック・焼土ブロック微量	9 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量,炭化物少量
3 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	10 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量,炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量,炭化粒子・砂質粘土粒子・灰少量,ローム粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量,炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子多量,焼土ブロック少量
6 暗赤褐色	焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子中量,砂質粘土粒子少量
7 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化物・ローム粒子微量	14 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは52～89cmである。P5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

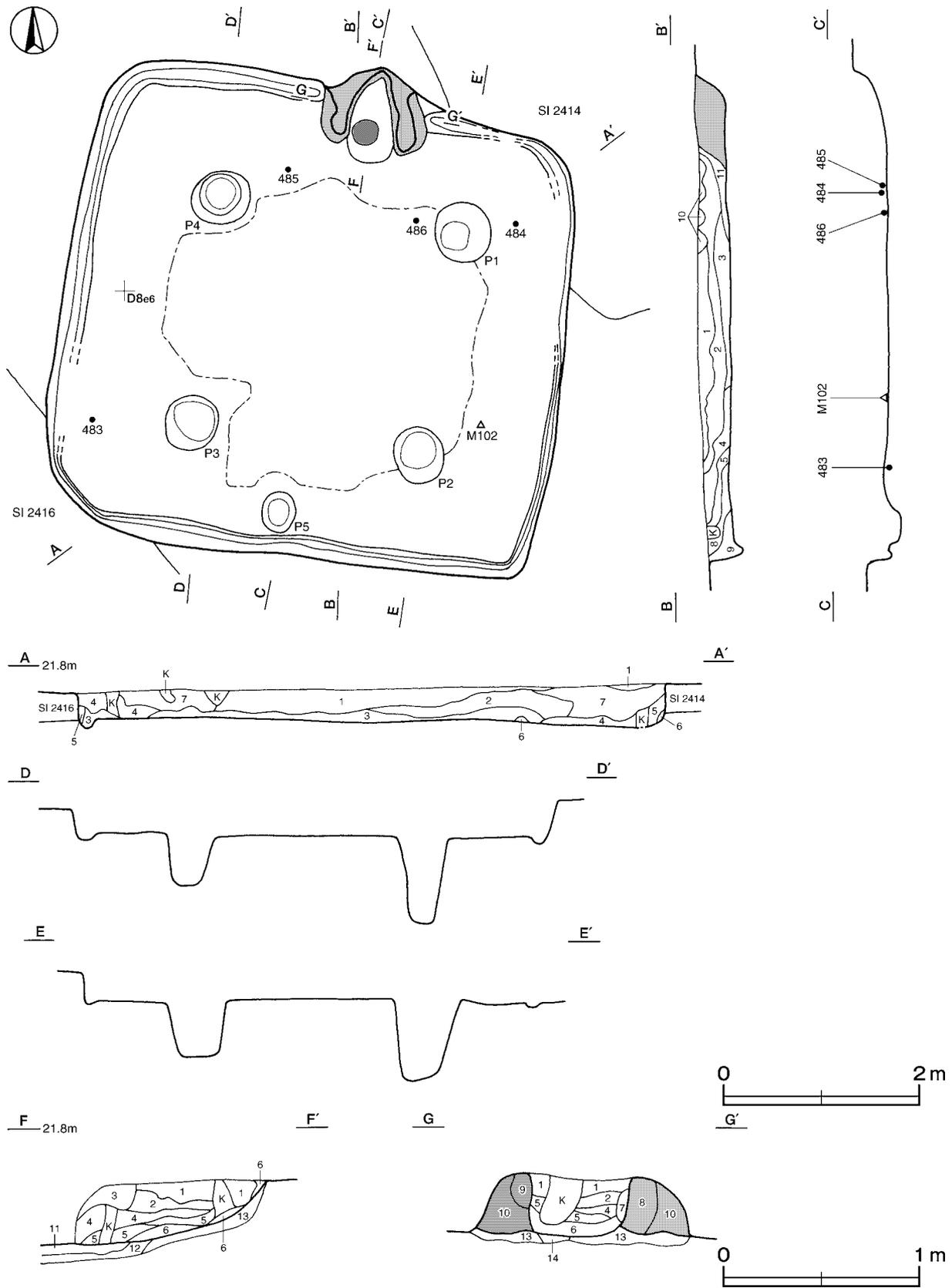
覆土 11層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

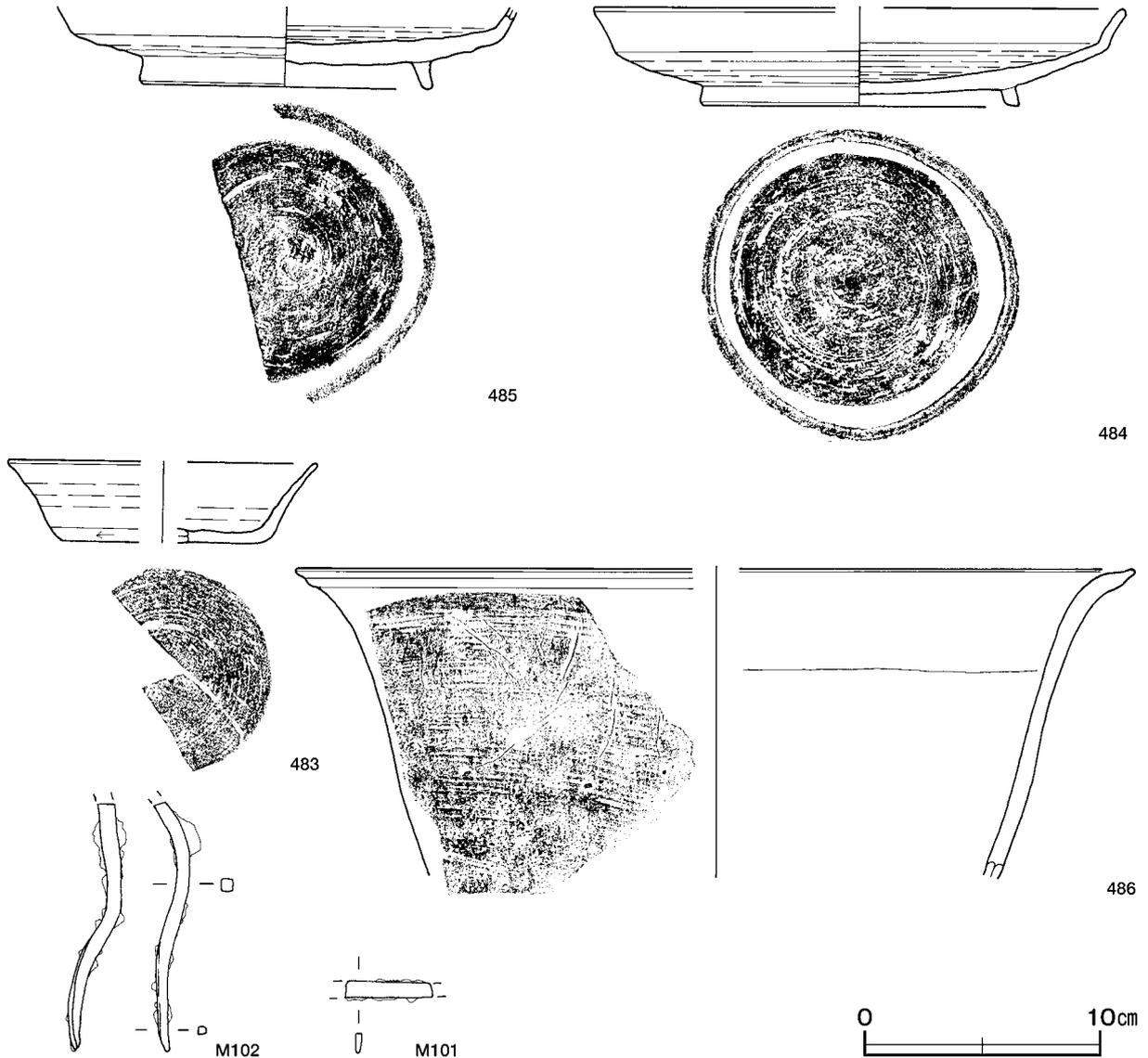
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	7 極暗褐色	ロームブロック中量,炭化物少量
2 黒褐色	炭化物・焼土粒子少量,ローム粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量
3 極暗褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック中量	10 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量
5 褐色	ローム粒子多量	11 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量,焼土ブロック・炭化粒子少量
6 褐色	ロームブロック多量		

遺物出土状況 土師器片406点（甕類）、須恵器片86点（坏43、蓋1、高台付盤2、鉢3、甕類35、甌2）、鉄製品3点（刀子2、釘1）が北部を中心に出土している。483は南西コーナー部、484は北東コーナー部、485は竈左袖前部、486は北東部、M102は東部南寄りのいずれも覆土下層からそれぞれ出土しており、住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉以前と考えられる。



第282图 第2415号住居跡实测图



第283図 第2415号住居跡出土遺物実測図

第2415号住居跡出土遺物観察表（第283図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
483	須恵器	坏	[13.0]	3.5	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	40%
484	須恵器	高台付盤	[22.8]	4.2	13.6	長石・石英・雲母	黒褐	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	80% PL78
485	須恵器	高台付盤	-	(3.6)	[12.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	50%
486	須恵器	鉢	[35.6]	(13.3)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	口辺部内外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M101	刀子	(3.7)	0.7	0.3	(4.1)	鉄	刃部欠損 茎部の破片	覆土中	
M102	釘	(10.7)	0.6	0.7	(20.4)	鉄	断面方形の棒状 一端が細る 中位で屈曲	下層	PL81

第2428号住居跡（第284・285図）

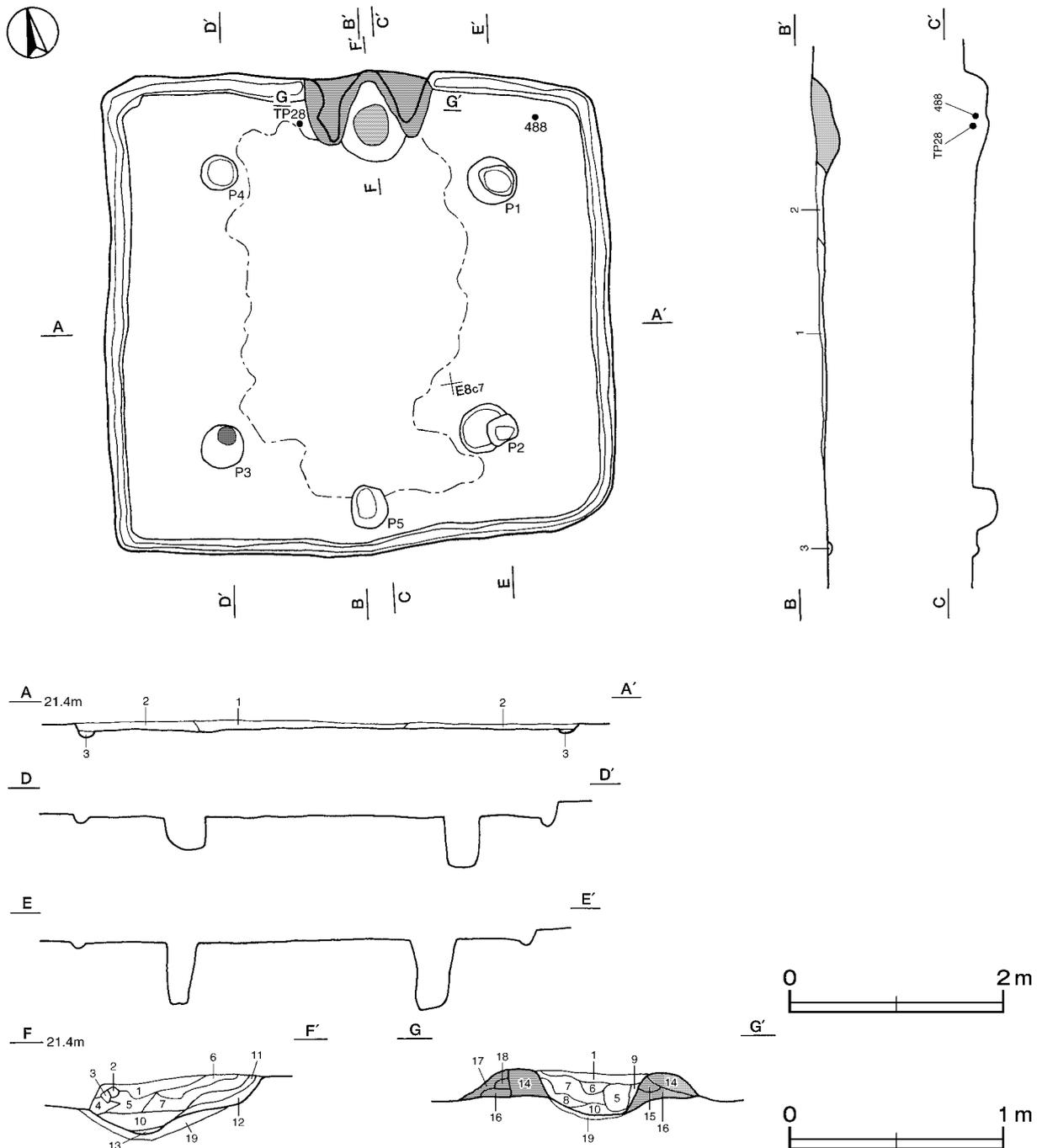
位置 調査区南部のE 8 b6区，標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.66m，短軸4.51mの方形で，主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は4～12cmであり，層

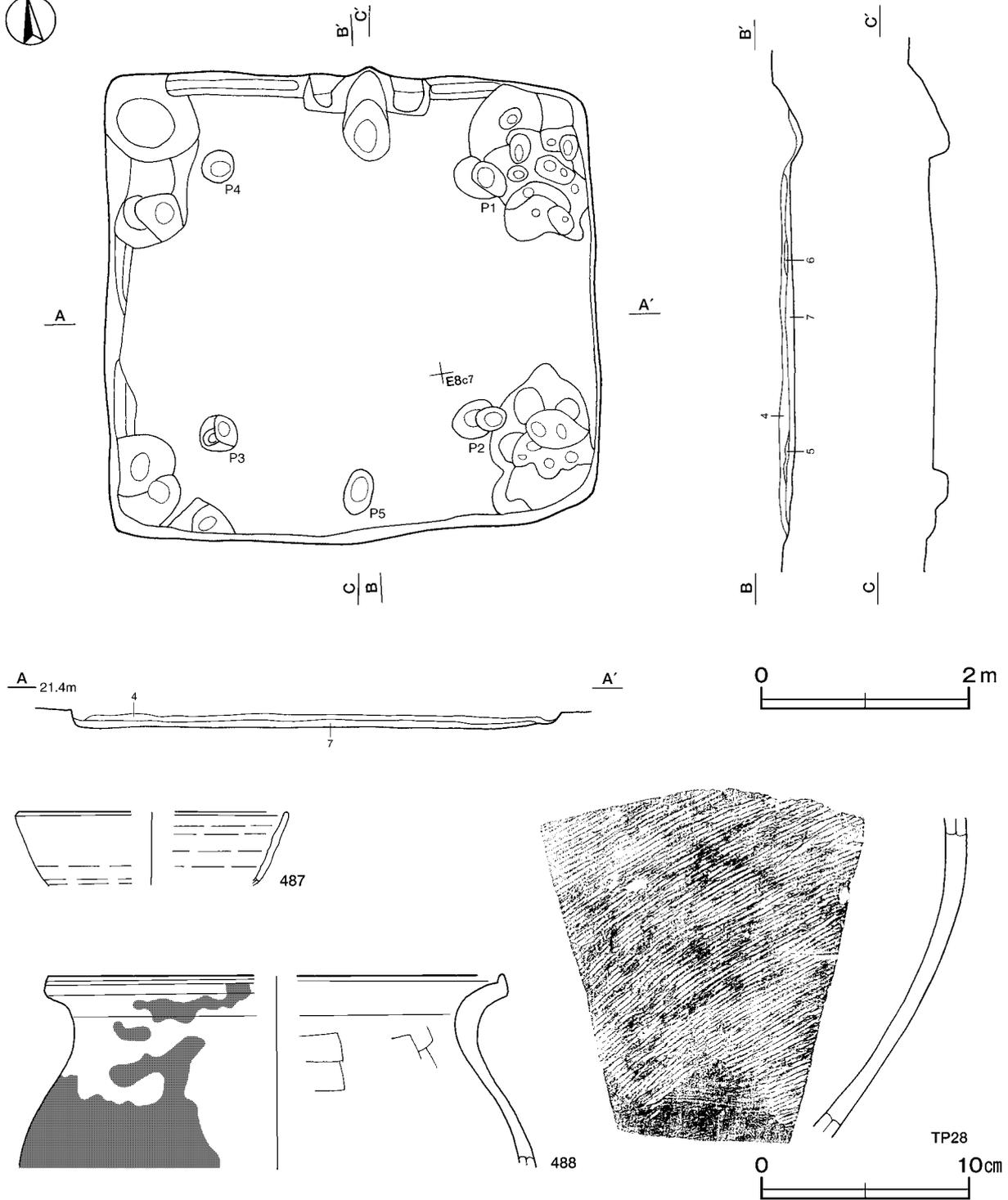
厚が薄いため立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦で、竈前部から南部まで踏み固められている。壁下には、幅11～14cm、深さ3～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、貼り床が認められ、掘り方は四隅を掘り込んでいる状況が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで86cm、袖部幅121cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を主体とする第14～18層で構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめてローム土を主体とする第19層を充填して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。層厚が薄いため、壁外への掘り込みは確認されていない。覆土は第1～13層に分けられ、第1～5層は天井部の崩落土層に相当する。



第284図 第2428号住居跡実測図



第285図 第2428号住居跡掘り方・出土遺物実測図

甑土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|------------------------------|----|--------|-----------------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 | 赤褐色 | 焼土粒子多量, ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 | 赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | 11 | 暗赤褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 | 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 12 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 |
| 4 | 極暗褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 13 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 5 | 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量 | 14 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 6 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 15 | 極暗赤褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 7 | 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物中量 | 16 | 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 | 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量 | 17 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 9 | 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物多量, ローム粒子中量 | 18 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子中量 |
| | | | 19 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは32～67cmである。P3の底面からは柱のあたりが確認されている。P5は深さ22cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。第4・5層は貼り床に相当し、第6・7層は掘り方の埋土層である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	5 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子少量
2 褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物中量	6 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
3 褐色	ローム粒子少量	7 明褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片103点(甕類), 須恵器片4点(坏2, 甕類2)が北部を中心に出土している。また, 混入した古墳時代後期の土師器片5点, 陶器片3点も出土している。488は北東コーナー部, TP28は竈左側の床面, 487は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。いずれの土器も小片であり, 住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後半と考えられる。

第2428号住居跡出土遺物観察表(第285図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
487	須恵器	坏	[13.0]	(3.6)	-	長石・雲母	灰	普通	体部外面口ロナデ	覆土中	10%
488	土師器	甕	[21.8]	(9.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	10% 外面煤付着
TP28	須恵器	甕	-	(15.6)	-	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ナデ	床面	

第2436号住居跡(第286図)

位置 調査区南部のE 8 j 3区, 標高20.0mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第144号溝に掘り込まれている。

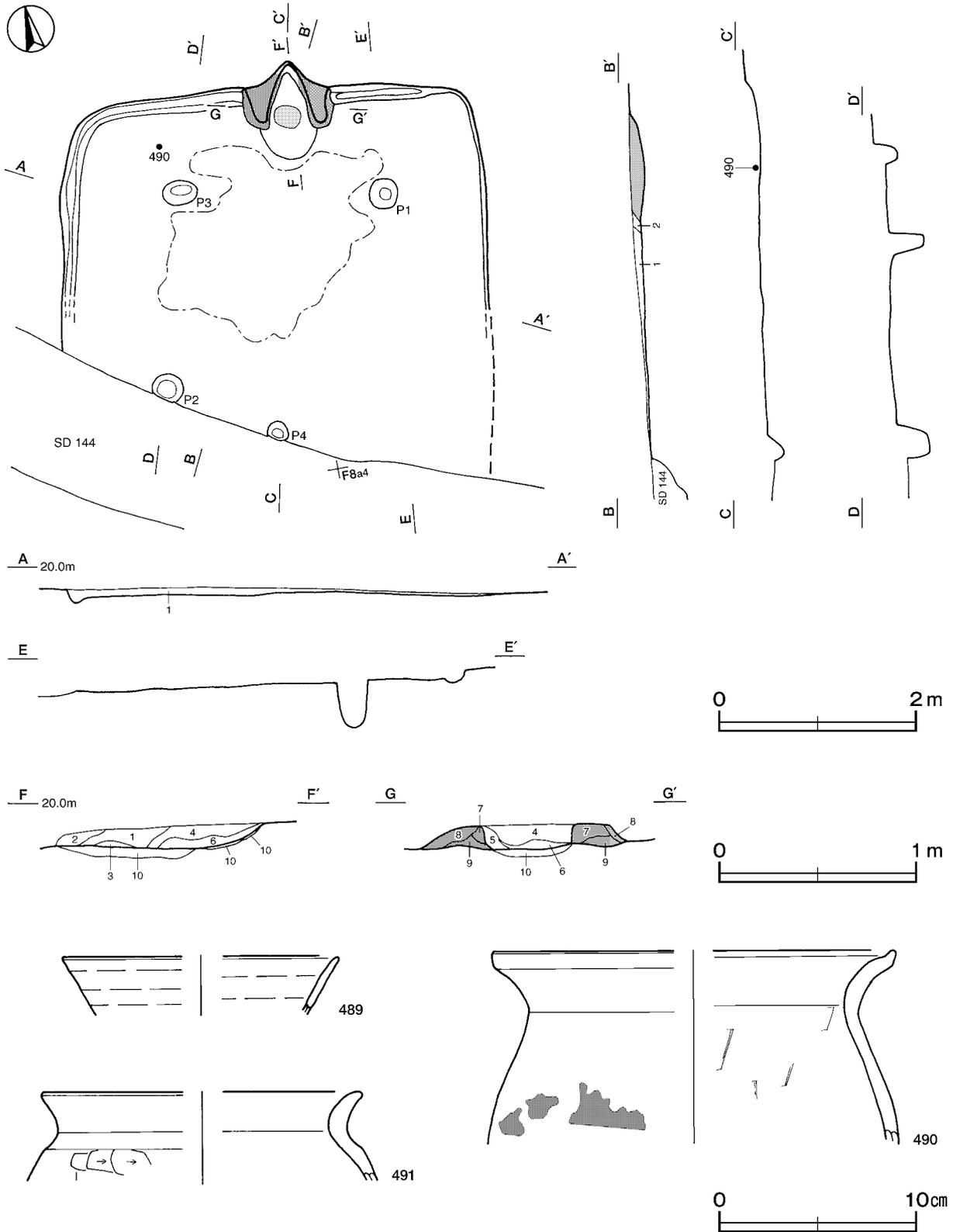
規模と形状 中央部から南部は床面が露出した状態で検出されており, 南部を第144号溝に掘り込まれている。東西軸4.32m, 南北軸は3.84mだけが確認された。竈の位置や遺存する壁の方向から, 主軸方向N - 13° - Eの方形または長方形と推定される。壁高は北西側で12cmであり, 層厚が薄いため立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦で, 竈前部から中央部が踏み固められている。北・西壁下には, 幅17～19cm, 深さ5～13cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで101cm, 袖部幅92cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を主体とする第7～9層で構築しており, 内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめて第10層を充填して使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～6層に分けられ, 第1～4層は天井部の崩落土層, 第5層は袖部の崩落土層に相当する。ロームブロックや焼土ブロックを含む人為堆積の状況を示しており, 天井部の崩落土層が火床面に接していることから, 廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	6 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量
3 にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子多量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量	8 極暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
4 赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子中量	9 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
5 黄褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	炭化粒子中量, 砂質粘土粒子少量



第286図 第2436号住居跡・出土遺物実測図

ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは35～49cmである。P4は深さ15cmで、南部に位置していることや規模から、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片52点(甕), 須恵器片4点(坏2, 蓋2)が散在した状態で出土しており, いずれも細片である。また, 混入した古墳時代後期の土師器片2点も出土している。489は北東部, 490・491は北西部の覆土下層からそれぞれ出土しているがいずれも小片であり, 住居の廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後半と考えられる。

第2436号住居跡出土遺物観察表 (第286図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
489	須恵器	坏	[14.0]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面口口ロナデ	下層	10%
490	土師器	甕	[20.4]	(9.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	下層	10% 外面煤付着
491	土師器	甕	[16.0]	(4.5)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	10%

第2437号住居跡 (第287・288図)

位置 調査区南部のE 9 h3区, 標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第2439号住居跡を掘り込み, 第431号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 北東部は調査区域外である。長軸5.64m, 短軸5.30mの方形で, 主軸方向はN - 8° - Wである。壁高は24~32cmで, 外傾して立ち上がっている。

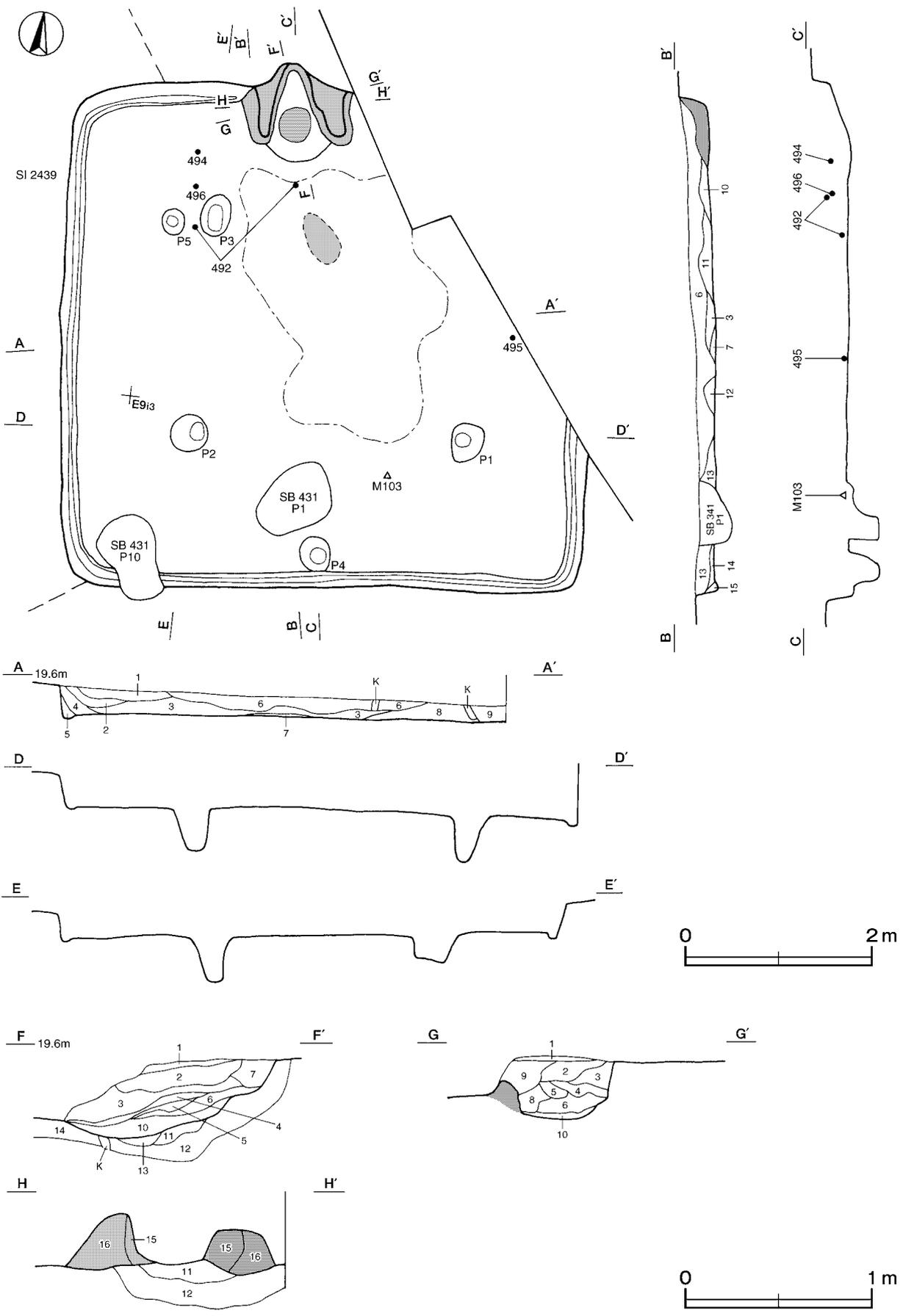
床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅11~13cm, 深さ4~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで106cm, 袖部幅124cmである。袖部は砂質粘土主体の第15・16層で構築しており, 内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を20~25cm掘りくぼめて第11~14層を充填して使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1~10層に分けられ, 第2・9層は, 天井部および袖部の崩落土層に相当する。

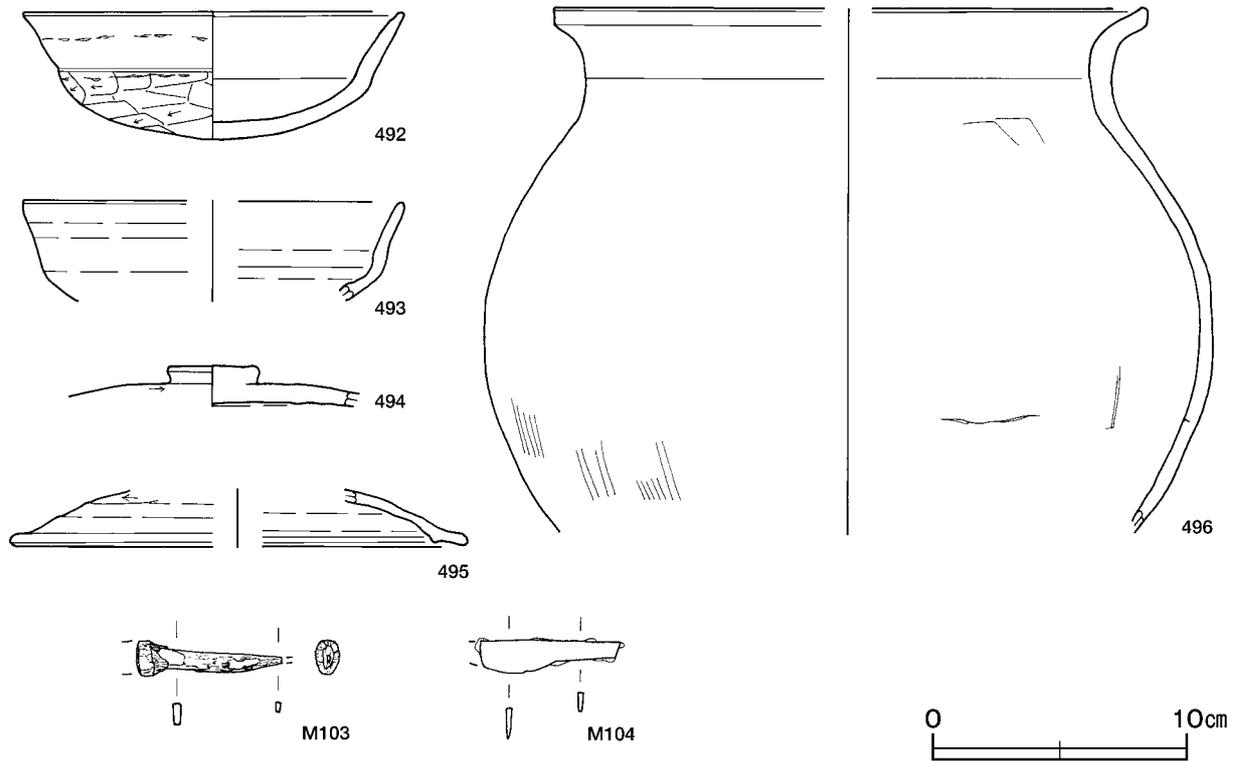
竈土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
- 2 オリーブ褐色 砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量
- 4 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量 砂質粘土粒子少量 炭化物微量
- 5 暗 赤 褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
- 6 極暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量
- 7 極暗赤褐色 焼土ブロック中量 砂質粘土ブロック・炭化物少量
- 8 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量, 炭化物・砂質粘土粒子少量
- 9 灰 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 10 赤 褐 色 焼土ブロック・灰中量
- 11 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 12 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
- 13 暗 赤 褐色 焼土ブロック多量
- 14 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
- 15 暗 赤 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 16 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量

ピット 5か所。P1~P3は主柱穴で, 深さは29~52cmである。P4は深さ33cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ44cmで, P3の西側に隣接していることから支柱穴と考えられる。



第287图 第2437号住居跡実測图



第288図 第2437号住居跡出土遺物実測図

覆土 15層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 灰褐色 | ロームブロック多量 | 12 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| | | 15 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片393点（坏62，甕331），須恵器片14点（坏9，蓋5），土製品2点（支脚），鉄製品2点（刀子）が北西部を中心に出土している。出土土器の多くは細片であり，壁際の土器ほど覆土上層から出土している。また，混入した古墳時代後期の土師器片22点も出土している。495は東部，M103は南部の覆土下層，494・496は北西部の覆土中層からそれぞれ出土しており，492は西部の覆土下層から出土した破片と竈前部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。M104はP4の覆土中から出土しており，住居を廃絶して柱を抜き取った後に流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉以前と考えられる。

第2437号住居跡出土遺物観察表（第288図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
492	土師器	坏	14.9	5.1	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪種痕 内面ナデ	中・下層	60%
493	須恵器	坏	[15.0]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面口ロナデ	覆土中	10%
494	須恵器	蓋	-	(1.8)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	中層	10%
495	須恵器	蓋	[18.2]	(2.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	10%
496	土師器	甕	[23.2]	(20.8)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪種痕	中層	15%

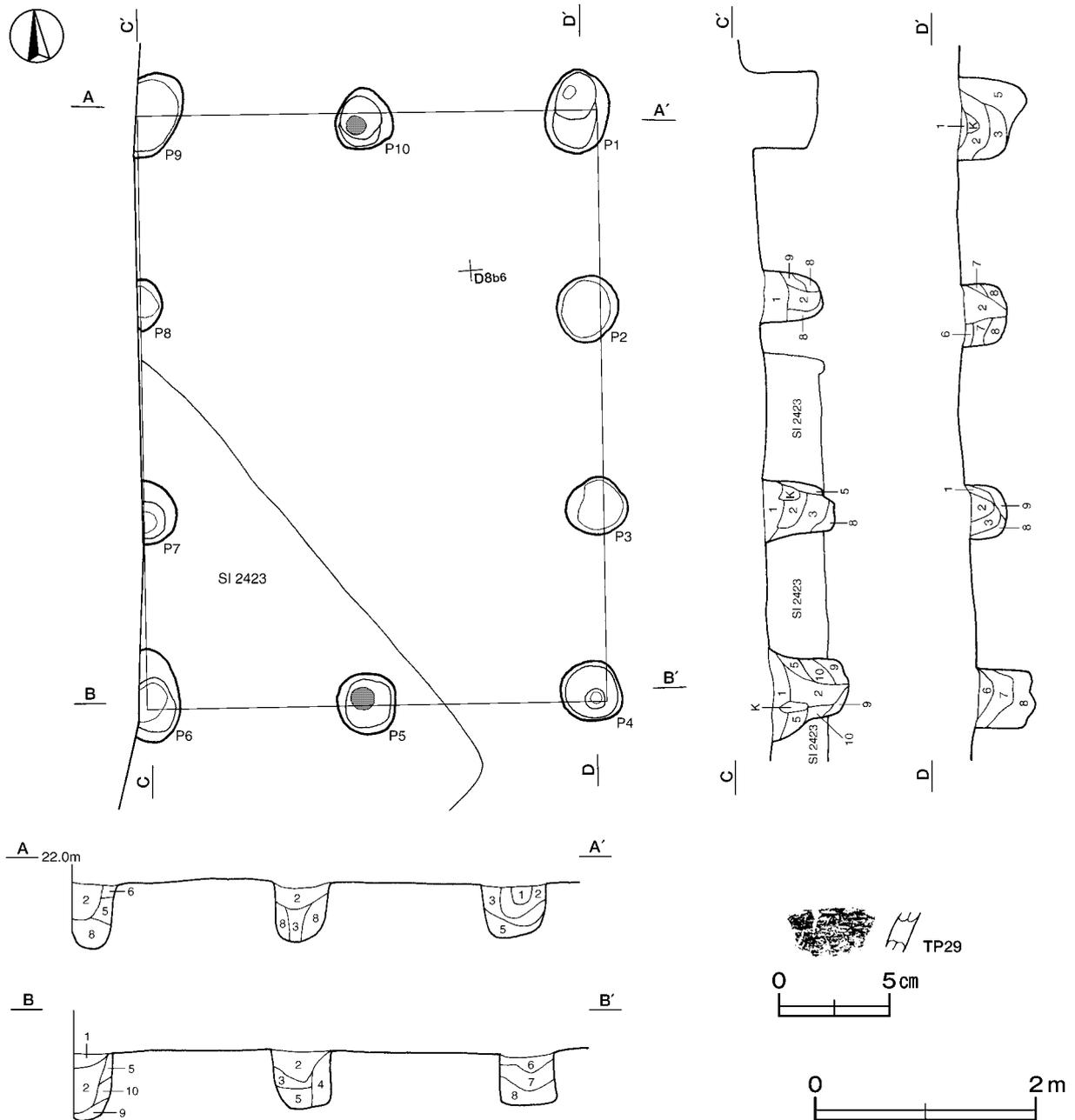
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M103	刀子	(5.9)	1.4	0.4	(6.2)	鉄	刃部欠損 茎部の破片 木質付着	下層	PL81
M104	刀子	(5.6)	1.3	0.3	(4.9)	鉄	刃先部 茎尻部欠損 刃部断面三角形	P 4 覆土中	PL81

(2) 掘立柱建物跡

第427号掘立柱建物跡 (第289図)

位置 調査区中央部の D 8 b5 区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2423号住居跡を掘り込んでいる。



第289図 第427号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向N - 5° - Eの南北棟である。規模は，桁行5.4m，梁行4.2mで，面積は22.68㎡である。柱間寸法は，桁行は1.8m（6尺），梁行は2.1m（7尺）を基調とし，均等に配置されている。

柱穴 10か所。深さは38～70cmである。土層は，第1～4層が柱抜き取り痕に相当し，第5～10層が埋土で硬く突き固められている。柱のあたりは，P5・P10の底面で確認されており，径16～22cmの円形の範囲が硬化している。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック少量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量 | 10 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片47点（坏12，甕類35），須恵器片7点（甕類）が各柱穴から出土しており，ほとんどは細片で混入したものである。TP29はP3から出土している。

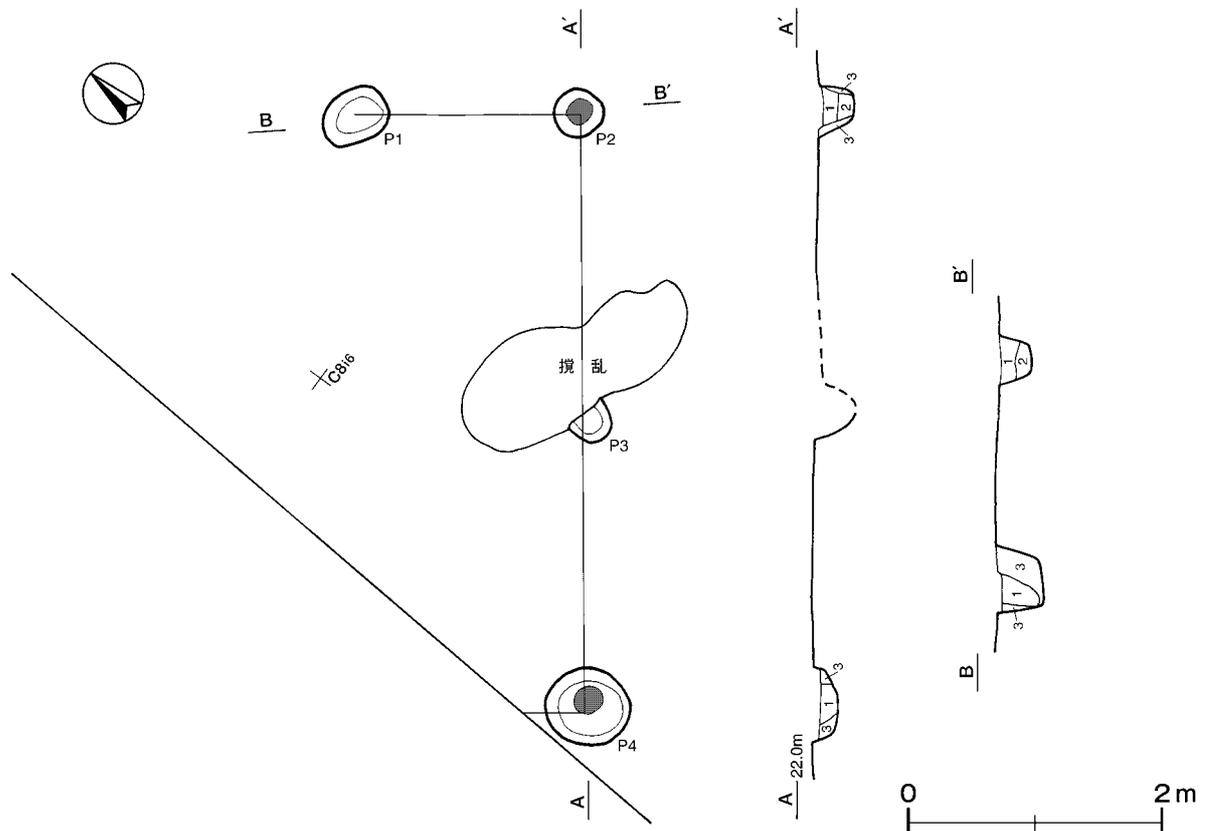
所見 性格は，形状から倉庫的な機能が想定される。時期は，出土土器から8世紀代と考えられる。

第427号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第289図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP29	須恵器	甕	-	(1.8)	-	長石・雲母	灰白	普通	体部外面横位の平行叩き	P3覆土中	

第428号掘立柱建物跡（第290図）

位置 調査区北部のC8i6区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。



第290図 第428号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 西側が調査区域外のため、桁行1間、梁行2間だけが確認されている。側柱建物で、桁行方向N-38°-Wの南北棟と推定される。規模は、確認された範囲では、桁行6.0m、梁行5.2mである。柱間寸法は、南北が1.8m(6尺)、東西が2.4m(8尺)であり、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 4か所。深さは18~22cmである。土層は、第1・2層が柱抜き取り痕に相当し、第3層が埋土である。柱のあたりは、P2・P4の底面で確認され、径20~22cmほどの円形の範囲が硬化している。

土層解説 (各柱穴共通)

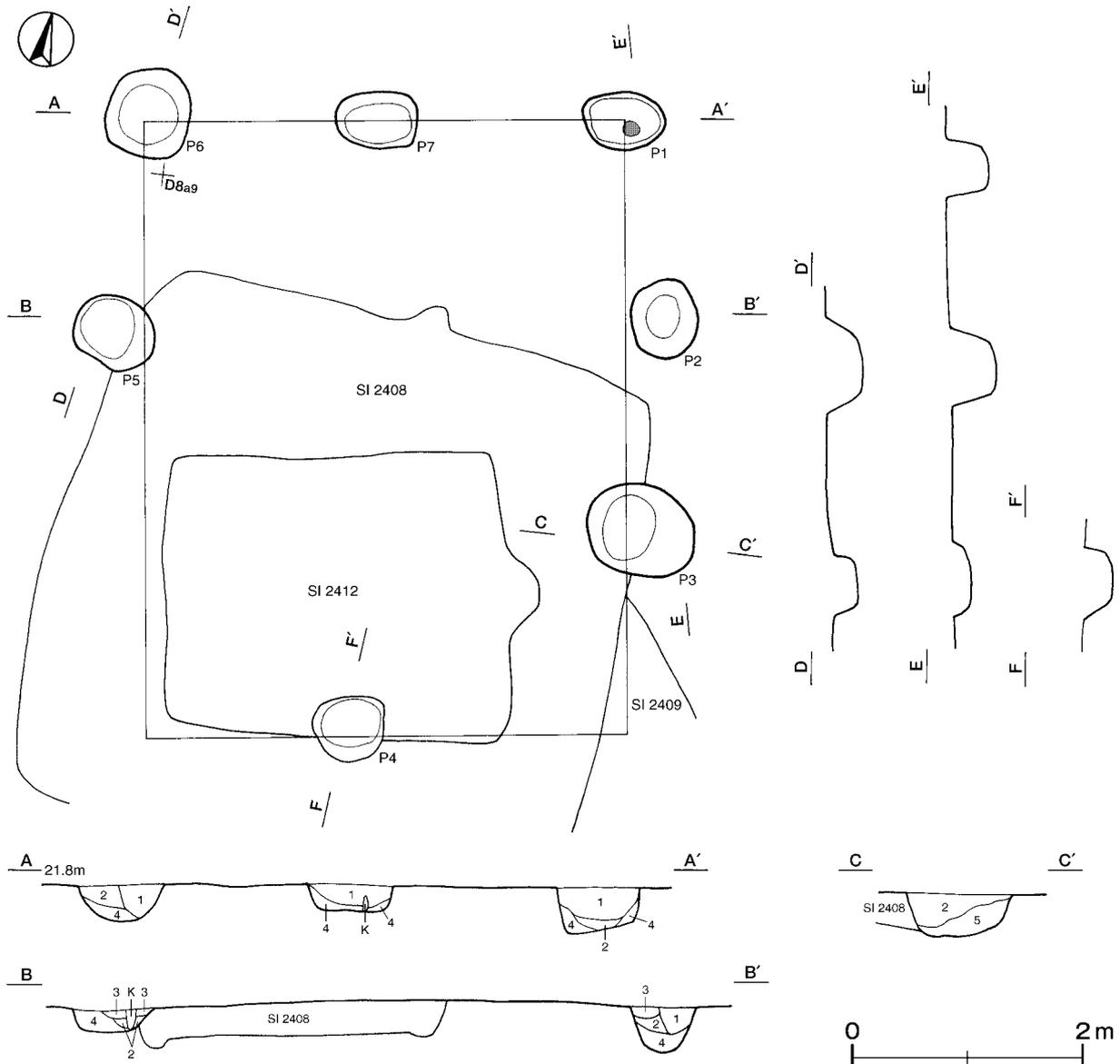
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

所見 遺物が出土していないため時期判断は困難であるが、柱穴の規模から時期は、奈良時代から平安時代と考えられる。

第429号掘立柱建物跡 (第291図)

位置 調査区中央部のD8a9区、標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2408・2409号住居跡を掘り込み、第2412号住居に掘り込まれている。



第291図 第429号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 遺構の重複が激しく南部の構造は明確でないが、桁行3間、梁行2間の側柱建物で、桁行方向N-8°-Wの南北棟と推定される。規模は、桁行5.4m、梁行4.2mで、面積は22.68㎡である。柱間寸法は、桁行1.8m（6尺）、梁行2.1m（7尺）を基調としているが、北側梁行は2.1m（7尺）、南側梁行は、東から2.4m（8尺）、1.8m（6尺）と考えられる。

柱穴 7か所が確認された。深さは18~54cmである。土層は、第1~3層が柱抜き取り痕に相当し、第4・5層が埋土である。柱のあたりはP1の底面で確認され、径16cmの円形の範囲が硬化している。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子微量 | |

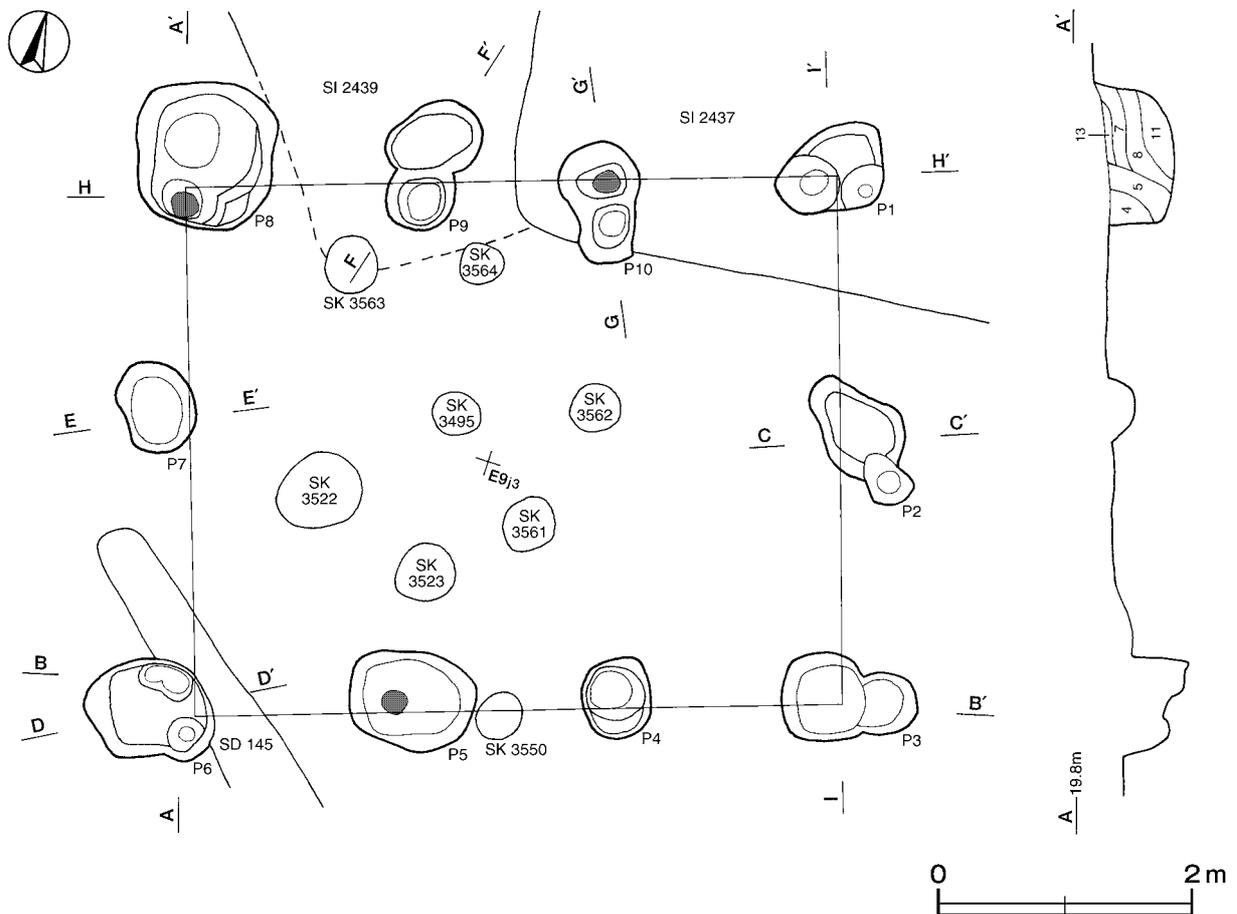
遺物出土状況 土師器片23点（坏4、甕類19）、須恵器片1点（瓶類）が各柱穴から出土しているが、いずれも細片である。

所見 出土土器からの時期判断は困難であるが、ほぼ同規模で8世紀代と考えられる第427号掘立柱建物跡が西側で確認されていることや、重複関係などから、時期は8世紀代と考えられる。

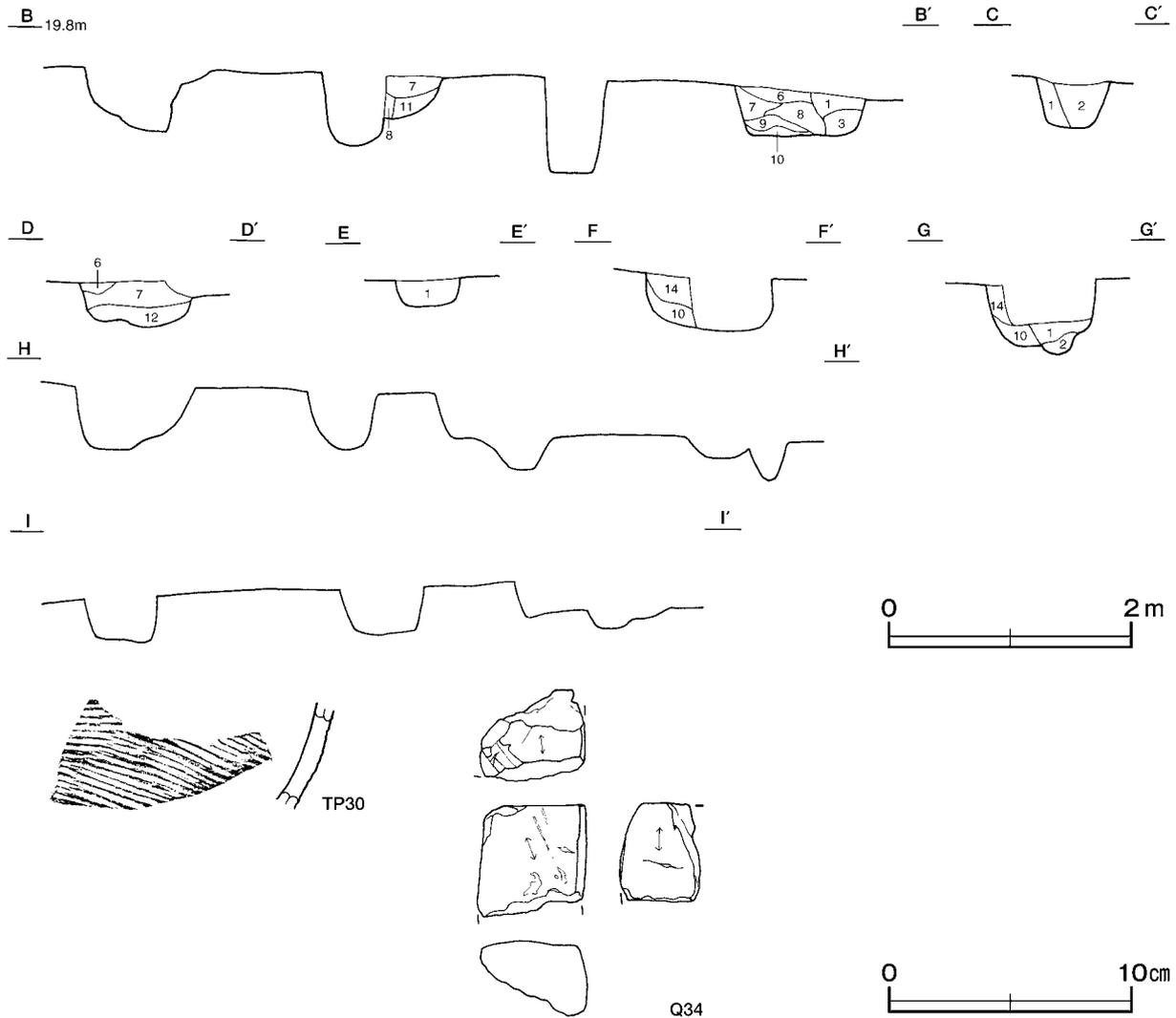
第431号掘立柱建物跡（第292・293図）

位置 調査区南西部のE9i3区、標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第2437・2439号住居跡を掘り込み、第145号溝に掘り込まれている。また、第3495・3522・3523・3550・3561~3564号土坑と重複しているが、新旧関係は明確でない。



第292図 第431号掘立柱建物跡実測図



第293図 第431号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向N - 71° - Wの東西棟と推定される。規模は，桁行5.1m，梁行4.2mで，面積は21.42㎡である。柱間寸法は，桁行1.5～1.8m（5～6尺），梁行2.1m（7尺）を基調としている。桁行は北桁が東から1.8m（6尺），1.5m（5尺），1.8m（6尺），南桁が東から1.8m（6尺），1.8m（6尺），1.5m（5尺）である。梁行は2.1m（7尺），2.4m（8尺）である。

柱穴 10か所。深さは20～78cmである。土層は，第1～5層が柱抜き取り痕に相当する。第6～14層が埋土で，版築状に硬く突き固められている。柱のあたりは，P5・P8・P10の底面で確認されており，径18～20cmほどの円形の範囲が硬化している。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片39点（坏5，甕類34），須恵器片2点（甕類），瓦1点（棧瓦），石器1点（砥石）が各柱穴から出土しており，いずれも細片である。TP30はP9，Q34はP4からそれぞれ出土している。

所見 性格は、位置と形状から倉庫的な機能が想定される。時期は、出土土器や重複関係から8世紀後半と考えられる。

第431号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第293図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP30	須恵器	甕	-	(4.4)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き	P 9 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	砥石	(4.7)	(4.5)	(3.1)	(90.5)	凝灰岩	砥面3面 他は破断面	P 4 覆土中	

表27 奈良時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2404	C 8 i0	N - 6 ° - E	方形	3.45×3.41	24~30	平坦	全周	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 支脚	8世紀中葉以前
2406	D 8 g3	N - 2 ° - E	方形	4.58×4.54	18~24	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 支脚, 砥石, 刀子, 磨石	8世紀前葉以前
2407	D 8 a7	N - 3 ° - W	方形	3.66×3.37	57~60	平坦	ほぼ全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須恵器片, 支脚, 球状土錘	8世紀後葉以前
2408	D 8 a9	N - 6 ° - E	方形	4.91×4.86	30~39	平坦	一部	-	-	1	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 不明鉄製品	8世紀前葉以前
2413	D 8 c7	N - 85 ° - E	長方形	5.82×4.34	15~19	平坦	半周	-	-	6	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 釘	8世紀中葉以前
2415	D 8 e6	N - 10 ° - E	方形	5.14×4.94	20~34	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 刀子, 釘	8世紀中葉以前
2428	E 8 b6	N - 6 ° - E	方形	4.66×4.51	4~12	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須恵器片	8世紀後半
2436	E 8 j3	N - 13 ° - E	[方形・長方形]	4.32×(3.84)	12	平坦	一部	3	1	-	竈1	-	不明	土師器片, 須恵器片	8世紀後半
2437	E 9 h3	N - 8 ° - W	方形	5.64×5.30	24~32	平坦	[全周]	3	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 支脚, 刀子	8世紀前葉以前

表28 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
427	D 8 b5	N - 5 ° - E	3×2	5.4×4.2	22.68	1.8	2.1	側柱	10	円形・楕円形	38~70	土師器片, 須恵器片	8世紀代
428	C 8 i6	N - 38 ° - W	(1×2)	(6.0×5.2)	(31.20)	1.8	2.4	側柱	4	円形・楕円形	18~22		奈良時代~平安時代
429	D 8 a9	N - 8 ° - W	3×2	5.4×4.2	22.68	1.8	1.8~2.4	側柱	7	楕円形	18~54	土師器片, 須恵器片	8世紀代
431	E 9 i3	N - 71 ° - W	3×2	5.1×4.2	21.42	1.5~1.8	2.1~2.4	側柱	10	隅丸長方形・楕円形	20~78	土師器片, 須恵器片, 瓦, 砥石	8世紀後半

3 平安時代の遺構と遺物

平安時代の住居跡3軒，土坑1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2410号住居跡（第294図）

位置 調査区北部のC 8 g5区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3321号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 中央部から西部は調査区域外であり，南北軸3.36m，東西軸は0.54mだけが確認された。確認された東壁の位置から，主軸方向N - 3° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は55～58cmで，外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦で，P1の南部が踏み固められている。

ピット 深さ11cmで，北東部に位置していることから，支柱穴と考えられる。

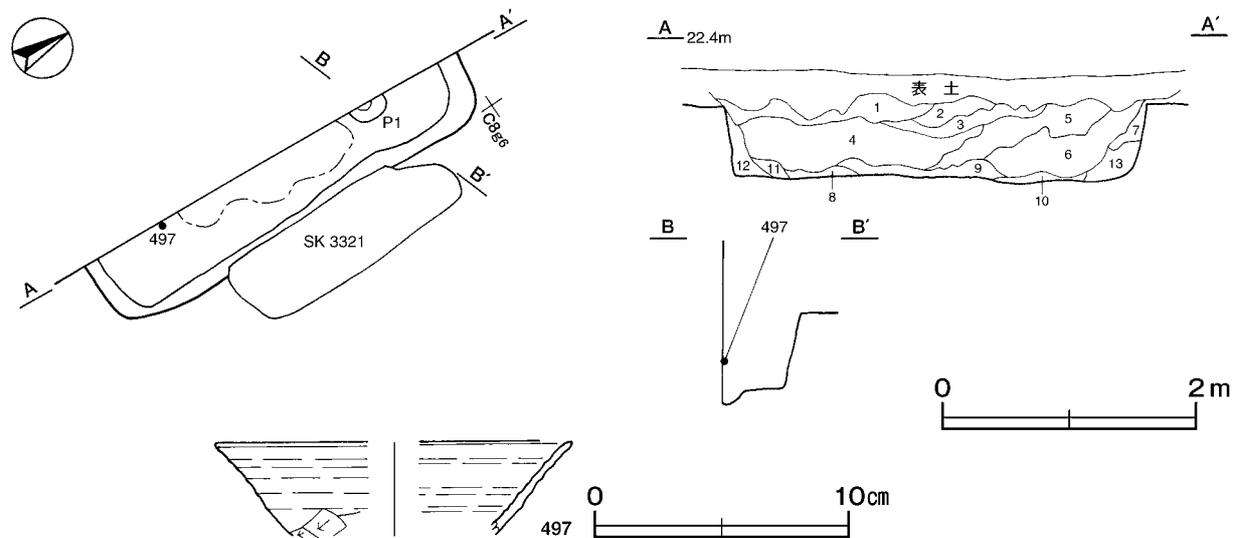
覆土 13層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物・ローム粒子微量 | 13 褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片49点（坏4，甕類45），須恵器片4点（坏2，甕類2）が散在した状態で出土しており，いずれも細片である。497は南東部の覆土中層から出土しており，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。なお，土師器坏片は古墳時代後期の様相を呈しており，混入の可能性が高い。

所見 住居の大部分が調査区域外であり，出土土器も細片であるため詳細は明らかでないが，時期は出土土器から9世紀代と考えられる。



第294図 第2410号住居跡・出土遺物実測図

第2410号住居跡出土遺物観察表（第294図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
497	須恵器	坏	[14.0]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り	中層	20%

第2412号住居跡（第295図）

位置 調査区中央部のD 8 a9区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2408・2409号住居跡，第249号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

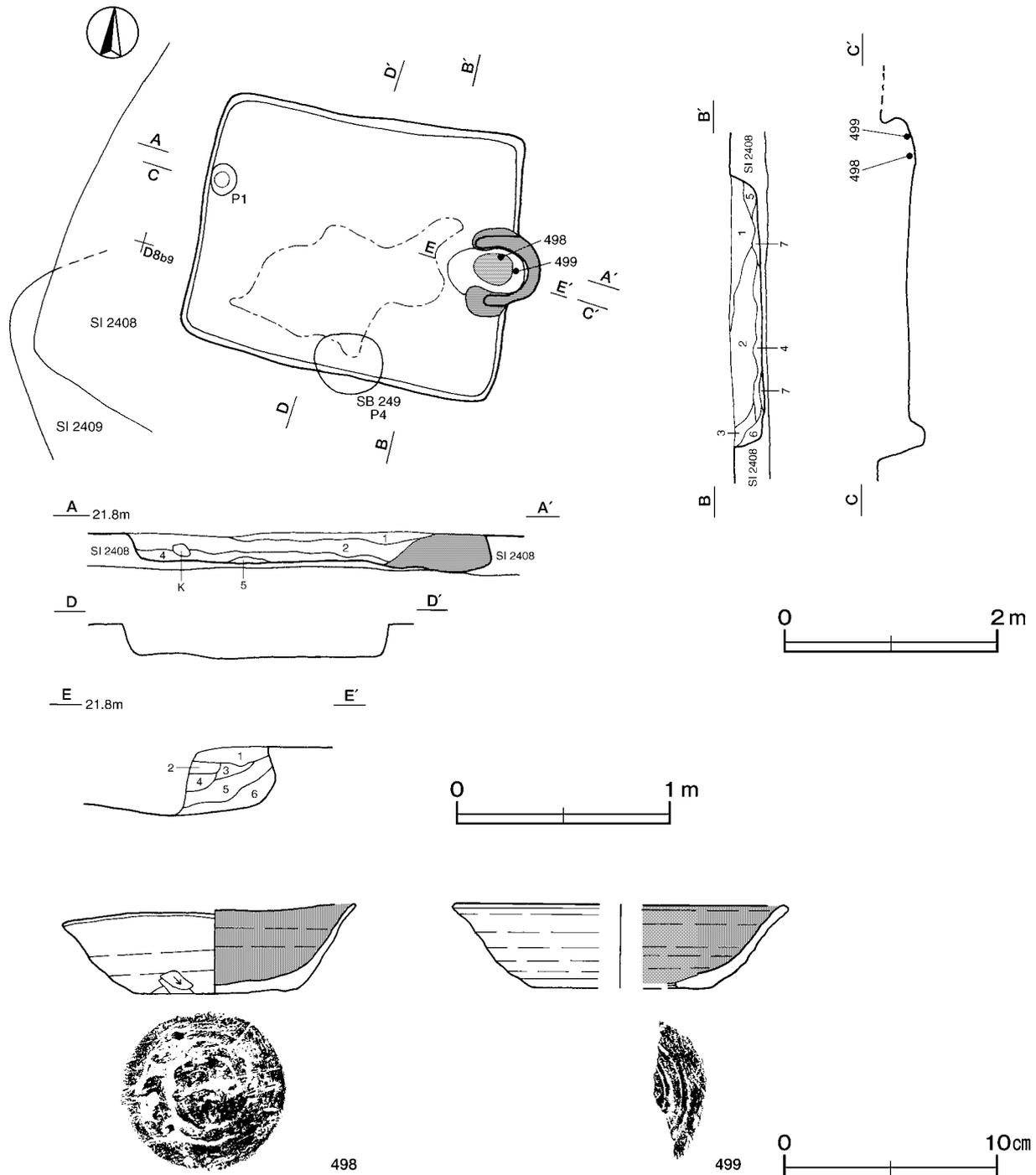
規模と形状 長軸2.98m，短軸2.44mの長方形で，主軸方向はN - 94° - Eである。壁高は21～29cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から南部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで72cm、袖部幅73cmであり、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部からほぼ直立している。覆土は第1～6層に分けられ、第2～5層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 黒褐色 | 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |



第295図 第2412号住居跡・出土遺物実測図

ピット 深さ24cmで、西壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 5 極暗褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 6 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片472点（坏73，甕類399），須恵器片27点（坏10，甕類9，瓶類8）が散在した状態で出土しており，多くは細片である。498・499は，ともに竈の火床面から逆位で出土していることから，支脚として使用されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀後半と考えられる。

第2412号住居跡出土遺物観察表（第295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
498	土師器	坏	13.2	4.3	7.8	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	竈火床面	100% PL78
499	土師器	坏	[15.5]	4.0	[8.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈火床面	40%

第2424号住居跡（第296図）

位置 調査区中央部のD8j1区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2425号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部は床面がほぼ露出した状態で検出されており，東西軸3.19mが確認された。南北軸は3.10mほどで，主軸方向N-1°-Wの方形と推定される。壁高は北西部で6cmであり，層厚が薄いため立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦で，中央部の北寄りが踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで64cm，袖部幅92cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に，砂質粘土混じりのローム土を主体とする第8～12層で構築しており，内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 9 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 焼土ブロック多量，炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量，砂質粘土粒子少量 | 11 褐色 ロームブロック多量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 褐色 ローム粒子多量 | 12 暗褐色 ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 | 13 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | |
| 8 褐色 ローム粒子多量，砂質粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子少量 | |

ピット 深さ28cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

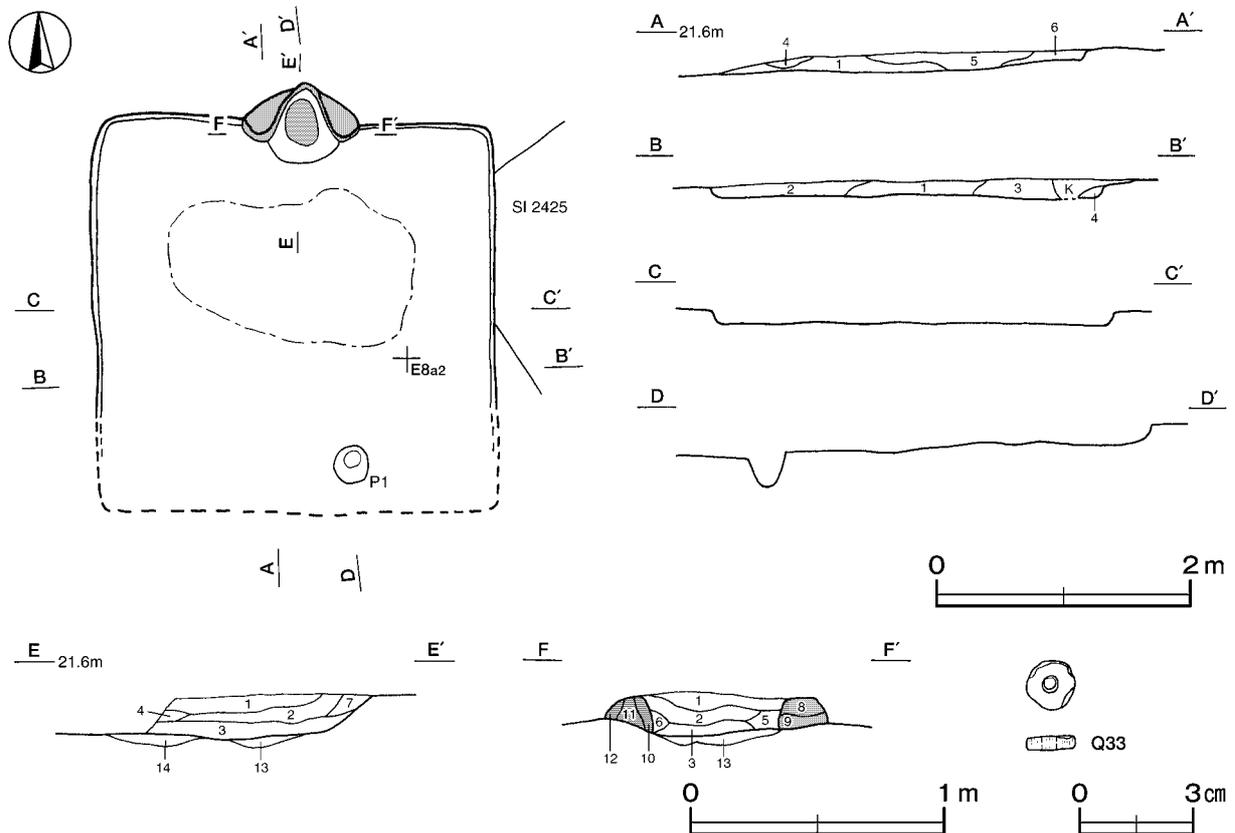
覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック少量 | 4 極暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 5 極暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量，砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片78点(甕類), 須恵器片24点(坏17, 甕類7), 石製品1点(白玉)が散在した状態で出土している。また, 混入した古墳時代後期の土師器坏片9点, 陶器片1点も出土している。出土土器はいずれも細片であり, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。Q33は竈覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と考えられる。



第296図 第2424号住居跡・出土遺物実測図

第2424号住居跡出土遺物観察表(第296図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q33	白玉	1.3	0.3	0.4	0.9	凝灰岩	ナデ 一方向からの穿孔 側面縦位の研磨痕	竈覆土中	PL80

(2) 土坑

第3412号土坑(第297図)

位置 調査区南部のE 8 i7区, 標高20.0mほどの南緩斜面肩部に位置している。

重複関係 第139号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.69m, 短径3.48mの円形で, 長径方向はN - 3° - E, 深さは105cmである。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がり, 中央部には, 径60~65cmの円形で深さ55cmの掘り込みを有している。

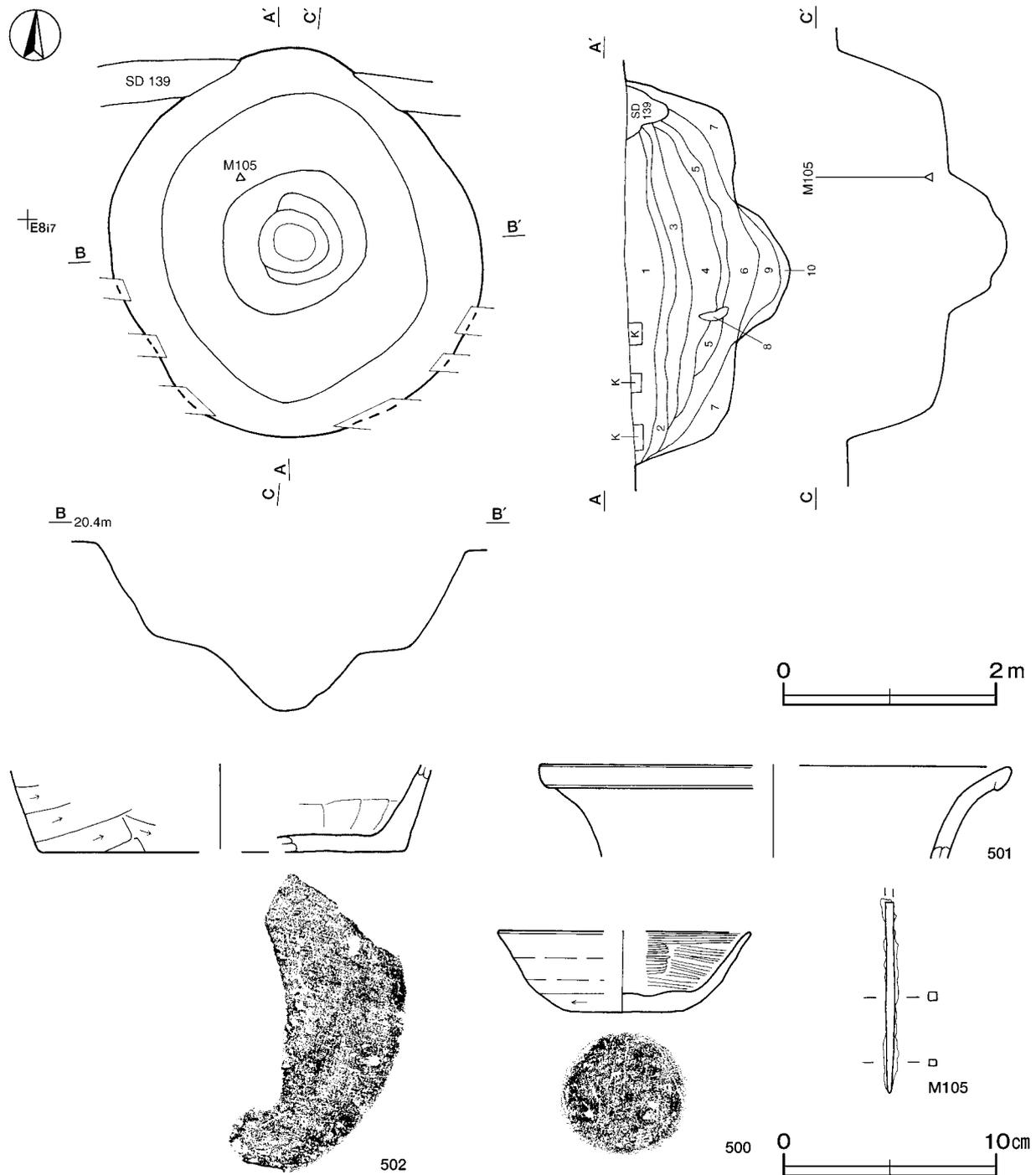
覆土 10層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1 極暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量,炭化物少量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子中量,炭化物微量 |
| 3 極暗褐色 炭化物・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子中量,炭化物少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量,炭化物・焼土粒子少量,粘土粒子微量 | 9 極暗褐色 粘土粒子中量,ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 炭化物少量,ローム粒子微量 | 10 極暗褐色 粘土ブロック中量,ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片206点(坏23,甕類183),須恵器片54点(坏6,甕類48),鉄製品1点(釘)が散在した状態で出土している。M105は覆土下層,500・502は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 当遺跡では,これまでの調査で同じ形状の土坑が10基報告されており,遺構の形状から氷室の可能性が考えられる。時期は,出土土器から9世紀代と考えられる。



第297図 第3412号土坑・出土遺物実測図

第3412号土坑出土遺物観察表（第297図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
500	土師器	坏	[11.8]	3.8	5.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	中層	30%
501	須恵器	甕	[22.0]	(4.4)	-	長石・雲母	黄灰	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	10%
502	須恵器	甕	-	(4.2)	[17.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端ヘラ削り 内面下端ヘラナデ	中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M105	釘	(9.1)	0.4	0.4	(9.9)	鉄	頭部欠損 断面方形の棒状	下層	PL81

表29 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2410	C 8 g5	N - 3 ° - W	[方形・長方形]	3.36×(0.54)	55~58	平坦	-	1	-	-	-	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀代
2412	D 8 a9	N - 94 ° - E	長方形	2.98×2.44	21~29	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀後半
2424	D 8 j1	N - 1 ° - W	[方形]	(3.19)×3.10	6	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 白玉	9世紀代

4 中世の遺構と遺物

中世の掘立柱建物跡3棟，方形竪穴遺構3基，地下式墳3基，溝跡9条，火葬土坑8基，墓坑13基，柵跡1列を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第426号掘立柱建物跡（第298図）

位置 調査区北部のB 8 j7区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第28号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 西側が調査区域外のため，南北方向，東西方向ともに1間だけが確認された。梁行1間の側柱建物で，桁行方向N - 88 ° - Wの東西棟と推定される。規模は，確認された範囲では，桁行3.7m，梁行は3.6mである。柱間寸法は，桁行2.4m（8尺），梁行3.6m（12尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

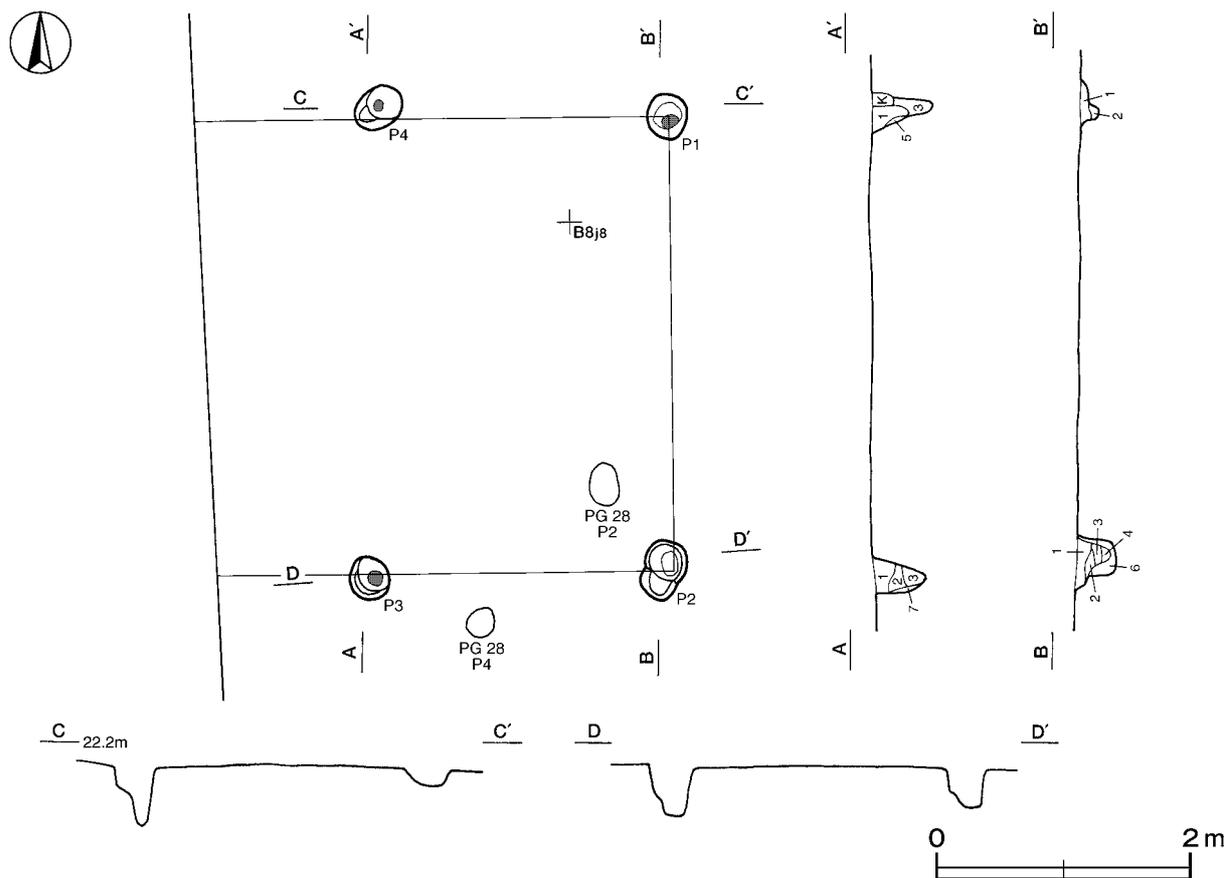
柱穴 4か所。深さは18~48cmである。土層は，第1~5層が柱抜き取り痕に相当し，第6・7層が埋土である。柱のあたりは，P1・P3・P4の底面で確認され，径14cmの円形の範囲が硬化している。

土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師器片4点（坏2，甕類2），須恵器片1点（甕類）が各柱穴から出土しているが，いずれも細片である。

所見 時期は，南北に方形竪穴遺構が位置していることや，各柱穴の平面形が円形や楕円形で規模も小さいことから中世と考えられる。



第298図 第426号掘立柱建物跡実測図

第430号掘立柱建物跡（第299図）

位置 調査区南西部のF 9 a4 区，標高19.0mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第145号溝跡，第3518号土坑と重複しているが，新旧関係は明確でない。

規模と構造 桁行2間，梁行2間の総柱建物である。平面形は1辺が3.6mの正方形で，東西棟と考えられる。南北軸はN - 21° - Wを示しており，柱間寸法は，南北方向，東西方向ともに1.5~2.1m（5尺~7尺）を基調としている。南北方向東側は，北から2.1m（7尺），1.5m（5尺），西側は1.8m（6尺）である。また，東西方向北側は，1.8m（6尺），南側は，東から2.1m（7尺），1.5m（5尺）とばらつきがある。

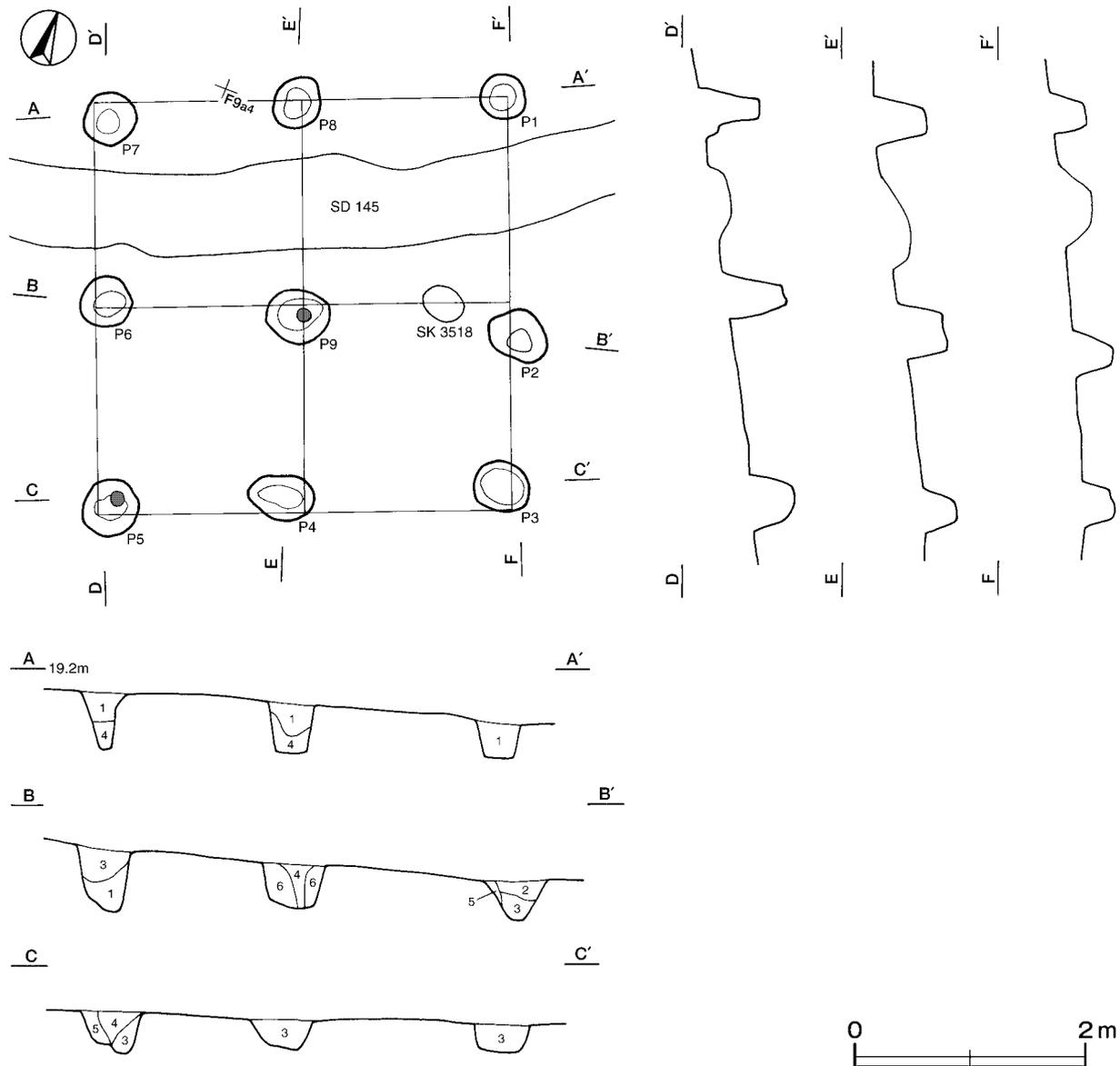
柱穴 9か所。深さは20~52cmである。土層は，第1~4層が柱抜き取り痕に相当し，第5・6層が埋土である。柱のあたりは，P5・9の底面で確認され，径12cmほどの円形の範囲が硬化している。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 灰褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 6 褐色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片2点（甕類），土師質土器1点（土鍋カ）が各柱穴から出土しているが，いずれも細片である。

所見 西側では方形竪穴遺構や火葬土坑が確認されており，中世の墓域に伴う小堂の可能性が考えられる。



第299図 第430号掘立柱建物跡実測図

第432号掘立柱建物跡 (第300図)

位置 調査区南西部のE 9 i 4区，標高19.0mほどの南緩斜面に位置している。

規模と構造 東側が調査区域外のため，桁行1間，梁行2間だけが確認されている。側柱建物で，桁行方向N-65°-Eの東西棟と推定される。柱間寸法は，桁行，梁行ともに1.2m(4尺)を基調とし，均等に配置されている。

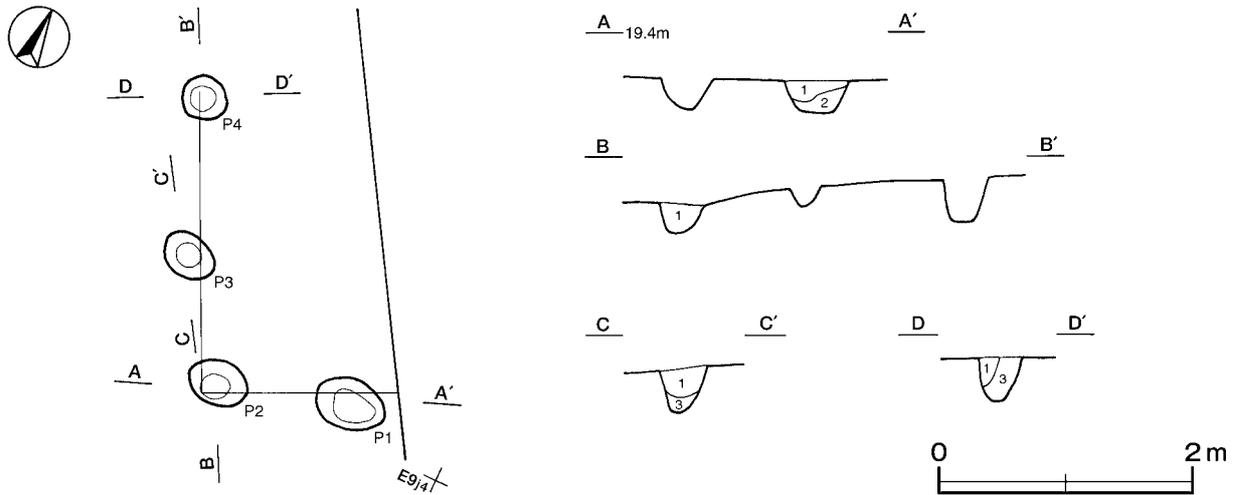
柱穴 4か所。深さは26~36cmである。土層は第1~3層に分けられ，いずれも柱抜き取り痕に相当する。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片3点(甕類)が各柱穴から出土しているが，いずれも細片である。

所見 南西に位置して中世と考えられる第430号掘立柱建物跡の南北軸と本跡の桁行方向がほぼ同一であり，柱穴の形状や規模も類似していることから，同時期と推定される。



第300図 第432号掘立柱建物跡実測図

(2) 方形竪穴遺構

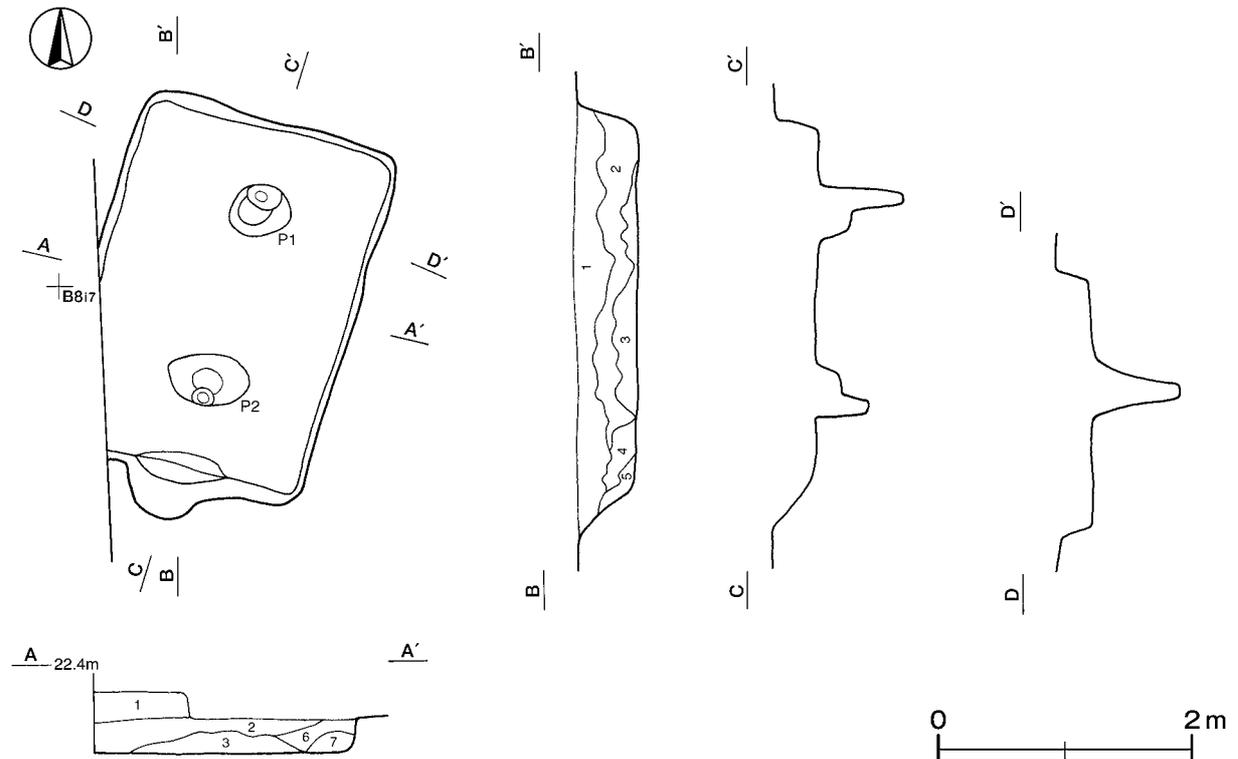
第70号方形竪穴遺構 (第301図)

位置 調査区北部のB 8 h7区, 標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部は調査区域外である。長軸3.24m, 短軸2.14mの長方形で, 主軸方向はN - 12° - Eである。壁高は26 ~ 34cmで外傾して立ち上がっている。また, 南壁際の中央部には壁外に35cmほど張り出したスロープが確認されており, 出入口部施設と考えられる。

床 ほぼ平坦である。明確な硬化面は確認されていない。

ピット 2か所。P1は深さ68cm, P2は深さ44cmであり, とともに柱穴と考えられる。



第301図 第70号方形竪穴遺構実測図

覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量,炭化物微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片29点(坏2, 甕類27), 須恵器片4点(坏, 高台付坏, 蓋, 甕類), 鉄製品1点(釘)が散在した状態で出土している。いずれも細片であり, 混入したものと考えられる。

所見 時期は, 遺構の形状から中世と考えられる。

第71号方形竪穴遺構(第302図)

位置 調査区南部のC8c7区, 標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部は調査区域外である。長軸3.14m, 短軸2.98mの方形で, 主軸方向はN-3°-Wであり, 壁高は31~42cmで外傾して立ち上がっている。また, 北壁際の中央部にはロームの地山を掘り残したスロープが確認されており, 出入口部施設と考えられる。

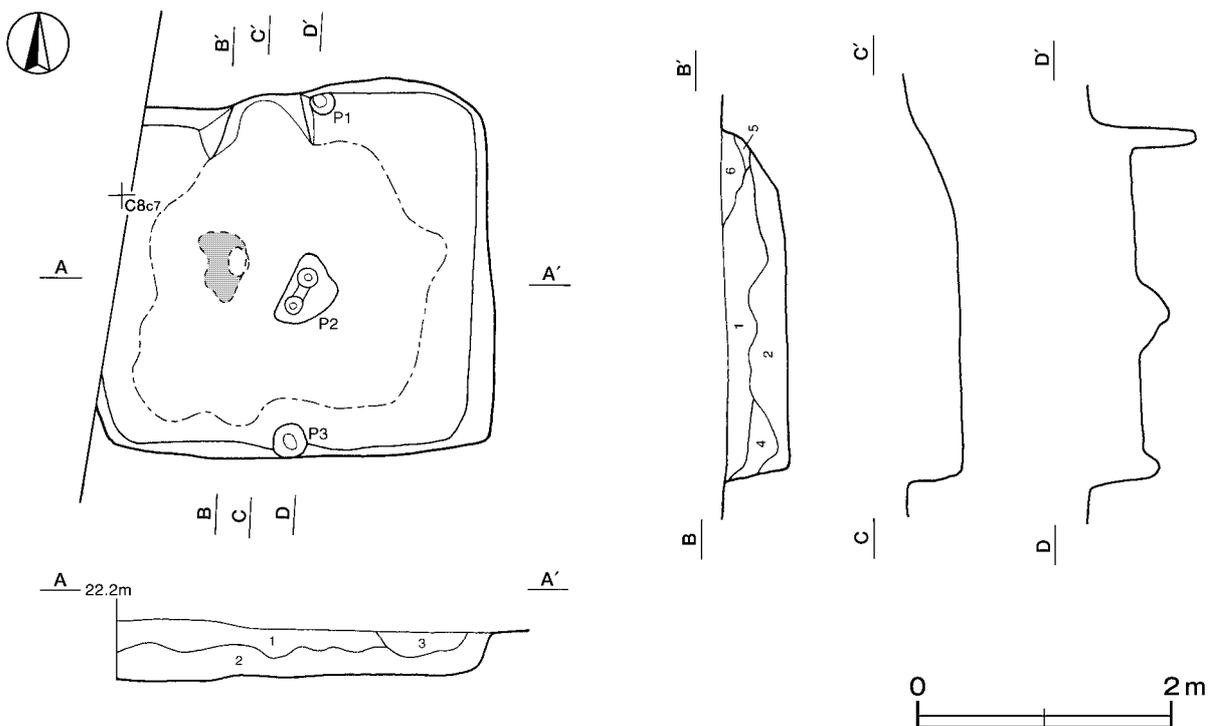
床 ほぼ平坦で中央部が踏み固められている。中央部西側からは, 焼土・炭化物・灰が検出されており, 焼土層は最大で7cmの厚みを有している。

ピット 3か所。P1は深さ51cm, P2は深さ28cm, P3は深さ45cmであり, 直線状に並んでいることから, 柱穴と考えられる。

覆土 6層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック多量 | 5 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量 | 6 明褐色 ローム粒子多量,炭化物少量 |



第302図 第71号方形竪穴遺構実測図

遺物出土状況 土師器片50点（坏9，甕類41），須恵器片13点（坏3，甕類10）が散在した状態で出土している。いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見 中央部西側からは，焼土・炭化物・灰が検出されており，藁などの有機物を燃した痕跡と考えられるが，性格は不明である。時期は，遺構の形状から中世と考えられる。

第72号方形竪穴遺構（第303図）

位置 調査区東部のF 9 b2区，標高18.5mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 南部は調査区域外であり，東西軸は2.88m，南北軸は1.80mほどが確認された。主軸方向N - 70° - Wの方形または長方形と推定される。壁高は28～30cmで外傾して立ち上がっている。また，北壁際の中央部には105cmほど張り出したスロープが確認されており，出入口部施設と考えられる。

床 ほぼ平坦である。北西部から北壁際のスロープにかけて焼土が堆積し，焼土層は3～7cmの厚みを有している。

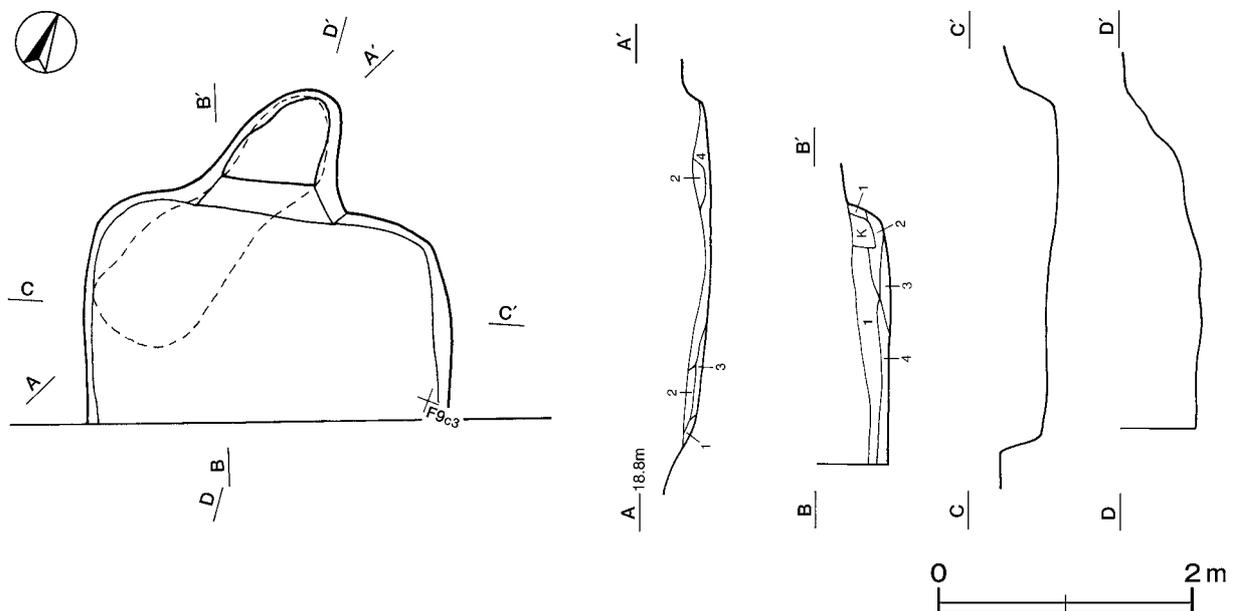
覆土 4層に分けられる。ロームブロックや粘土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|-------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子中量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック少量 | | |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片1点（甕）が覆土中から出土している。細片であり，混入と考えられる。

所見 北西部の床面には焼土の広がりが確認されており，萱などの植物を燃やしたものと考えられるが，性格は不明である。時期は，遺構の形状から中世と考えられる。



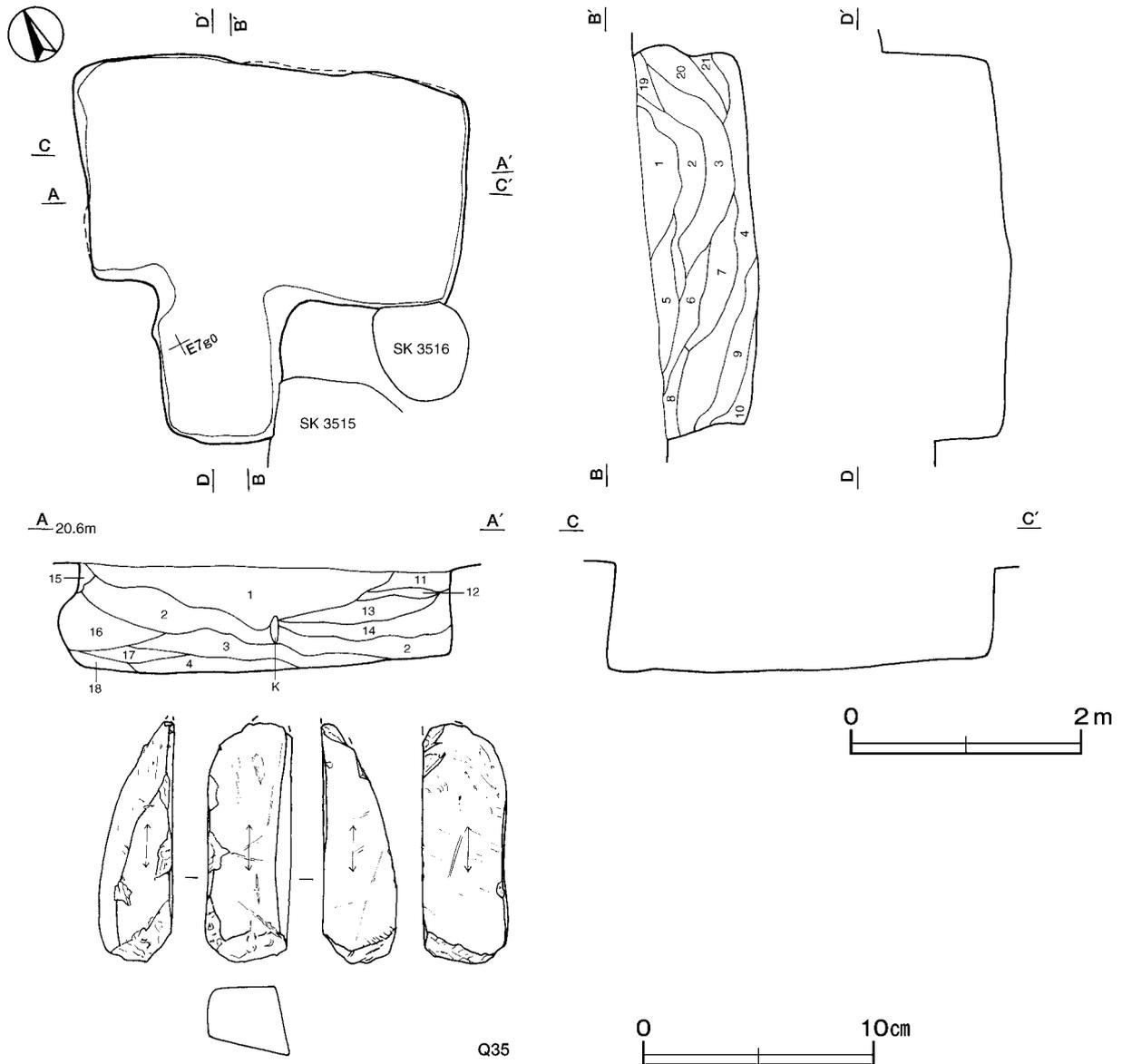
第303図 第72号方形竪穴遺構実測図

(3) 地下式墳

第47号地下式墳（第304図）

位置 調査区南西部のE 7 f0区，標高20.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3515・3516号土坑に掘り込まれている。



第304図 第47号地下式墳・出土遺物実測図

竪坑 主室南壁の西寄りに位置している。規模は、長軸1.33m、短軸1.04mの隅丸長方形である。壁高は62cmで、壁はほぼ直立している。また、底面は緩やかに傾斜して主室に至っている。

主室 長軸3.43m、短軸2.06mの隅丸長方形で、主軸方向はN - 25° - Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは96cmであり、底面は平坦である。

覆土 21層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第4・9・10・18層はローム土を多量に含む褐色土であることから、天井部の崩落土層と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|---------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 12 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 13 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量 | 15 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量 | 17 黒褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 7 極暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量 | 18 褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック中量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量 | 19 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 9 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 20 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 10 褐色 | ロームブロック多量, 粘土粒子中量 | 21 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 11 褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物出土状況 土師器片30点（坏4，高坏1，甕類25），須恵器片2点（坏，甕類），石製品1点（砥石）が出土しているが、いずれも細片であり、混入したものと考えられる。Q35は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の形状から中世と考えられる。

第47号地下式竈出土遺物観察表（第304図）

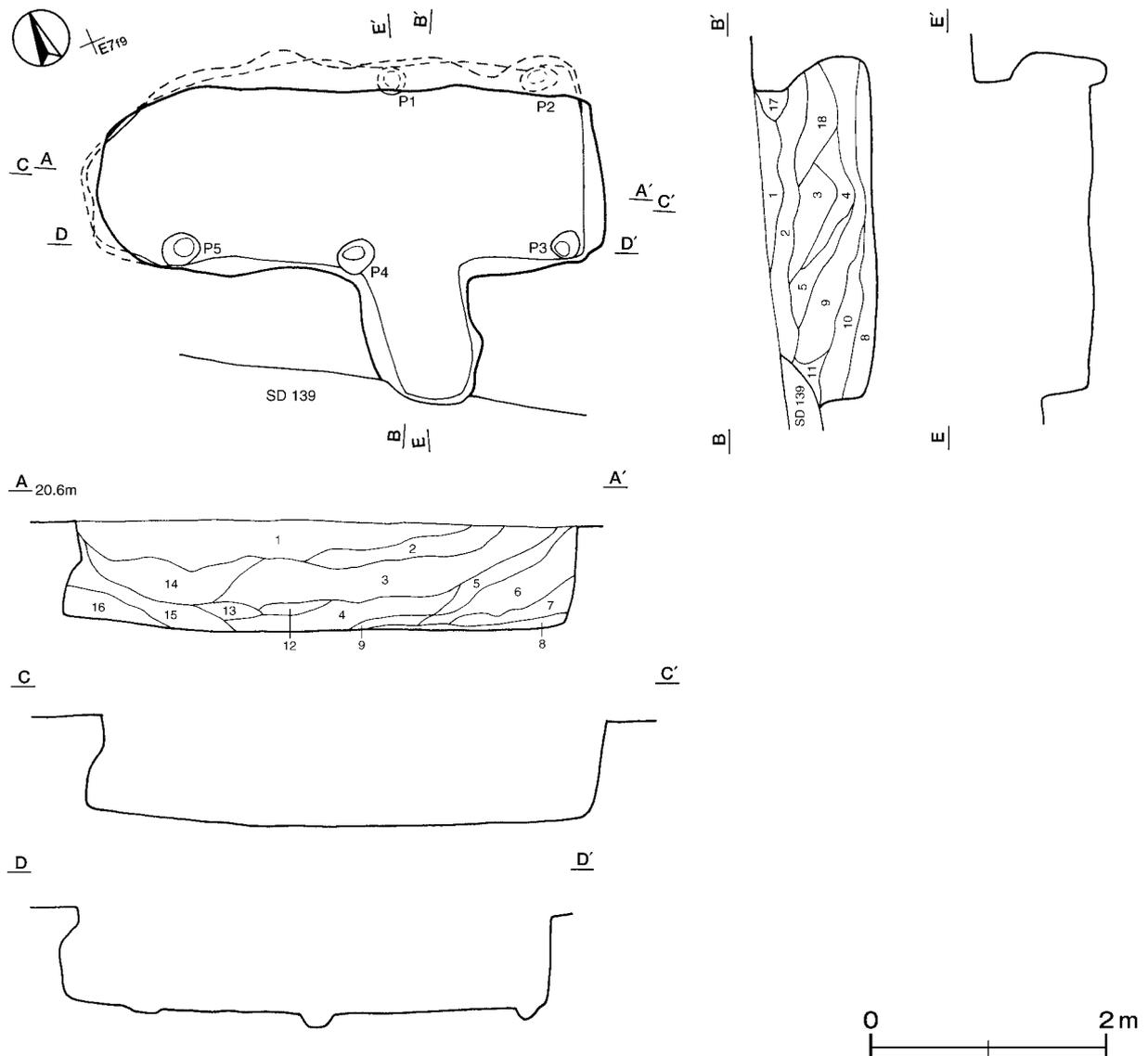
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	砥石	(10.5)	3.8	3.1	(170.2)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL79

第48号地下式竈（第305図）

位置 調査区西部のE7f9区，標高20.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第139号溝に掘り込まれている。

竈坑 主室南壁の東寄りに位置し，上面は長軸1.32m，短軸0.94mの隅丸長方形である。壁高は91cmで，ほぼ直立している。また，底面は緩やかに傾斜して主室に至っている。



第305図 第48号地下式竈実測図

主室 長軸4.36m，短軸1.82mの隅丸長方形で，主軸方向はN - 21° - Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し，確認面からの深さは90cmである。底面は平坦で，5か所のピットが確認されている。P1～P5は深さ3～14cmで南北両壁際に位置しており，天井部の崩落を防いだ支柱穴と考えられる。

覆土 18層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第14・18層はローム土を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	11 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック少量	13 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	14 黒褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック少量
7 褐色	ロームブロック少量，粘土粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック中量
8 褐色	ローム粒子少量，粘土粒子微量	17 褐色	ローム粒子多量
9 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	18 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片18点（坏4，甕類13，甑1），須恵器片4点（坏，高台付坏，甕類，高盤）が出土している。いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見 時期は，遺構の形状から中世と考えられる。

第49号地下式墳（第306図）

位置 調査区南西部のE7g8区，標高20.0mほどの南緩斜面に位置している。

竪坑 主室南壁の東寄りに位置し，上面は長軸1.41m，短軸1.38mの隅丸方形である。壁高は82cmで，ほぼ直立している。

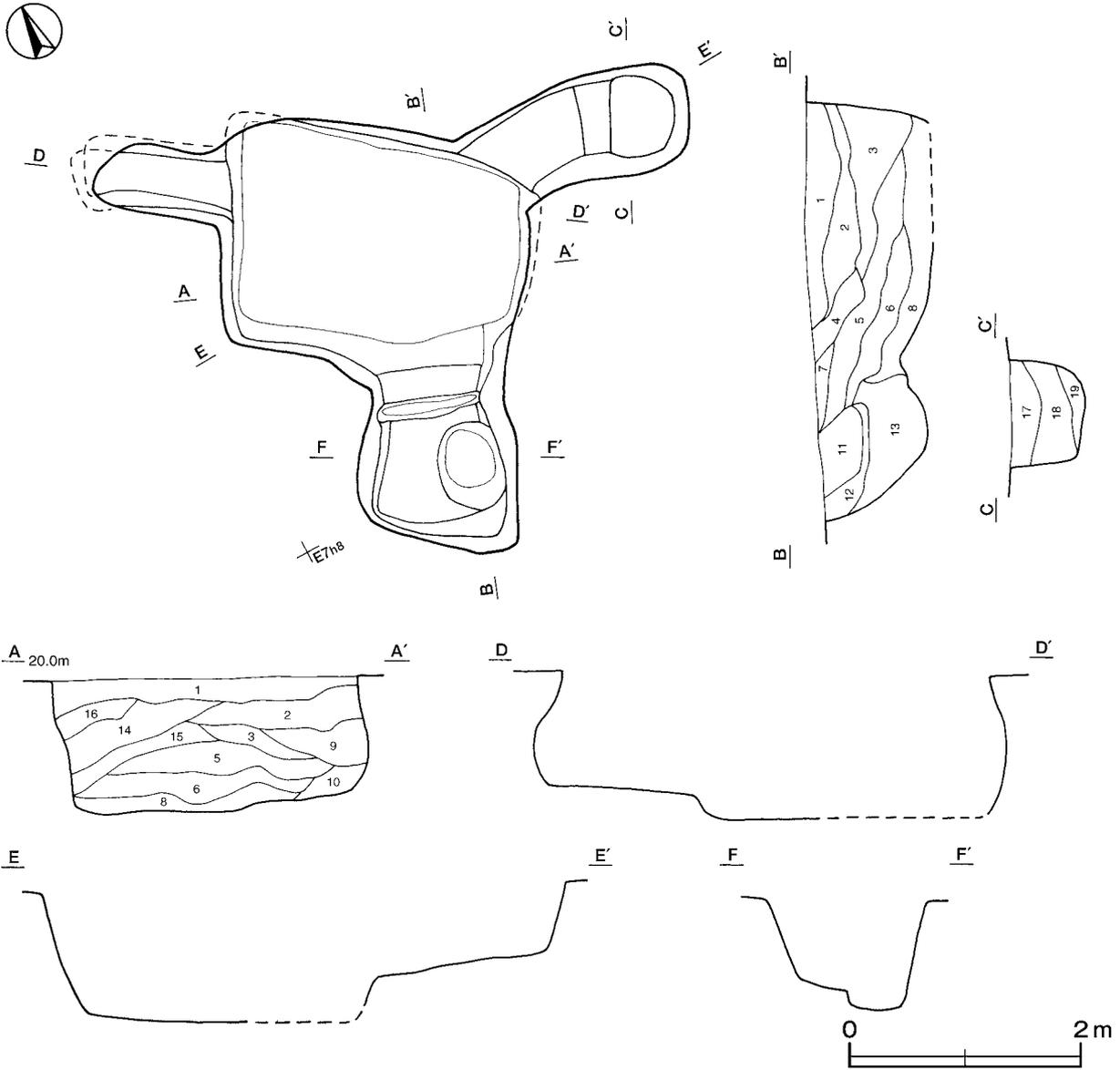
主室 長軸2.75m，短軸2.04mの長方形で，主軸方向はN - 29° - Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し，確認面からの深さは124cmで底面はほぼ平坦である。また，西壁の北寄りとは北壁の東寄りで2か所の掘り込みが確認されている。西壁の掘り込みは，長軸1.2mほど，短軸0.6mほどで，壁高は102cmであり，北壁の掘り込みは，長軸は1.8mほど，短軸は0.9mほどで，壁高は58cmである。

覆土 19層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第9・14層はローム土を多く含むことから，天井部の崩落土層と考えられる。また，第17から19層は北壁掘り込み部の覆土層である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子	13 暗褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量
4 極暗褐色	ロームブロック少量	14 黒褐色	ロームブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量	15 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック少量	16 暗褐色	ロームブロック少量，粘土ブロック微量
7 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	17 黒褐色	ロームブロック中量
8 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック中量，粘土粒子少量
9 暗褐色	ローム粒子中量	19 褐色	ロームブロック少量
10 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		

所見 主室西壁の北寄りとは北壁の東寄りで2か所の掘り込みが確認されている。覆土の堆積状況から，同時期に使用されていたものではなく，以前に機能していた竪坑や横穴の可能性も考えられるが，性格は明確でない。時期は，遺構の形状から中世と考えられる。



第306図 第49号地下式墳実測図

(4) 溝跡

第139号溝跡 (第307図)

位置 調査区南部の E 7 f 8 ~ E 8 h 8 区，標高20.0mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第48号地下式墳，第3412号土坑を掘り込み，第149号溝に掘り込まれている。

規模と形状 N - 65° - Wの方向に斜面に沿って伸びており，東部はS字状に屈曲している。西側は調査区域外に伸び，調査された長さは44.6mで，上幅32 ~ 120cm，下幅10 ~ 20cm，深さ37 ~ 75cmである。断面はU字状で，中央部が深く掘り込まれている。壁は外傾して立ち上がっている。東部に接する第141号溝と接続する可能性が考えられる。

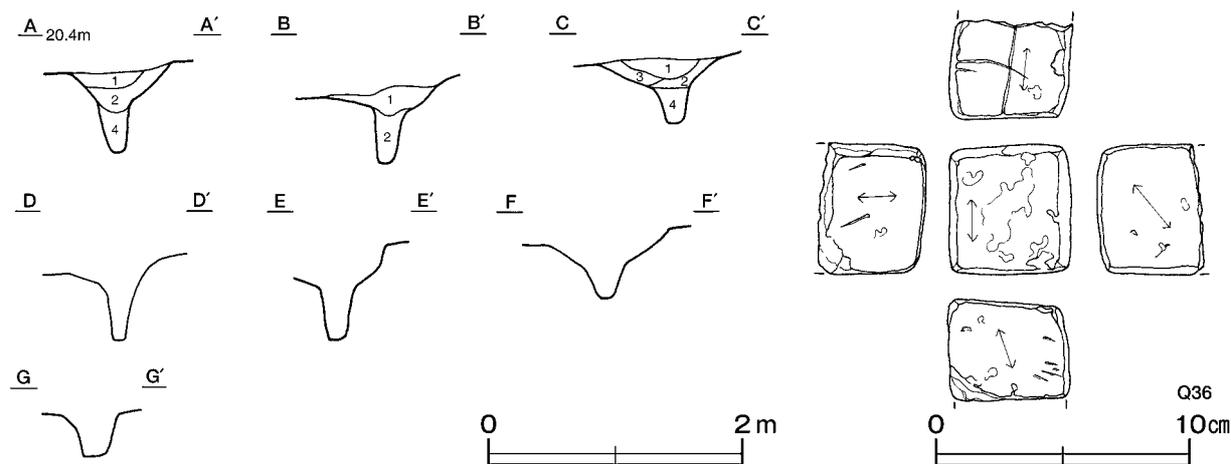
覆土 4層に分けられる。第2 ~ 4層が埋め戻された後に第1層が自然堆積したと考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片126点（坏33，高坏1，甕類92），須恵器片14点（坏5，高台付坏1，甕類8），土師質土器2点（土鍋カ），瓦2点（棧瓦），陶器片9点（茶碗），磁器片4点（茶碗2，徳利1，猪口1），鉄滓2点，石器1点（砥石）が散在した状態で出土しており，いずれも細片である。Q36は，西部の覆土中から出土している。

所見 南側では多数の墓坑や火葬土坑，地下式壙などが検出されているが，墓域を区画した溝の可能性や，傾斜面への肩部の根切り溝とも考えられる。中世と考えられる地下式壙を掘り込んでいることや出土土器から，時期は中世以降と考えられる。



第307図 第139号溝跡・出土遺物実測図

第139号溝跡出土遺物観察表（第307図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	砥石	(5.2)	(4.8)	4.2	(184.4)	凝灰岩	砥面5面	覆土中	PL79

第140号溝跡（第308図）

位置 調査区南部のE7f8～E8i4区，標高20.0mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3379号土坑に掘り込まれている。第147号溝と重複しているが，新旧関係は明確でない。

規模と形状 N-63°-Wの方向に直線的に延び，東端はL字状に屈曲している。西側は調査区域外に延び，調査された長さは26.4mで，上幅28～108cm，下幅8～78cm，深さ10～12cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

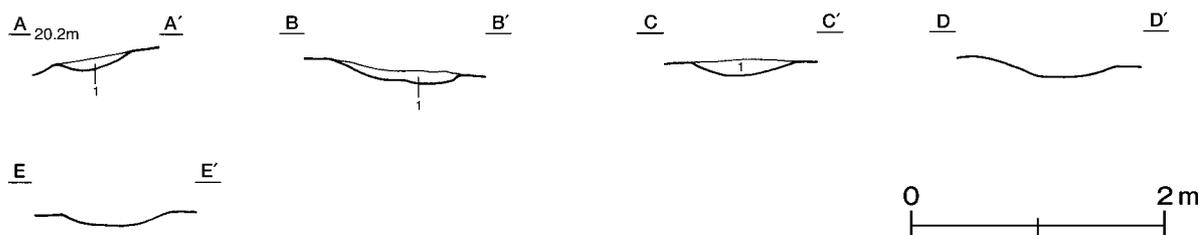
覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 須恵器片1点（坏）が出土している。

所見 南側では多数の墓坑や火葬土坑，地下式壙などが検出されているが，第139号溝と同様の根切り溝と考えられる。



第308図 第140号溝跡実測図

第141号溝跡 (第309図)

位置 調査区南部のE 8 i 8 ~ E 9 g 3 区, 標高20.0mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 N - 70° - E の方向に斜面に沿って直線的に延びている。東側は調査区域外に延び, 調査された長さは20.3mで, 上幅44 ~ 132cm, 下幅12 ~ 24cm, 深さ6 ~ 36cmである。断面はU字状で, 北側が深く掘り込まれている。壁は外傾して立ち上がっている。

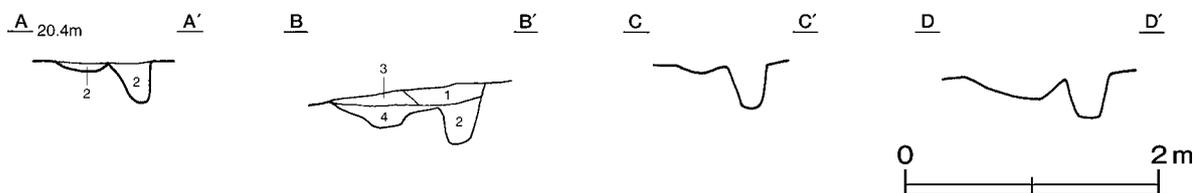
覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含み, 不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片2点(坏), 瓦1点(棧瓦)が散在した状態で出土しており, いずれも細片である。

所見 南側では墓坑や火葬土坑, 地下式墳, 方形竪穴遺構などが検出されていることや, 西側に延びる第234号溝跡に形状や掘り方が類似していることなどから連結する溝とも考えられ, 根切り溝のほか墓域を区画した溝の可能性も考えられる。掘り返しの痕跡が明確に残っている。



第309図 第141号溝跡実測図

第143号溝跡 (第310図)

位置 調査区南西部のE 8 d 1 ~ E 8 g 1 区, 標高20.0 ~ 20.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第139号溝跡と重複しているが, 新旧関係は明確でない。

規模と形状 N - 11° - E の方向に直線的に延び, 南端は第139号溝と連結している。調査された長さは11.7mで, 上幅96 ~ 220cm, 下幅48 ~ 72cm, 深さ6 ~ 18cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

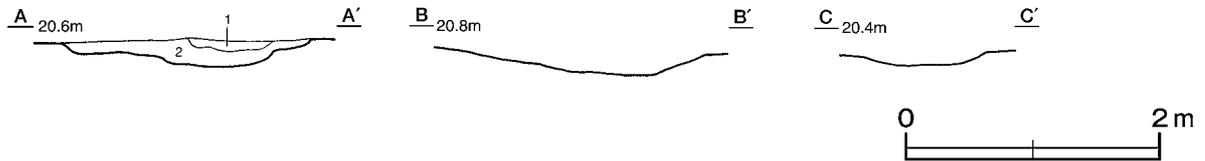
覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | |
|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片21点(坏2, 高坏1, 甕類18), 土師質土器1点(土鍋カ), 鉄滓1点が散在した状態で出土しており, いずれも細片である。

所見 遺物が細片であるため時期判断は困難であるが、南端が第139号溝と連結していることから、同様に中世以降の区画溝の可能性が考えられ、第142号溝との密接な関連が想定される。



第310図 第143号溝跡実測図

第144号溝跡 (第311図)

位置 調査区南部の E 8 j 2 ~ F 8 a 8 区、標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第2435・2436号住居跡、第3488号土坑を掘り込み、第147号溝に掘り込まれている。

規模と形状 E - 27° - S の方向に斜面に沿って弓状に延びている。調査された長さは27.4mで、上幅104~132cm、下幅12~30cm、深さ36~52cmである。断面はU字状で、北側が深く掘り込まれている。壁は外傾して立ち上がっている。

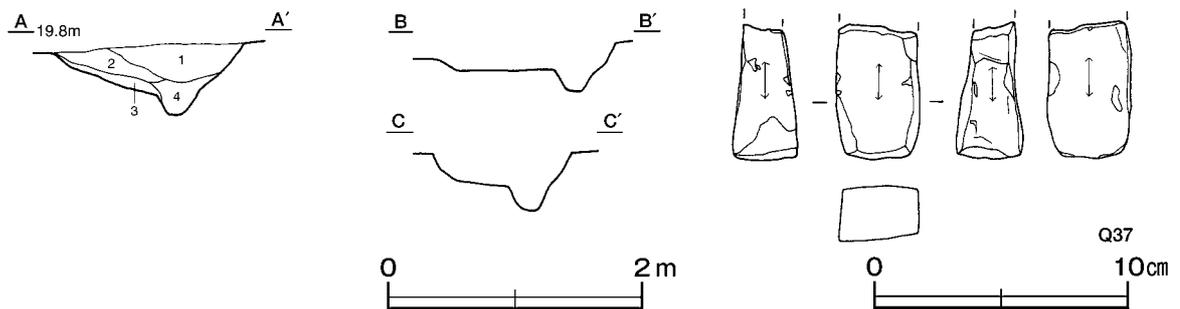
覆土 4層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師器片116点(坏16,高台付坏1,高坏1,甕類98),須恵器片18点(坏2,甕類16),瓦1点(棧瓦),石器1点(砥石)が散在した状態で出土しており、いずれも細片である。Q37は覆土中から出土している。

所見 南側では多数の墓坑や火葬土坑が検出されていることや、北側の東西方向に延びる第139・141号溝跡に形状や掘り方が類似していることなどから根切り溝の可能性が考えられ、掘り返しされている。



第311図 第144号溝跡・出土遺物実測図

第144号溝跡出土遺物観察表 (第311図)

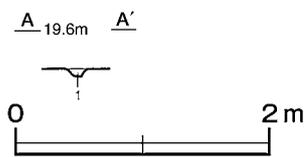
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	砥石	(5.4)	3.2	2.2	(63.2)	凝灰岩	上部欠損 砥面4面	覆土中	

第146号溝跡 (第312図)

位置 調査区部の E 8 j 1 ~ F 8 a 1 区, 標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3484・3487・3489号土坑を掘り込み, 第3398号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 S - 35° - Wの方向に直線的に延びている。北端を第3398号土坑に掘り込まれており, 調査された長さは5.50mである。規模は, 上幅13~40cm, 下幅4~20cm, 深さ6~9cmであり, 断面はU字状を呈し, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。



第312図 第146号溝跡実測図

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

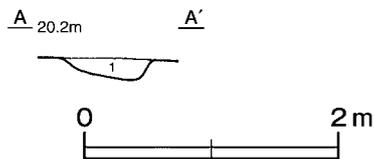
所見 遺物が出土していないため時期判断は困難であるが, 重複関係から時期は中世と考えられる。

第147号溝跡 (第313図)

位置 調査区部の E 8 i 2 ~ E 8 j 2 区, 標高20.0mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第144号溝跡を掘り込んでいる。第140号溝と重複しているが, 新旧関係は明確でない。

規模と形状 第140号溝から分岐して S - 22° - Wの方向に直線的に延び, 南端は第144号溝に至っている。調査された長さは3.7mで, 上幅60~74cm, 下幅14~32cm, 深さ10~14cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。



第313図 第147号溝跡実測図

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量

所見 遺物が出土していないため時期判断は困難であるが, 第140号溝と第144号溝をつなぐ位置にあり, 第144号溝の掘り返し溝と連結する可能性が高く, 緩斜面部の小区画の溝と考えられる。

第148号溝跡 (第314図)

位置 調査区南西部の E 7 h 0 ~ E 8 i 2 区, 標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第2440号住居跡を掘り込み, 第3393・3400・3401・3481号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 N - 55° - Wの方向に直線的に延びている。調査された長さは6.6mで, 上幅90~186cm, 下幅70~94cm, 深さ6~12cmである。断面はU字状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

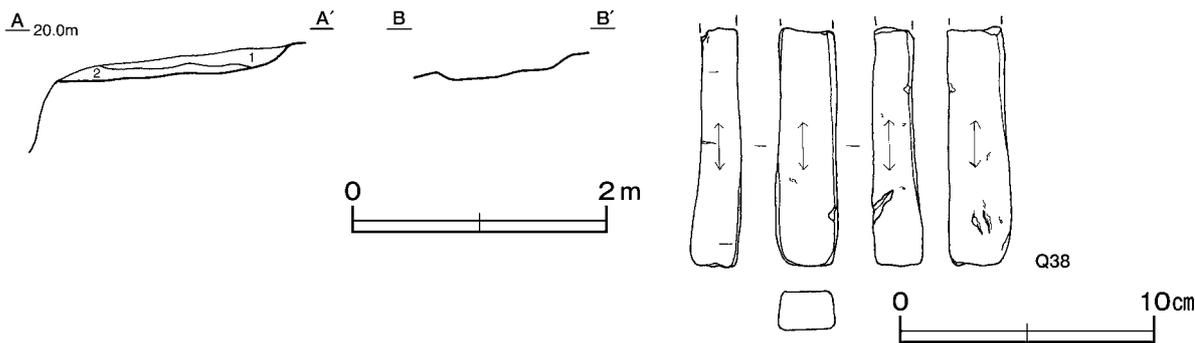
覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片26点(坏5, 甕類21), 須恵器片4点(蓋1, 甕類3), 瓶類1点, 石器1点(砥石)が散在した状態で出土しているが, いずれも細片である。Q38は東部の覆土中から出土している。

所見 土器が出土していないため, 時期は不明であるが, 7世紀前葉に比定される第2440号住居跡を掘り込んでいることから, 7世紀中葉以降に機能していたと考えられる。また, 本溝は東方向に延びる第144号溝との密接な関係も想定される。



第314図 第148号溝跡・出土遺物実測図

第148号溝跡出土遺物観察表（第314図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	砥石	(9.4)	2.4	1.9	(76.8)	凝灰岩	上部欠損 砥面4面	覆土中	PL79

第149号溝跡（第315図）

位置 調査南部区部のE 8 f 5 ~ E 8 h 5 区，標高20.5mほどの南緩斜面に位置している。

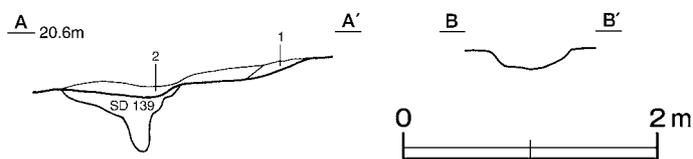
重複関係 第139号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 N - 7° - E の方向に直線的に延び，南端は第139号溝と連結している。調査された長さは5.9mで，上幅34 ~ 68cm，下幅16 ~ 38cm，深さ12cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量



第315図 第149号溝跡実測図

所見 遺物が出土していないため時期判断は

困難であるが，南端が第139号溝に至っていることから，第139号溝に付随する区画溝の可能性が考えられる。

(5) 火葬土坑

第3385号土坑（第316図）

位置 調査区南西部のE 7 i 7 区，標高19.0mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 楕円形と円形を連結した形状を呈し，長径方向はN - 51° - Wである。燃烧部は主軸と直交する長径0.72m，短径0.44mの楕円形で，深さは12cmである。通気溝は主軸方向と平行し，長さは60cmほどで，上幅24cm，下幅10cm，深さ24cmである。

底面 燃烧部の中央は10cmほど楕円形に掘りくぼめられており，焼土や炭化物が堆積し，少量の骨片も検出されている。また，底面や壁面の一部は火を受けて赤変している。通気溝はU字状の断面形を呈しており，底面には炭化物が堆積している。

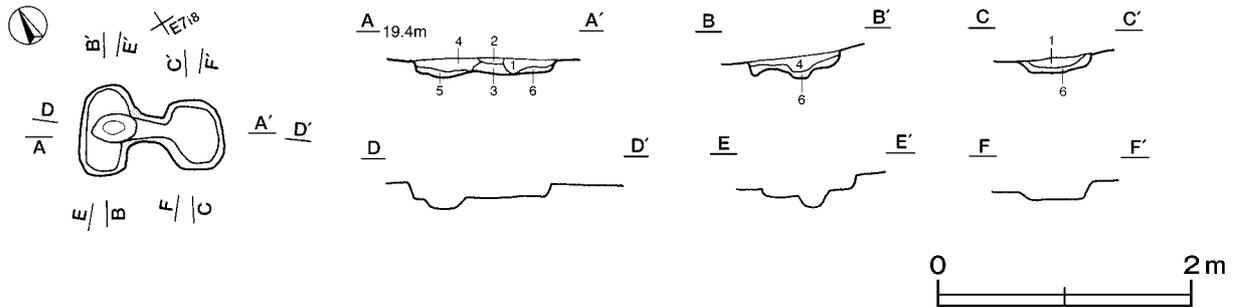
覆土 6層に分けられ，第1 ~ 5層は焼土・炭化物の堆積層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 4 極暗褐色 炭化物・粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 5 黒褐色 炭化物多量, 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 炭化物中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 6 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 焼土部の底面および覆土中から, 少量の骨片が検出されている。

所見 焼土部の底面に焼土や炭化物が堆積して骨片も検出されていることから, 火葬施設と考えられる。時期は, 遺構の形状から中世と考えられる。



第316図 第3385号土坑実測図

第3436号土坑 (第317図)

位置 調査区南西部のE 7 h8 区, 標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3438号土坑を掘り込んでいる。

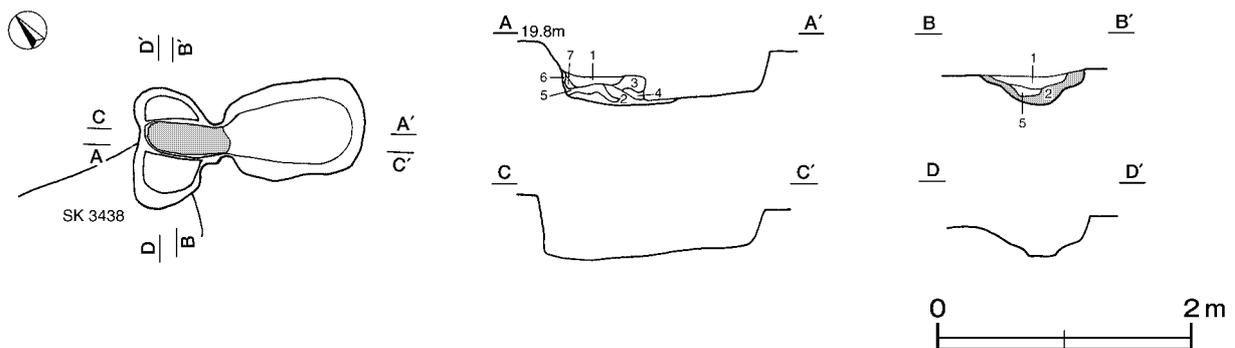
規模と形状 楕円形を連結したような形状を呈し, 長径方向はN - 46° - Wである。焼土部は主軸と直交する長径0.96m, 短径0.56mの楕円形で, 深さは32cmである。通気溝は主軸方向と平行し, 長さは70cmほどで, 上幅30cm, 下幅21cm, 深さ46cmである。

底面 焼土部の床面には焼土や炭化物が堆積し, 少量の骨片も検出されている。また, 壁面の一部は火を受けて赤変している。通気溝はU字状の断面形を呈しており, 緩やかに傾斜して焼土部に至っている。底面には炭化物が堆積している。

覆土 7層に分けられる。第2～7層は焼土・炭化物の堆積層であり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子多量 |
| 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量 | 7 黒色 炭化粒子・灰中量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量 | |



第317図 第3436号土坑実測図

遺物出土状況 燃焼部の底面や覆土中から、少量の骨片が検出されている。

所見 燃焼部の底面に焼土や炭化物が堆積して骨片も検出されていることから、火葬施設と考えられる。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。

第3437号土坑（第318図）

位置 調査区南西部のE 7 h8区、標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3438号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 楕円形と長方形を連結した形状を呈し、長径方向はN - 57° - Wである。燃焼部は主軸と直交する長径0.92m、短径0.41mの楕円形で、深さは18cmである。通気溝は主軸方向と平行し、長さは65cmほどで、上幅26cm、下幅20cm、深さ10cmである。

底面 燃焼部の床面には炭化物が堆積し、少量の骨片も検出されている。また、底面や壁面の一部は火を受けて赤変している。通気溝はU字状の断面形を呈しており、緩やかに傾斜して燃焼部に至っている。

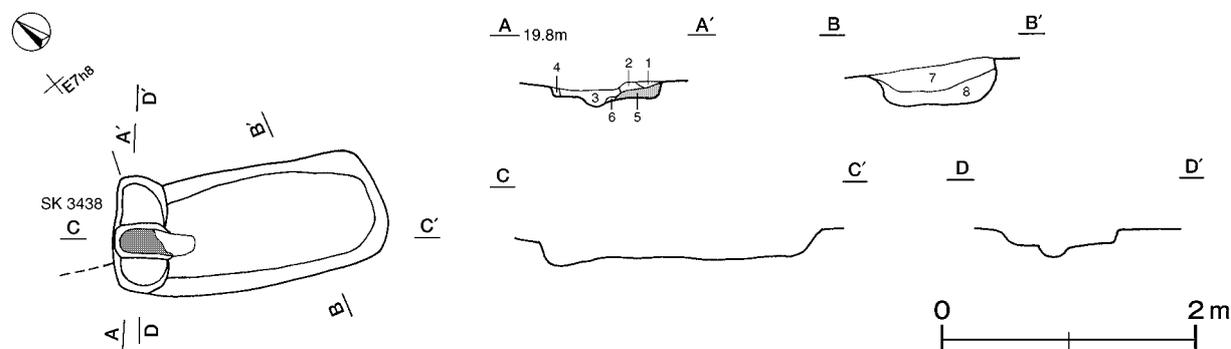
覆土 8層に分けられる。第2～6層は焼土や炭化物の堆積層であり、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|--------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 3 黒色 | 炭化物中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 燃焼部の底面や覆土中から、少量の骨片が検出されている。

所見 燃焼部の底面に焼土や炭化物が堆積して骨片も検出されていることから、火葬施設と考えられる。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第318図 第3437号土坑実測図

第3446号土坑（第319図）

位置 調査区南部のF 9 b2区、標高19.0mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 長径0.98m、短径0.66mの楕円形である。長径方向はN - 48° - Eで、深さは7cmである。

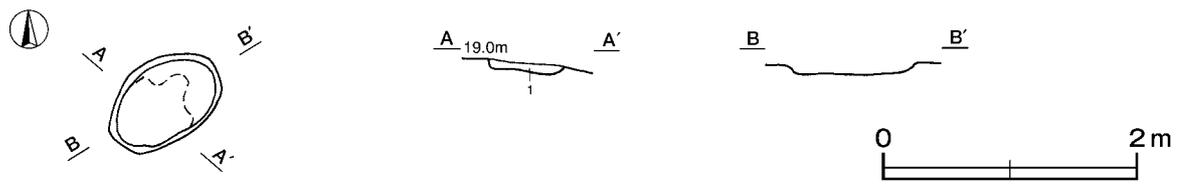
底面 ほぼ平坦で、中央部から南部に焼土が堆積している。

覆土 単一層である。第1層は底面に堆積した焼土の層である。

土層解説

- | | |
|---------|------------------------------|
| 1 にぶい褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物
微量 |
|---------|------------------------------|

所見 骨片などは確認されていないが、底面に焼土が堆積していることや、周囲からは火葬土坑や方形竪穴遺構が検出されていることから、中世以降の火葬施設の可能性が高い。



第319図 第3446号土坑実測図

第3447号土坑（第320図）

位置 調査区南部のF 9 b3区，標高18.5mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸2.06m，短軸0.82mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 70° - Wである。深さは18cmで，外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦で，焼土や炭化物が堆積し，底面や壁面の一部は火を受けて赤変している。また，南東部からは深さ17cmで円形のピットが確認されているが，性格は不明である。

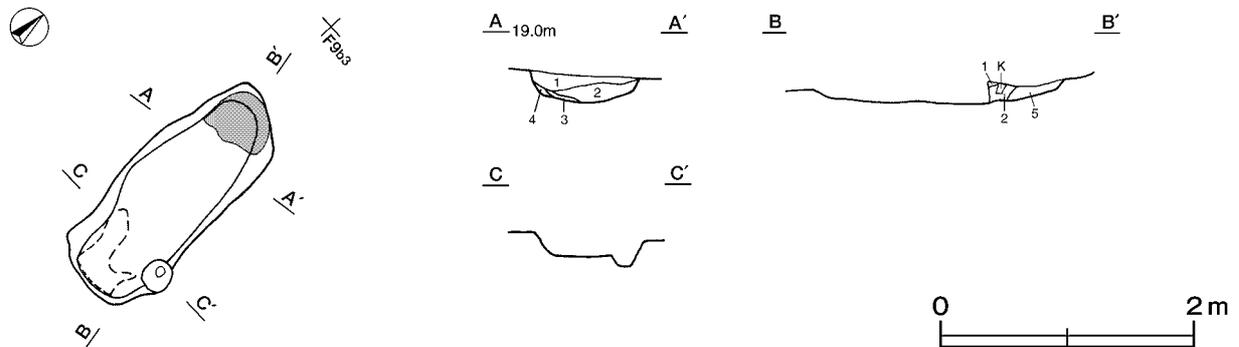
覆土 5層に分けられ，第2・3層は焼土，第5層は炭化物の堆積層である。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量 | 4 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量 | |
| 3 にぶい褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量 | 5 黒色 炭化物中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片2点（甕類）が出土しているが，細片で混入したものと考えられる。

所見 骨片などは確認されていないが，底面や壁面が火を受けて赤変していることや周囲から火葬土坑や方形竪穴遺構が検出されていることから，中世以降の火葬施設の可能性が高い。



第320図 第3447号土坑実測図

第3449号土坑（第321図）

位置 調査区南部のF 8 b8区，標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3552号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 楕円形を連結した形状を呈し，主軸方向はN - 87° - Eである。燃烧部は主軸と直交する長径0.91m，短径0.58mの楕円形で，深さは12cmである。通気溝は主軸方向と平行し，長さは85cmで，上幅33cm，下幅10cm，深さ28cmである。

底面 燃烧部の北部からは棒状の炭化材が検出されており，底面および壁面は火を受けて赤変している。通気溝はU字状の断面形を呈している。

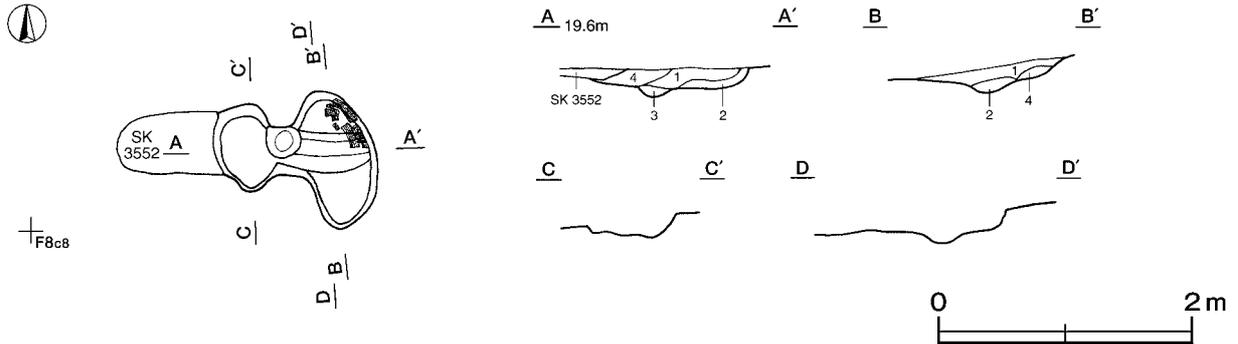
覆土 4層に分けられる。いずれも焼土および炭化物の堆積層である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物多量, 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 3 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子中量 |
| 2 暗褐色 炭化材多量, 焼土ブロック中量 | 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |

遺物出土状況 燃烧部の底面から骨片が検出されている。

所見 燃烧部の底面に焼土や炭化材が堆積して骨片も出土していることから, 火葬施設と考えられる。時期は, 遺構の形状から中世と考えられる。



第321図 第3449号土坑実測図

第3455号土坑 (第322図)

位置 調査区南東部のF 9 a1区, 標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3454号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 楕円形を連結した形状を呈し, 主軸方向はN - 33° - Wである。燃烧部は楕円形で主軸と直交し, 深さは12cmである。西側を第3454号土坑に掘り込まれており, 長径は0.8m, 短径は0.5mが確認されている。

通気溝は主軸方向と平行し, 長さは70cmほどで, 上幅27cm, 下幅17cm, 深さ18cmである。

底面 燃烧部の底面には焼土や炭化物が堆積し, 少量の骨片も検出されている。通気溝はU字状の断面形を呈しており, 底面には焼土や炭化物が堆積している。

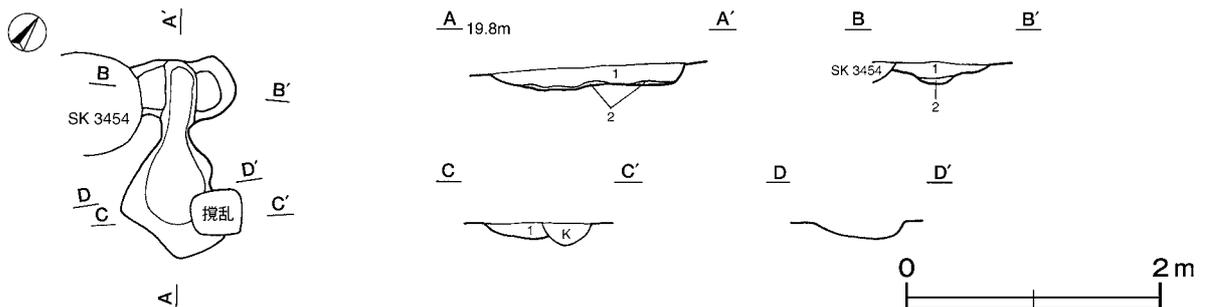
覆土 2層に分けられる。第2層は焼土・炭化物の堆積層である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量, ローム粒子少量 |
|---------------------------|-----------------------------|

遺物出土状況 燃烧部の底面や覆土中から, 少量の骨片が検出されている。

所見 燃烧部の底面に焼土や炭化物が堆積して骨片も検出されていることから, 火葬施設と考えられる。時期は, 遺構の形状から中世と考えられる。



第322図 第3455号土坑実測図

第3497号土坑（第323図）

位置 調査区南西部のF 7 a 0 区，標高19.0mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 楕円形を連結した形状を呈し，主軸方向はN - 54° - Wである。燃烧部は主軸と直交する長径0.82m，短径0.48mの楕円形で，深さは34cmである。通気溝は主軸方向と平行し，長さは60cmほどで，上幅31cm，下幅23cm，深さ48cmである。

底面 燃烧部の底面には炭化物が堆積し，少量の骨片も検出されている。また，底面や壁面の一部は火を受けて赤変している。通気溝はU字状の断面形を呈しており，底面は火を受けて赤変している。

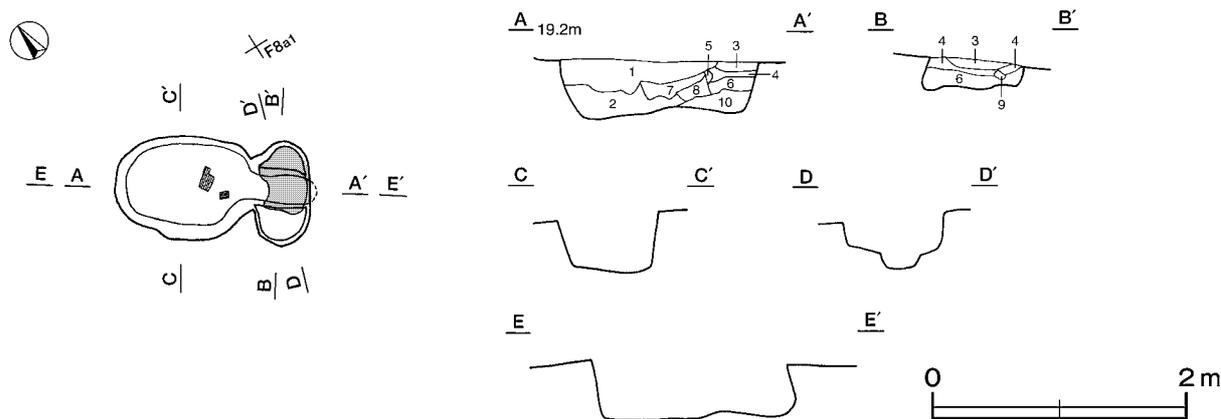
覆土 10層に分けられ，第8～10層は焼土および炭化物の堆積層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化材・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック多量，焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，粘土粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量，粘土粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 炭化物中量，ローム粒子微量 |

遺物出土状況 燃烧部の底面や覆土中から，少量の骨片が検出されている。

所見 燃烧部の底面には炭化物が堆積して骨片も検出されていることから，火葬施設と考えられる。時期は，遺構の形状から中世と考えられる。



第323図 第3497号土坑実測図

(6) 墓坑

第3306号土坑（第324図）

位置 調査区北部のC 9 b1 区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2400号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.98m，短径0.94mの円形で，長径方向はN - 22° - Eである。深さは70cm，底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

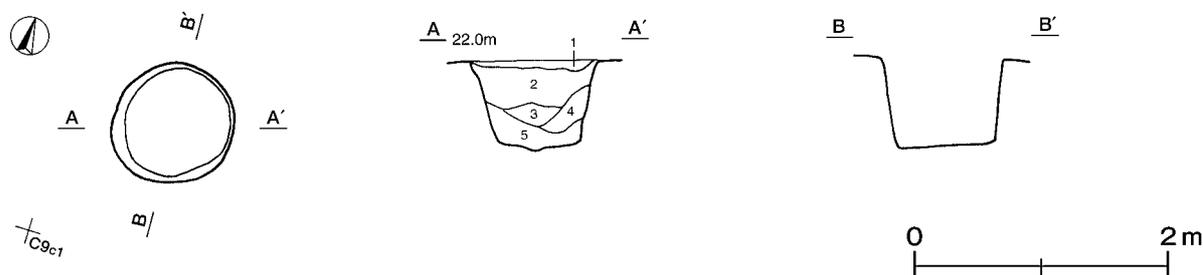
覆土 5層に分けられる。ロームブロックや炭化物を含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片23点（坏8，甕類15），須恵器片2点（坏），磁器片1点（不明）が出土しているが，いずれも細片である。また，覆土中からは骨片が検出されている。

所見 埋め戻された堆積状況や覆土中から骨片が検出できることから，墓坑と考えられる。時期は中世以降と考えられ，北・西側では方形竪穴遺構が検出されている。



第324図 第3306号土坑実測図

第3327号土坑（第325図）

位置 調査区北部のC 8 c8区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東側に攪乱を受けている。長径1.05m，短径0.97mの楕円形で，長径方向はN - 41° - Eである。深さは12cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

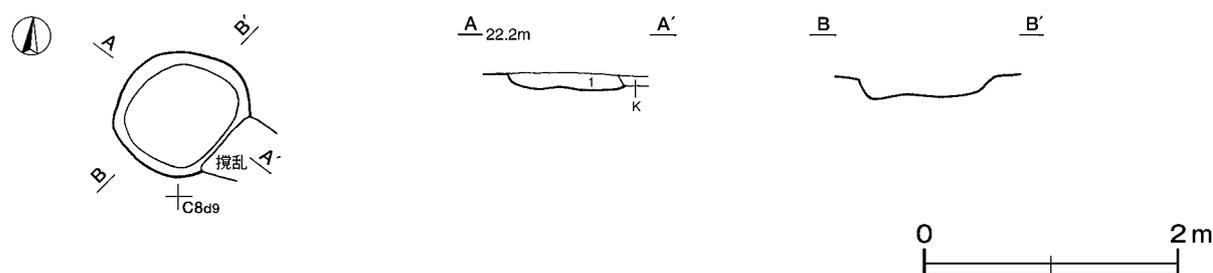
覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は明確ではないが，炭化物や焼土を含む人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点（甕類），須恵器片2点が出土しているが，いずれも細片であり，混入したものと考えられる。また，覆土中からは骨片が検出されている。

所見 覆土中から骨片が検出されていることから墓坑と考えられる。時期は中世以降と考えられ，西側からは方形竪穴遺構が検出されている。



第325図 第3327号土坑実測図

第3391号土坑（第326図）

位置 調査区南西部のE 7 h9区，標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 長径1.92m，短径1.30mの楕円形で，長径方向はN - 53° - Wである。底面は平坦で，焼土の広がり確認されている。深さは6cmであり，層厚が薄いため立ち上がりは不明である。

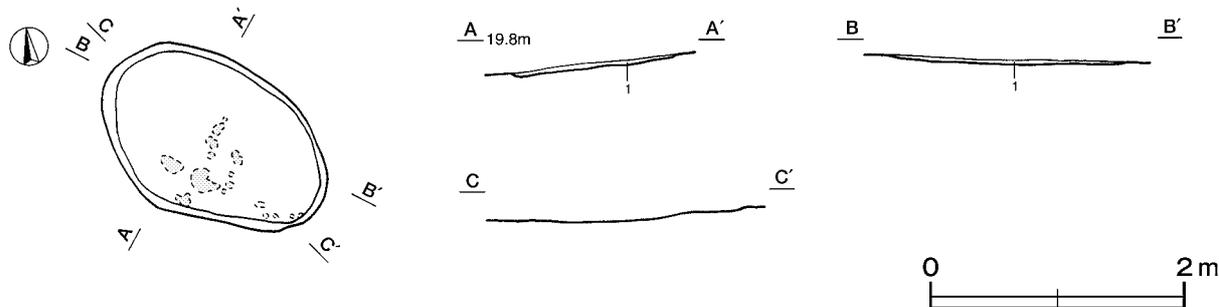
覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は明確でないが，ロームブロックや焼土ブロックを含む人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量 焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片7点(坏3, 甕類4)が出土しているが, いずれも細片であり, 混入したものと考えられる。

所見 床面で焼土の広がり確認されていることや, 周囲に多数の墓坑が検出されていることなどから, 火葬墓坑と考えられる。時期は中世以降と考えられ, 北側や西側では地下式墳が検出されている。



第326図 第3391号土坑実測図

第3398号土坑 (第327図)

位置 調査区南西部のE 8 j1区, 標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸1.44m, 短軸1.14mの隅丸長方形で, 長軸方向はN - 27° - Eである。深さは34cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で, 北部で炭化物の広がりが確認されている。また, 中央部の南寄りでは深さ17cmのピットが確認されているが, 性格は不明である。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含み, 不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

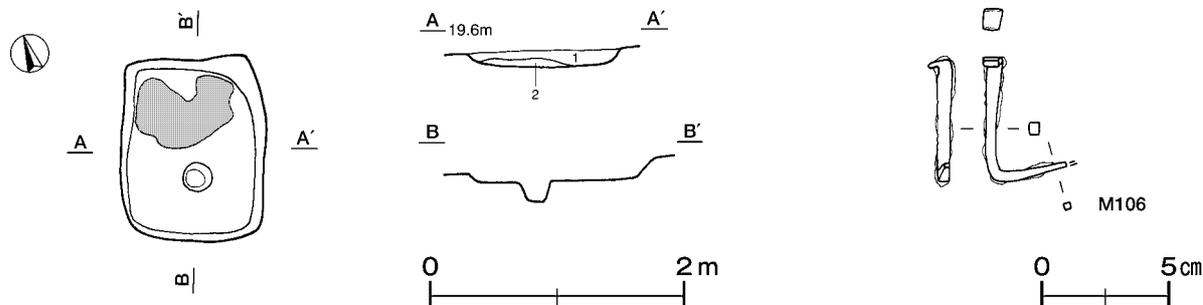
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類), 鉄製品1点(釘)が出土しており, M106は南部の底面から出土している。

所見 底面に炭化物の広がりが確認されていることや, 周囲には多数の墓坑が検出されていることから, 中世以降の墓坑と考えられる。また, 規模や長軸方向, ピットを有する構造が東側の第3399号土坑と類似しており, ほぼ同じ時期に一群を形成していた可能性がある。



第327図 第3398号土坑・出土遺物実測図

第3398号土坑出土遺物観察表 (第327図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M106	釘	(7.6)	0.7	0.5	7.4	鉄	断面長方形の棒状 中位で屈曲	底面	PL81

第3399号土坑（第328図）

位置 調査区南部の E 8 j2 区，標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3488号土坑を掘り込んでいる。

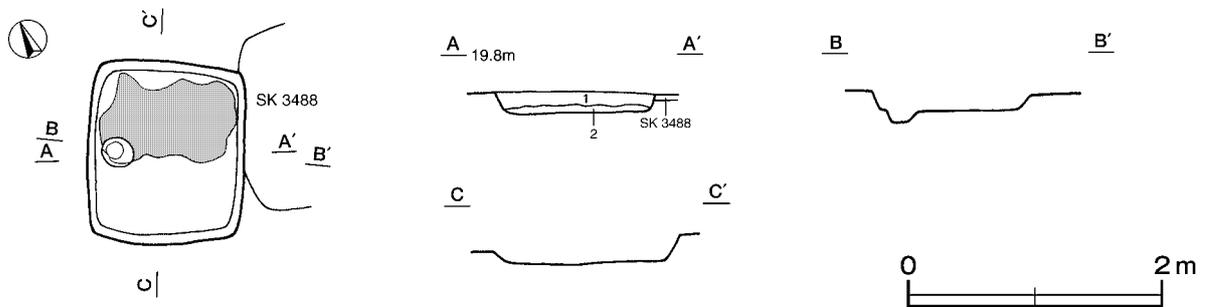
規模と形状 長軸1.46m，短軸1.26mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 27° - Eである。深さは24cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，北部で炭化物の広がり確認されている。また，東壁際の中央部から深さ11cmのピットが確認されているが，性格は不明である。

覆土 2層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 2 黒褐色 炭化粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

所見 底面に炭化物の広がりが確認されていることや，周囲には多数の墓坑が検出されていることから，中世以降の墓坑と考えられる。規模や長軸方向，ピットを有する構造が西側の第3398号土坑と類似していることから，ほぼ同じ時期に一群を形成していた可能性がある。



第328図 第3399号土坑実測図

第3406号土坑（第329図）

位置 調査区南西部の E 7 g9 区，標高20.0mほどの南緩斜面に位置している。

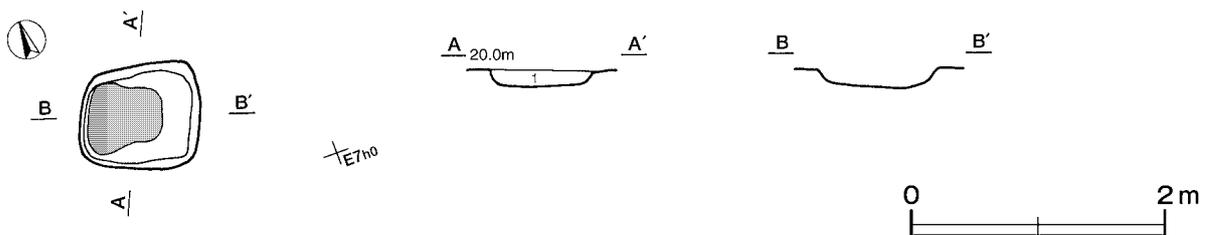
規模と形状 長軸0.96m，短軸0.82mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 68° - Wである。深さは12cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，中央部から西部では炭化物の広がりが確認されている。

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は明確でないが，ロームブロックを含む人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

所見 床面に炭化物の広がりが確認されていることから，中世以降の墓坑と考えられる。北・西側では地下式墳が検出されている。



第329図 第3406号土坑実測図

第3426号土坑（第330図）

位置 調査区南西部のE 8 j 1区，標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3606号土坑を掘り込み，第3598・3599号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.12m，短径0.93mの楕円形で，長径方向はN - 4° - Eである。深さは10cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，中央部では焼土の広がり確認されている。

覆土 4層に分けられる。焼土や炭化物を含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

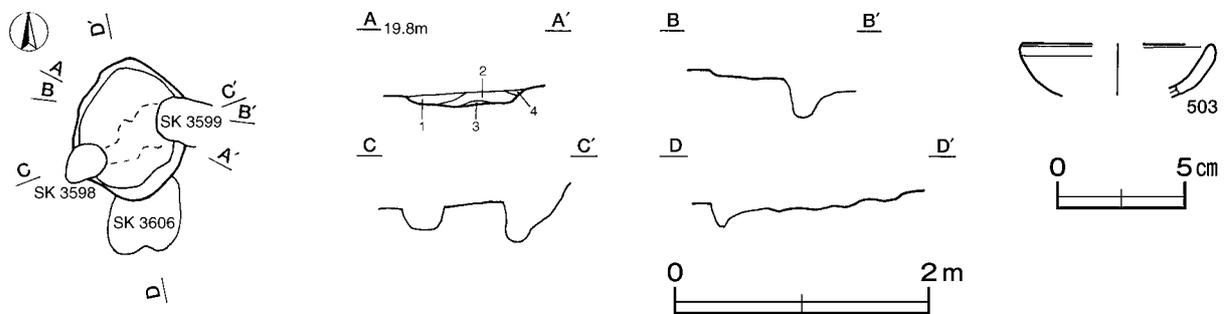
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片6点（坏1，甕類5），土師質土器片2点（小皿）が出土しており，いずれも細片である。503は覆土中から出土している。また，覆土中からは少量の骨片が検出されている。

所見 床面に焼土の広がりが確認され，覆土中からは骨片が検出されていることから，火葬墓坑と考えられる。

時期は，出土土器から中世末から近世と考えられる。



第330図 第3426号土坑・出土遺物実測図

第3426号土坑出土遺物観察表（第330図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
503	土師質土器	小皿	[7.4]	(2.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中	30%

第3429号土坑（第331図）

位置 調査区南部のE 8 j 1区，標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3428号土坑を掘り込み，第3435号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.02m，短軸0.70mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 68° - Wである。深さは38cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

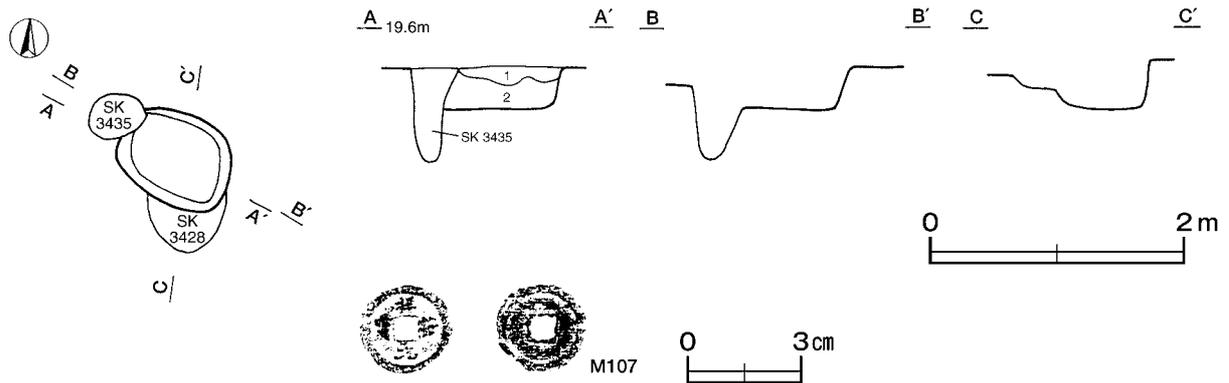
覆土 2層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子中量，ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片3点（甕類），須恵器片1点（坏），鉄製品1点（刀子），古銭1点（祥符元寶）が出土しており，土器はいずれも細片である。M107は覆土中から出土している。

所見 埋め戻された堆積状況や，埋銭と考えられる北宋銭が出土していることから，中世以降の墓坑と考えられる。



第331図 第3429号土坑・出土遺物実測図

第3429号土坑出土遺物観察表（第331図）

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M107	古銭	2.6	0.2	0.6	3.1	銅	祥符元寶 初鑄1008年 北宋	覆土中	PL81

第3448号土坑（第332図）

位置 調査区南部のF 8 c0区，標高19.0mほどの南緩斜面に位置している。

規模と形状 長径1.54m，短径0.84mの不整楕円形で，長径方向はN - 76° - Wである。深さは16cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

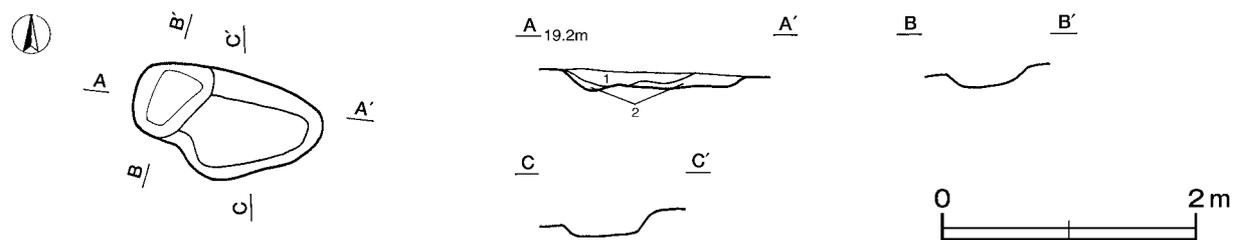
覆土 2層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片5点（甕類）のほか，人骨（歯）が覆土中から検出されている。

所見 周囲から方形竪穴遺構や火葬施設が検出されていることや，覆土中から人骨が検出されていることから，中世以降の墓坑と考えられる。



第332図 第3448号土坑実測図

第3464号土坑（第333図）

位置 調査区南西部のE 7 i9区，標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3465号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.28m，短軸0.82mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 57° - Wである。深さは58cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

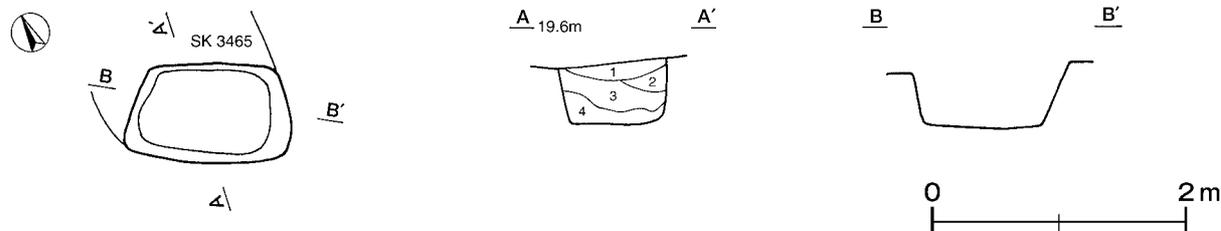
覆土 4層に分けられる。ロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|----------|----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量，粘土粒子少量 | 3 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 4 にぶい橙色 | 粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片6点（坏2，甕類4）のほか，古銭1点（不明）が覆土中から出土している。

所見 古銭は小片であり判読は不能であるが，南側に位置する第3511号土坑からも埋銭と考えられる北宋銭が出土していることから，中世以降の墓坑と考えられる。



第333図 第3464号土坑実測図

第3475号土坑（第334図）

位置 調査区南西部のE7j8区，標高19.0mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3486号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.84m，短軸0.94mの隅丸長方形で，長軸方向はN-29°-Eである。深さは34cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，南部では炭化物の広がりが確認されている。

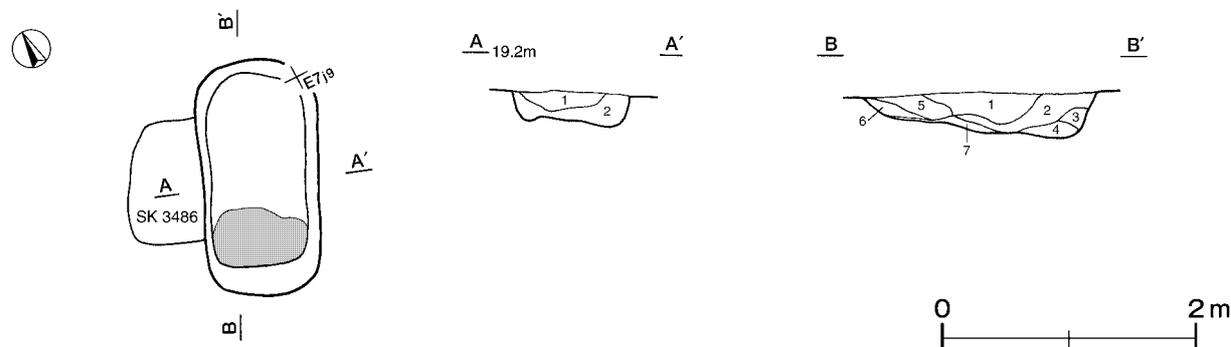
覆土 7層に分けられる。ロームブロックや炭化物を含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 3 黒色 | 炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 7 黒色 | 炭化粒子多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片9点（坏3，甕類6），須恵器片1点（高台付坏）が出土しているが，いずれも細片であり，混入したものと考えられる。

所見 床面に炭化物の広がりが確認されていることや，周囲から多数の墓坑が検出されていることなどから，中世以降の墓坑と考えられる。



第334図 第3475号土坑実測図

第3488号土坑（第335図）

位置 調査区南西部のE8j2区，標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第144号溝，第3399号土坑に掘り込まれている。

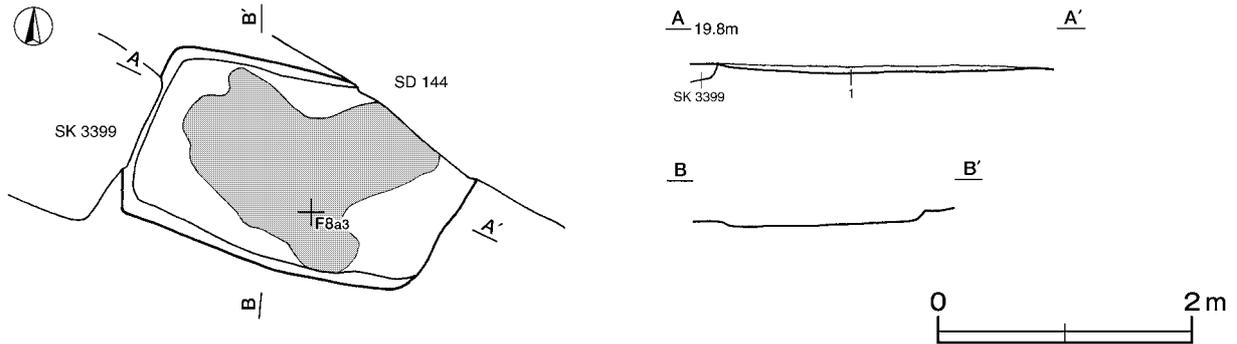
規模と形状 長軸2.54m，短軸1.56mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 66° - Eである。深さは8 cmであるが，層厚が薄いため立ち上がりは明確でない。底面は平坦で，中央部では炭化物の広がり確認されている。

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は明確でないが，炭化物を含む人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 色 炭化物中量，ローム粒子微量

所見 床面に炭化物の広がりが確認されていることや，周囲から多数の墓坑が検出されていることなどから，中世以降の墓坑と考えられる。



第335図 第3488号土坑実測図

第3511号土坑 (第336図)

位置 調査区南西部のE 7 j 9 区，標高19.0mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第3546号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.14m，短軸0.72mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 28° - Eである。深さは18cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

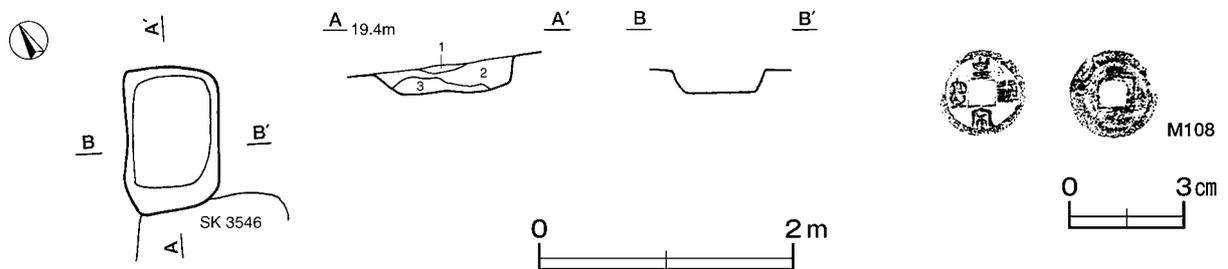
覆土 3層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒 褐色 粘土ブロック中量，ローム粒子微量 3 極暗褐色 ロームブロック中量，ロームブロック少量
2 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量

遺物出土状況 古銭1点（皇宋通寶）が覆土中から出土している。

所見 埋め戻された堆積状況や埋銭と考えられる北宋銭が出土していることから，中世以降の墓坑と考えられる。



第336図 第3511号土坑・出土遺物実測図

第3511号土坑出土遺物観察表 (第336図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M108	古銭	2.4	0.1	0.6	2.1	銅	皇宋通寶 初鑄1038年 北宋	覆土中	PL81

(7) 柵跡

第20号柵跡 (第337図)

位置 調査区南部の E 9 j2 ~ E 9 j3 区, 標高19.5mほどの南緩斜面に位置している。

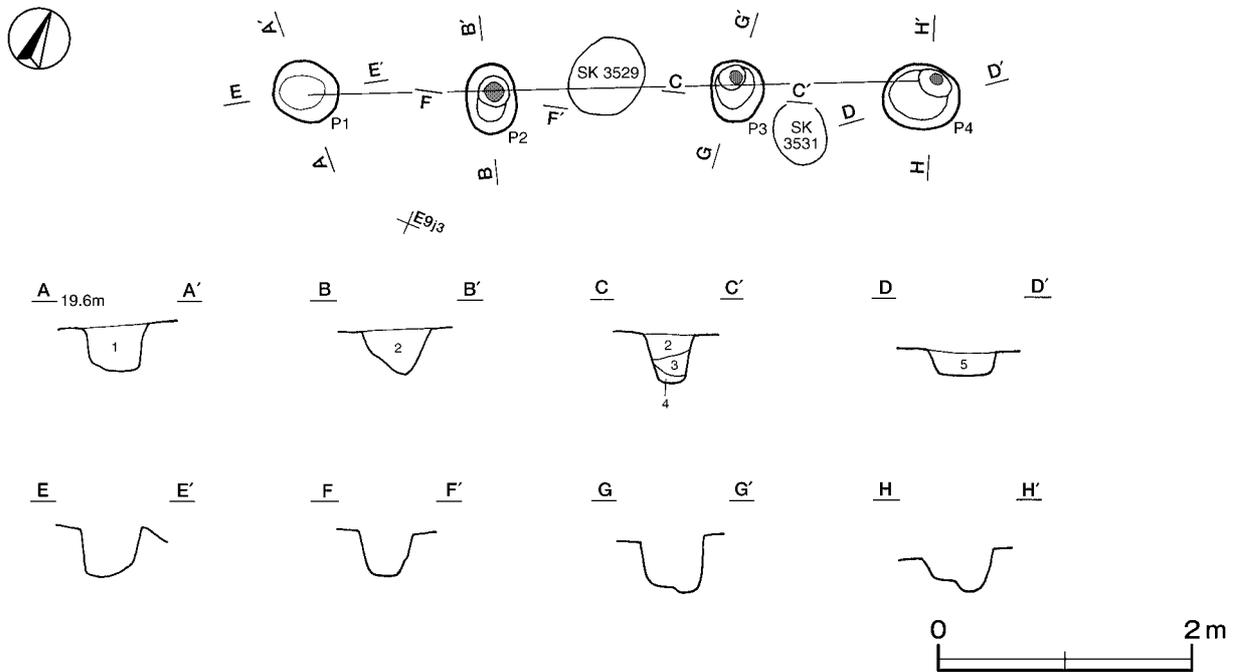
重複関係 第3529・3531号土坑と重複しているが, 新旧関係は明確でない。

規模と形状 東西方向に柱穴4か所が並び, 方向は N - 67° - E である。柱間寸法は西から1.5m (5尺), 1.8m (6尺), 1.5m (5尺) である。各柱穴はほぼ垂直に掘り込まれ, 深さは34~46cmである。P2・P3・P4の底面で柱のあたりが確認され, 径20cmほどの円形の範囲が硬化している。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 褐色 ロームブロック多量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | |

所見 遺物が出土していないため時期判断は困難であるが, 3mほど南側に位置し, 中世と考えられる第430号掘立柱建物跡の東西軸と本跡の方向が近似しており, 柱穴の形状や規模も類似していることから, 中世と考えられる。



第337図 第20号柵跡実測図

表30 中世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
426	B 8 j7	N - 88° - W	(1 × 1)	(3.7 × 3.6)	(13.32)	2.4	3.6	側柱	4	円形・ 橢円形	18~48	土師器片, 須恵 器片	中世
430	F 9 a4	N - 21° - W	2 × 2	3.6 × 3.6	12.96	1.5~ 2.1	1.5~ 2.1	総柱	9	円形・ 橢円形	20~52	土師器片, 土師 質土器片	中世
432	E 9 i4	N - 65° - E	(1 × 2)	(1.2 × 2.4)	(2.88)	1.2	1.2	側柱	4	円形・ 橢円形	26~36	土師器片	中世

表31 中世方形竪穴遺構一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設			覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
							柱穴	ピット	出入口部			
70	B 8 h7	N - 12° - E	長方形	3.24×2.14	26~34	平坦	2	-	1	人為	土師器片, 須惠器片, 釘	中世
71	C 8 c7	N - 3° - W	方形	3.14×2.98	31~42	平坦	3	-	1	人為	土師器片, 須惠器片	中世
72	F 9 b2	N - 70° - W	[方形・長方形]	2.88×(1.80)	28~30	平坦	-	-	1	人為	土師器片	中世

表32 中世地下式壙一覽表

番号	位置	主軸方向	規模(m)								覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
			竪坑				主室						
			長軸×短軸	壁高(cm)	平面形	底面	長軸×短軸	壁高(cm)	平面形	底面			
47	E 7 f0	N - 25° - E	1.33×1.04	62	隅丸長方形	平坦	3.43×2.06	96	隅丸長方形	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 磁石	中世
48	E 7 f9	N - 21° - E	1.32×0.94	98	隅丸長方形	平坦	4.36×1.82	90	隅丸長方形	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	中世
49	E 7 g8	N - 29° - E	1.41×1.38	82	隅丸方形	凸凹	2.75×2.04	124	長方形	平坦	人為		中世

表33 中世溝跡一覽表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
139	E 7 f8 ~ E 8 h8	N - 65° - W	直線状・S字状	(44.6)	32~120	10~20	37~75	U字状	人為・自然	外傾	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 瓦, 陶器片, 磁器片, 磁石	中世以降
140	E 7 f8 ~ E 8 i4	N - 63° - W	L字状	(26.4)	28~108	8~78	10~12	U字状	不明	外傾	須惠器片	中世以降
141	E 8 i8 ~ E 9 g3	N - 70° - E	直線状	(20.3)	44~132	12~24	6~36	U字状	人為	外傾	土師器片, 瓦	中世以降
143	E 8 d1 ~ E 8 g1	N - 11° - E	直線状	11.7	96~220	48~72	6~18	U字状	不明	外傾	土師器片, 土師質土器片, 鉄滓	中世以降
144	E 8 j2 ~ F 8 a8	E - 27° - S	弓状	27.4	104~132	12~30	36~52	U字状	人為	外傾	土師器片, 須惠器片, 瓦, 磁石	中世以降
146	E 8 j1 ~ F 8 a1	S - 35° - W	直線状	(5.5)	13~40	4~20	6~9	U字状	不明	外傾		中世
147	E 8 i2 ~ E 8 j2	S - 22° - W	直線状	(3.7)	60~74	14~32	10~14	U字状	不明	外傾		中世以降
148	E 7 h0 ~ E 8 i2	N - 55° - W	直線状	(6.6)	90~186	70~94	6~12	U字状	不明	外傾	土師器片, 須惠器片, 磁石	中世以降
149	E 8 f5 ~ E 8 h5	N - 7° - E	直線状	5.9	34~68	16~38	12	U字状	不明	外傾		中世以降

表34 中世火葬土坑一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模								覆土	人骨 (有・無)	備考 (時期)
				燃焼部(m)				通気溝(cm)						
				長軸×短軸	深さ(cm)	平面形	底面	長さ	上幅	下幅	深さ			
3385	E 7 i7	N - 51° - W	不整形	0.72×0.44	12	橢円形	凸凹	60	24	10	24	人為	有	中世
3436	E 7 h8	N - 46° - W	不整形	0.96×0.56	32	橢円形	凸凹	70	30	21	46	人為	有	中世
3437	E 7 h8	N - 57° - W	不整形	0.92×0.41	18	橢円形	凸凹	65	26	20	10	人為	有	中世
3446	F 9 b2	N - 48° - E	不整形	0.98×0.66	7	橢円形	平坦	-	-	-	-	人為	無	中世以降
3447	F 9 b3	N - 70° - W	不整形	2.06×0.82	18	隅丸長方形	平坦	-	-	-	-	人為	無	中世以降
3449	F 8 b8	N - 87° - E	不整形	0.91×0.58	12	橢円形	凸凹	85	33	10	28	人為	有	中世
3455	F 9 a1	N - 33° - W	不整形	(0.80)×0.50	12	橢円形	凸凹	70	27	17	18	人為	有	中世
3497	F 7 a0	N - 54° - W	不整形	0.82×0.48	34	橢円形	凸凹	60	31	23	48	人為	有	中世

表35 中世墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	人骨 (有・無)	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
3306	C 9 b1	N - 22° - E	円形	0.98×0.94	70	平坦	垂直	人為	有	土師器片, 須恵器片, 磁器片	中世以降
3327	C 8 c8	N - 41° - E	楕円形	1.05×0.97	12	平坦	外傾	人為	有	土師器片, 須恵器片	中世以降
3391	E 7 h9	N - 53° - W	楕円形	1.92×1.30	6	平坦	不明	人為	無	土師器片	中世以降
3398	E 8 j1	N - 27° - E	隅丸長方形	1.44×1.14	34	平坦	外傾	人為	無	土師器片, 釘	中世以降
3399	E 8 j2	N - 27° - E	隅丸長方形	1.46×1.26	24	平坦	外傾	人為	無		中世以降
3406	E 7 g9	N - 68° - W	隅丸長方形	0.96×0.82	12	平坦	外傾	人為	無		中世以降
3426	E 8 j1	N - 4° - E	楕円形	1.12×0.93	10	平坦	外傾	人為	有	土師器片, 土師質土器片	中世以降
3429	E 8 j1	N - 68° - W	隅丸長方形	1.02×0.70	38	平坦	外傾	人為	無	土師器片, 須恵器片, 刀子, 古銭	中世以降
3448	F 8 c0	N - 76° - W	不整楕円形	1.54×0.84	16	平坦	外傾	人為	有	土師器片	中世以降
3464	E 7 i9	N - 57° - W	隅丸長方形	1.28×0.82	58	平坦	外傾	人為	無	土師器片, 古銭	中世以降
3475	E 7 j8	N - 29° - E	隅丸長方形	1.84×0.94	34	平坦	外傾	人為	無	土師器片, 須恵器片	中世以降
3488	E 8 j2	N - 66° - E	隅丸長方形	2.54×1.56	8	平坦	不明	人為	無		中世以降
3511	E 7 j9	N - 28° - E	隅丸長方形	1.14×0.72	18	平坦	外傾	人為	無	古銭	中世以降

5 その他の時代の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明確でない溝跡6条、土坑246基、ピット群2か所、柵跡1列を確認した。

以下、遺構および遺物について記述する。

(1) 溝跡

第135号溝跡(第338図)

位置 調査区北部のC 8 b9 ~ C 9 b1区、標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2400号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 N - 89° - Wの方向に直線的に延びている。東側は調査区域外まで延びているが、調査された長さは10.5mで、上幅29~45cm、下幅14~28cm、深さ8~12cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

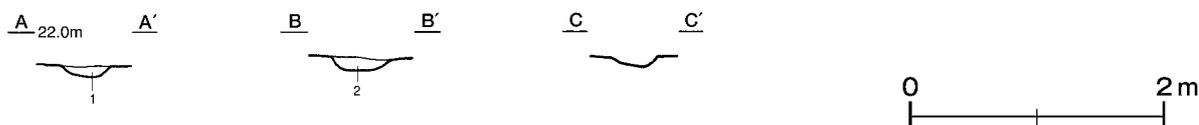
覆土 2層に分けられる。層厚が薄いので堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片4点(甕類)が散在した状態で出土しており、いずれも細片である。

所見 出土土器が細片のため時期判断は困難であるが、南側に位置する第136号溝跡と形状や方向が近似しており、近世以降の区画溝の可能性が考えられる。



第338図 第135号溝跡実測図

第136号溝跡（第339図）

位置 調査区北部のC 8 e7 ~ C 9 e2 区，標高21.5~22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2417号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 E - 5° - Sの方向に直線的に延びている。東・西側ともに調査区域外まで延び，調査された長さは18.4mで，上幅32~78cm，下幅18~58cm，深さ12~22cmである。断面はU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

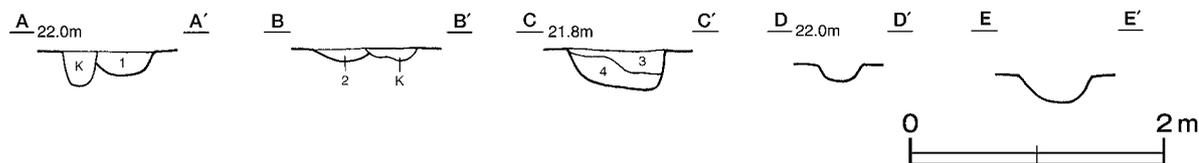
覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片28点(坏3，甕類25)，土師質土器1点(土鍋カ)，瓦4点(棧瓦カ)，鉄製品1点(釘)が散在した状態で出土しており，いずれも細片である。

所見 出土土器が細片のため時期判断は困難であるが，最近の地籍図の筆境と位置がほぼ一致していることから，近世以降の区画溝の可能性が考えられる。



第339図 第136号溝跡実測図

第137号溝跡（第340図）

位置 調査区中央部のD 7 j0 ~ D 9 i1 区，標高21.0~21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2419・2421・2422・2432・2441号住居跡を掘り込み，第3335・3341号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 N - 86° - Eの方向に直線的に延びている。東・西側ともに調査区域外まで延び，調査された長さは45.4mで，上幅42~94cm，下幅24~52cm，深さ9~20cmである。断面はU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

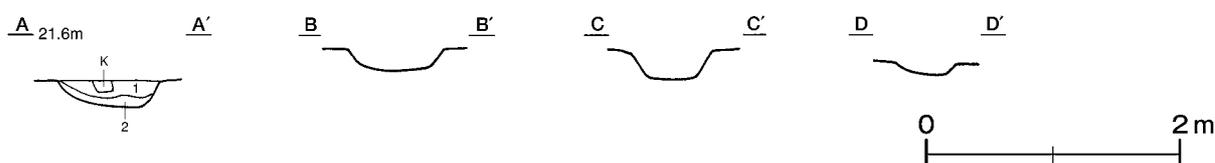
覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | |
|--------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片66点(坏14，甕52)，須恵器片1点(坏)，陶器片1点が散在した状態で出土しており，いずれも細片である。

所見 出土土器が細片のため時期判断は困難であるが，北側に位置する第136号溝跡と規模や形状，方向が近似しており，近世以降の区画溝の可能性が考えられる。



第340図 第137号溝跡実測図

第138号溝跡 (第341図)

位置 調査区中央部の D 8 f 4 ~ D 8 h 5 区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2416号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部では E - 2° - S の方向に直線的に伸び, S - 3° - W の方向に L 字状に屈曲している。西側は調査区域外に伸び, 調査された長さは17.4mで, 上幅46~154cm, 下幅 8~22cm, 深さ36~62cmである。断面は U 字状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

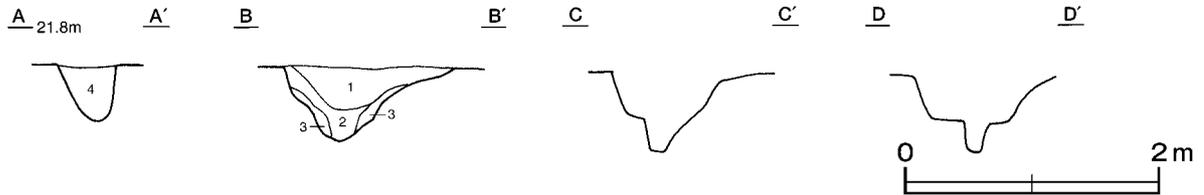
覆土 4層に分けられる。第2~4層が埋め戻された後に第1層が自然堆積したと考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片55点(坏11, 甕類44), 須恵器片18点(坏7, 高台付坏1, 蓋1, 甕類9), 陶器片3点(碗2, 皿1), 鉄製品1点(釘)が散在した状態で出土しており, いずれも細片である。

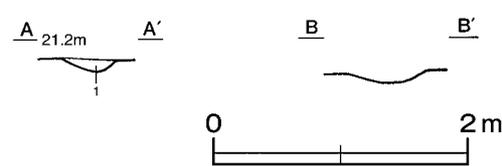
所見 出土土器が細片のため時期判断は困難であるが, 直線的に伸びていることや掘り込みが深いことから, 近世以降の区画溝を兼ねた根切り溝の可能性があり, 形状から掘り返されたと考えられる。



第341図 第138号溝跡実測図

第142号溝跡 (第342図)

位置 調査区南西部の E 8 c 2 ~ E 8 d 2 区, 標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。



規模と形状 N - 11° - E の方向に直線的に伸び, 調査された長さは6.9mで, 上幅20~58cm, 下幅 2~20cm, 深さ10cmである。断面は U 字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | |
|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 |
|-----------------|

第342図 第142号溝跡実測図

所見 南北方向に直線的に伸びていることから区画溝の可能性が考えられる。遺物が出土していないため, 時期は不明であるが, 第143号溝との密接な関係が想定される。

第145号溝跡 (第343図)

位置 調査区部の E 9 j 2 ~ E 9 j 5 区, 標高18.5~19.5mほどの南緩斜面に位置している。

重複関係 第431号掘立柱建物跡, 第3555号土坑を掘り込んでいる。また, 第430号掘立柱建物と重複しているが新旧関係は明確でない。

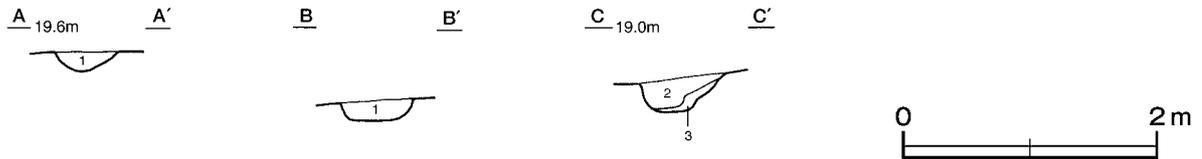
規模と形状 E - 42° - S の方向に直線上に伸び, 南で N - 78° - E の方向に L 字状に屈曲している。東側は調査区域外に伸び, 調査された長さは13.9mで, 上幅41~79cm, 下幅10~42cm, 深さ14~26cmである。断面は U 字状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。焼土粒子や炭化粒子を含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 灰褐色 ロームブロック少量

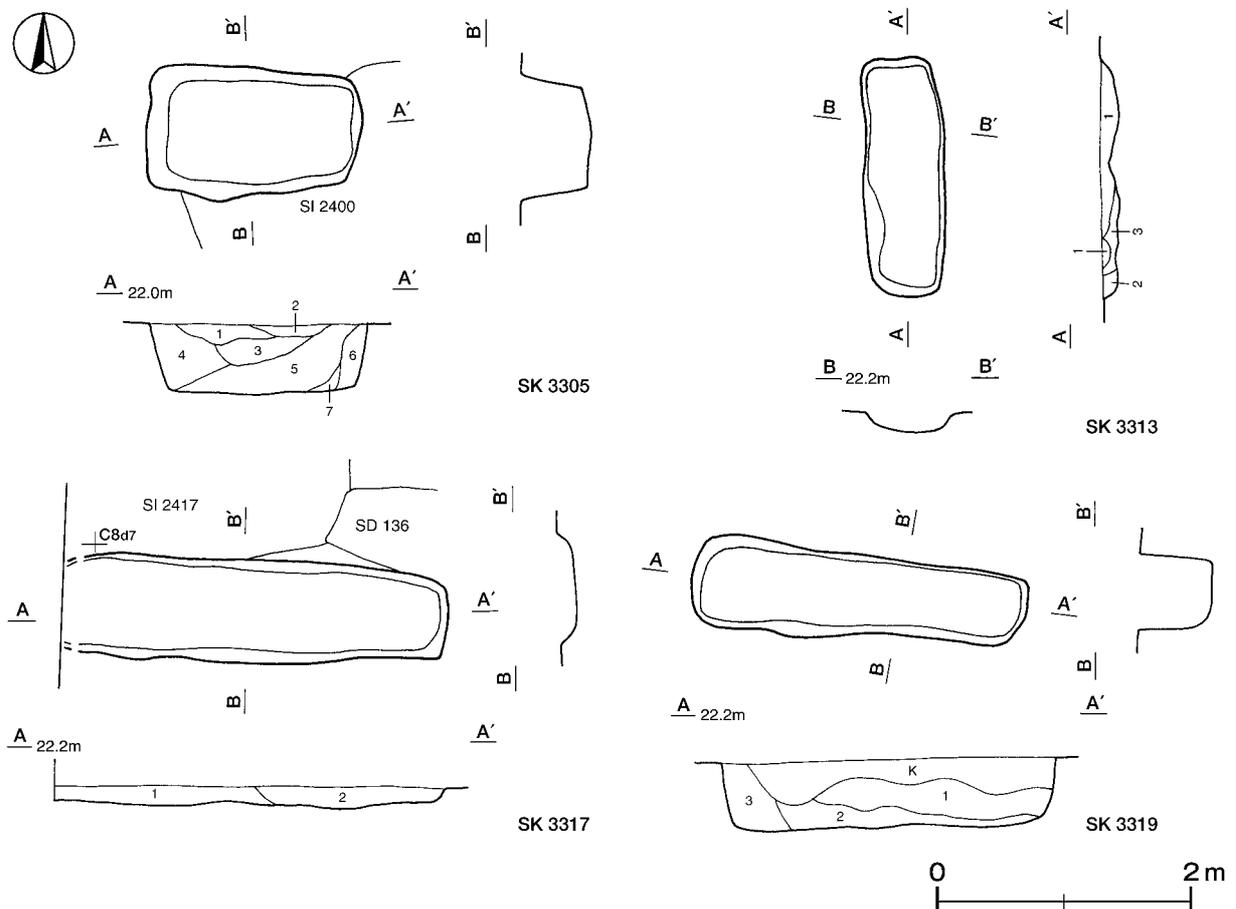
所見 土器が出土していないため時期は明確でないが、8世紀後半に比定される第431号掘立柱建物跡を掘り込んでいることからそれ以降に機能していたと考えられる。



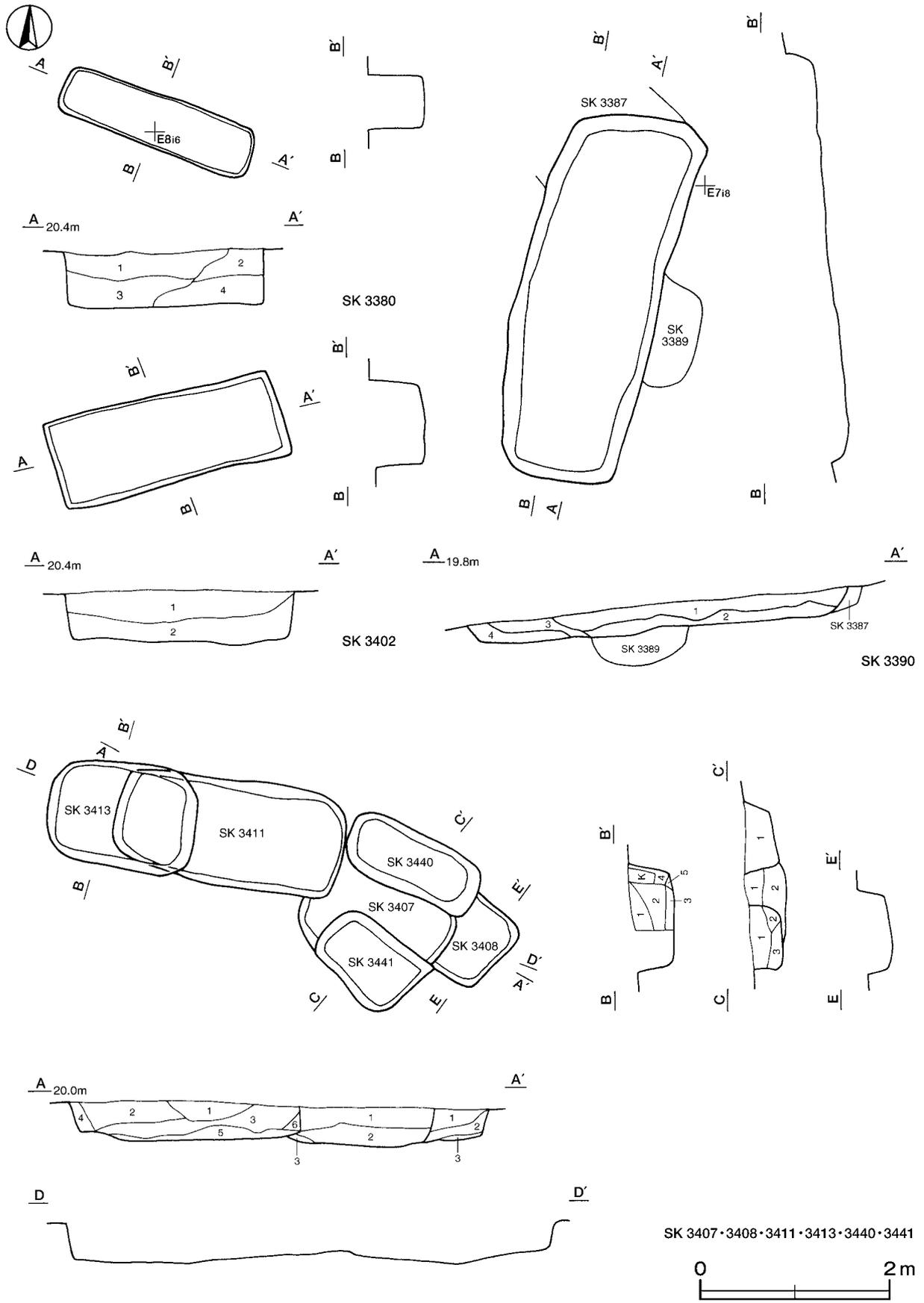
第343図 第145号溝跡実測図

(2) 墓坑の可能性のある土坑 (第344～351図)

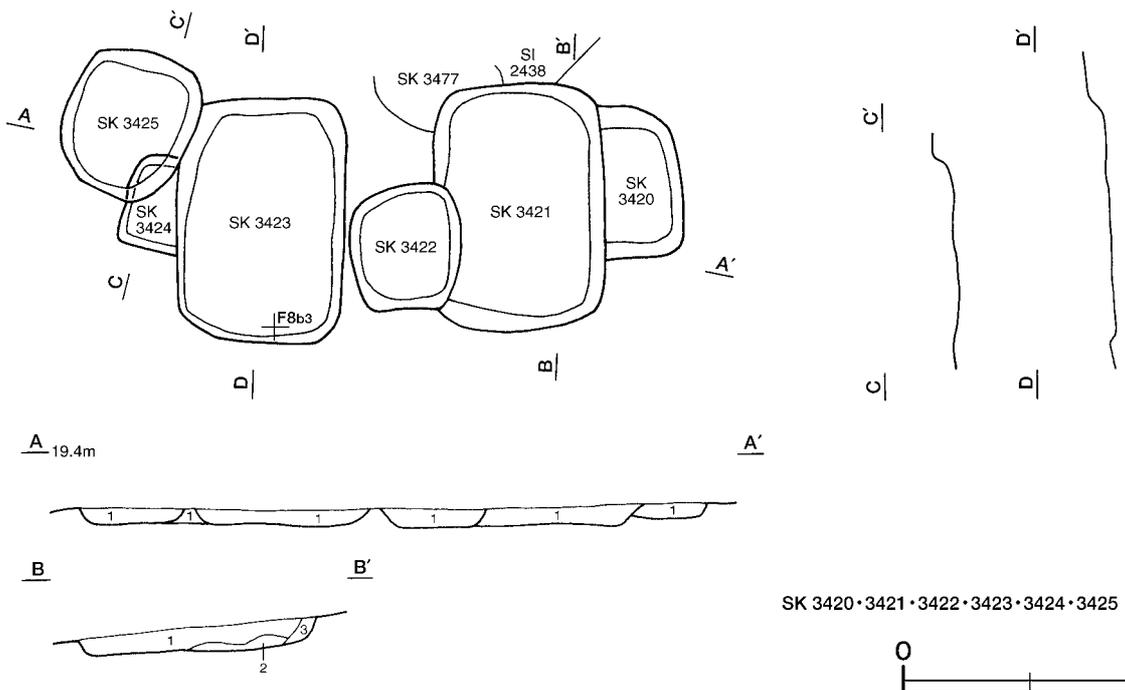
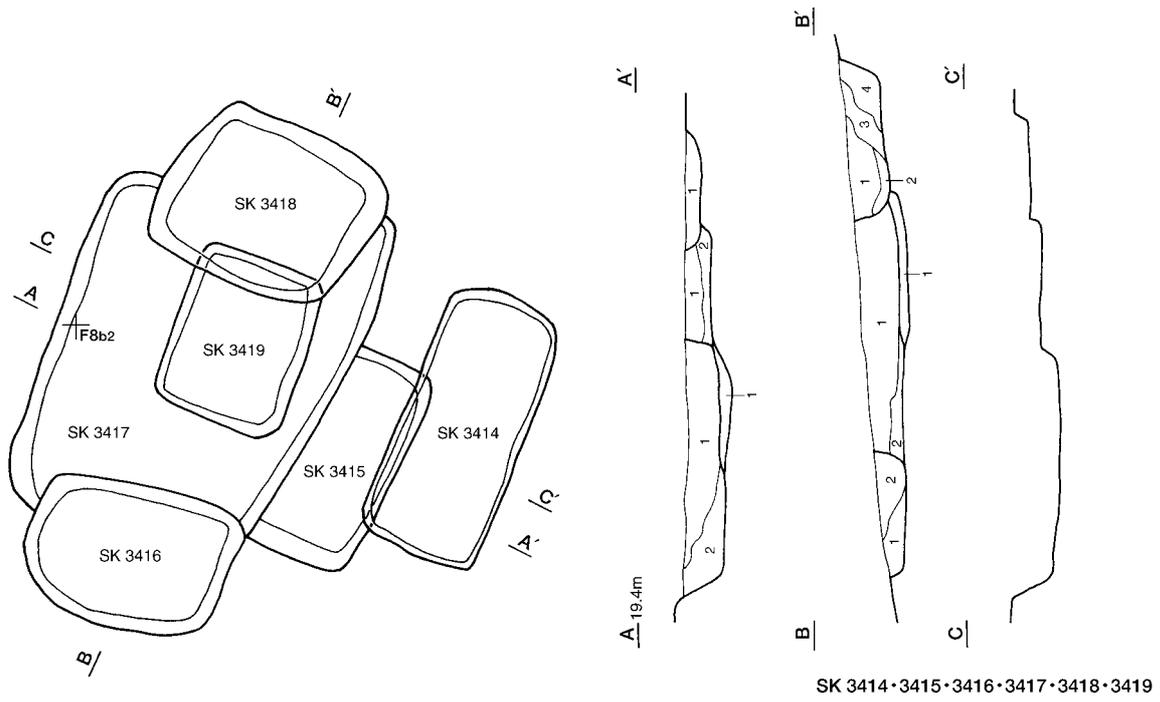
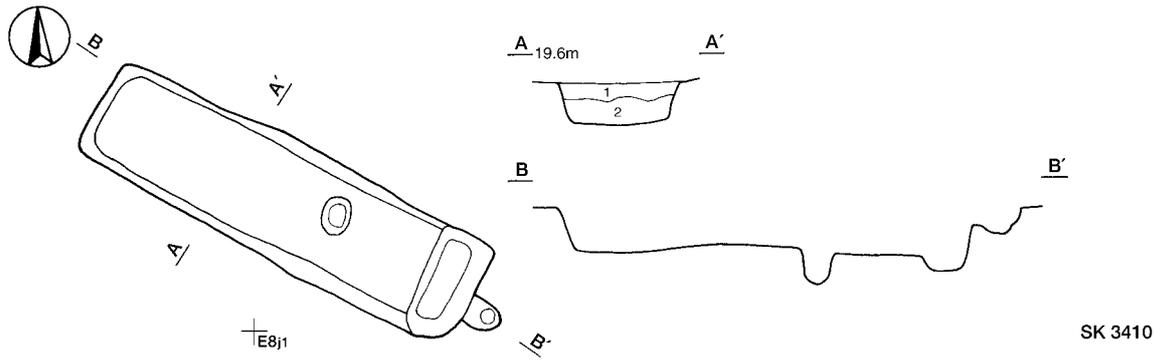
14区から検出された土坑は、遺物が少ないために時期や性格が不明なものが多いが、調査区南西部の緩斜面部に位置する一群は人為的に埋め戻された痕跡があり、形態的にも墓坑と類似していることから墓坑群の可能性が考えられる。以下、実測図と土層解説で紹介する。



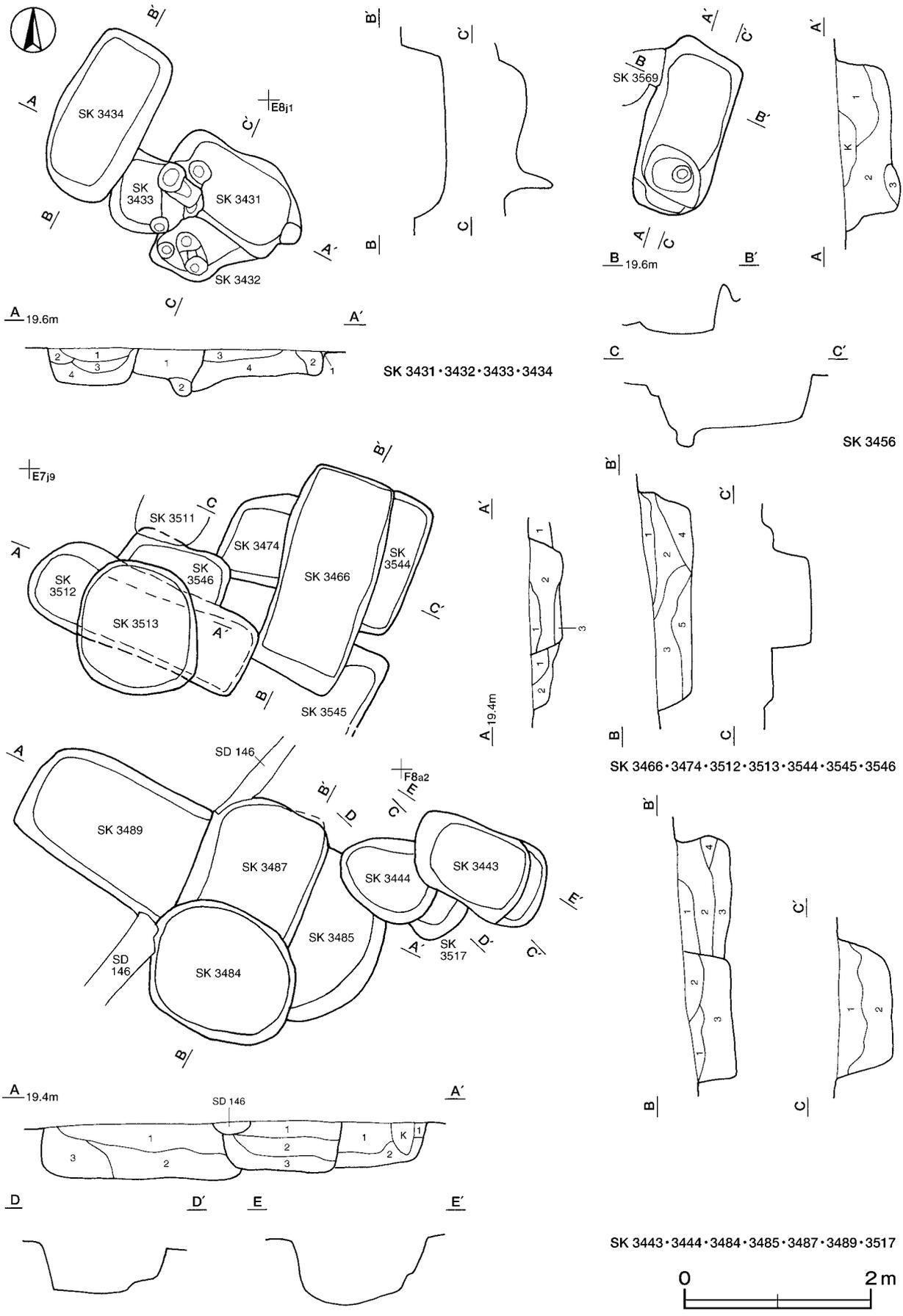
第344図 墓坑の可能性のある土坑実測図(1)



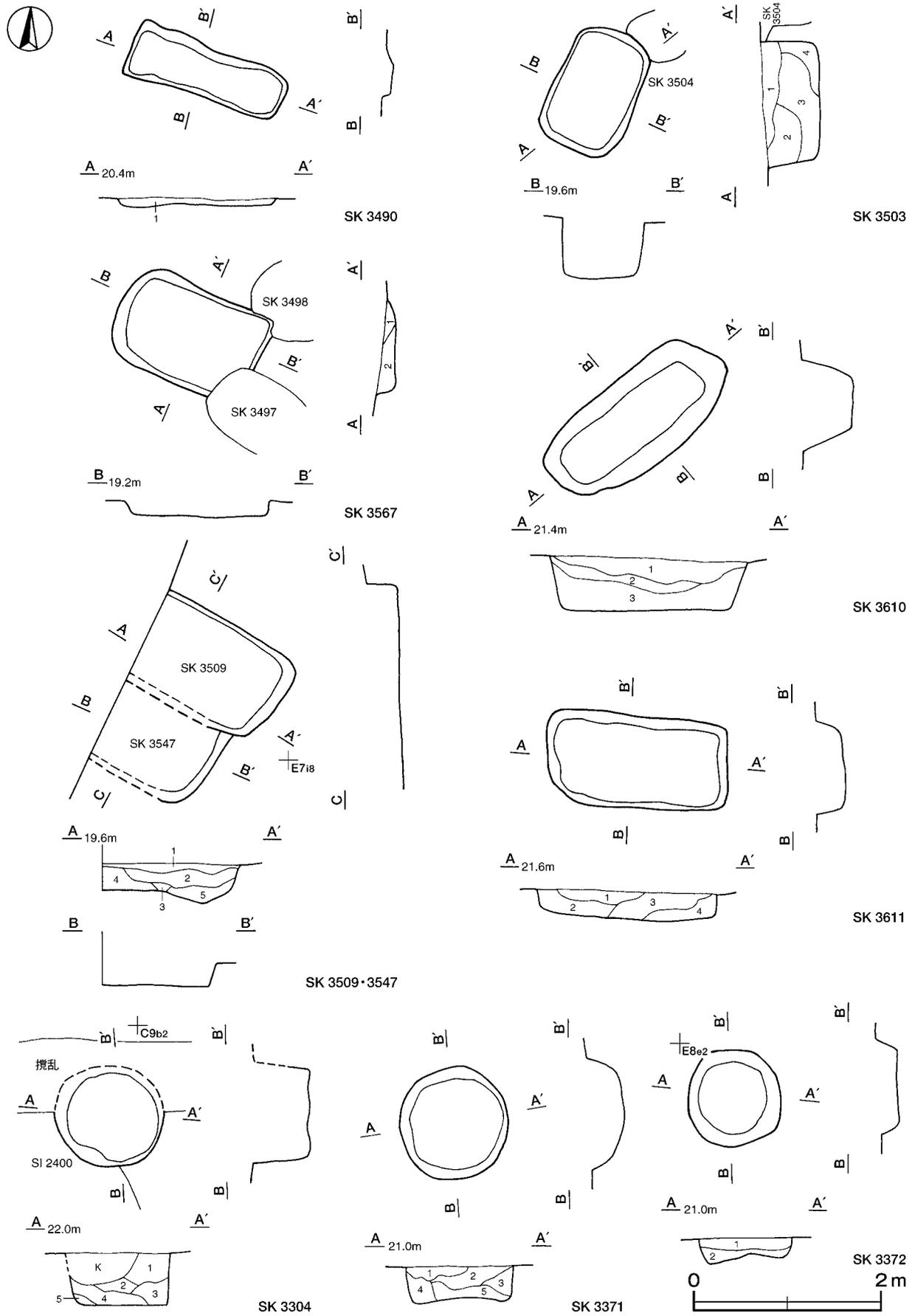
第345図 墓坑の可能性のある土坑実測図(2)



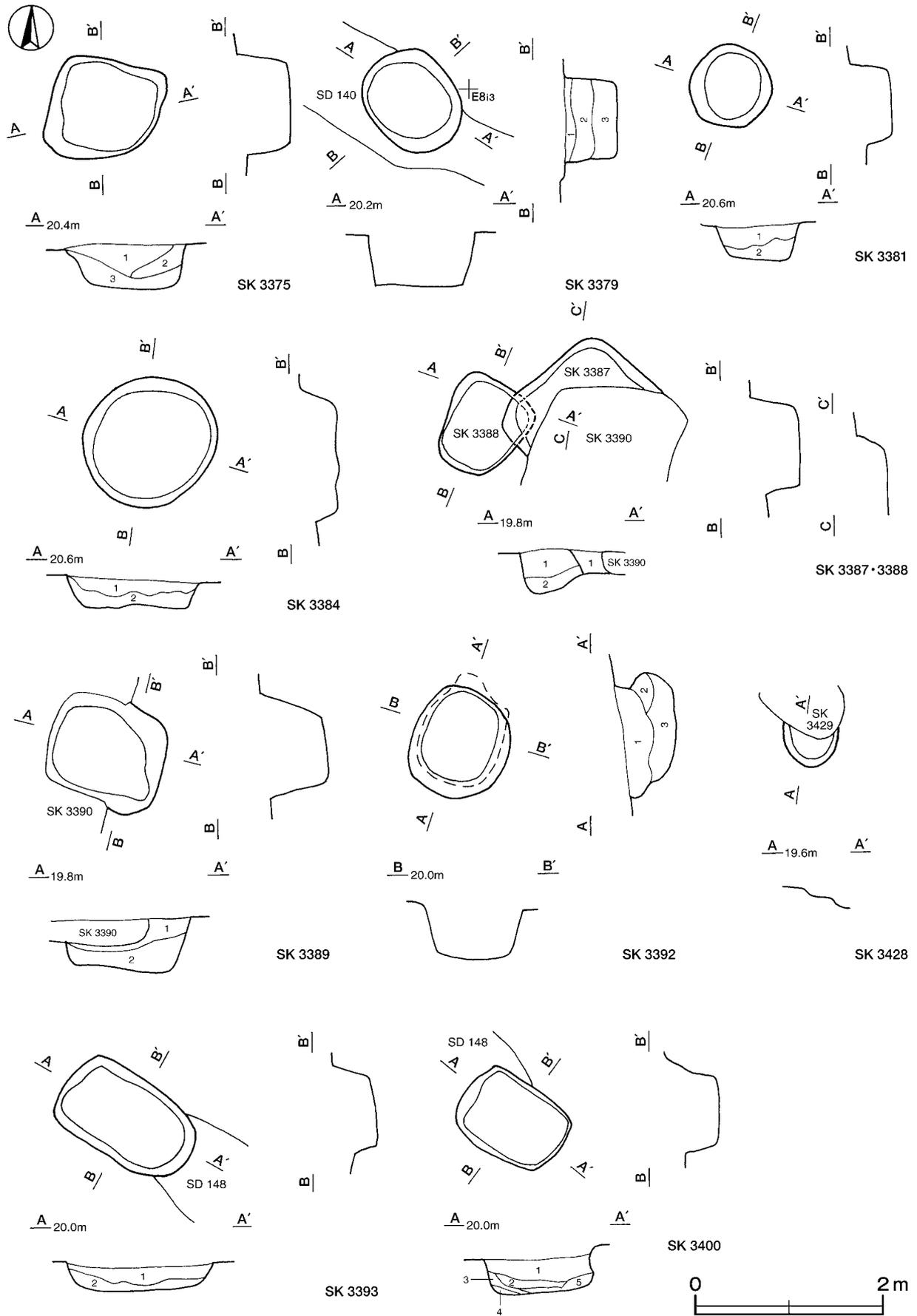
第346図 墓坑の可能性ある土坑実測図(3)



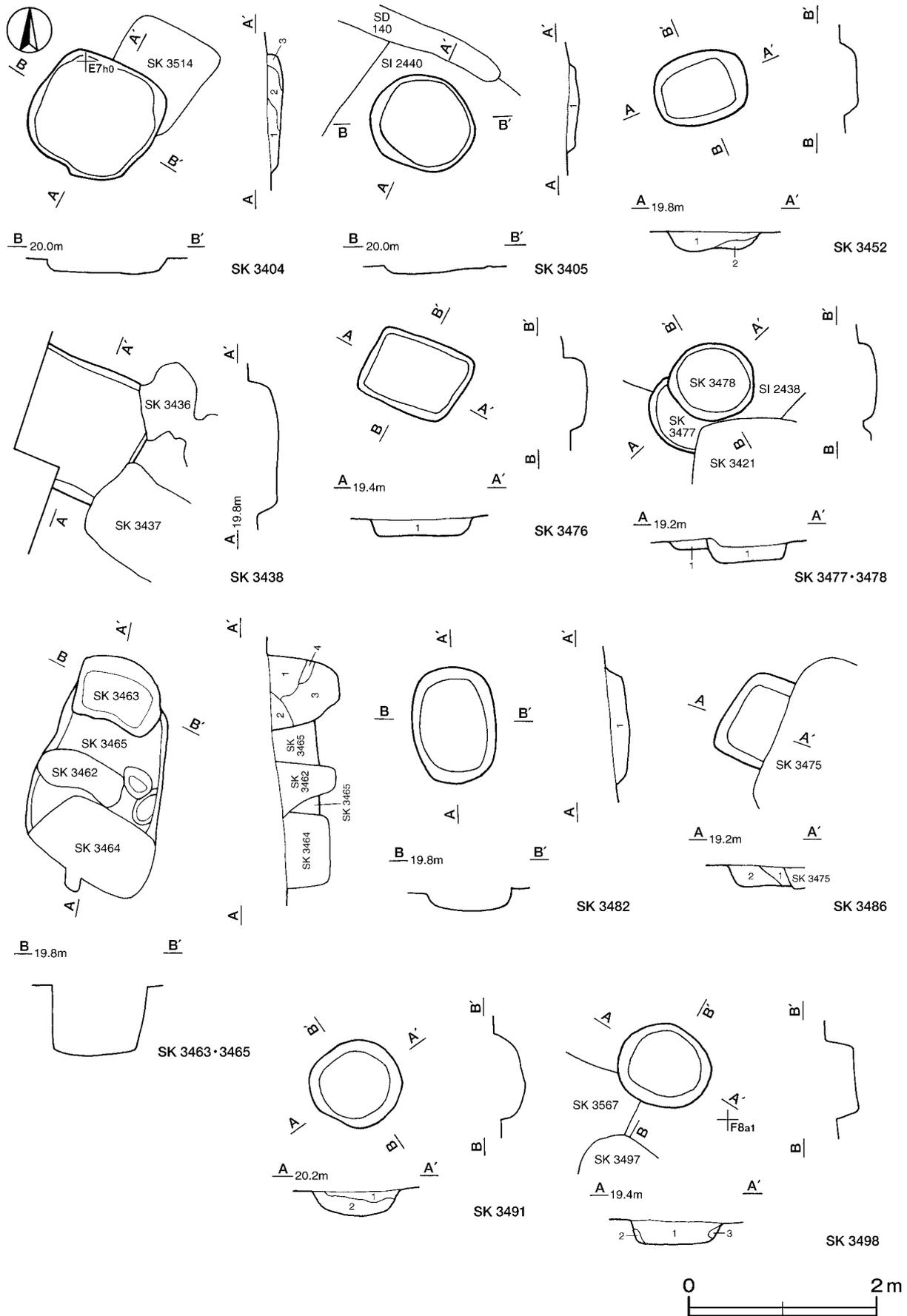
第347図 墓坑の可能性のある土坑実測図(4)



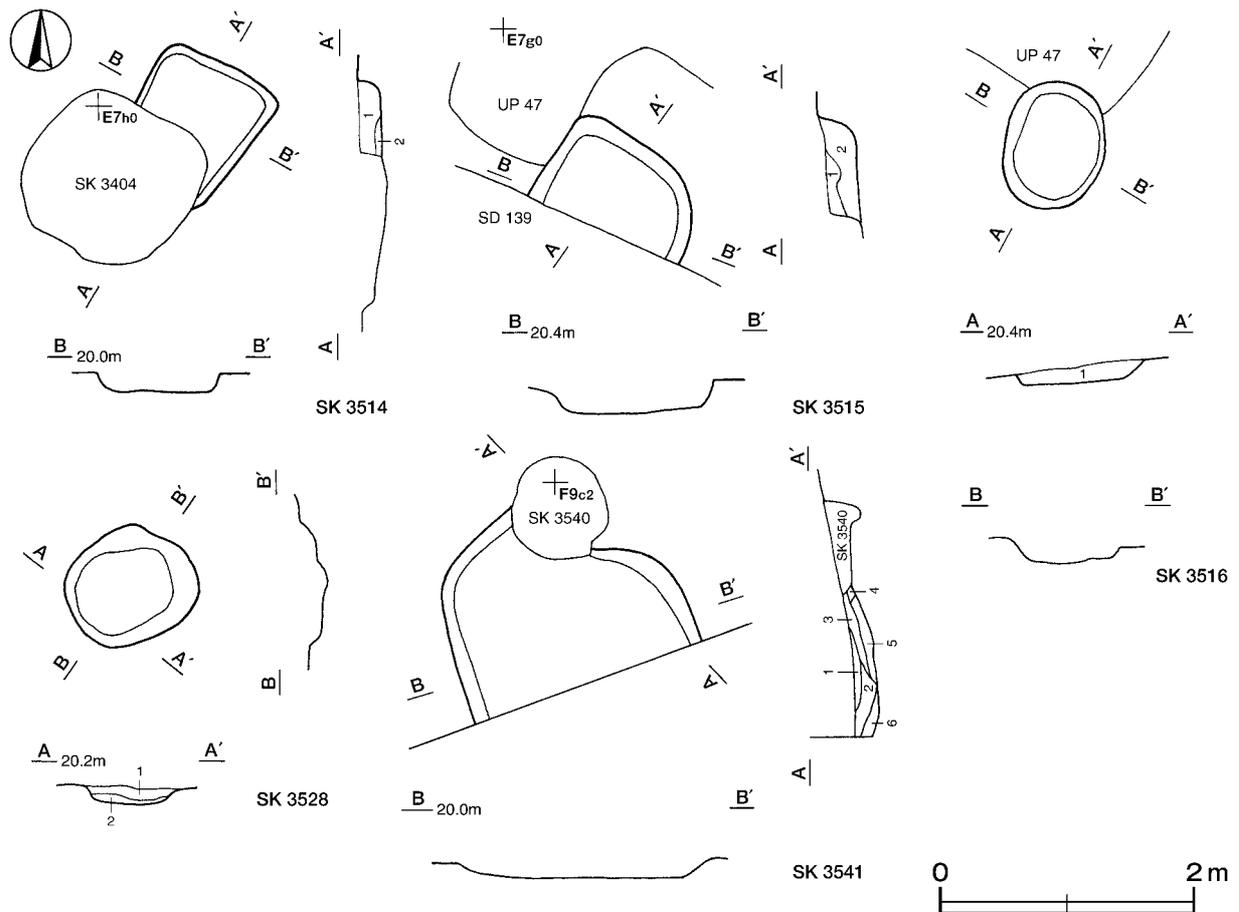
第348図 墓坑の可能性のある土坑実測図(5)



第349図 墓坑の可能性のある土坑実測図(6)



第350図 墓坑の可能性のある土坑実測図(7)



第351図 墓坑の可能性のある土坑実測図(8)

第3304号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量,炭化物少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量,炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第3305号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量

第3313号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量,焼土粒子少量

第3317号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

第3319号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量,炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量

第3371号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量,炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 炭化物少量,ローム粒子微量

第3372号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量,炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第3375号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第3379号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第3380号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量,炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量,炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

第3381号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第3384号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

第3387号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量,焼土粒子微量

第3388号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒子微量

第3389号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量

第3390号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量,炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量

第3392号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量

第3393号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量,粘土ブロック・焼土粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第3400号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量,焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量,粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 暗 褐 色 粘土粒子少量,ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

第3402号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量

第3404号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量

第3405号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第3407号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量,焼土ブロック・炭化物少量
- 2 明 褐 色 ロームブロック中量,炭化物・粘土粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第3408号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量,粘土粒子少量
- 3 明 褐 色 ローム粒子多量

第3410号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量,ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック中量,ロームブロック・炭化粒子微量

第3411号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化物中量,焼土粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
- 3 極暗褐色 炭化物多量,ロームブロック中量,焼土粒子少量
- 4 明 褐 色 ローム粒子多量,炭化粒子少量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック多量,炭化物中量
- 6 褐 色 ロームブロック中量,炭化物少量

第3413号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック多量,炭化粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化物中量,粘土粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物多量,粘土粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子多量,炭化粒子・粘土粒子中量
- 5 褐 色 炭化粒子多量,ローム粒子中量

第3414号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・粘土粒子少量,ロームブロック微量

第3415号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土粒子中量,ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第3416号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック中量,ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第3417号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化物少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量,炭化物微量

第3418号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・粘土粒子中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物中量

第3419号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第3420号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子中量

第3421号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土粒子中量,ローム粒子微量
- 2 黒 色 炭化物・粘土粒子中量,ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 粘土粒子中量,ローム粒子微量

第3422号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土粒子中量,ロームブロック少量,焼土粒子微量

第3423号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土粒子多量,炭化粒子中量,ローム粒子微量

第3424号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量

第3425号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土粒子中量,ロームブロック少量

第3431号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,炭化物・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量,ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物中量,ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第3433号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量,ローム粒子微量

第3434号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・炭化物少量,ローム粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量,ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第3440号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量,炭化粒子・粘土粒子少量

第3441号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量,粘土粒子少量,焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量,炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量,焼土粒子少量

第3443号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量,粘土ブロック・炭化物少量
- 2 黒色 粘土ブロック中量,ロームブロック・炭化物少量

第3452号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第3456号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量,ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物・粘土ブロック中量,ロームブロック少量

第3463号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量,炭化物少量
- 2 黒色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第3466号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物多量,ロームブロック少量,焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量,粘土ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量,粘土粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック中量,ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量,粘土ブロック少量

第3476号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量

第3477号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土粒子中量,ローム粒子微量

第3478号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土粒子中量,炭化粒子少量,ローム粒子微量

第3482号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量

第3484号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量,焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子少量

第3485号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量,炭化物・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子中量

第3486号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック少量,ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

第3487号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量,粘土ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量・粘土ブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第3489号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量,炭化物・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

第3490号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量,炭化物少量

第3491号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子少量

第3498号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量,粘土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第3503号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量,炭化粒子少量,ローム粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量,ロームブロック微量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量

第3509号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量,粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量,炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量,粘土ブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量,粘土ブロック少量

第3512号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土粒子中量,炭化物少量,ローム粒子微量
- 2 黒色 粘土粒子中量,ロームブロック少量

第3513号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土粒子中量,ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒色 粘土粒子中量,ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・粘土粒子中量

第3514号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第3515号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第3516号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第3528号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量,炭化粒子少量

第3541号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 焼土粒子少量，炭化物微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 6 暗褐色 炭化物少量，焼土ブロック微量

第3567号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第3610号土坑土層解説

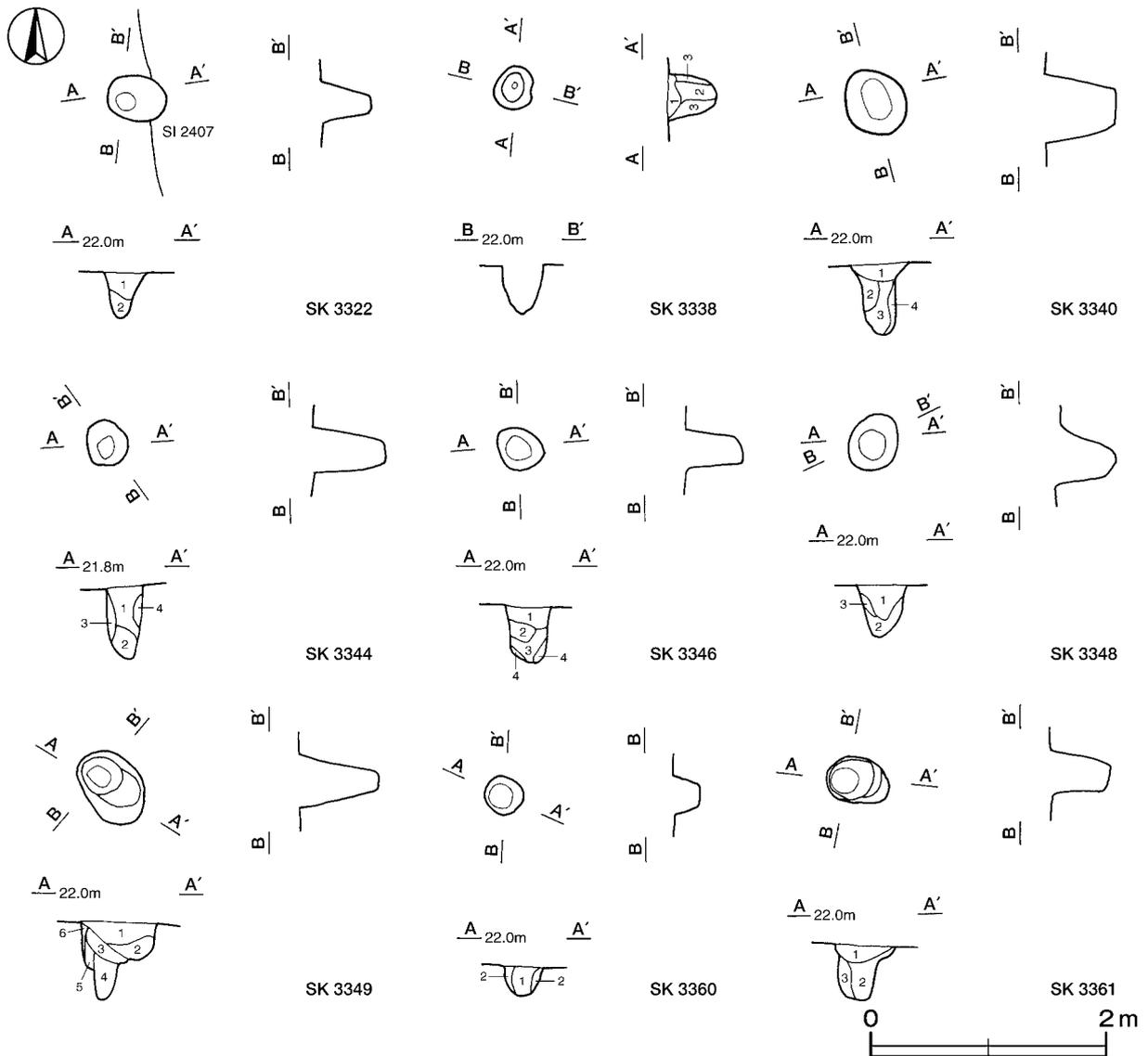
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量，炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第3611号土坑土層解説

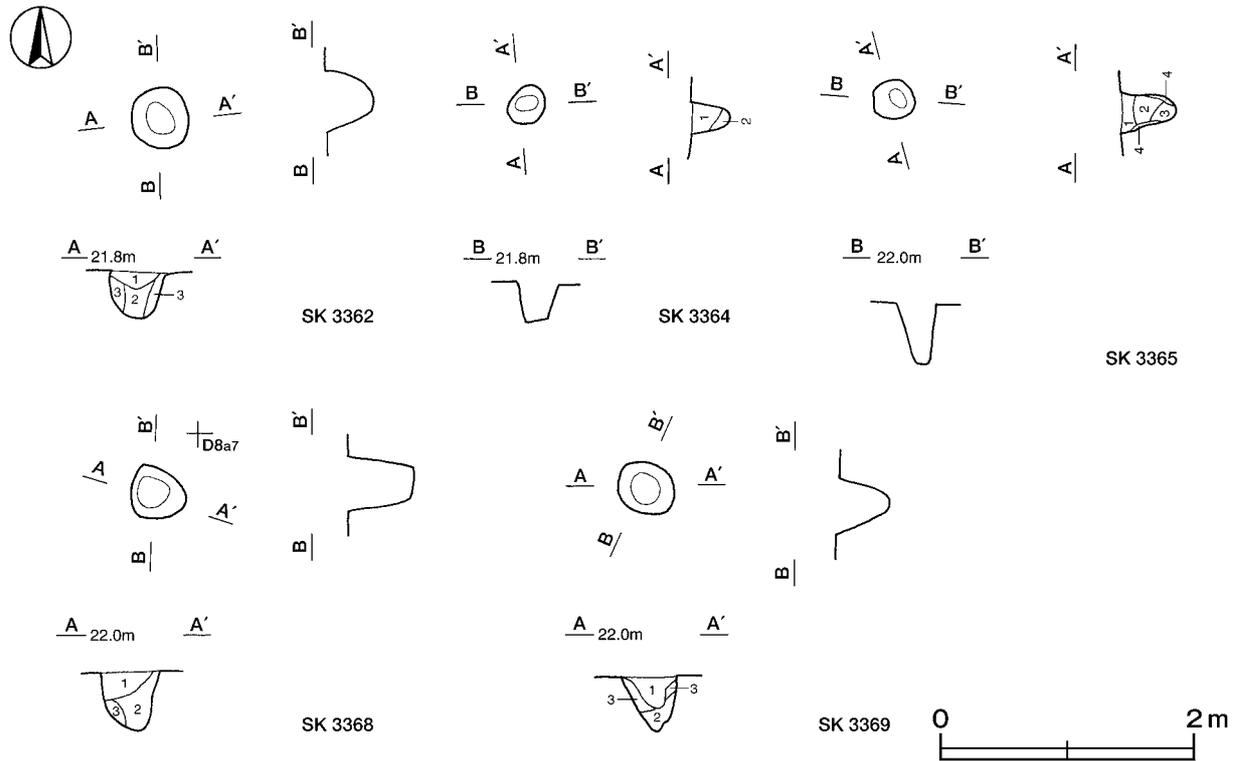
- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物微量

(3) 柱穴の可能性のある土坑（第352・353図）

当調査区から検出された土坑は，遺物が少ないために時期や性格が不明なものが多いが，形状や土層の堆積状況から柱穴の可能性のあるものについて，以下，実測図と土層解説で紹介する。



第352図 柱穴の可能性のある土坑実測図(1)



第353図 柱穴の可能性ある土坑実測図(2)

第3322号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第3338号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第3340号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第3344号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第3346号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

第3348号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第3349号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子少量

第3360号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第3361号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第3362号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第3364号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第3365号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第3368号土坑土層解説

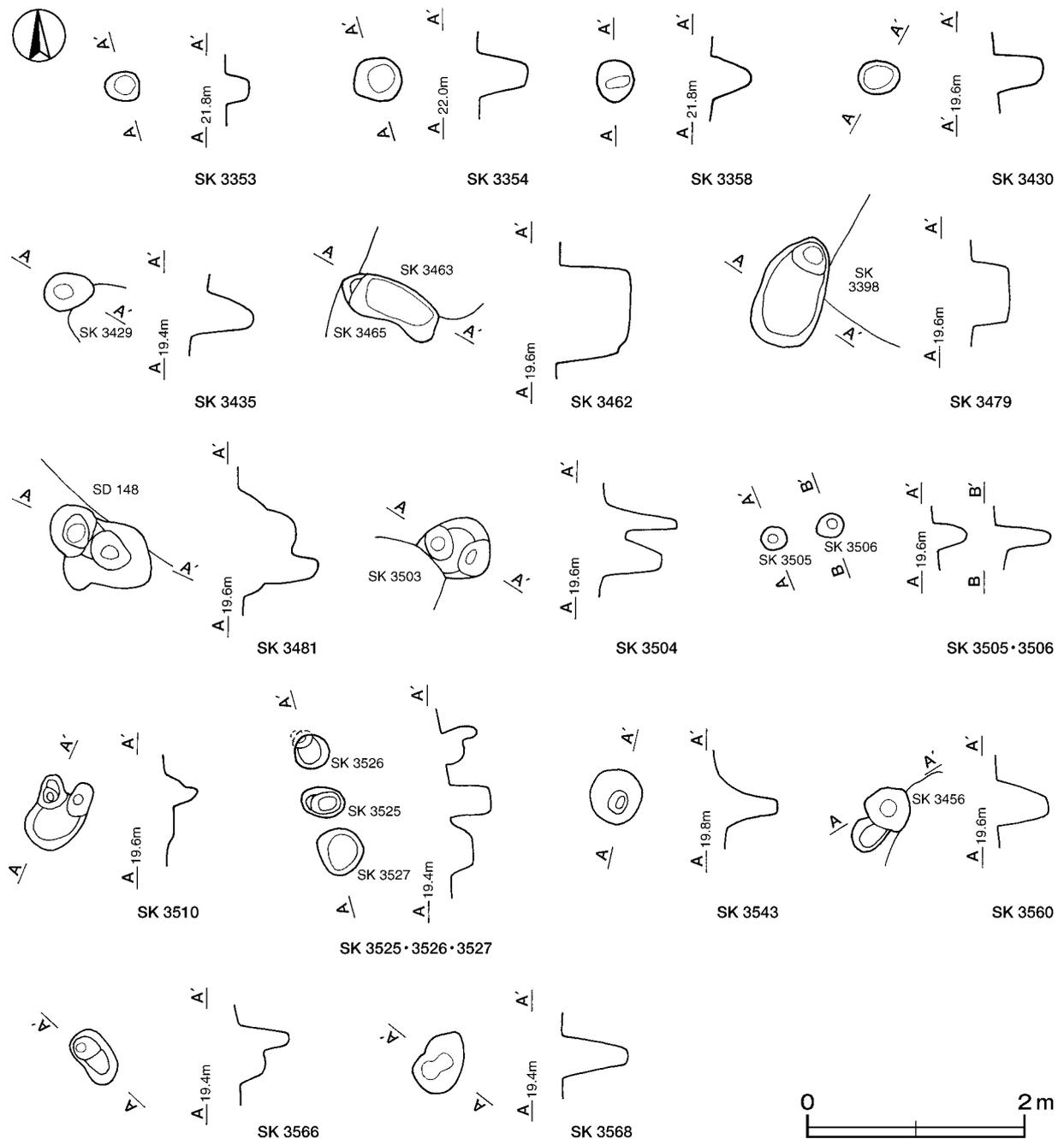
- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第3369号土坑土層解説

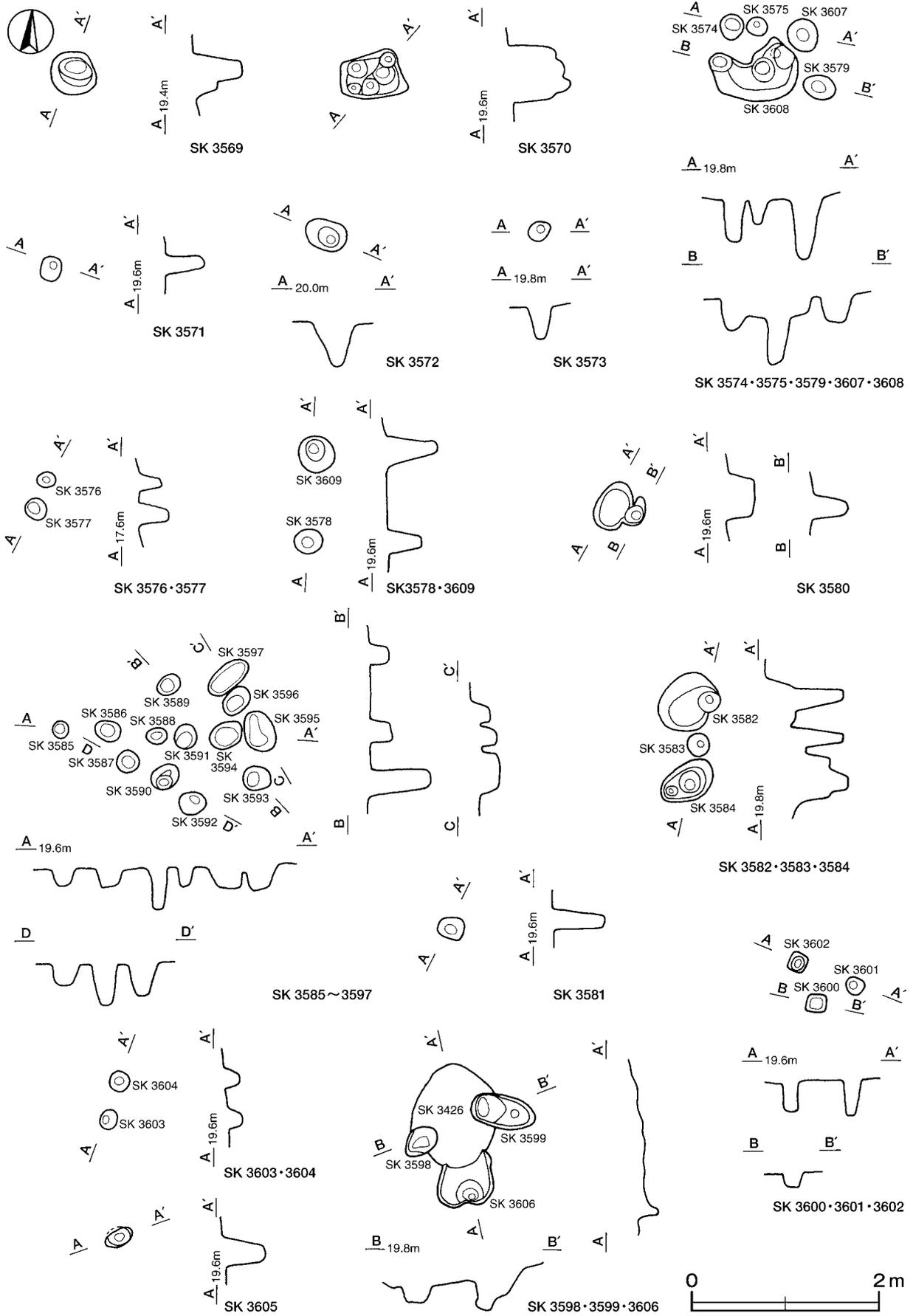
- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

(4) その他の土坑 (第354~359図)

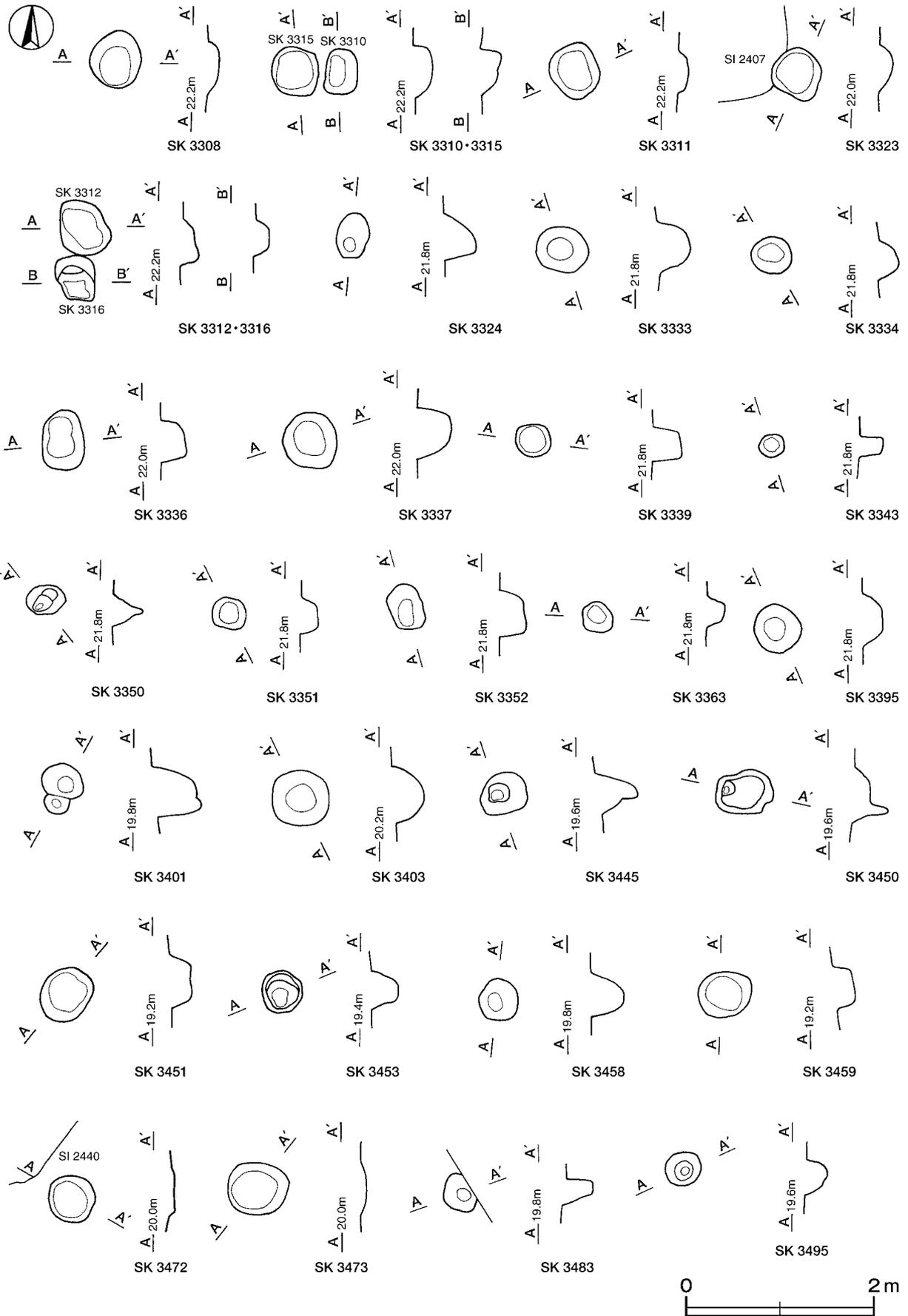
性格や時期が不明な土坑について、以下、実測図にて紹介する。



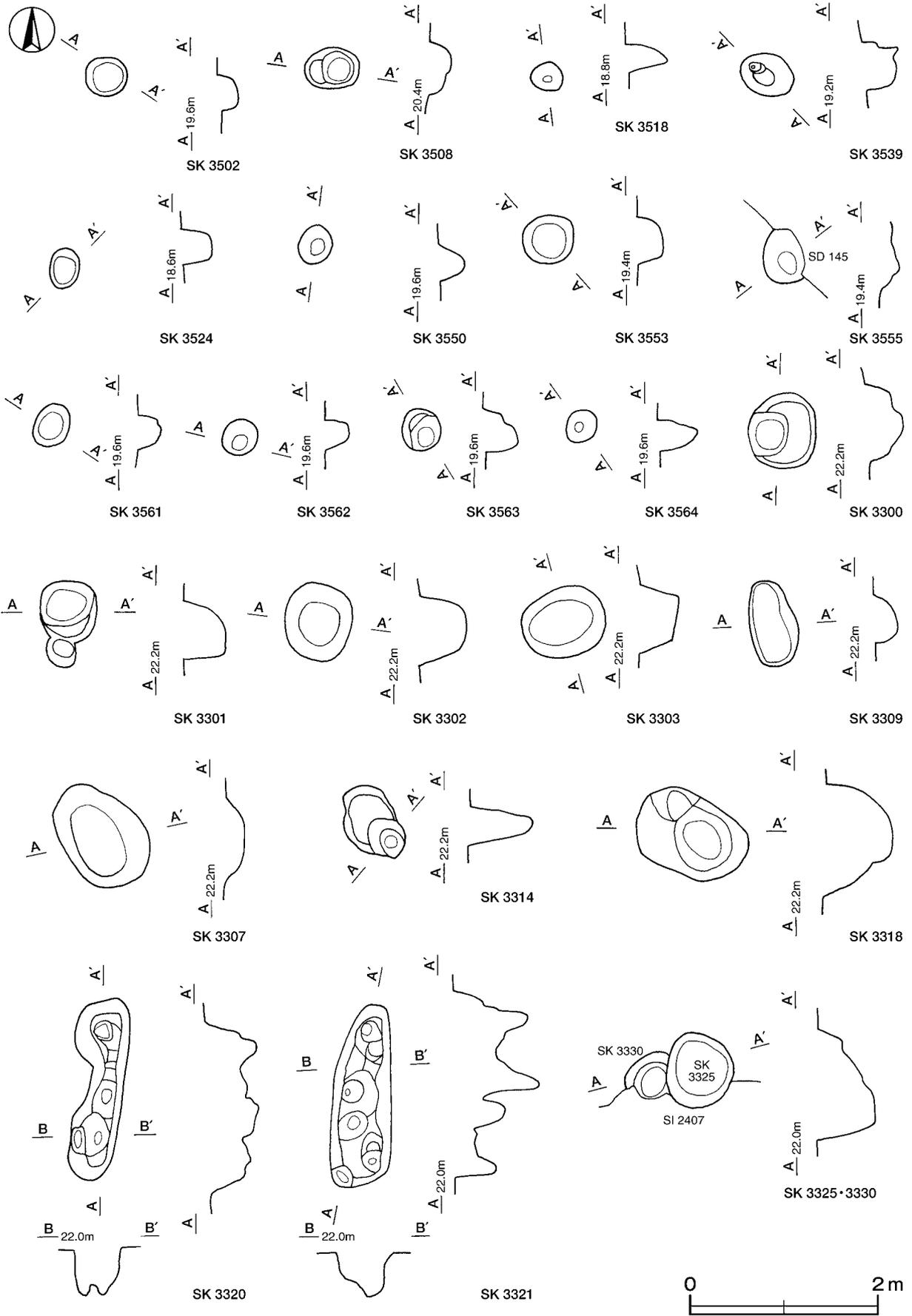
第354図 その他の土坑実測図(1)



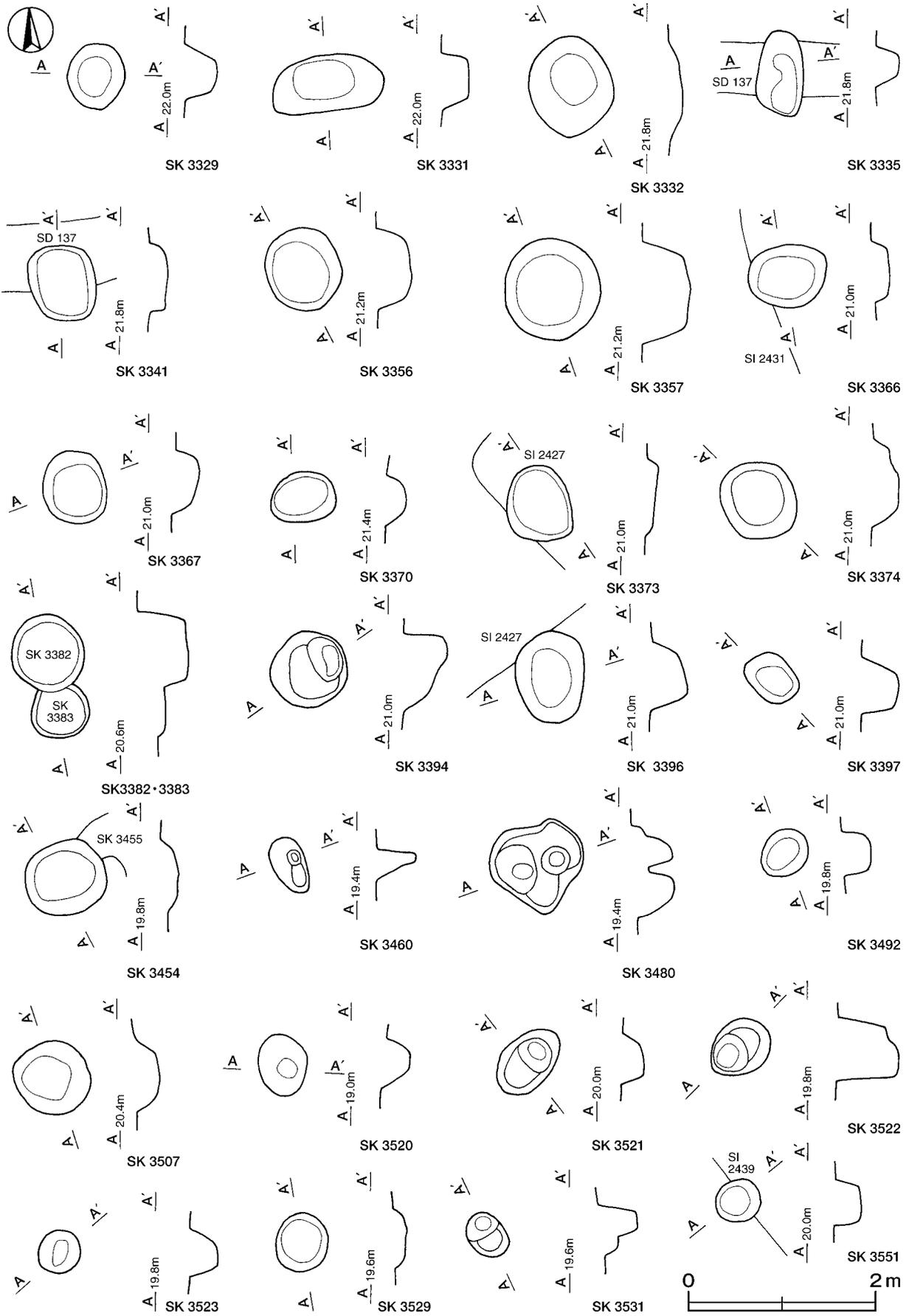
第355図 その他の土坑実測図(2)



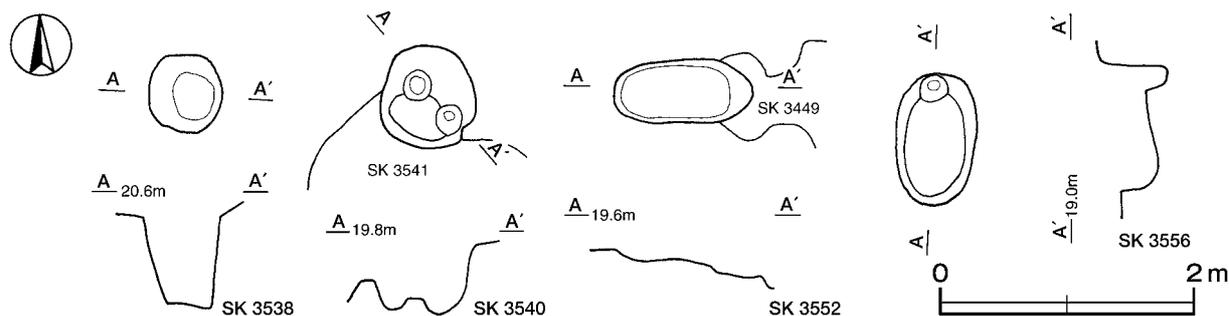
第356図 その他の土坑実測図(3)



第357図 その他の土坑実測図(4)



第358図 その他の土坑実測図(5)



第359図 その他の土坑実測図(6)

(5) ピット群

今回の調査で、調査区北部と中央部に2か所のピット群が検出された。各ピットの形状や規模は様々であるが、平面形は円形を呈し、径30~40cm、深さ20~35cm程度のもが多い。一部のピットには土層断面中に柱痕跡が認められ、何らかの建物の一部であった可能性も考えられるが、検出されたピットから建物の配列や構造を特定することはできなかった。また、これらのピットから出土した土器はいずれも細片であり、遺物から時期を判断することもできないが、以下実測図と一覧表を記載する。

第28号ピット群 (第360・361図)

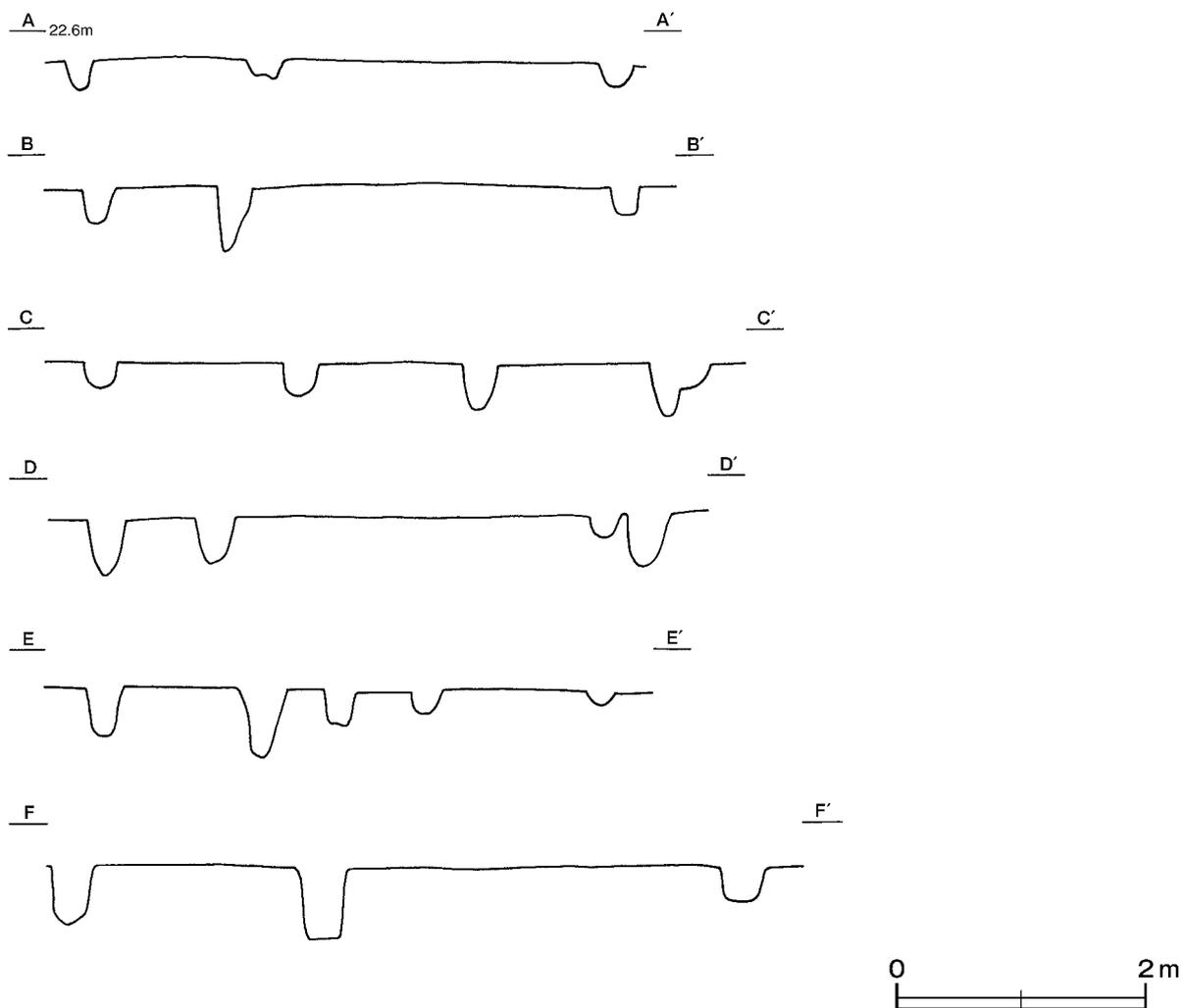
調査区北部のB 8 j 8 ~ C 8 c 9 区から34か所のピットが検出された。標高21.5mほどの平坦な台地上に位置し、平面形は長径21~50cmの円形または楕円形で、深さは12~61cmである。一部のピットには土層断面中に柱痕跡が認められるが、検出されたピットから建物の配列や構造を特定することはできなかった。また、遺物が出土していないため、時期については不明である。

表36 第28号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		ピット番号	位置	形状	規模 (cm)	
			長軸(径)×短軸(径)	深さ				長軸(径)×短軸(径)	深さ
1	B 8 j 8	楕円形	29×25	19	18	C 8 b 9	楕円形	30×26	29
2	B 8 j 8	楕円形	35×23	20	19	C 8 b 8	楕円形	25×22	28
3	B 8 j 8	円形	25×23	26	20	C 8 b 8	円形	20×19	19
4	B 8 j 7	円形	21×20	25	21	C 8 b 8	楕円形	36×30	40
5	C 8 a 7	不整楕円形	28×25	22	22	C 8 b 9	楕円形	35×30	46
6	B 8 j 8	円形	21×20	31	23	C 8 b 8	円形	29×29	22
7	C 8 a 8	円形	28×26	52	24	C 8 b 8	円形	24×24	32
8	C 8 a 9	楕円形	50×26	41	25	C 8 b 8	楕円形	40×30	54
9	C 8 a 8	楕円形	30×26	35	26	C 8 b 8	円形	28×27	25
10	C 8 a 8	円形	29×29	25	27	C 8 b 8	円形	26×25	31
11	C 8 a 8	円形	26×24	44	28	C 8 c 8	楕円形	39×24	41
12	C 8 a 8	楕円形	41×26	19	29	C 8 c 8	楕円形	44×29	40
13	C 8 b 8	円形	39×36	47	30	C 8 b 9	楕円形	37×32	28
14	C 8 b 8	楕円形	28×25	17	31	C 8 b 9	楕円形	33×28	29
15	C 8 b 8	円形	26×24	27	32	C 8 b 9	円形	40×37	49
16	C 8 b 8	円形	31×28	12	33	C 8 c 9	楕円形	37×31	47
17	C 8 b 8	円形	23×23	13	34	C 8 b 9	楕円形	48×35	61



第360図 第28号ピット群実測図(1)



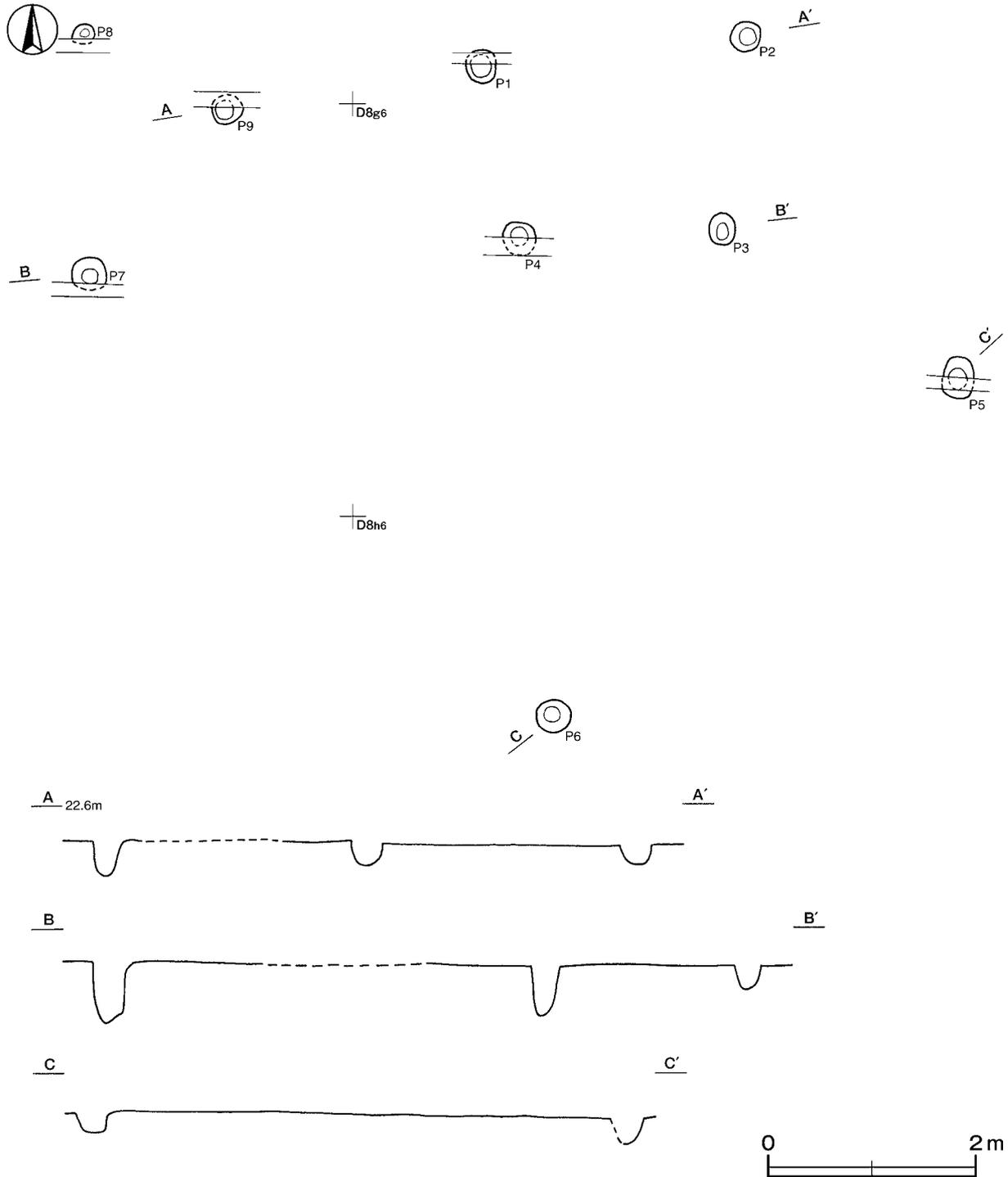
第361図 第28号ピット群実測図(2)

第29号ピット群 (第362図)

調査区南西部のD 8 f5 ~ D 8 g7 区から9か所のピットが検出された。標高22.0mほどの平坦な台地上に位置し、平面形は長径21~40cmの円形または楕円形で、深さは20~59cmである。一部のピットには土層断面中に柱痕跡が認められるが、検出されたピットから建物の配列や構造を特定することはできなかった。第3・5・7~9号ピットから土師器片13点(坏5, 甕類8)が出土しているが、いずれも混入した細片であり、時期は不明である。

表37 第29号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		ピット番号	位置	形状	規模 (cm)	
			長軸(径)×短軸(径)	深さ				長軸(径)×短軸(径)	深さ
1	D 8 f6	楕円形	[32]×29	24	6	D 8 h6	円形	33×32	20
2	D 8 f6	円形	30×29	20	7	D 8 g5	円形	33×[32]	59
3	D 8 g6	楕円形	31×26	22	8	D 8 f5	楕円形	21×[15]	33
4	D 8 g6	円形	35×34	48	9	D 8 g5	円形	30×[29]	34
5	D 8 g7	楕円形	40×30	25					



第362図 第29号ピット群実測図

(6) 柵跡

第19号柵跡 (第363図)

位置 調査区南部のD 8 b6 ~ D 8 a8 区, 標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東西方向に柱穴 5 か所が並び, 方向は N - 63° - E である。柱間寸法は西から 1.5m (5 尺), 1.8 m (6 尺), 1.8m (6 尺), 2.1m (7 尺) である。各柱穴はほぼ垂直に掘り込まれ, 深さは 39 ~ 84cm である。土層は, 第 1 ~ 6 層が柱抜き取り痕に相当し, 第 7 層が埋土である。各柱穴の底面で柱のあたりが確認され,

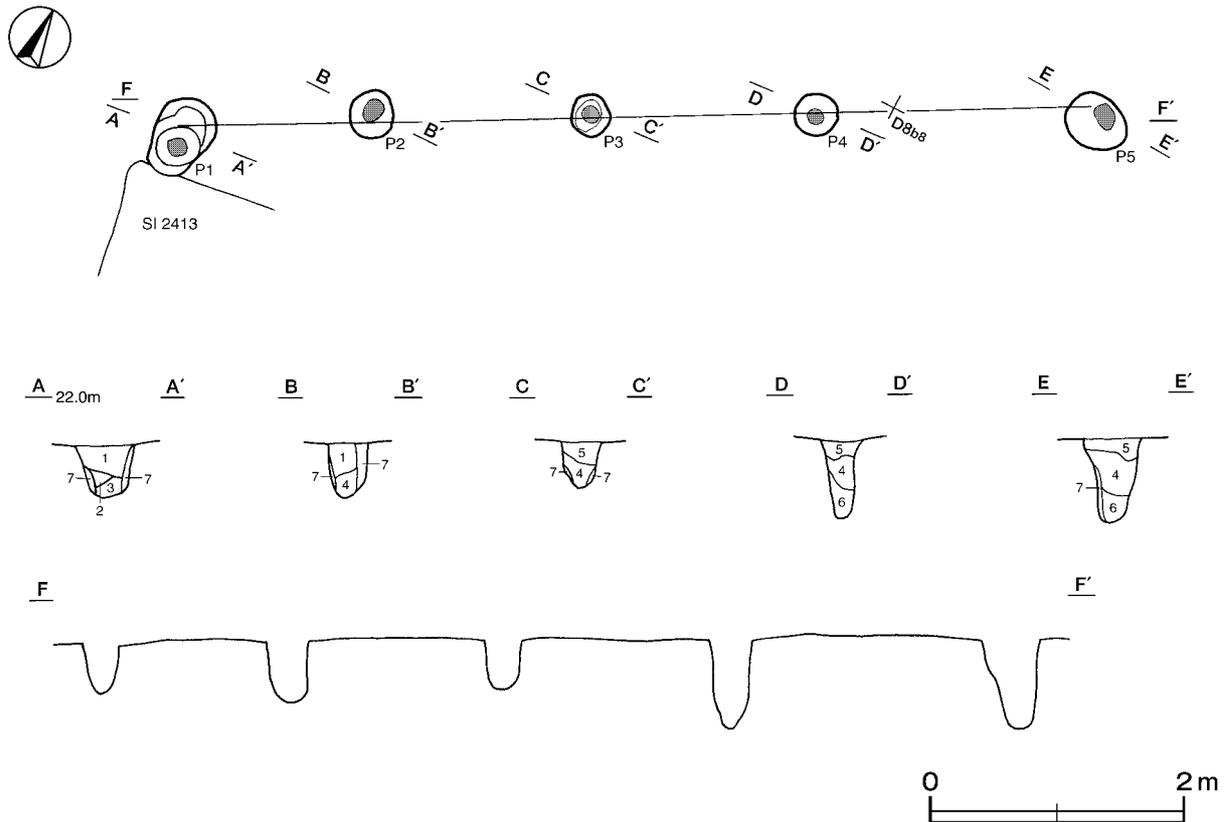
径15～17cmほどの円形の範囲が硬化している。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1点（甕類）がP5から出土している。

所見 出土土器が1点の細片のため，時期は不明である。



第363図 第19号柵跡実測図

表38 その他の時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
135	C 8 b9- C 9 b1	N - 89° - W	直線状	(10.5)	29~45	14~28	8~12	U字状	不明	外傾	土師器片	近世以降
136	C 8 e7- C 9 e2	E - 5° - S	直線状	18.4	32~78	18~58	12~22	U字状	人為	外傾	土師器片，土師質土器片，瓦，釘	近世以降
137	D 7 j0- D 9 i1	N - 86° - E	直線状	(45.4)	42~94	24~52	9~20	U字状	自然	外傾	土師器片，須恵器片，陶器片	近世以降
138	D 8 f4- D 8 h5	E - 2° - S	L字状	(17.4)	46~154	8~22	36~62	U字状	人為・自然	外傾	土師器片，須恵器片，陶器片，釘	近世以降
142	E 8 c2- E 8 d2	N - 11° - E	直線状	6.9	20~58	2~20	10	U字状	不明	外傾		不明
145	E 9 j2- E 9 j5	E - 42° - S	L字状	13.9	41~79	10~42	14~26	U字状	人為	外傾		不明

表39 墓坑の可能性のある土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ (cm)						
3304	C 9 b1	N - 87 ° - E	円形	1.19 × [1.10]	67	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI2400→本跡	
3305	C 8 b0	N - 83 ° - E	隅丸長方形	1.70 × 1.02	54	垂直	平坦	人為	土師器片, 陶器片, 鉄滓	SI2400→本跡	
3313	C 8 c8	N - 3 ° - W	隅丸長方形	1.92 × 0.67	18	外傾	凸凹	人為	須恵器片		
3317	C 8 e7	N - 87 ° - W	隅丸長方形	(3.04) × 0.86	18	外傾	平坦	人為	土師器片, 陶器片	SI2417・SD136→本跡	
3319	C 8 e7	N - 83 ° - W	隅丸長方形	2.64 × 0.71	60	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 土師 質土器片, 陶器片		
3371	E 8 d1	N - 7 ° - W	円形	1.22 × 1.16	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片		
3372	E 8 e2	N - 3 ° - W	円形	1.10 × 1.01	26	外傾	平坦	人為			
3375	E 8 g1	N - 15 ° - E	円形	1.16 × 1.14	57	外傾	平坦	人為	土師器片		
3379	E 8 i2	N - 54 ° - W	楕円形	1.14 × 0.92	58	外傾	平坦	人為		SD140→本跡	
3380	E 8 i6	N - 65 ° - W	隅丸長方形	2.10 × 0.56	60	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 瓦質 土器片, 陶器片		
3381	E 8 g5	N - 5 ° - E	円形	0.90 × 0.88	40	外傾	平坦	人為			
3384	E 8 g4	N - 48 ° - E	円形	1.42 × 1.38	40	外傾	平坦	人為	土師器片		
3387	E 7 h8	N - 45 ° - E	[方形]	1.05 × (0.70)	28	外傾	平坦	人為		SK3388→本跡→SK3390	
3388	E 7 h8	N - 30 ° - E	隅丸方形	1.06 × 0.92	48	外傾	平坦	人為		本跡→SK3387	
3389	E 7 i8	N - 72 ° - E	隅丸長方形	1.30 × 1.12	68	外傾	平坦	人為		本跡→SK3390	
3390	E 7 i7	N - 13 ° - E	隅丸長方形	3.98 × 1.50	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SK3387・3389→本跡	
3392	E 7 h0	N - 27 ° - E	楕円形	1.14 × 1.02	50	外傾	平坦	人為	土師器片, 鉄滓	SI2440→本跡	
3393	E 7 h0	N - 38 ° - E	隅丸長方形	1.54 × 0.90	44	外傾	平坦	人為	土師器片	SD148→本跡	
3400	E 8 i2	N - 57 ° - W	方形	1.20 × 0.88	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SD148→本跡	
3402	E 8 i9	N - 74 ° - E	長方形	2.47 × 0.96	52	垂直	平坦	人為			
3404	E 7 h0	N - 63 ° - W	方形	1.34 × 1.30	19	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3514→本跡	
3405	E 7 h0	N - 55 ° - W	円形	1.10 × 1.02	8	外傾	平坦	人為		SI2440→本跡	
3407	E 7 h9	N - 62 ° - W	[隅丸方形]	[1.12] × [1.10]	48	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3408→本跡→ SK3411・3440・3441	
3408	E 7 h9	N - 35 ° - E	隅丸長方形	0.90 × (0.56)	28	外傾	平坦	人為		本跡→SK3407・3440	
3410	E 8 i1	N - 62 ° - W	長方形	3.28 × 0.92	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 釘, 鉄滓		
3411	E 7 h9	N - 78 ° - W	隅丸長方形	[2.40] × 1.12	42	外傾	平坦	人為		SK3407→本跡→SK3413	
3413	E 7 g8	N - 82 ° - W	隅丸長方形	1.16 × 1.59	44	外傾	平坦	人為		SK3411→本跡	
3414	F 8 b2	N - 22 ° - E	隅丸長方形	2.20 × 0.96	20	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SK3415→本跡	
3415	F 8 b2	N - 30 ° - E	隅丸長方形	1.78 × 0.74	22	外傾	平坦	人為		本跡→SK3414・3417	
3416	F 8 b2	N - 20 ° - E	隅丸長方形	1.60 × 1.12	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 砥石	SK3417→本跡	
3417	F 8 b2	N - 20 ° - E	隅丸長方形	3.04 × 2.20	30	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片 須恵 器片	SK3415・3419→本跡→ SK3416・3418	
3418	F 8 a2	N - 60 ° - W	隅丸長方形	1.60 × 1.36	28	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片 須恵 器片	SK3417・3418→本跡	
3419	F 8 b2	N - 21 ° - E	隅丸長方形	1.38 × 1.02	26	外傾	平坦	人為		本跡→SK3415・3416・3418	
3420	F 8 b3	N - 6 ° - W	隅丸長方形	1.23 × (0.64)	19	外傾	平坦	人為		本跡→SK3421	
3421	F 8 b3	N - 1 ° - W	隅丸長方形	2.01 × 1.36	12	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2438→SK3420・3477 →本跡→SK3422	
3422	F 8 b3	N - 6 ° - E	方形	0.99 × 0.86	9	外傾	平坦	人為		SK3421→本跡	
3423	F 8 b2	N - 30 ° - E	隅丸長方形	1.92 × 1.35	11	外傾	平坦	人為		SK3424→本跡→SK3425	
3424	F 8 b3	N - 12 ° - E	-	0.78 × (0.53)	17	外傾	平坦	人為		本跡→SK3423・3425	
3425	F 8 b2	N - 17 ° - E	不整楕円形	1.19 × 1.04	15	外傾	平坦	人為		SK3423・3424→本跡	
3428	E 8 j1	N - 71 ° - W	楕円形	0.58 × (0.30)	12	外傾	平坦	人為		本跡→SK3429	
3431	E 7 j0	N - 50 ° - W	隅丸長方形	1.66 × 0.88	18	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3432→本跡→SK3433	
3432	E 7 j0	N - 64 ° - W	-	0.78 × (0.66)	18	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→SK3431・3433	
3433	E 7 j0	N - 63 ° - W	不整形	(0.90) × 0.84	46	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3431・3432→本跡→SK3434	
3434	E 7 j0	N - 28 ° - E	隅丸長方形	1.84 × 0.98	42	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3433→本跡	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ(cm)					
3438	E 7 h7	N - 57 ° - W	-	1.42 × (1.30)	37	外傾	平坦	人為		本跡→SK3436・3437
3440	E 7 h9	N - 59 ° - W	隅丸長方形	1.48 × 0.66	34	外傾	平坦	人為		SK3407・3408→本跡
3441	E 7 h9	N - 47 ° - W	隅丸長方形	1.16 × 0.70	34	垂直	平坦	人為		SK3407→本跡
3443	F 8 a2	N - 59 ° - W	隅丸長方形	1.55 × 0.92	71	外傾	U字状	人為	土師器片	SK3444・3517→本跡
3444	F 8 a2	N - 54 ° - W	楕円形	1.10 × 0.89	57	外傾	平坦	人為		SK3485・3517→本跡→SK3443
3452	F 9 a1	N - 69 ° - E	楕円形	1.02 × 0.78	20	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片 磁器片	
3456	E 7 i0	N - 18 ° - E	隅丸長方形	1.88 × 0.92	64	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→SK3569
3463	E 7 i9	N - 63 ° - W	隅丸方形	(0.94) × 0.21	78	外傾	平坦	人為		SK3465→本跡
3465	E 7 i9	-	-	- × -	21	外傾	凸凹	人為		本跡→SK3462 ~ 3464
3466	E 7 j9	N - 20 ° - E	長方形	2.34 × 1.04	42	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SK3474・3544・3545→ 本跡→SK3512
3474	E 7 j9	N - 24 ° - E	[不整形]	1.04 × [0.98]	10	外傾	平坦	人為		本跡→SK3466・3546
3476	F 8 a3	N - 67 ° - W	長方形	1.04 × 0.82	12	外傾	平坦	人為	土師器片	
3477	F 8 b3	N - 66 ° - W	長方形	0.92 × 0.86	12	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2438→本跡→SK3421・3478
3478	F 8 b3	N - 64 ° - W	円形	(0.66) × (0.40)	16	外傾	平坦	人為		SI2438・SK3477→本跡
3482	F 8 a4	N - 4 ° - W	楕円形	1.26 × 0.88	18	外傾	平坦	人為	土師器片	
3484	F 8 a1	N - 58 ° - W	楕円形	1.77 × 1.52	58	外傾	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須恵器片	SK3485・3487・3489→ 本跡→SD146
3485	F 8 a1	N - 24 ° - E	楕円形	[1.87] × (1.01)	54	外傾	平坦	人為		本跡→SK3444・3484・3487
3486	E 7 j8	N - 32 ° - E	-	0.99 × (0.58)	28	外傾	平坦	人為		本跡→SK3475
3487	F 8 a1	N - 22 ° - E	[楕円形]	1.34 × (1.30)	58	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3485・3489→本跡→ SD146・SK3484
3489	F 8 a1	N - 54 ° - W	隅丸長方形	(2.13) × 1.28	-	外傾	平坦	-		本跡→SD146・SK3484・3487
3490	E 8 h5	N - 69 ° - W	隅丸長方形	1.70 × 0.50	8	外傾	平坦	人為	土師器片	
3491	E 8 h4	N - 85 ° - W	円形	1.02 × 0.94	24	外傾	U字状	人為	土師器片	
3498	E 7 j0	N - 52 ° - W	楕円形	1.01 × 0.88	28	外傾	平坦	人為		SK3567→本跡
3503	E 7 i9	N - 27 ° - E	隅丸長方形	1.36 × 0.90	60	垂直	平坦	人為		SK3504→本跡
3509	E 7 h7	N - 60 ° - W	(長方形)	(1.62) × 1.08	34	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 釘	SK3547→本跡
3512	E 7 j9	N - 63 ° - W	隅丸長方形	1.52 × 0.84	18	外傾	平坦	人為		SK3546→本跡→SK3513
3513	E 7 j9	N - 7 ° - W	楕円形	1.46 × 1.28	36	外傾	平坦	人為	土師器片	SK3512・3546→本跡
3514	E 7 h0	N - 30 ° - E	(長方形)	(1.06) × 0.94	16	外傾	平坦	人為		本跡→SK3404
3515	E 7 g0	N - 63 ° - W	長方形	1.30 × 0.84	26	外傾	平坦	人為		UP47→本跡→SD139
3516	E 7 g0	N - 26 ° - E	楕円形	1.02 × 0.80	20	外傾	平坦	人為		UP47→本跡
3517	F 8 a2	N - 26 ° - E	-	(0.52) × (0.37)	38	外傾	平坦	人為		本跡→SK3443・3444
3528	E 8 i4	N - 36 ° - E	円形	0.99 × 0.94	14	外傾	凸凹	人為	土師器片	
3541	F 9 c2	N - 70 ° - E	隅丸方形	1.82 × 1.50	26	外傾	平坦	人為		本跡→SK3540
3544	E 7 j9	N - 21 ° - E	[隅丸長方形]	1.56 × (0.32)	14	外傾	平坦	人為		本跡→SK3466
3545	E 7 j9	N - 24 ° - E	-	(0.96) × (0.44)	30	外傾	平坦	人為		本跡→SK3466・3512
3546	E 7 j9	N - 68 ° - W	-	1.20 × (0.26)	40	外傾	平坦	人為		SK3474→本跡→ SK3511・3512・3513
3547	E 7 h7	N - 60 ° - W	(長方形)	(1.22) × (0.92)	26	外傾	平坦	人為		本跡→SK3509
3567	F 7 a0	N - 65 ° - W	隅丸長方形	1.56 × 1.02	12	外傾	平坦	人為		本跡→SK3497・3498
3610	E 8 a9	N - 50 ° - E	隅丸長方形	2.14 × 0.98	54	外傾	平坦	人為		
3611	D 8 f0	N - 86 ° - W	隅丸長方形	1.94 × 0.98	36	外傾	平坦	人為		

表40 柱穴の可能性のある土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ(cm)					
3322	D 8 a7	N - 62 ° - W	楕円形	0.48 × 0.38	42	外傾	U字状	人為	土師器片, 須恵器片	SI2407→本跡
3338	C 8 f9	N - 36 ° - E	楕円形	0.38 × 0.32	42	外傾	U字状	人為		
3340	C 8 j8	N - 33 ° - W	楕円形	0.58 × 0.52	62	外傾	平坦	人為	土師器片	
3344	D 8 b7	N - 29 ° - W	楕円形	0.40 × 0.35	65	外傾	U字状	人為		
3346	D 8 b7	N - 46 ° - W	楕円形	0.41 × 0.32	49	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3348	D 8 b6	N - 20 ° - E	楕円形	0.49 × 0.41	52	外傾	U字状	人為		
3349	D 8 a6	N - 46 ° - E	楕円形	0.66 × 0.50	68	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3360	D 8 a6	N - 37 ° - E	円形	0.32 × 0.30	24	垂直	平坦	人為		
3361	D 8 a6	N - 70 ° - W	楕円形	0.52 × 0.40	52	垂直	平坦	人為	土師器片	
3362	D 8 a6	N - 30 ° - W	円形	0.48 × 0.46	34	外傾	U字状	人為		
3364	D 8 c6	N - 35 ° - E	楕円形	0.35 × 0.28	28	垂直	平坦	人為		
3365	D 8 c6	N - 55 ° - E	円形	0.35 × 0.33	51	外傾	U字状	人為		
3368	D 8 a6	N - 2 ° - E	円形	0.42 × 0.40	50	外傾	平坦	人為		
3369	D 8 d6	N - 30 ° - W	楕円形	0.48 × 0.40	42	外傾	U字状	人為		

表41 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ(cm)					
3300	B 8 h9	N - 15 ° - E	楕円形	0.82 × 0.72	40	外傾	U字状	人為	土師器片	
3301	B 8 h9	N - 12 ° - E	不整形	0.92 × 0.61	45	外傾	U字状	人為		
3302	B 8 h7	N - 2 ° - W	楕円形	0.94 × 0.72	52	外傾	平坦	人為		
3303	B 8 h8	N - 64 ° - E	楕円形	0.97 × 0.81	42	外傾	平坦	人為		
3307	B 8 f7	N - 36 ° - W	隅丸長方形	1.22 × 0.85	20	外傾	平坦	人為		
3308	B 8 f7	N - 5 ° - E	楕円形	0.62 × 0.54	5	外傾	U字状	自然		
3309	B 8 f0	N - 7 ° - W	楕円形	0.91 × 0.52	27	外傾	U字状	人為	土師器片	
3310	B 8 f7	N - 3 ° - E	楕円形	0.48 × 0.34	22	外傾	U字状	人為		
3311	B 8 f8	N - 17 ° - W	楕円形	0.59 × 0.51	12	外傾	平坦	人為		
3312	B 8 f0	N - 29 ° - W	楕円形	0.68 × 0.54	18	外傾	平坦	人為	磁器片, 釘	
3314	C 8 c8	N - 32 ° - W	不整楕円形	0.88 × 0.56	68	外傾	U字状	人為	土師器片, 須恵器片	
3315	B 8 f7	N - 5 ° - W	円形	0.52 × 0.50	20	外傾	U字状	人為		
3316	B 8 g0	N - 7 ° - W	楕円形	0.49 × 0.39	16	外傾	平坦	人為		
3318	C 8 f6	N - 65 ° - W	楕円形	1.24 × 0.88	72	外傾	U字状	人為	土師器片, 陶器片	
3320	C 8 f6	N - 11 ° - E	不整形	1.98 × 0.58	58	外傾	凸凹	人為	須恵器片	
3321	C 8 g6	N - 2 ° - E	隅丸長方形	1.97 × 0.60	51	外傾	凸凹	人為		SI2410→本跡
3323	D 8 a7	N - 30 ° - E	円形	0.54 × 0.50	16	外傾	U字状	人為	土師器片	SI2407→本跡
3324	C 8 i0	N - 6 ° - E	楕円形	0.51 × 0.35	38	外傾	U字状	人為		
3325	C 8 j7	N - 12 ° - W	円形	0.82 × 0.72	36	外傾	U字状	人為	須恵器片	SI2407・SK3330→本跡
3329	B 8 j0	N - 9 ° - E	楕円形	0.75 × 0.63	35	外傾	平坦	人為		
3330	C 8 j7	N - 73 ° - W	円形	[0.60] × (0.57)	64	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SI2407・SK3325
3331	C 8 j8	N - 78 ° - E	楕円形	1.24 × 0.62	28	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3332	C 9 i1	N - 13 ° - W	楕円形	1.08 × 0.92	16	外傾	U字状	人為		
3333	C 9 i1	N - 61 ° - W	円形	0.56 × 0.54	38	外傾	U字状	人為	土師器片, 陶器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ(cm)					
3334	C 9 j1	N - 55 ° - W	円形	0.42 × 0.40	20	外傾	平坦	人為	須恵器片, 釘	
3335	D 8 i5	N - 7 ° - W	橢円形	0.94 × 0.50	24	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須恵器片	SD137→本跡
3336	B 8 j0	N - 5 ° - E	橢円形	0.64 × 0.44	26	垂直	平坦	自然	土師器片	
3337	C 8 a0	N - 16 ° - W	橢円形	0.63 × 0.56	39	外傾	U字状	人為		
3339	C 8 g9	N - 67 ° - W	円形	0.36 × 0.34	30	垂直	平坦	人為		
3341	D 8 i4	N - 34 ° - W	橢円形	0.86 × 0.73	18	垂直	平坦	人為		SD137→本跡
3343	D 8 b8	N - 49 ° - E	円形	0.28 × 0.25	28	垂直	平坦	自然		
3350	D 8 b8	N - 83 ° - W	円形	0.33 × 0.32	31	外傾	U字状	人為		
3351	D 8 b8	N - 36 ° - W	橢円形	0.40 × 0.34	17	外傾	平坦	人為	土師器片	
3352	D 8 b8	N - 20 ° - E	橢円形	0.50 × 0.34	28	垂直	平坦	人為		
3353	D 8 a8	N - 50 ° - E	橢円形	0.32 × 0.27	23	垂直	平坦	-		
3354	D 8 a8	N - 49 ° - E	円形	0.48 × 0.47	47	外傾	平坦	-	土師器片	
3356	E 8 a9	N - 23 ° - W	橢円形	0.89 × 0.79	37	外傾	U字状	人為	土師器片	
3357	E 8 b9	N - 17 ° - E	円形	1.10 × 1.04	52	外傾	平坦	人為	土師器片	
3358	D 8 b7	N - 20 ° - W	橢円形	0.41 × 0.35	39	外傾	U字状	人為		
3363	D 8 c6	N - 41 ° - W	円形	0.35 × 0.32	17	外傾	平坦	人為		
3366	E 8 c0	N - 66 ° - E	橢円形	0.84 × 0.70	20	外傾	平坦	-	土師器片, 鎌	SI2431→本跡
3367	E 8 c0	N - 17 ° - W	橢円形	0.86 × 0.70	19	外傾	平坦	人為		
3370	E 8 c4	N - 75 ° - E	橢円形	0.70 × 0.58	28	外傾	U字状	自然	土師器片	
3373	E 8 b0	N - 22 ° - W	橢円形	0.87 × 0.76	38	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2427→本跡
3374	E 9 b1	N - 53 ° - E	橢円形	0.90 × 0.80	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 陶器片	SI2427→本跡
3382	E 8 g4	N - 20 ° - E	円形	0.82 × 0.80	50	外傾	平坦	人為	土師器片, 陶器片, 磁器片	SK3383→本跡
3383	E 8 g4	N - 15 ° - E	円形	0.61 × 0.60	12	外傾	平坦	人為	陶器片	本跡→SK3382
3394	E 8 c0	N - 2 ° - E	円形	0.82 × 0.80	50	外傾	平坦	人為	土師器片	
3395	E 8 b0	N - 17 ° - W	橢円形	0.54 × 0.48	22	外傾	U字状	人為	刀子	
3396	E 9 b1	N - 2 ° - E	橢円形	1.01 × 0.79	40	外傾	平坦	人為		SI2427→本跡
3397	E 9 c1	N - 40 ° - W	橢円形	0.58 × 0.48	42	外傾	U字状	人為	土師器片	
3401	E 8 i1	N - 19 ° - E	橢円形	0.59 × 0.47	50	外傾	段状	人為	須恵器片	SD148→本跡
3403	E 8 i9	N - 25 ° - W	円形	0.62 × 0.60	30	外傾	U字状	自然	土師器片	
3430	E 8 j1	N - 68 ° - W	円形	0.36 × 0.34	46	垂直	平坦	人為	土師器片	
3435	E 8 j1	N - 77 ° - W	橢円形	0.44 × 0.38	58	外傾	U字状	-		SK3429→本跡
3445	F 9 a1	N - 37 ° - E	橢円形	0.54 × 0.48	42	外傾	平坦	人為		
3450	F 9 a2	N - 80 ° - W	橢円形	0.62 × 0.50	10	外傾	平坦	人為		
3451	F 9 a3	N - 42 ° - E	橢円形	0.58 × 0.52	10	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
3453	F 9 a1	N - 3 ° - E	円形	0.46 × 0.44	28	外傾	平坦	人為	土師器片	
3454	F 9 a1	N - 61 ° - E	円形	0.84 × 0.80	14	外傾	平坦	人為	土師器片, 陶器片	SK3455→本跡
3458	E 9 h2	N - 7 ° - W	橢円形	0.46 × 0.40	34	外傾	平坦	人為		
3459	F 8 c8	N - 68 ° - E	橢円形	0.60 × 0.50	22	外傾	平坦	人為	土師器片	
3460	F 8 b9	N - 25 ° - W	橢円形	0.62 × 0.36	42	外傾	U字状	人為	須恵器片	
3462	E 7 i9	N - 72 ° - W	不整橢円形	0.96 × 0.36	69	外傾	平坦	人為		SK3463・3465→本跡
3472	E 7 h0	N - 1 ° - W	円形	0.52 × 0.48	4	外傾	平坦	-	土師器片	SI2440→本跡
3473	E 7 h0	N - 73 ° - E	円形	0.64 × 0.58	4	外傾	平坦	-	土師器片	SI2440→本跡
3479	E 8 j1	N - 20 ° - E	橢円形	1.06 × 0.60	60	外傾	平坦	人為		SK3398→本跡
3480	E 7 j1	N - 72 ° - E	不整形	0.99 × 0.94	42	外傾	平坦	人為		
3481	E 8 i1	N - 50 ° - W	不整形	1.06 × 0.78	68	外傾	凸凹	人為		SD148→本跡
3483	E 9 g3	N - 31 ° - W	[橢円形]	0.42 × (0.30)	32	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 土師 質土器片, 陶器片, 磁器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ(cm)					
3492	E 9 i 3	N - 41 ° - E	橢円形	0.58 × 0.46	32	垂直	平坦	人為	土師器片	
3495	E 9 i 2	N - 70 ° - W	円形	0.40 × 0.38	22	外傾	U字状	人為		
3502	F 8 a 1	N - 45 ° - W	円形	0.44 × 0.43	19	外傾	平坦	人為		
3504	E 7 i 9	N - 77 ° - W	橢円形	0.68 × 0.60	68	垂直	平坦	人為		本跡→SK3503
3505	E 7 i 0	N - 52 ° - E	円形	0.24 × 0.22	32	外傾	U字状	人為		
3506	E 7 i 0	N - 50 ° - E	円形	0.26 × 0.24	50	垂直	U字状	人為		
3507	E 9 f 1	N - 63 ° - W	円形	0.82 × 0.76	22	外傾	U字状	人為	土師器片	
3508	E 8 f 0	N - 82 ° - E	橢円形	0.58 × 0.48	22	外傾	凸凹	人為		
3510	E 7 i 0	N - 30 ° - E	橢円形	0.59 × 0.48	9	外傾	平坦	-		
3518	F 9 a 4	N - 48 ° - W	円形	0.31 × 0.30	48	外傾	U字状	人為		
3520	F 9 a 3	N - 12 ° - W	橢円形	0.66 × 0.52	28	外傾	平坦	人為		
3521	E 9 i 1	N - 42 ° - E	橢円形	0.84 × 0.54	26	外傾	平坦	人為		SI2439→本跡
3522	E 9 j 2	N - 46 ° - E	橢円形	0.72 × 0.56	68	垂直	平坦	人為	土師器片	
3523	E 9 j 2	N - 47 ° - E	橢円形	0.50 × 0.42	32	外傾	平坦	人為		
3524	F 9 b 4	N - 4 ° - E	橢円形	0.44 × 0.32	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
3525	E 7 j 0	N - 85 ° - E	橢円形	0.42 × 0.30	52	外傾	U字状	人為		
3526	E 7 i 0	N - 14 ° - E	円形	0.38 × 0.34	30	垂直	凸凹	人為		
3527	E 7 j 0	N - 48 ° - W	円形	0.44 × 0.40	18	外傾	平坦	-	土師器片	
3529	E 9 j 3	N - 16 ° - E	橢円形	0.66 × 0.54	12	外傾	平坦	-		
3531	E 9 j 3	N - 23 ° - E	橢円形	0.52 × 0.40	18	外傾	平坦	人為		
3538	E 9 e 2	N - 3 ° - E	円形	0.60 × 0.58	72	垂直	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	
3539	E 9 i 4	N - 64 ° - W	橢円形	0.60 × 0.48	38	外傾	凸凹	人為		
3540	F 9 c 2	N - 22 ° - W	円形	0.76 × 0.74	52	外傾	凸凹	人為	土師器片	SK3541→本跡
3543	E 7 h 9	N - 31 ° - E	円形	0.50 × 0.48	48	外傾	平坦	人為		
3550	E 9 j 3	N - 25 ° - E	橢円形	0.40 × 0.34	24	外傾	U字状	人為		
3551	E 9 i 2	N - 35 ° - E	円形	0.50 × 0.48	26	外傾	平坦	人為		SI2439→本跡
3552	F 8 b 8	N - 88 ° - E	橢円形	1.08 × 0.51	13	外傾	平坦	人為		SK3449→本跡
3553	E 9 i 3	N - 1 ° - E	円形	0.54 × 0.52	24	外傾	U字状	人為		
3555	F 9 a 3	N - 45 ° - E	不整橢円形	0.56 × 0.48	20	外傾	凸凹	人為		
3556	F 9 b 2	N - 2 ° - W	橢円形	1.04 × 0.67	48	外傾	平坦	人為		
3560	E 7 i 9	N - 27 ° - E	不整形	0.72 × 0.46	59	外傾	U字状	人為		SK3456→本跡
3561	E 9 j 3	N - 16 ° - E	橢円形	0.46 × 0.38	24	外傾	U字状	人為	土師器片	
3562	E 9 i 3	N - 14 ° - E	円形	0.38 × 0.26	24	外傾	平坦	人為		
3563	E 9 i 2	N - 29 ° - W	円形	0.46 × 0.42	36	外傾	平坦	人為		
3564	E 9 i 2	N - 40 ° - E	橢円形	0.64 × 0.36	42	外傾	U字状	人為		
3566	E 7 i 0	N - 34 ° - W	橢円形	0.52 × 0.28	48	外傾	平坦	-		
3568	E 7 j 0	N - 30 ° - E	隅丸長方形	0.60 × 0.42	60	外傾	平坦	人為		
3569	E 7 j 0	N - 6 ° - E	円形	0.46 × 0.44	53	外傾	平坦	人為		
3570	E 7 i 9	N - 84 ° - W	不整長方形	0.66 × 0.46	62	外傾	凸凹	人為		
3571	E 7 i 9	N - 4 ° - E	橢円形	0.28 × 0.20	42	外傾	U字状	人為		
3572	E 7 h 9	N - 52 ° - E	橢円形	0.44 × 0.30	50	外傾	U字状	-		
3573	E 7 h 9	N - 1 ° - E	円形	0.22 × 0.21	34	外傾	U字状	-		
3574	E 7 i 0	N - 16 ° - E	橢円形	0.27 × 0.22	50	垂直	U字状	-		
3575	E 7 i 0	N - 3 ° - W	円形	0.20 × 0.18	28	外傾	U字状	-		
3576	E 7 i 0	N - 84 ° - W	橢円形	0.20 × 0.16	26	外傾	平坦	-		
3577	E 7 i 0	N - 13 ° - E	円形	0.24 × 0.20	32	外傾	U字状	-		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ(cm)					
3578	E 7 i 0	N - 13 ° - E	楕円形	0.30×0.26	38	外傾	平坦	-		
3579	E 7 i 0	N - 65 ° - W	楕円形	0.32×0.22	30	外傾	平坦	人為		
3580	E 7 i 0	N - 23 ° - E	不整形	0.54×0.50	36	外傾	平坦	人為		
3581	E 8 i 1	N - 73 ° - W	不整楕円形	0.28×0.20	54	外傾	平坦	人為		
3582	E 8 i 1	N - 61 ° - W	不整楕円形	0.66×0.58	84	外傾	平坦	-		
3583	E 8 i 1	N - 25 ° - W	円形	0.24×0.22	58	外傾	平坦	-		
3584	E 8 i 1	N - 52 ° - E	楕円形	0.60×0.40	42	外傾	U字状	-		
3585	E 8 j 1	N - 15 ° - W	円形	0.18×0.16	18	外傾	U字状	-		
3586	E 8 j 1	N - 64 ° - W	楕円形	0.28×0.22	20	外傾	U字状	-		
3587	E 8 j 1	N - 47 ° - E	円形	0.26×0.24	24	外傾	平坦	-		
3588	E 8 j 1	N - 86 ° - E	楕円形	0.22×0.16	42	外傾	平坦	-		
3589	E 8 j 1	N - 54 ° - E	楕円形	0.28×0.20	18	垂直	平坦	-		
3590	E 8 j 1	N - 36 ° - E	楕円形	0.30×0.22	44	外傾	U字状	-		
3591	E 8 j 1	N - 35 ° - E	円形	0.24×0.22	20	外傾	U字状	-		
3592	E 8 j 1	N - 70 ° - E	円形	0.30×0.28	36	外傾	U字状	-		
3593	E 8 j 1	N - 57 ° - W	楕円形	0.30×0.26	64	外傾	U字状	-		
3594	E 8 j 1	N - 52 ° - E	楕円形	0.40×0.28	22	外傾	平坦	-		
3595	E 8 j 1	N - 27 ° - E	楕円形	0.48×0.30	20	外傾	U字状	-		
3596	E 8 j 1	N - 55 ° - E	楕円形	0.30×0.24	18	外傾	U字状	-		
3597	E 8 j 1	N - 52 ° - E	楕円形	0.50×0.24	20	外傾	U字状	-		
3598	E 8 j 1	N - 52 ° - E	楕円形	0.37×0.28	51	外傾	平坦	-		SK3426→本跡
3599	E 8 j 1	N - 76 ° - W	楕円形	0.71×0.37	58	外傾	U字状	-		SK3426→本跡
3600	F 8 a 2	N - 84 ° - E	長方形	0.20×0.18	14	外傾	平坦	-		
3601	F 8 a 2	N - 36 ° - E	円形	0.18×0.16	38	外傾	平坦	-	土師器片	
3602	E 8 j 2	N - 27 ° - E	長方形	0.20×0.16	24	垂直	平坦	-		
3603	E 8 j 2	N - 23 ° - E	楕円形	0.20×0.16	18	外傾	U字状	-		
3604	E 8 j 2	N - 21 ° - W	円形	0.22×0.18	18	外傾	U字状	-		
3605	E 8 j 2	N - 75 ° - E	楕円形	0.32×0.20	46	外傾	U字状	-		
3606	E 8 j 1	N - 2 ° - W	不整楕円形	0.59×(0.56)	28	外傾	U字状	-		本跡→SK3426
3607	E 7 i 0	N - 26 ° - E	楕円形	0.38×0.32	62	外傾	U字状	-		
3608	E 7 i 0	N - 13 ° - E	楕円形	0.90×0.54	52	外傾	平坦	-	土師質土器片	
3609	E 7 i 0	N - 14 ° - E	円形	0.41×0.39	58	外傾	U字状	-		

6 遺構外出土遺物 (第364・365図)

第14区の調査で出土した、遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを抽出して記載する。なお、解説は遺物観察表で示した。

第14区遺構外出土遺物観察表 (第364・365図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
504	土師器	小形甕	[15.6]	16.4	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 下位ヘラ磨き 輪種痕 内面ヘラナデ 輪種痕	E 9 j 4	70%
505	土師質土器	小皿	7.7	2.1	5.4	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	底部ヘラ削り	D 8 b 9	70%
506	陶器	皿	[11.2]	2.1	[6.2]	緻密	灰	良好	鉄絵皿 口口整形 内・外面施釉	F 8 c 6	瀬戸系
507	陶器	蓋	9.5	(2.0)	7.6	緻密	にぶい橙	良好	急須蓋 つまみ欠損 表面に施釉	E 7 f 8	瀬戸・美濃系

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP31	縄文土器	鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	刺突文を有する隆帯垂下 蛇行沈線文を施文 磨耗貝殻条痕文	SK3426 覆土	早期後半 PL79
TP32	縄文土器	深鉢	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	口唇部に刻み 沈線区画 口辺部に貫通孔	SI2414 覆土	早期後半 PL79
TP33	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線区画文様帯 区画内に単節縄文LRを充填	SI2409 覆土	後期初頭 PL79
TP34	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	把手部沈線文	SI2433 覆土	後期初頭 PL79

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP44	土玉	1.9	1.8	0.6	4.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	E 9 a 1	PL80
DP45	土玉	2.1	1.9	0.5	6.2	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	E 9 a 1	PL80

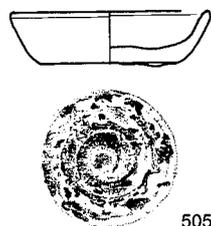
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP46	泥面子	(1.5)	1.6	0.5	(0.9)	土(長石)	芥子面 中央部に穿孔 裏面ナデ	B 8 i 0	PL79
DP47	泥面子	2.1	(1.7)	0.5	(1.6)	土(長石)	芥子面 表面達磨 裏面ナデ	B 8 i 9	PL79
DP48	泥面子	2.1	2.7	0.7	3.3	土(長石)	芥子面 表面鯉 裏面ナデ	B 8 j 9	PL79

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	尖頭器	4.5	1.9	0.7	4.5	黒曜石	縁に押圧剥離調整	D 8 e 6	PL80
Q40	石核	7.4	4.2	2.3	69.3	石英斑岩	縦長剥片を剥離 背面に前段階の剥離痕を残す	C 8 h 7	
Q41	砥石	(7.8)	3.4	2.5	(94.8)	凝灰岩	砥面3面 上部欠損	E 7 i 9	PL79
Q42	砥石	(5.3)	(5.2)	0.9	(40.9)	凝灰岩	提砥石の破片 上部に孔径0.7cmの穿孔	E 8 h 3	PL80
Q44	石製模造品	6.3	5.0	1.0	28.9	粘板岩	未製品 孔径0.3cmの穿孔	D 8 f 0	

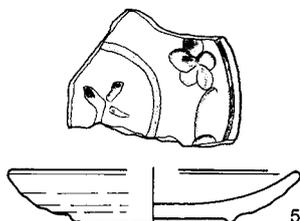
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q43	管玉	3.0	1.2	1.4	8.3	碧玉	2方向からの穿孔 全面研磨	E 9 a 1	PL80

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M109	不明	(12.6)	2.2	0.4	(22.8)	鉄	頭部・茎部欠損	E 9 i 4	PL81
M111	釘	(6.6)	0.8	0.4	(4.4)	鉄	断面長方形の棒状 中位で屈曲する	D 8 f 5	PL81
M112	煙管	-	1.7	1.2	(2.7)	銅	火皿 雁首欠損	D 10 a 1	
M113	煙管	(7.5)	1.1	1.1	(5.7)	銅	吸口部	D 8 a 7	PL81

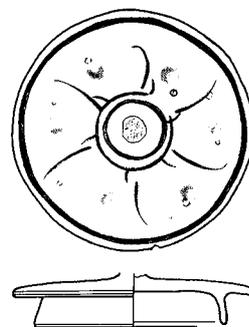
番号	器種	最小径	最大径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M110	紡錘車	(3.5)	(3.8)	(0.2)	(9.7)	鉄	軸欠損 孔径0.6cm	E 9 g 2	PL81



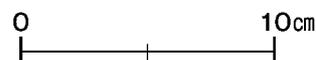
505



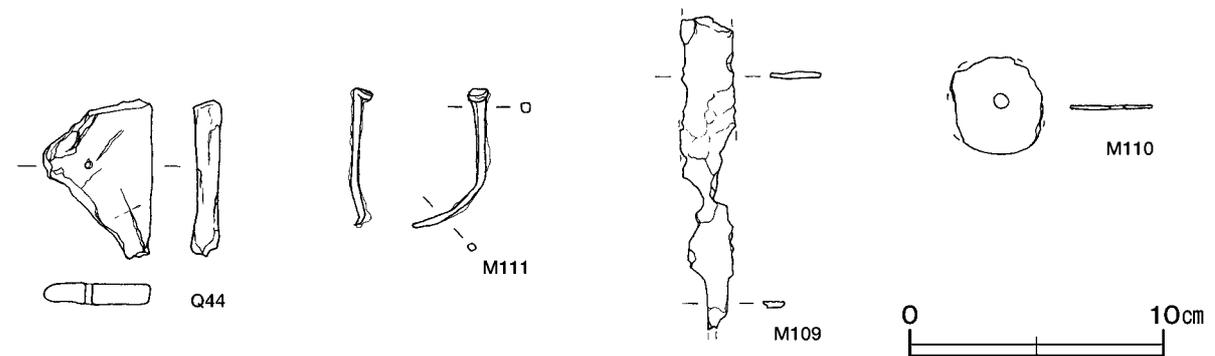
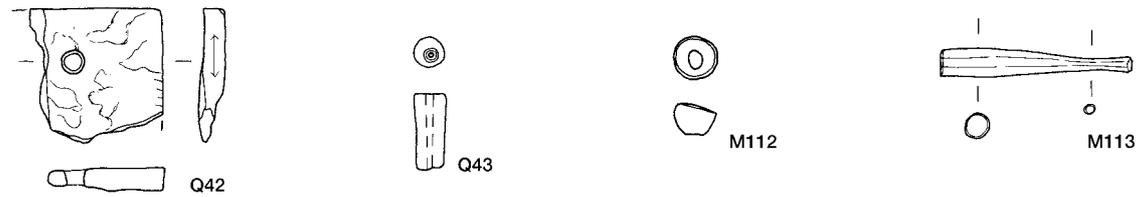
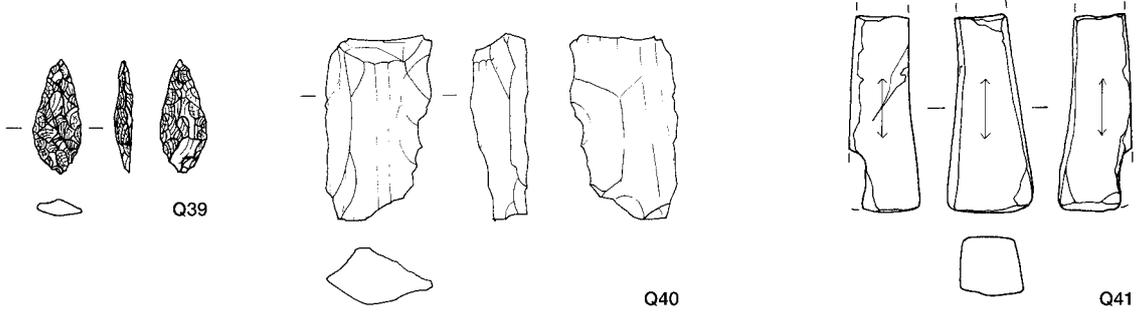
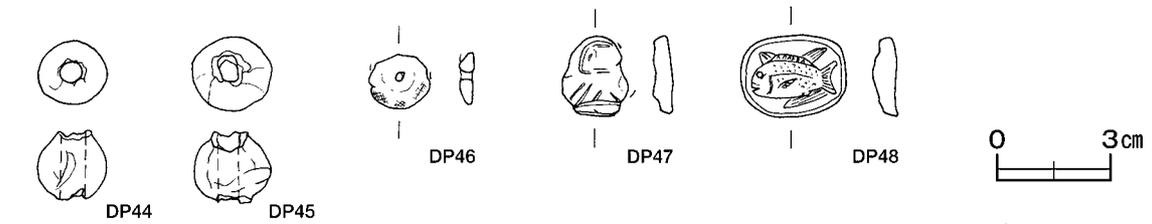
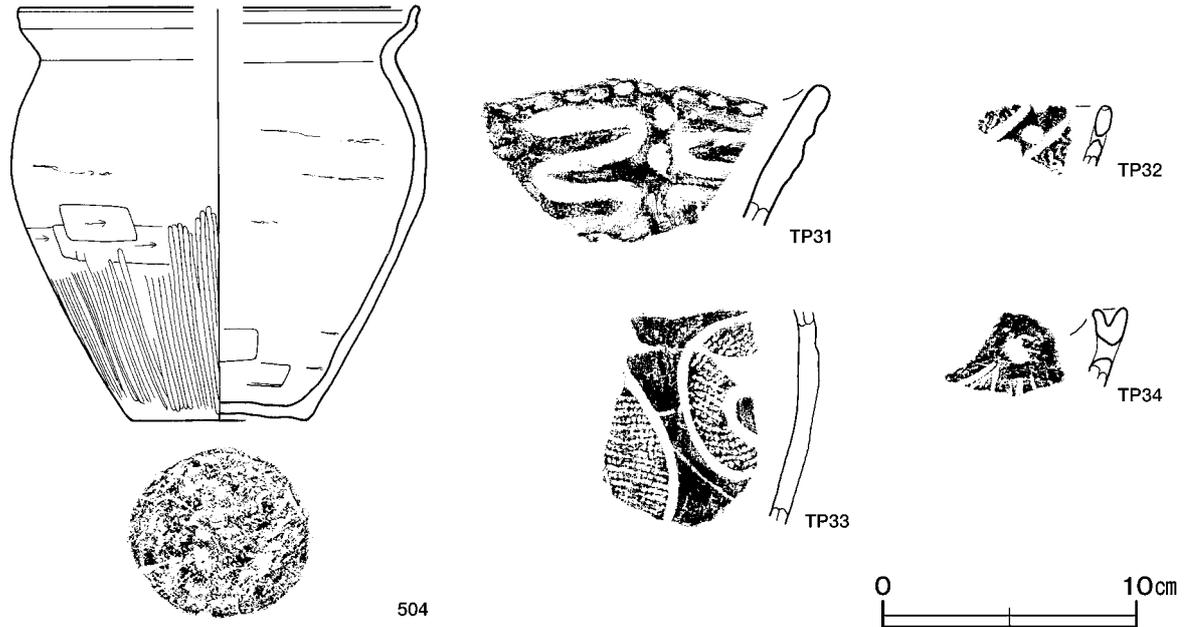
506



507



第364図 遺構外出土遺物実測図(1)



第365圖 遺構外出土遺物実測図(2)

第7節 16区の遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の陥し穴1基を確認した。以下、遺構について記述する。

第7号陥し穴（第366図）

位置 調査区東部のR 5 i 9区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2682号住居，第4713号土坑に掘り込まれている。

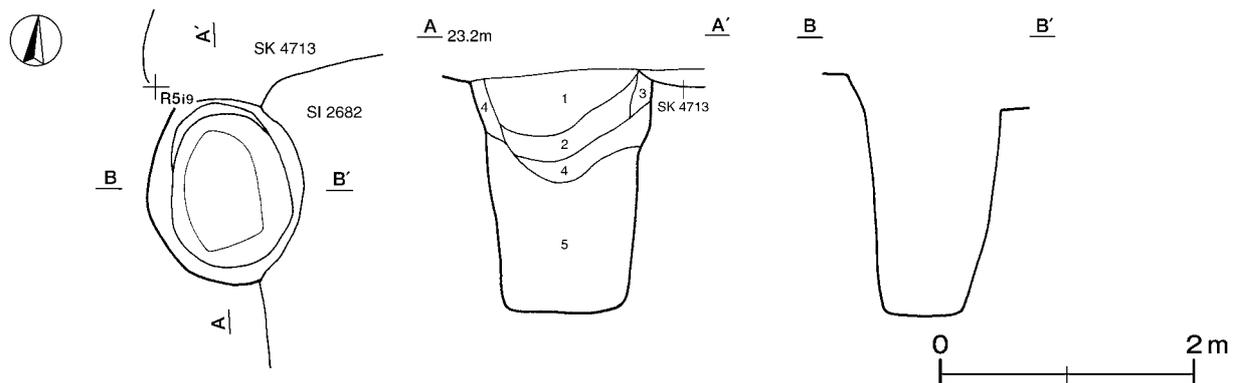
規模と形状 長径1.50m，短径1.25mの楕円形で，長径方向はN - 10° - Wである。深さは190cmで，短径方向の断面は逆台形である。南北壁は直立して立ち上がっている。

覆土 5層に分けられる。各層に含まれるロームブロックは，壁部が崩落したものと考えられ，上部ほど細粒化しており，自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 | | |

所見 遺物は出土していないが，規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第366図 第7号陥し穴実測図

2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の竪穴住居跡57軒，土坑1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2592号住居跡（第367図）

位置 調査区南部のS 4 g 8区，標高22.0mほどの斜面上段に位置している。

重複関係 第102号堀に掘り込まれている。また，削平のため床面がほとんど露出した状態で検出されている。

規模と形状 硬化面の広がりから東西軸は5.50mと推定され，南北軸は4.70mを確認している。西壁の方向はN - 6° - Wである。壁高は北西側で1.5cmであり，立ち上がりの状況は不明である。

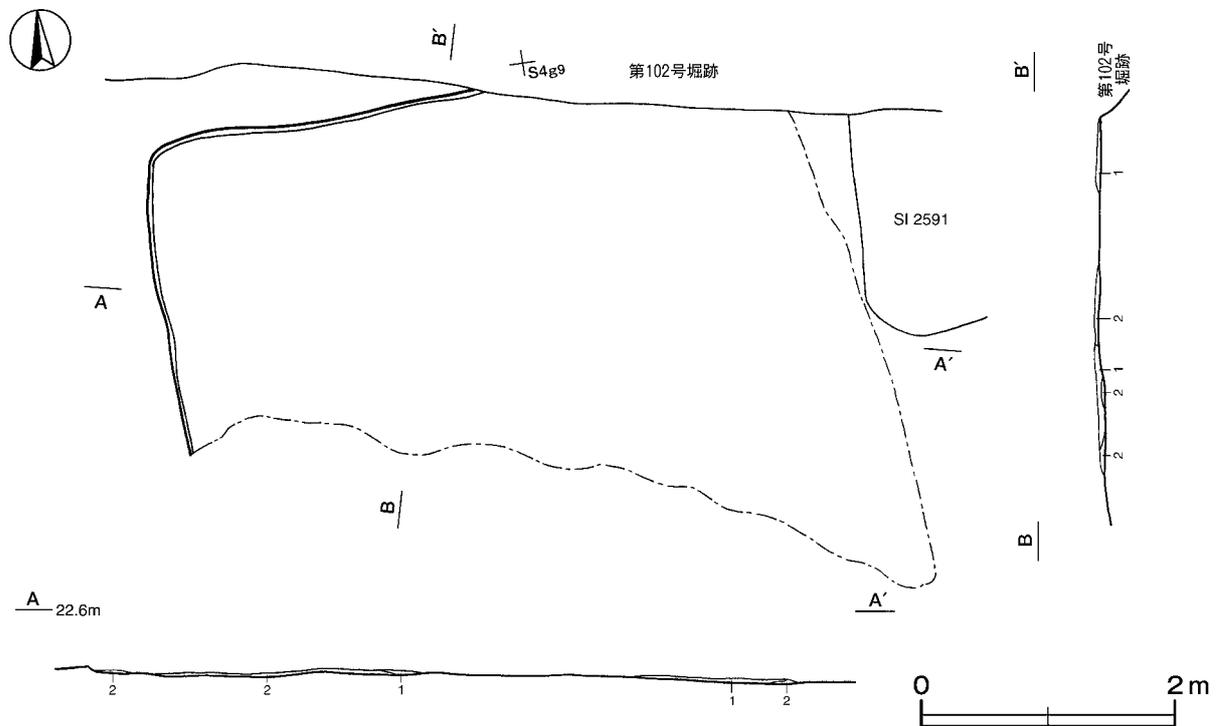
床 確認できた部分ではほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。

覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 2 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
|-------|--------------|------|----------------|

所見 出土遺物が無いため、明確な時期は不明である。周辺の住居跡は6世紀後葉から7世紀前葉と9世紀後葉から10世紀前葉の二時期に大別され、本跡の主軸方向は前者とほぼ同一であることから、同時期の可能性が考えられる。



第367図 第2592号住居跡実測図

第2594号住居跡（第368・369図）

位置 調査区南部のS 5 c3区、標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2608号住居、第472号掘立柱建物、第4166・4167号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.24m、短軸4.16mの方形で、主軸方向はN - 8° - Wである。壁高は26~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の周辺を含む主柱穴の内側が踏み固められている。壁下には、幅10~14cm、深さ4cmで、浅いU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北西部は遺構の重複のため不明瞭であるが、本来、全周していたと考えられる。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部の一部を第4167号土坑に掘り込まれており、焚口部から煙道部まで98cmを確認している。袖部は、幅111cmで、床面から15cmほど掘りくぼめた部分に第16層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第12~15層を積み上げて構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火床部は赤変硬化している。煙道部は、壁外に56cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。覆土は、第1~10層に分けられ、第6・7層が袖部及び天井部の構築材と火を受けて赤変した部分の崩落土層に相当する。全体的に含有物を含む人為堆積である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 極暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 12 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

- | | | | |
|--------|------------------------------|-----------|-------------------------|
| 13 褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 14 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 16 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは47～60cmである。P5は深さ41cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ19cmで、P5を掘り込んでおり、出入口施設の抜き取り痕と考えられる。

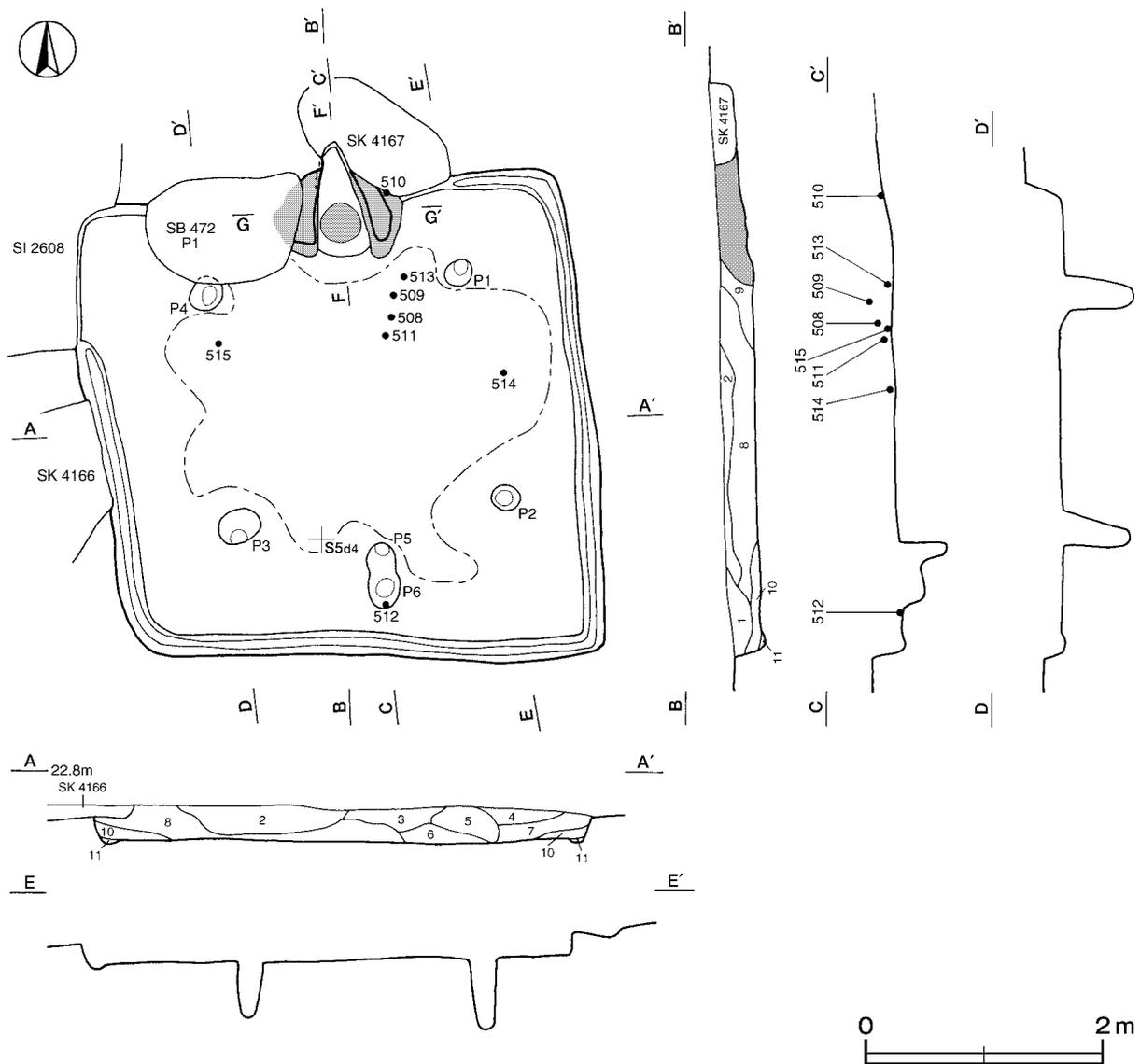
覆土 11層に分けられる。第1～10層は複雑な堆積状況を示した人為堆積である。第11層は壁溝の覆土である。

土層解説

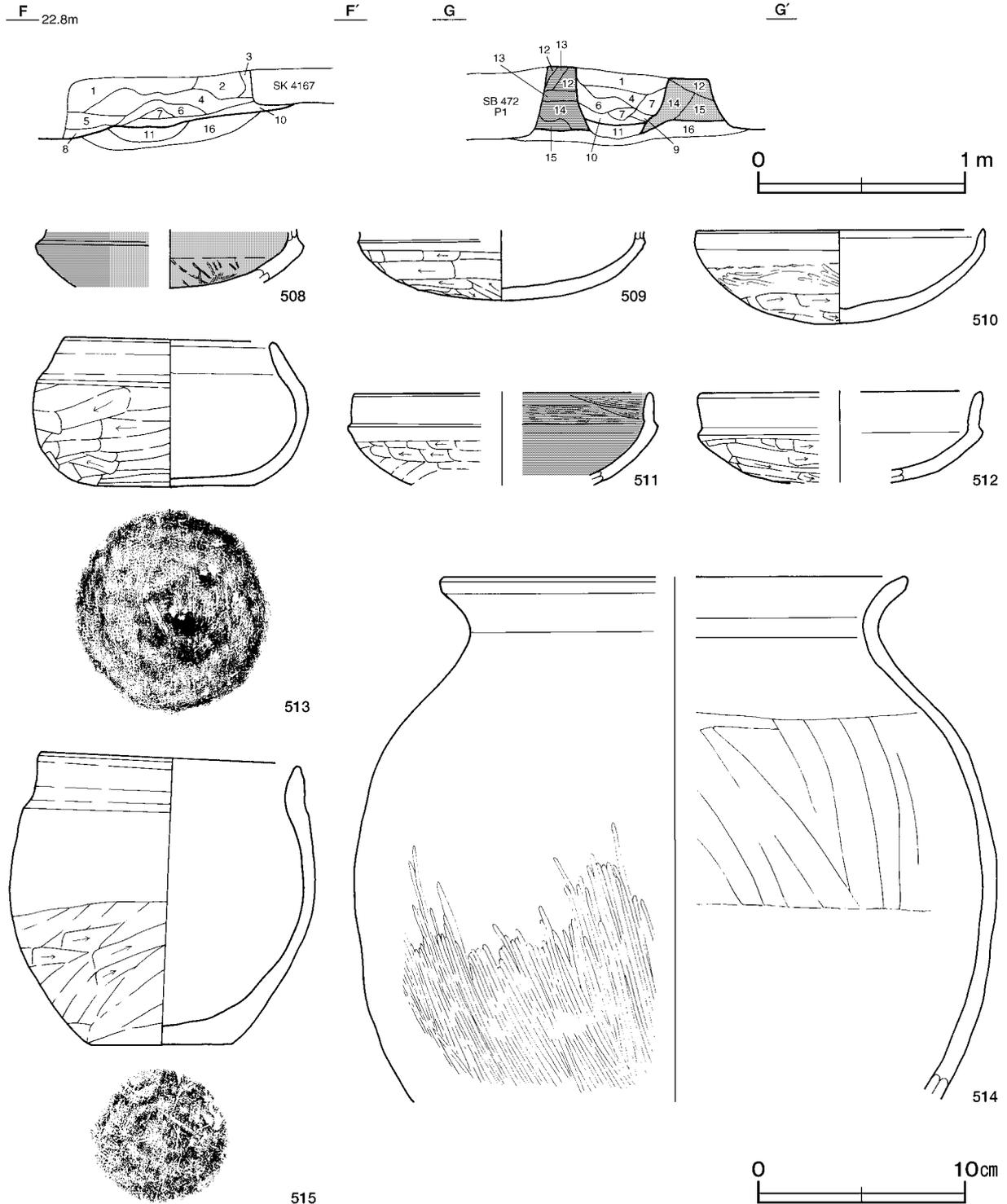
- | | | | |
|---------|------------------------|--------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片413点(坏58 鉢1 甕類352 甌2), 土製品1点(勾玉)が、竈の周辺から中央部を中心に出土している。510は竈の右袖際, 513は竈前面, 514は東側, 515は西側, 512は出入口施設付近の床面からそれぞれ出土しており、いずれも完形もしくは残存率の高い破片で、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第368図 第2594号住居跡実測図



第369図 第2594号住居跡・出土遺物実測図

第2594号住居跡出土遺物観察表（第369図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
508	土師器	坏	-	(2.9)	-	石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	中層	70%
509	土師器	坏	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	60%
510	土師器	坏	13.9	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	80% PL114
511	土師器	坏	[14.4]	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	20%
512	土師器	坏	[13.6]	(4.4)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
513	土師器	鉢	10.0	7.2	7.8	石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	100% PL114
514	土師器	甕	[22.4](25.6)	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ後ナデ	中層	30%
515	土師器	小形甕	12.4	14.3	6.9	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	床面	75% PL114

第2595号住居跡（第370～372図）

位置 調査区南部のS 5 b5区、標高22.5mほどの斜面部上段に位置している。

重複関係 第2601号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.23m、短軸4.45mの長方形で、主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は11～27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。竈の前面が踏み固められているほか、中央部や東壁際で部分的に硬化面が認められるが、硬化は弱い。

竈 北壁中央部のやや西寄りに付設されている。遺存状態が良好であり、天井部の一部を確認している。規模は、焚き口から煙道部まで104cm、袖部幅132cmである。袖部及び天井部の構築方法は、床面を14cmほど掘りくぼめた部分に第17～20層を充填し、砂質粘土を主体とした第11～16層を積み上げて構築している。火床部は床面から5cmほど盛り上がり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外への掘り込み45cm、煙出口は径25cmで、煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。覆土は第1～9層に分けられ、第3・7～9層は袖部及び天井部の崩落土層である。天井部の一部が残っており、竈が意図的に破壊された状況も認められないことから、自然堆積と考えられる。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子中量,炭化粒子微量	13 灰褐色	砂質粘土粒子少量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量
3 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量	15 灰褐色	砂質粘土ブロック多量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	砂質粘土ブロック・炭化粒子少量,ローム粒子微量
5 暗赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量,焼土粒子微量	17 暗赤褐色	ローム粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 極暗赤褐色	炭化粒子少量,ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	18 暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量
7 暗褐色	砂質粘土粒子中量,焼土粒子微量	19 暗赤褐色	炭化粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
8 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量	20 褐色	ローム粒子中量,砂質粘土粒子微量
9 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量,炭化粒子少量		
10 明赤褐色	焼土粒子多量,炭化粒子微量		
11 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量,焼土粒子微量		
12 灰褐色	砂質粘土粒子多量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは23～35cmである。P5は深さ17cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分けられる。土の締まりが弱く、含有物が微量であることから自然堆積と考えられる。

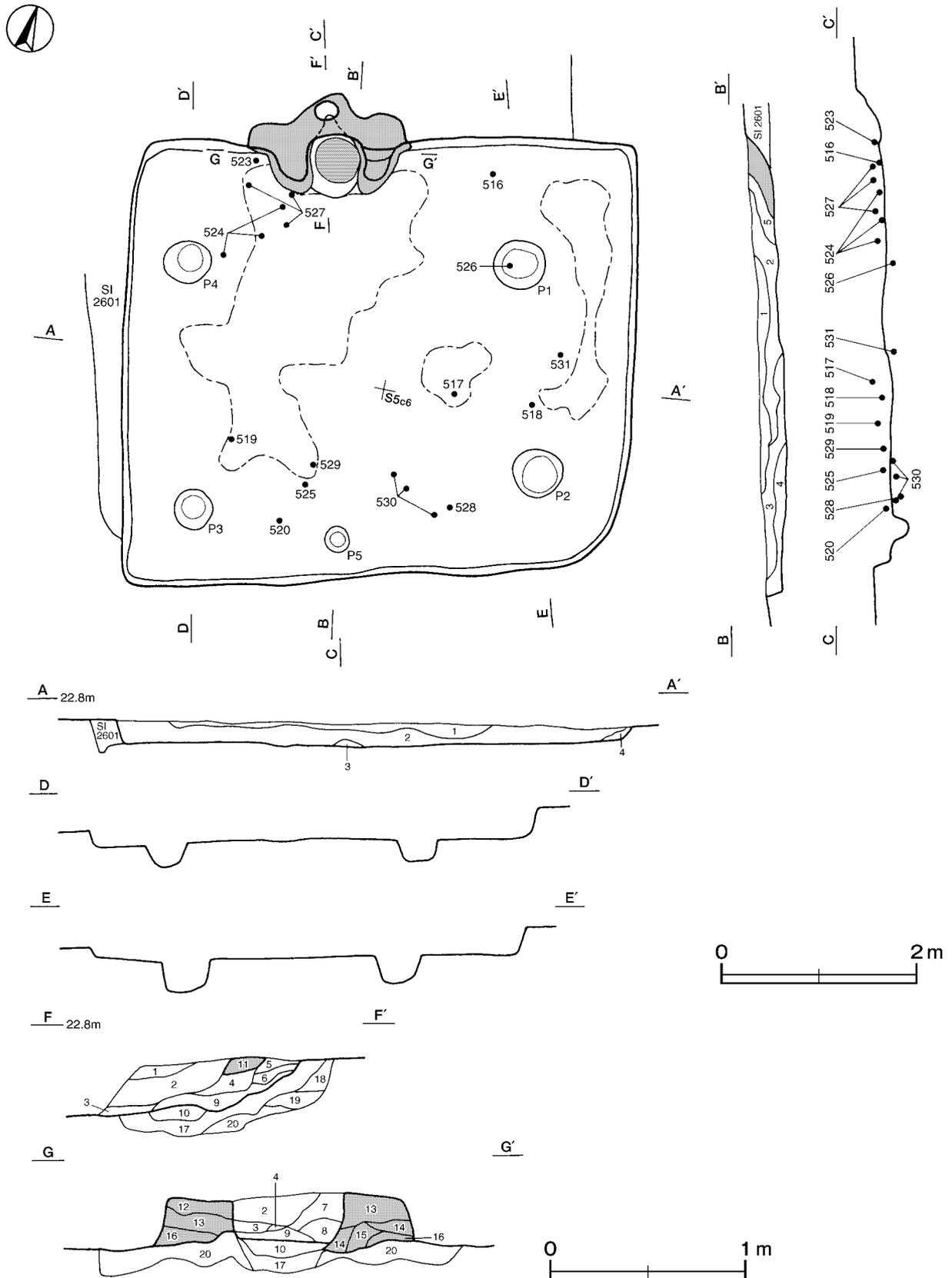
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	粘土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		

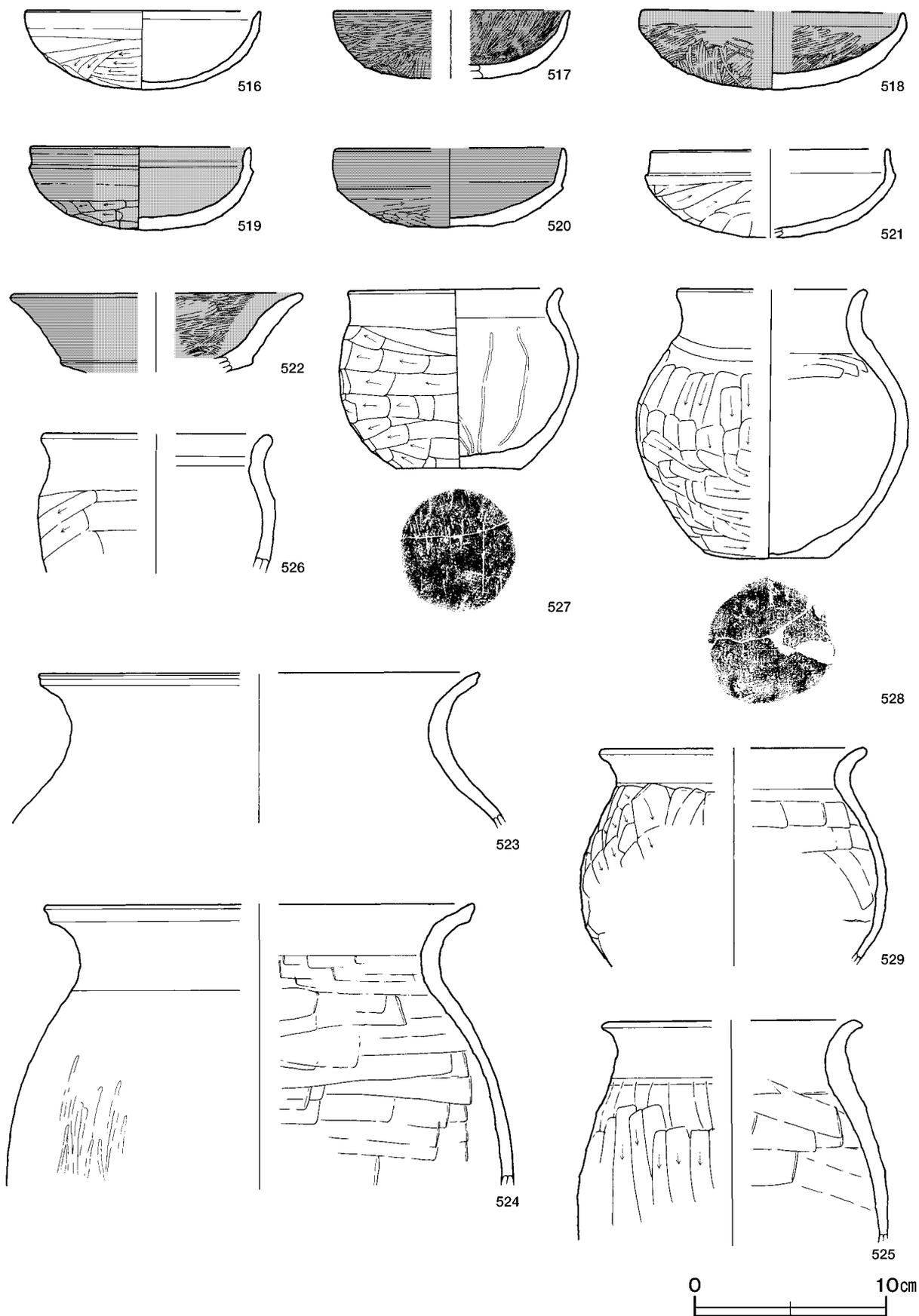
遺物出土状況 土師器片773点（坏172，高坏4，甕類547，小形甕24，甌26）が、中央部に散在した状態で出土しているほか、埋没過程で流入したと考えられる縄文土器片1点が出土している。523は竈の左袖際、516は北東部、531は東側、528・530は出入口施設周辺の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。527は覆土中層から破片の状態で出土しており、中央部に向かって出土レベルが低くなってい

く状況が看取される。また、覆土中からは比較的大形の土師器片が多く出土しており、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

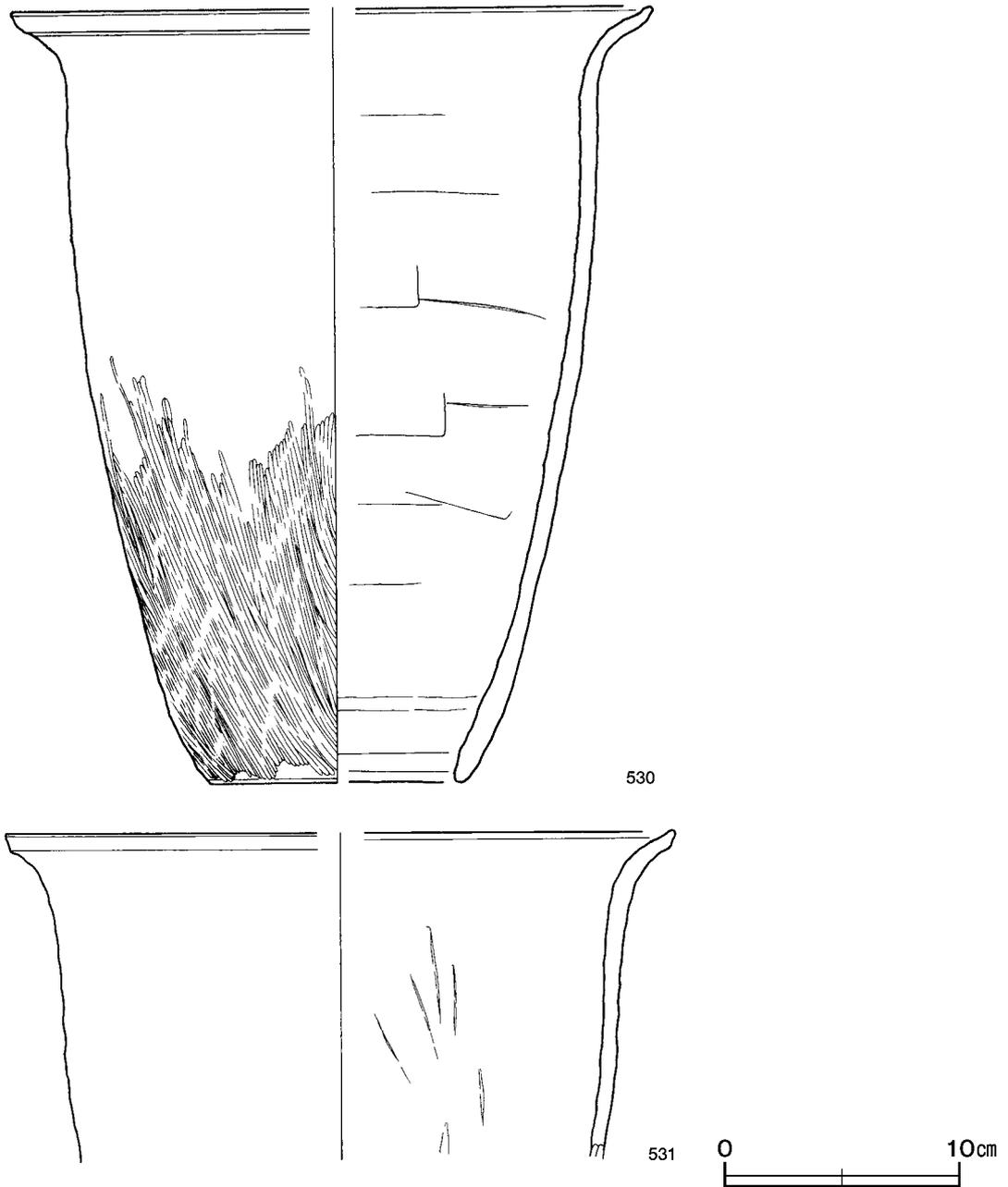
所見 時期は、出土土器から7世紀前葉から中葉と考えられる。



第370図 第2595号住居跡実測図



第371图 第2595号住居跡出土遺物実測図(1)



第372図 第2595号住居跡出土遺物実測図(2)

第2595号住居跡出土遺物観察表 (第371・372図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
516	土師器	坏	12.2	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	50%
517	土師器	坏	[12.2]	3.6	-	長石・石英	黒褐	普通	体部内・外面へラ磨き	上層	30%
518	土師器	坏	[13.6]	4.1	-	長石・石英	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面へラ磨き	中層	40%
519	土師器	坏	11.4	4.4	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 輪積み痕	中層	90% PL114
520	土師器	坏	[11.8]	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	下層	30%
521	土師器	坏	[12.4]	4.6	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	覆土中	40%
522	土師器	高坏	[15.1]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	50%
523	土師器	甕	[22.8]	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	20%
524	土師器	甕	[22.2]	(15.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	中層	30%
525	土師器	甕	[12.8]	(11.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	下層	15%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
526	土師器	小形甕	[11.8]	(7.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	15%
527	土師器	小形甕	11.0	9.6	6.6	長石・石英	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	中層	75% PL114
528	土師器	小形甕	[9.8]	14.2	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	70%
529	土師器	小形甕	[13.6]	(11.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	20%
530	土師器	甕	[27.2]	33.4	10.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部内端面ヘラ削り	床面	50% PL114
531	土師器	甕	[28.2]	(14.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	10%

第2596号住居跡 (第373・374図)

位置 調査区南部のS 4 h0区, 標高21.5mほどの斜面部上段に位置している。

重複関係 第2597号住居, 第16号道路, 第4165号土坑に掘り込まれている。

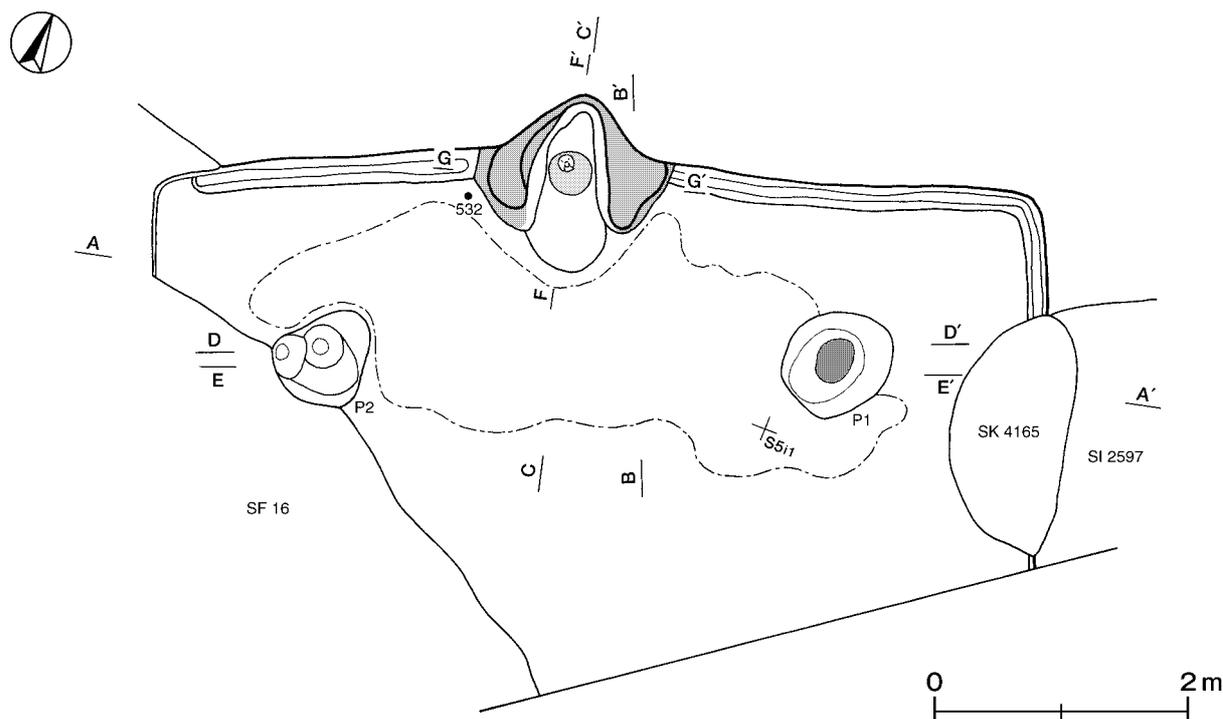
規模と形状 東西軸7.00m, 南北軸は4.32mを確認している。主軸方向はN - 12° - Wである。壁高は3cmで, 立ち上がりの状況は不明である。

床 第16号道路の掘り込みや耕作による削平のため, 南側の床面はほとんど失われた状態である。確認できた部分ではほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北側及び北東コーナー部の壁下には, 幅12~14cm, 深さ6~7cmでU字状の断面を呈する壁溝がみられる。

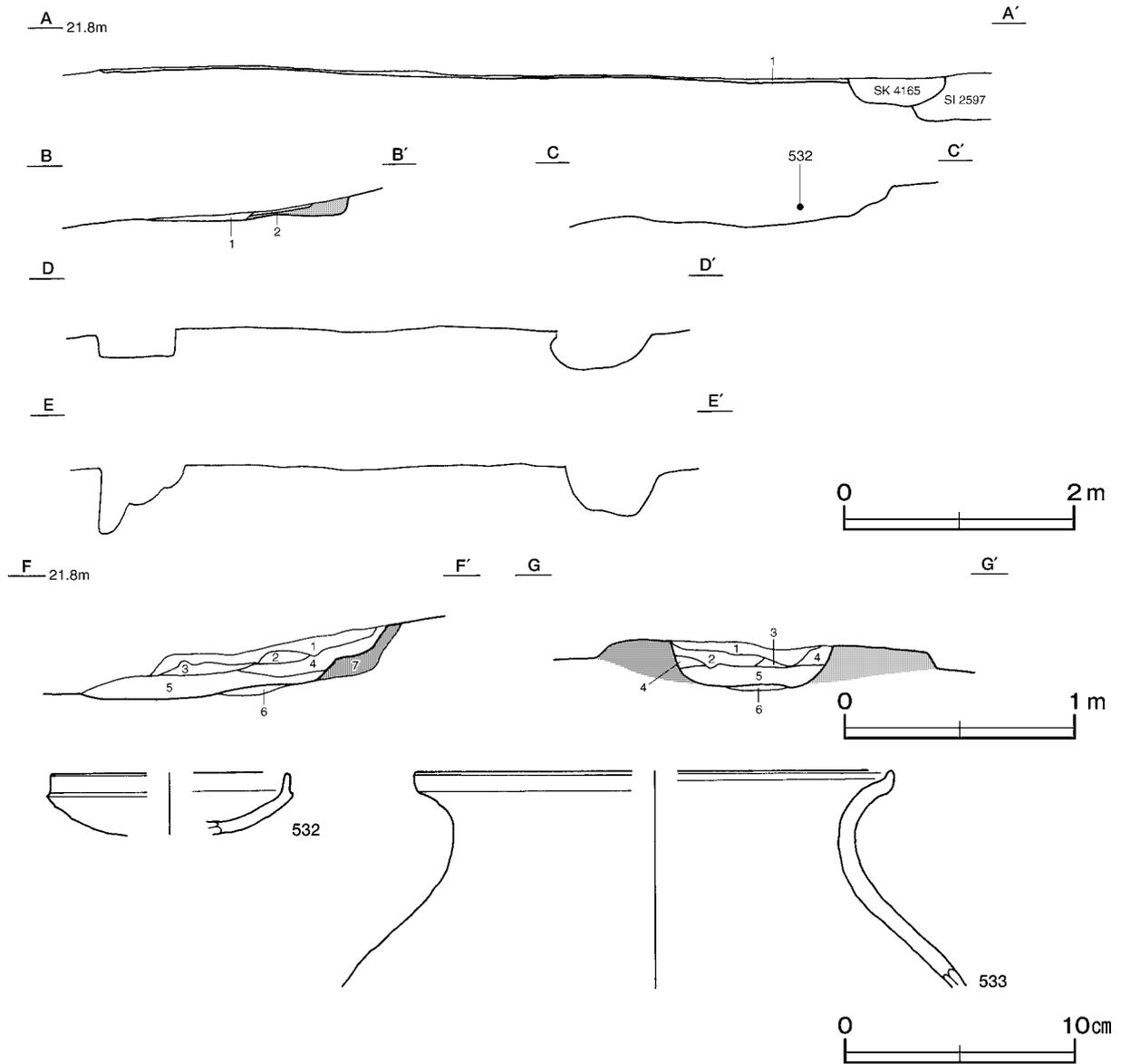
竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで135cm, 袖部幅153cmである。火床部は床面から3cmほど高く, 火床面は火を受けて赤変しているが硬化は弱い。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ, 火床部から階段状に立ち上がっている。奥壁には砂質粘土を主体とする第7層を貼り付けて補強している。覆土は第1~5層に分けられ, 第2層は天井部の崩落土層に相当する。各層は焼土ブロックや粘土粒子を含む人為堆積である。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 灰褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 黒褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | |



第373図 第2596号住居跡実測図



第374図 第2596号住居跡・出土遺物実測図

ピット 2か所。P1・P2は支柱穴で、深さは43～58cmである。

覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 2 にぶい褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片143点（坏12，高坏1，甕類112，甑18），土製品1点（支脚）が出土しているほか，縄文土器片2点が流れ込んでいる。532・533はいずれも覆土中から出土しており，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀中葉以前と考えられる。

第2596号住居跡出土遺物観察表（第374図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
532	土師器	坏	[10.2]	2.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	5%
533	土師器	甕	[21.0]	(9.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	覆土中	15%

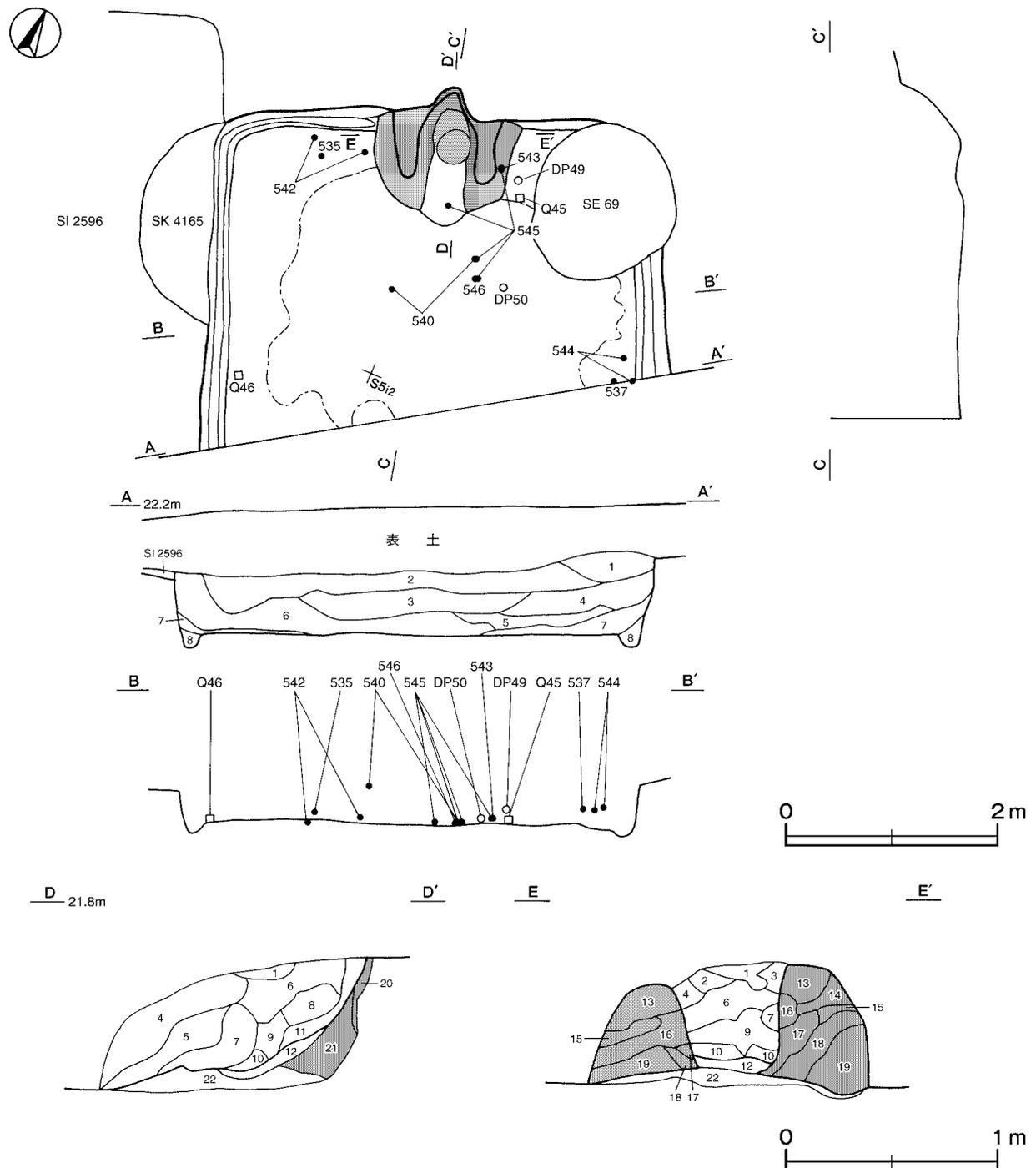
第2597号住居跡 (第375～377図)

位置 調査区南部のS 5 h2 区, 標高21.5mほどの斜面上段に位置している。

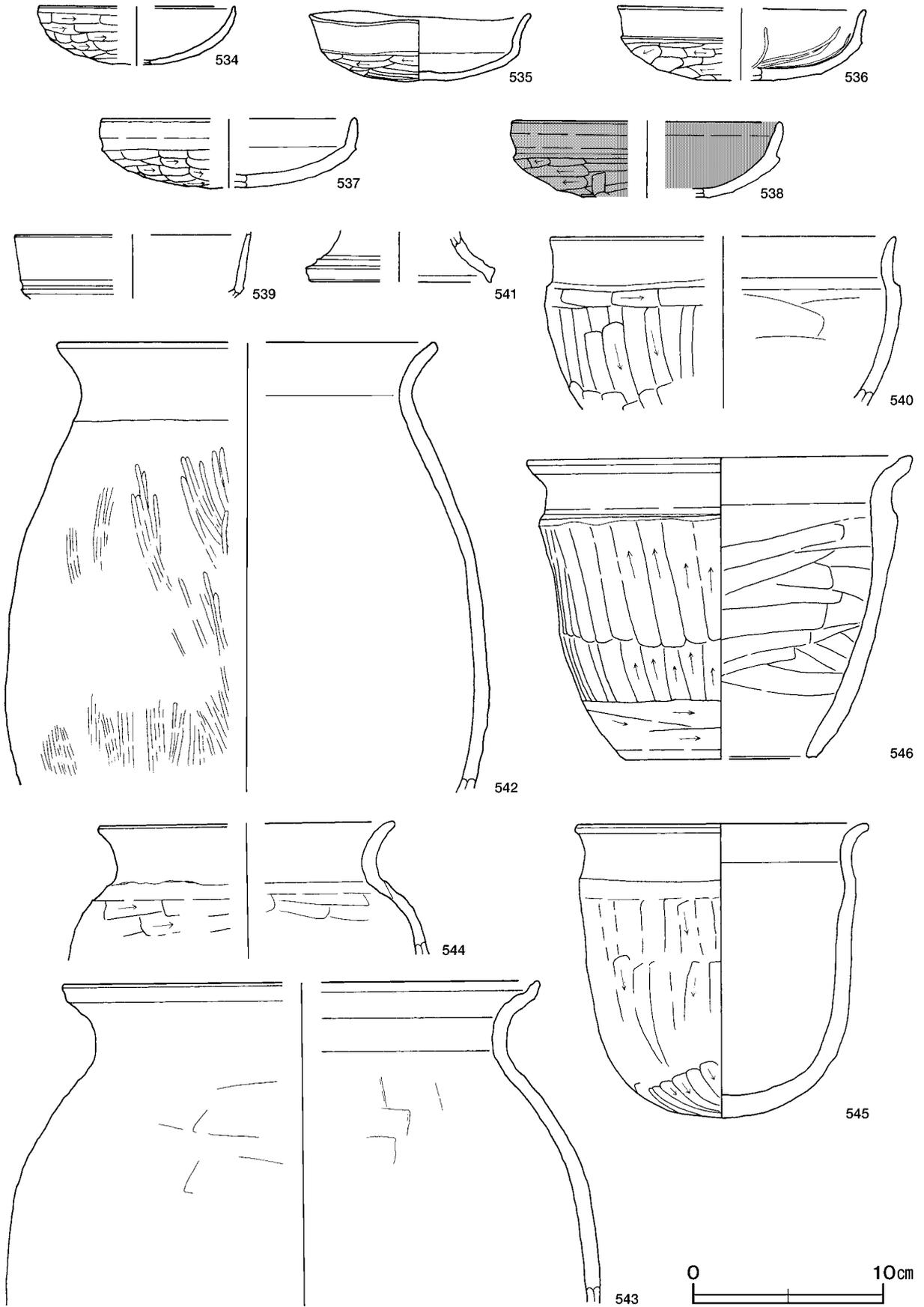
重複関係 第2596号住居跡を掘り込み, 第69号井戸と第4165号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側は調査区域外へ延びており, 東西軸4.36m, 南北軸は3.02mを確認している。主軸方向はN - 18° - Wである。壁高は28～42cmで, 外傾して立ち上がっている。

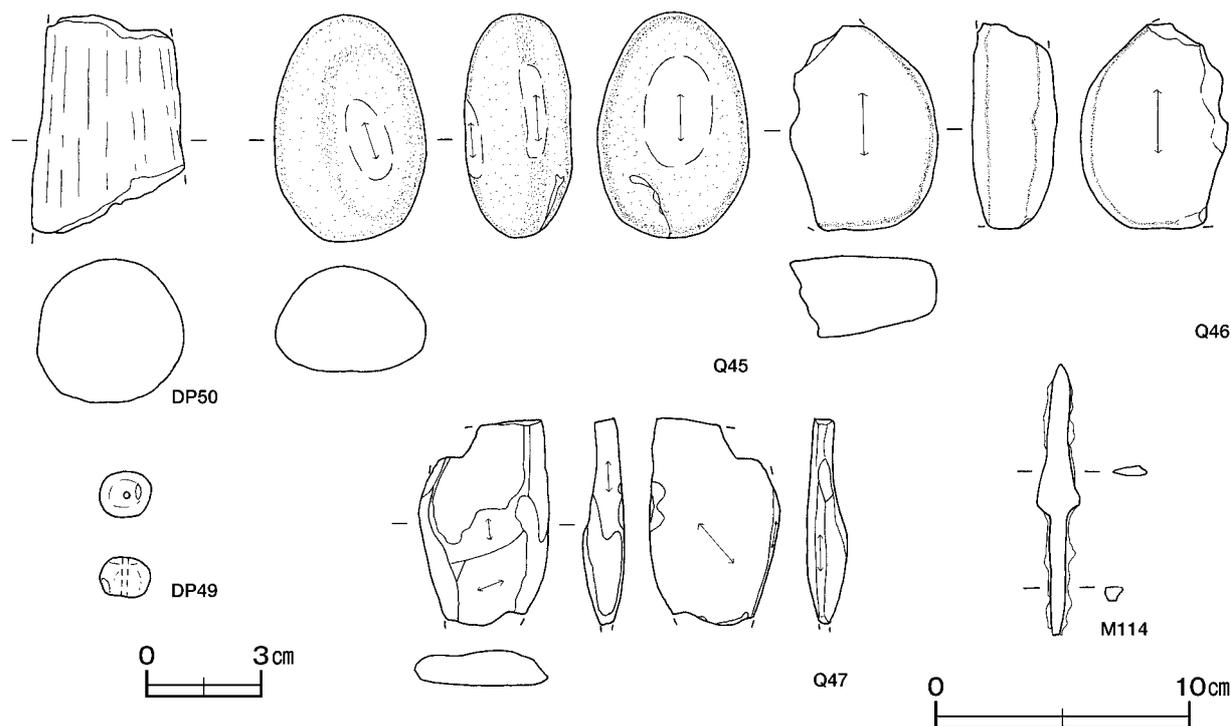
床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅17～21cm, 深さ12～13cmで台形状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第375図 第2597号住居跡実測図



第376图 第2597号住居跡出土遺物実測図(1)



第377図 第2597号住居跡出土遺物実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅132cmである。袖部は床面を深さ4cmほど浅く掘りくぼめて第22層を充填し、砂質粘土を主体とする第13～19層を互層に積み上げて構築している。火床部は床面から10cmほど高く、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。奥壁にはローム粒子や砂質粘土粒子を含む第20・21層を貼り付けて補強している。覆土は第1～11層に分けられ、第2・7層は袖部及び天井部の構築材、第8層は火を受けて赤変した部分の崩落土層に相当する。その他の層は、含有物を比較的多く含む人為堆積である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量 | 15 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 16 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 17 暗赤褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, 粘土粒子微量 | 19 暗褐色 | 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 20 褐色 | ローム粒子中量 |
| 10 赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 21 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 22 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土粒子微量 |

覆土 8層に分けられる。ロームブロックや焼土・粘土粒子を含み、複雑な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片1229点(坏133, 鉢2, 甕類1081, 甑13), 須恵器片2点(高坏, 台付壺), 土製品7点(勾玉5, 土玉1, 支脚1), 石器3点(磨石2, 砥石), 鉄製品2点(鎌, 刀子), 鉄滓3点, 粘土塊2点が出土しているほか、縄文土器片1点が流れ込んでいる。出土遺物は覆土下層から多量に出土しており、廃絶後に投棄されたものと考えられる。535・542は竈西側の壁際, 540・546・DP50は竈前面, 543・545・DP49・Q45は竈右袖部際, 537・544は東壁際の中央部, Q46は西壁際の中央部からそれぞれ出土しており、竈周辺と

壁際に集中している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉以前と考えられる。

第2597号住居跡出土遺物観察表（第376・377図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
534	土師器	坏	[10.2]	3.1	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	35%
535	土師器	坏	11.6	3.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	95% PL115
536	土師器	坏	[13.0]	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	60%
537	土師器	坏	[13.4]	3.6	-	長石・石英	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	35%
538	土師器	坏	[14.0]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	35%
539	須恵器	高坏	[12.4]	(3.4)	-	長石・石英	黄灰	良好	口辺部内・外面口クロナデ 体部外面回転ヘラ削り	覆土中	5%
540	土師器	鉢	[18.2]	(9.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	上～下層	20%
541	須恵器	台付壺	-	(2.7)	[9.4]	長石	灰オリブ	良好	脚部内・外面口クロナデ	覆土中	5%
542	土師器	甕	[19.6]	(24.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	下層	55%
543	土師器	甕	[25.0]	(17.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	下層	25%
544	土師器	小形甕	[15.4]	(7.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	15%
545	土師器	小形甕	15.2	15.6	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	70% PL115
546	土師器	甌	20.0	16.1	9.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	90% PL115

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP49	小玉	1.4	1.0	0.2	1.9	土（長石）	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL140

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP50	支脚	(8.7)	(5.0)	(5.8)	(279.8)	土（長石・石英・雲母）	上・下部欠損 ナデ 指頭痕 にぶい褐色	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	磨石	8.9	5.9	4.2	305.9	砂岩	砥面3面 断面不整楕円形	下層	
Q46	磨石	(8.1)	(5.8)	3.2	(199.4)	凝灰岩	端部欠損 砥面2面 断面隅丸長方形	下層	
Q47	砥石	(8.2)	5.2	1.6	(73.2)	凝灰岩	一部欠損 砥面5面 断面五角形	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M114	鏝	10.8	1.7	0.54	15.0	鉄	柳葉式 両鑄造 直線状開	下層	PL145

第2598号住居跡（第378・379図）

位置 調査区南部のS 5 a6区、標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第471号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.10m、短軸4.80mの方形で、主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は8～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの周辺と壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅14～20cm、深さ5～7cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで141cm、袖部幅104cmである。袖部は床面を深さ14cmほど掘りくぼめて、第13層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とした第9～12層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床面からほぼ平坦に延びて、奥壁が直立している。奥壁には袖部の構築材と同じ砂質粘土を貼り付けて補強している。覆土は第1～7層に分けられる。各層は袖部や天井部の構築材である砂質粘土や火を

受けて赤変した部分をブロック状に含む人為堆積である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 褐色 | 砂質粘土ブロック中量 焼土粒子少量 炭化粒子微量 | 9 褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 13 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 | | |
| 7 赤褐色 | 焼土ブロック中量 砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 | | |
| 8 赤褐色 | 焼土ブロック多量 砂質粘土粒子少量 炭化粒子微量 | | |

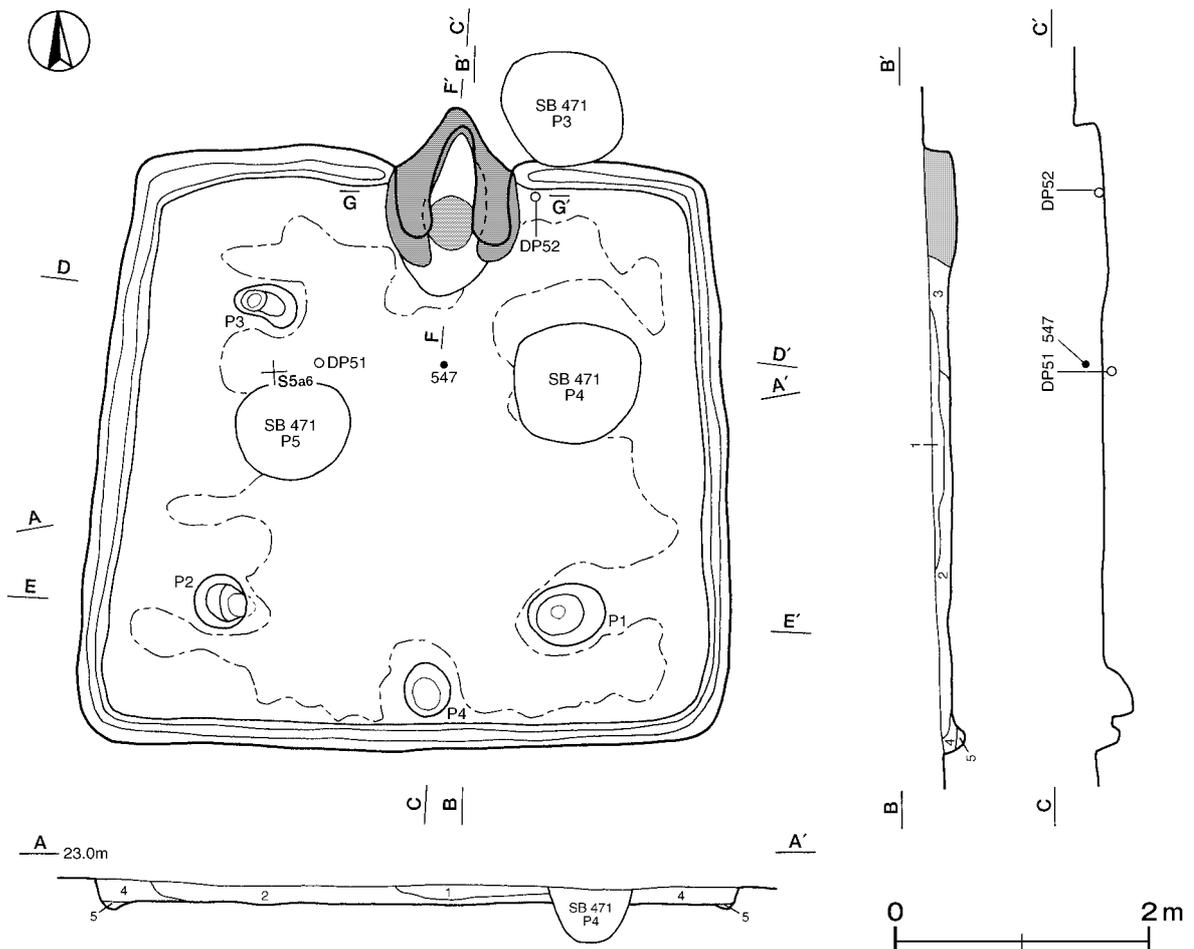
ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは40～73cmである。なお、北東部に想定される主柱穴は、第471号掘立柱建物のP4に掘り込まれているため、遺存していない。P4は深さ23cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分けられる。周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積であり、第3層は竈の構築材の流出土、第4層は壁部の崩落土層に相当する。

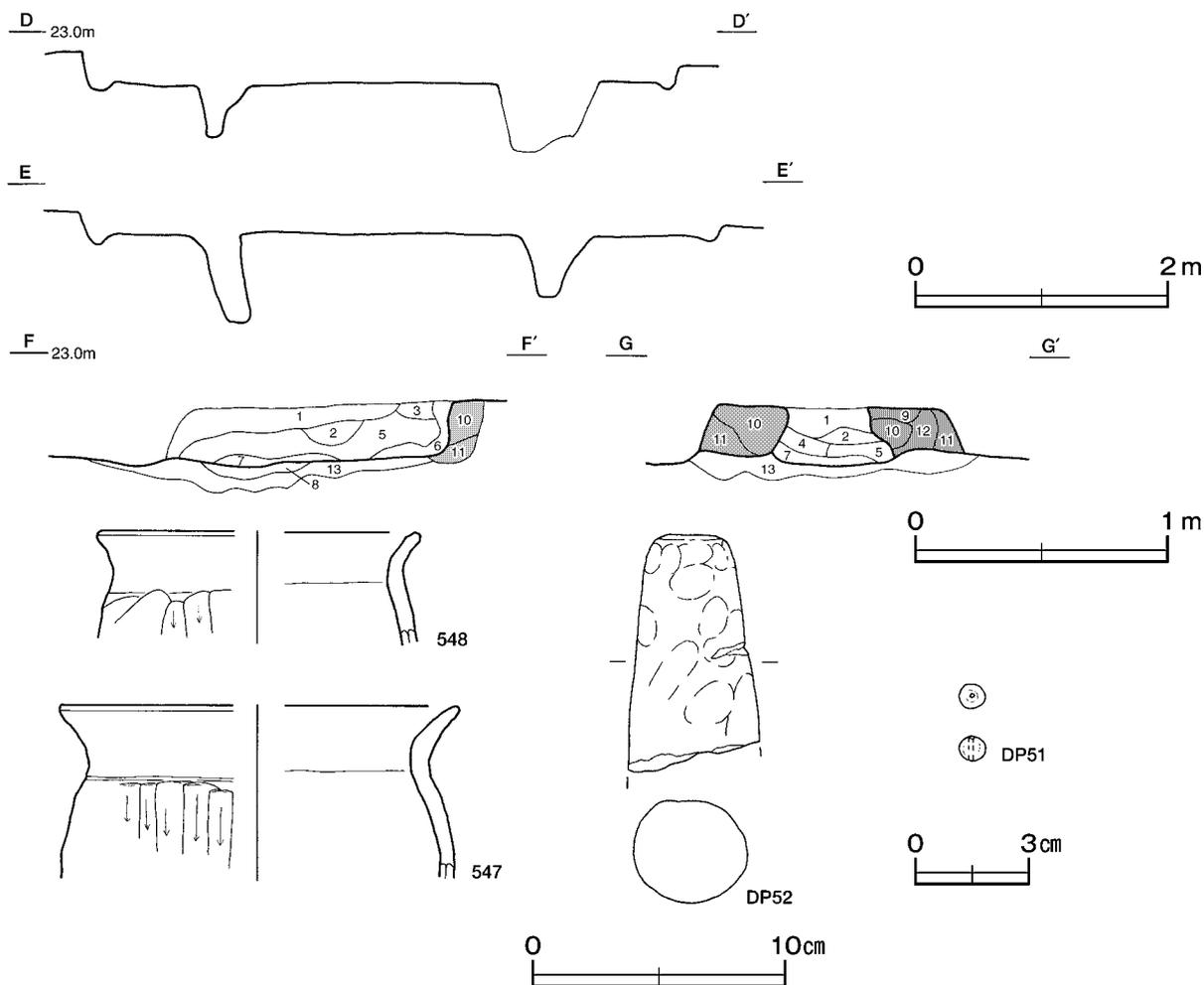
土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片150点(坏33, 高坏4, 鉢1, 甕類112), 須恵器片26点(坏14, 蓋1, 甕類11)が、いずれも覆土中から細片で出土しており、住居廃絶後の埋没過程で流入したものと考えられる。土製品2点(小玉, 支脚)は、DP51が中央部西側, DP52が竈の右袖際の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。



第378図 第2598号住居跡実測図



第379図 第2598号住居跡・出土遺物実測図

所見 出土土器は、いずれも廃絶後に流入したものであるが、6世紀後葉から7世紀前葉の土師器が主体を占めていることから、本跡は当該時期に廃絶した可能性が考えられる。

第2598号住居跡出土遺物観察表（第379図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
547	土師器	甕	[15.6]	(6.9)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	5%
548	土師器	小形甕	[12.6]	(4.5)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP51	小玉	0.75	0.6	0.12	0.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL140

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP52	支脚	(9.6)	3.0	(5.2)	(214.8)	土(長石・石英・雲母)	下部欠損 ナデ 指頭痕 にぶい橙色	下層	

第2601号住居跡（第380・381図）

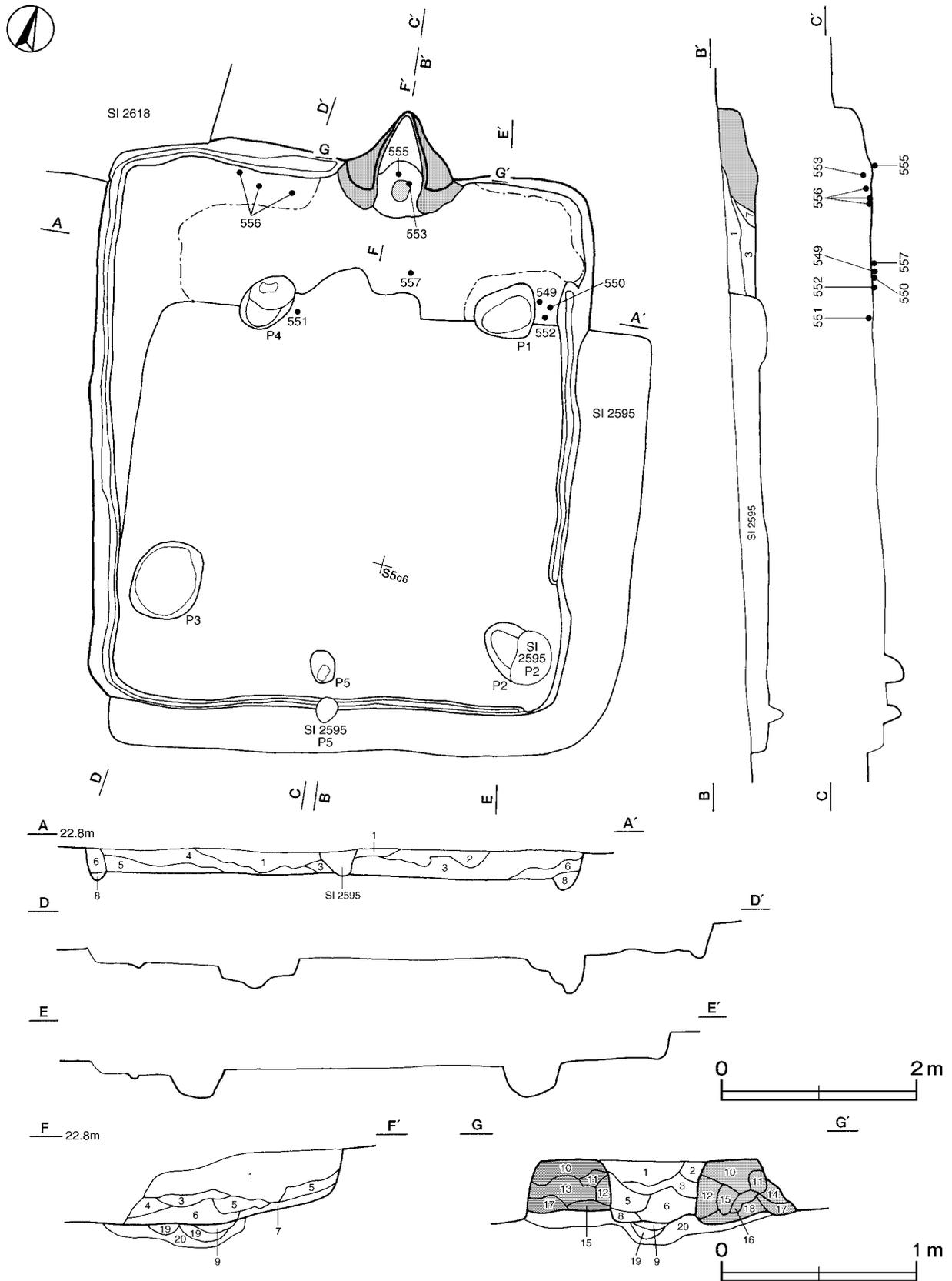
位置 調査区南部のS 5 b5区，標高22.5mほどの斜面部上段に位置している。

重複関係 第2595・2618号住居に掘り込まれている。南半部は第2595号住居の掘り込みによって、床面は失われており、壁溝のみを確認している。

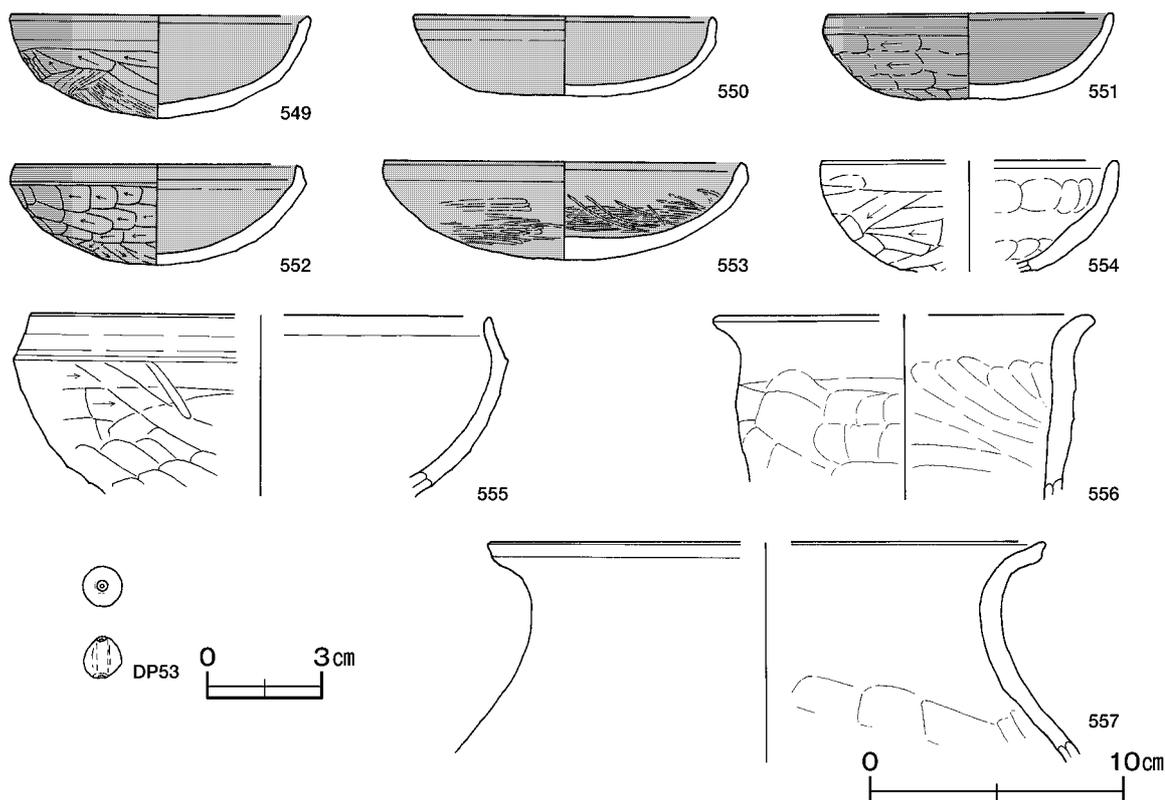
規模と形状 長軸5.62m，短軸4.96mの長方形で，主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は12～26cmで，外傾

して立ち上がっている。

床 確認できた部分ではほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。竈の東側から北東コーナー部と南東コーナー部を除いた壁下には、幅14~24cm、深さ9~17cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第380図 第2601号住居跡実測図



第381図 第2601号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部のやや東寄りの位置に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで112cm、袖部幅129cmである。袖部は、床面を深さ27cmほど掘りくぼめて、第19・20層を充填し、第10～18層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。煙道部は壁外への掘り込みが61cmで、火床面から緩やかに立ち上がり、奥壁で直立している。覆土は第1～8層に分けられ、第4層が天井部の崩落土層に相当する。各層とも粒状化した含有物が一定量みられる人為堆積である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|-----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 13 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 15 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 9 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 19 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 10 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 褐色 | ロームブロック少量 |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは23～39cmである。各柱穴とも形状が乱れており、抜き取りの痕跡が認められる。P5は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分けられる。層中にブロック状の堆積がみられる人為堆積であり、廃絶に伴って周囲から埋め戻された状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片245点（坏48，高坏2，鉢3，甕類187，甑5），須恵器片8点（坏2，甕類6），土製品3点（土玉1，支脚2）が出土している。549・550・552はP1と東壁の間に正位で据え置かれた状態で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また，553・555は竈の火床部周辺，557は竈前面，556は竈西側の壁際，551はP4東側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第2601号住居跡出土遺物観察表（第381図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
549	土師器	坏	11.8	4.1	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL115
550	土師器	坏	11.8	3.2	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL115
551	土師器	坏	11.1	3.4	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	55%
552	土師器	坏	11.2	4.0	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL115
553	土師器	坏	14.2	3.9	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	床面	100% PL115
554	土師器	坏	[11.9]	(4.4)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 指頭痕	竈覆土中	20%
555	土師器	鉢	[18.0]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	20%
556	土師器	甕	[14.7]	(7.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	床面	25%
557	土師器	甕	[22.0]	(8.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	25%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP53	小玉	1.0	1.1	0.3	1.0	土（長石）	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL140

第2603号住居跡（第382・383図）

位置 調査区南部のS 4 e9区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2604号住居，第4171・4197号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.86m，短軸4.60mの方形で，主軸方向はN - 24° - Wである。壁高は32～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。第4171号土坑に掘り込まれているため，規模や堆積状況等は不明である。袖部は，左袖部の一部を確認しており，砂質粘土で構築されている。火床部は，第4171号土坑の底面に一部残存している。床面から2cmほどくぼんだ位置にあることから，本来は床面とほぼ同じ高さを使用していたと推定され，火を受けて赤変硬化している。

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは51～66cmである。P5は，深さ21cmで，南壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

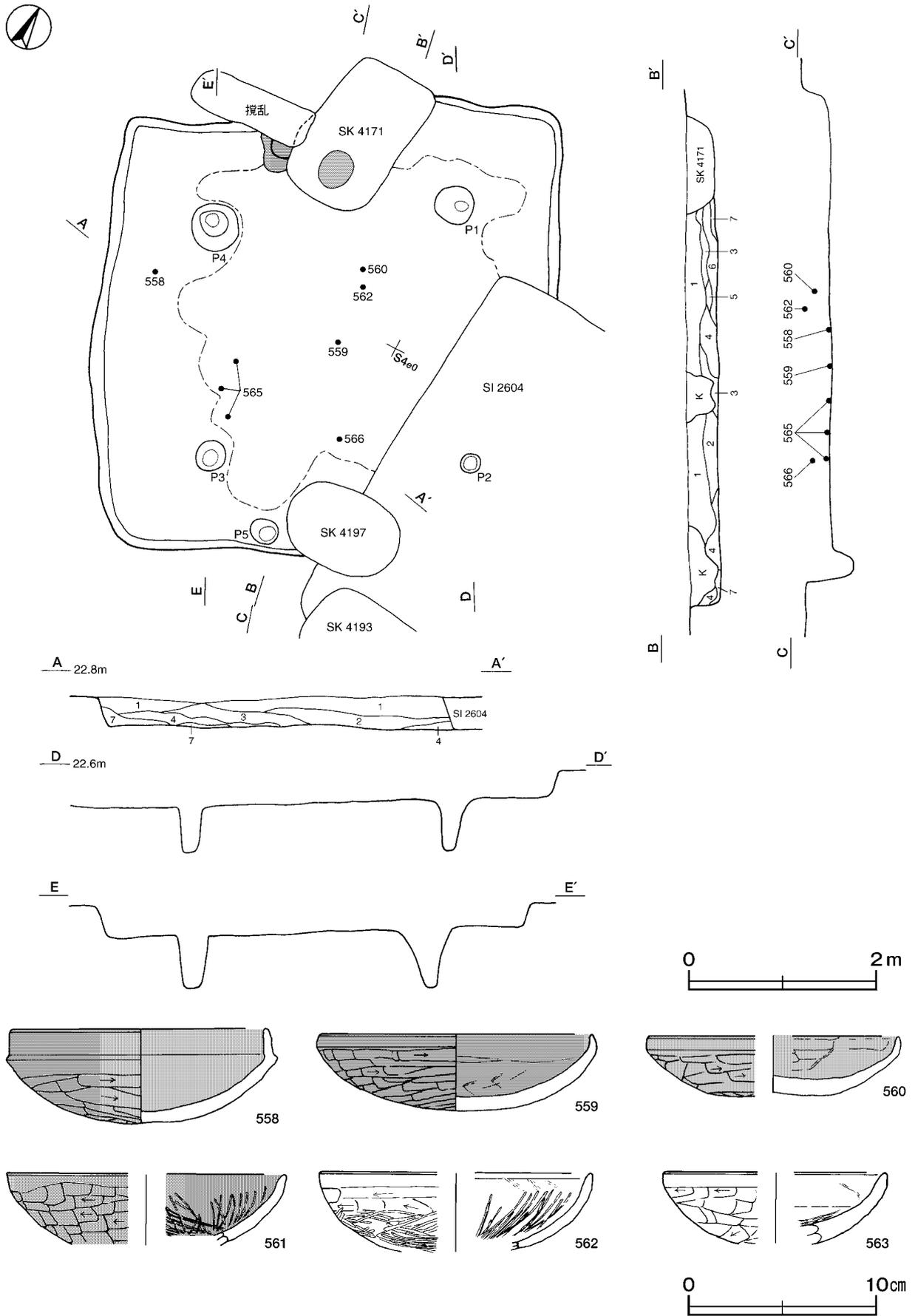
覆土 7層に分けられる。全体的にロームのブロックや粒子がみられる人為堆積であり，西側から埋め戻された状況を示している。

土層解説

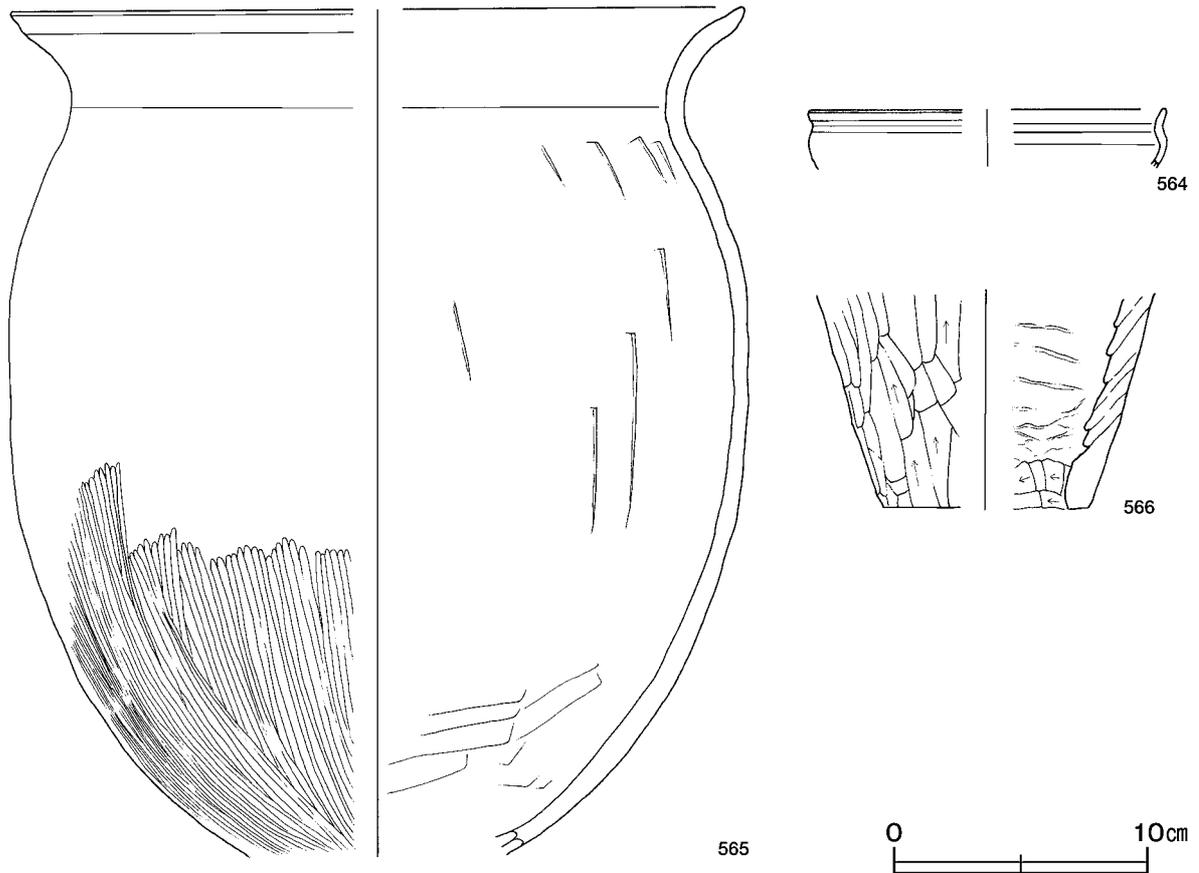
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 7 明褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片491点（坏96，高坏4，甕類387，甑1，円筒形土器2，手捏土器1），粘土塊1点が出土しているほか，石器1点（剥片）が流れ込んでいる。558は西壁側，559は中央部，565は中央部南西側の床面からそれぞれ出土しており，558はほぼ完形で，逆位の状態で出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第382图 第2603号住居跡・出土遺物実測図



第383図 第2603号住居跡出土遺物実測図

第2603号住居跡出土遺物観察表（第381・383図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
558	土師器	坏	13.4	5.1	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL116
559	土師器	坏	14.6	4.1	-	長石・石英	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	55%
560	土師器	坏	[13.4]	3.2	-	長石・石英	オリブ黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	上層	30%
561	土師器	坏	[14.6]	(3.8)	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	30%
562	土師器	坏	[14.4]	(4.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	上層	20%
563	土師器	坏	[11.9]	(3.9)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	35%
564	須恵器	坏	[14.3]	(2.7)	-	長石	灰	良好	体部内・外面クロクロナデ	覆土中	5%
565	土師器	甕	[29.0]	(33.7)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	30%
566	土師器	円筒形土器	-	(8.7)	[8.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ 輪積み痕 底部内面ヘラ削り	上層	20%

第2606号住居跡（第384～386図）

位置 調査区南部のS 5 f 4区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

重複関係 第2605号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸5.92mで，南側は調査区域外へ延びており，南北軸は2.52mを確認している。主軸方向はN - 47° - Wである。壁高は43～51cmで，外傾して立ち上がっている。

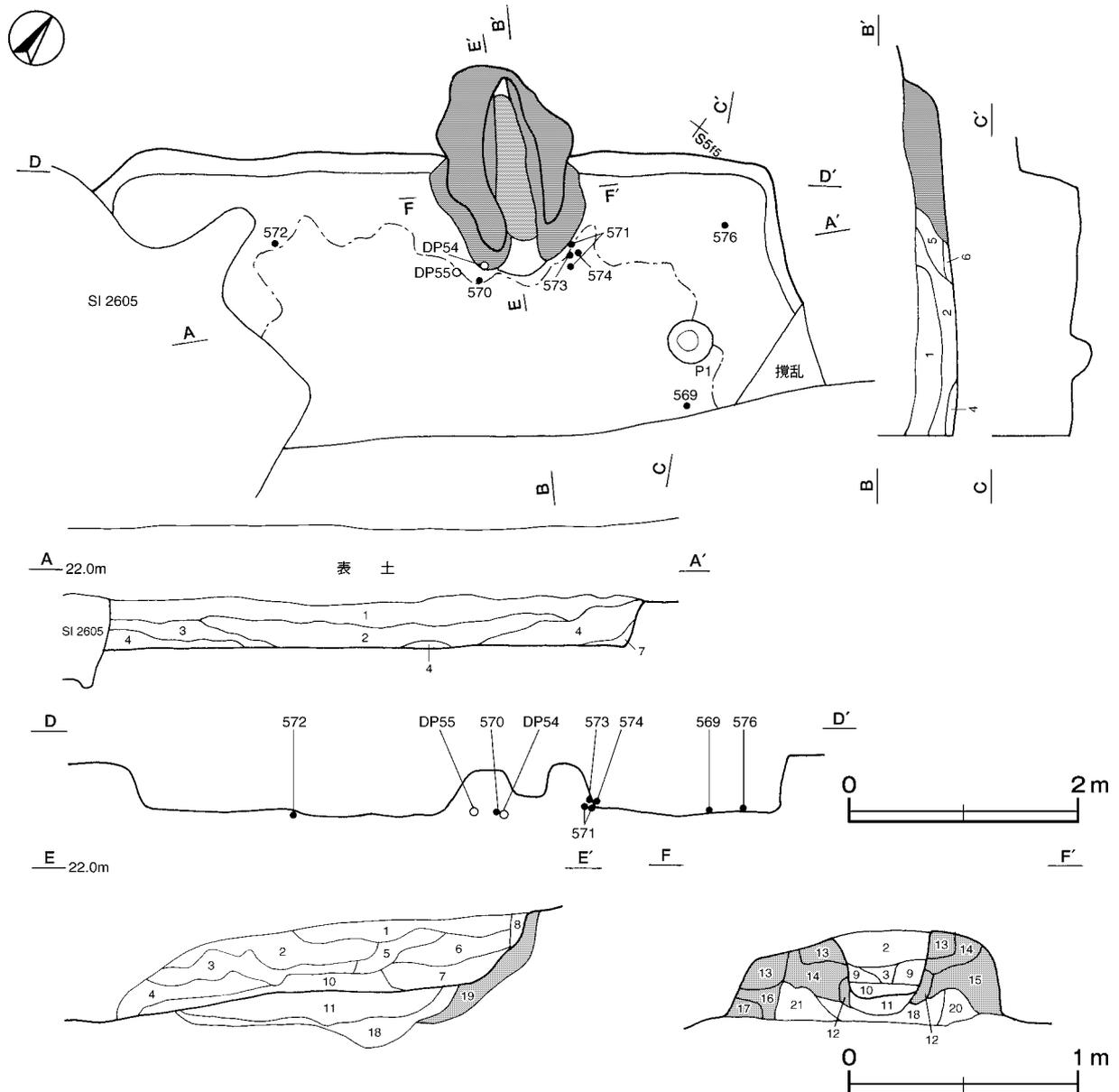
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部のやや東寄りの位置に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで198cm，袖部幅127cmである。袖部は床面を深さ15cmほど掘りくぼめて，砂質粘土を含む第20・21層で芯部を作り，中央に第18層を充填し，その上部に砂質粘土を主体とする第12～17層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面から12cm

ほど高く、火床面は広範囲にわたって赤変しており、土層断面では、第11層のブロック化した焼土が最大32cmの層厚で堆積し、赤変の影響は下層の第18層にも及んでいる。煙道部は壁外に75cm掘り込まれ、奥壁が彎曲して立ち上がっている。奥壁にはローム粒子を主体とする第19層を貼り付けて補強している。覆土は第1～10層に分けられる。第3・4・9・10層は袖部および天井部の構築材と火を受けて赤変した部分の崩落土層に相当する。同層は火床部と直に接しており、廃絶後間もなく崩落した状況を示している。その他の層はブロック状に堆積する人為堆積である。

壙土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 明赤褐色 | 焼土ブロック多量,炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 明赤褐色 | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量,炭化粒子少量 | 13 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量,砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | 14 にぶい橙色 | 砂質粘土粒子多量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量,ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 17 にぶい橙色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子微量 | 18 赤褐色 | ロームブロック少量,炭化粒子微量 |
| 9 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量,焼土粒子中量,炭化粒子微量 | 19 褐色 | ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 赤褐色 | 焼土粒子中量,炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 20 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| | | 21 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 |



第384図 第2606号住居跡実測図

ピット P1は深さ17cmで、北東側に位置していることから主柱穴と考えられる。

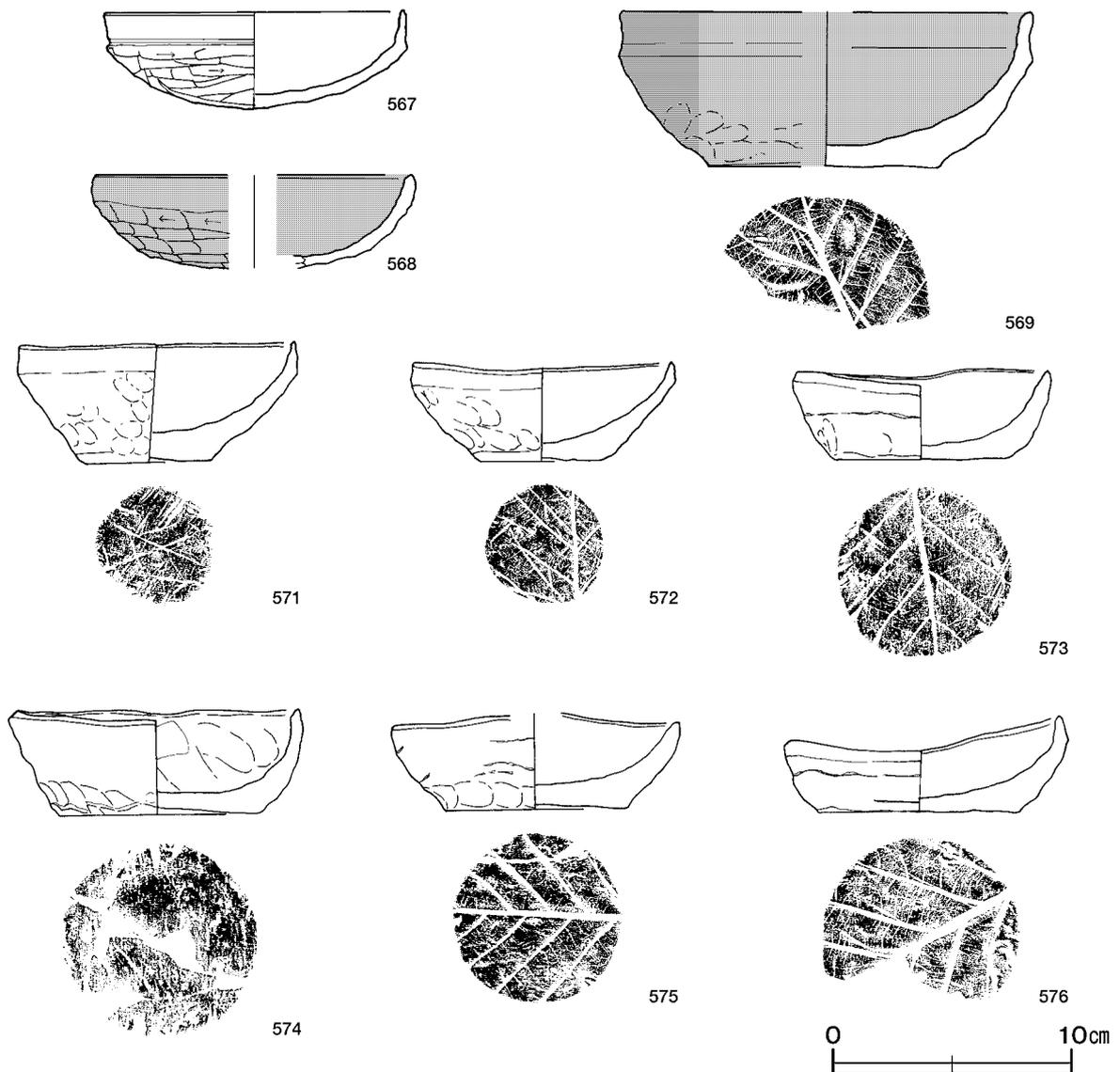
覆土 7層に分けられる。全体的にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

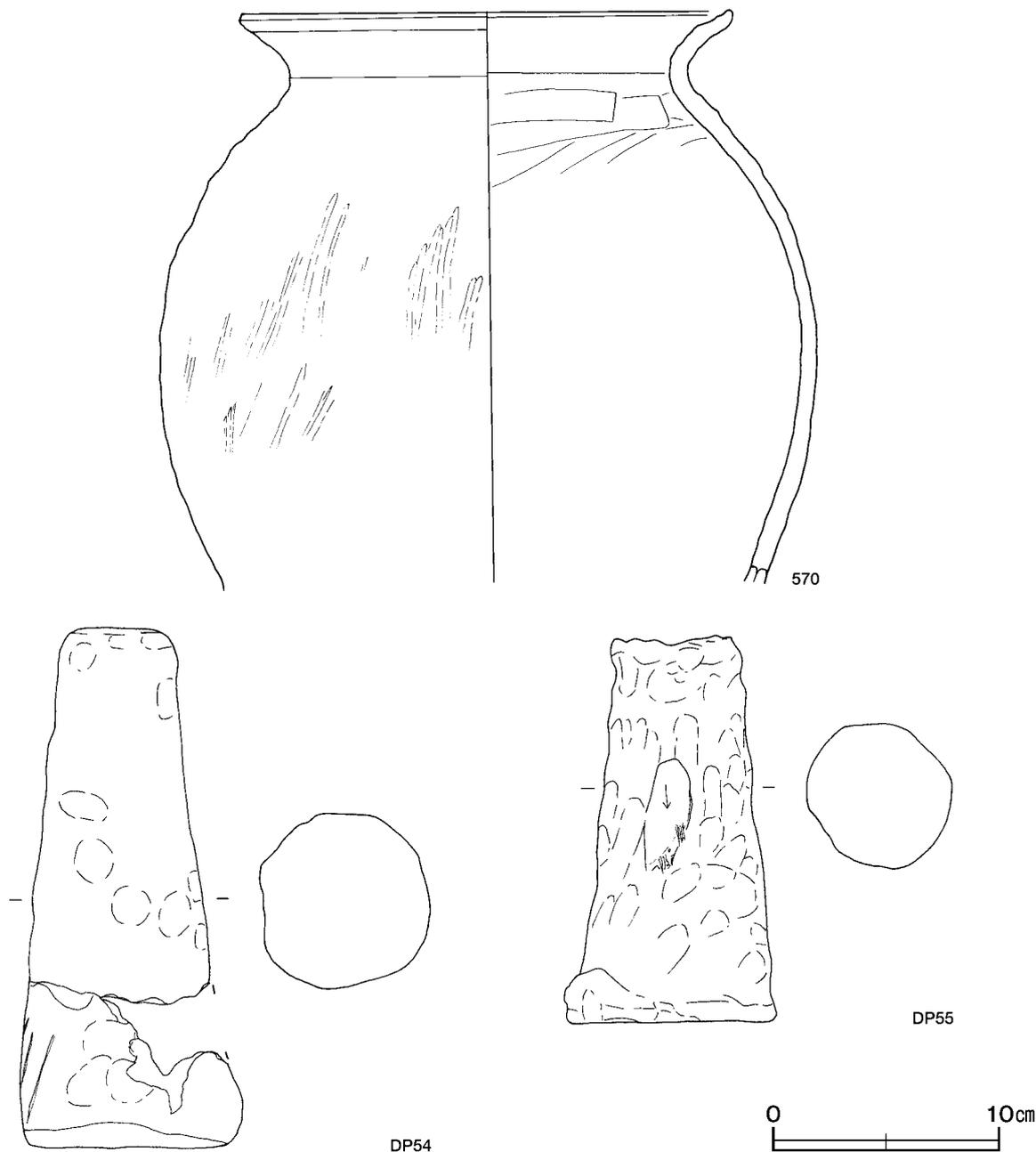
- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片470点（坏65，甕類380，甌4，手捏土器21），土製品46点（支脚），石器2点（砥石）が出土している。570・571・573・574・DP54・DP55は竈の焚口部付近の両袖際，572は北西側，576は北東コーナー一部付近，569は東側の床面からそれぞれ出土している。571・573・574・DP54はいずれもほぼ完形で，正位に据え置かれた状態で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 竈は，袖部が強固に構築されており，煙道部の壁外への掘り込みが長い点が構造上の特徴として挙げられる。通常の煮炊き以外により強い火力で使用されたことが想定され，火床部が広範囲にわたって赤変している状況は，それを裏付けるものと考えられる。また，手捏土器がまとめて出土している点も特筆される。時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第385図 第2606号住居跡出土遺物実測図(1)



第386図 第2606号住居跡出土遺物実測図(2)

第2606号住居跡出土遺物観察表 (第385・386図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
567	土師器	坏	12.4	4.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	覆土中	65%
568	土師器	坏	[13.0]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	覆土中	45%
569	土師器	鉢	[17.2]	6.6	[9.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラナデ 下端ナデ 指頭痕 底部木葉痕	床面	40%
570	土師器	甕	21.6	(25.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	床面	55% PL116
571	土師器	手捏土器	11.4	5.0	4.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 指頭痕 底部木葉痕	床面	75% PL116
572	土師器	手捏土器	10.6	4.2	5.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 指頭痕 底部木葉痕	床面	90% PL116
573	土師器	手捏土器	10.4	3.9	7.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面粗い横ナデ 輪積み痕 下端ナデ 指頭痕 底部木葉痕	床面	95% PL116
574	土師器	手捏土器	11.6	4.4	8.0	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内・外面粗い横ナデ 下端・内面ナデ 指頭痕 底部木葉痕	床面	95% PL116
575	土師器	手捏土器	[11.8]	4.2	7.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面粗い横ナデ 輪積み痕 下端ナデ 指頭痕 底部木葉痕	覆土中	65%
576	土師器	手捏土器	11.3	4.0	8.4	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内・外面粗い横ナデ 輪積み痕 底部木葉痕	床面	85% PL116

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP54	支脚	23.3	4.8	9.7	1320.3	土(長石・石英・雲母)	ナデ 指頭痕 火を受けている にぶい黄橙色	床面	PL138
DP55	支脚	17.3	5.4	9.4	1140.0	土(長石・石英・雲母)	ナデ 火を受けている 橙色	床面	PL138

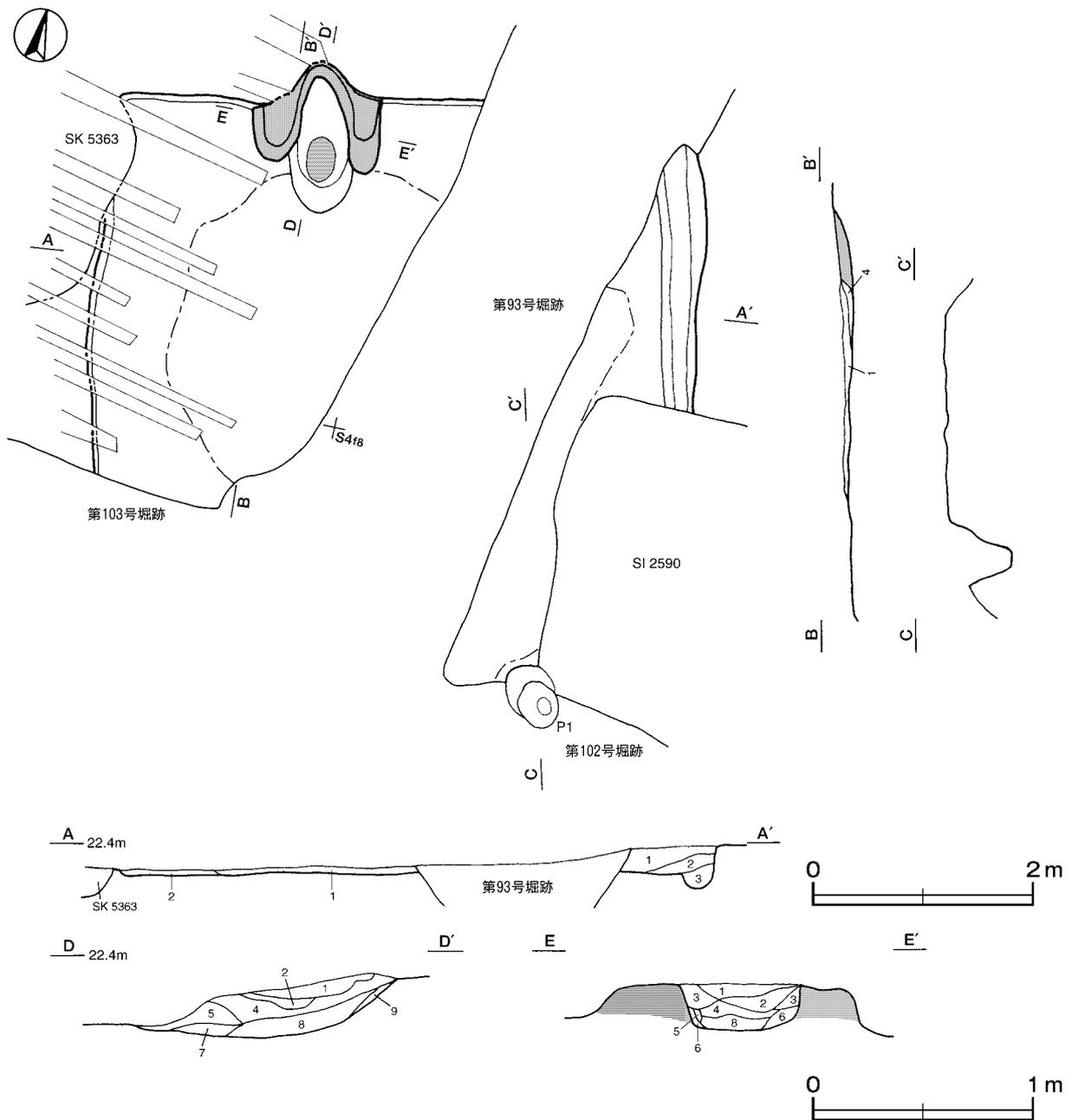
第2607号住居跡 (第387図)

位置 調査区南部のS 4 e8 区、標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2590号住居、第93・102・103号堀、第5363号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 中央部と南側を第93・103号堀に掘り込まれており、東西軸5.55m、南北軸は5.74mを確認している。主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は8 ~ 36cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。



第387図 第2607号住居跡実測図

竈 北壁中央部のやや西寄りの位置に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで135cm，袖部幅117cmである。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は第1～9層に分けられ，第1・2層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。全体的にブロック状の含有物を多く含む人為堆積であり，廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土粒子少量，炭化材微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 灰赤色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化材・焼土粒子少量 | 8 褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化材少量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 灰赤色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化材少量 | | |

ピット P1は深さ58cmで，南東部に位置していることから主柱穴と考えられる。その他の主柱穴は，遺構の重複や耕作による攪乱のため不明瞭である。

覆土 4層に分けられる。含有物が細粒かつ微量であり，周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | | |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片40点（坏12，高坏1，甕類27）が散在して出土しており，いずれも細片である。

所見 出土遺物の数が少ないため時期判定は困難であるが，出土土器や主軸方向から，時期は6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第2609号住居跡（第388～391図）

位置 調査区南部のS5c2区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2608号住居，第472・474号掘立柱建物，第4166・4194号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.30m，短軸5.28mの方形で，主軸方向はN-27°-Wである。壁高は19～50cmで，各壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅17～24cm，深さ7～12cmで，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

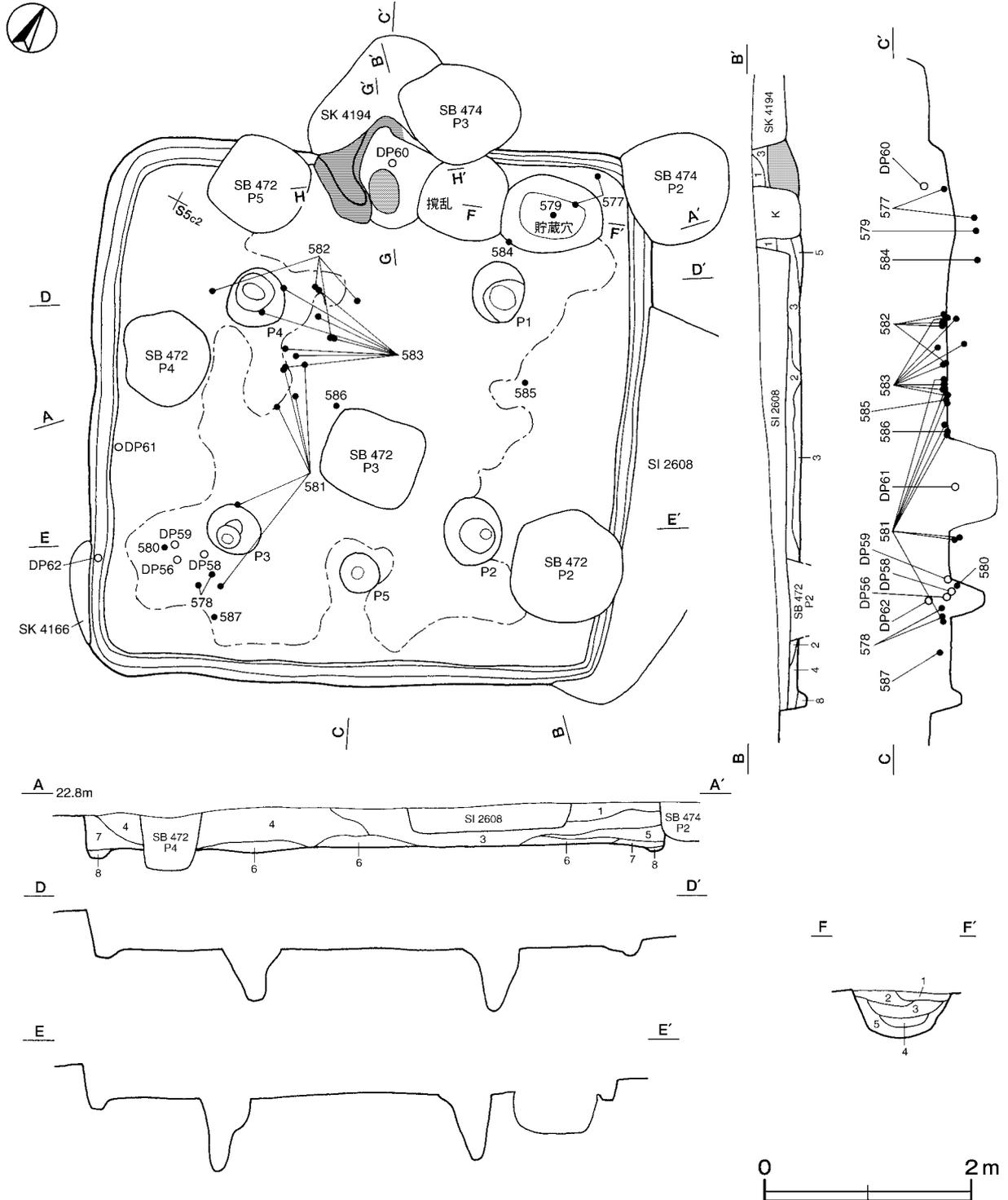
竈 北壁中央部に付設されている。煙道部と右袖部を第474号掘立柱建物のP3や第4194号土坑等に掘り込まれている。規模は，焚口部から煙道部まで111cmを確認し，袖部幅は竈の中軸線で反転復元すると130cmである。袖部は床面を深さ8cmほどに浅く掘りくぼめて，ローム粒子を含む第19層を充填し，その上部に砂質粘土を主体とする第18層で芯を作り，第14～17層を塊状に貼り付けて構築している。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外への掘り込み38cmを確認しており，火床面から緩やかに立ち上がり，奥壁で直立している。覆土は第1～12層に分けられる。袖部及び天井部の構築材のブロックを多量に含む人為堆積である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|----------|--------------------------|
| 1 にぶい橙色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 炭化粒子中量，焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |

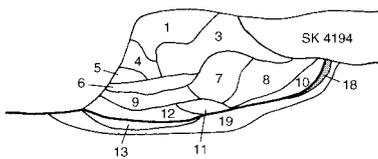
- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 9 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 10 にぶい橙色 砂質粘土粒子多量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 極暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 11 にぶい褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 にぶい橙色 砂質粘土ブロック多量,炭化粒子微量 |
| 12 暗赤褐色 焼土粒子中量,炭化粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子微量 | 17 暗赤褐色 砂質粘土粒子多量,焼土粒子中量 |
| 13 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 極暗赤褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| | 19 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは51～67cmである。P5は深さ34cmで、南側の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

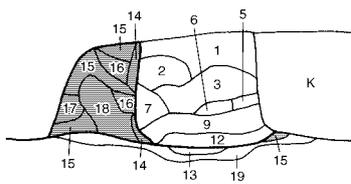


第388図 第2609号住居跡実測図

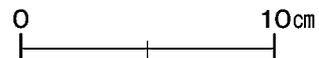
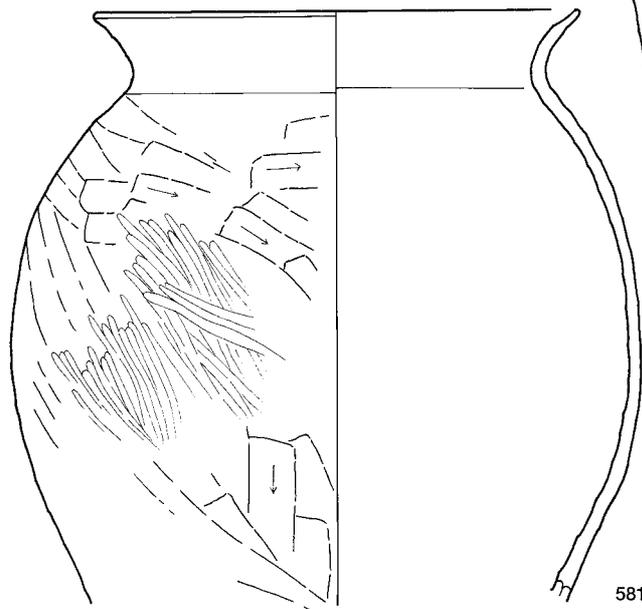
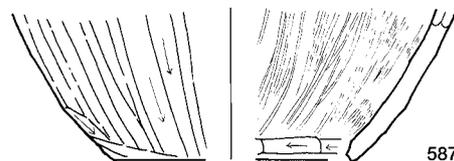
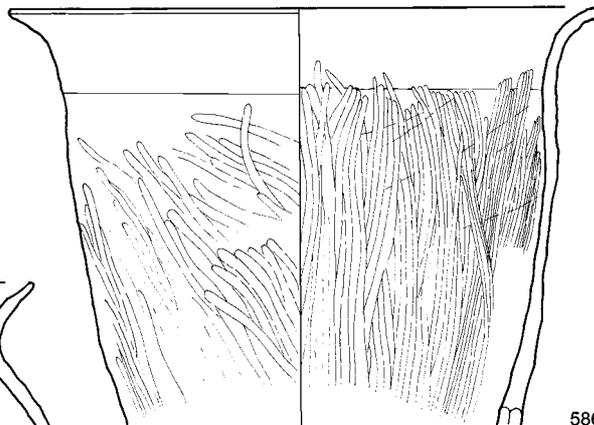
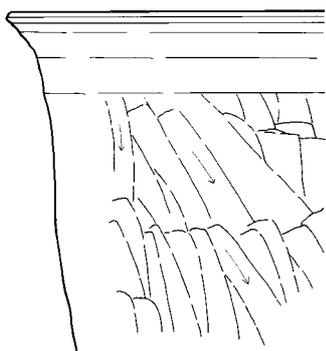
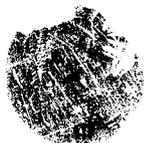
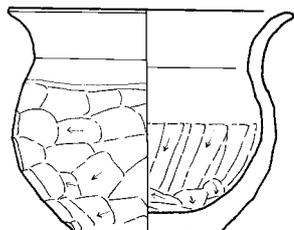
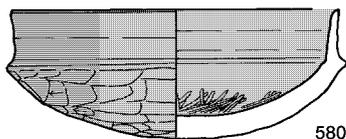
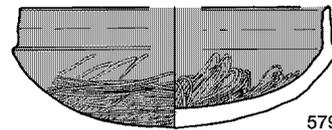
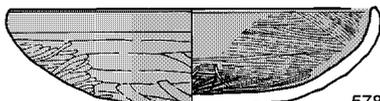
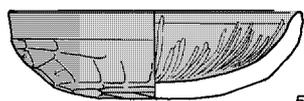
G 22.8m



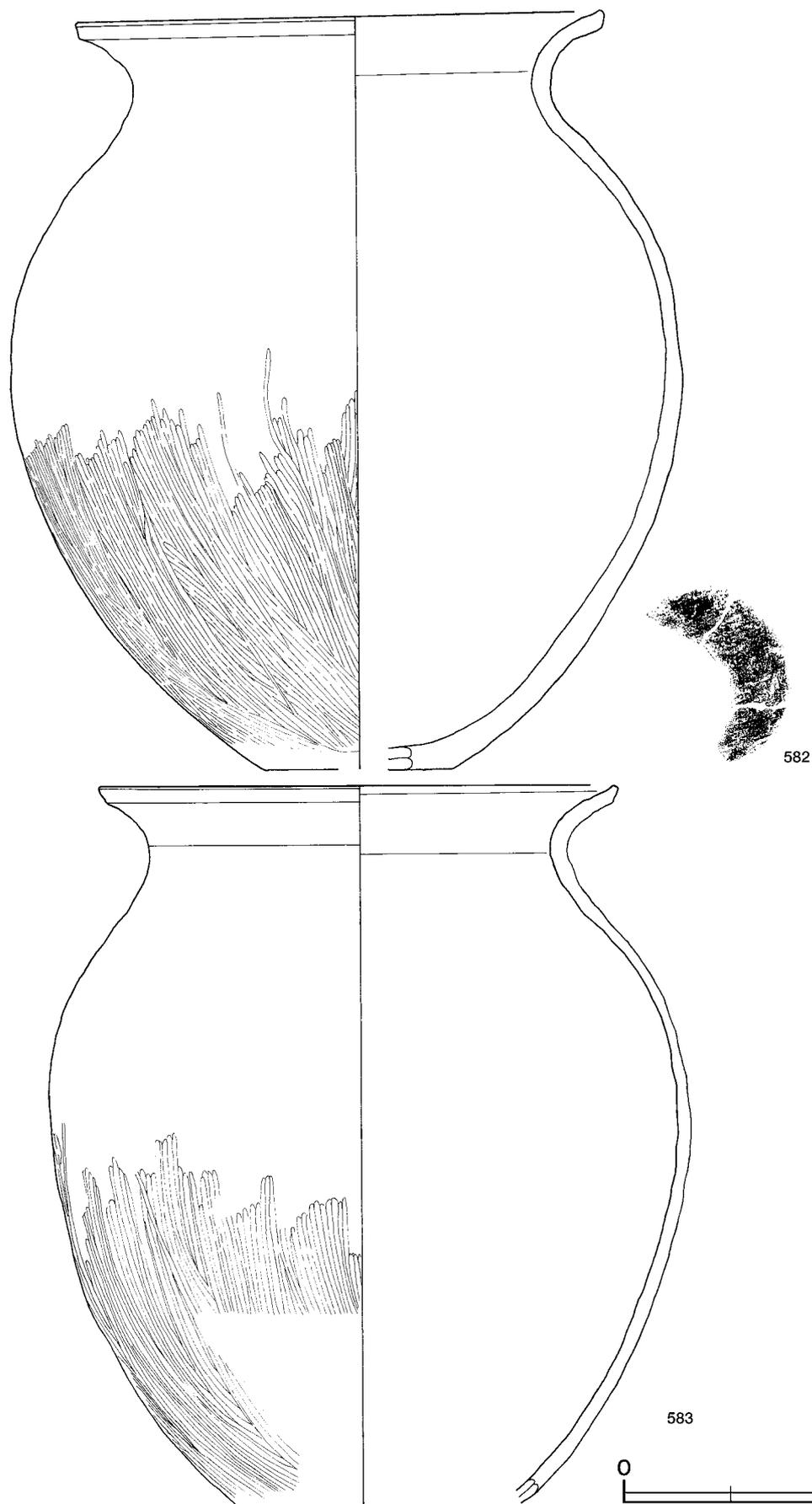
G' H



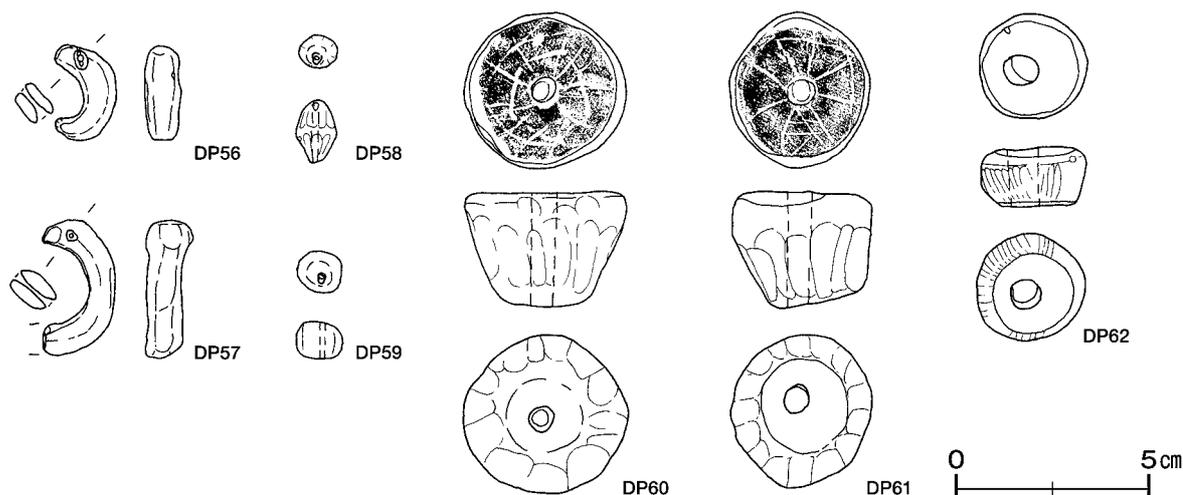
H'



第389图 第2609号住居跡・出土遺物実測図



第390图 第2609号住居跡出土遺物実測図(1)



第391図 第2609号住居跡出土遺物実測図(2)

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。規模は、長径98cm、短径75cmの楕円形で、深さは46cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は、ロームや粘土のブロックを含む人為堆積であり、覆土下層からは完形に近い土器類が集中して出土している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|---------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量, 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

覆土 8層に分けられる。ロームブロックと黒色土が混在した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 極暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片611点(坏94, 高坏2, 甕類468, 甑46, 手捏土器1), 土製品8点(勾玉3, 切子玉1, 小玉1, 紡錘車3)が出土している。577・579・584は貯蔵穴の覆土下層から、完形に近い状態で出土しており、貯蔵穴を埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。また、581~583・586はP4の周辺から中央部, 578・580・587・DP56・DP58・DP59は南西コーナー部, DP61は西壁際の床面からそれぞれ出土しており、いずれも残存率が高く、廃絶に伴って遺棄されたものと考えられる。

所見 出土遺物は、西半部にまとまっており、屋内空間の機能差や居住者の性別差による出土位置の違いを反映している可能性がある。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2609号住居跡出土遺物観察表(第389~391図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
577	土師器	坏	11.3	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	貯蔵穴下層	80%
578	土師器	坏	14.4	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	床面	90%
579	土師器	坏	[12.2]	4.8	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	貯蔵穴下層	70%
580	土師器	坏	12.7	5.1	-	長石・石英	褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	85%
581	土師器	甕	19.0	(23.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	55% PL118
582	土師器	甕	24.4	36.0	[8.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 木葉痕	床面	70% PL118
583	土師器	甕	24.2	(34.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	床面	65% PL118
584	土師器	小形甕	11.1	8.9	5.6	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ削り	貯蔵穴下層	95% PL118

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
585	土師器	甌	[26.4]	(13.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	20%
586	土師器	甌	23.2	(16.6)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面へラ磨き	床面	45%
587	土師器	甌	-	(6.1)	[9.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 体部内面へラ磨き 底部内 端面へラ削り	床面	30%
588	土師器	手捏土器	[5.6]		[5.5]	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP56	勾玉	2.5	1.7	1.0	3.4	土(長石)	孔径0.3cm ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL140
DP57	勾玉	(3.7)	2.0	1.2	(5.7)	土(長石・石英)	孔径0.2cm ナデ 二方向からの穿孔	覆土中	PL140

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP58	切子玉	1.7	1.1	0.2	1.7	土(長石・石英・雲母)	ナデ 一方向からの穿孔 7面体	床面	PL140
DP59	小玉	1.0	1.2	0.15	1.6	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL140
DP60	紡錘車	4.3	3.0	0.7	52.3	土(長石・石英・雲母)	側面へラ磨き 一方向からの穿孔	竈火床面	PL139
DP61	紡錘車	4.1	3.1	0.7	45.2	土(長石・石英)	側面へラ磨き 二方向からの穿孔	床面	PL139
DP62	紡錘車	2.8	1.6	0.9	14.8	土(長石・石英)	側面へラ磨き 一方向からの穿孔	上層	PL139

第2612号住居跡 (第392・393図)

位置 調査区中央部のR 4 i 6区, 標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

重複関係 第482号掘立柱建物, 第95号堀に掘り込まれている。遺構の重複と耕作による削平や攪乱を受けており, 遺存状態が悪く, 床面はほとんど露出した状態で検出されている。

規模と形状 確認できたのは南東コーナー部から東壁の一部で, 硬化面の広がりから, 一辺7.3mほどの方形と推定される。東壁の方向はN - 18° - Eである。壁高は最も残りの良い部分で19cmで, 外傾して立ち上がっている。

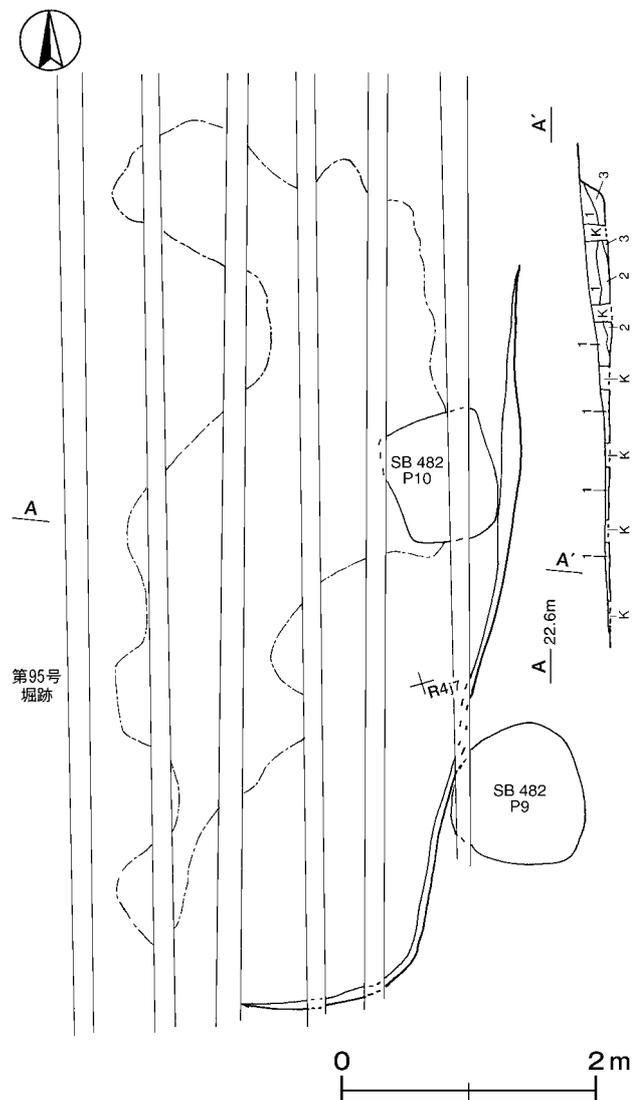
床 確認できた範囲ではほぼ平坦で, 中央部と推定される範囲が踏み固められている。

覆土 3層に分けられる。覆土の層厚が薄いため堆積状況は不明であるが, 含有物が微量であることから自然堆積と考えられる。

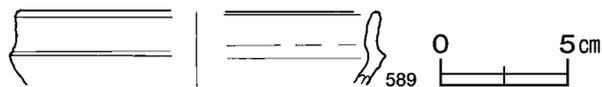
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片79点(坏5, 甕類74点), 石器1点(砥石)は, 覆土中に散在して出土しており, 廃絶後に流入したものと考えられる。そのほか須恵器片5点, 土師質土器11点は, 耕作の攪乱により混入したものである。



第392図 第2612号住居跡実測図



所見 時期は、出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。

第393図 第2612号住居跡出土遺物実測図

第2612号住居跡出土遺物観察表（第393図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
589	土師器	坏	[14.2]	(2.9)	-	石英	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	覆土中	5%

第2614号住居跡（第394・395図）

位置 調査区南部のS 4 c9区、標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第93号堀、第4403号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第93号堀により、西側の大半が失われており、東西軸は5.44m、南北軸は4.06mを確認している。東壁の方向はN - 29° - Wである。壁高は28~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた部分ではほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅17~21cm、深さ7~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 2か所。P1は支柱穴で、深さ53cmである。P2は深さ43cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

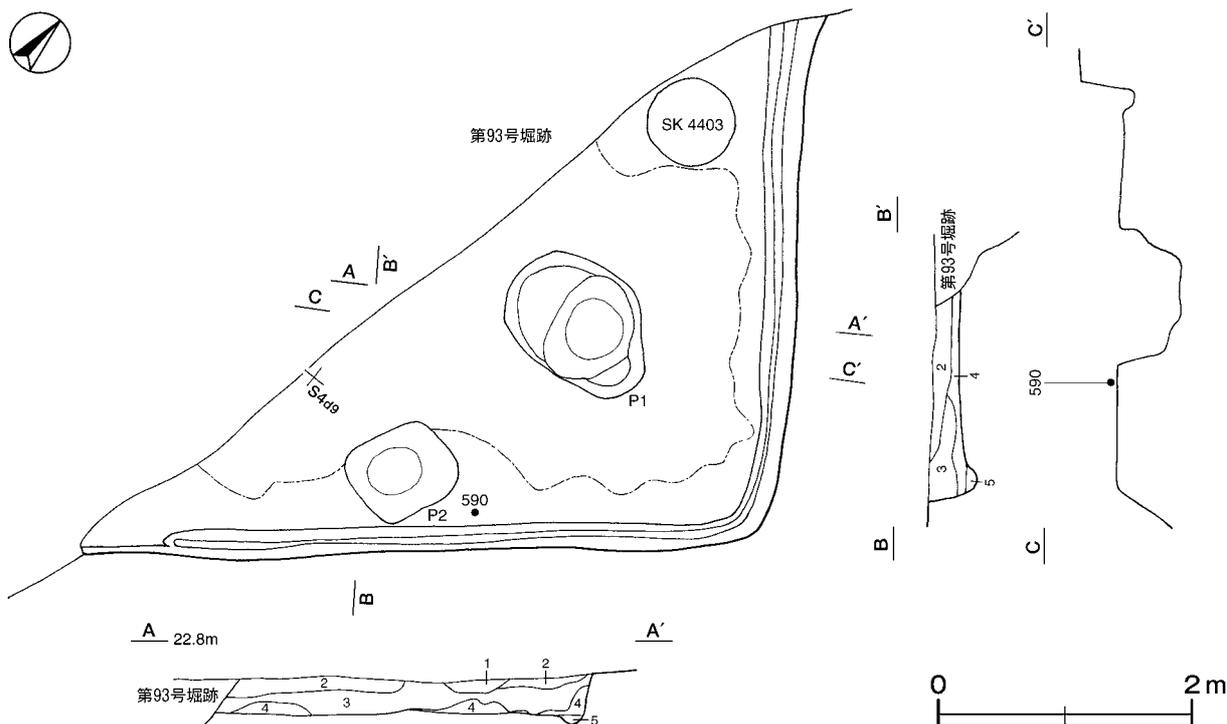
覆土 5層に分けられる。含有物が細粒かつ微量であり、周囲から流入した状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片210点（坏54、甕類156）が出土している。590は南壁際の床面、591は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第394図 第2614号住居跡実測図



第395図 第2614号住居跡出土遺物実測図

第2614号住居跡出土遺物観察表（第395図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
590	土師器	坏	[15.0]	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	55%
591	土師器	坏	[12.0]	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	上層	5%

第2624号住居跡（第396図）

位置 調査区南東部のS 5 a8区，標高22.5mほどの斜面部上段に位置している。

重複関係 第2625号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.08m，短軸5.01mの方形で，主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は11～21cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅12～20cm，深さ4～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで135cm，袖部幅112cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第13～14層を充填し，その上部にローム混じりの砂質粘土を主体とする第7～11層を積み上げて構築している。火床部は床面を5cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。火床部の北東側には支脚が据えられており，焚口部からの距離は78cmである。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜し，奥壁でほぼ直立している。奥壁には，砂質粘土を主体とする第6層を貼り付けて補強している。覆土は第1～5層に分けられ，第1・2層は天井部の崩落土層に相当する。各層は，ロームや焼土のブロックを含む人為堆積である。

竈土層解説

1 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
2 灰黄褐色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	9 灰褐色	砂質粘土ブロック多量，ロームブロック少量
3 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック・灰少量，ローム粒子・炭化粒子微量	11 灰褐色	砂質粘土ブロック多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土粒子多量，灰少量，炭化粒子微量	12 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック少量
6 極暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	13 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
7 暗褐色	ロームブロック中量，砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック中量，砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 6か所。P1～P4は支柱穴で，深さは50～64cmである。P5は深さ32cm，P6は深さ13cmで，いずれも南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。各層に焼土や砂質粘土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

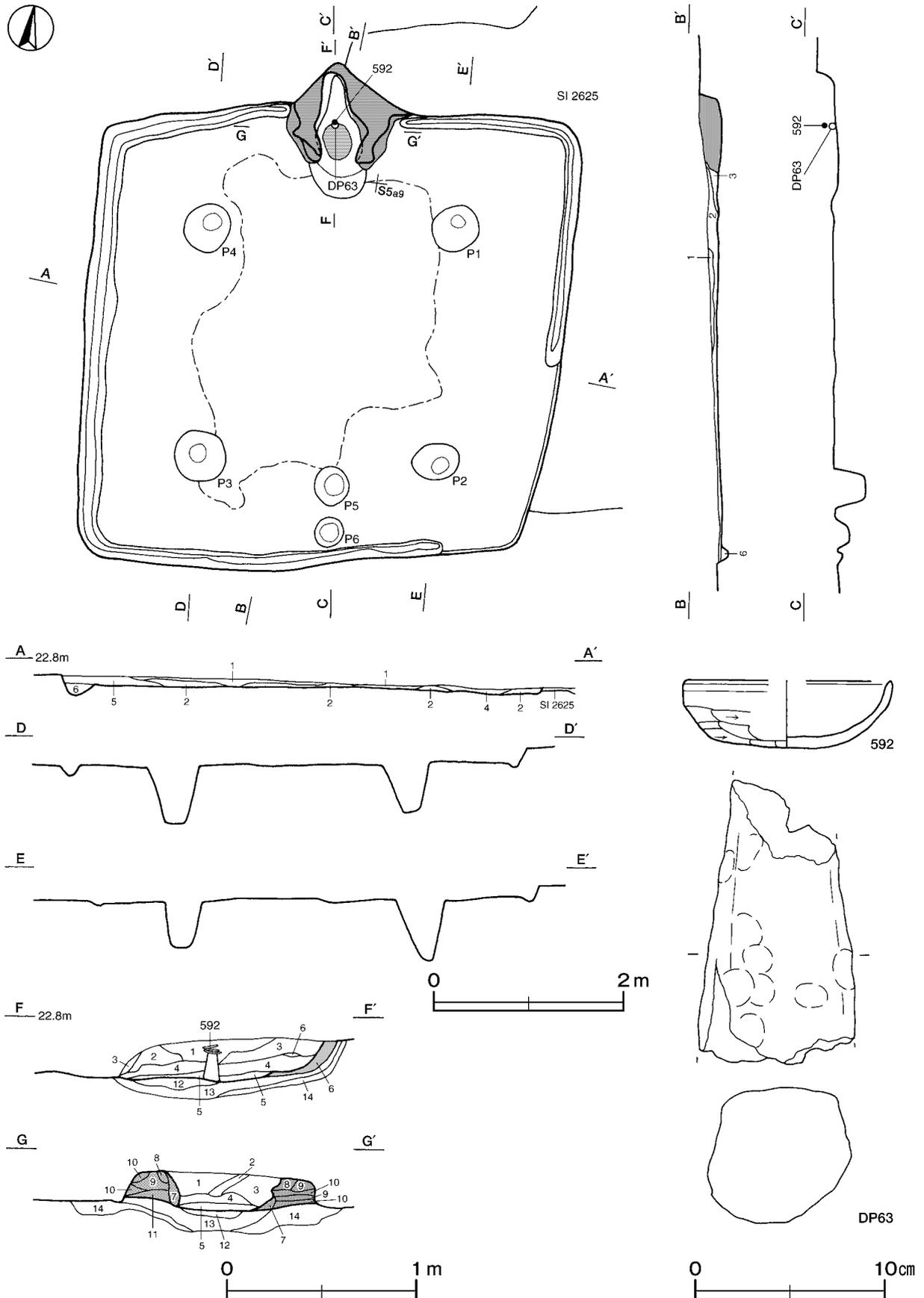
土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物・砂質粘土粒子微量	5 暗褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
3 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片150点（坏44，甕類106），土製品16（支脚）のほか，粘土塊1点が北部の覆土上層から中層を中心に出土している。また，混入した陶磁器片3点，瓦片2点も出土している。DP63は竈火床面の北側に据えられており，その上部に592が重ねられた状態で出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたもの

と考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第396図 第2624号住居跡・出土遺物実測図

第2624号住居跡出土遺物観察表（第396図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
592	土師器	坏	[10.9]	3.6	-	赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈上層	25%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP63	支脚	(15.2)	(6.2)	(8.3)	(732.2)	立長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭痕 火を受けている にぶい橙色	竈火床面	

第2625号住居跡（第397・398図）

位置 調査区南東部のR 5 j9区、標高22.5mほどの斜面上段に位置している。

重複関係 第2624・2637号住居、第153号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.16m、短軸4.91mの方形で、主軸方向はN - 7° - Wである。壁高は15～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北東部を第153号溝、南西部を第2624号住居に掘り込まれているため明らかではないが、壁下には幅12～14cm、深さ5～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで84cm、袖部幅107cmである。袖部は床面を10cmほど掘りくぼめて第11・12層を充填し、その上部に粘土ブロックを主体とする第5～10層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。上部には灰層（第2層）が堆積しており、層厚は6cmである。煙道部は壁外に31cm掘り込まれ、火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。奥壁には砂質粘土を含む第13層を貼り付けて補強している。覆土は第1～4層に分けられ、第1・4層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は、焼土や砂質粘土のブロック、炭化物を含む人為堆積である。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	9	極暗褐色	粘土粒子少量、炭化粒子微量
2	灰褐色	灰多量、ローム粒子・焼土粒子少量	10	黒褐色	粘土粒子少量、炭化粒子微量
3	極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量	11	赤褐色	焼土粒子中量
4	にぶい赤褐色	灰多量、焼土ブロック少量	12	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	13	黒褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物・砂質粘土ブロック微量
6	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、砂質粘土ブロック微量
7	灰黄褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子微量	15	黒褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量
8	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	16	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは44～57cmである。P5は深さ39cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。規模は、長軸69cm、短軸56cmの隅丸長方形で、深さは44cmである。底面は皿状で、壁は急な傾斜で立ち上がっている。覆土はロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1	極暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	4	黒褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量			

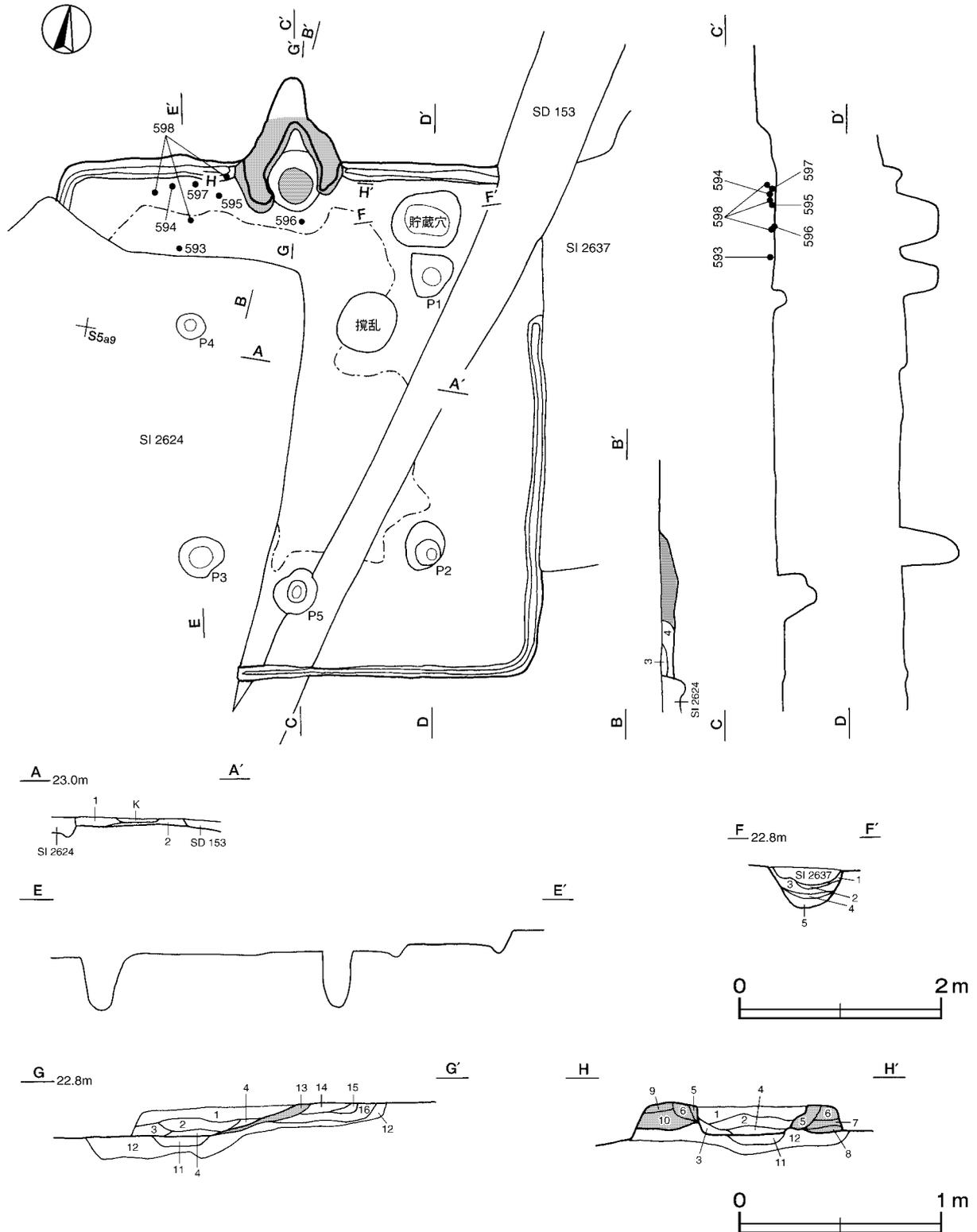
覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

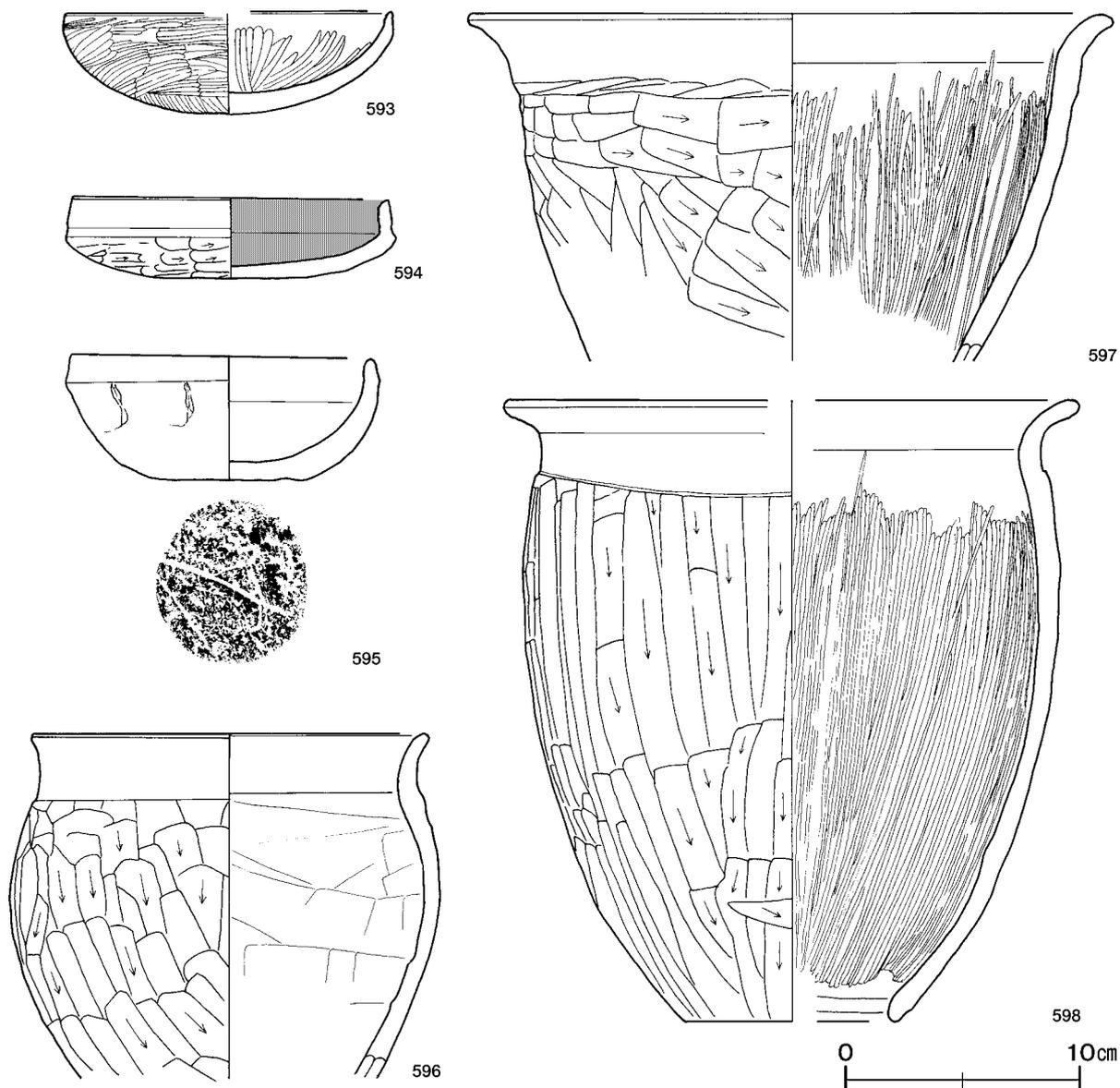
1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量	4	暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量			
3	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片218点（坏27，高坏2，鉢1，甕類118，甑70）が北部の覆土下層を中心に出土している。593は北西部，594・595・597は北壁際の西寄り，596は竈前の床面からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。598は北西部の覆土下層と床面から出土した破片が接合したものであり，ほぼ同時期と考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第397図 第2625号住居跡実測図



第398図 第2625号住居跡出土遺物実測図

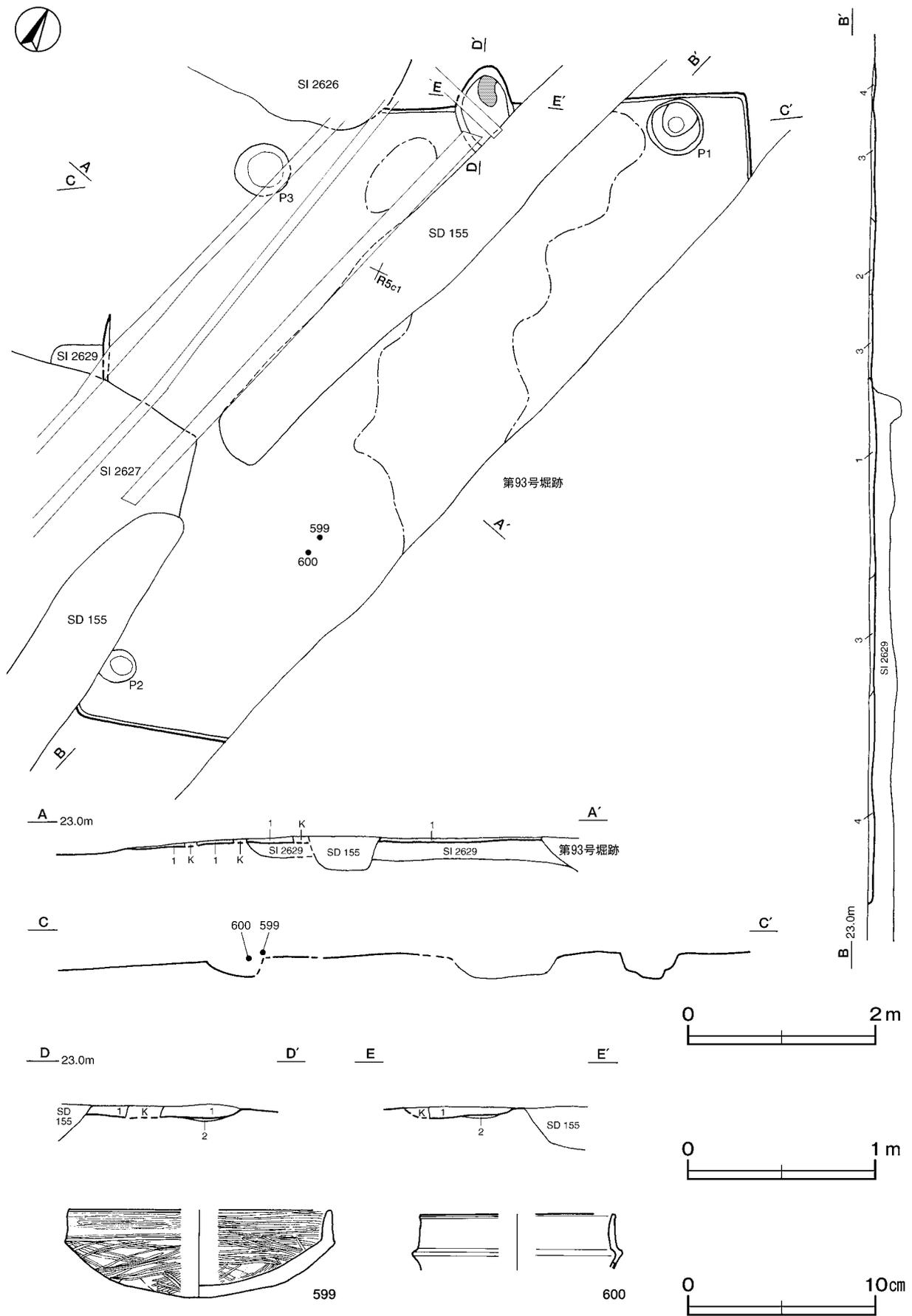
第2625号住居跡出土遺物観察表（第398図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
593	土師器	坏	[13.8]	4.3	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	床面	85%
594	土師器	坏	13.4	3.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	95% PL116
595	土師器	鉢	12.3	5.3	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面輪積み痕を残すナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面	95% PL116
596	土師器	小形甕	16.6	(14.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	70%
597	土師器	甌	27.3	(15.1)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ後ヘラ磨き	床面	70%
598	土師器	甌	[23.8]	26.8	8.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ後ヘラ磨き	下層～床面	50%

第2628号住居跡（第399図）

位置 調査区中央部のR 4 c0区、標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2629号住居跡を掘り込み、第2626・2627号住居、第93号堀、第155号溝に掘り込まれている。また、遺構の重複や耕作による攪乱のため遺存状態は悪い。



第399图 第2628号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 北東コーナー部と南西コーナー部の一部を確認しており、一辺約6.8mの方形と推定され、主軸方向はN - 23° - Wである。壁高は4cmで、立ち上がりの状況は不明瞭である。

床 確認した部分ではほぼ平坦で、竈前面から南側へ広がる帯状の範囲が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く、煙道部や袖部の状況は不明で、長軸95cm、短軸62cmの楕円形状に掘りくぼめられた火床部の一部を確認している。壁外への掘り込みは44cmで、床面からの深さは6cmである。火床面は赤変しているが、硬化は弱い。覆土は単一層で、層厚が薄いため堆積状況は不明である。

竈土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量

ピット 3か所。深さはP1が28cm、P2が18cm、P3が36cmである。いずれも壁際に位置していることから、棚などの屋内施設に伴うピットの可能性が考えられるが、構造は不明である。

覆土 4層に分けられる。全体的にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片58点（坏5、甕類53）、鉄製品1点（鎌）が出土しているが、いずれも細片であり、廃絶後に投棄あるいは流入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉以前と考えられる。

第2628号住居跡出土遺物観察表（第399図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
599	土師器	坏	[14.0]	4.8	-	長石	明赤褐	普通	口辺部・体部内・外面へラ磨き	下層	45%
600	土師器	坏	[10.3]	(3.0)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	5%

第2629号住居跡（第400・401図）

位置 調査区中央部のR4c0区、標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2627・2628号住居、第93号堀、第155号溝に掘り込まれている。また、遺構の重複と耕作の攪乱により、北西部と南東部の大半が失われている。

規模と形状 長軸5.20m、短軸4.98mの方形と推定され、主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は20~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた部分ではほぼ平坦で、竈の周辺を含む主柱穴の内側が踏み固められている。壁下には、幅20~26cm、深さ7~11cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。壁外への掘り込みは62cmで、煙道部は緩やかに立ち上がっている。覆土は2層に分けられるが、層厚が薄いため堆積状況は不明である。

竈土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 6か所。P1~P4は深さ52~71cmで、位置と形状から主柱穴に相当する。P5は深さ53cmで、南側の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ28cmで、P4の抜き取り痕と考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、長径93cm、短径63cmの楕円形で、深さは37cmである。底面は皿状で、壁は彎曲して立ち上がっており、西側には浅い段が付いている。覆土上層から土師器坏や甕類の破片が集中して出

土しているが、いずれも細片であり、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 4 にぶい褐色 | ローム粒子微量 |

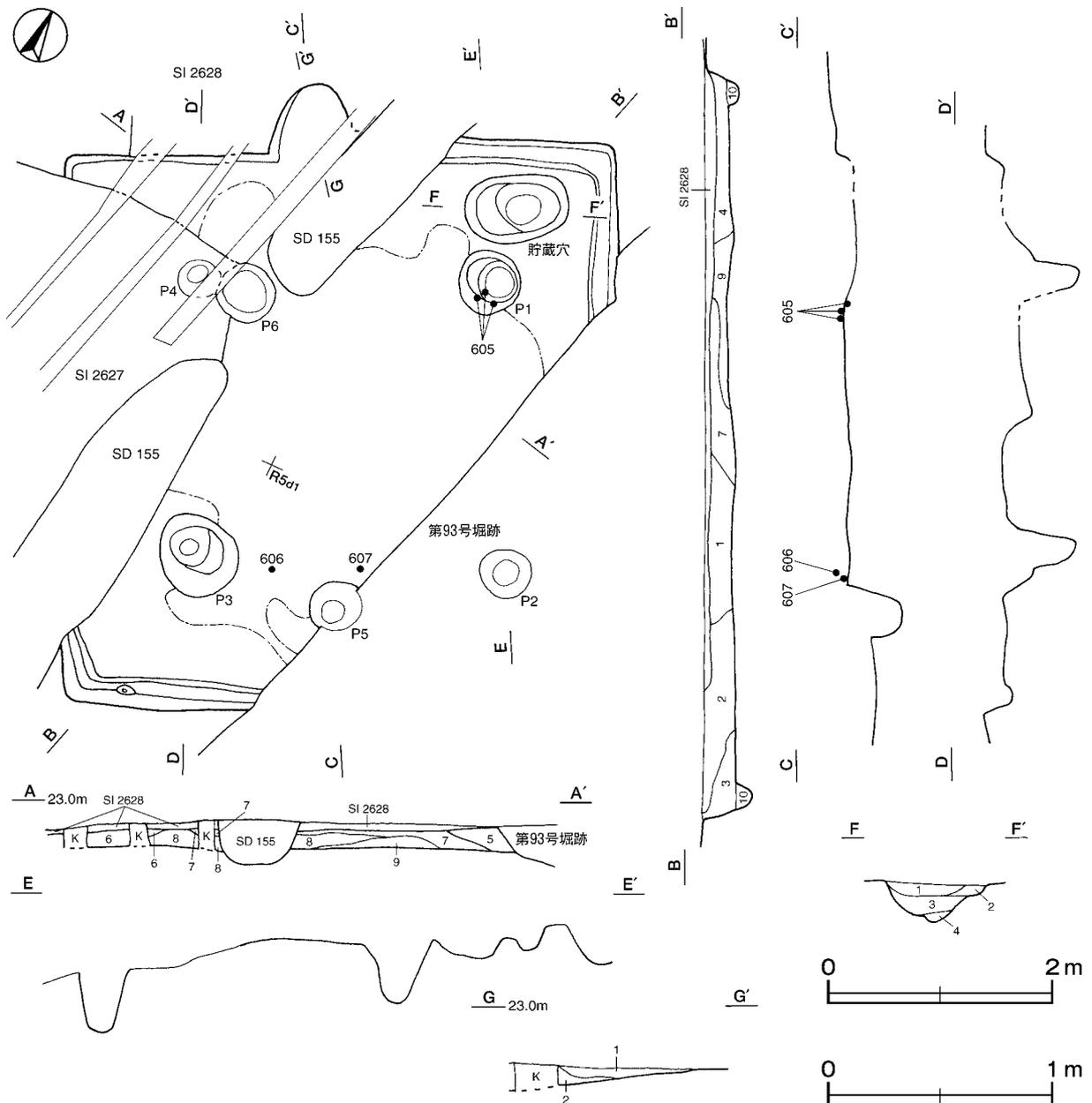
覆土 10層に分けられる。全体的にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

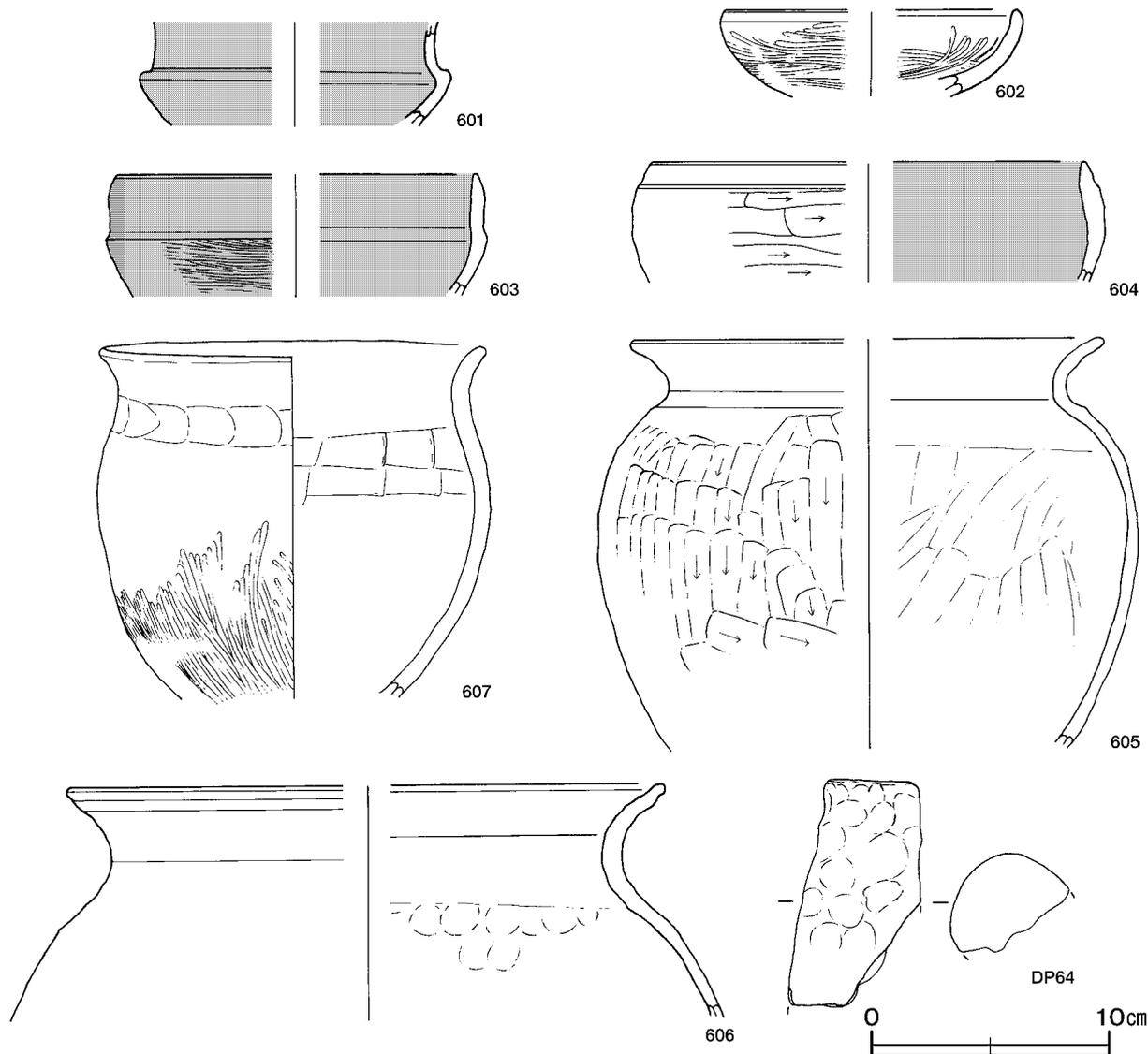
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 6 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐色 | 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 灰褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片180点(坏24, 高坏1, 鉢3, 甕類150, 甑2), 土製品1点(支脚)が出土している。605はP1周辺, 606・607は出入口施設付近の床面から出土している。いずれも破片であり, 廃絶後間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉以前と考えられる。



第400図 第2629号住居跡実測図



第401図 第2629号住居跡出土遺物実測図

第2629号住居跡出土遺物観察表（第401図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
601	土師器	坏	-	(4.5)	-	長石・石英	黒褐	普通	体部外面へラ削り後ナデ	覆土中	10%
602	土師器	坏	[12.2]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面へラ磨き	覆土中	20%
603	土師器	坏	[15.0]	(5.2)	-	長石・石英	暗褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	床面	15%
604	土師器	鉢	[18.2]	(5.1)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	覆土中	15%
605	土師器	甕	[19.6]	(17.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラナデ	床面	40%
606	土師器	甕	[24.8]	(9.9)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ナデ 指頭痕	床面	10%
607	土師器	小形甕	15.9	(15.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部外面・体部内面へラナデ 外面へラ磨き	床面	50% PL114

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP64	支脚	(9.7)	3.6	(4.9)	(182.4)	土(長石・石英・雲母)	下部一部欠損 ナデ 火を受けている にぶい橙色	覆土中	

第2634号住居跡（第402図）

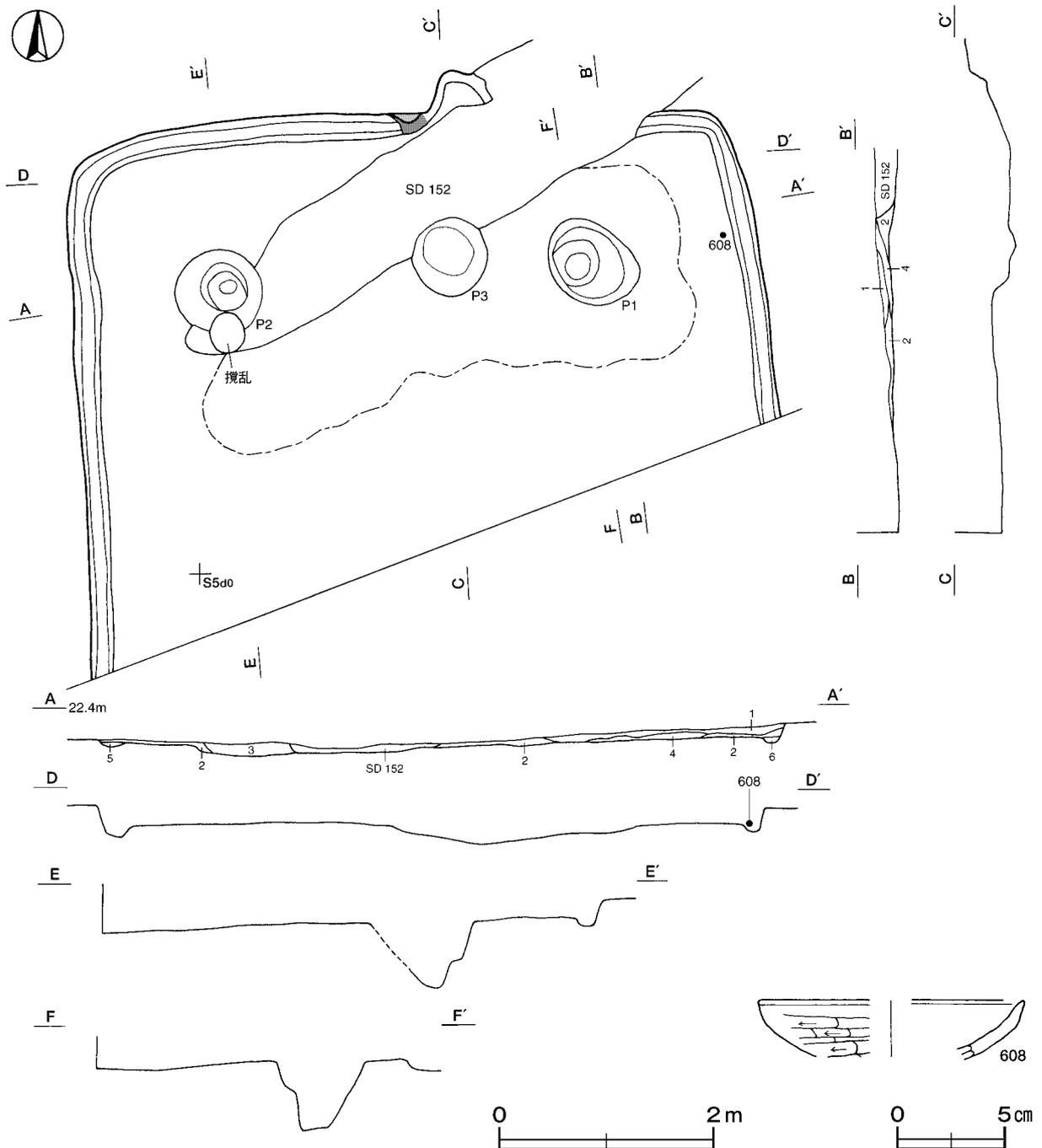
位置 調査区南東部のS 5 c0区，標高22.0mほどの斜面部中段に位置している。

重複関係 第152号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部は調査区域外であり，東西軸6.50m，南北軸は4.90mだけが確認された。主軸方向はN - 3° - Wで，方形または長方形と推定される。壁高は10~20cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，北部が踏み固められている。壁下には，幅19~26cm，深さ8~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。大部分を第152号溝に掘り込まれているため，袖部の一部と煙道部がわずかに遺存しているが，規模や形状は不明である。袖部は砂質粘土で構築している。



第402図 第2634号住居跡・出土遺物実測図

ピット 3か所。P1・P2は主柱穴で、深さはそれぞれ46cm・61cmである。P3は深さ20cmで、竈正面に位置しているが性格は不明である。

覆土 6層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片231点（坏49，高坏1，甕類180，甑1），須恵器片2点（坏），鉄製品1点（釘）が北部の覆土中層から下層にかけて集中して出土している。また，混入した須恵器片2点，土師質土器片5点も出土している。608は東壁際北寄りの床面から出土し，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。

第2634号住居跡出土遺物観察表（第402図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
608	土師器	坏	[12.4]	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	10%

第2635号住居跡（第403・404図）

位置 調査区中央部のR5i4区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2618・2630・2631号住居，第471号掘立柱建物，第21号柵などに掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.60m，短軸7.00mの方形で，主軸方向はN-40°-Wである。壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅11～13cm，深さ6～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで150cm，袖部幅127cmである。袖部は床面を18cmほど掘りくぼめて，第11層を充填し，砂質粘土主体の9層とロームブロック主体の第10層を互層に積み上げて構築している。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり，火床面は赤変硬化している。上部には灰を含む第7層が堆積しており，層厚は6cmである。煙道部は壁外への掘り込みが61cmで，火床面から緩やかに立ち上がっている。覆土は，第1～6層に分けられる。ロームブロックや焼土粒子を多く含む人為堆積である。

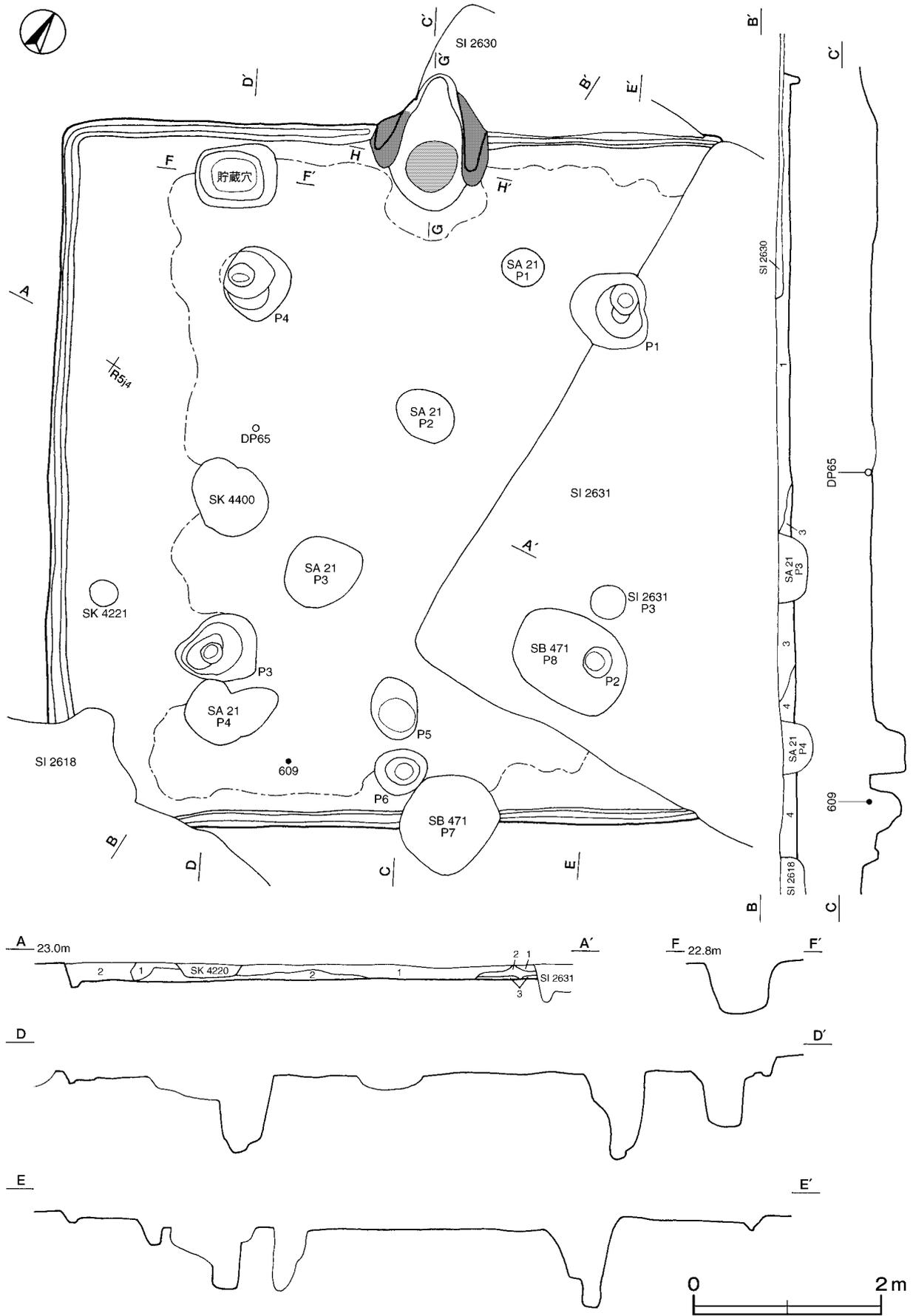
土層解説

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量，灰少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量，砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量 | 9 灰黄褐色 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 褐色 ロームブロック多量，焼土粒子少量 |
| 5 にぶい褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量，砂質粘土粒子微量 | |

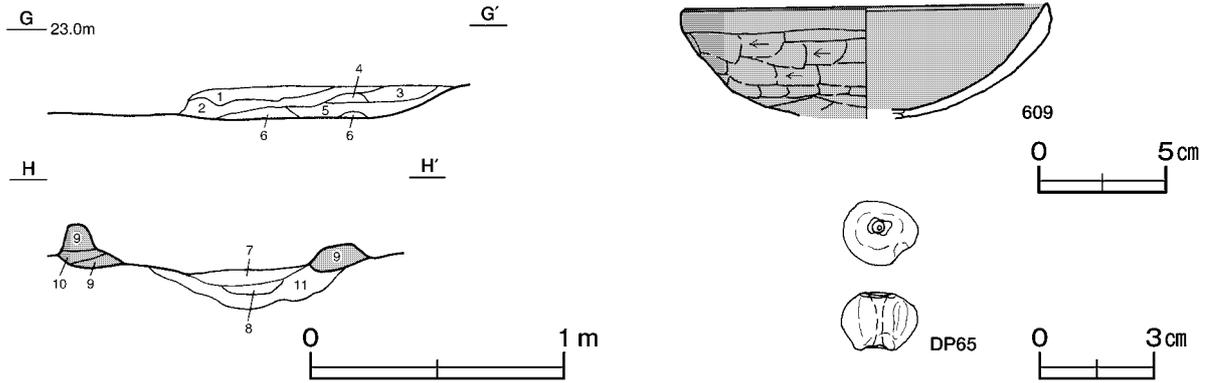
ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で，深さ67～97cmである。P5は深さ44cm，P6は深さ31cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北壁際の西側に位置している。長軸88cm，短軸68cmの隅丸長方形で，深さは60cmである。底面は皿状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分けられる。ロームブロックを多量に含む人為堆積である。



第403图 第2635号住居跡実测图



第404図 第2635号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 2 明褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
 4 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片203点(坏23, 高坏3, 鉢1, 甕類171, 甌4, 手捏土器1), 須恵器片8点(坏1, 蓋2, 高坏2, 甕類3), 土製品1点(土玉)が出土しているほか, 縄文土器片1点流れ込んでいる。609は南壁際のやや西寄りの位置に正位で据え置かれた状態で出土し, DP65は中央部西側の床面から出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第2635号住居跡出土遺物観察表(第404図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
609	土師器	坏	14.4	4.4	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	90% PL116

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP65	土玉	2.0	1.5	0.3	4.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL140

第2637号住居跡(第405・406図)

位置 調査区南東部のR5j0区, 標高22.5mほどの斜面上段に位置している。

重複関係 第2625号住居跡を掘り込み, 第153号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.20m, 短軸4.02mの方形で, 主軸方向はN-23°-Wである。壁高は6~22cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には, 幅10~19cm, 深さ4~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。中央部に炭化材や焼土の広がりが見られる焼失住居である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで108cm, 袖部幅114cmである。袖部は床面を10cmほど掘りくぼめて第15・16層を充填し, その上部に粘土ブロックを主体とする第8~14層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ, 火床部から緩やかに傾斜し, 奥壁でほぼ直立している。覆土は第1~7層に分けられ, いずれも天井部および袖部の崩落土層に相当する。同層は, 火床部に直に接していることから, 廃絶後間もなく崩落している状況を示しており, 人為的に破壊されたと想定される。

竈土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量

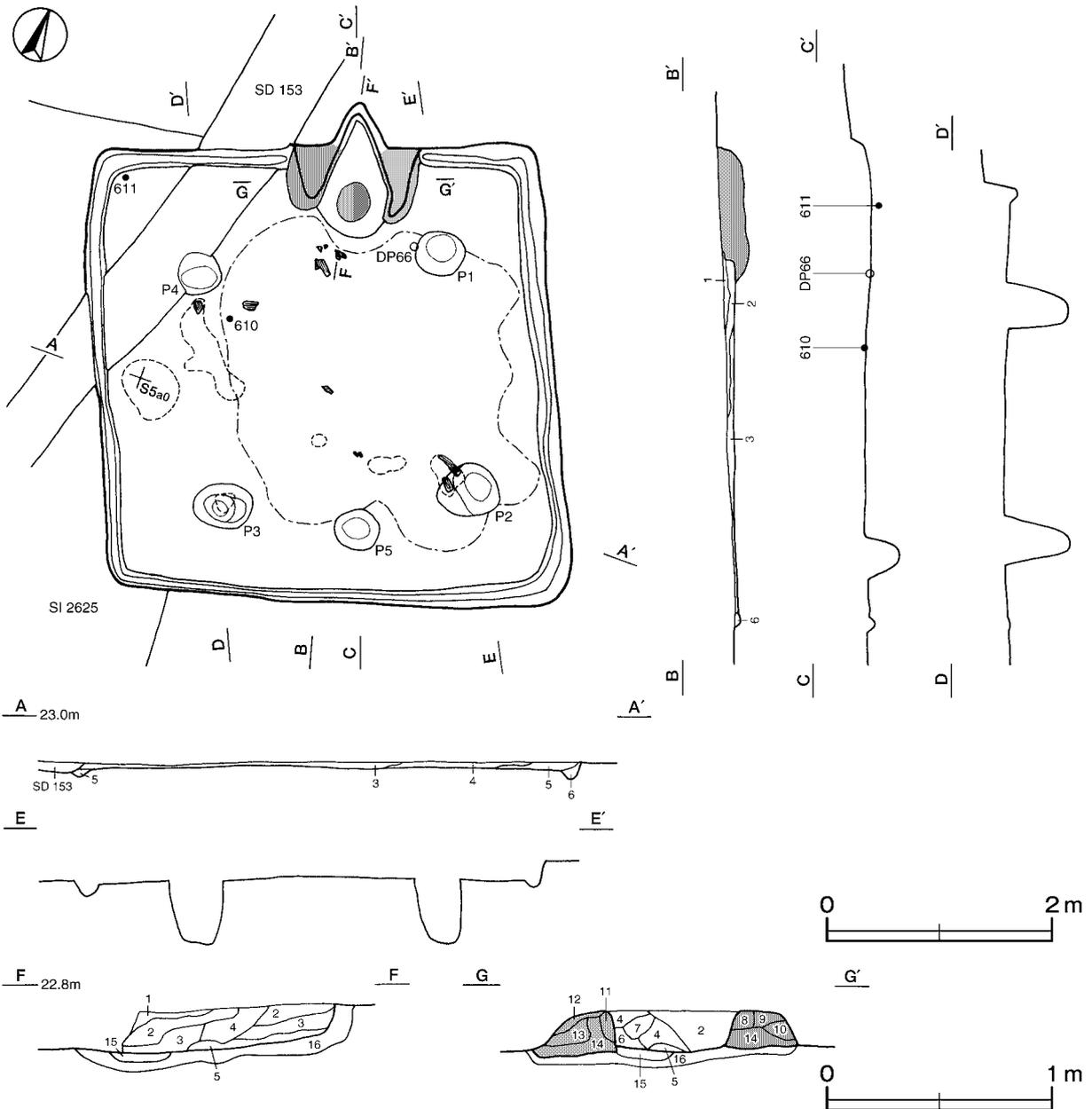
- | | | | |
|---------|-------------------------------|-----------|--------------------------|
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量 | 8 暗褐色 | 粘土ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | 11 暗赤褐色 | 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子微量 |
| | | 13 暗褐色 | 粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 14 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 15 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| | | 16 暗褐色 | ロームブロック少量 |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは56～59cmである。P5は深さ31cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

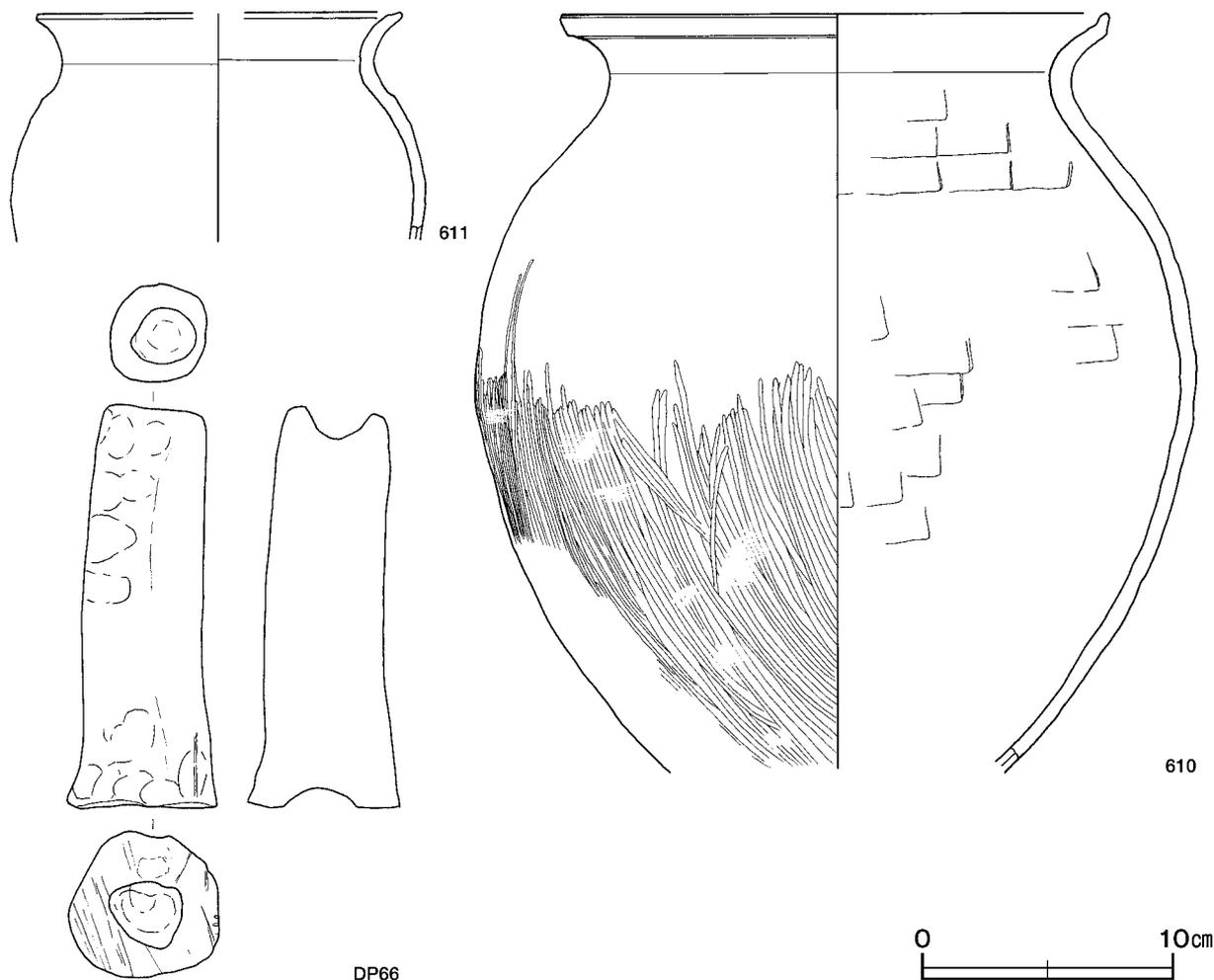
覆土 6層に分けられる。各層に焼土ブロックや炭化物を含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|--------|------------------------|
| 1 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量，砂質粘土ブロック微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量 |
| | | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 6 褐色 | ロームブロック多量 |



第405図 第2637号住居跡実測図



第406図 第2637号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片279点（坏34，甕類207，小形甕38），土製品1点（支脚）が中央部西寄りの覆土下層を中心に出土している。また，混入した平安時代の土師器片4点，須恵器片2点も出土している。610は中央部，611は北西コーナー部，DP66は北東部の床面からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 中央部を中心に焼土や炭化材の広がりが見られ，覆土中に焼土ブロックや炭化物が含まれていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

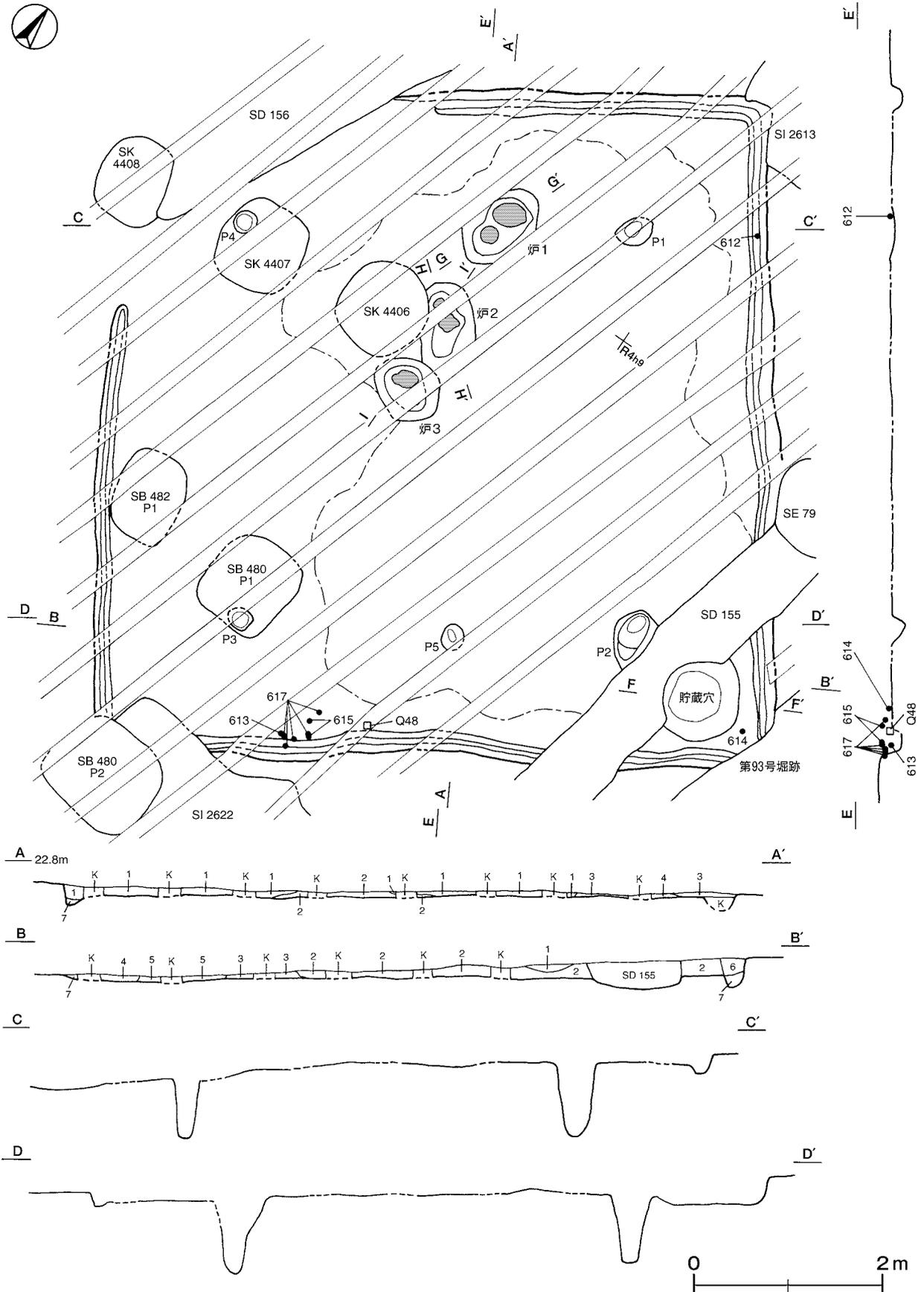
第2637号住居跡出土遺物観察表（第406図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
610	土師器	甕	21.8	(30.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	55%
611	土師器	小形甕	[14.6]	(9.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	40%

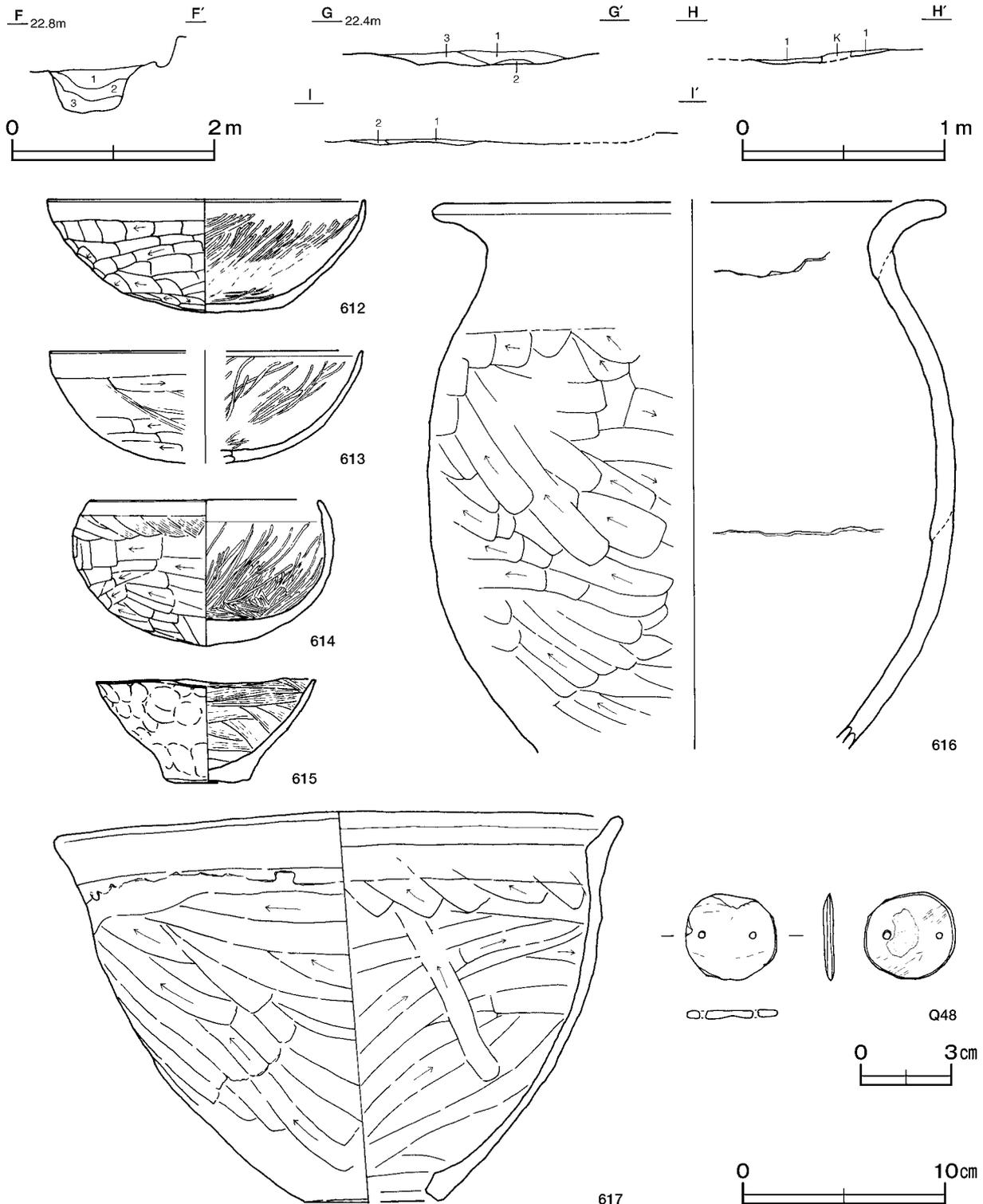
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP66	支脚	15.8	3.8	6.0	525.2	土(長石・石英・赤色粒子)	完形 ナデ 指頭痕 火を受けている にぶい橙色	床面	PL138

第2638号住居跡 (第407・408図)

位置 調査区中央部のR 4 h8 区, 標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。



第407図 第2638号住居跡実測図



第408図 第2638号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第2613・2622号住居，第480・482号掘立柱建物，第93号堀，第155・156号溝，第79号井戸，第4406・4407・4408号土坑に掘り込まれている。また，耕作による攪乱と削平のため，西側は床面が露出した状態で検出されている。

規模と形状 長軸7.18m，短軸7.10mの方形で，主軸方向はN - 33° - Wである。壁高は東壁の最も残りの良い部分が20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 西側は削平により床および壁溝の一部が失われている。確認できた部分はほぼ平坦であり、壁際まで踏み固められている。壁下には、幅18～20cm、深さ8～13cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

炉 3か所。炉1は北側の中央部、炉2は中央部の北寄り、炉3は中央部にそれぞれ位置している。規模は、炉1は長径97cm、短径50cm、深さ6cm、炉2は長径96cm、短径59cm、深さ2cm、炉3は長径77cm、短径62cm、深さ3cmである。いずれも床面を楕円形に掘りくぼめた地床炉であり、炉床面は火を受けて赤変硬化している。炉1は炉床面が2か所認められ、作り替えの可能性が考えられる。

炉1土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量,炭化粒子少量,ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量,ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量,ロームブロック・炭化物微量

炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量,炭化粒子少量,ローム粒子微量

炉3土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは72～78cmである。P5は深さ17cmで、南側中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部の南壁寄りに位置している。径100cmほどの円形で、深さは47cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は全体的にロームブロックを含む人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

覆土 7層に分けられる。各層は複雑に様相が異なる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片311点(坏61,鉢24,甕184,甌42),石製品1点(双孔円板),鉄製品1点(刀子)が出土しているほか、攪乱により須恵器片16点が混入している。612は北東部,614は南東コーナー部,613・615・617は南壁際の床面からそれぞれ出土している。いずれも完形あるいは完形に近い状態であり、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 出土遺物は、壁際に集中していることから、支柱穴の内側が居住空間、外側の壁際が収納空間として機能していたことがうかがえる。時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。

第2638号住居跡出土遺物観察表(第408図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
612	土師器	坏	15.6	5.7	-	長石	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	85% PL117
613	土師器	坏	[15.4]	5.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	床面	40%
614	土師器	坏	11.2	7.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラ磨き	床面	85% PL117
615	土師器	小形鉢	10.7	5.2	4.3	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 指頭痕 内面ヘラナデ	床面	95% PL117
616	土師器	甕	[24.6]	(27.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面輪積み痕	貯蔵穴覆土中	25%
617	土師器	甌	27.6	19.6	6.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ削り	床面	65% PL117

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q48	双孔円板	3.0	0.3	0.19 0.26	4.1	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL144

第2639号住居跡(第409図)

位置 調査区中央部のS4a7区、標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第480・482号掘立柱建物に掘り込まれている。また、耕作による削平のため南西側が失われており、

遺存している部分も床面がほとんど露出した状態で確認されている。

規模と形状 南西側が削平されているため、正確な規模や形状は不明であり、竈を含む北東コーナー部と東西4.20m、南北2.82mの硬化面の広がりを確認している。東壁の方向はN - 17° - Eである。壁高は最も残りが良い部分で7cmであり、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた部分はほぼ平坦で、壁際まで踏み固められている。

竈 北東コーナー部に付設されている。規模は、焚き口から煙道部まで99cm、袖部幅120cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめた部分を使用しており、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾し、奥壁は砂質粘土を含む第4層を貼り付けて補強している。覆土は第1・2層に分けられる。第1層は袖部あるいは天井部の崩落土層と考えられ、火床部と直に接していることから、廃絶後間もなく崩落している状況を示している。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|----------------------------|---|----|----------------------------|
| 1 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量,炭化粒子微量 | 5 | 褐色 | ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 褐色 | ローム粒子中量,炭化粒子微量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量,ローム粒子・炭化粒子微量 | | | |
| 4 | にぶい褐色 | 粘土粒子中量,ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | | | |

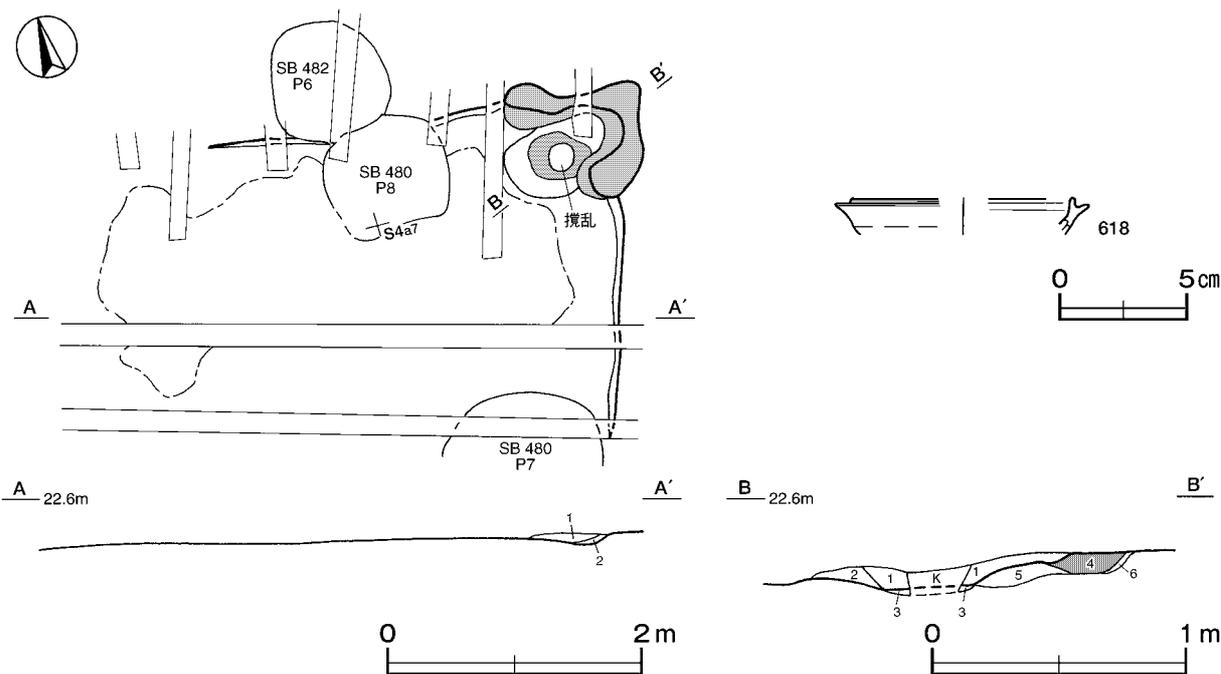
覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | |
|---|----|---------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片23点(坏8,甕類15),須恵器片2点(坏,甕)が出土している。618は覆土中から出土しているが、細片であり、廃絶後に周囲から流入したものと考えられる。

所見 出土遺物が少ないため時期の特定は困難である。618がTK217型式併行期と考えられることから、7世紀中葉以降に埋没したと考えられ、第480号掘立柱建物との重複関係から9世紀前葉より古く位置付けられる。



第409図 第2639号住居跡・出土遺物実測図

第2639号住居跡出土遺物観察表（第409図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
618	須恵器	坏	[10.1]	(1.5)	-	長石	黄灰	良好	口辺部内・外面口クロナデ	覆土中	5%

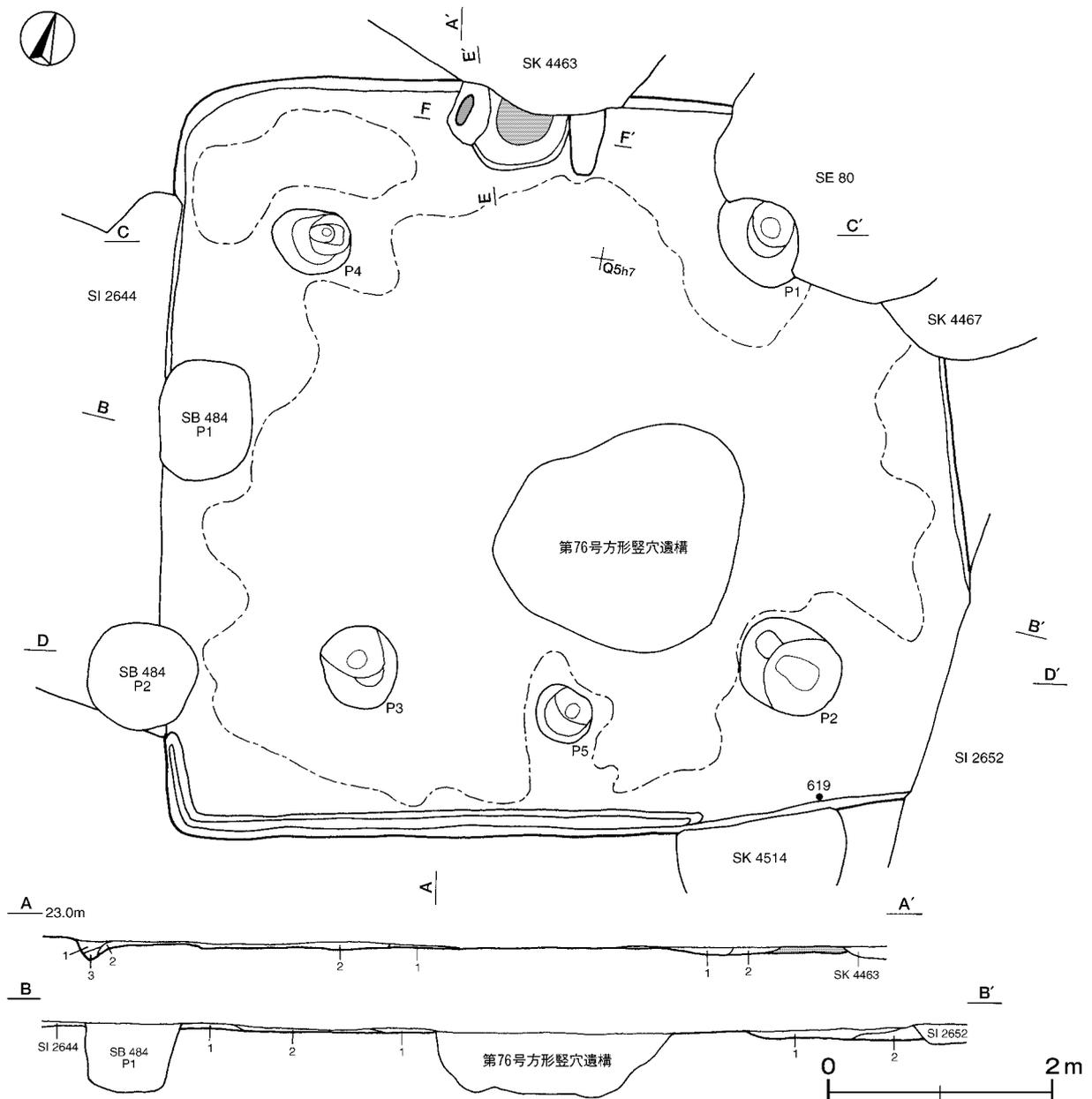
第2640号住居跡（第410・411図）

位置 調査区北部のQ 5 h7 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

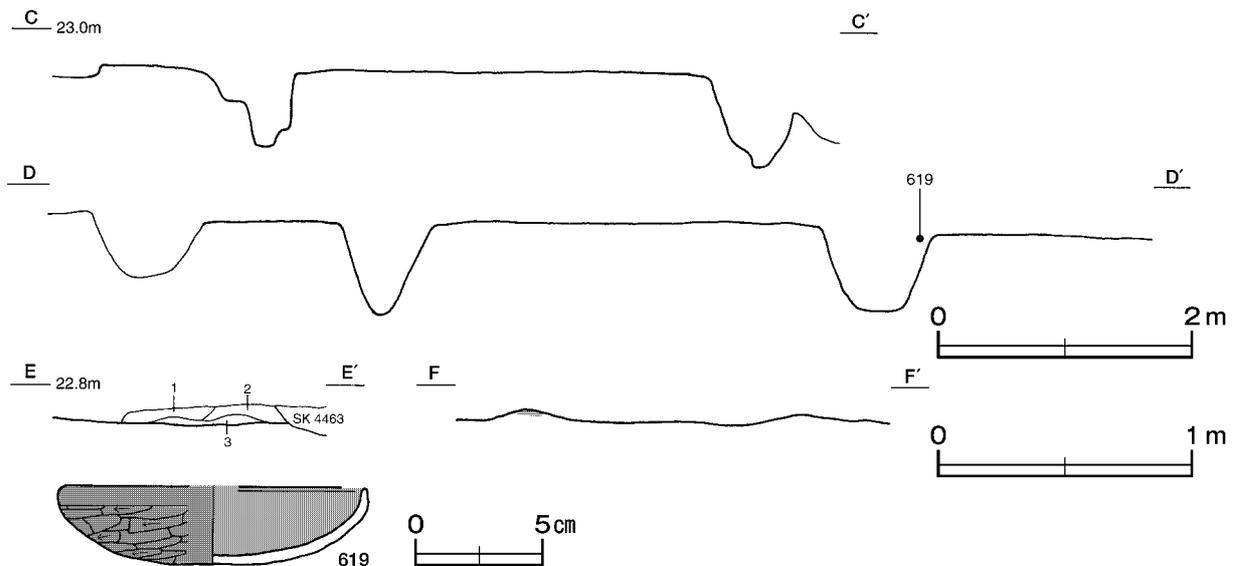
重複関係 第2644・2652号住居，第484号掘立柱建物，第76号方形竪穴遺構，第80号井戸，第4463・4467・4514号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.10m，短軸6.82mの方形で，主軸方向はN - 12° - Wである。壁高は7～10cmで，ほぼ直立している

床 ほぼ平坦で南東コーナー部を除いた壁際まで踏み固められている。南壁下には，幅18～21cm，深さ9～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第410図 第2640号住居跡実測図



第411図 第2640号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。中央部から煙道部を第4463号土坑に掘り込まれているため、焚口部から煙道部までの規模は不明である。袖部幅は137cmである。火床部は床面を4cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 焼土粒子微量
- 3 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは64～75cmである。P5は深さ57cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分けられる。各層に炭化粒子やローム粒子を含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片228点(坏45, 鉢1, 甕類182), 須恵器片24点(坏18, 蓋1, 甕類5)のほか, 不明鉄製品1点が南部の覆土下層を中心に出土しているが, いずれも細片である。619は南東部壁際の床面から出土し, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また, 細片のため図示できないが南西部の覆土下層から口縁部のつまみ上げが認められる土師器甕も出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第2640号住居跡出土遺物観察表(第411図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
619	土師器	坏	[12.0]	3.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	30%

第2643号住居跡(第412図)

位置 調査区中央部のR5 a3区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第93号堀, 第4488・4510号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側の大部分を第93号堀に掘り込まれているため, 規模は不明である。南北軸は3.15m, 東西軸は1.64mだけが確認された。主軸方向はN-5°-Wで, 方形または長方形と推定される。壁高は12～16cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 確認された範囲では、ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

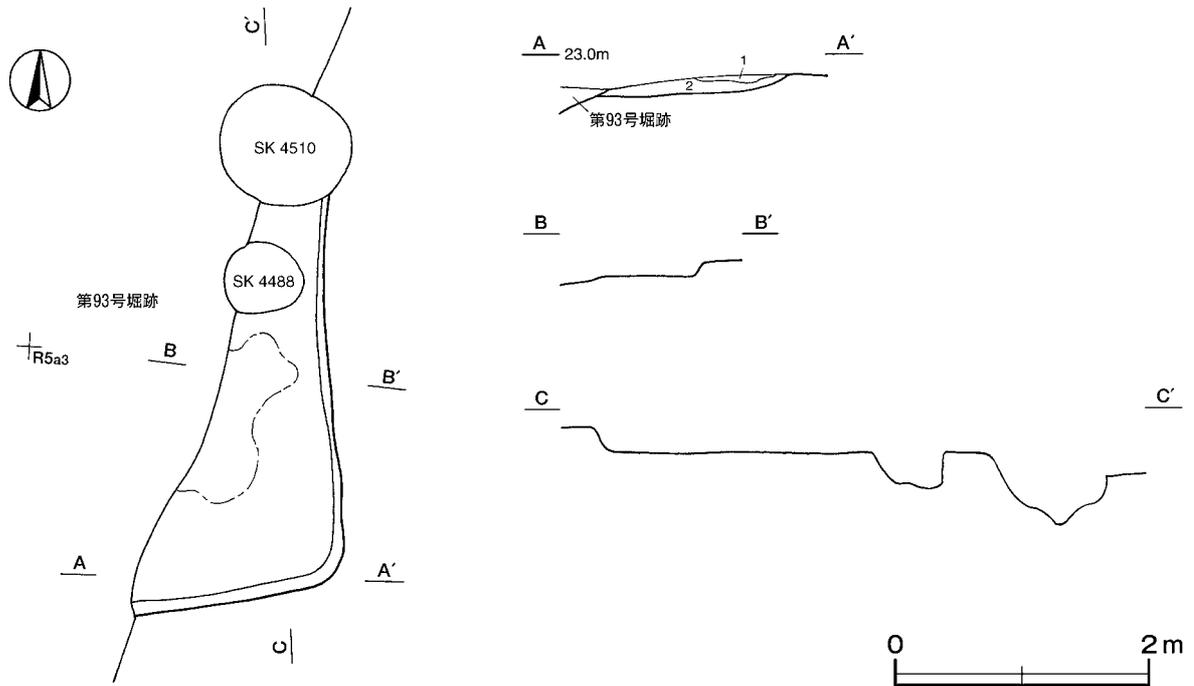
覆土 2層に分けられる。各層に炭化物やローム粒子を含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片18点（坏2，甕類16）が出土しているが、いずれも細片である。

所見 出土土器が細片であるため土器による時期判断は困難だが、須恵器が出土していないことや、土師器坏の形態から、時期は6～7世紀代と考えられる。



第412図 第2643号住居跡実測図

第2649号住居跡（第413・414図）

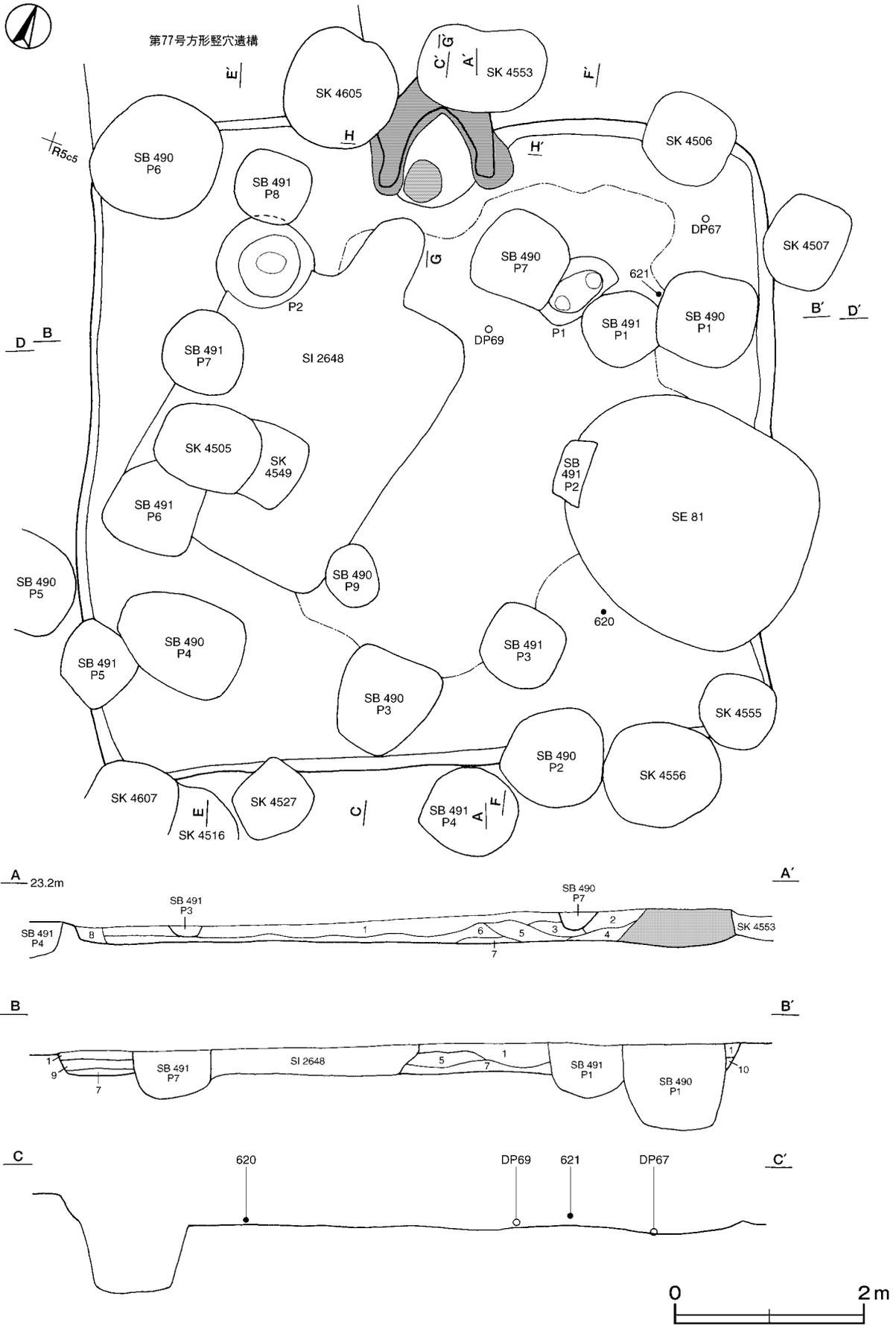
位置 調査区中央部のR 5 c 6 区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2648号住居、第490・491号掘立柱建物、第77号方形竪穴遺構、第81号井戸、第4505・4506・4507・4515・4516・4527・4549・4553・4555・4556・4605・4607号土坑に掘り込まれている。

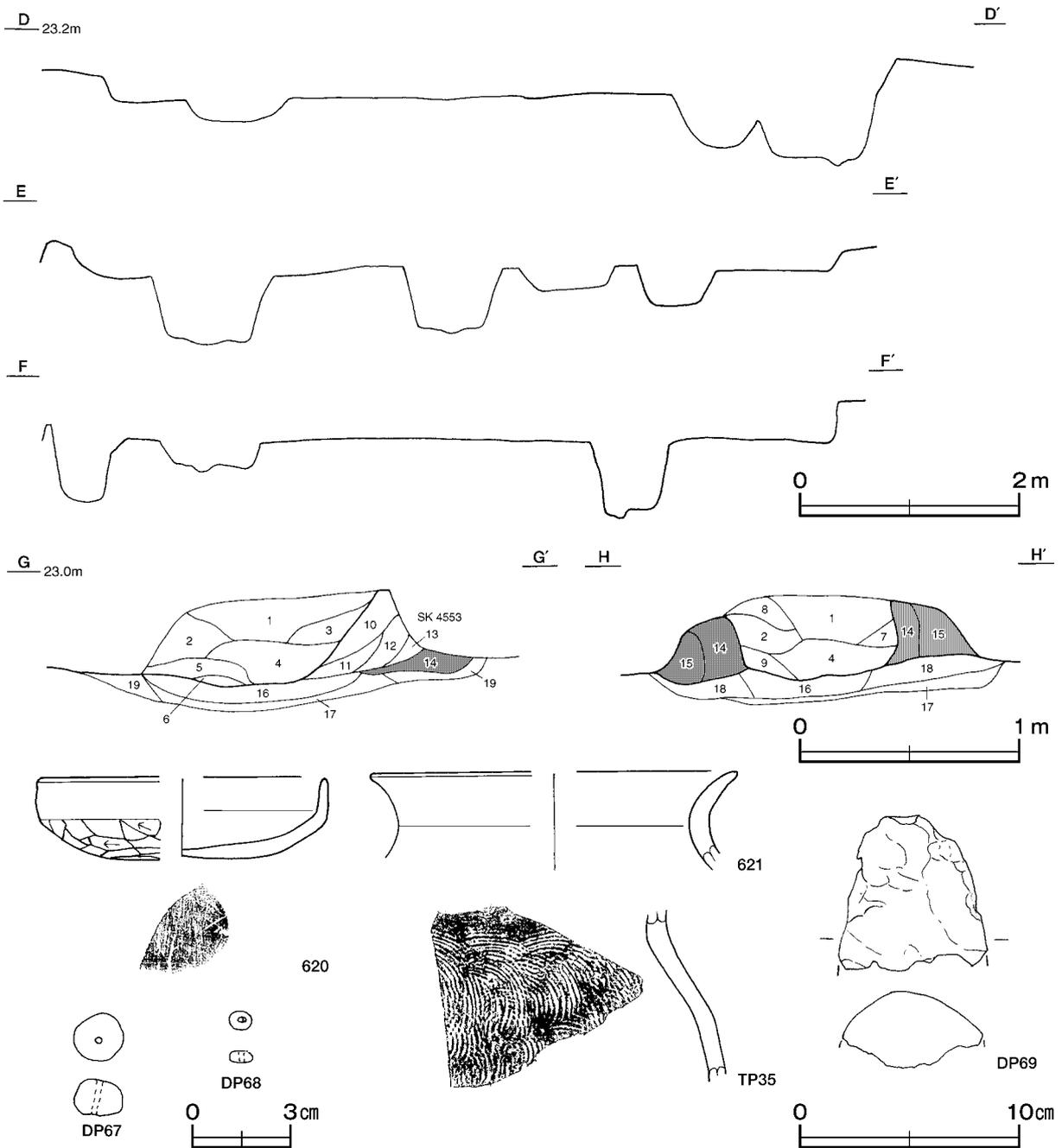
規模と形状 長軸7.20m、短軸6.97mの方形で、主軸方向はN - 18° - Wである。壁高は17～36cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部を第4553号土坑、左袖部外側を第4605号土坑に掘り込まれており、遺存する規模は焚口部から煙道部までは108cm、袖部幅は150cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第16～19層を充填し、その上部にローム・小石混じりの砂質粘土を主体とする第14・15層を積み上げて構築している。火床部は床面を9cm掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に17cm掘り込まれ、火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～13層に分けられ、第1・2・7・8層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は、ロームや焼土のブロックを含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。



第413图 第2649号住居跡実測图



第414図 第2649号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 明褐色 砂質粘土粒子多量，小石・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 焼土ブロック・灰少量，ロームブロック微量 | 15 にぶい褐色 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 17 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 18 にぶい橙色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| | 19 暗褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 2か所。P1・P2は主柱穴で、深さはそれぞれ75cm・93cmである。

覆土 10層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量 焼土ブロック・炭化粒子微量	5 黒褐色	粘土粒子少量 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
		9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
		10 暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片501点(坏87, 盤1, 高坏2, 甕類411), 須恵器片55点(坏26, 高台付坏4, 蓋6, 高盤1, 甕類18), 土製品10点(土玉1, 小玉1, 支脚8)が散在した状態で出土しており、ほとんどが細片である。また、混入した土師質土器片14点, 灰釉陶器片2点も出土している。620は南東部の床面, 621は北東部の覆土下層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP67は北東部の床面, DP68は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。DP69は中央部北寄りの覆土下層から出土し、いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また TP35は北東部の覆土上層から破片で出土し、廃絶後に混入したのと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第2649号住居跡出土遺物観察表(第414図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
620	土師器	坏	[13.0]	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	45%
621	土師器	甕	[16.6]	(4.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	10%
TP35	須恵器	甕	-	(7.9)	-	長石・石英・黒色粒子	暗灰	良好	体部外面同心円状の叩き	上層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP67	土玉	1.5	1.1	0.15	2.5	土(長石・石英・赤色粒子)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL140
DP68	小玉	0.7	0.4	0.15	0.2	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL140

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP69	支脚	(7.2)	-	(6.7)	(142.5)	土(長石・石英・小礫)	ナデ	下層	

第2650号住居跡(第415図)

位置 調査区北部のQ5g5区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第93号堀, 第4477・4478・4483・4484号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を第93号堀に掘り込まれているため, 東西軸6.22m, 南北軸は4.56mだけが確認された。主軸方向はN-27°-Wで, 方形または長方形と推定される。壁高は4~5cmで, 外傾して立ち上がっている。
床 ほぼ平坦で, 確認された範囲では, 東壁を除く壁際まで踏み固められている。また, 壁下には, 幅11~24cm, 深さ4~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 4か所。P1~P3は主柱穴で, 深さは44~65cmである。P4は深さ40cmで, 南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

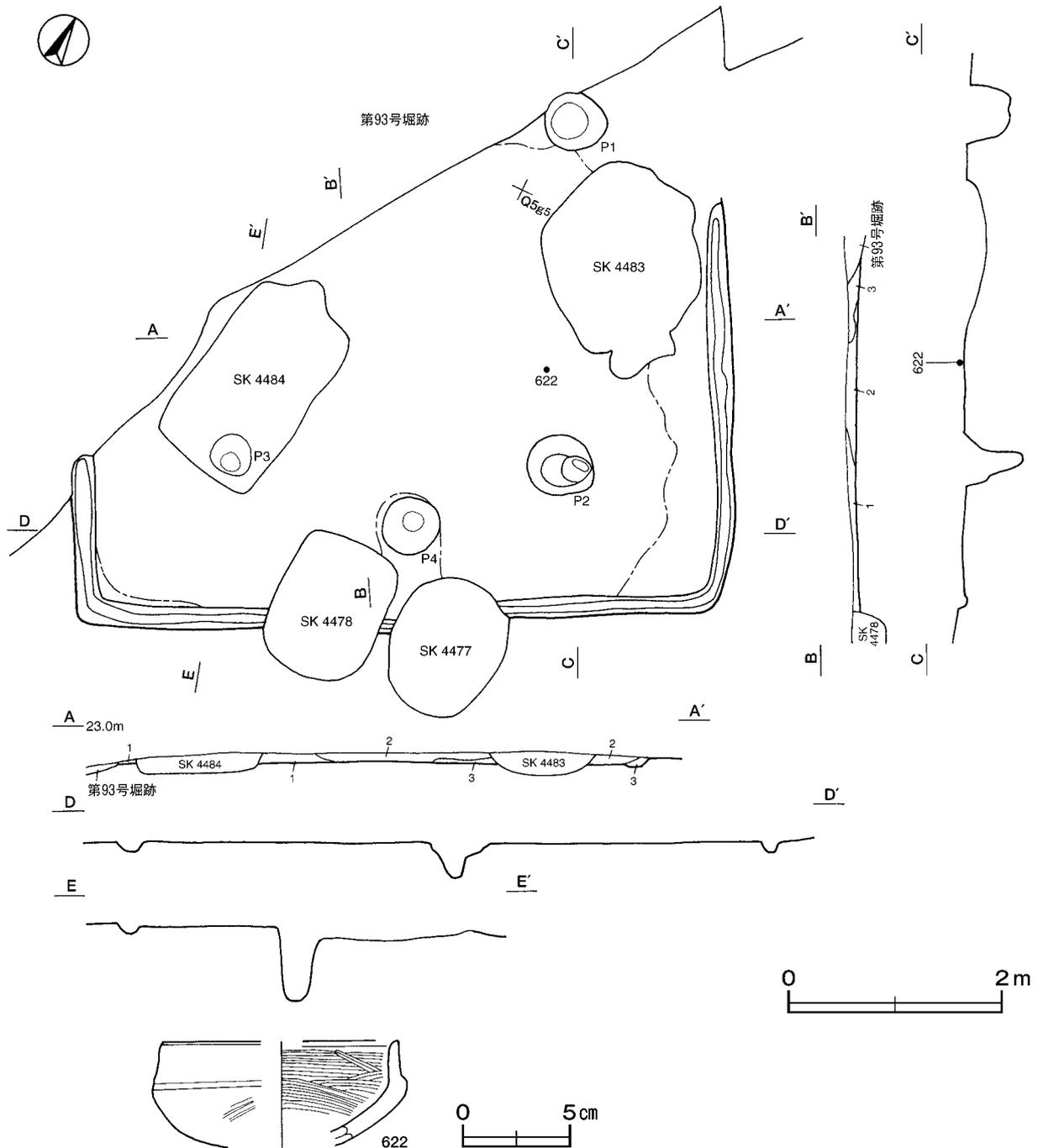
覆土 3層に分けられる。各層にローム粒子や炭化粒子を含み, 不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片81点（坏23，蓋35，甕類22，甌1），須恵器片14点（坏7，蓋1，甕類6），鉄製品1点（刀子）が散在した状態で出土しているが，遺物量は少なく，いずれも細片である。また，混入した灰釉陶器片1点も出土している。622は中央部東寄りの覆土下層から出土し，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器や住居の主軸方向から7世紀前葉と考えられる。



第415図 第2650号住居跡・出土遺物実測図

第2650号住居跡出土遺物観察表（第415図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
622	土師器	坏	[11.0]	(5.0)	-	長石・黒色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	下層	80% 外面摩滅 PL115

第2657号住居跡（第416・417図）

位置 調査区北部のQ5i4区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第484号掘立柱建物，第93号堀，第4520・4567号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.28m，短軸7.06mの方形で，主軸方向はN-23°-Wである。壁高は20～28cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。壁下には幅10～15cm，深さ4～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで128cm，袖部幅111cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第11・12層を充填し，その上部に小石混じりの砂質粘土を主体とする第9・10層を積み上げて構築し，内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。また，6cmの厚さで灰が堆積している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第9・10層を貼り付けて補強している。覆土は第1～8層にわけられ，第1・3～5層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 赤褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	8 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子微量
2 灰褐色	焼土粒子中量，炭化粒子微量	9 赤褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，小石少量，炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子・灰中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	10 にぶい橙色	砂質粘土粒子多量，小石・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量	11 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
6 灰赤色	灰多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量		
7 にぶい褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量		

ピット 16か所。P1～P4は主柱穴で，深さは37～63cmである。P5は深さ40cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P16の性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸75cm，短軸52cmの長方形で，深さは66cmである。底面は皿状で，壁は，ほぼ直立している。各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	3 暗灰黄色	ロームブロック中量
2 暗オリーブ褐色	ロームブロック少量	4 オリーブ褐色	ロームブロック中量

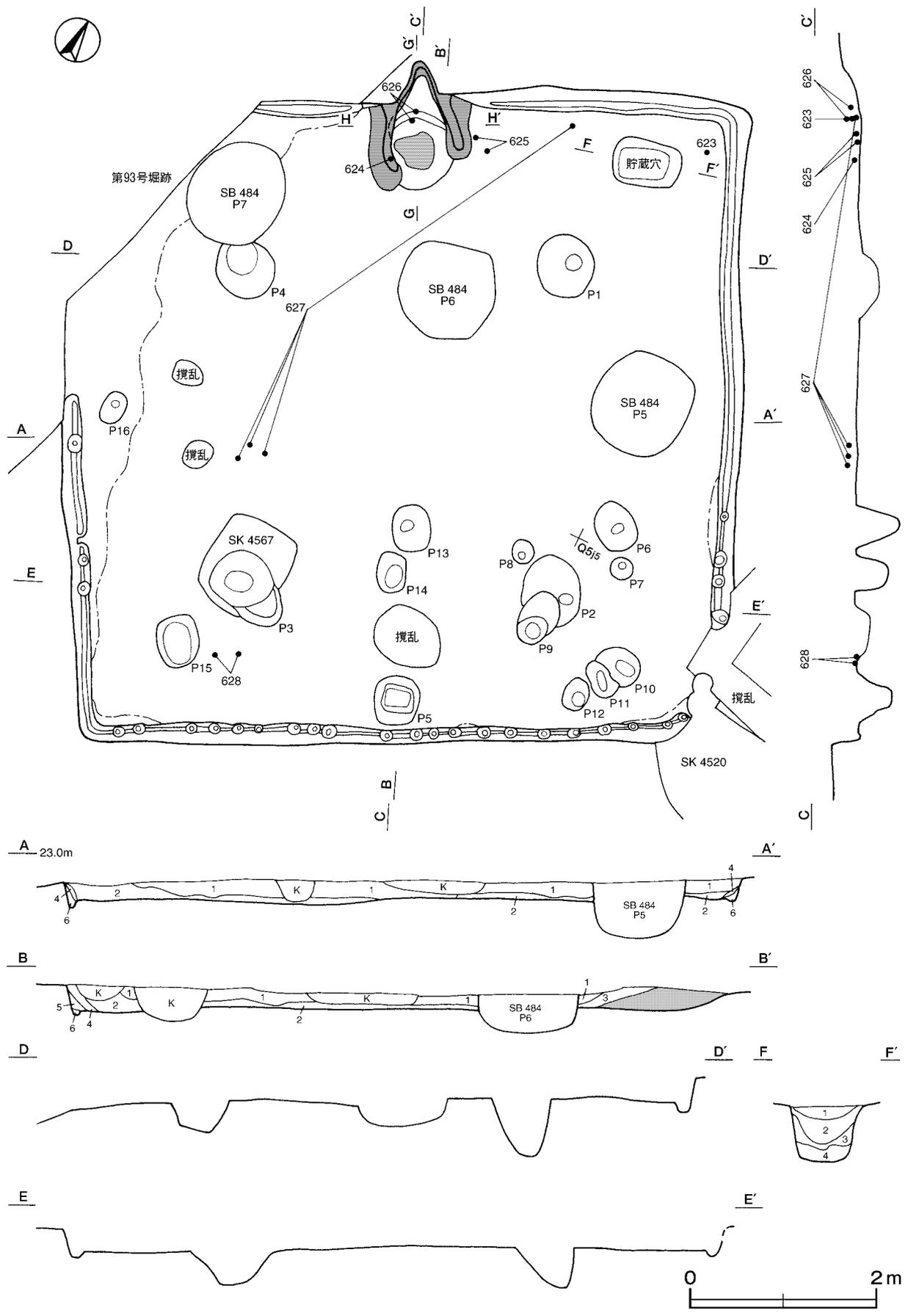
覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

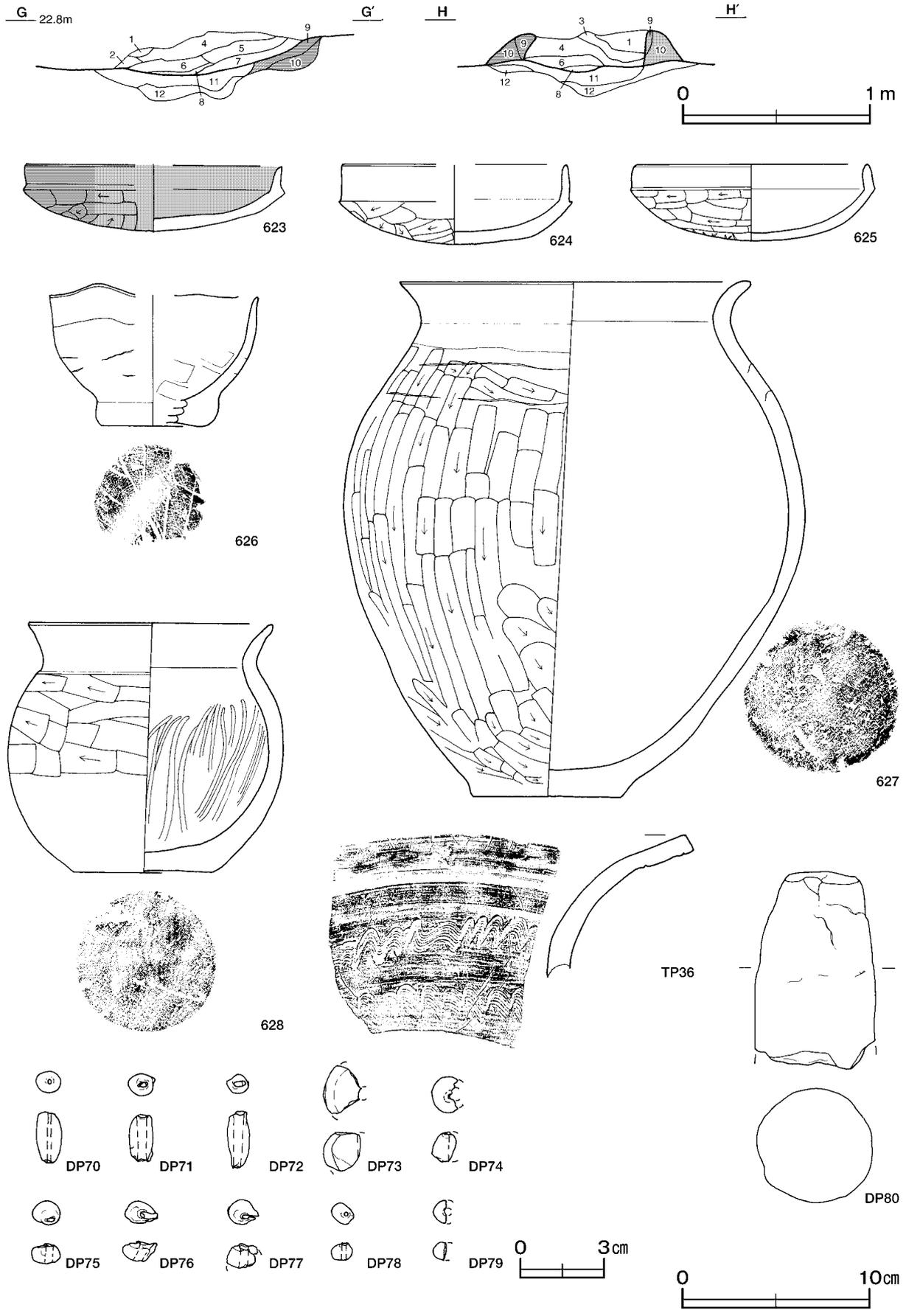
1 褐灰色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	黒褐色シルトブロック多量，ロームブロック微量
2 にぶい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	5 褐灰色	黒褐色シルトブロック中量，ロームブロック微量
3 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量	6 褐灰色	黒褐色シルトブロック少量，ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片732点（坏116，鉢22，甕類593，甑1），須恵器片7点（坏），土製品23点（土玉2，小玉5，管玉3，羽口1，支脚12），石器1点（砥石）が中央部を除いた周辺の覆土中層から下層に集中して出土している。また，混入した土師質土器片4点，灰釉陶器片2点も出土している。623は北東コーナー部壁際の覆土下層，625は竈東側の覆土下層，627は中央部西寄りとは北東部壁際の覆土下層，628は南西部の覆土下層，TP36は南東部の覆土中層からそれぞれ出土した破片が接合したものであり，いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。624・626は竈内の覆土中層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP70は覆土中，DP71～DP80は竈の灰層の中からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられ，祭祀行為が想定される。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第416图 第2657号住居跡実測图



第417图 第2657号住居跡・出土遺物実測図

第2657号住居跡出土遺物観察表（第417図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
623	土師器	坏	[13.6]	3.6	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	60%
624	土師器	坏	[12.0]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈中層	60%
625	土師器	坏	12.4	4.1	-	長石・赤色粒子・小礫	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナデ	下層	60%
626	土師器	鉢	[11.0]	7.6	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面輪積み痕残しのナデ 内面ヘラナデ	竈中層	60% PL117
627	土師器	甕	18.5	28.0	7.7	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積み痕 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	下層	90% PL117
628	土師器	小形甕	12.8	13.5	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ削り後ヘラ磨き	下層	90% 外面摩滅 PL117
TP36	須恵器	甕	-	(7.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	良好	口辺部内・外面ヘラナデ 外面波状文	中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP70	管玉	0.9	1.8	0.15	1.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL140
DP71	管玉	0.9	1.7	0.35	1.2	土(長石)	ナデ 巻き付けによる穿孔	竈覆土中	PL140
DP72	管玉	0.8	2.0	0.4	0.8	土(長石)	ナデ 巻き付けによる穿孔	竈覆土中	PL140
DP73	土玉	(1.7)	(1.4)	[0.5]	(2.3)	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL140
DP74	土玉	1.8	1.1	[0.5]	(0.9)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL140
DP75	小玉	1.0	0.7	0.3	0.5	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL140
DP76	小玉	1.2	0.7	0.5	0.5	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL140
DP77	小玉	(1.1)	(0.7)	0.3	0.6	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL140
DP78	小玉	0.8	0.6	0.2	0.3	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL140
DP79	小玉	0.8	0.6	[0.2]	(0.2)	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	竈覆土中	PL140

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP80	支脚	(10.6)	3.7	(6.5)	(384.1)	土(長石・赤色粒子・小礫)	ナデ 指頭痕 火を受けている にぶい橙色	竈覆土中	

第2660号住居跡（第418・419図）

位置 調査区東部のR 6 a1区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2661号住居跡を掘り込み、第2676・2677号住居、第153号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.24m、短軸4.24mの長方形で、主軸方向はN - 27° - Wである。壁高は24~32cmで、ほぼ直立している。

床 中央部から南西部にかけての大部分を第2676号住居に掘り込まれているため、全容は明らかではないが、確認できた範囲ではほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅13~16cm、深さ4~5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈1は北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで82cm、袖部幅114cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さにローム混じりの砂質粘土を主体とする第8・9層を積み上げて構築している。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第8層を貼り付けて補強している。覆土は第1~5層に分けられ、第1~4層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は、焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。竈2は北壁の東寄りに付設されており、規模は、焚口部から煙道部まで97cmで、袖部は遺存しない。火床部は床面を4cm掘りくぼめており、火床面は火を受けてわずかに赤変している。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ、火床部から急に傾斜して立ち上がっている。竈1を構築する際埋め戻され、壁溝が掘り巡らされていることから、竈2から竈1に作り替

えられたと考えられる。

電1土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 8 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

電2土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| | | 3 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 砂質粘土粒子少量 |

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは30～65cmである。P5は深さ65cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ35cm, P7は深さ73cmで、それぞれ主柱穴の間に位置していることから、いずれも補助的な柱穴と考えられる。

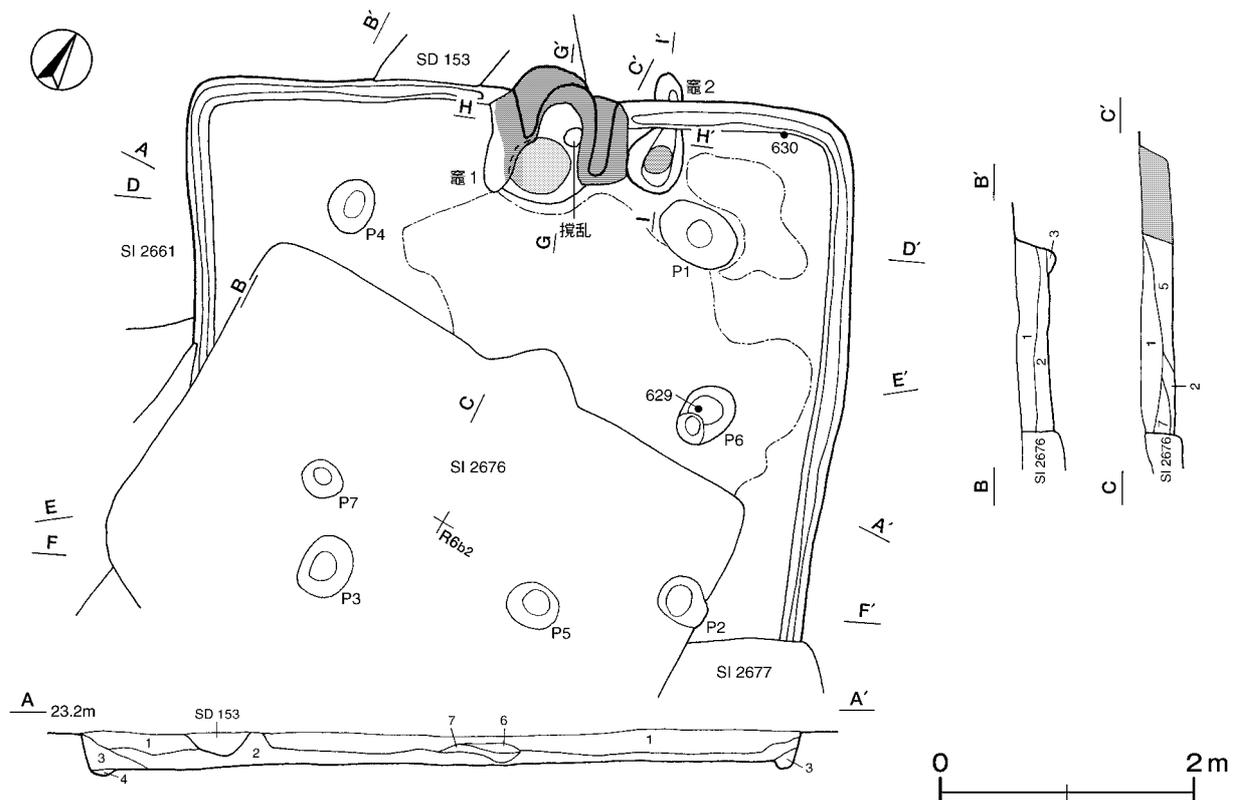
覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

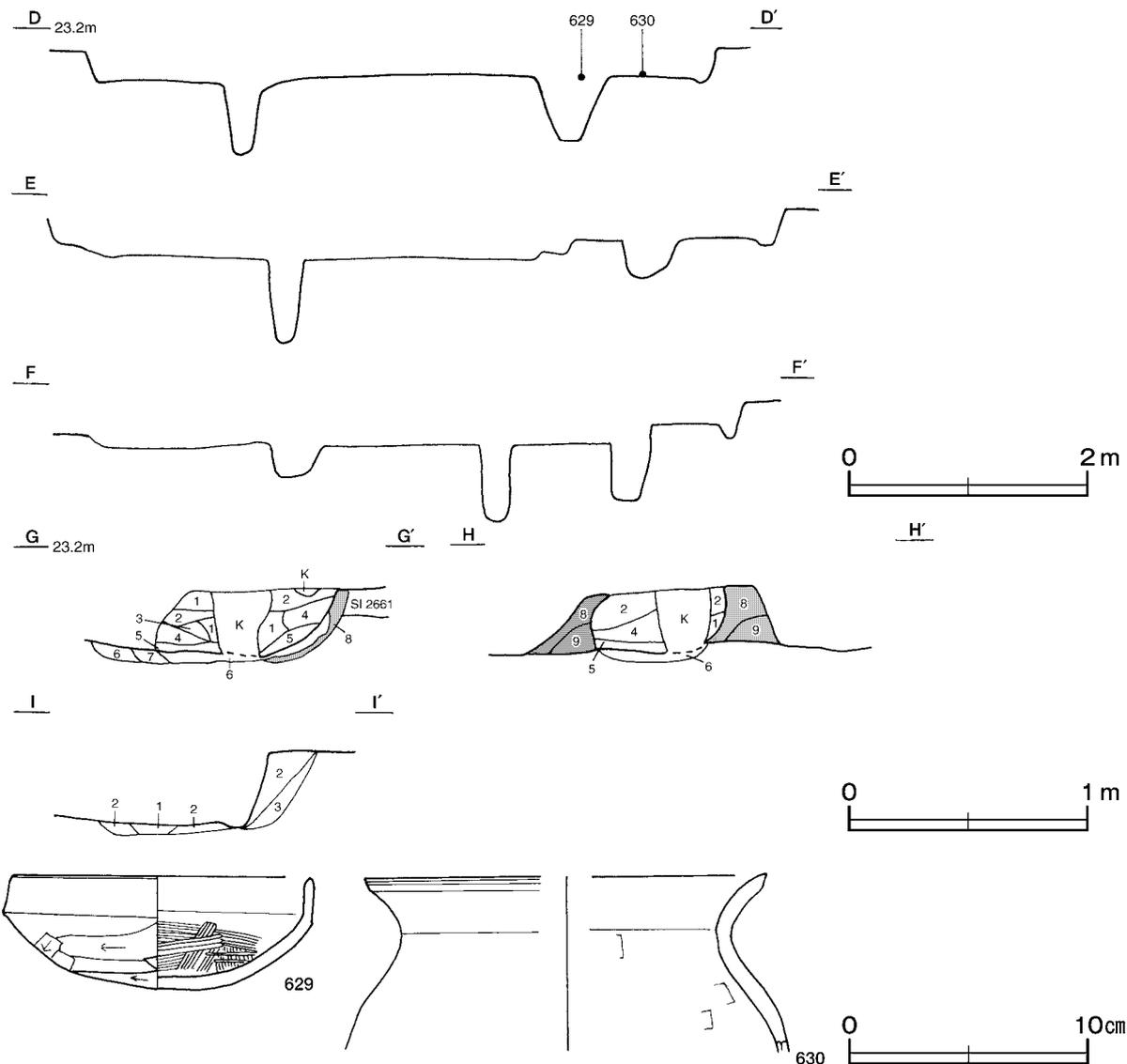
- | | | | |
|-------|-------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |
| 5 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片307点(坏62, 甕類245), 須恵器片3点(坏1, 蓋2), 土製品1点(支脚)のほか, 粘土塊1点, 不明鉄製品1点が散在した状態で出土しており, ほとんどが細片である。また, 混入した平安時代の土師器片10点, 灰釉陶器片2点も出土している。629は中央部の東寄り, 630は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも覆土中の細片と接合していることから廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第418図 第2660号住居跡実測図



第419図 第2660号住居跡・出土遺物実測図

第2660号住居跡出土遺物観察表（第419図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
629	土師器	坏	12.5	4.8	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	80% PL118
630	土師器	甕	[16.8]	(7.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	下層	15%

第2661号住居跡（第420・421図）

位置 調査区東部のR 6 a1区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2660・2676号住居，第153号溝，第82号井戸，第4501・4503・4672号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.24m，短軸5.06mの方形で，主軸方向はN - 42° - Wである。壁高は24～42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅14～16cm，深さ2～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から右袖部を第82号井戸に掘り込まれているため，遺存する規模は，

焚口部から煙道部まで37cm，袖部幅63cmである。袖部は砂質粘土で構築している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 灰褐色 焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
- 2 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1～P3は主柱穴で，深さは47～59cmである。P4は深さ39cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ15cmで，性格は不明である。

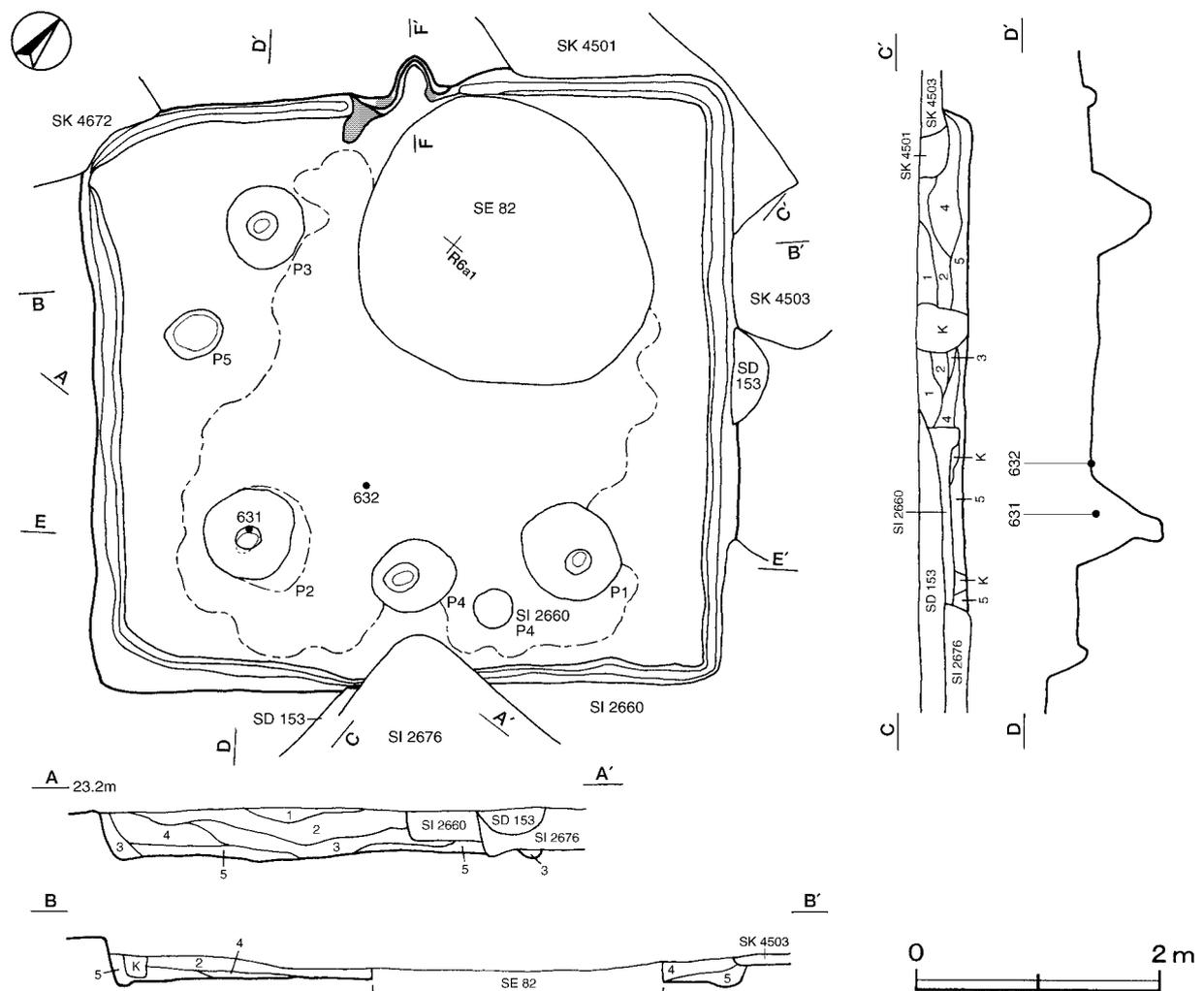
覆土 5層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

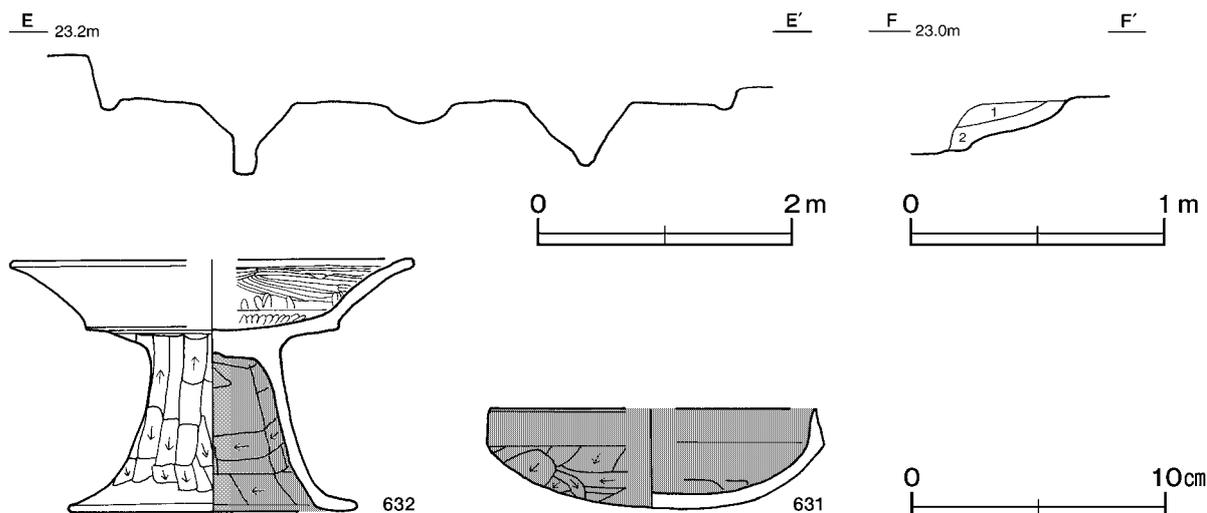
- 1 褐色 ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片105点（坏32，埴1，高坏6，甕類66），土製品1点（支脚）のほか，粘土塊1点が北部から中央部の覆土中層を中心に出土している。また，混入した平安時代の土師器片3点，須恵器片6点，土師質土器片1点も出土している。631はP2の覆土上層，632は中央部の床面からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第420図 第2661号住居跡実測図



第421図 第2661号住居跡・出土遺物実測図

第2661号住居跡出土遺物観察表（第421図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
631	土師器	坏	[12.7]	4.1	-	長石・雲母	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	P 2 上層	55%
632	土師器	高坏	[15.6]	10.0	11.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面ナデ 内面ヘラ磨き 脚部内・外面ヘラ削り 裾部内・外面ナデ	床面	75% PL118

第2662号住居跡（第422・423図）

位置 調査区北東部のQ 6 h2 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2665号住居，第4688・4689号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.72m，短軸5.32mの方形で，主軸方向はN - 17° - Wである。壁高は5～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 中央部から南東部を第2665号住居に掘り込まれている。確認できた範囲ではほぼ平坦で，北西部が踏み固められている。壁下には，幅24～26cm，深さ2～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで121cm，袖部幅127cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を積み上げて構築し，内側は火を受けてわずかに赤変している。火床部は床面を9cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に19cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜し，奥壁でほぼ直立している。覆土は第1～8層に分けられ，第2層は天井部の崩落土層に相当する。各層ともロームや焼土のブロック，炭化物を含む人為堆積であり，住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰褐色 焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量 | 5 褐灰色 炭化物中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量 | 6 黒褐色 焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック・灰少量，炭化物微量 | 8 灰黄褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量 |

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で，深さは46～79cmである。P5は深さ49cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ42cm，P7は深さ20cmで，いずれも性格は不明である。

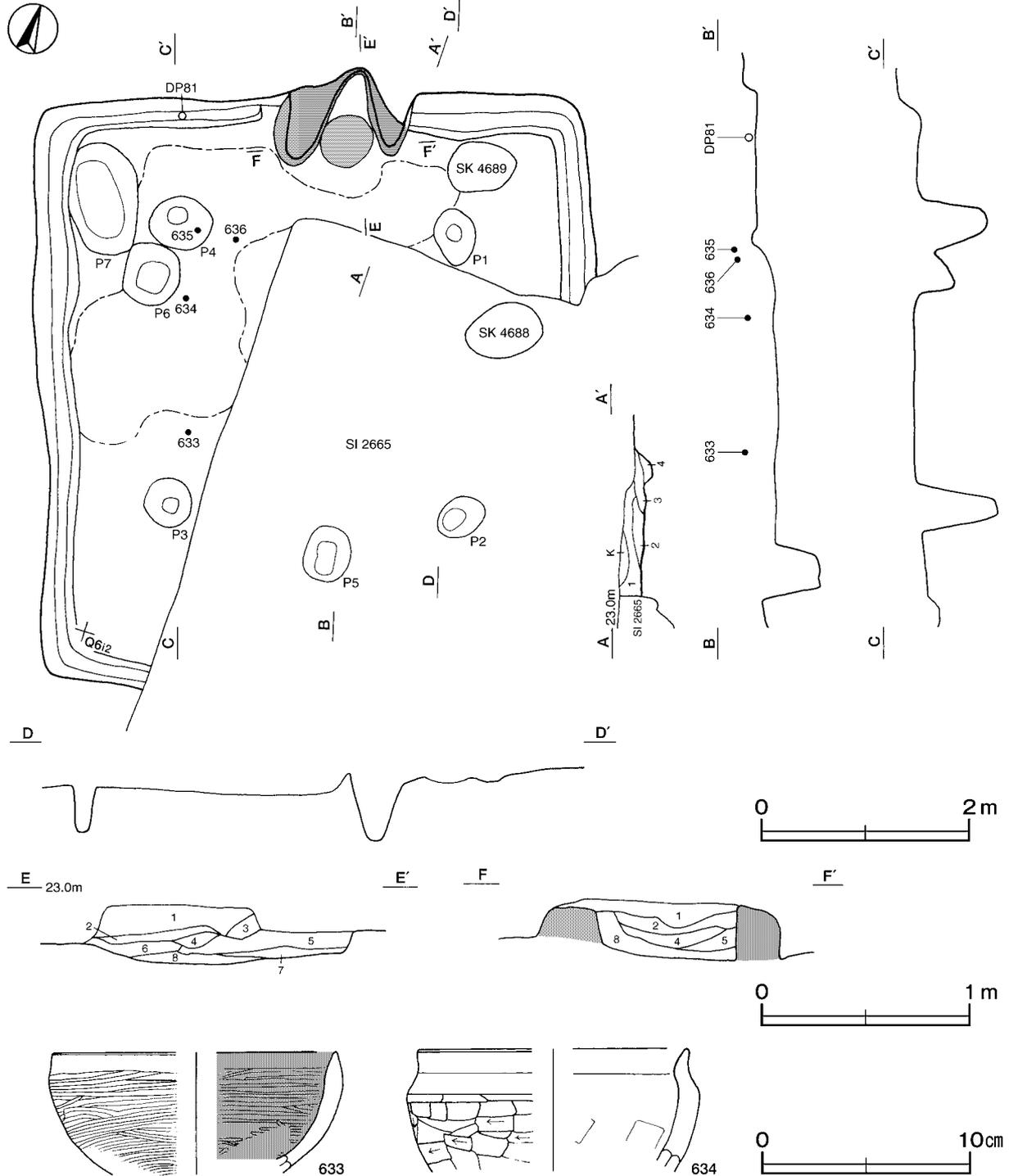
覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを多く含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

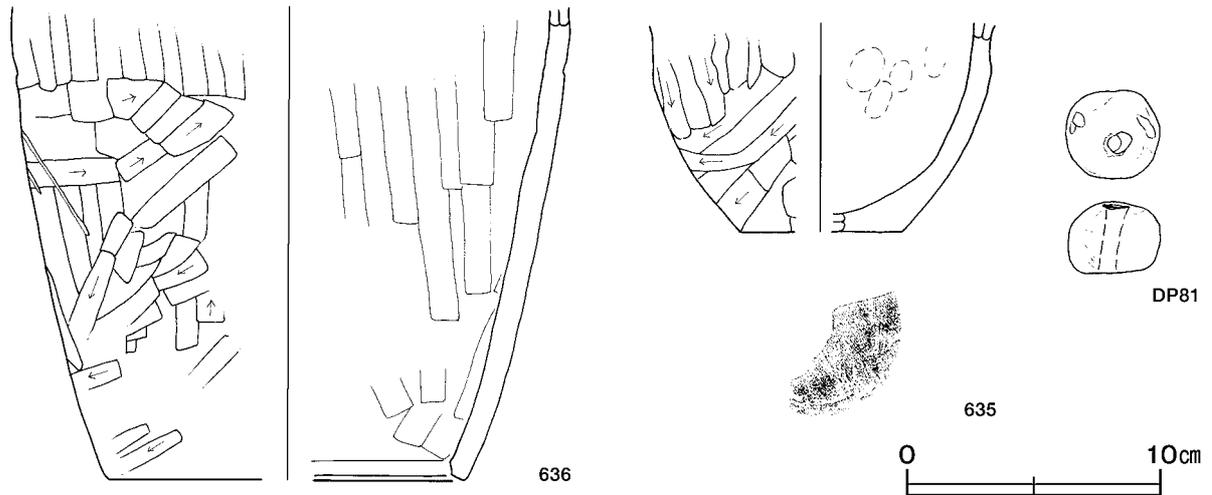
- | | | | |
|----------|------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 灰オリブ色 | ロームブロック中量 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗灰黄色 | ロームブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 オリーブ黒色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片443点(坏41, 椀1, 高坏2, 鉢3, 甕類395, 甑1), 須恵器片3点(坏, 甕, 瓶類), 土製品1点(球状土錘)のほか, 粘土塊1点が中央部の覆土中層から下層を中心に出土している。また混入した須恵器片1点も出土している。633は中央部西寄り, 634は北西部, DP81は北西部壁際の覆土下層, 635・636は北西部の覆土中層からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第422図 第2662号住居跡・出土遺物実測図



第423図 第2662号住居跡出土遺物実測図

第2662号住居跡出土遺物観察表（第422・423図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
633	土師器	椀	[13.6]	(5.9)	-	長石・赤色粒子	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	下層	30%
634	土師器	鉢	[13.0]	(6.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	20%
635	土師器	鉢	-	(8.4)	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭痕 底部多方向のヘラ削り	中層	20%
636	土師器	甌	-	(18.8)	[14.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ削り後ヘラナデ	中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP81	球状土錘	3.7	2.8	1.0	40.0	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL140

第2663号住居跡（第424図）

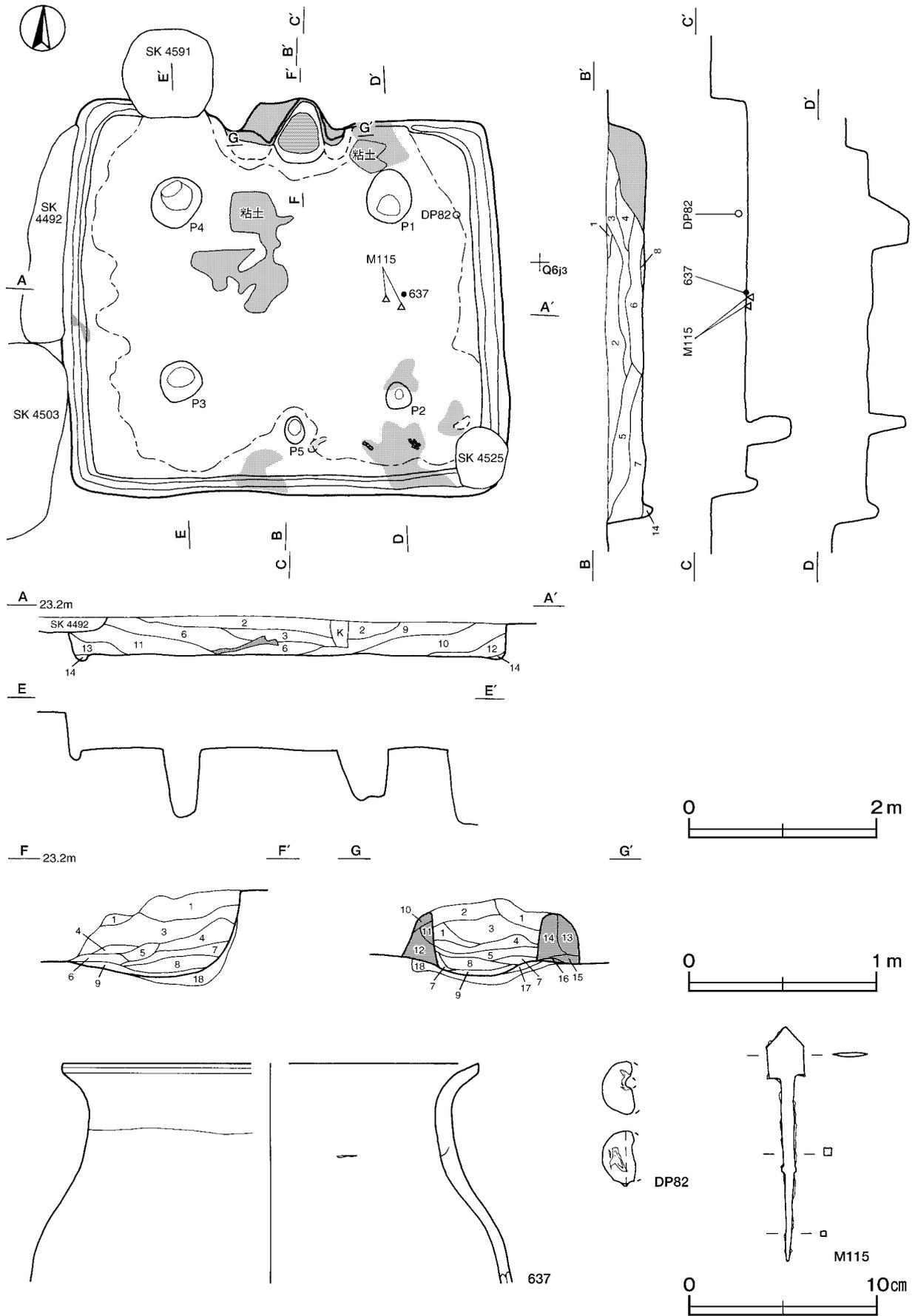
位置 調査区北東部のQ 6 j 2 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4492・4503・4525・4591号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.64m，短軸4.28mの方形で，主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は24～41cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。北壁の一部を除く壁下には，幅13～18cm，深さ10～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北東部および中央部北寄りに粘土塊が堆積している。また，南東部や東壁を除いた壁に沿って焼土や炭化材が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで67cm，袖部幅119cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第17・18層を充填し，その上部にローム混じりの砂質粘土を主体とする第10～16層を積み上げて構築している。内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を6cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，火床部から急に傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～9層に分けられ，第1～4層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は，ロームや焼土，砂質粘土の粒子を含む人為堆積であり，住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。



第424图 第2663号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

1	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量	9	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2	にぶい褐色	ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	明褐色	ローム粒子多量,炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	明褐色	ローム粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量	11	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量,炭化粒子微量	12	灰褐色	砂質粘土粒子多量,ローム粒子少量,炭化粒子微量
5	赤黒色	炭化粒子多量,焼土粒子中量,ローム粒子・砂質粘土粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
6	褐色	ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量	14	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量,ローム粒子・焼土粒子微量
7	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,炭化粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
8	にぶい黄褐色	灰多量,焼土ブロック・炭化物微量	16	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量,ロームブロック・炭化粒子微量
			17	暗褐色	ロームブロック少量,炭化粒子微量
			18	暗褐色	ロームブロック少量,焼土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは40～74cmである。P5は深さ49cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 14層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	灰黄褐色	ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック微量
2	褐色	ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量,炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック微量
5	黒褐色	ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量	13	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7	褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量,ロームブロック微量	14	暗褐色	ロームブロック少量,炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片475点(坏136,高坏4,甕類335),須恵器片10点(坏),土製品1点(球状土錘),石器1点(砥石),鉄製品1点(鏃)のほか,粘土塊3点,鉄滓1点が散在した状態で出土しており,ほとんどが細片である。また,混入した平安時代の土師器片11点,須恵器片6点,灰釉陶器片1点,陶磁器片3点も出土している。637は東部の床面から出土している。またM115は東部の床面から出土した破片2点が接合したものであり,いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP82は北東部の覆土下層から出土し,廃絶後に廃棄されたものと考えられる。北東部に堆積している粘土塊は竈の構築材と考えられる。中央部北寄りに堆積している粘土塊は,床面から浮いた状態で堆積していることから廃絶後に投棄されたものと考えられる。細片のため図示できないが,扁平化した土師器坏片数点も出土している。

所見 壁に沿って焼土や炭化材の広がりが確認されることから住居の廃絶後に焼失したと考えられる。時期は,出土土器から7世紀前半と考えられる。

第2663号住居跡出土遺物観察表(第424図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
637	土師器	甕	[22.2]	(11.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 輪積み痕	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP82	球状土錘	(2.8)	3.0	[0.5]	(11.7)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M115	鏃	12.6	2.0	0.5	17.7	鉄	完形 鏃身平面五角形 断面両丸 籠被部断面長方形 茎部断面方形	床面	PL145

第2666号住居跡(第425～427図)

位置 調査区東部のR6a3区,標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第152号溝,第15号道路,第4602・4603号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.46m,短軸7.20mの方形で,主軸方向はN-31°-Wである。壁高は26～38cmで,ほぼ直

立している。

床 ほぼ平坦で、壁際まで踏み固められている。南東部を第152号溝、第15号道路に掘り込まれているが、壁下には幅14～20cm、深さ7～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、幅19～29cm、深さ7～10cmの間仕切り溝が東および西壁側でそれぞれ3条確認され、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部を第4602号土坑に掘り込まれているが、遺存する規模は焚口部から煙道部までは182cm、袖部幅140cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第15～19層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第12～14層を積み上げて構築し、内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を8cm掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に54cm掘り込まれ、火床部から急に傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～11層に分けられ、第4～6層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は、焼土ブロックや粘土粒子を含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊された後埋め戻されたと想定される。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	10	明黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12	褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
4	にぶい黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	にぶい黄褐色	粘土粒子多量、炭化粒子微量	14	にぶい褐色	砂質粘土多量、小石少量
6	にぶい黄褐色	粘土粒子多量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	15	暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子微量
7	褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
8	暗赤褐色	焼土粒子多量、灰少量、ローム粒子・炭化粒子微量	17	赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	18	暗赤褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
			19	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 10か所。P1～P6は支柱穴で、深さは34～76cmである。P7は深さ23cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。また、P8は深さ30cm、P9は深さ47cm、P10は深さ63cmで、それぞれ支柱穴の中間に位置していることから支柱穴と考えられる。

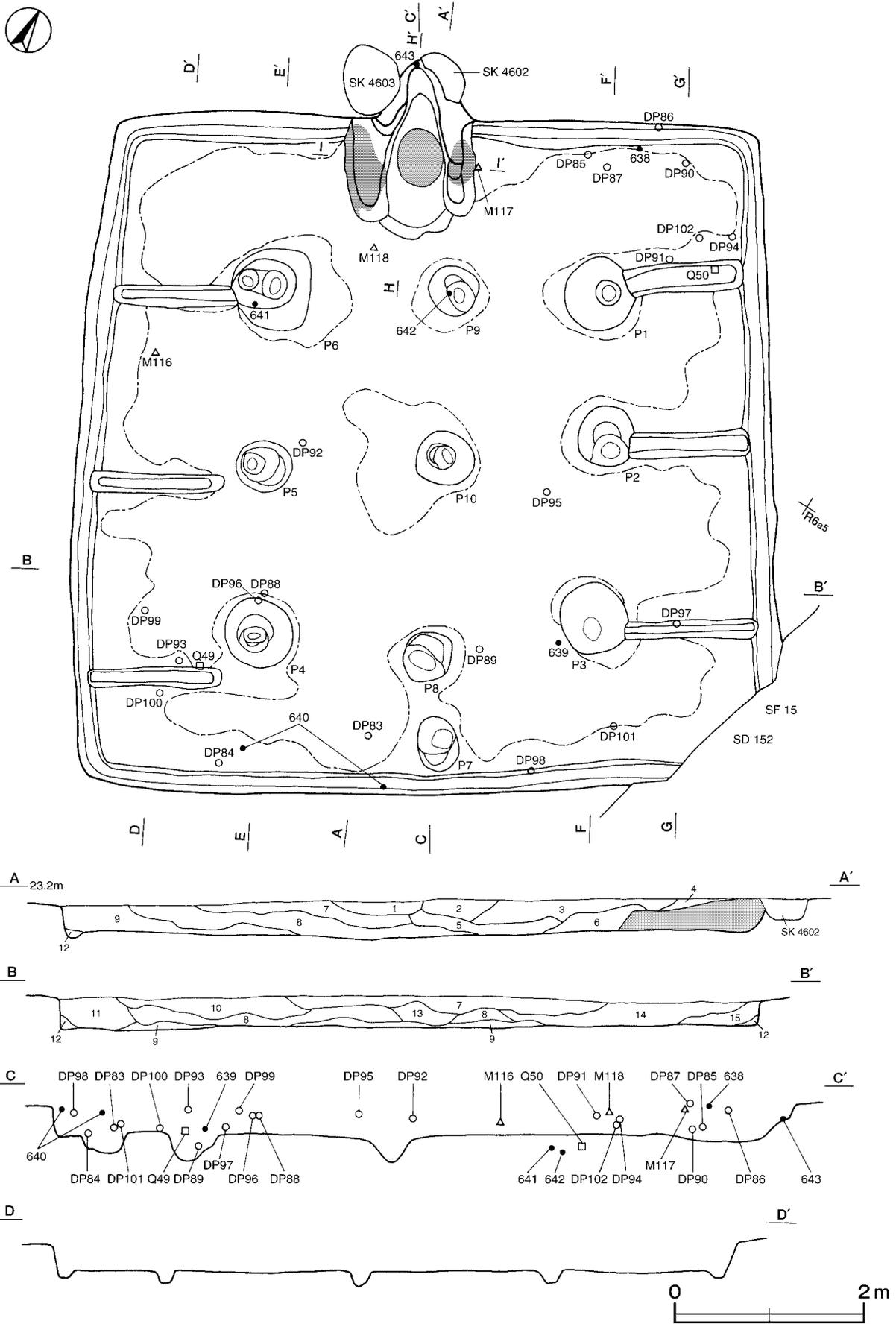
覆土 15層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

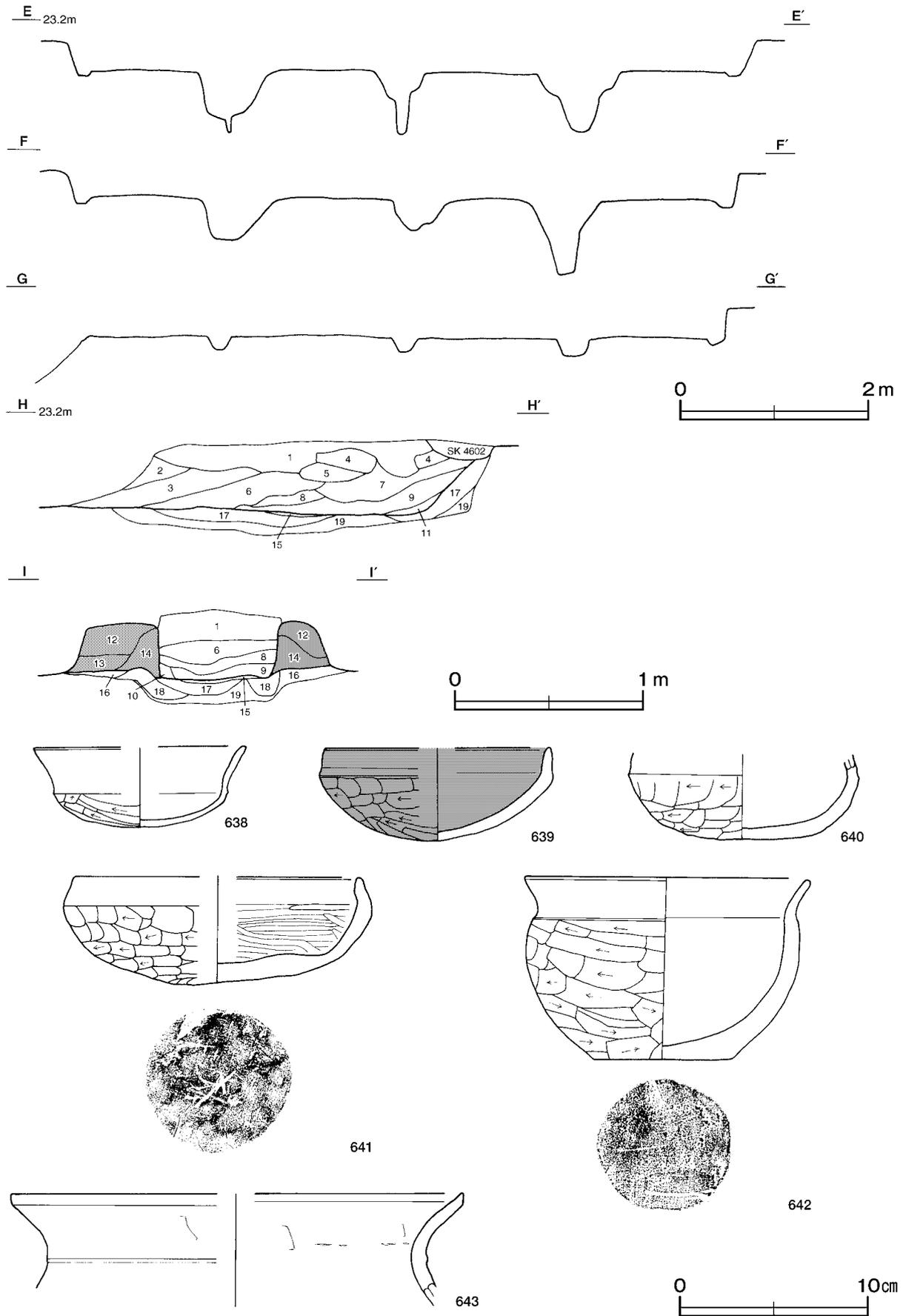
1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量	13	褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
			15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1404点（坏323、高坏23、鉢4、甕類1054）、須恵器片12点（坏3、甕7、甑2）、土製品20点（土玉6、球状土錘12、紡錘車2）、石器・石製品2点（砥石、白玉）、鉄製品3点（紡錘車1、釘2）が覆土上層から下層にかけて全面から出土している。また、混入した灰釉陶器片1点、土師質土器片1点、陶磁器片2点も出土している。638は北壁東寄り、640は南壁西寄りの壁際の覆土上層から出土し、それぞれ廃絶後に廃棄されたと考えられる。641はP6、642はP9の覆土上層から中層にかけてそれぞれ出土している。639は南東部の覆土下層、643は竈の煙道部内から出土し、それぞれ廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP84は南西部、DP89は南部中央、DP90は北東部の床面からそれぞれ出土している。その他17点の土製品は北東・南西コーナー部の覆土上層から下層にかけて集中して出土している。Q49は南西部の床面、Q50は東壁側北部の間仕切り溝の覆土上層からそれぞれ出土している。M116は北西部の覆土中層、M117・M118は竈周辺の覆土上層から出土し、それぞれ廃絶後に投棄されたものと考えられる。

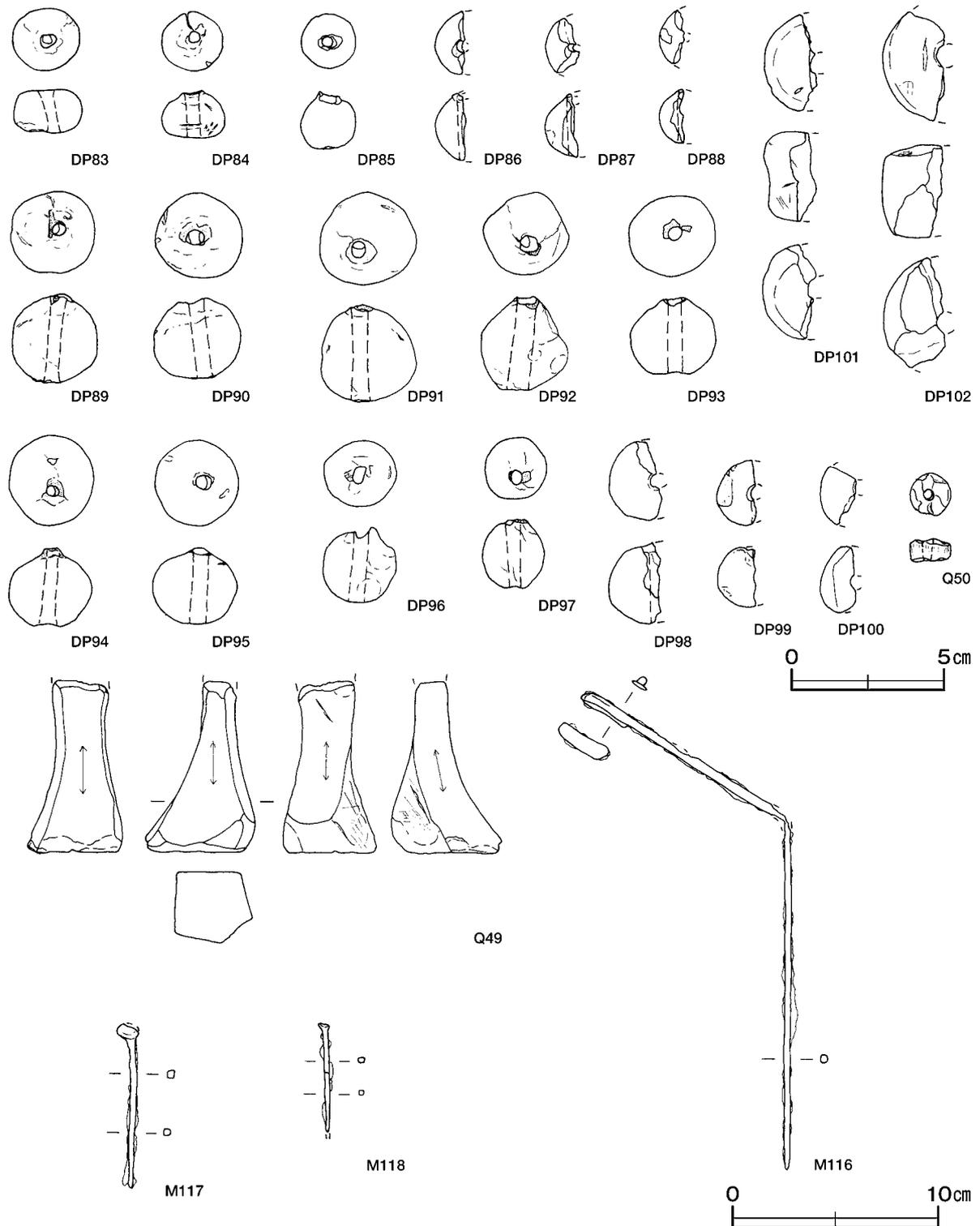
所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第425图 第2666号住居跡実测图



第426图 第2666号住居跡・出土遺物実測図



第427図 第2666号住居跡出土遺物実測図

第2666号住居跡出土遺物観察表 (第426・427図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
638	土師器	坏	[11.2]	4.3	-	長石・赤色粒子・黒雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	上層	45% 口辺部赤彩
639	土師器	坏	[12.0]	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	55%
640	土師器	坏	-	(4.7)	-	長石・雲母	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	上層	75%
641	土師器	坏	[15.2]	5.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	P 6上・中層	60% PL118
642	土師器	鉢	15.2	9.8	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部一方向ヘラ削り	P 9上・中層	95% PL118

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
643	土師器	甕	[24.0]	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい横縞	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ヘラナデ 輪積み痕	竈煙道部	15%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP83	土玉	2.2	1.4	0.35	5.9	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL139
DP84	土玉	2.0	1.5	0.5	5.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL139
DP85	土玉	1.7	1.9	0.4	3.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL139
DP86	土玉	(2.0)	(2.2)	(0.3)	(3.0)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	上層	PL139
DP87	土玉	(1.8)	(2.1)	(0.25)	(2.5)	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	上層	PL139
DP88	土玉	(1.8)	(1.8)	(0.3)	(1.7)	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL139
DP89	球状土錘	2.7	2.9	0.5	20.2	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL139
DP90	球状土錘	2.9	2.6	0.5	19.3	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL139
DP91	球状土錘	3.1	3.2	0.7	26.9	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL139
DP92	球状土錘	2.8	3.1	0.7	18.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL139
DP93	球状土錘	2.8	2.5	0.5	16.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	上層	PL139
DP94	球状土錘	2.7	2.6	0.5	16.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL139
DP95	球状土錘	2.8	2.5	0.5	16.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL139
DP96	球状土錘	2.4	2.5	0.5	9.9	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL139
DP97	球状土錘	2.0	2.3	0.5	8.5	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL139
DP98	球状土錘	(3.1)	2.6	(0.5)	(9.2)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	上層	PL139
DP99	球状土錘	(2.1)	1.9	(0.5)	(4.8)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	上層	PL139
DP100	球状土錘	(2.0)	(2.1)	(0.4)	(4.3)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL139
DP101	紡錘車	(3.2)	2.9	(0.6)	(15.7)	土(長石・石英)	ナデ 二方向からの穿孔 円錐台形	下層	
DP102	紡錘車	(3.4)	4.0	(0.7)	(17.6)	土(長石・石英)	ナデ 二方向からの穿孔 円錐台形	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q49	砥石	(8.5)	4.7	3.5	(152.0)	凝灰岩	砥面4面うち1面に条線状の研磨痕有り 他は破断面	床面	PL142

番号	機種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	白玉	1.3	0.7	0.3	1.8	滑石	側面は円筒状 側面縦方向に線刻 一部欠損	間仕切り溝覆土中	PL144

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M116	紡錘車	28.5	0.5	0.6	(25.7)	鉄	軸のみ残存 中央部で「く」の字に屈曲	中層	
M117	釘	(8.1)	1.2	0.4	(5.4)	鉄	頭部の一部欠損 断面方形	上層	
M118	釘	5.4	0.7	0.3	(1.6)	鉄	頭部の一部欠損 断面方形	上層	

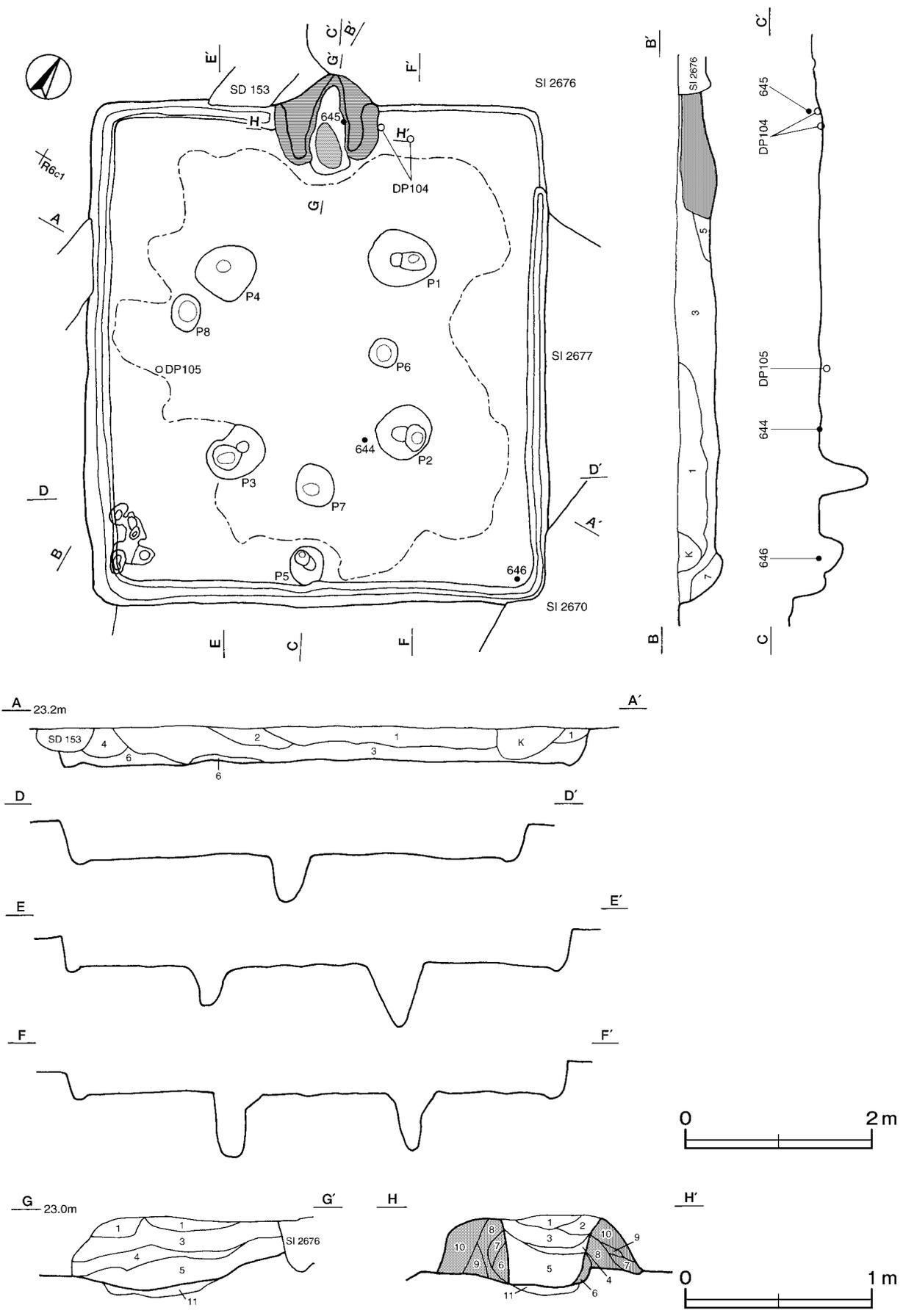
第2671号住居跡 (第428・429図)

位置 調査区東部のR 6 c1区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

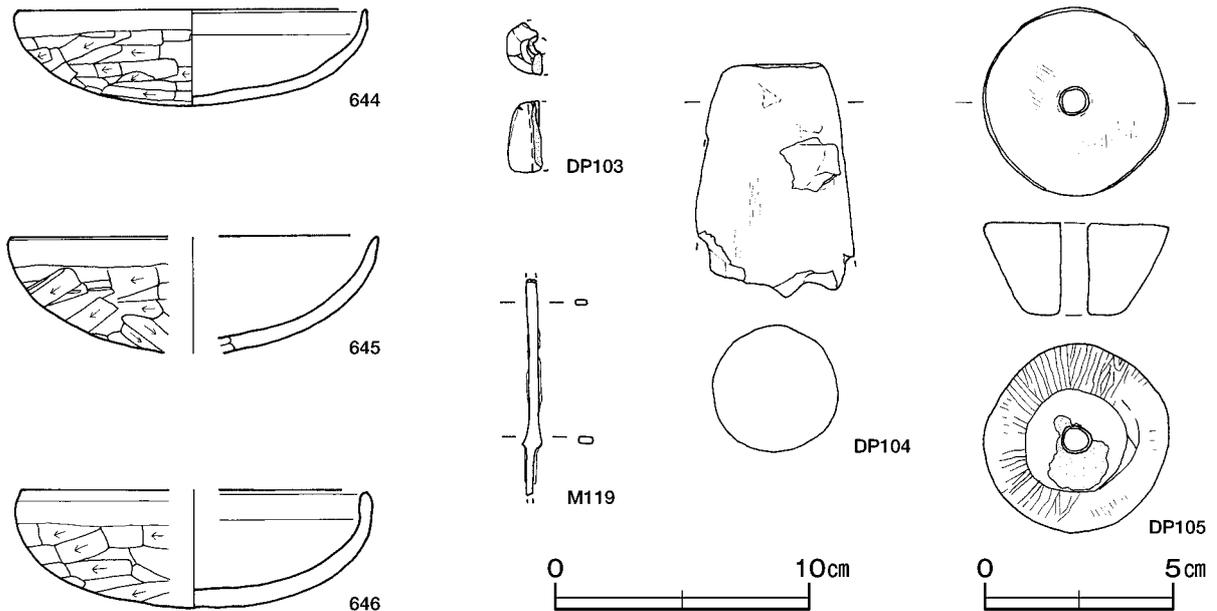
重複関係 第2677号住居跡を掘り込み, 第2670・2676号住居, 第153号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.44m, 短軸4.90mの長方形で, 主軸方向はN - 32° - Wである。壁高は38~42cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除いた壁下には幅14~18cm, 深さ5~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南西コーナー部に層厚14cmの焼土が堆積している。



第428图 第2671号住居跡実测图



第429図 第2671号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部の一部を第2676号住居に掘り込まれているため、遺存する規模は焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅は108cmである。袖部は掘り残した地山を基部とし、その上部に砂質粘土を主体とする第6～10層を積み上げて構築している。火床部は床面を9cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ、火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～5層に分けられ、第1層は天井部の崩落土層に相当する。各層は、ロームや焼土のブロックを含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

覆土層解説

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 赤褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 8 灰褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒色 炭化物少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 11 暗赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量 | |

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さは43～70cmである。P5は深さ39cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8の性格は不明である。

覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックや炭化物を含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化材・ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片774点(坏246, 椀17, 高坏5, 鉢1, 甕類505), 須恵器片3点(坏), 土製品5点(管状土錘1, 紡錘車1, 支脚3), 鉄製品1点(鏃)が北部から南東部の覆土中層から下層を中心に出土している。また、混入した平安時代の土師器片5点, 須恵器片24点, 灰釉陶器片1点, 磁器片1点も出土している。644は中央部, DP105は西部の床面, 645は竈の火床部, 646は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP104は竈東側の床面から出土した2片が接合したものであり、廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。DP103・M119は覆土中からそれぞれ出土し、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 南西コーナー部に焼土が堆積していることや覆土中の各層に炭化物が含まれていることから焼失住居の可能性がある。時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第2671号住居跡出土遺物観察表（第429図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
644	土師器	坏	13.8	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後 内面ナデ	床面	60% PL120
645	土師器	坏	[14.4]	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後磨き 内面ナデ	竈下層	40%
646	土師器	坏	[13.6]	4.7	-	長石・石英・小礫	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	下層	35%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP103	管状土錘	(2.1)	(2.9)	(0.7)	(7.9)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL140
DP105	紡錘車	5.0	2.5	0.8	54.9	土(長石・石英)	側面へラ磨き 二方向からの穿孔 円錐台形	床面	PL139

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP104	支脚	(9.3)	3.6	(6.2)	(207.5)	土(長石)	へラナデ 火を受けている 焼土付着 浅黄橙色	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M119	鏝	(8.5)	0.8	0.3	(5.2)	鉄	鏝身部欠損 莖部一部欠損 断面長方形	覆土中	

第2674号住居跡（第430・431図）

位置 調査区北東部のQ5j8区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2675・2680号住居跡を掘り込み，第4622・4628・4630～4632・4644～4646・4650・4651号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.62m，短軸4.21mの方形で，主軸方向はN-11°-Wである。壁高は9～13cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北西部を除いた壁下には幅14～25cm，深さ10～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで105cm，袖部幅101cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第12層を充填し，その上部にロームブロック主体の第10・11層で芯を作り，砂質粘土主体の第7～9層を貼り付けて構築している。内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜し，奥壁でほぼ直立している。覆土は第1～6層に分けられ，各層に焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

竈土層解説

1 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	8 橙 色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
2 褐灰色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 明赤褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック中量 焼土ブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
4 赤褐色	焼土ブロック多量	11 灰褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量，砂質粘土ブロック微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物多量，砂質粘土ブロック・ローム粒子少量	12 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
6 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量		
7 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量		

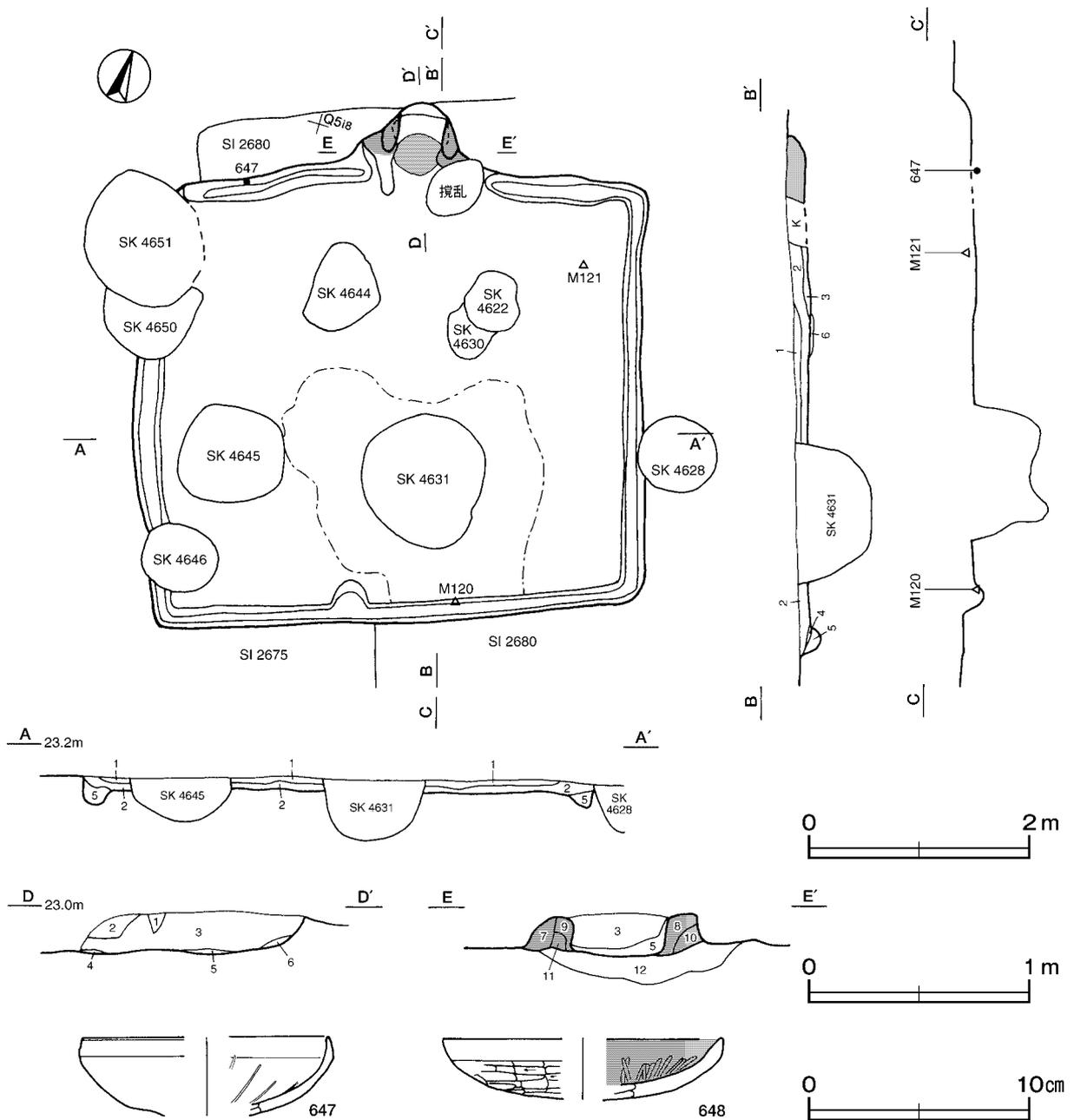
覆土 6層に分けられる。各層に焼土や炭化粒子，ロームブロックを含む人為堆積である。第6層はロームを主体とする貼床の構築土である。

土層解説

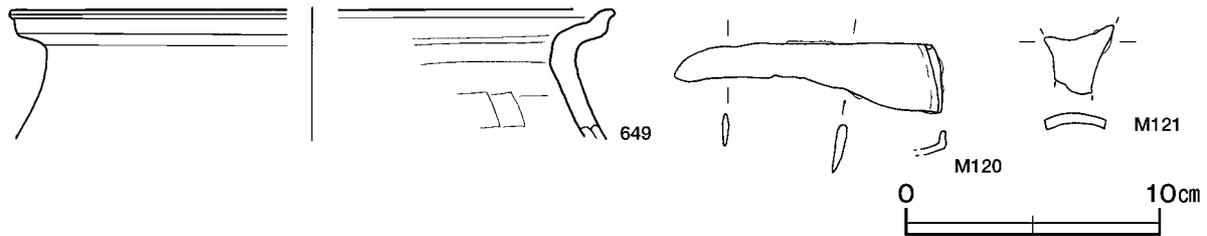
- | | | | |
|----------|----------------------------------|----------|--------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化物中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片660点(坏158, 椀1, 高坏4, 鉢1, 甕類496), 須恵器片13点(坏10, 蓋3), 石器・石製品2点(砥石, 支脚), 鉄製品4点(鎌1, 不明3)のほか, 粘土塊2点, 鉄滓1点が東部の覆土中層から下層を中心に出土しており, ほとんどが細片である。また, 混入した平安時代の土師器片1点, 須恵器片16点, 土師質土器片6点も出土している。M120は南部の床面から出土し, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。647は北西部壁溝の覆土下層, 648は北東部, 649は南西部の覆土中, M121は北東部の覆土下層からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第430図 第2674号住居跡・出土遺物実測図



第431図 第2674号住居跡出土遺物実測図

第2674号住居跡出土遺物観察表（第430・431図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
647	土師器	坏	[11.0]	(3.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面放射状のヘラ磨き	下層	30%
648	土師器	坏	[12.6]	(2.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ後ヘラ磨き	覆土中	20%
649	土師器	甕	[23.8]	(5.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M120	鎌	10.7	2.3	0.4	19.4	鉄	刃部・柄付部一部欠損	床面	PL146
M121	不明	(2.7)	(2.8)	0.4	(7.5)	鉄	断面長方形でわずかに彎曲	下層	

第2675号住居跡（第432・433図）

位置 調査区東部のR 5 a7区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2680号住居跡を掘り込み，第2674号住居，第4631～4633・4635・4644・4645・4650・4651・4711・4712号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.74m，短軸5.62mの方形で，主軸方向はN - 11° - Wである。壁高は41～56cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。壁下には幅18～24cm，深さ8～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部を第4711号土坑に掘り込まれているため，遺存する規模は焚口部から煙道部まで62cm，袖部幅122cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第13～15層を充填し，その上部に小石混じりの砂質粘土を主体とする第10～12層を積み上げて構築している。内側は火を受けてわずかに赤変している。火床部は床面と同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。覆土は第1～9層に分けられ，第1～6層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は，ロームや焼土，砂質粘土のブロックを含む人為堆積であり，住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒色	炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子微量
2	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	10	明赤褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，小石少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	11	にぶい橙色	砂質粘土粒子多量，小石・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量	12	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
5	灰褐色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	13	暗赤褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	14	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子多量	15	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	にぶい黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量			

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは56～91cmである。P5は深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1・P3は掘り直されている。

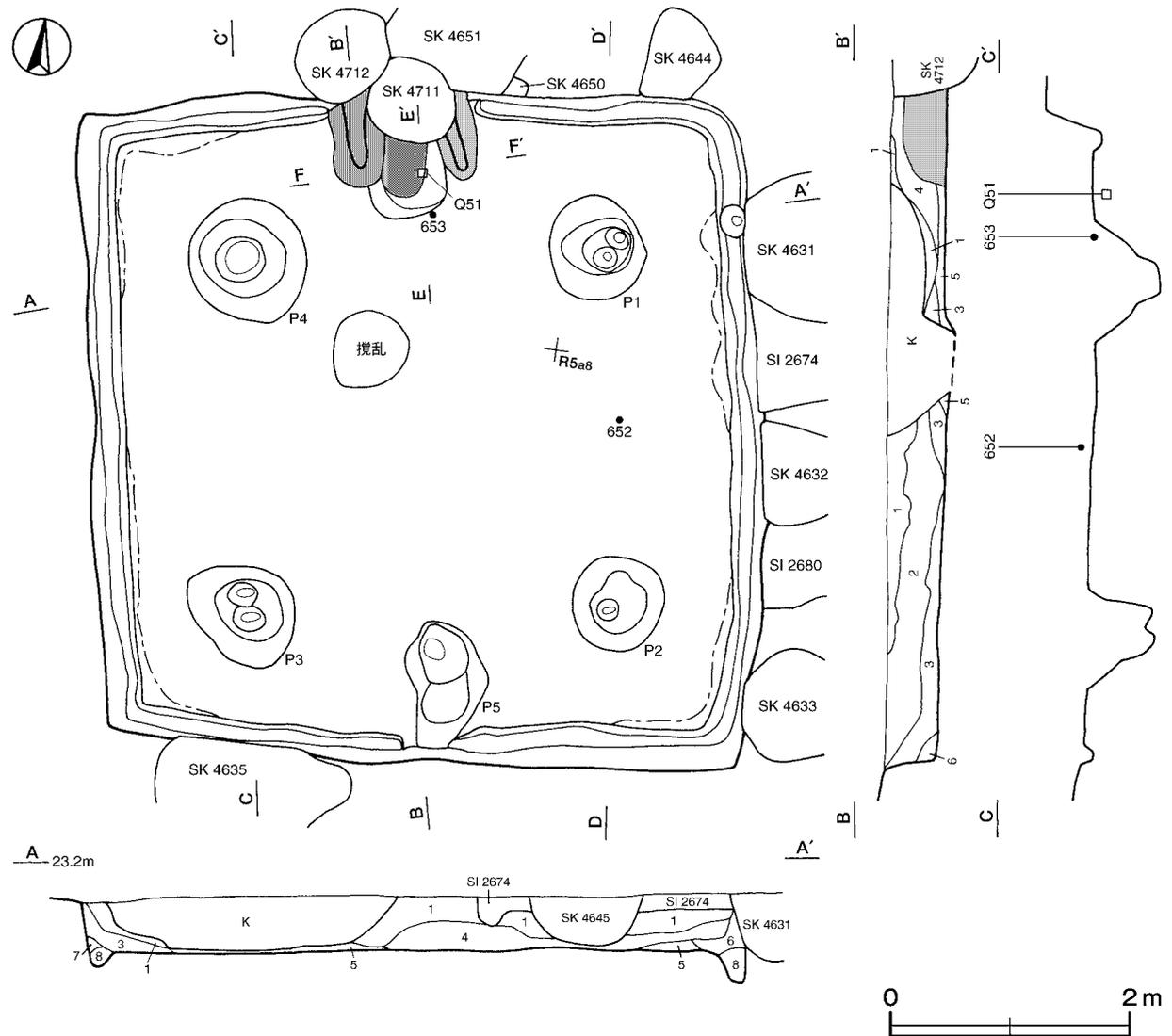
覆土 8層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

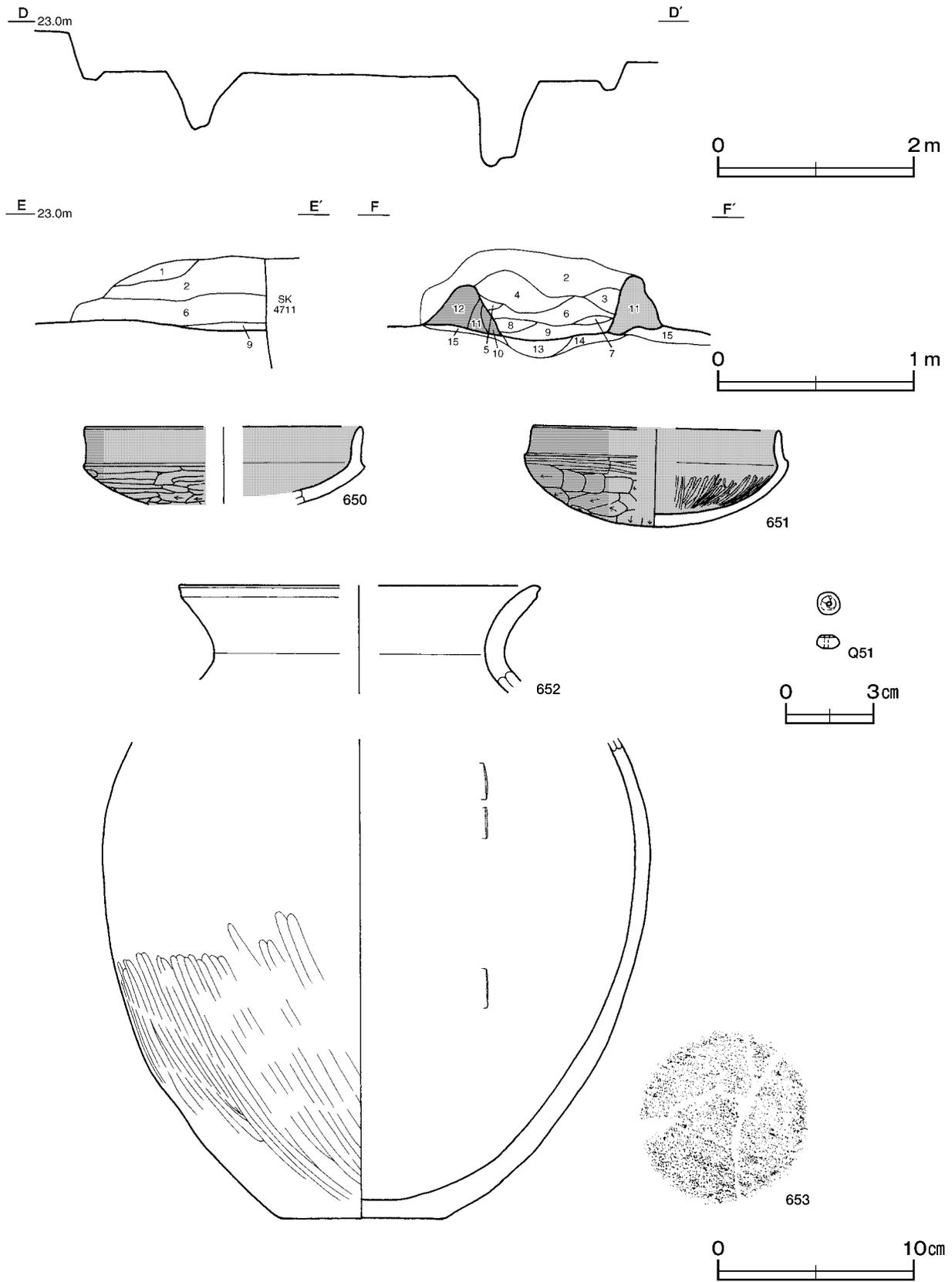
- | | | | |
|--------|-------------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗灰黄色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片368点（坏70，高坏6，鉢4，甕類287，甑1），須恵器片10点（坏），土製品2点（支脚），石製品1点（小玉），鉄製品2点（釘）が中央部の覆土中層から下層にかけて出土している。また，混入した須恵器片7点，土師質土器片3点，陶磁器片1点，瓦質土器片4点も出土している。650はP3の覆土中，653は土圧つぶれた状態で竈前面の床面，Q51は竈の火床面からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。651は南東部の覆土中，652は東部の覆土下層からそれぞれ出土し，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第432図 第2675号住居跡実測図



第433图 第2675号住居跡・出土遺物実測図

第2675号住居跡出土遺物観察表（第433図）

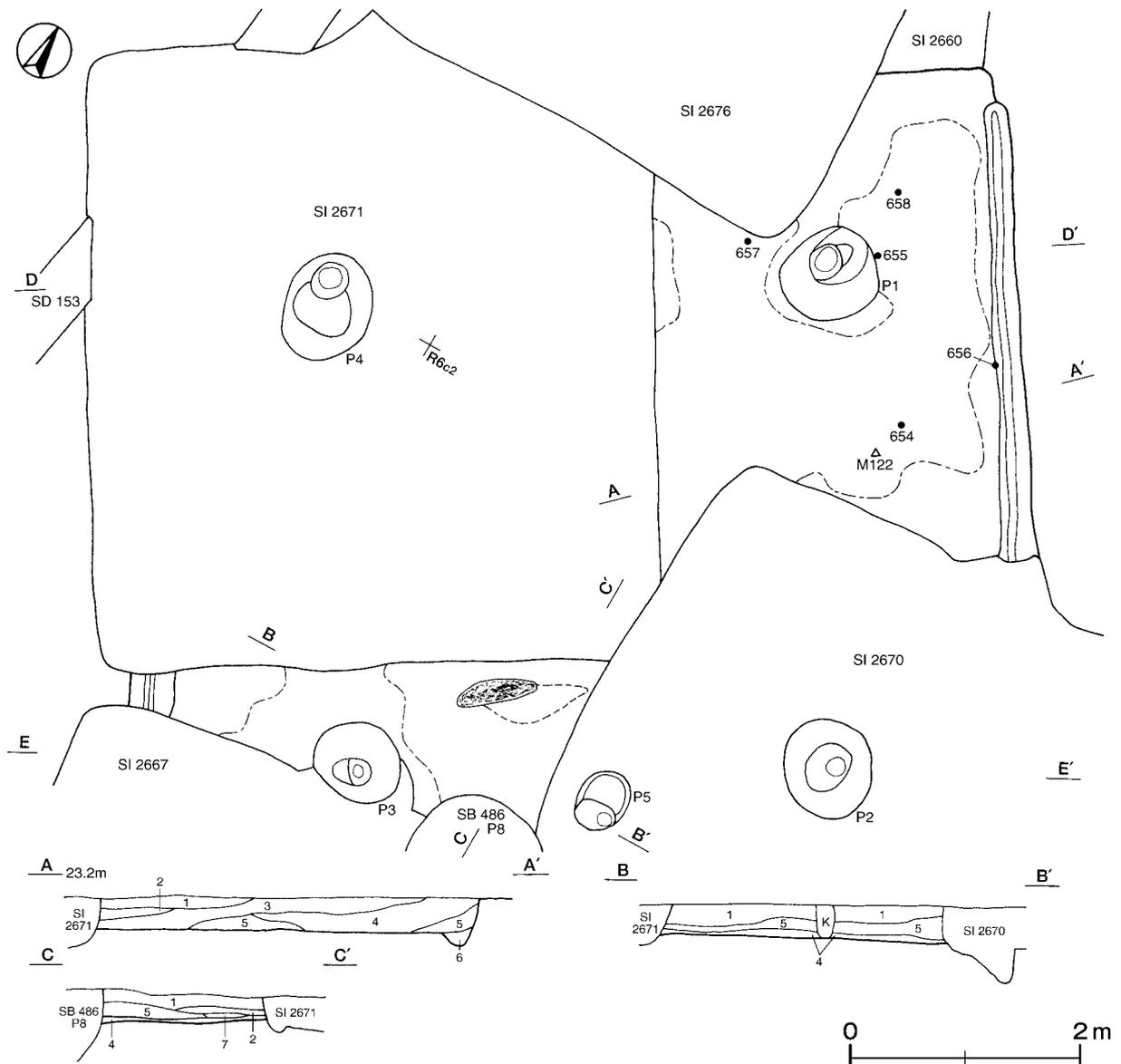
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
650	土師器	坏	[14.0]	(4.0)	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	P 3 覆土中	35%
651	土師器	坏	[12.6]	5.1	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	覆土中	30%
652	土師器	甕	[18.2]	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部内・外面ヘラナデ	下層	10%
653	土師器	甕	-	(24.7)	8.4	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	床面	65%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q51	小玉	0.8	0.5	0.2	0.3	蛇紋岩	円筒状 一方向からの穿孔	竈火床面	PL144

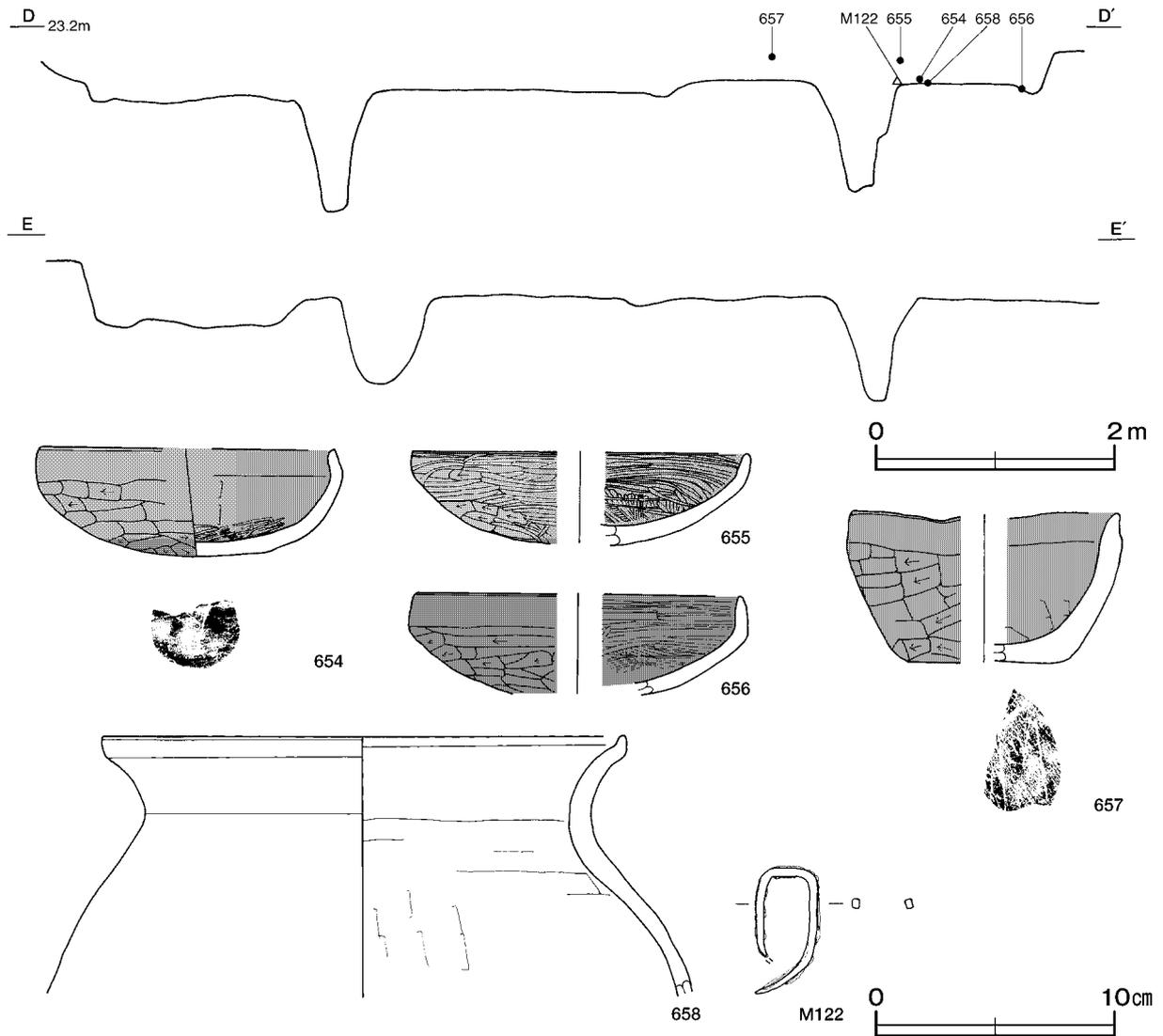
第2677号住居跡（第434・435図）

位置 調査区東部のR 6 b2区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2660号住居跡を掘り込み，第2667・2670・2671・2676号住居，第486号掘立柱建物，第153号溝に掘り込まれている。



第434図 第2677号住居跡実測図



第435図 第2677号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 大部分を第2667・2670・2671・2676号住居に掘り込まれているため、規模は不明であるが、長軸約8mほどの方形と考えられる。壁高は28～30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際まで踏み固められている。壁下には、幅20～36cm、深さ8～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南部に焼土と炭化材が堆積している。

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは84～100cmである。P5は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片206点(坏61, 椀6, 高台付椀2, 高坏1, 鉢1, 甕類135), 須恵器片2点(坏), 土製品8点(支脚), 石製品1点(不明), 鉄製品1点(金具カ)が東部の覆土中層から下層を中心に出土している。また混入した須恵器片4点も出土している。654は東部の覆土下層, 655・657は北東部の覆土中層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。656・M122は東部, 658は北東部の床

面からそれぞれ出土し、いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 焼土の広がりや炭化材が確認できることや、覆土中に焼土粒子や炭化物・粒子が含まれていることから、焼失住居の可能性はある。時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。

第2677号住居跡出土遺物観察表（第435図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
654	土師器	坏	[12.4]	4.6	3.8	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ後ヘラ磨き 底部木葉痕	下層	50%
655	土師器	坏	[14.0]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	中層	40%
656	土師器	坏	[13.6]	(4.2)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	25%
657	土師器	鉢	[11.2]	6.3	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	中層	25%
658	土師器	甕	21.8	(11.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M122	金具カ	11.7	0.5	0.4	(11.4)	鉄	端部欠損 断面方形 全体に「0」の字に屈曲	床面	

第2678号住居跡（第436図）

位置 調査区東部のR 6 c4区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2670号住居、第486号掘立柱建物、第4653号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.00m、短軸4.60mの方形で、主軸方向はN - 21° - Wである。壁高は10～18cmで、ほぼ直立している。

床 中央部から北西部にかけての大部分を第2670号住居に掘り込まれているが、確認できた範囲ではほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、壁下には幅10～16cm、深さ3～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは24～47cmである。P4は深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。西部を第2670号住居に掘り込まれているため、遺存する規模は南北軸81cm、東西軸は54cmだけが確認された。形状は隅丸長方形と推定され、深さは27cmである。底面は皿状で、東壁は外傾して立ち上がっている。覆土は各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・灰微量

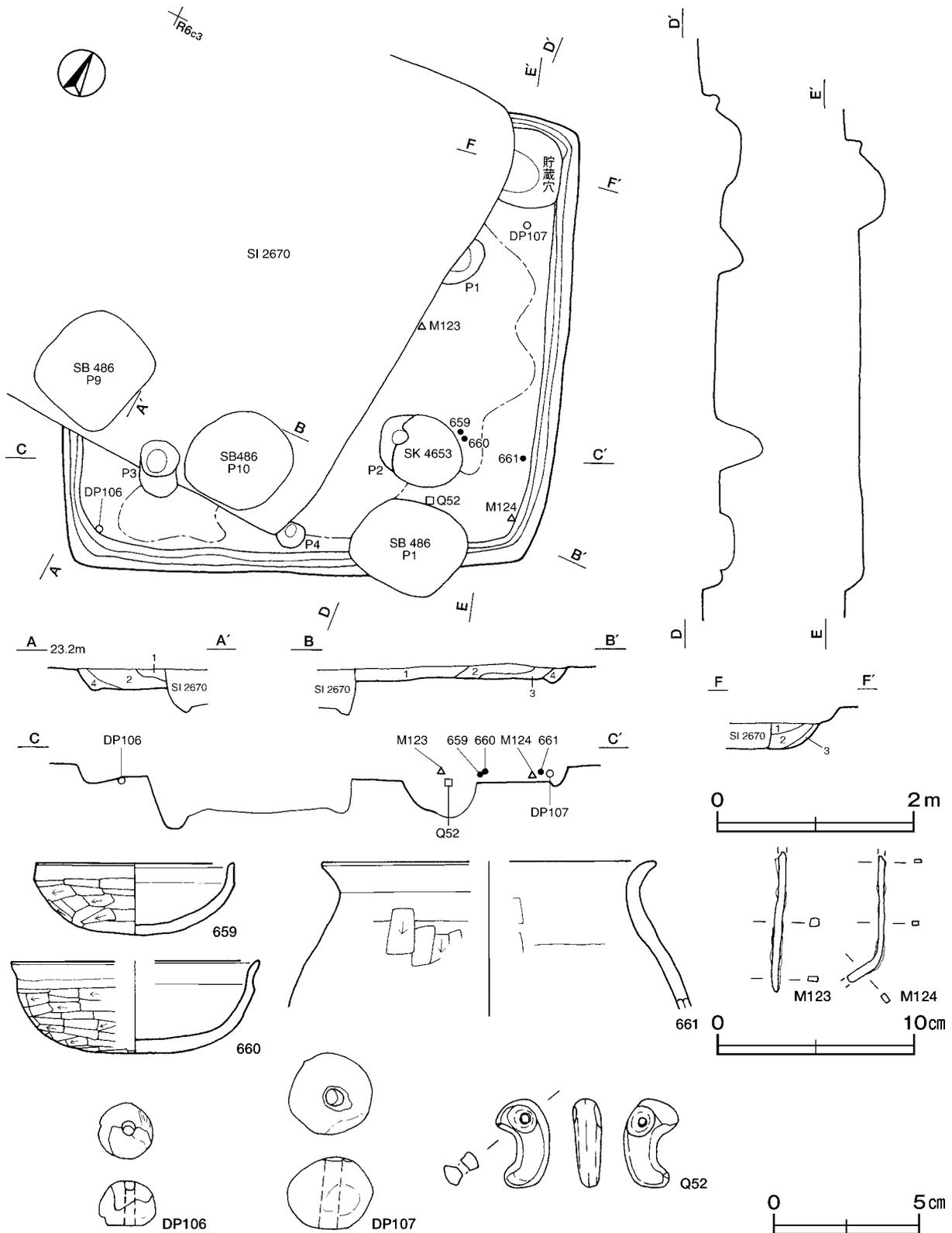
覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片153点(坏23, 椀1, 高坏1, 甕類128), 須恵器片8点(坏6, 蓋2), 土製品2点(球状土錘, 土玉), 石製品1点(勾玉), 鉄製品1点(鏃), 銅製品1点(鏃カ)が東部から南部の覆土上層から下層を中心に出土している。また、混入した平安時代の土師器片1点, 須恵器片4点も出土している。659～661は南東部, DP107は北東部, M123は中央部, M124は南東コーナー部の覆土中層, DP106は南西コーナー部, Q52は南東部の覆土下層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第436図 第2678号住居跡・出土遺物実測図

第2678号住居跡出土遺物観察表 (第436図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
659	土師器	坏	10.0	3.7	-	長石・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	中層	95% PL122
660	土師器	坏	[12.6]	4.7	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	中層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
661	土師器	甕	[17.0]	(7.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう削り 内面へうナデ	中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP106	土玉	1.9	(1.6)	0.4	(5.1)	土(長石・石英)	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL140
DP107	球状土錘	2.9	2.5	0.6	19.1	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL140

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q52	勾玉	3.0	1.9	1.0	6.8	蛇紋岩	全面研磨 断面楕円形 一方向からの穿孔 孔径0.3cm	下層	PL144

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M123	鏃	(7.1)	0.4	0.4	(5.1)	鉄	鏃身部柳葉状 断面長方形 茎部欠損	中層	
M124	鏃カ	(7.3)	0.5	0.3	(5.4)	銅	断面長方形 下端部屈曲	中層	PL147

第2680号住居跡 (第437・438図)

位置 調査区北東部のQ5j8区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2652・2673・2674・2675号住居, 第4621~4623・4625・4628~4632・4648号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.40m, 短軸6.18mの方形で, 主軸方向はN-25°-Wである。壁高は16~22cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 北部と南部が壁際まで踏み固められている。壁下には幅18~36cm, 深さ7~16cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで96cm, 袖部幅98cmである。袖部はローム混じりの砂質粘土を主体とする第15層を積み上げて構築し, 内側はわずかに赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。また火床部の中央に支脚が据えられており, 焚口部からの距離は40cmである。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ, 火床部から急に傾斜して立ち上がっている。覆土は第1~14層に分けられ, 第1~8層は天井部および袖部が東から西に向かって崩落した土層に相当する。各層は, ロームや焼土, 砂質粘土のブロックを多く含む人為堆積であり, 住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

竈土層解説

1	黒褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック中量
2	暗灰黄色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	9	赤褐色	焼土ブロック多量, 粘土粒子中量, 炭化材・ローム粒子少量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック中量	10	にぶい赤褐色	ローム粒子・炭化粒子多量, 焼土粒子中量
4	灰褐色	焼土ブロック・炭化物中量, 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量	11	褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子中量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・砂・粘土粒子多量, 炭化材中量	12	明褐色	砂多量, ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
6	にぶい黄褐色	粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
7	にぶい黄褐色	粘土粒子多量	14	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化材少量
			15	明黄褐色	粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子中量

ピット 2か所。P1は深さ50cm, P2は深さ36cmで, いずれも性格は不明である。

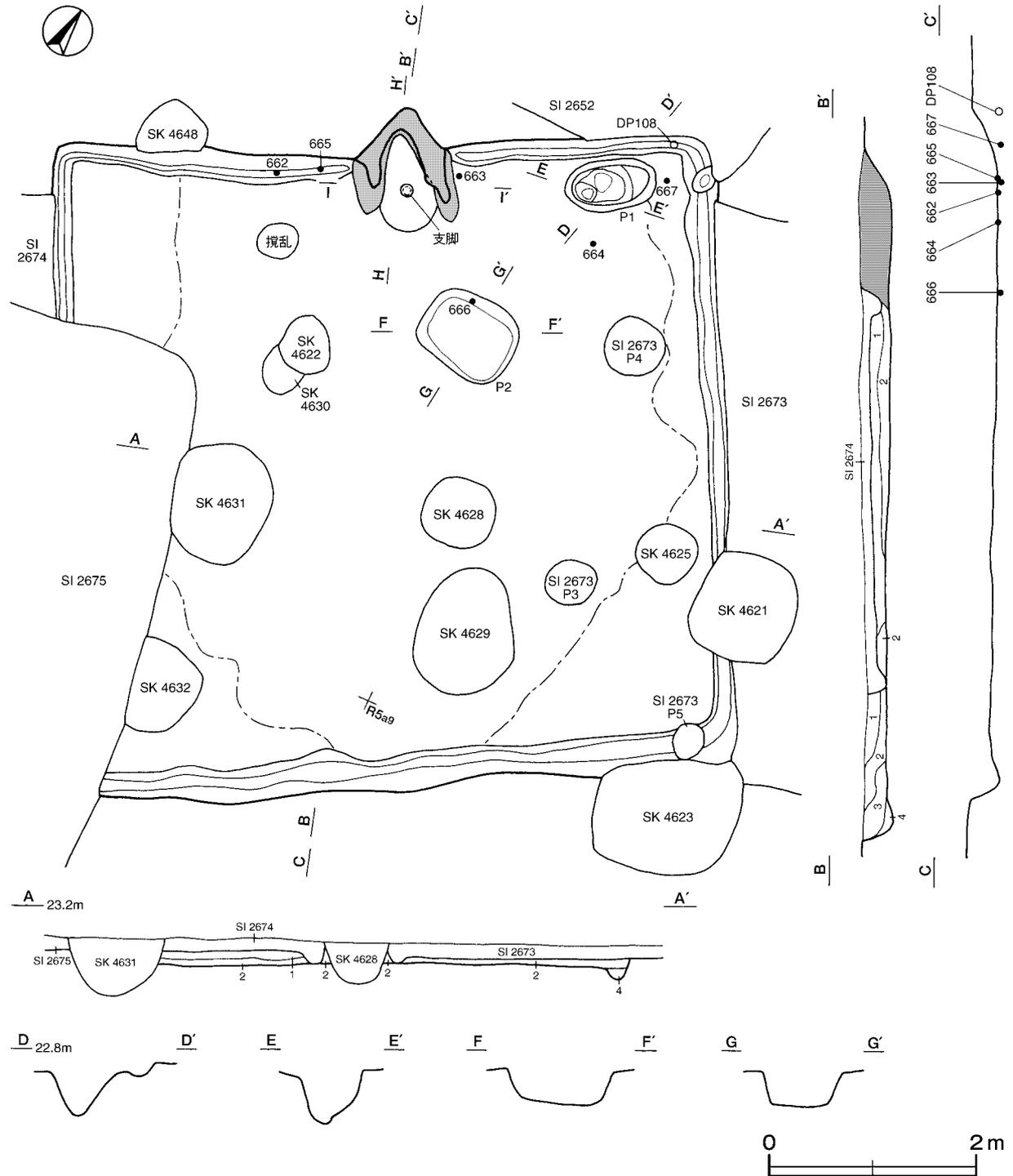
覆土 4層に分けられる。ロームブロックは壁際から中央に向かって細粒化しており, 壁部が崩落したものと考えられる。また上部は周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

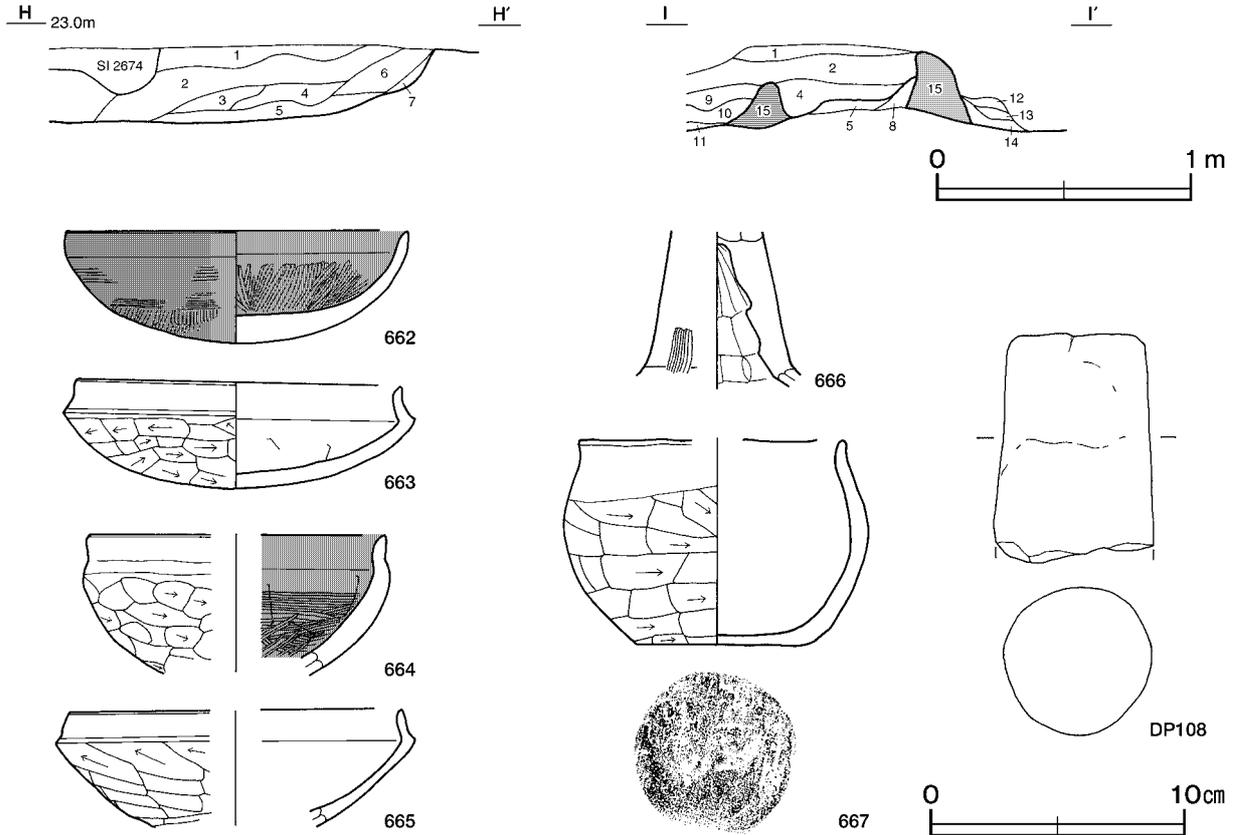
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	4	灰黄褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片155点（坏29，高坏3，鉢3，甕類119，甌1），土製品1点（支脚）が北部の覆土中層から下層にかけて出土している。また，混入した須恵器片2点，土師質土器片1点も出土している。662・665は北部の壁溝，DP108は北東コーナー部壁溝の覆土下層，663・664は北東部，666は中央部北寄り，667は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第437図 第2680号住居跡実測図



第438図 第2680号住居跡・出土遺物実測図

第2680号住居跡出土遺物観察表（第438図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
662	土師器	坏	13.6	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	壁溝上層	80% PL121
663	土師器	坏	12.7	4.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ後ナデ	床面	75%
664	土師器	坏	[11.8]	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ後ヘラ磨き	床面	30%
665	土師器	坏	[13.0]	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	壁溝上層	30%
666	土師器	高坏	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	25%
667	土師器	鉢	[10.4]	8.2	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ削り後ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	床面	65% PL121

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP108	支脚	(9.1)	4.7	6.3	(379.2)	土(長石・石英・赤色粒子・小礫)	ヘラナデ 火を受けている 焼土付着 暗赤褐色	壁溝上層	

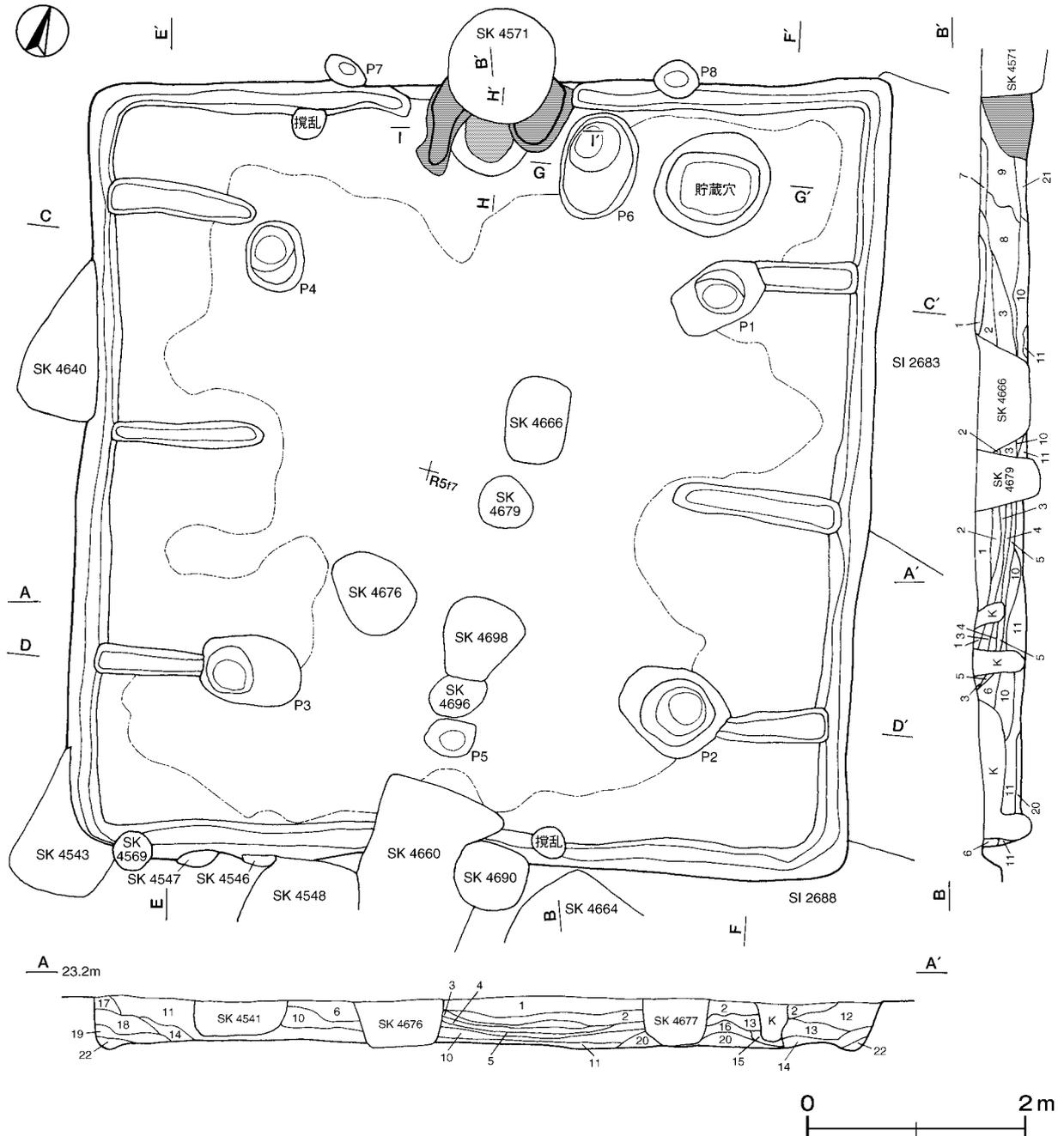
第2681号住居跡（第439～444図）

位置 調査区中央部のR 5 f 7区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2683・2688号住居跡を掘り込み，第4541～4544・4546～4548・4569・4571・4640・4660・4666・4676～4680・4683・4687・4690～4696・4698・4699土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.22m，短軸7.20mの方形で，主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は40～48cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際と間仕切り溝の周辺を除いて踏み固められている。壁下には，幅13～22cm，深さ7～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。東西の壁際には，長さ94～154cm，幅27～36cm，深さ4～8cmで浅いU字状の断面を呈する間仕切り溝が6条検出されている。また，北側を除く壁側には焼土層が堆積し，



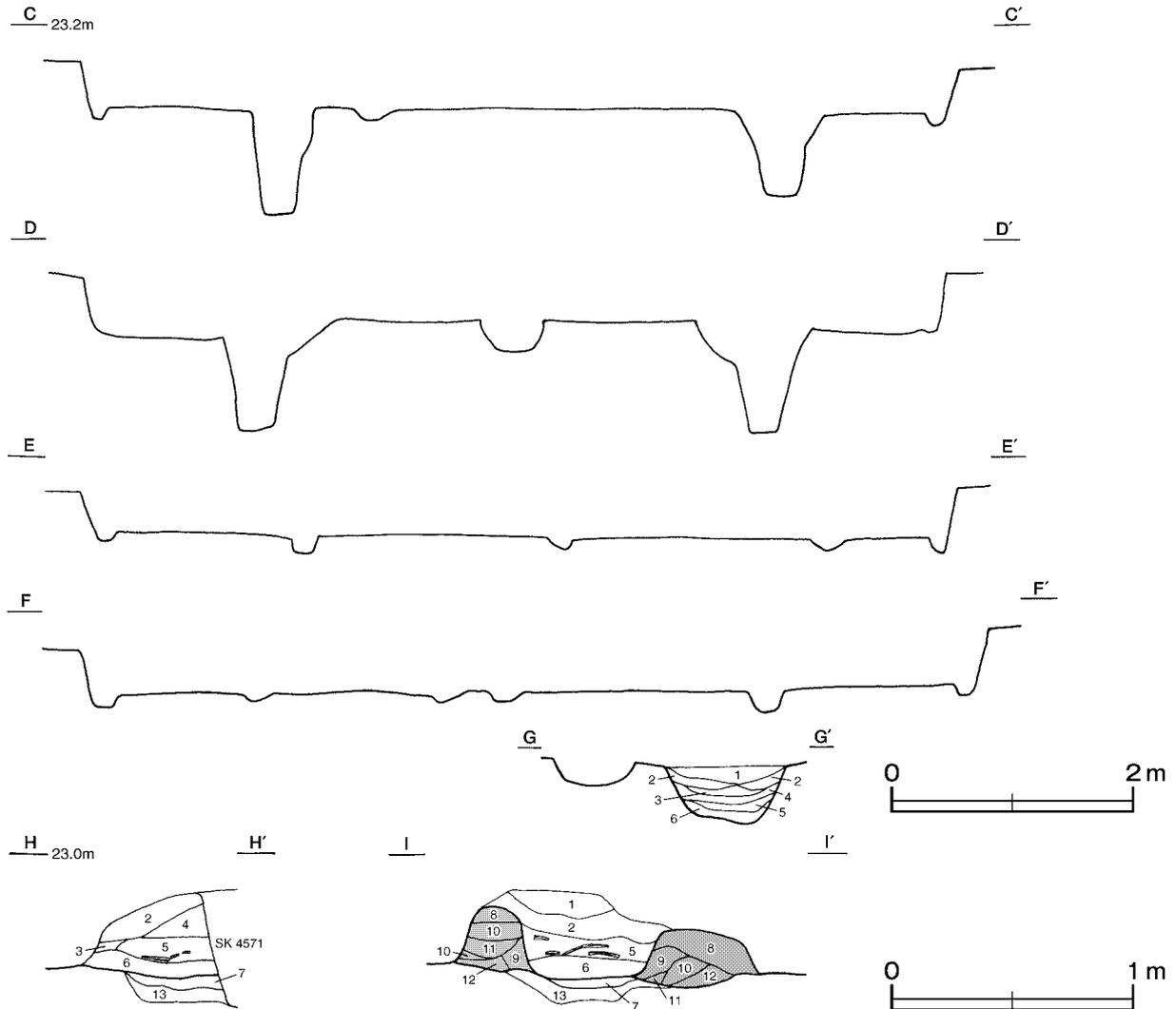
第439図 第2681号住居跡実測図(1)

板状や角柱状の炭化材も認められる焼失住居である。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部付近を第4571号土坑に掘り込まれており、詳細は不明である。袖部は幅130cmで、床面を16cmほど掘りくぼめて第13層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第8～12層を積み上げて構築している。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。覆土は第1～6層に分けられ、第5層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。各層は焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| | | 7 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |



第440図 第2681号住居跡実測図(2)

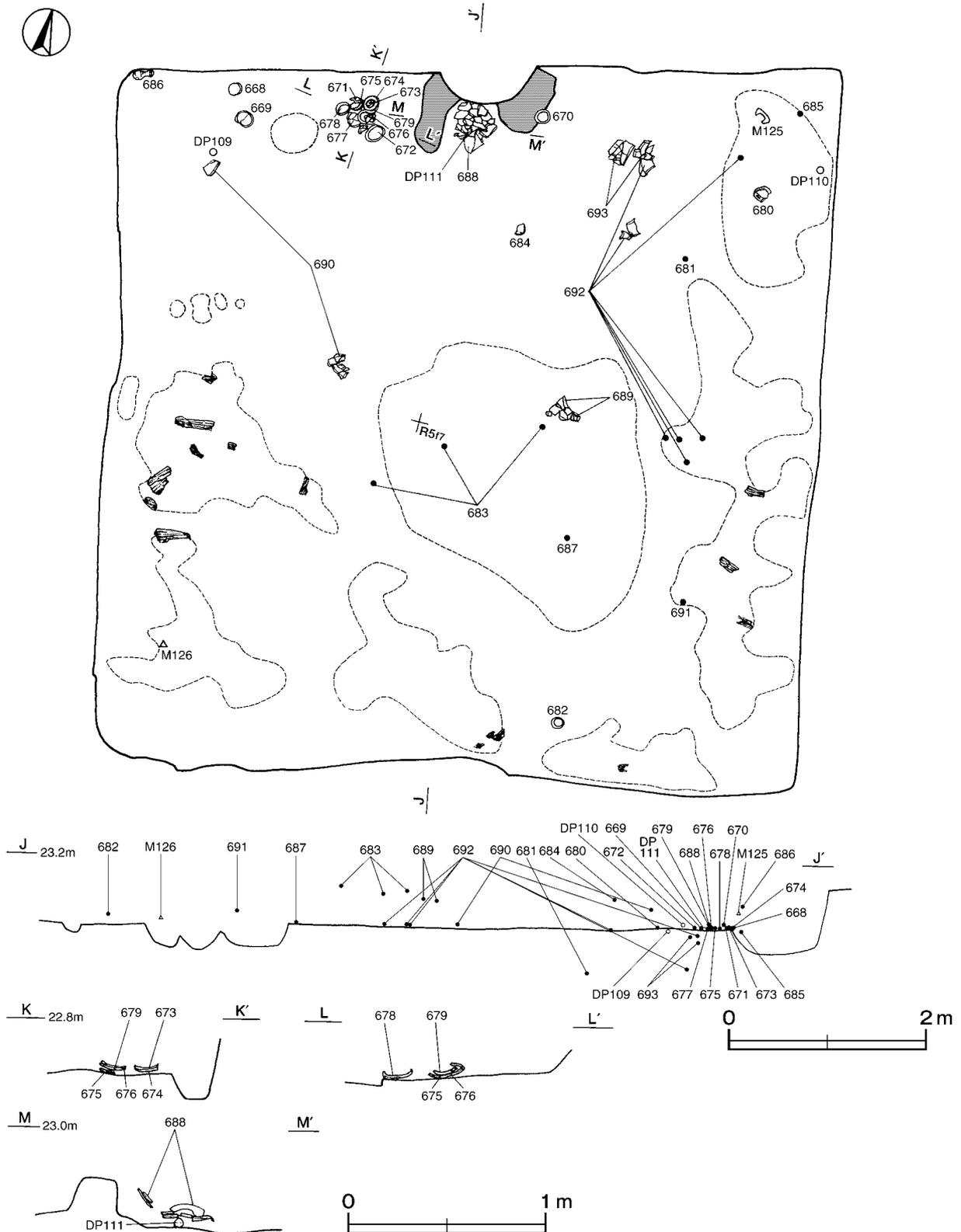
- | | |
|---------------------------------------|----------------------------------|
| 8 暗褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 にぶい褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 赤褐色 砂質粘土ブロック・焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 10 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さは70～95cmである。P5は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は竈の右袖際、P7・P8は竈の左右の壁部に位置しており、深さは40～64cmで、竈に付属する施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。形状は、上端が長径107cm、短径97cmの楕円形で、底面が長軸63cm、短軸50cmの隅丸長方形を呈している。深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は、最下層にブロック状のロームと砂質粘土が混在する第6層が貼り付けられており、さらに、中層から下層にかけて第3～5層の焼土層の堆積が認められ、第5層の上面は火を受けて赤変硬化している。焼土層の層厚は21cmである。その上部は、ロームブロックや炭化粒子を含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1 灰黄褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |



第441図 第2681号住居跡実測図(3)

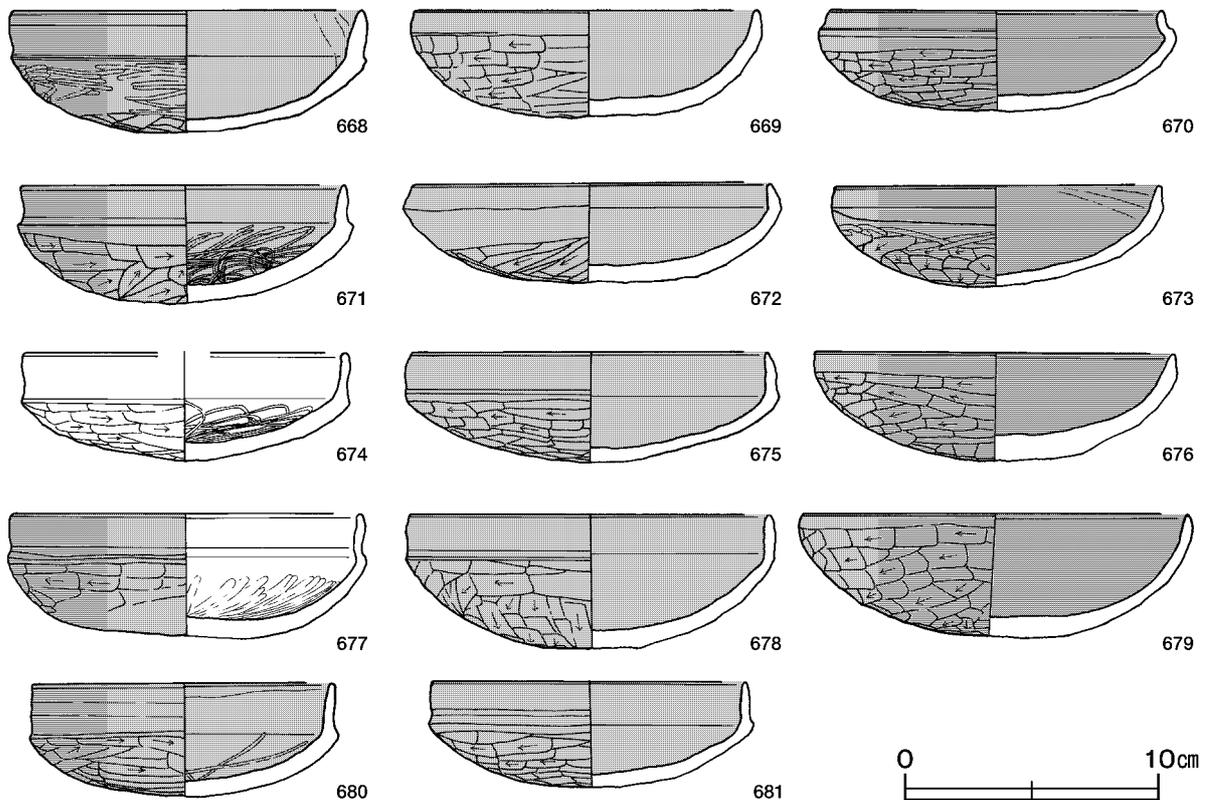
覆土 22層に分けられる。上層の第1～5層は、下部に灰を含む焼土層と炭化物層があり、廃絶後の凹地で火を使用した形跡が認められる。また、壁際から床面には第14層の焼土層の堆積がみられ、炭化材を多量に含んでいる。その他の層は、ブロック状を呈し、複雑な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

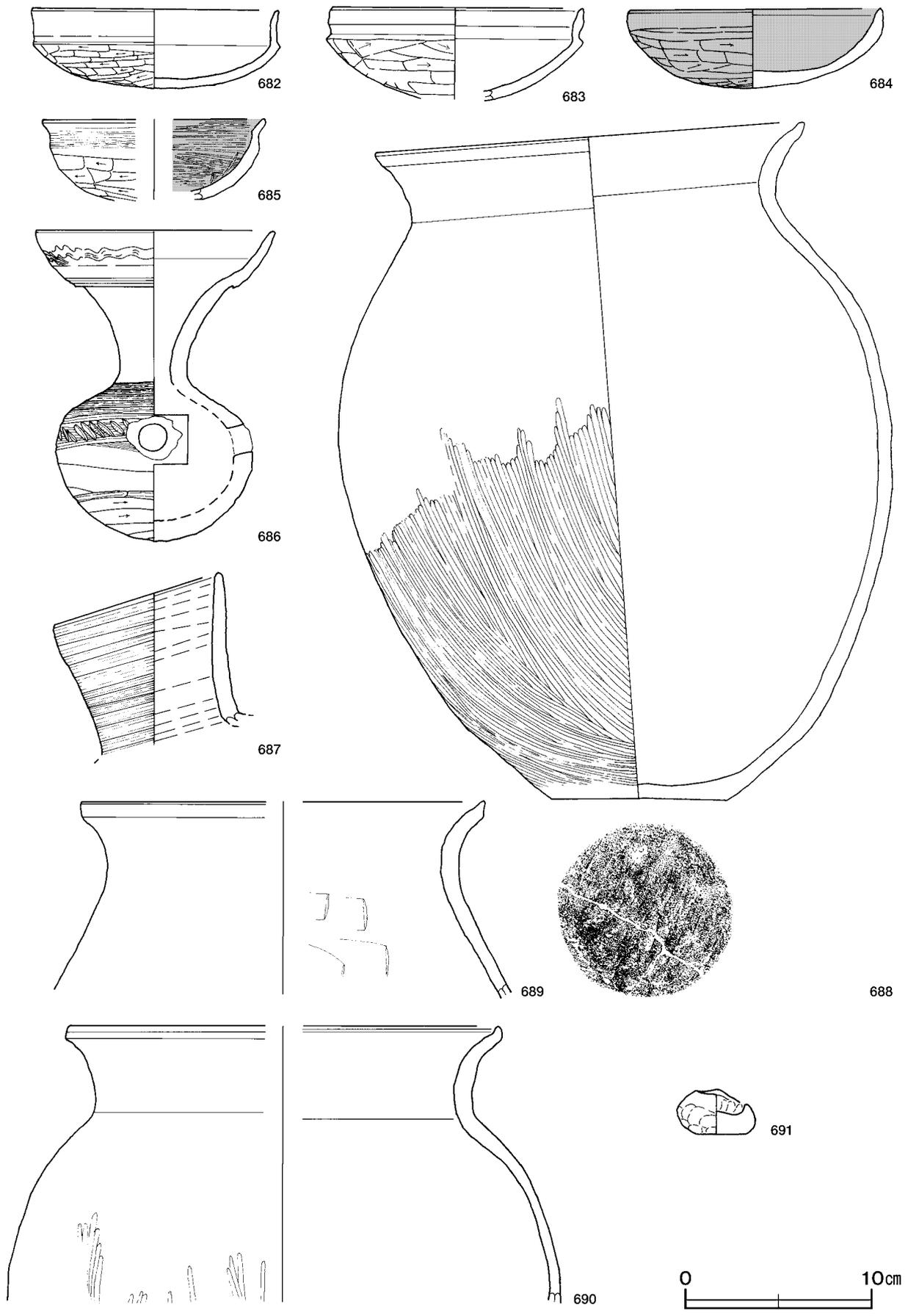
1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量	11 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 灰中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量	12 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
3 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化物少量	13 極 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
4 黒 褐 色 焼土粒子多量, 炭化物中量, ローム粒子・灰少量	14 赤 褐 色 焼土ブロック多量, 炭化物中量, ロームブロック微量
5 暗 褐 色 炭化物多量, 焼土ブロック・ローム粒子・灰少量	15 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
6 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量	16 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
7 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	17 暗 褐 色 ロームブロック少量
8 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
9 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量	19 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
10 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	20 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
	21 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
	22 暗 褐 色 ロームブロック・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1553点(坏444,高坏3,甕類1040,甑65,手捏土器1),須恵器片4点(甌1,平瓶3),土製品4点(土玉2,支脚2),鉄製品2点(鋤先,釘),銅製品1点(辻金具),粘土塊3点が出土しているほか,石器1点(剥片),縄文土器片2点が流れ込んでいる。668・669は北壁際西寄り,670は竈右袖部際,671~679は竈西側の床面から正位で出土しており,特に,673・674と675・676・679はそれぞれ重なった状態で出土している。688は竈の覆土中層,DP111は火床部から出土しており,688は天井部の崩落土層とともに押しつぶされた状態で,DP111は横位に倒れた状態でそれぞれ出土している。いずれも使用時の状況のまま遺棄されたと考えられる。692は貯蔵穴の覆土上層と下層および北東部の床面から破片で出土し,DP109は北西部,680・685は北東コーナー部,687は中央部,M126は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土しており,廃絶時に遺棄されたと考えられる。その他,681はP1の覆土中,693は貯蔵穴の覆土上層,682・686・690・691・M125は覆土中層,683・684・689は覆土上層の焼土層より上位からそれぞれ出土している。

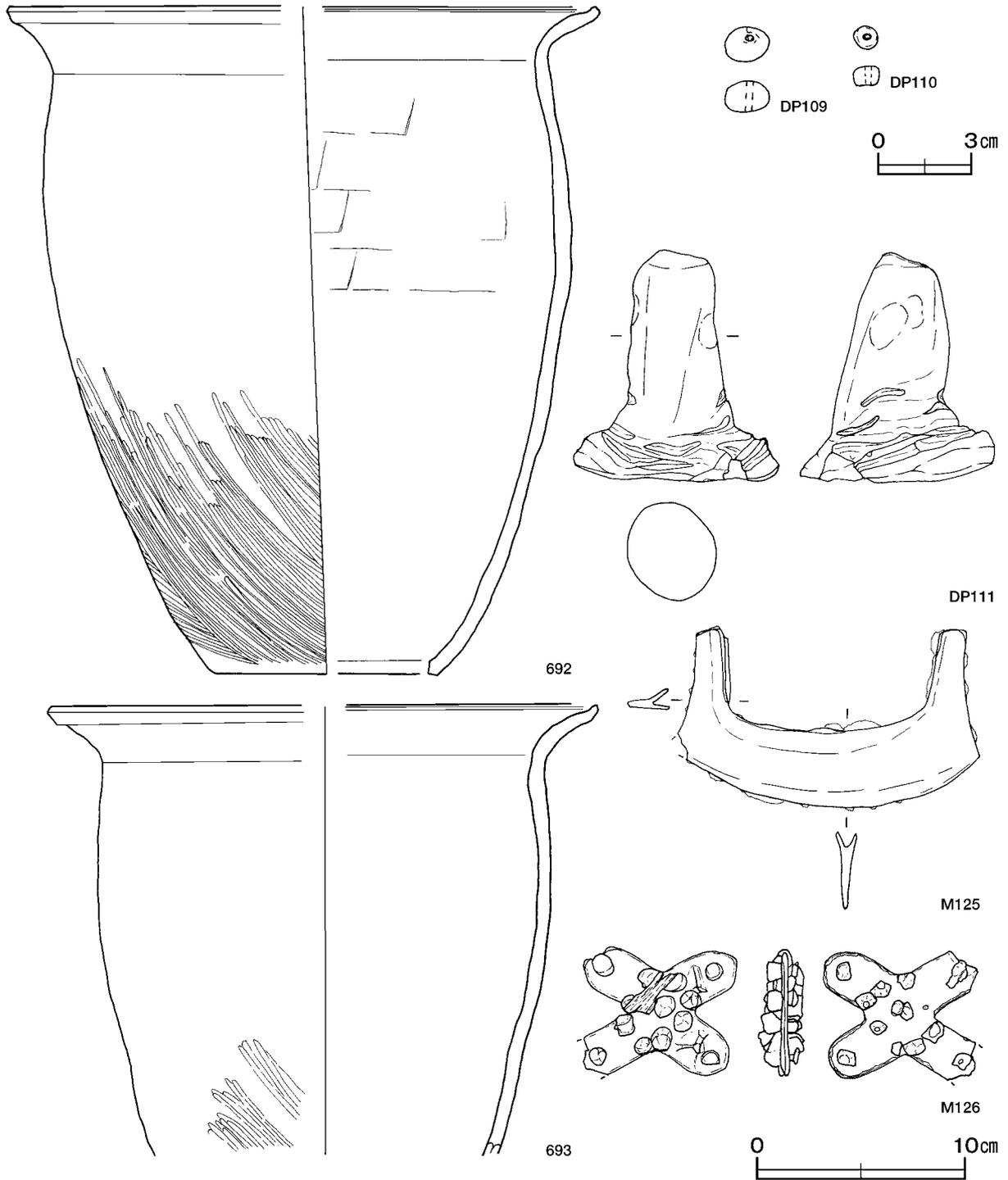
所見 壁側から焼土や炭化材が確認されており,焼失住居と考えられる。また,堆積状況から,人為的に埋め戻した後,中央部で火を使用した形跡が認められる。凹地を利用した祭祀の可能性が考えられるが,その行為については不明である。時期は,出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第442図 第2681号住居跡出土遺物実測図(1)



第443图 第2681号住居跡出土遺物実測図(2)



第444図 第2681号住居跡出土遺物実測図(3)

第2681号住居跡出土遺物観察表 (第442 ~ 444図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
668	土師器	坏	13.8	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	100% PL119
669	土師器	坏	13.4	4.2	-	長石・石英	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	100% PL120
670	土師器	坏	13.1	4.0	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	100% PL119
671	土師器	坏	12.7	4.8	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	95% PL119
672	土師器	坏	14.0	4.0	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL120
673	土師器	坏	12.8	4.0	-	長石・石英	暗赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	100% PL120

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
674	土師器	坏	[12.8]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	85%
675	土師器	坏	14.0	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	100% PL119
676	土師器	坏	14.2	4.3	-	長石・雲母	暗赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL120
677	土師器	坏	13.8	4.9	-	長石・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	90% PL119
678	土師器	坏	14.1	5.3	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	100% PL119
679	土師器	坏	15.1	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	100% PL120
680	土師器	坏	11.8	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	90% PL119
681	土師器	坏	12.5	4.3	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	P 1 覆土中	95% PL119
682	土師器	坏	13.2	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	95% PL119
683	土師器	坏	13.4	(5.2)	-	長石・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	70% PL119
684	土師器	坏	13.5	4.2	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	75% PL120
685	土師器	坏	[11.8]	(4.3)	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内・外面・体部内面ヘラ磨き 外面ヘラ削り	床面	10%
686	須恵器	甗	12.6	16.8	-	長石・石英	灰褐	良好	口辺部外面波状文 体部上位力キメ 下位回転ヘラ削り 中位2条の沈線 刺突文	中層	95% PL120
687	須恵器	平瓶	9.4	(8.0)	-	長石	暗灰黄	良好	口辺部外面力キメ	床面	5%
688	土師器	甗	22.9	36.5	9.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	竈中層	90% PL120
689	土師器	甗	[21.6]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ	上層	15%
690	土師器	甗	[22.8]	(14.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	中層	20%
691	土師器	手捏土器	2.6	2.4	2.5	長石・赤色粒子	灰褐	普通	体部内・外面ナデ 指頭痕	中層	95% PL120
692	土師器	甗	[28.2]	32.5	10.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	貯蔵穴上～下層・床面	65%
693	土師器	甗	[25.9]	(21.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	貯蔵穴上層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP109	小玉	1.35	1.1	0.26	1.8	土(長石)	ナデ 二方向からの穿孔	床面	PL140
DP110	小玉	0.9	0.7	0.23	0.7	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL140

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP111	支脚	11.2	3.1	9.9	424.6	土(長石・石英)	ナデ 基部ヘラナデ	竈火床面	PL138

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M125	鋤先	8.8	(14.7)	1.2	(111.8)	鉄	U字状 断面Y字状 身(着装部)の差込式	中層	PL146
M126	辻金具	7.4	6.3	2.2	56.5	鉄地金銅張	X字状 鋤頭部円形金銅張 裏留具方形 鋤先端部4か所・中央部9か所 表面木質残存(住居廃材カ)	床面	PL147

第2683号住居跡(第445図)

位置 調査区東部のR 5 e8区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2681・2699号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.03m, 短軸4.22mの長方形で, 主軸方向はN - 8° - Eである。壁高は4~14cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

炉 3か所。炉1は中央部, 炉2は中央部東側, 炉3は中央部南寄りにそれぞれ位置している。規模は, 炉1が長径50cm, 短径44cm, 炉2が長径58cm, 短径34cm, 炉3が長径56cm, 短径46cmで, いずれも不整楕円形を呈している。炉床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており, 炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説 (各炉共通)

1 赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

覆土 2層に分けられる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

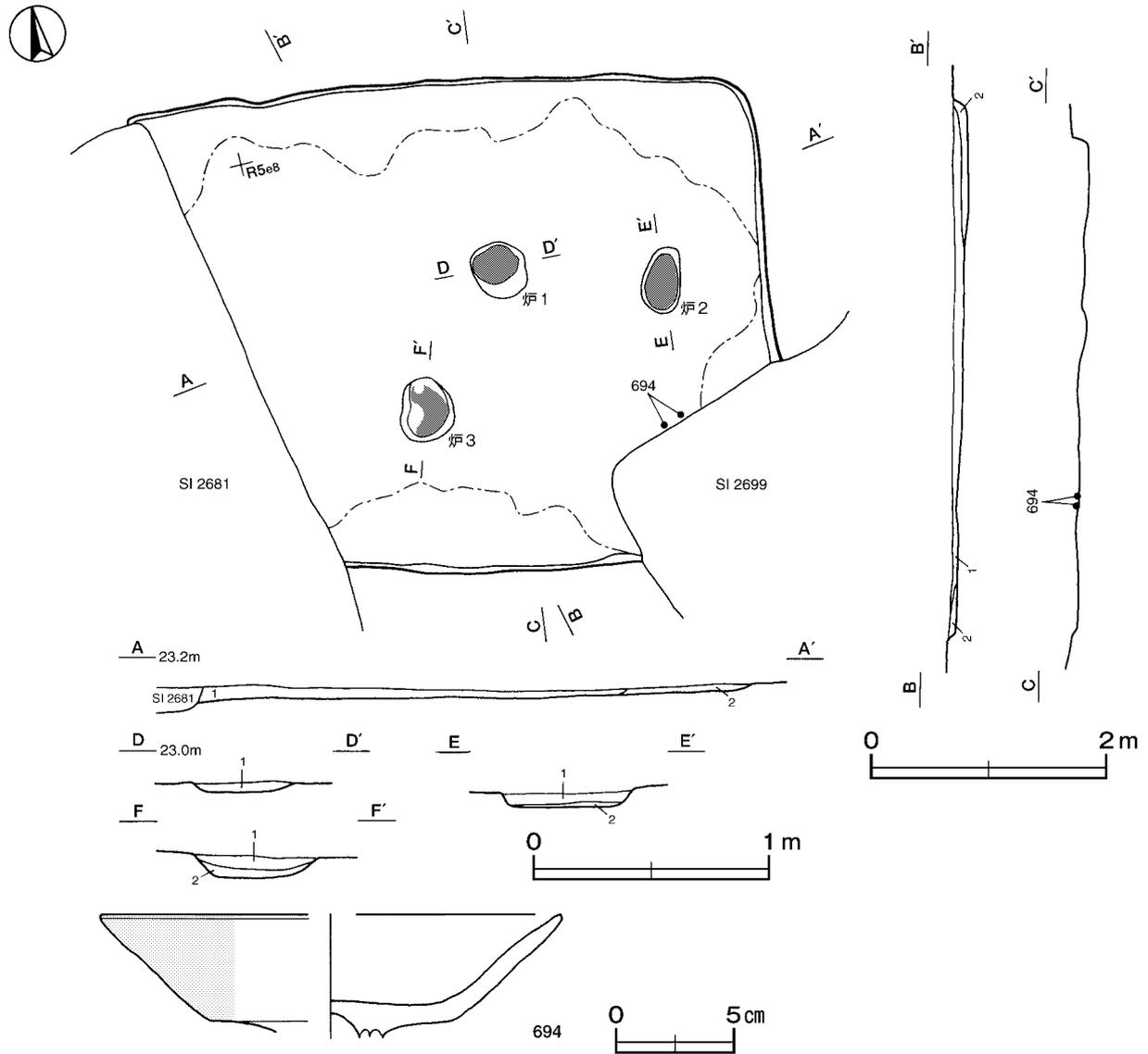
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片96点（坏12 高坏13 甕類71）が出土しており、694は南東部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第445図 第2683号住居跡・出土遺物実測図

第2683号住居跡出土遺物観察表（第445図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
694	土師器	高坏	[18.8]	(5.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体内内・外面横ナデ	床面	30%

第2685号住居跡（第446～449図）

位置 調査区東部のR 6 e3区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2686号住居、第486号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.78m、短軸3.72mの方形で、主軸方向はN - 24° - Wである。壁高は27～33cmで、外傾し

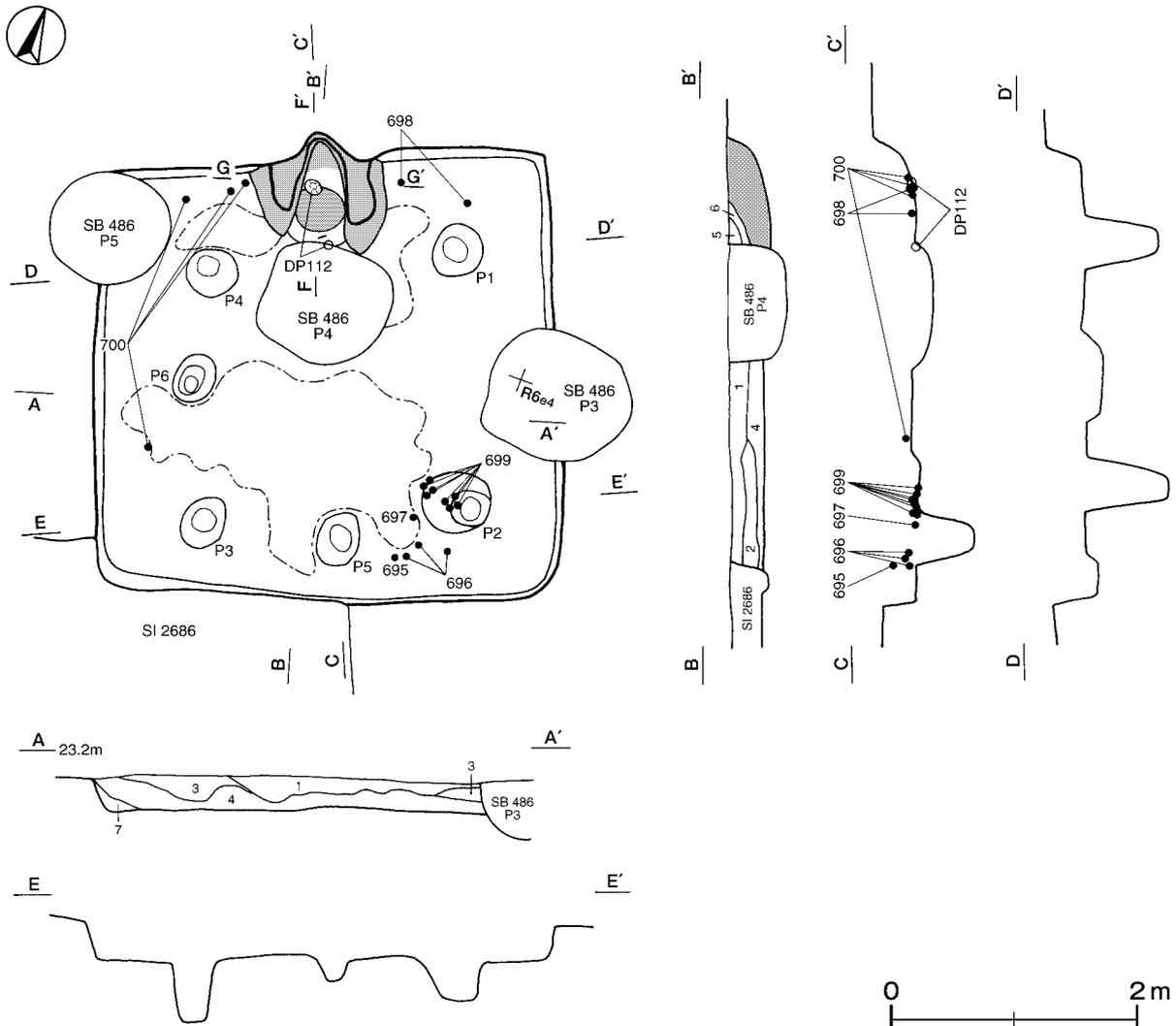
て立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅104cmである。袖部は床面を14cmほど掘りくぼめて第13層を充填し、半截された土師器甕を転用して基部を作り、その上部に砂質粘土を主体とする第7～12層を積み上げて構築している。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。焚口部から西寄り52cmの位置に支脚が据えられている。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、奥壁が外傾して立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第8・10層を貼り付けて補強している。覆土は第1～6層に分けられ、第2・4層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。各層は焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 12 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, 砂質粘土粒子少量 | 13 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | | |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |
| 8 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第446図 第2685号住居跡実測図

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは40～70cmである。P5は深さ51cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ21cmで、P3とP4の中央部に位置していることから、支柱穴と考えられる。

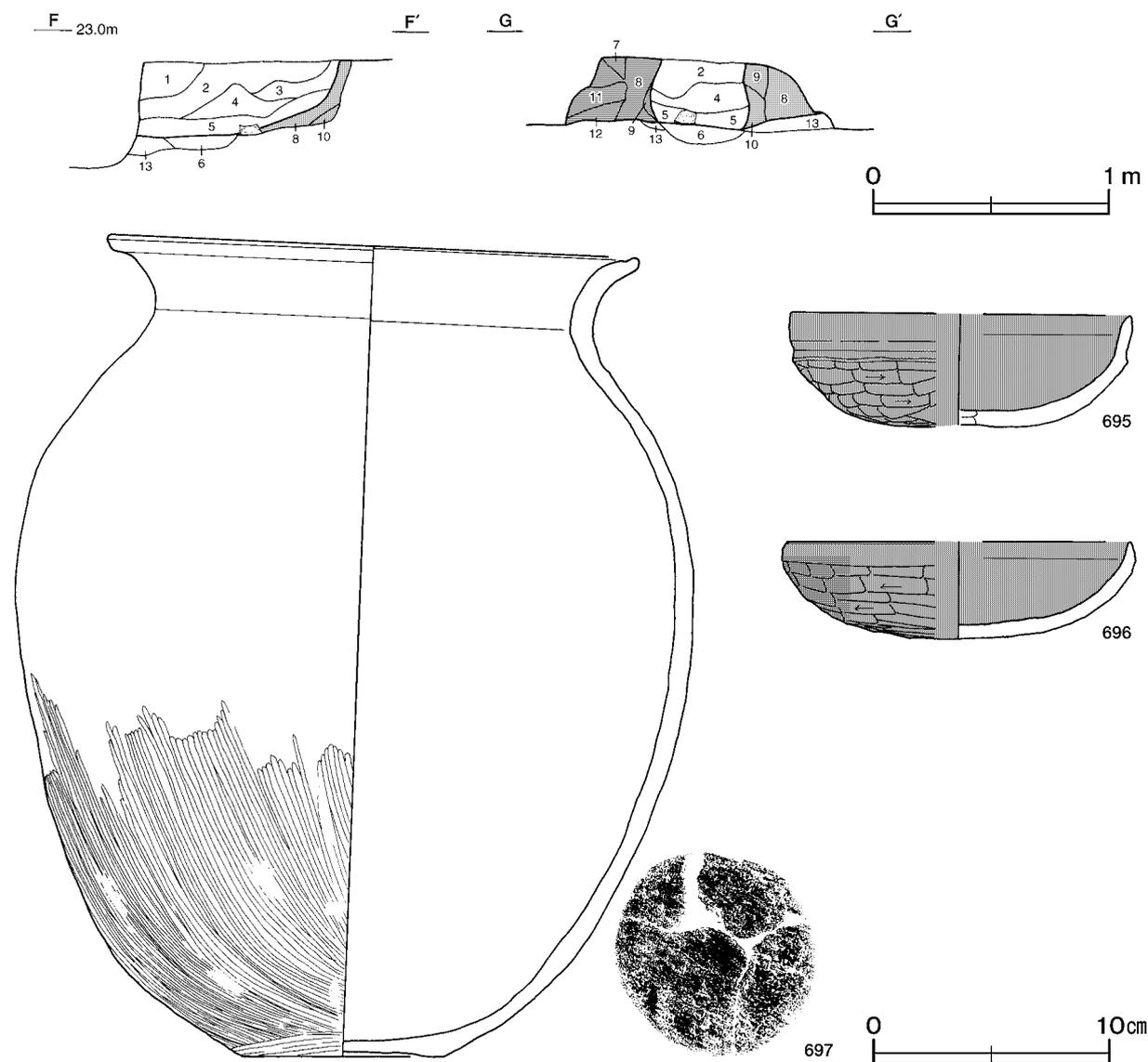
覆土 7層に分けられる。ロームのブロックや粒子を多量に含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

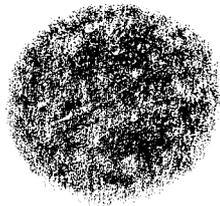
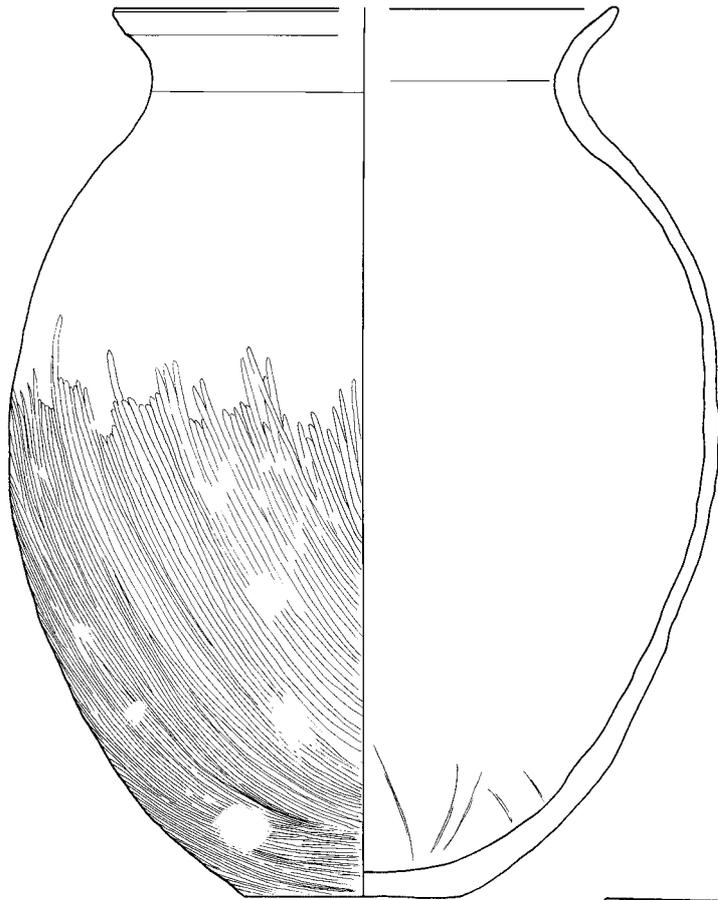
- | | | | |
|-------|--------------------------|---------|-----------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片665点(坏32, 甕類633), 土製品1点(支脚), 粘土塊7点が出土している。698は北東コーナー部, 697・699はP2周辺の床面からそれぞれ押しつぶされた状態で出土している。700は竈の左袖部際に逆位で立て掛けられた状態で出土しているほか、西側の床面に広く散在している。DP112は基部が火床部に据えられたままの状態で出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。その他, 695・696は南側の覆土上層から中層にかけて出土している。

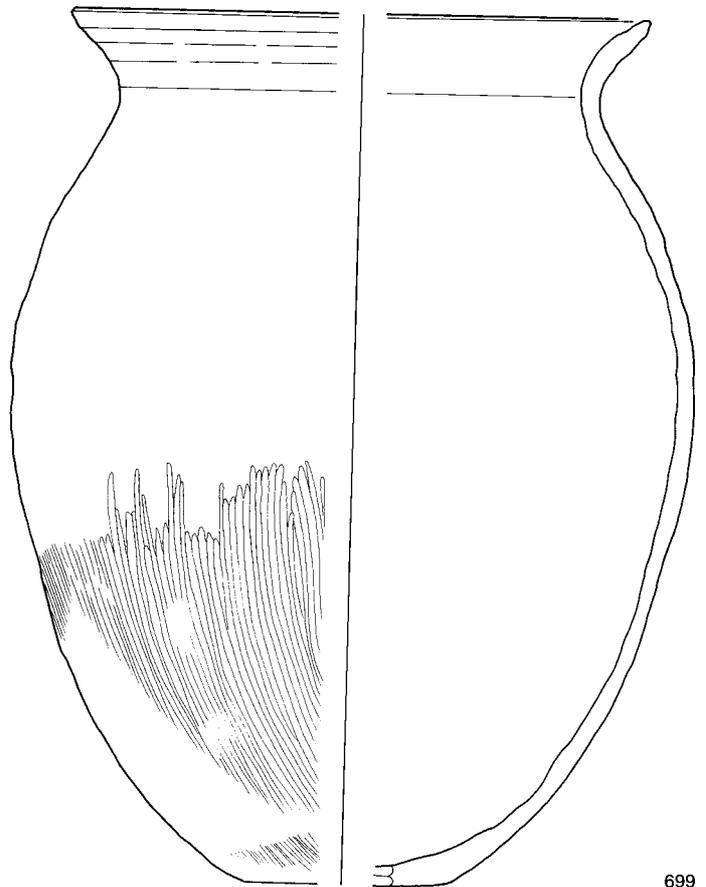
所見 完形もしくは完形に近い状態の甕が主柱穴の周辺や壁際に寄った位置から出土しており、煮炊き具の収納状況がうかがえる。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第447図 第2685号住居跡・出土遺物実測図



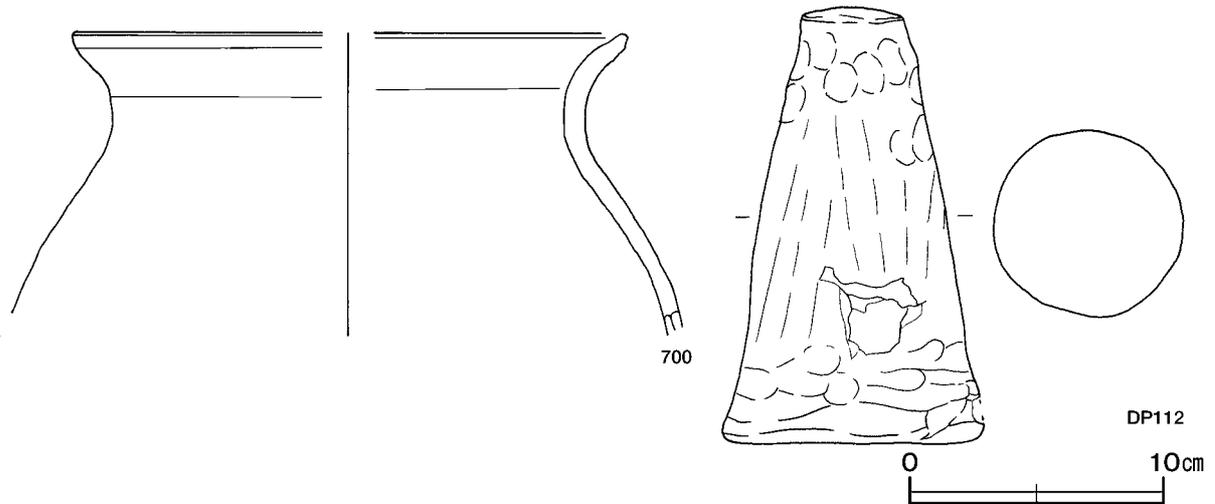
698



699



第448图 第2685号住居跡出土遺物実測図(1)



第449図 第2685号住居跡出土遺物実測図(2)

第2685号住居跡出土遺物観察表 (第447～449図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
695	土師器	坏	[14.4]	4.8	-	長石・石英	黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	40%
696	土師器	坏	[14.5]	4.2	-	長石・石英	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	40%
697	土師器	甗	21.2	35.2	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	床面	95% PL121
698	土師器	甗	[19.6]	35.4	8.4	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	90% PL121
699	土師器	甗	[22.2]	35.0	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	35%
700	土師器	甗	[21.8]	[11.9]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	15%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP112	支脚	17.3	4.1	10.3	(846.5)	土(長石・石英)	ナデ 火を受けている にぶい黄橙色	竈火床面	PL138

第2686号住居跡 (第450～451図)

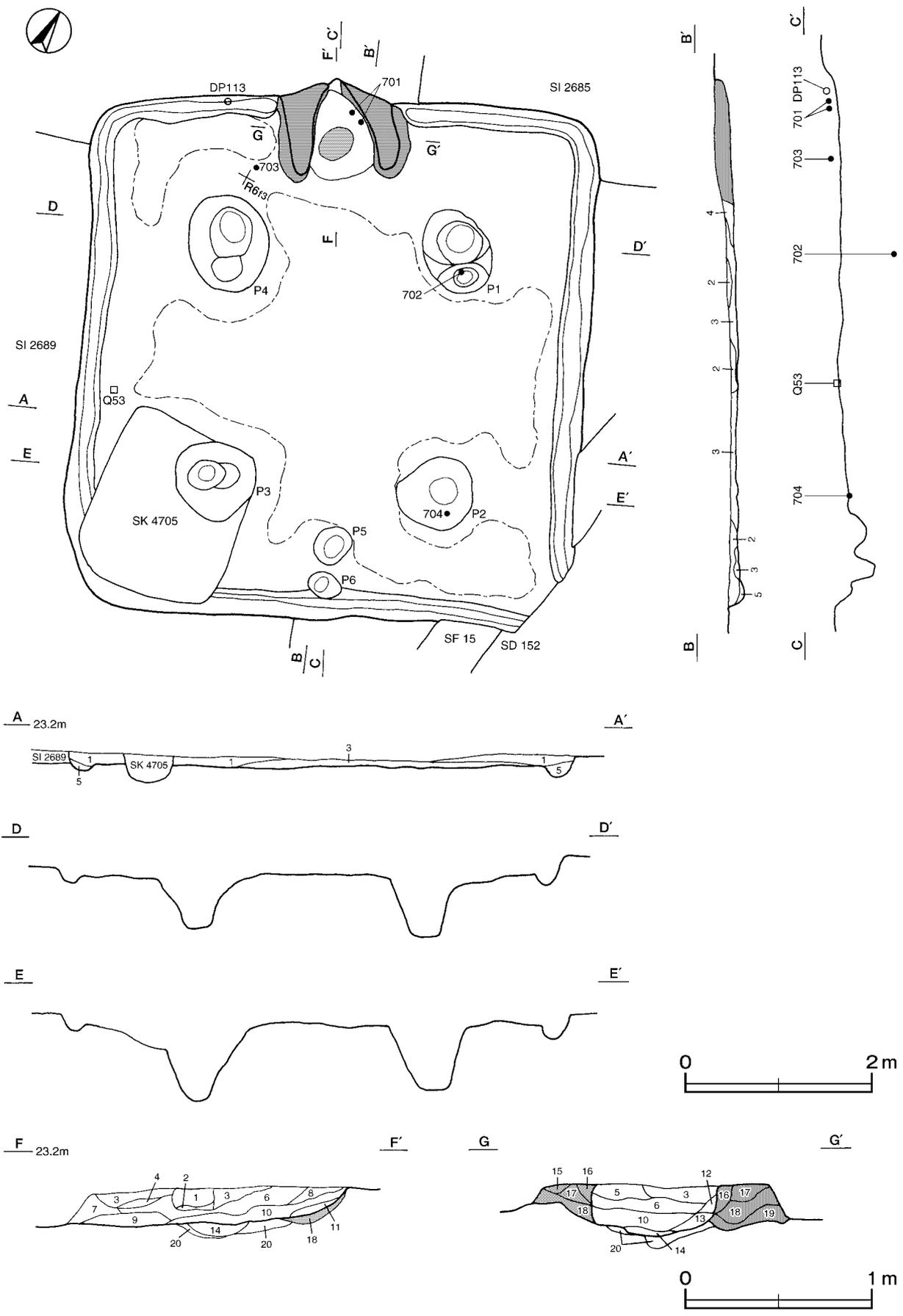
位置 調査区東部のR 6 f3区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2685・2689号住居跡を掘り込み, 第152号溝, 第15号道路, 第4705号土坑に掘り込まれている。

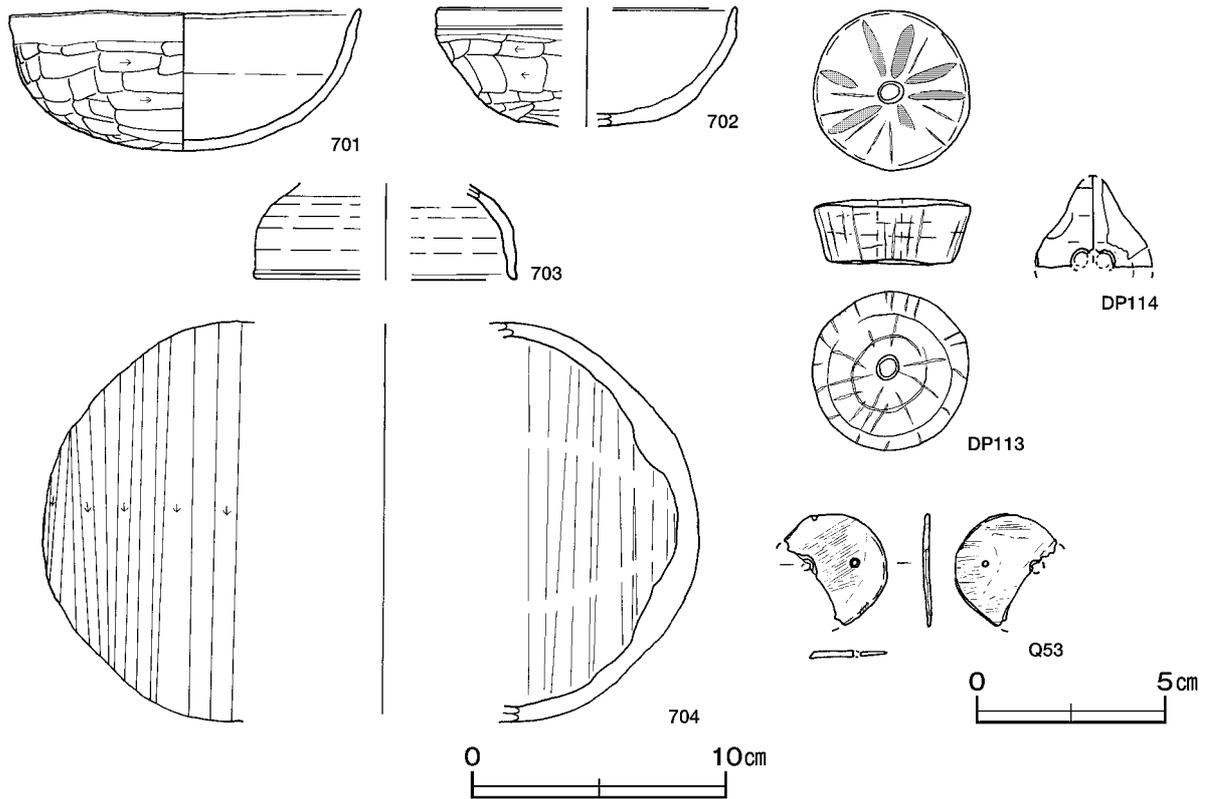
規模と形状 長軸5.64m, 短軸5.42mの方形で, 主軸方向はN - 27° - Wである。壁高は10～20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 支柱穴の内側が踏み固められている。壁下には, 幅20～26cm, 深さ8～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅138cmである。袖部は床面を6cmほど掘りくぼめて第20層を充填し, その上部に砂質粘土を主体とする第15～19層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。上部には灰層の第10層が堆積しており, 灰の中には魚骨片も含まれている。層厚は18cmである。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ, 火床部から緩やかに彎曲して立ち上がっている。奥壁には砂質粘土粒子を含む第18層を貼り付けて補強している。覆土は第1～13層に分けられ, 第1・2・4・5層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。各層はロームブロックや炭化粒子を多く含む人為堆積である。



第450图 第2686号住居跡実测图



第451図 第2686号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子微量 | 10 にぶい黄橙色 | 灰中量, 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 11 黒色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄橙色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 8 黒色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 17 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 18 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| | | 19 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | | 20 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは58～81cmである。P1・P4は北側が深く掘り直されており、柱の立て替えの痕跡がみられる。P5・P6は、深さ21～22cmで、南壁際の中央部に位置していることから、ともに入出口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分けられる。床面の中央部にローム粒子を含む人為堆積が認められることから、廃絶後間もなく埋め戻されたと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|---------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片468点(坏83, 高坏1, 甕類383, 手捏土器1), 須恵器片13点(坏9, 蓋1, 横瓶1, 甕2), 土製品3点(鈴, 支脚, 紡錘車), 石器1点(砥石), 石製品1点(双孔円板), 鉄製品3点(不明)が出土している。また, 竈の灰層中からは魚骨片が出土しているが, 小片のため種類の同定には至っていない。702はP1の埋土下層, 704はP2の埋土上層から出土しており, 柱の立て替えに伴い混入した遺物と考えられる。その他, Q53は西壁際の覆土下層, 701は竈の覆土中層, 703は竈の西側, DP113は北壁際の覆土上層から

それぞれ出土しており、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第2686号住居跡出土遺物観察表（第451図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
701	土師器	坏	13.6	5.7	-	長石・石英	明褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	竈中層	80% PL121
702	土師器	坏	[11.6]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	P 1 下層	20%
703	須恵器	蓋	[10.2]	(3.8)	-	長石	黄灰	良好	体部内・外面口ロナデ 天井部回転ヘラ削り	上層	15%
704	須恵器	横瓶	-	(15.9)	-	長石	灰	良好	体部外面右回りの回転ヘラ削り 内面口ロナデ	P 2 上層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP113	紡錘車	4.2	1.8	0.6	35.1	土(長石・石英)	ヘラ磨き 側面ヘラ削り 二方向からの穿孔 放射状の墨書・刻書有	上層	PL139

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP114	土鈴	(2.9)	(2.4)	0.6	(4.5)	土(長石・石英・雲母)	ナデ 円孔有	下層	PL138

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q53	双孔円板	(3.0)	0.26	0.14	(2.6)	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	下層	PL144

第2689号住居跡（第452図）

位置 調査区東部のR 6 f 2区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2686・2687・2691・2697号住居、第78号方形竪穴遺構、第4705号土坑に掘り込まれている。遺構の重複と耕作などによる削平のため、遺存状態は悪い。

規模と形状 南北軸は7.72m、東西軸は6.48mを確認している。南北軸の方向はN - 19° - Wである。壁高は最も残りの良い北側が18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。西壁側には、幅14～18cm、深さ15～19cmで浅いU字状の断面を呈する間仕切り溝が2条存在し、西端部を第2697号住居に掘り込まれているが、現存する長さは82～150cmを確認している。また、壁側から中央部にかけて、角柱状の炭化材が放射状またはそれと直交する方向に散在しており、焼失住居と考えられる。

ピット 2か所。P1・P2は支柱穴で、深さは15～68cmである。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長径145cm、短径59cmの楕円形で、深さは21cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土はロームや焼土のブロックを含む人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量 3 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

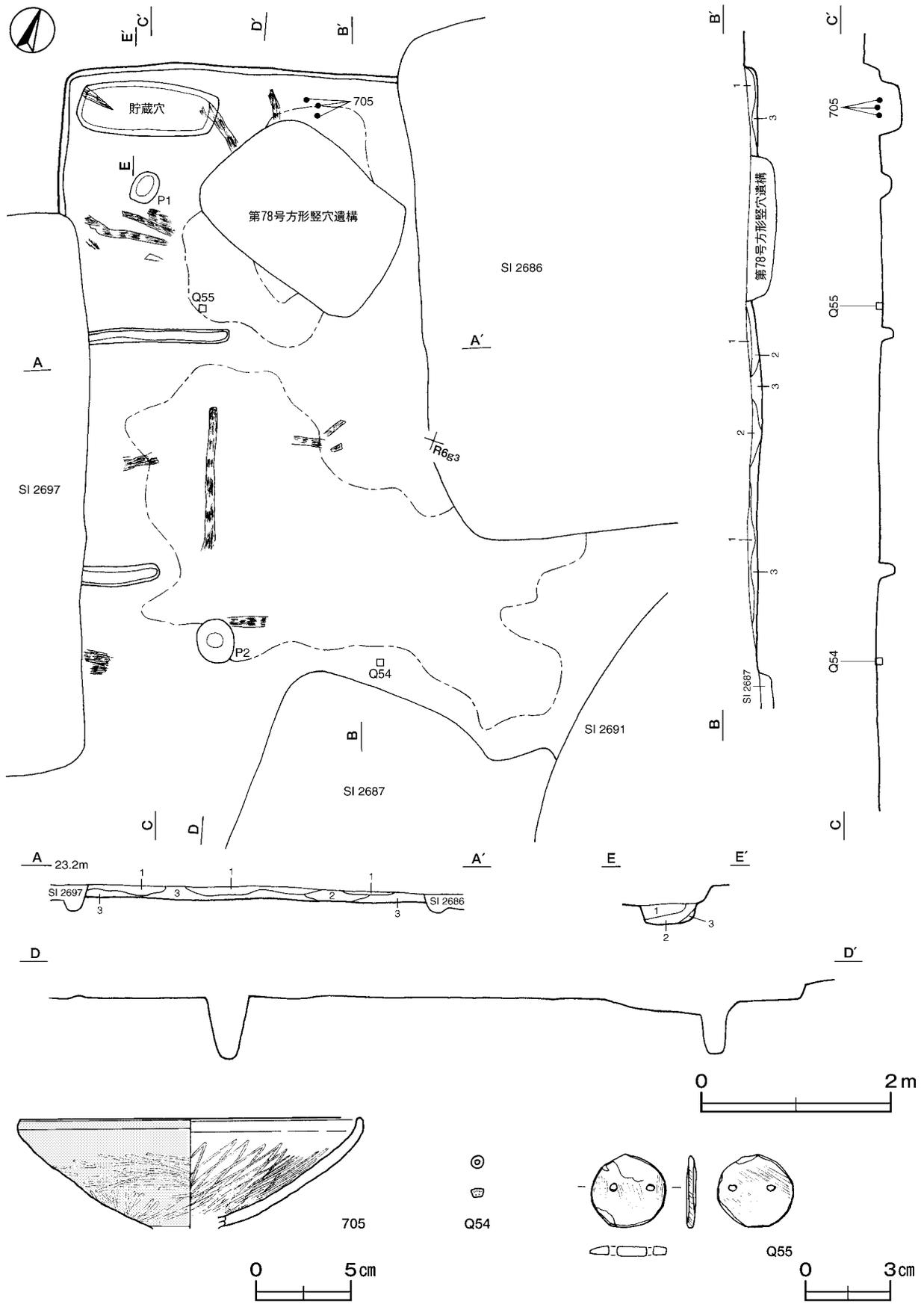
覆土 3層に分けられる。各層はロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 炭化材少量，ローム粒子・焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化材中量，ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片124点（坏39，高坏6，甕類79），石製品2点（白玉，双孔円板）が出土している。705は北側，Q55は西側，Q54は南側の床面からそれぞれ出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 床面の壁側から中央部にかけて炭化材が確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第452图 第2689号住居跡・出土遺物実測図

第2689号住居跡出土遺物観察表（第452図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
705	土師器	高坏	17.8	(5.9)	-	長石・石英	赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	床面	45% PL121

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q54	白玉	0.5	0.4	0.2	0.2	滑石	円筒状 両面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL144
Q55	双孔円板	2.7	0.36	0.28	3.9	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL144

第2690号住居跡（第453・454図）

位置 調査区北東部のQ6i6区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第92号堀，第150・151号溝，第4610号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部から南部を第92号堀に掘り込まれているため，南北軸5.51m，東西は軸5.92mだけが確認された。主軸方向がN-30°-Wの長方形と推定される。壁高は10～32cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。第92号堀，第150号溝に掘り込まれているため，東壁から南壁の一部は確認できないが，壁下には幅6～21cm，深さ2～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈1は北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで123cm，袖部幅93cmである。袖部はローム混じりの砂質粘土で構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に23cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈2は北壁中央部に付設されている。床面を精査したところ火床面が確認され，焚口部や袖部の痕跡が検出された。竈の作り替えが行われたため全体の形状は不明である。竈2の袖部が遺存しないことや壁溝の範囲から，竈2から竈1へ作り替えたと考えられる。

竈1土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	7 灰黄褐色	炭化物・砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2 灰黄色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量	8 黒褐色	炭化物中量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
3 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	9 黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量
4 灰褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量	10 にぶい赤褐色	炭化物多量，焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量，ロームブロック微量
5 暗赤灰色	焼土ブロック・炭化物多量，ロームブロック少量	11 灰褐色	焼土ブロック多量，炭化物少量
6 にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量		

ピット 9か所。P1～P4は主柱穴で，深さは75～92cmである。P5は深さ24cmで，竈に向かい合う南壁際に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9の性格は不明である。

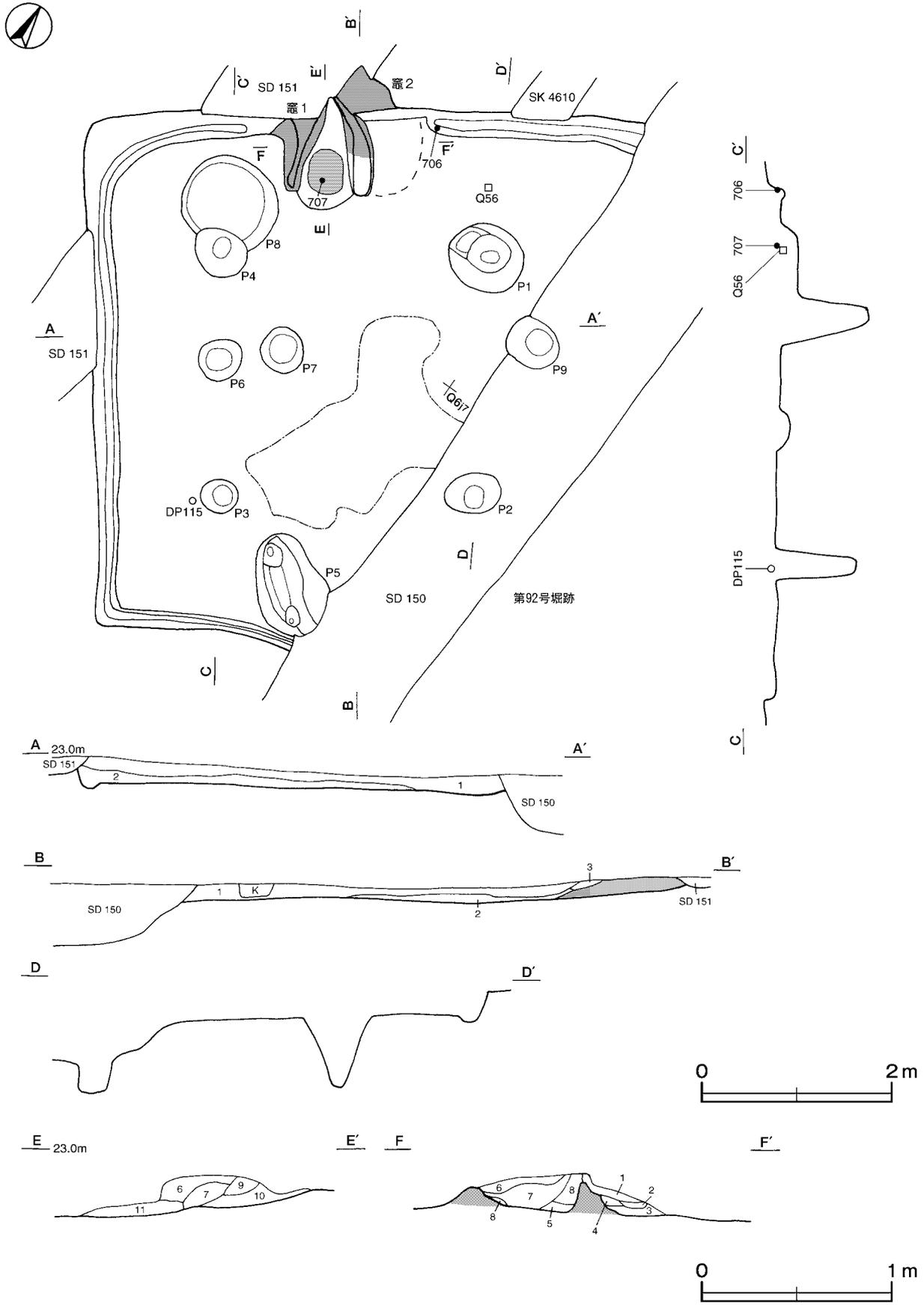
覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

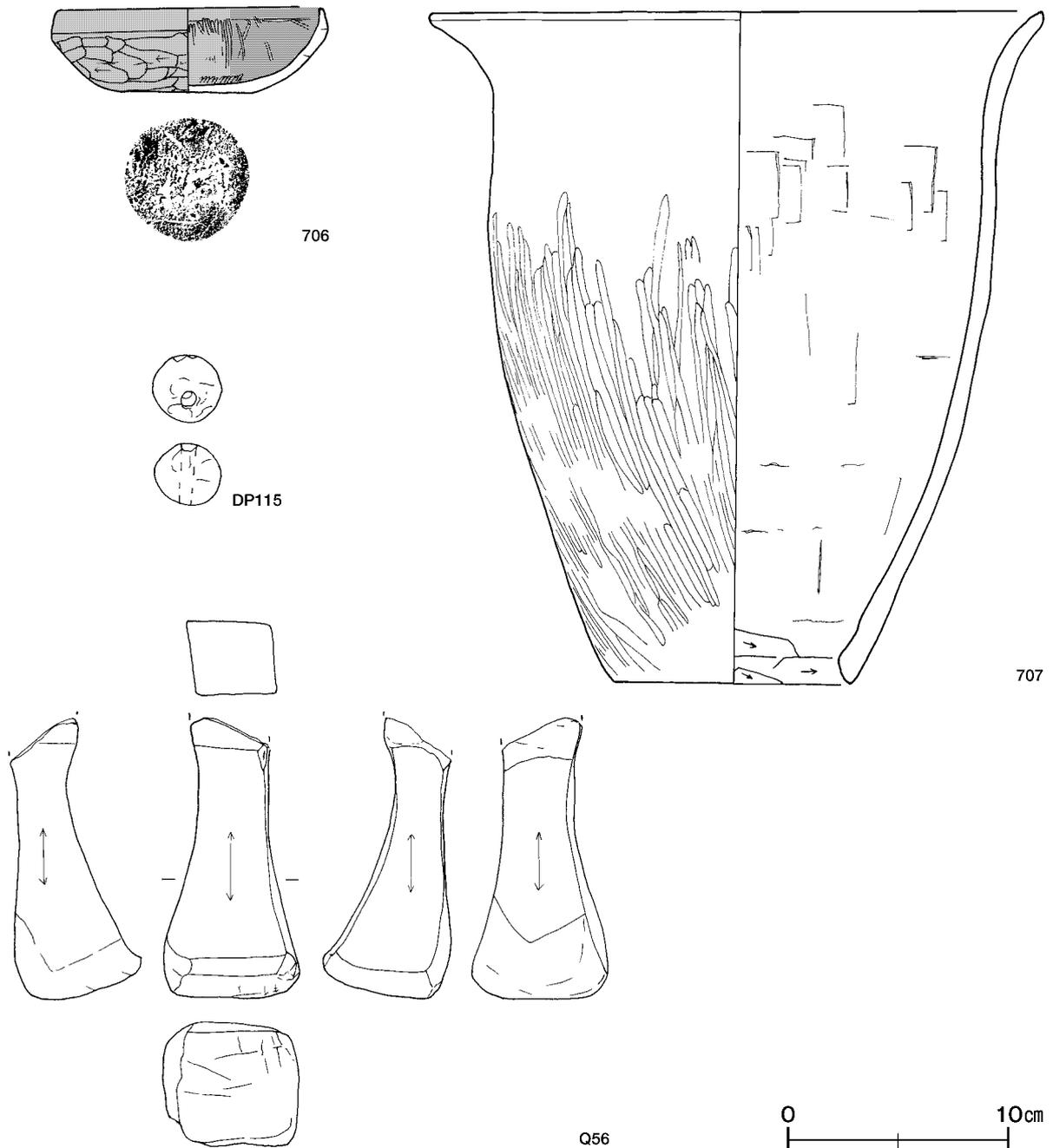
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	3 灰褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片327点（坏52，高坏3，甕226，甗46），土製品1点（球状土錘），石器1点（砥石）が竈周辺と南西部の覆土上層から下層にかけて集中して出土している。また，混入した土師質土器片1点も出土している。706はほぼ完形の状態で北壁中央部壁際の覆土下層から出土している。707は竈火床面から口縁部を焚口部へ向け，土圧でつぶれた状態で出土し，それぞれ廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP115は南西部，Q56は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第453图 第2690号住居跡実測图



第454図 第2690号住居跡出土遺物実測図

第2690号住居跡出土遺物観察表（第454図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
706	土師器	坏	12.0	4.0	5.8	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 積み痕 内面へラ磨き 体部外面へラ削り 輪	下層	70% PL122
707	土師器	甌	28.0	30.9	10.8	長石・石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 体部内面へラナデ 内面下端へラ削り 輪積み痕	竈火床面	90% PL123

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP115	球状土錘	3.1	2.8	0.5	23.4	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL140

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q56	砥石	(12.9)	6.2	5.8	(374.6)	凝灰岩	砥面4面 他は破断面	下層	PL142

第2692号住居跡 (第455・456図)

位置 調査区東部のR 5 g 0区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2684・2697・2705号住居, 第488号掘立柱建物, 第153号溝, 第4708号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 遺構の重複により遺存状態が悪く, 南北軸は4.20m, 東西軸は3.94mを確認している。主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は11~12cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 確認できた部分はほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

炉 中央部西側に位置しているが, 第2684号住居の掘り込みによって大半が失われている。わずかに焼土範囲が認められるのみで, 規模や形状, 堆積状況は不明である。

覆土 2層に分けられる。全体的にロームブロックを含む人為堆積である。

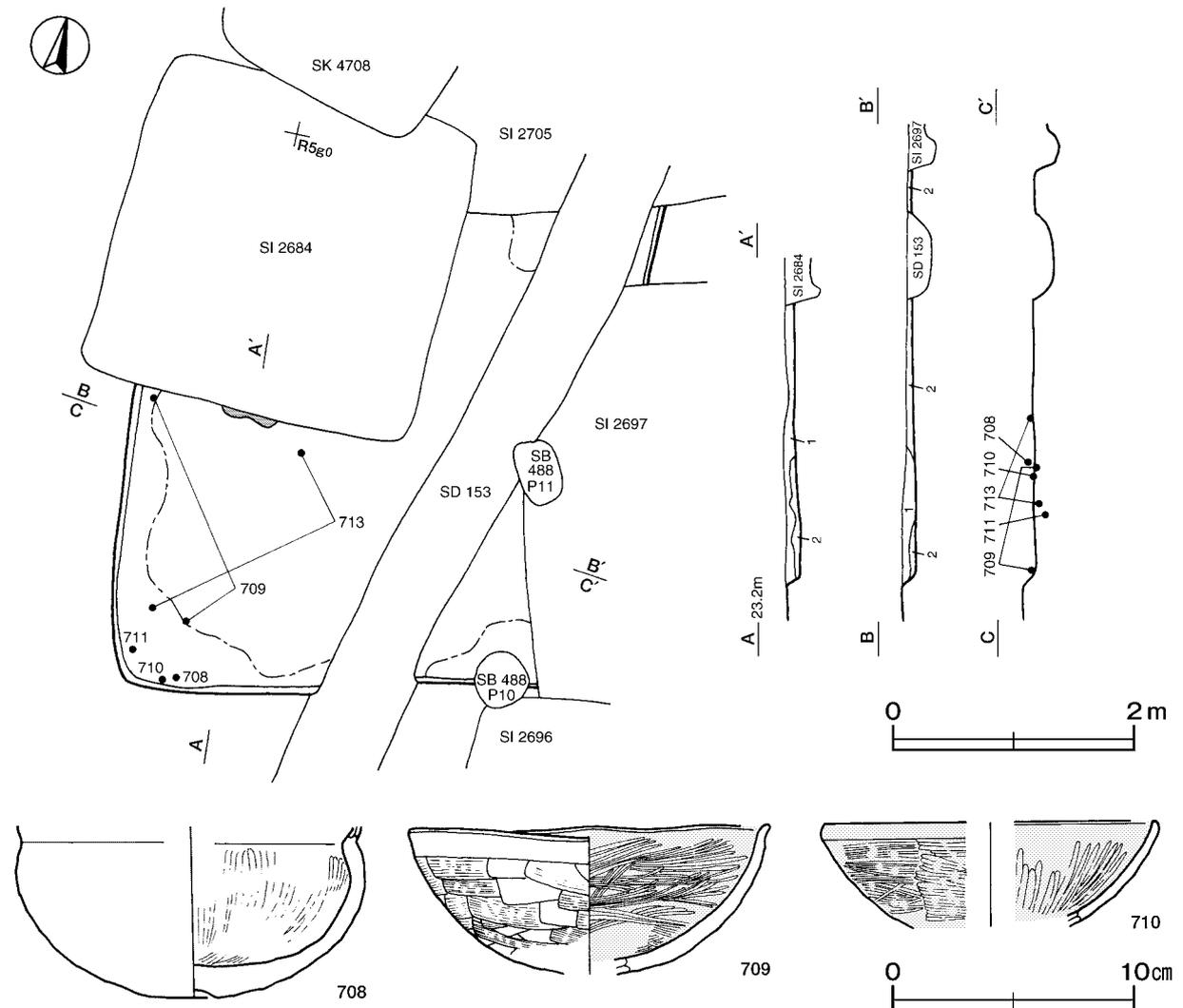
土層解説

1 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

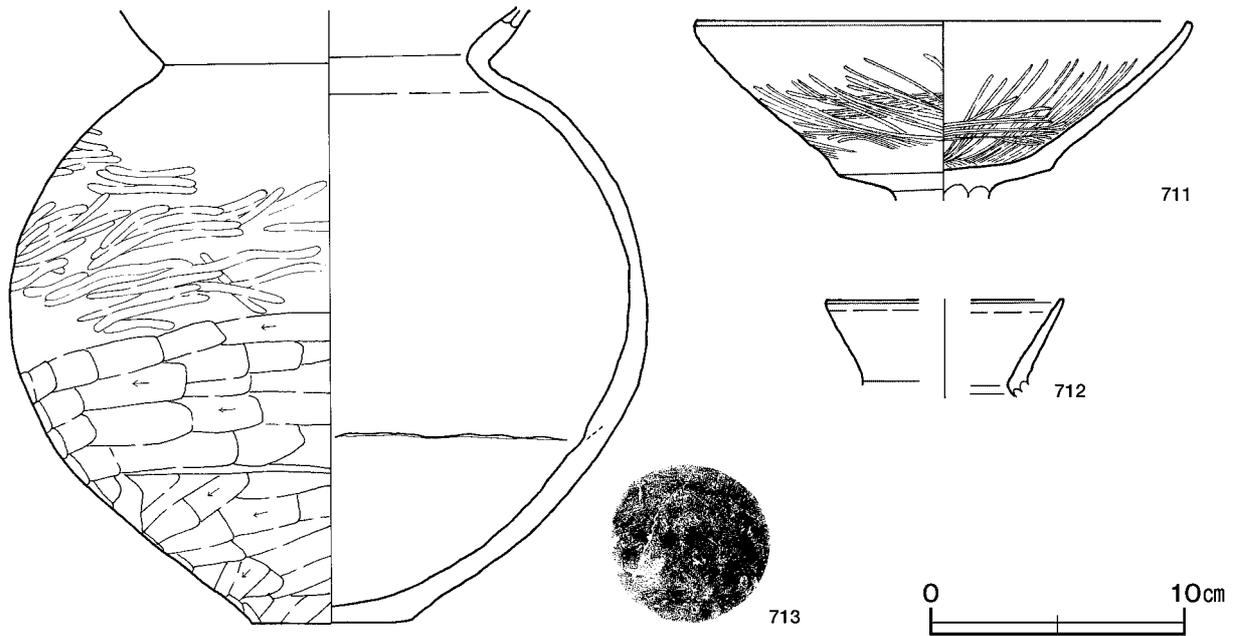
2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片336点(坏66, 高坏5, 壺5, 甕類252, 甑8)が出土している。713は南東部と中央部の床面から破片の状態出土し, 710・711は南西コーナー部の床面から出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。708・709は西壁際及び南西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第455図 第2692号住居跡・出土遺物実測図



第456図 第2692号住居跡出土遺物実測図

第2692号住居跡出土遺物観察表（第455・456図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
708	土師器	坏	-	(7.1)	2.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き	下層	70% PL122
709	土師器	坏	14.8	(6.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラ磨き	下層	70% PL122
710	土師器	坏	[13.6]	(4.4)	-	長石・雲母	赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	床面	15%
711	土師器	高坏	18.5	(7.2)	-	長石・石英	暗赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	床面	45% PL122
712	土師器	小形壺	[9.2]	(3.9)	-	長石・石英	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	5%
713	土師器	甕	-	(24.4)	6.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部上位ヘラ磨き 下位ヘラ削り 内面輪積み痕	床面	85% PL122

第2693号住居跡（第457・458図）

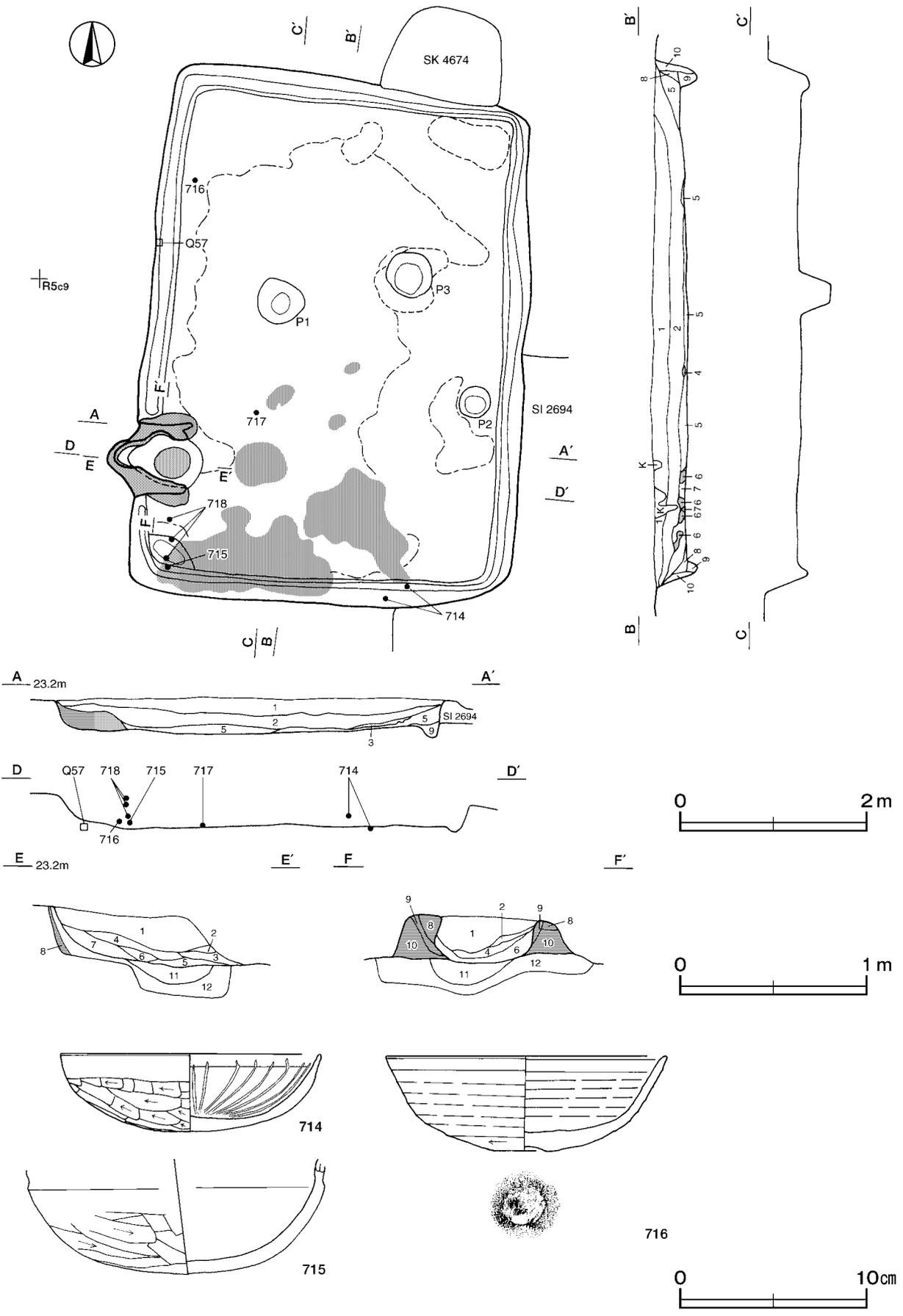
位置 調査区東部のR 5 c9区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2694号住居跡を掘り込み，第4674号土坑に掘り込まれている。

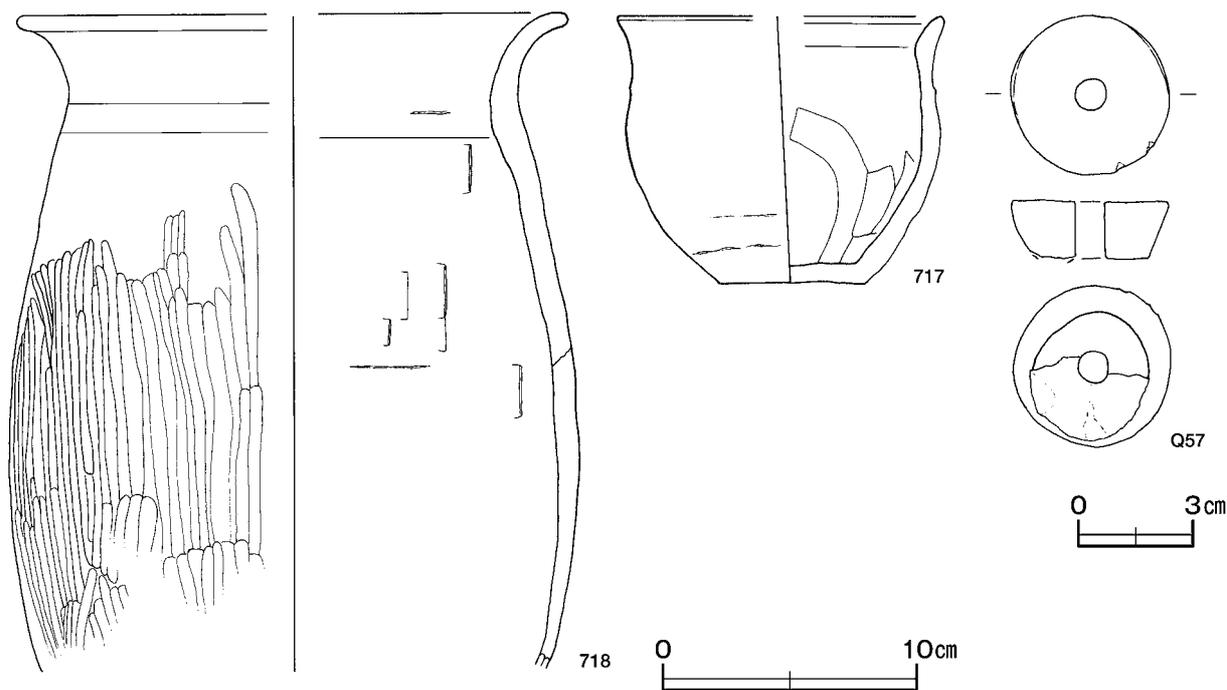
規模と形状 長軸5.57m，短軸4.01mの長方形で，主軸方向はN - 85° - Wである。壁高は23～37cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，北東・南東・北西コーナー部を除いた壁際まで踏み固められている。壁下には，幅16～25cm，深さ8～18cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北東部には焼土が堆積している。また，南壁際から中央に向かって流れ込んだように粘土塊が堆積している。

竈 西壁の南西コーナー部寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで96cm，袖部幅102cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第11・12層を充填し，その上部に砂質粘土を主体とする第8～10層を積み上げて構築している。火床部は床面を3cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。また，6cmの厚さで灰が堆積している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ，火床部から急に傾斜して立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第8層を貼り付けて補強している。覆土は第1～7層に分けられ，第1・2層は天井部の崩落土層に相当する。各層ともロームや焼土のブロックを含む人為堆積である。



第457图 第2693号住居跡・出土遺物実測図



第458図 第2693号住居跡出土遺物実測図

甕土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|----------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量 | 8 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量，焼土粒子微量 | 9 赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい橙色 | 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 灰中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量 | | |

ピット 3か所。P1は深さ32cmで、抜き取り痕が確認できることから柱穴の可能性が高い。P2は深さ12cmで、竈に向かい合っていることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P3は深さ16cmで、覆土上層には焼土や炭化材が堆積している。性格は不明であるが、本跡に伴うものと考えられる。

覆土 10層に分けられる。第3～7層には、炭化物やロームブロック，砂質粘土ブロックが含まれているが，第1・2層は，含有物が細粒かつ微量であり，地表面の土が流入した堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物多量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，炭化粒子少量 | 10 褐灰色 | ローム粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | | |
| 6 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片717点（坏110，椀1，高坏3，鉢1，甕類585，小形甕2，甗15），須恵器片33点（坏19，蓋4，甕類10），土製品1点（支脚），石製品1点（紡錘車）のほか，石1点，鉄滓1点が南部の覆土上層から下層にかけて出土している。また，混入した平安時代の土師器片21点，灰釉陶器2点も出土している。714は南壁際東寄りの覆土下層から床面にかけて出土した破片が接合し，715は南西コーナー部の壁際，716は北西部の覆土下層からそれぞれ出土している。また，717は中央部南西寄りの床面から出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。718は南西コーナー部の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものであり，廃絶後に遺棄されたものと考えられる。Q57は西壁際北寄りの覆土下層から出土している。

所見 焼土や炭化材の広がりや粘土に火を受けた痕跡があること，また覆土中に炭化物が検出されることなど

から焼失住居と考えられる。また、多量の粘土堆積や住居の形状、P3の堆積状況から工房の可能性が考えられるが、何の工房かは不明である。時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第2693号住居跡出土遺物観察表（第457・458図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
714	土師器	坏	14.0	4.2	-	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状の暗文	下層・床面	70% PL121
715	土師器	坏	-	(6.2)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	70%
716	須恵器	坏	14.9	5.1	3.5	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	淡黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	75% PL121
717	土師器	小形甕	[12.6]	10.6	5.7	長石・石英・雲母・礫	橙	不良	口辺部内・外面横ナデのナデ 内面ヘラナデ 体部外面輪積み痕残し	床面	60% PL132
718	土師器	甑	[21.4]	(26.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積み痕	上～下層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q57	紡錘車	3.2	1.6	0.8	(44.1)	粘板岩	円錐台形 両面研磨 二方向からの穿孔	下層	PL142

第2694号住居跡（第459・460図）

位置 調査区東部のR 5 c0区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2693・2698号住居、第153号溝、第4654・4655・4725号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.48m、短軸4.29mの長方形で、主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は15～19cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部北寄りと南部が踏み固められている。南西コーナー部に焼土、西壁南寄りに粘土とその周りに焼土が、それぞれ流れ込むように堆積している。

炉 2か所。炉1は中央部東寄りに位置している。長径68cm、短径51cmの楕円形で、床面を浅く掘りくぼめた地床炉で、炉床面は赤変硬化している。炉2は中央部に位置している。長径69cm、短径56cmの楕円形で、床面を浅く掘りくぼめた地床炉で、炉床面はわずかに赤変している。

炉1土層解説

1 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量

炉2土層解説

1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量

覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。壁際の覆土中や中央部の覆土上層に炭化材や炭化物が含まれている。

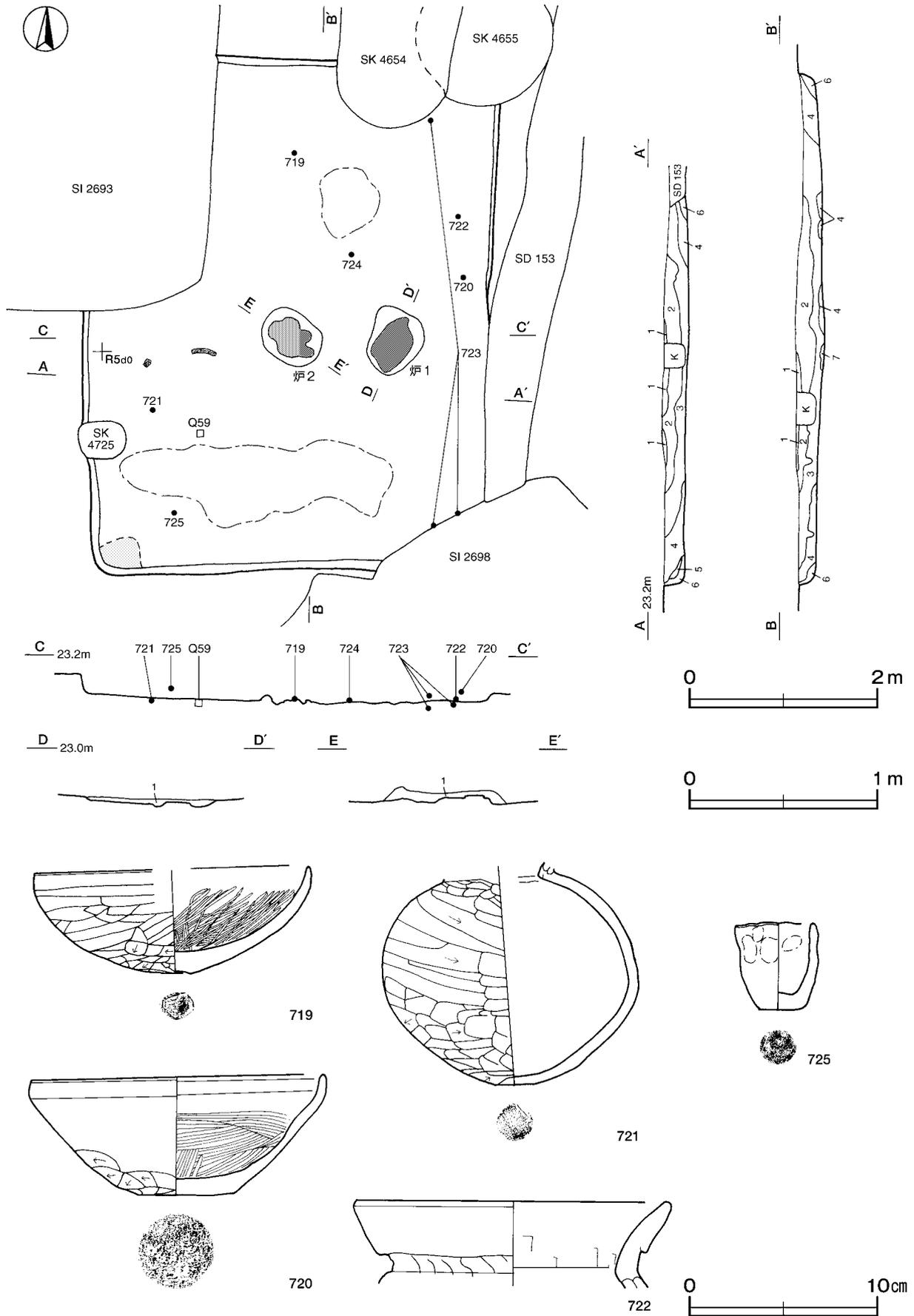
土層解説

1 灰黄褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
 2 黒色 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量
 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 褐色 ロームブロック中量、炭化材・焼土粒子微量

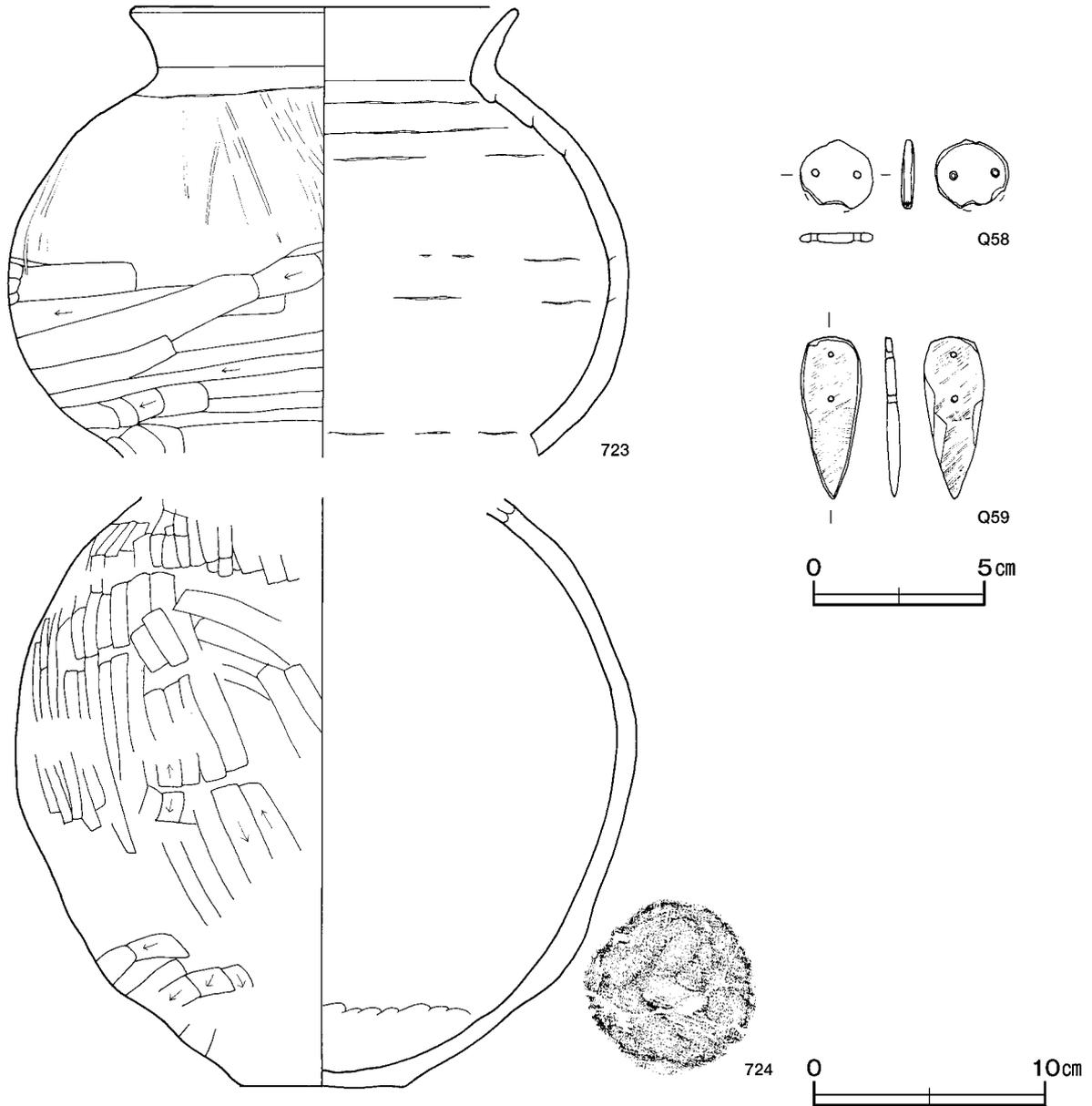
5 暗灰黄色 ロームブロック・炭化粒子少量
 6 オリーブ褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量

遺物出土状況 土師器片168点（坏26、埴2、鉢1、甕類137、甑1、ミニチュア土器1）、石製品2点（双孔円板、剣形模造品）のほか、石1点が北東部から南西部の覆土下層を中心に出土している。また、混入した平安時代の土師器片1点、須恵器片7点も出土している。719は中央部北寄り、721は南西部、722は東壁際中央、724は中央部の床面からそれぞれ出土し、いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。720は東壁際の中央、725は南西部の覆土下層からそれぞれ出土し、723は北東部と南東部の覆土下層から床面に掛けて出土した破片が接合したものである。いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。Q58は覆土中、Q59は南西部の床面から出土している。

所見 壁際の焼土や炭化材の広がりから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第459图 第2694号住居跡・出土遺物実測図



第460図 第2694号住居跡出土遺物実測図

第2694号住居跡出土遺物観察表 (第459・460図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
719	土師器	坏	[14.6]	5.9	1.6	長石・石英・小礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上位ヘラナデ 中から下位ヘラ削り後磨き 内面ヘラ磨き	床面	65% PL122
720	土師器	坏	15.5	6.6	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上位ナデ 下位ヘラ削り 内面ヘラナデ後ヘラ磨き	下層	95% PL122
721	土師器	埴	-	(12.0)	2.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面上位ヘラ削り後ナデ 下位ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	75%
722	土師器	甕	16.8	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	折返し口縁 口辺部内・外面横ナデ	床面	10%
723	土師器	甕	16.4	(19.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上位ヘラ磨き 下位ヘラ削り 内面輪積み痕残しのヘラナデ	下層・床面	70% PL122
724	土師器	甕	-	(25.6)	7.0	長石・石英・礫	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 下端繋ぎ合 わせ後ナデ 底部多方向の削り	床面	55%
725	土師器	ミチュア	4.1	4.7	2.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面ナデ 指頭圧痕	下層	95% PL122

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q58	双孔円板	2.0	2.1	0.3	(2.1)	滑石	孔径0.2cm 二方向からの穿孔	覆土中	PL144
Q59	剣形模造品	4.7	1.8	0.4	5.0	滑石	完形 双孔で一方向からの穿孔 孔径0.2cm 両面擦刻有り	床面	PL144

覆土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|----------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 10 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 13 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P4は主柱穴で、深さは53～90cmである。

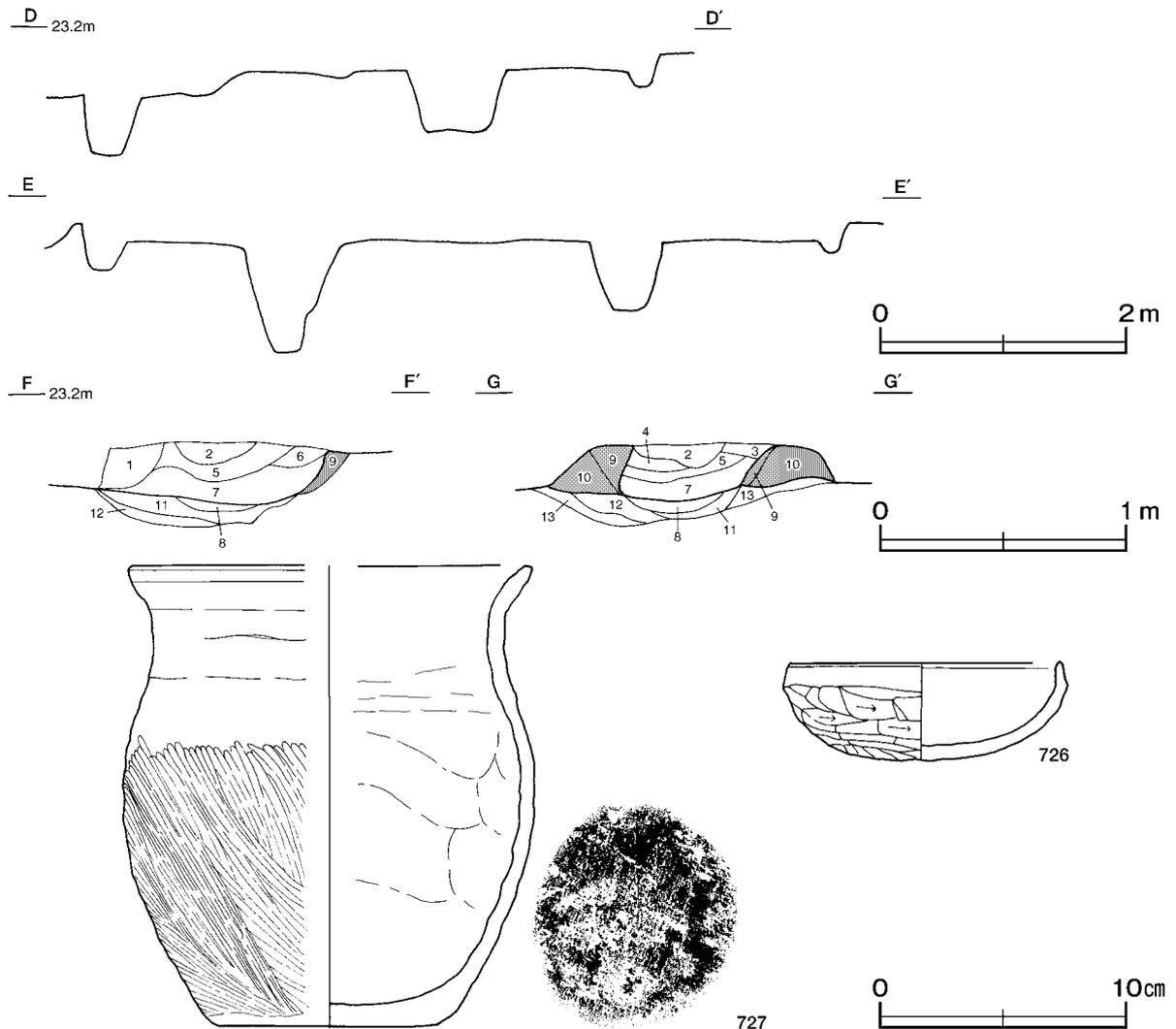
覆土 6層に分けられる。複雑な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

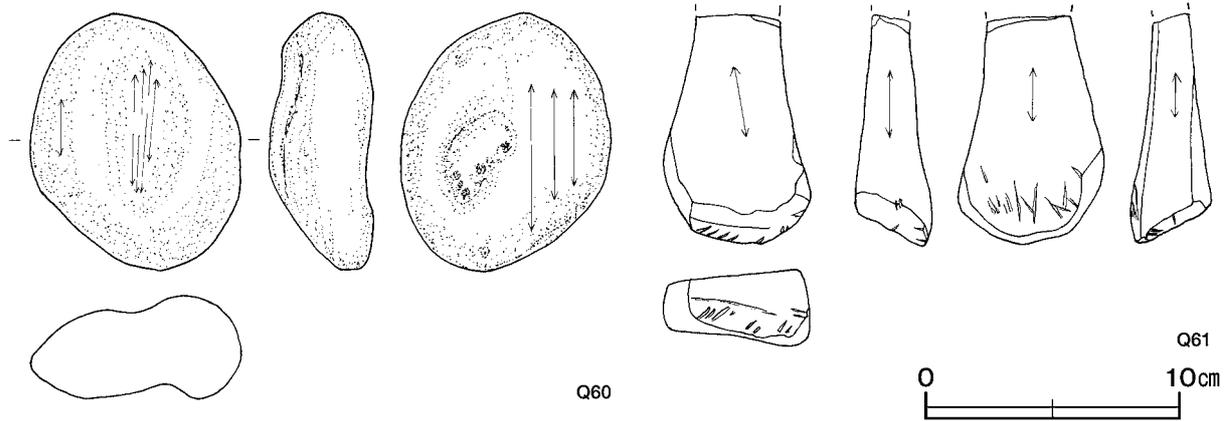
- | | | | |
|-------|------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片332点(坏69, 甗類263), 須恵器片2点(甗), 石器2点(磨石, 砥石), 鉄製品1点(刀子), 粘土塊1点が出土している。726は北壁際, Q60は中央部, Q61は南壁際の床面からそれぞれ出土している。727は北壁側の覆土下層から出土しており, 壁際から出土レベルが低くなっていく状況がみられ, 廃絶後に投棄された状況を示している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第462図 第2697号住居跡・出土遺物実測図



第463図 第2697号住居跡出土遺物実測図

第2697号住居跡出土遺物観察表（第462・463図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
726	土師器	坏	11.2	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	70%
727	土師器	小形甕	[16.4]	18.9	8.7	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部内・外面輪積み痕 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q60	磨石	10.1	8.2	4.2	261.2	安山岩	表・裏面を使用 裏面中央部に敲打痕	床面	
Q61	砥石	(9.1)	5.8	3.1	(190.0)	凝灰岩	砥面5面 断面長方形	床面	

第2698号住居跡（第464～474図）

位置 調査区東部のR 5 e0区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2694・2705号住居跡を掘り込み、第489号掘立柱建物、第153号溝、第4724号土坑に掘り込まれている。

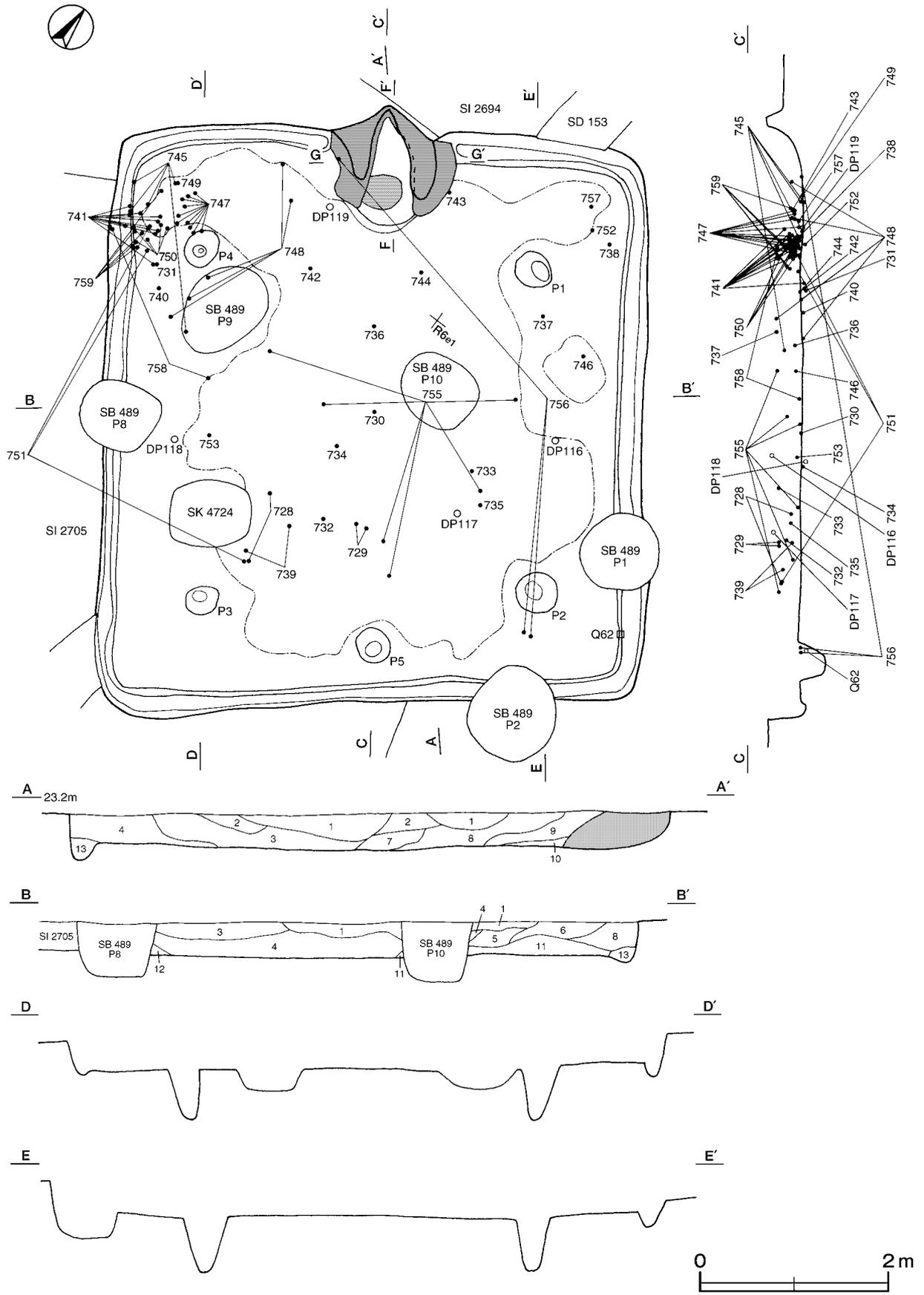
規模と形状 長軸6.30m、短軸5.74mの長方形で、主軸方向はN - 34° - Wである。壁高は30～38cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅16～25cm、深さ7～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

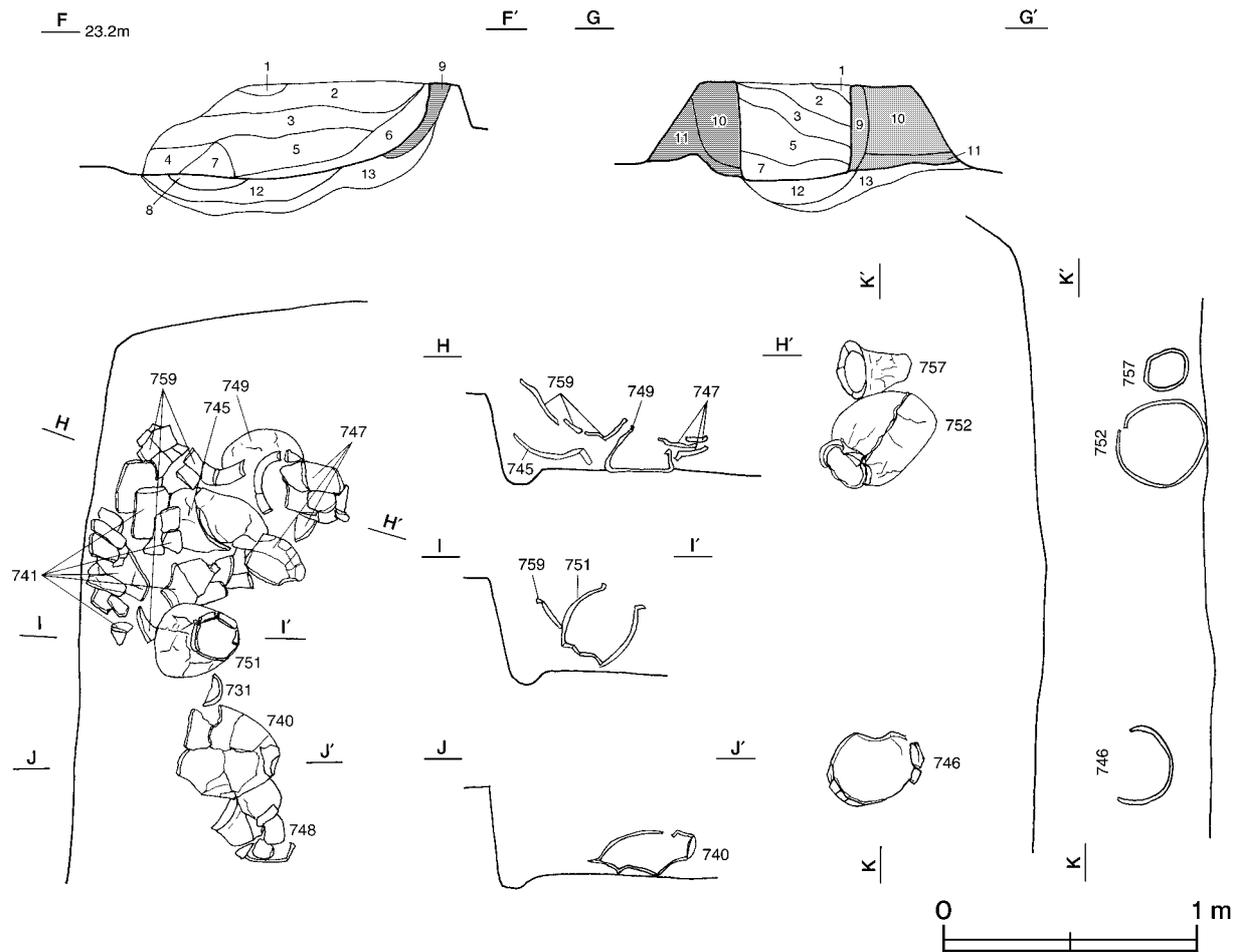
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで124cm、袖部幅126cmである。袖部は床面を18cmほど掘りくぼめて砂質粘土粒子を多く含む第12・13層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第9～11層を積み上げて構築している。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。上部には灰層の第7層が堆積しており、層厚は24cmである。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床部から彎曲して立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第9層を貼り付けて補強している。覆土は第1～6層に分けられ、第2層は天井部の崩落土層に相当する。全体的に焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 にぶい黄褐色	灰中量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2 灰黄褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	8 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	10 にぶい褐色	砂質粘土ブロック多量、細礫少量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	11 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量	12 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
		13 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量



第464图 第2698号住居跡実測图(1)



第465図 第2698号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは56～62cmである。P5は、深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

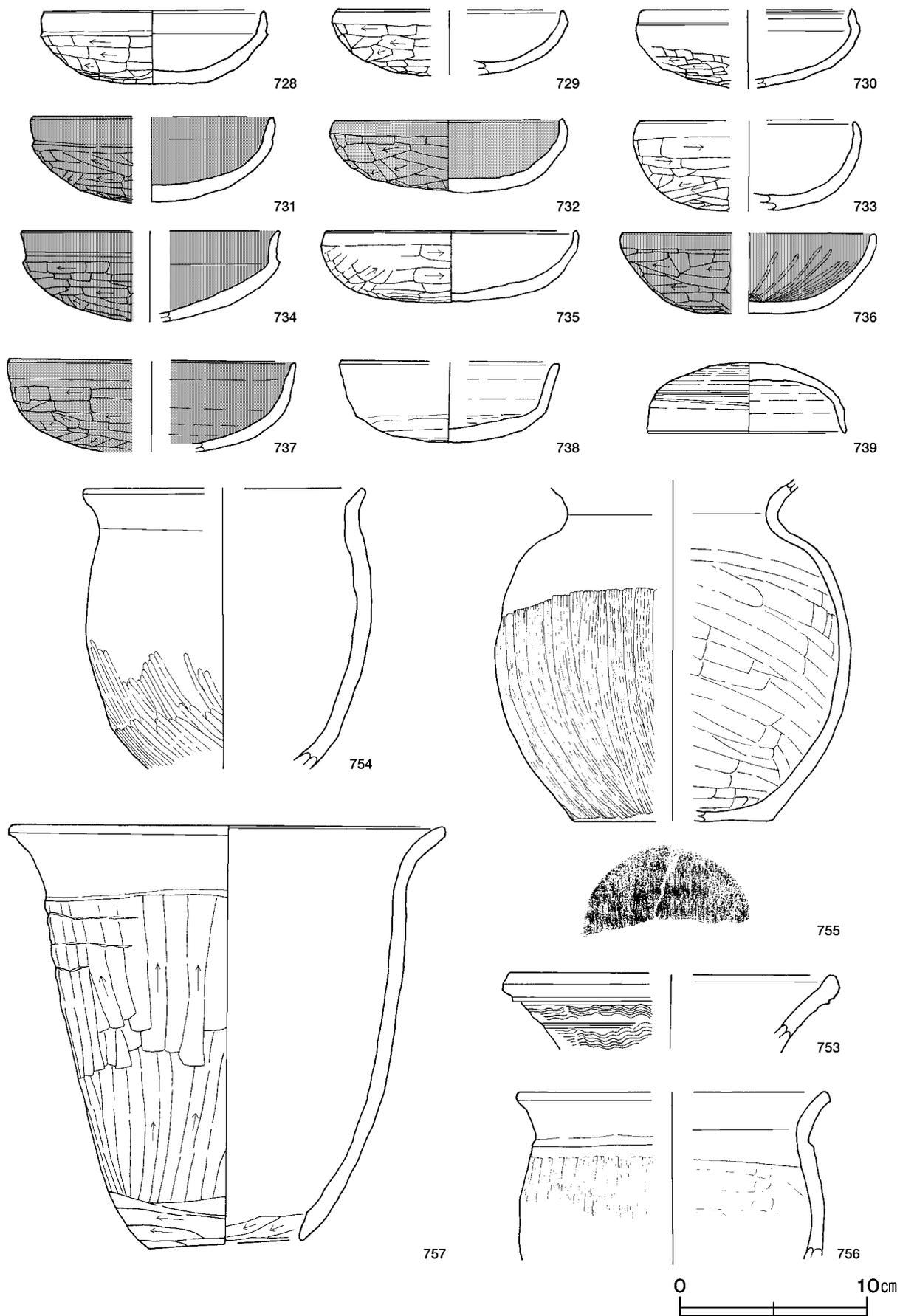
覆土 13層に分けられる。各層がブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

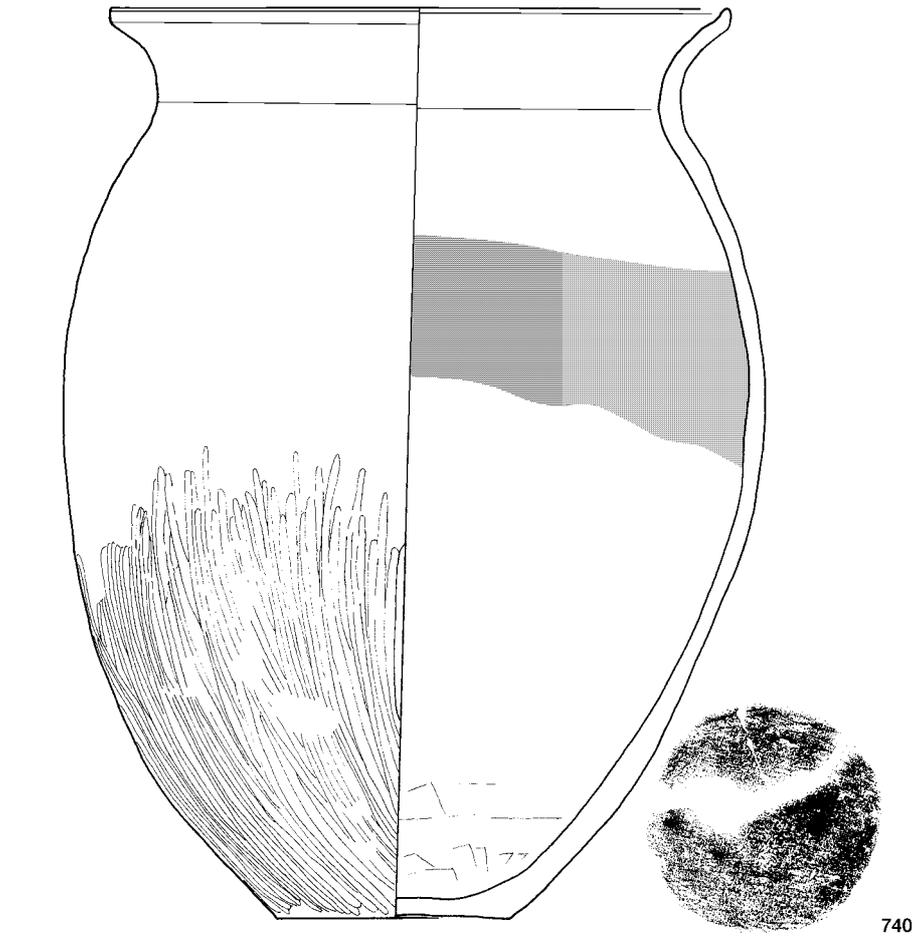
1 黒色	炭化粒子少量,ロームブロック・焼土ブロック微量	9 黒褐色	焼土粒子少量,ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	砂質粘土粒子少量,ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子少量,炭化物・焼土粒子微量	11 褐色	ローム粒子中量,炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量,焼土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子少量,ロームブロック微量	13 暗褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子少量,炭化粒子微量		
7 褐色	ローム粒子中量		
8 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片3033点(坏305,高坏3,甕類2685,甑40),須恵器片5点(坏1・蓋1・甕1・提瓶2),土製品10点(支脚6,管玉1,土玉1,球状土錘2),石製品1点(小玉),鉄製品2点(鏃),鉄滓1点,粘土塊9点が覆土下層を中心に出土しているほか,縄文土器片1点が流れ込んでいる。甕の出土量が多く,口縁部および底部から算出した個体数は47点であり,特に遺存状態が良好なものを図示している。731・740・741・745・747・749～751・759は北西コーナー部からまとめて,752・757は北東コーナー部,742・744は中央部北側,755は中央部に散在した状態で出土しており,いずれも無造作に投げ込まれた様相を示している。DP119は竈左袖際の床面から出土しており,廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

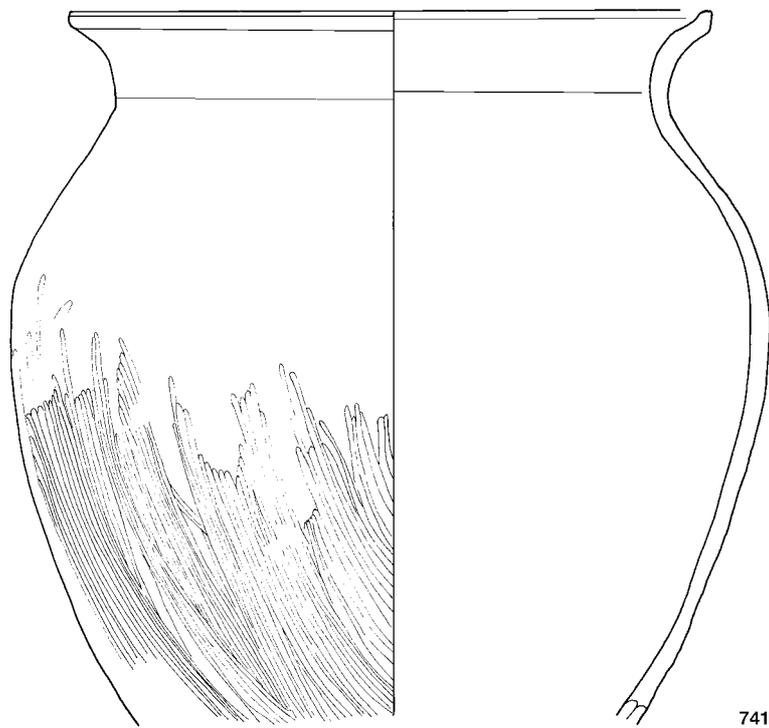
所見 北半部の覆土下層から,甕類を中心に多量の土器類が出土しており,廃絶後に一括して投棄されたものと考えられる。時期は,出土土器から7世紀前葉以前と考えられる。



第466图 第2698号住居跡出土遺物実測図(1)



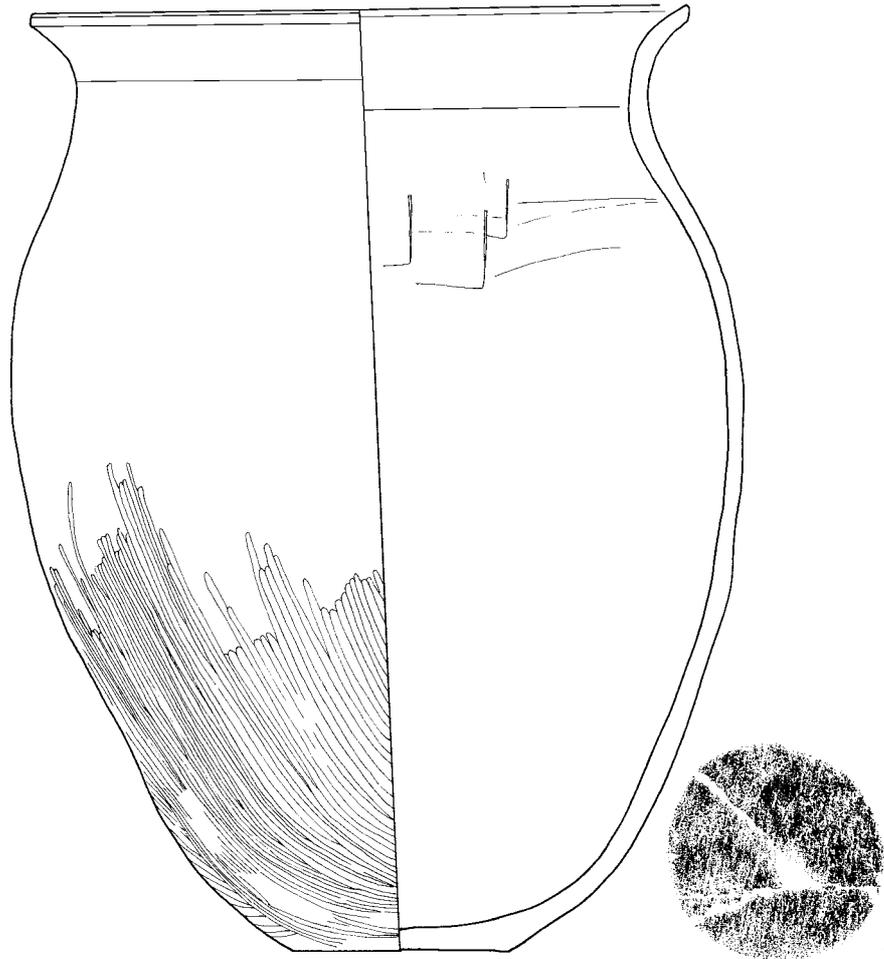
740



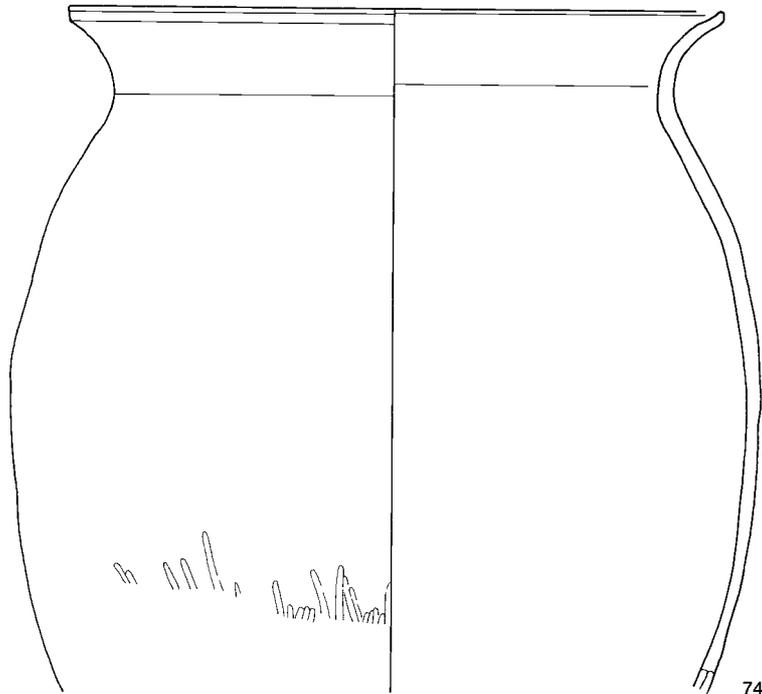
741



第467图 第2698号住居跡出土遺物実測図(2)



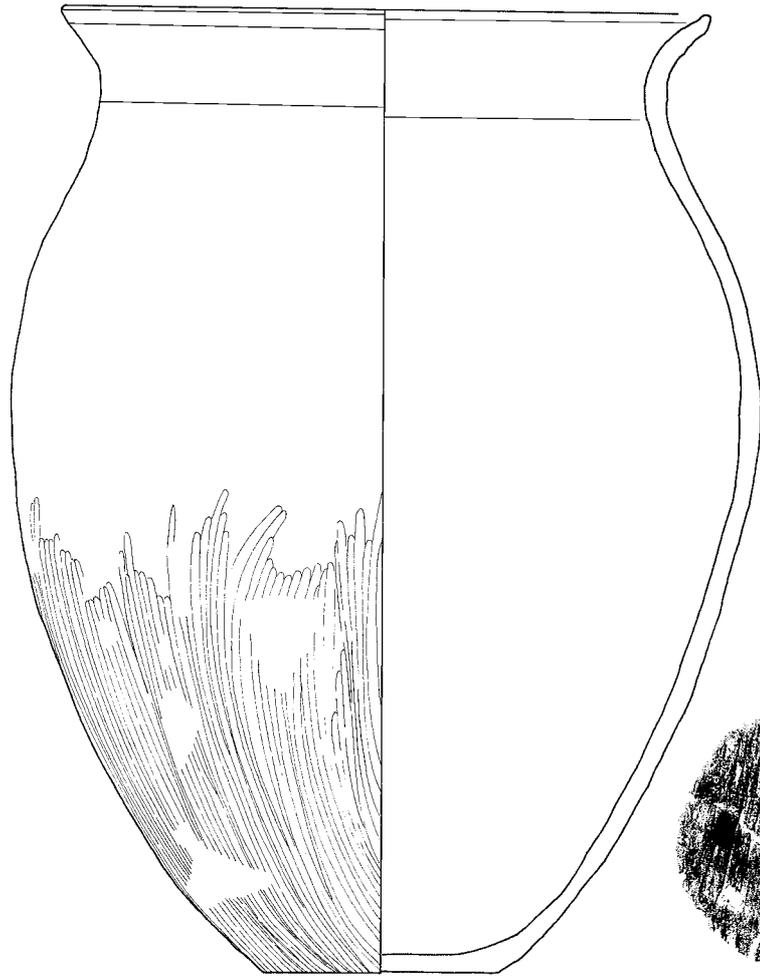
742



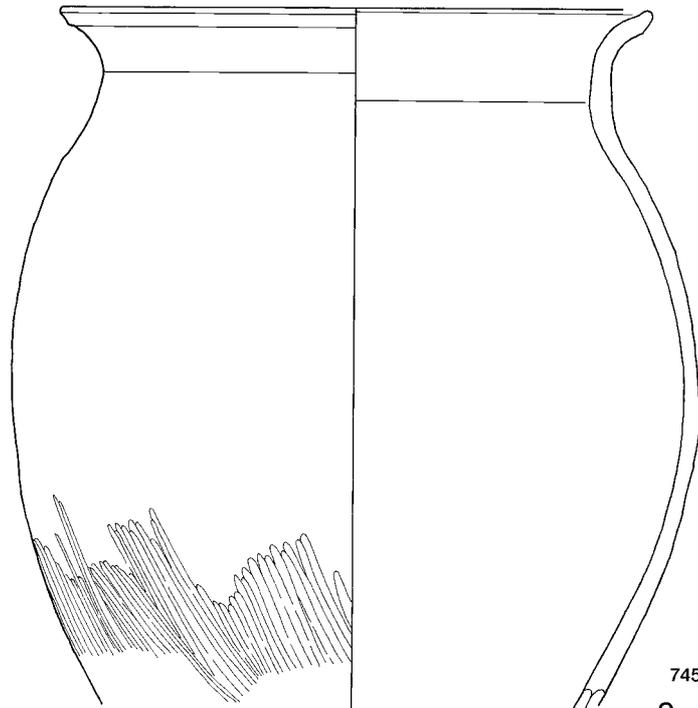
743



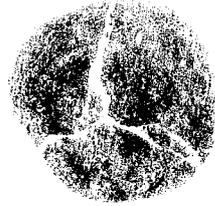
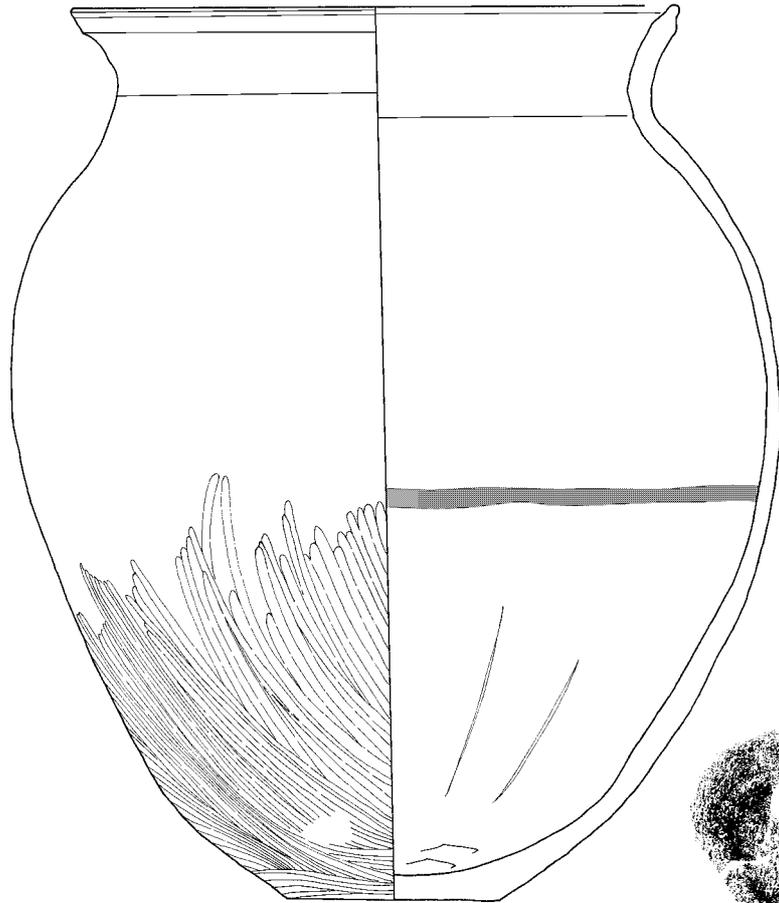
第468图 第2698号住居跡出土遺物実測図(3)



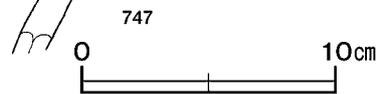
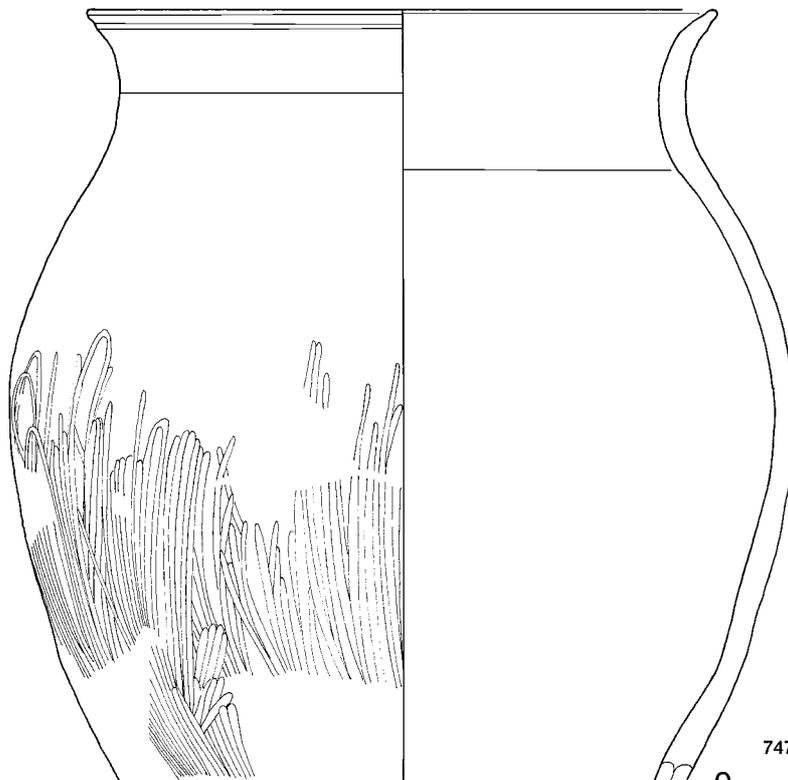
744



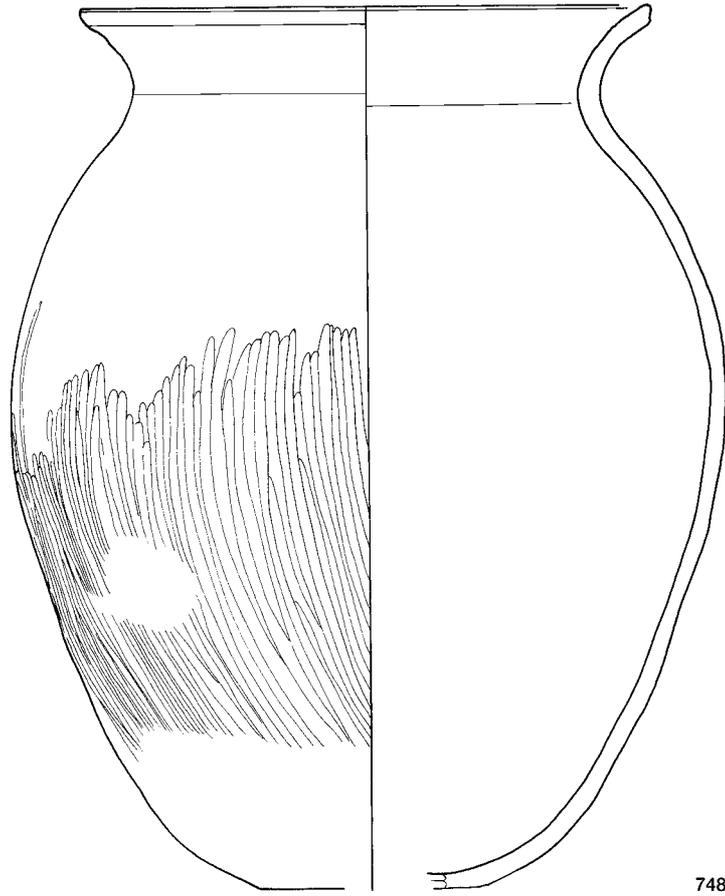
第469图 第2698号住居跡出土遺物実測図(4)



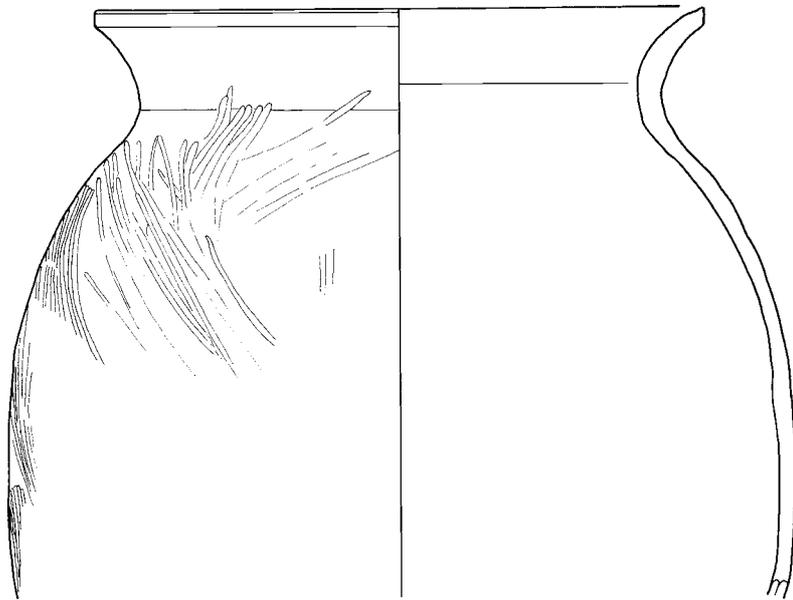
746



第470图 第2698号住居跡出土遺物実測図(5)



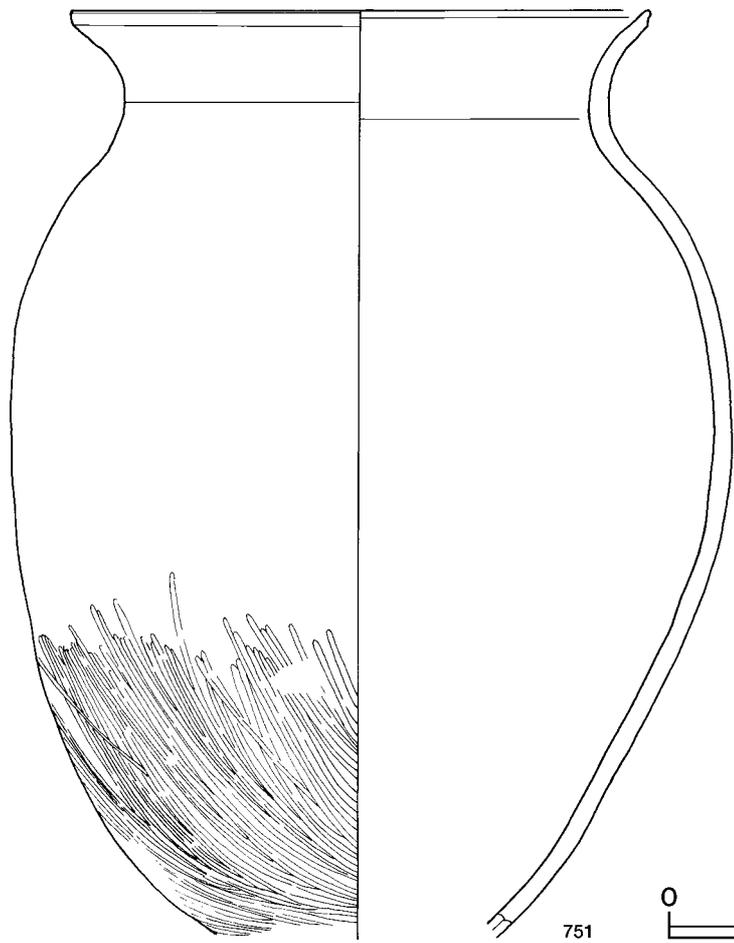
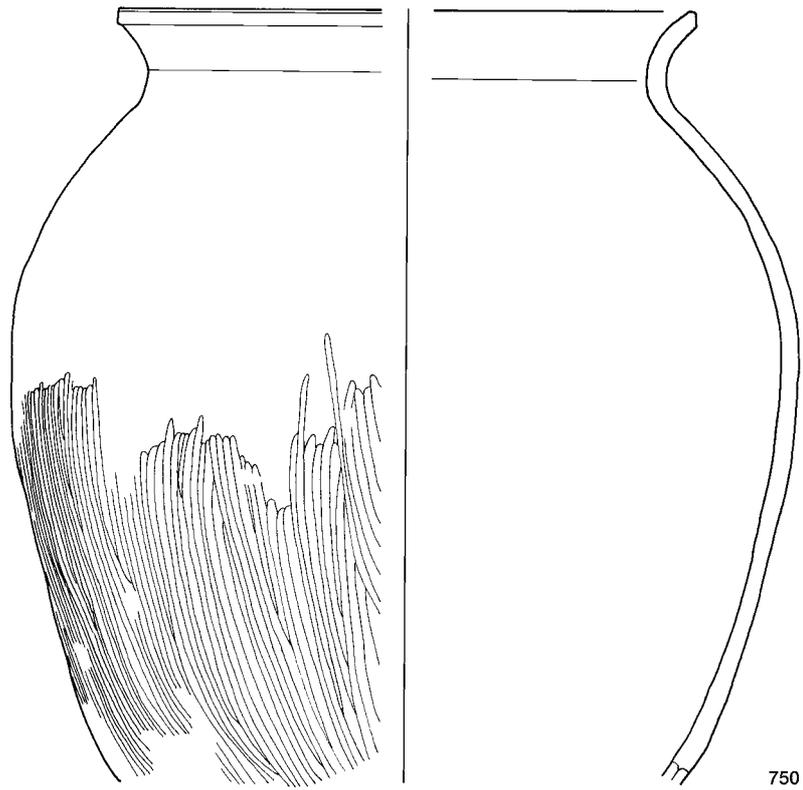
748



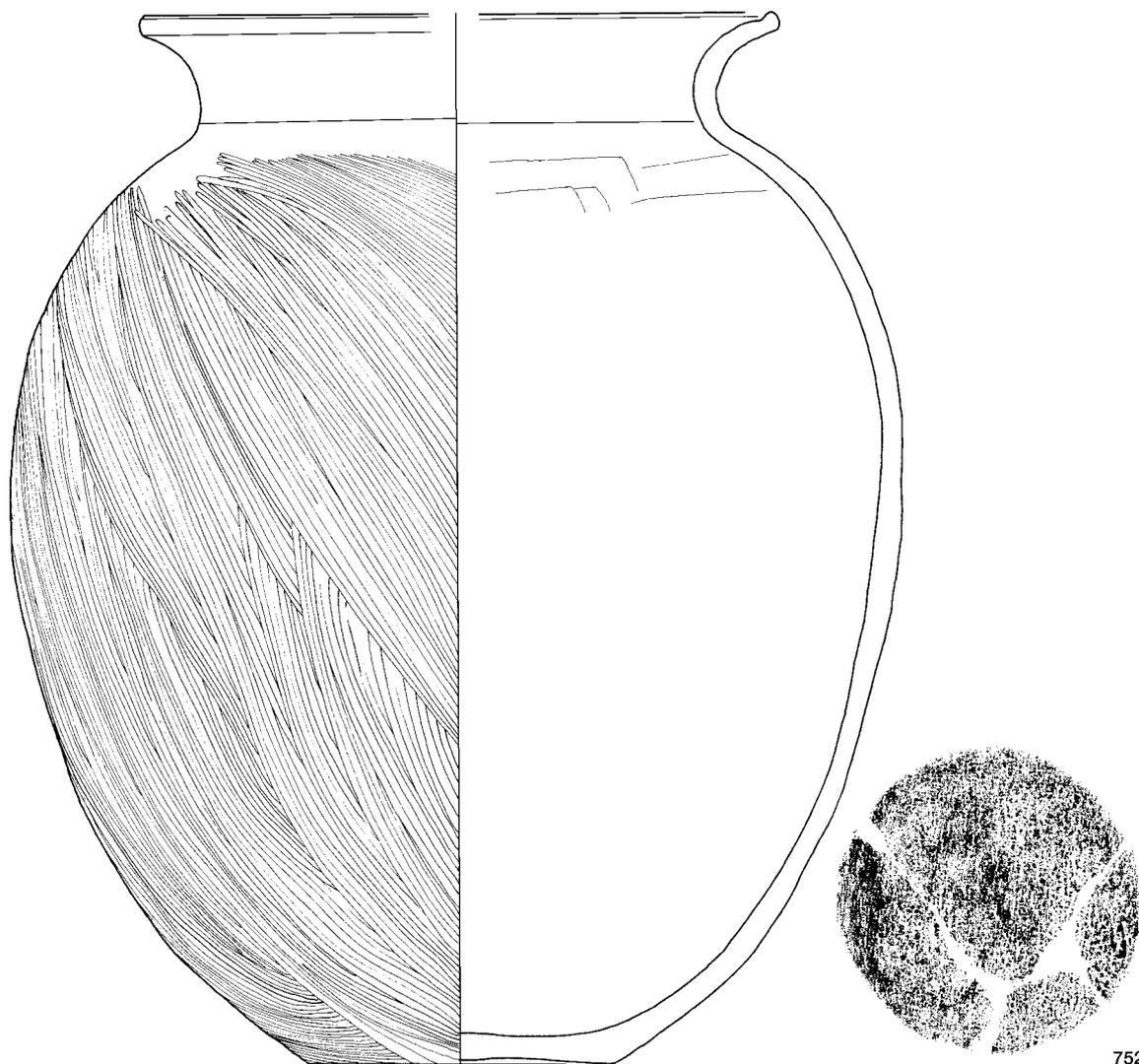
749



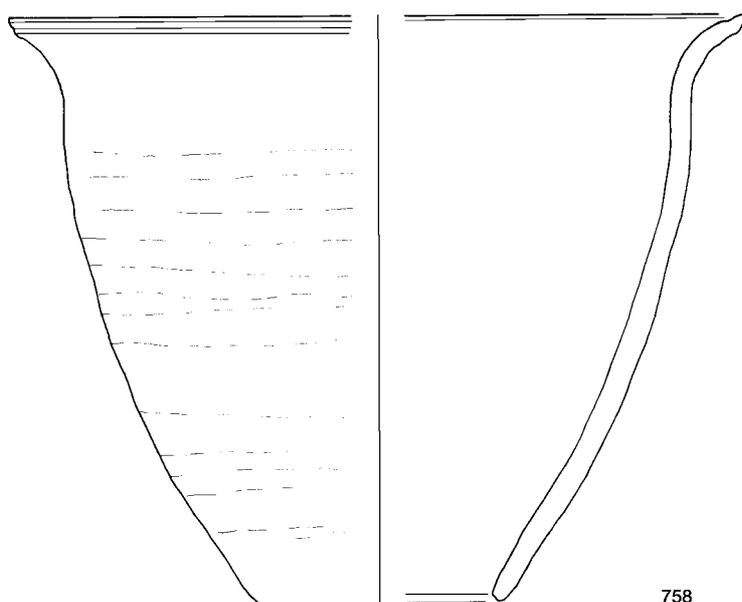
第471图 第2698号住居跡出土遺物実測図(6)



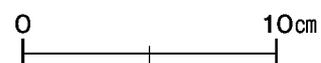
第472图 第2698号住居跡出土遺物実測図(7)



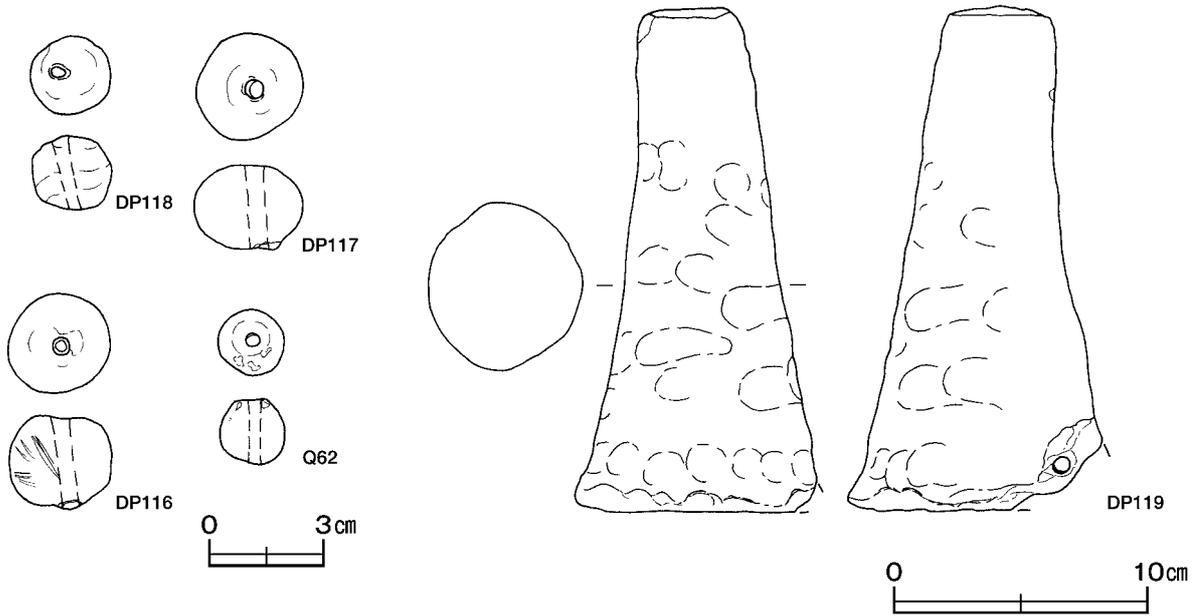
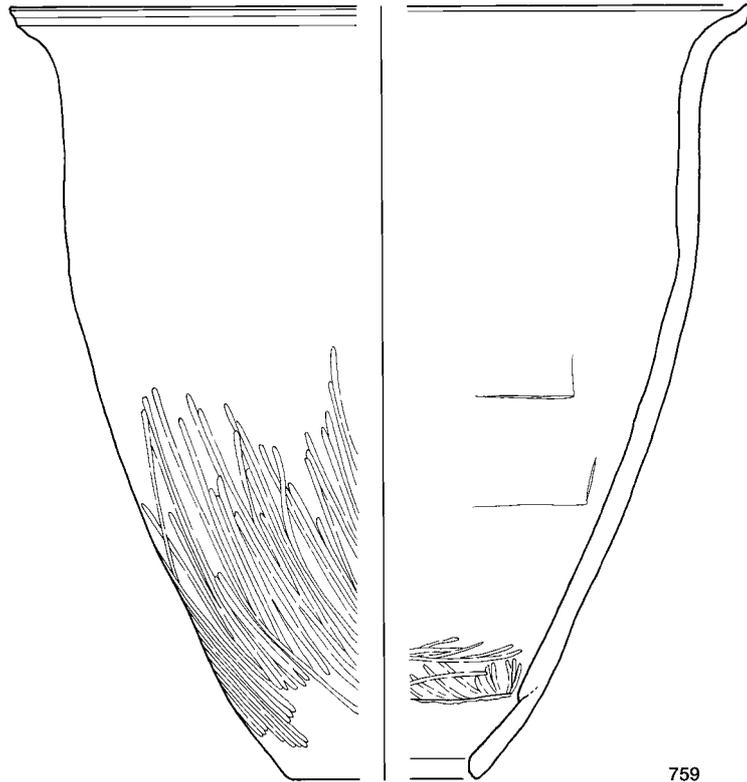
752



758



第473图 第2698号住居跡出土遺物実測図(8)



第474図 第2698号住居跡出土遺物実測図(9)

第2698号住居跡出土遺物観察表 (第466 ~ 474図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
728	土師器	坏	12.0	3.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	75%
729	土師器	坏	[12.0]	(3.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	40%
730	土師器	坏	[11.2]	(4.2)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	30%
731	土師器	坏	[12.8]	4.6	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	60%
732	土師器	坏	12.0	3.9	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	75% PL123
733	土師器	坏	[11.2]	(4.8)	-	長石・石英	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	45%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
734	土師器	坏	[13.6]	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	40%
735	土師器	坏	13.4	3.8	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	下層	80%
736	土師器	坏	[13.4]	4.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	中層	55%
737	土師器	坏	[15.4]	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	上層	30%
738	須恵器	坏	[11.7]	4.5	-	長石・石英	灰	良好	体部内・外面口クロナデ 底部右回りの回転へラ削り	上層	60% PL123
739	須恵器	蓋	10.5	3.9	-	長石	灰	良好	体部内・外面口クロナデ 天井部左回りの回転へラ削り	下層	75% PL123
740	土師器	甗	24.4	36.3	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	95% 内面煤 付着 PL125
741	土師器	甗	24.9	(28.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	70% PL124
742	土師器	甗	25.8	37.7	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	下層	95% PL125
743	土師器	甗	25.6	(27.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	65% PL124
744	土師器	甗	25.2	38.5	9.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	95% PL125
745	土師器	甗	23.3	(27.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	60% PL124
746	土師器	甗	24.0	35.7	8.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	中層	70% 内面煤 付着 PL124
747	土師器	甗	24.8	(30.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	50% PL124
748	土師器	甗	22.4	35.2	[8.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	上～下層	70% 内面煤 付着 PL125
749	土師器	甗	23.8	(23.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	35% PL124
750	土師器	甗	[22.8]	(30.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	35%
751	土師器	甗	22.6	(36.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	下層	70% PL125
752	土師器	甗	[25.1]	42.5	12.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	下層	95% PL125
753	須恵器	甗	[17.0]	(4.2)	-	長石・石英	灰	普通	口辺部内・外面口クロナデ 波状文	下層	5%
754	土師器	小形甗	[14.9]	(15.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き	覆土中	65%
755	土師器	小形甗	-	(18.4)	[10.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面へラナデ	上～下層	40%
756	土師器	小形甗	[16.4]	(9.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面へラナデ	下層	30%
757	土師器	甗	23.1	22.9	8.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面・底部内面へラ削り	下層	100% PL123
758	土師器	甗	[29.0]	23.4	[9.4]	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面擦痕	中層	40%
759	土師器	甗	[28.8]	30.8	[7.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面下位・外面へラ磨き 内面へラナデ	下層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP116	球状土錘	2.7	2.5	0.46	17.1	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	上層	PL140
DP117	球状土錘	2.85	2.2	0.5	17.3	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL140
DP118	小玉	2.1	1.9	0.37	8.5	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL140

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP119	支脚	20.1	3.2	(10.1)	(1007.2)	土(長石・石英・雲母)	ナデ 指頭痕 焼成前穿孔有	床面	PL138

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q62	小玉	1.7	1.7	0.35	5.6	蛇紋岩	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL144

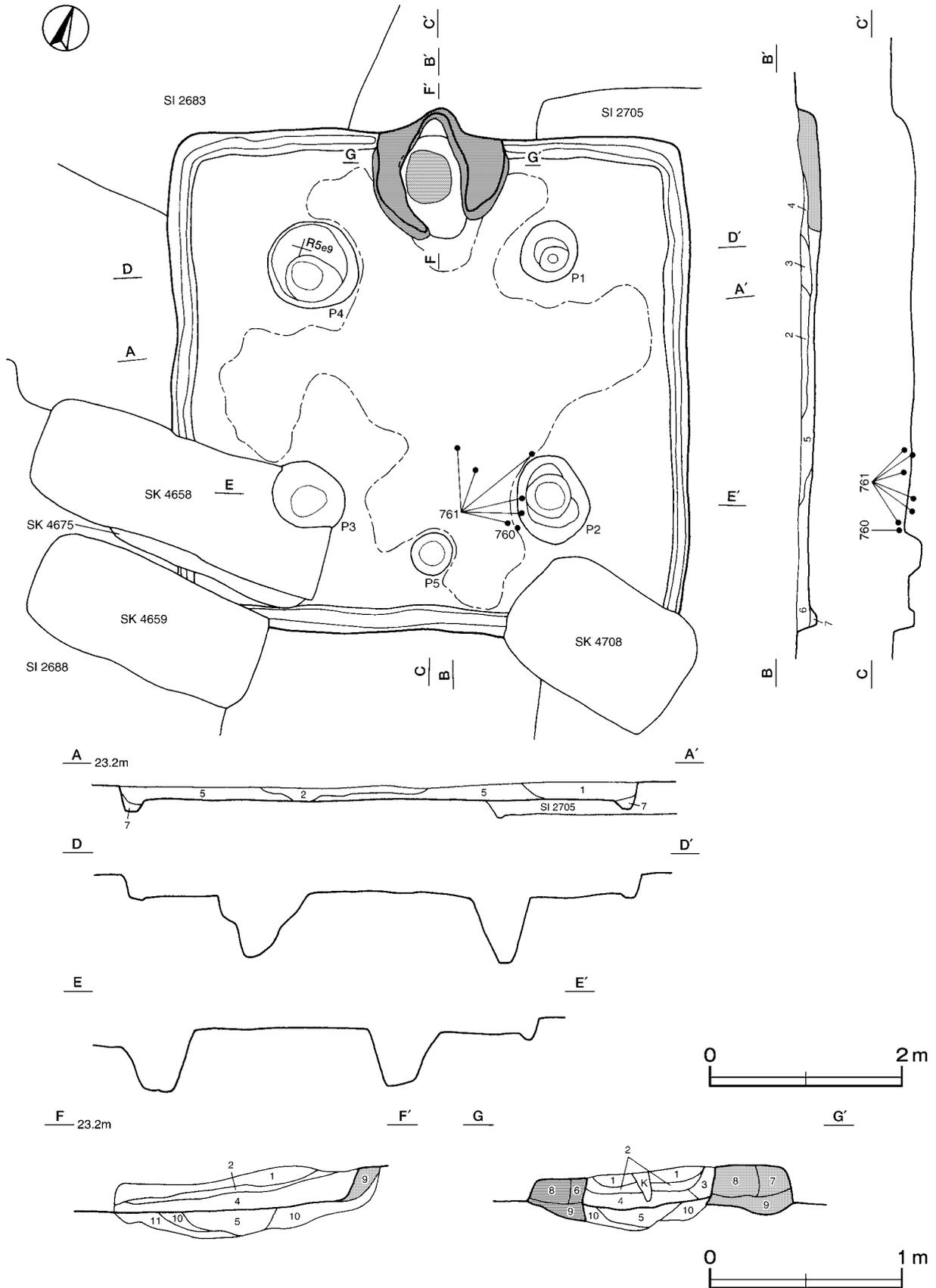
第2699号住居跡(第475・476図)

位置 調査区東部のR5f9区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

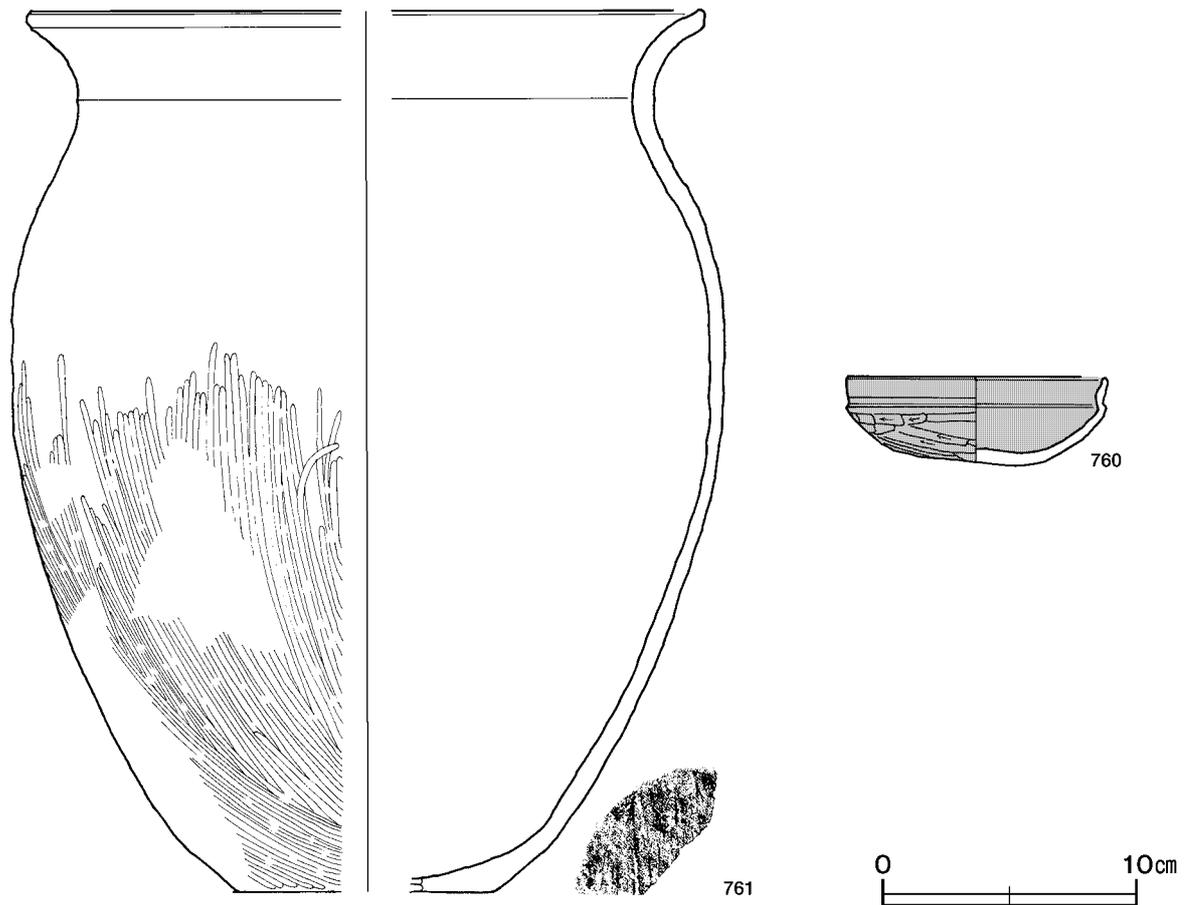
重複関係 第2683・2705号住居跡を掘り込み、第2688号住居、第4658・4659・4675・4708号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.31m、短軸5.30mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は12~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の周辺を含む主柱穴の内側が踏み固められている。壁下には、幅19~21cm，深さ8~13cmで逆台形状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第475図 第2699号住居跡実測図



第476図 第2699号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅140cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめてその上部に砂質粘土を主体とする第6～9層を塊状に積み上げて構築し、中央部に第10・11層を充填している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ、奥壁で外傾して立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第9層を貼り付けて補強している。覆土は第1～4層に分けられ、第1・3層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは59～73cmである。P5は、深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片698点（坏131, 甕類560, 甑7）, 須恵器片1点（短頸壺）, 粘土塊1点が出土している

る。760・761は中央部南東側の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第2699号住居跡出土遺物観察表（第476図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
760	土師器	坏	10.2	3.5	-	長石・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	80% PL123
761	土師器	甕	[26.4]	35.0	[10.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	下層	40%

第2700号住居跡（第477・478図）

位置 調査区東部のR 6 c 6区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2702号住居跡を掘り込み、第150・151号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南東部を第150号溝に掘り込まれ、さらに北東部が削平されているため、南北軸4.96m、東西軸は4.93mだけが確認された。主軸方向がN - 20° - Wの方形と推定される。壁高は12~22cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。東壁や南壁の一部は確認できないが、壁下には幅17~30cm、深さ5~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで109cm、袖部幅140cmである。袖部は床面を20cmほど掘りくぼめて第12~16層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第9~11層を塊状に積み上げて構築している。内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に21cm掘り込まれ、火床部から急に傾斜して立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と第10層を貼り付けて補強している。覆土は第1~8層に分けられ、第2・8層は天井部の崩落土層に相当する。各層は砂質粘土粒子を含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

竈土層解説

1 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 赤 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 灰 褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10 にぶい橙色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量
4 にぶい赤褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	12 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5 赤 褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8 灰 褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さは50~66cmである。P5は深さ49cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられ、掘り直されている。

覆土 7層に分けられる。第3層はロームブロックを含む人為堆積であるが、その他はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

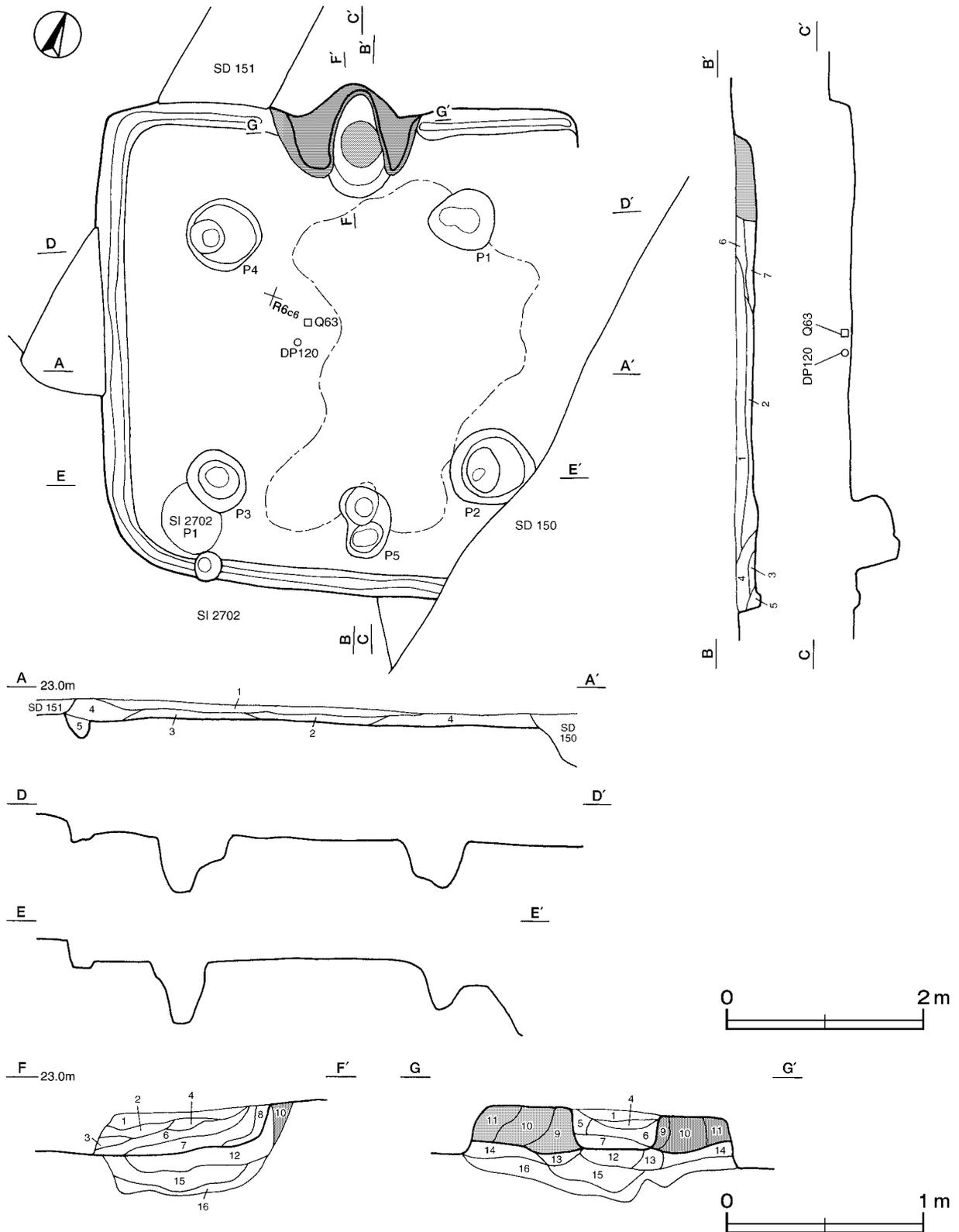
土層解説

1 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 にぶい褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		
4 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量		
5 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

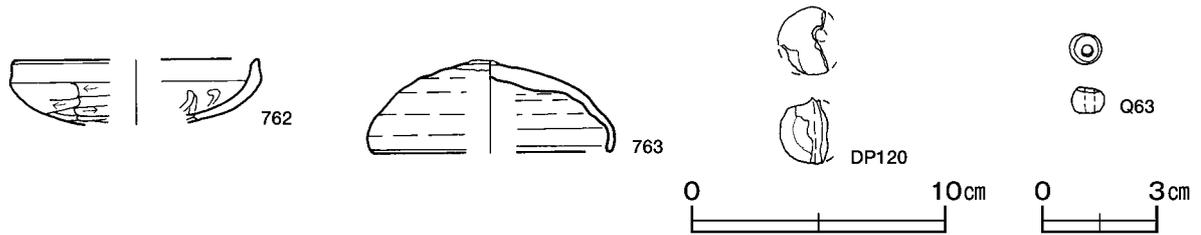
遺物出土状況 土師器片270点（坏52、甕類218）、須恵器片7点（坏2、蓋1、甕類4）、土製品1点（土玉）、石製品1点（小玉）のほか、粘土塊1点も出土している。また、混入した平安時代の土師器片1点も出土している。ほとんどの遺物は細片であるが、土師器坏は黒色処理されたものとされていないものの比率が半々であり、

体部と口縁部の境が不明瞭な坏も確認できる。762はP5の覆土中から出土し、ピットが埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。763は南西部の覆土中から出土し、廃絶後に廃棄されたものと考えられる。DP120・Q63は中央部の覆土下層から出土している。

所見 出土土器が細片のため時期判断は困難であるが、7世紀前葉と考えられる第2700号住居を掘り込んでいることや覆土中から出土した土師器坏の形態から7世紀前葉以降と考えられる。



第477図 第2700号住居跡実測図



第478図 第2700号住居跡出土遺物実測図

第2700号住居跡出土遺物観察表（第478図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
762	土師器	坏	[9.6]	(2.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	P 5 覆土中	10%
763	須恵器	蓋	[9.2]	3.7	-	雲母	黄灰	普通	内・外面口ロナデ後つまみ貼り付け	覆土中	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP120	土玉	(2.0)	2.6	(0.4)	(9.8)	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q63	小玉	0.8	0.7	0.3	0.7	蛇紋岩	円筒状 一方向からの穿孔	下層	PL144

第2701号住居跡（第479・480図）

位置 調査区東部のR 5 h0 区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2682・2696号住居，第488号掘立柱建物，第153号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.50m，短軸3.60mの長方形で，主軸方向はN - 4 ° - Wである。壁高は6 ~ 14cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。壁下には，幅10 ~ 12cm，深さ6 ~ 9 cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで116cm，袖部幅114cmである。袖部は床面を12cmほど掘りくぼめたて第12・13層を充填し，その上部に砂質粘土を主体とする第8 ~ 11層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ，火床部から奥壁がほぼ直立している。奥壁には袖部の構築材と同じ砂質粘土を貼り付けて補強している。覆土は第1 ~ 6層に分けられ，第1 ~ 3・5層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。各層は焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

竈土層解説

1	にぶい橙色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	7	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
2	にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	にぶい褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子少量	9	暗赤褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	10	褐色	砂質粘土ブロック中量，炭化粒子微量
5	灰赤色	砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量	11	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量	12	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
			13	赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。形状は，長径64cm，短径55cmの楕円形で，深さは44cmである。底面はほぼ平坦で，壁は底面から直立し，中位から上部では外傾している。覆土は，全体的にローム粒子を含む人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 2 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

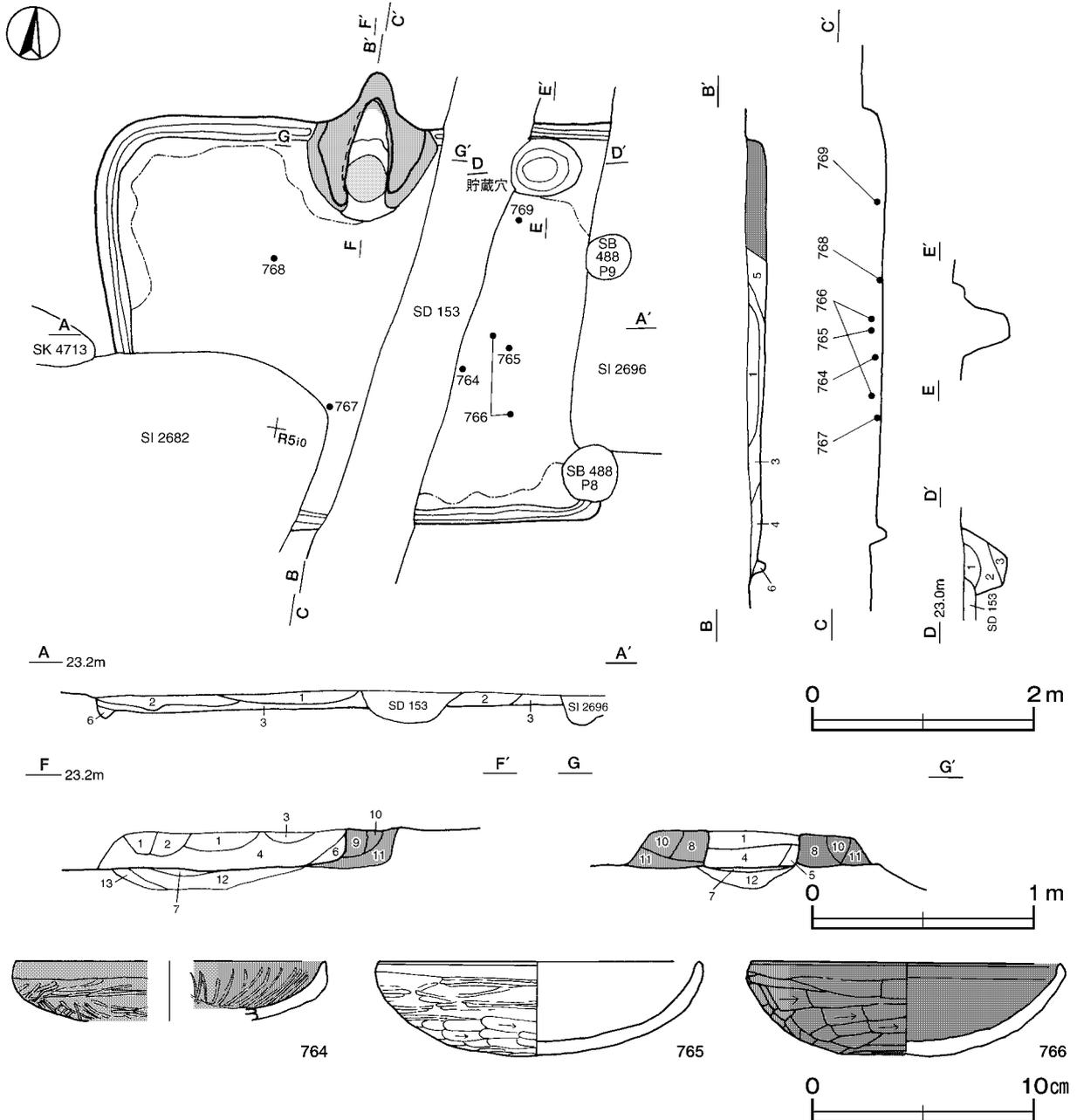
覆土 6層に分けられる。全体的にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

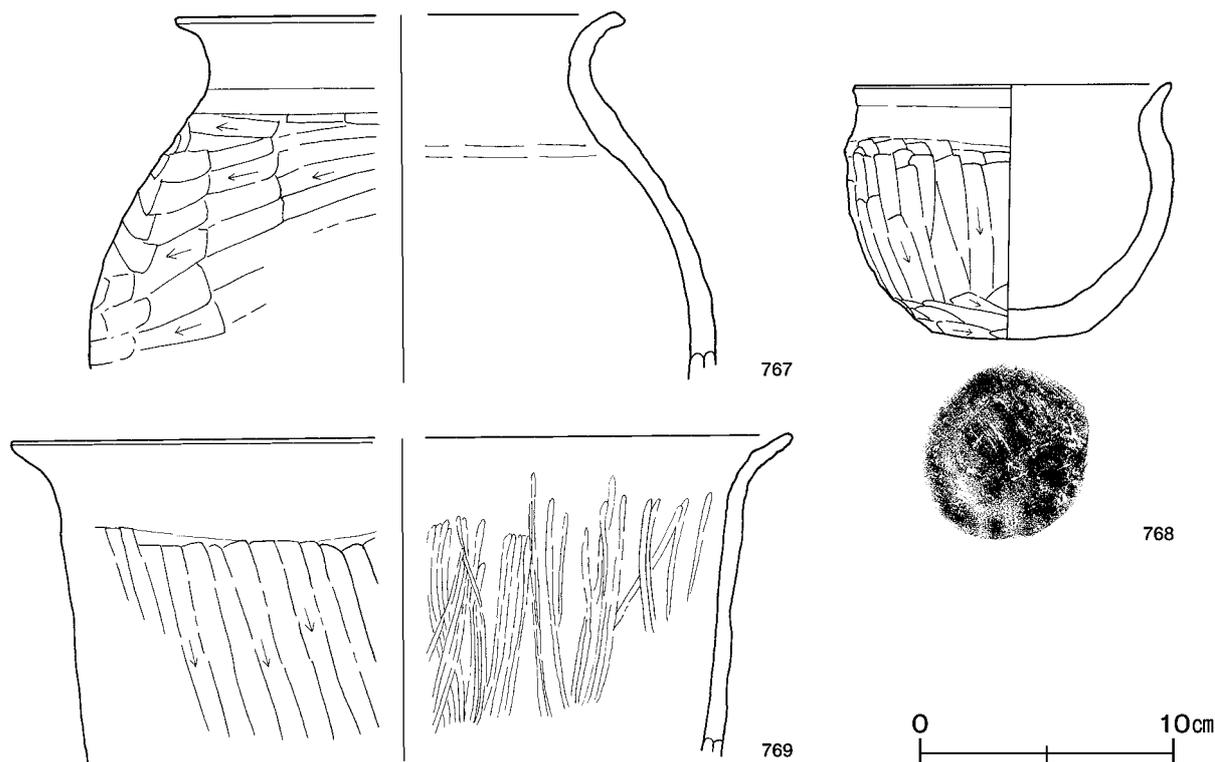
- | | | | |
|-------|-----------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい橙色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片119点(坏20, 高坏1, 甕類98), 粘土塊1点が出土しているほか, 縄文土器片1点の流れ込んでいる。767は南側, 768は中央部の床面からそれぞれ出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。764~766は南東側, 769は北東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第479図 第2701号住居跡・出土遺物実測図



第480図 第2701号住居跡出土遺物実測図

第2701号住居跡出土遺物観察表 (第479・480図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
764	土師器	坏	[14.0]	(2.7)	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	下層	15%
765	土師器	坏	14.4	4.3	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	下層	95% PL126
766	土師器	坏	13.9	4.3	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	95% PL126
767	土師器	甕	[16.9]	(14.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	15%
768	土師器	小形甕	12.3	10.3	6.3	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	95% PL126
769	土師器	甕	[30.6]	(12.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	10%

第2702号住居跡 (第481・482図)

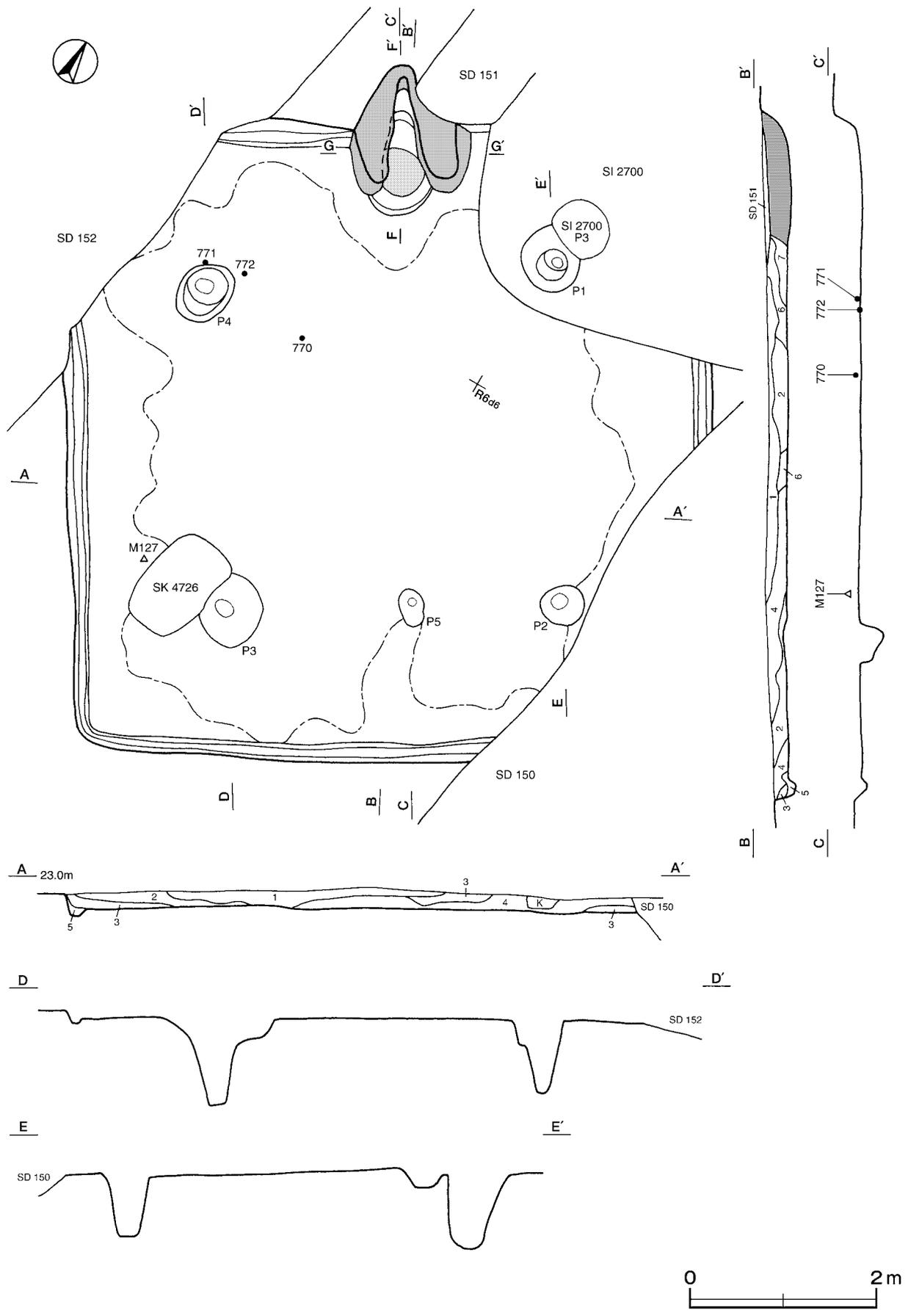
位置 調査区東部のR 6 d5区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2700号住居, 第150~152号溝, 第4726号土坑に掘り込まれている。

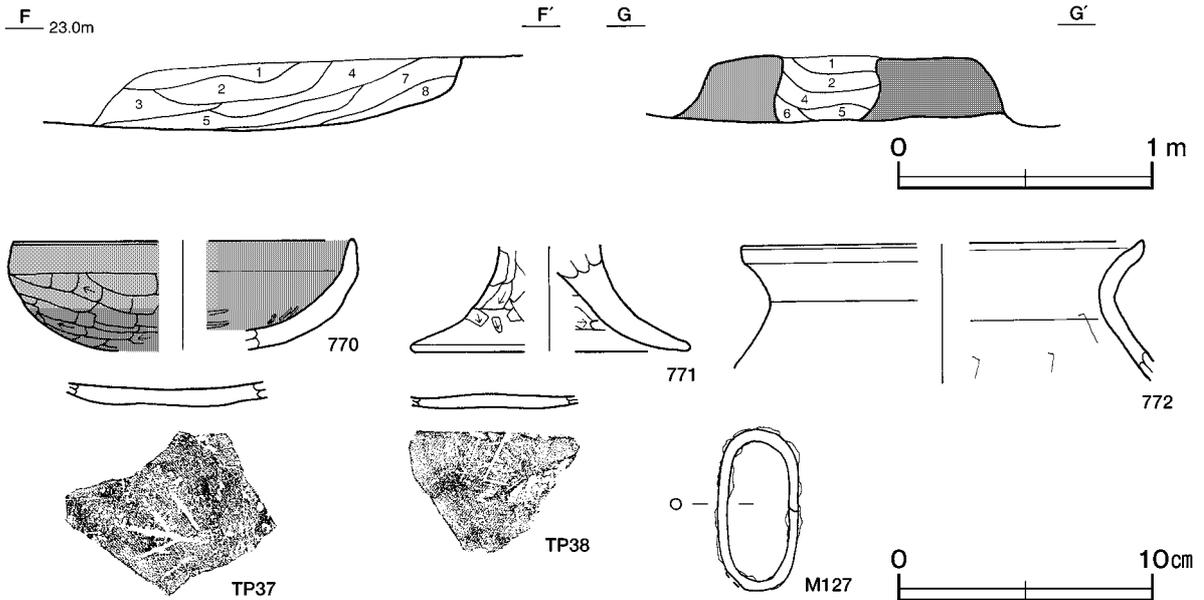
規模と形状 長軸7.00m, 短軸6.92mの方形で, 主軸方向はN - 29° - Wである。壁高は7~14cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 壁際まで踏み固められている。第2700号住居, 第150・152号溝に掘り込まれているため南西部を除いたコーナー部は確認できないが, 壁下には幅17~19cm, 深さ5~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで145cm, 袖部幅131cmである。火床部は床面を8cm掘りくぼめており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ, 火床部から緩やかに傾斜して立ち上がり, 奥壁で直立している。覆土は第1~8層に分けられ, 第1・2層は天井部の崩落土層に相当する。



第481图 第2702号住居跡実測図



第482図 第2702号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1 にぶい褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 黒色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さは70～96cmである。P5は深さ49cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。第3～5層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 にぶい褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 4 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | |
| 5 明褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片254点(坏61, 高坏1, 甕192), 須恵器片1点(坏), 土製品1点(支脚), 不明鉄製品1点が北西部に集中して出土している。また, 混入した黒曜石1点, 瓦片1点も出土している。770は中央部やや北西寄りの覆土下層, 771・772は北西部の床面から出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M127は南西部の覆土下層から出土しているが, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。TP37・TP38は北東部の覆土中から破片の状態出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第2702号住居跡出土遺物観察表(第482図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
770	土師器	坏	[13.4]	(4.3)	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ後ヘラ磨き	下層	30%
771	土師器	高坏	-	(4.2)	[10.8]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	裾部内・外面ヘラナデ後脚部内・外面ヘラ削り	床面	25%
772	土師器	甕	[15.8]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	5%
TP37	土師器	坏	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	底部外面擬木葉痕	覆土中	
TP38	土師器	坏	-	(0.6)	-	長石・石英・雲母	橙	良好	底部外面擬木葉痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M127	不明	6.5	3.2	0.4	13.9	鉄	楕円状 繋ぎ目1か所 断面円形	下層	PL147

第2703号住居跡（第483・484図）

位置 調査区東部のR 6 f 5区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2695・2704号住居，第150・152号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第2704号住居に掘り込まれているため，南北軸6.72m，東西軸は5.48mだけが確認された。主軸方向はN - 32° - Wで，方形または長方形と推定される。壁高は10～30cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅9～16cm，深さ4～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。中央部から南西部にかけて焼土の堆積が見られる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで117cm，袖部幅120cmである。袖部は床面を10cmほど掘りくぼめて第10～12層を充填し，その上部に第7層で芯を作り，第8・9層を貼り付けて構築している。内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。奥壁には砂質粘土を含む第13・14層を貼り付けて補強している。覆土は第1～6層に分けられ，第2～5層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。火床部に直に接していることから廃絶後間もなく崩落している状況を示しており，人為的に破壊されたと想定される。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	9 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰黄褐色	砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10 赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	11 褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 灰褐色	焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量	12 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量，砂質粘土ブロック少量	13 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量
7 にぶい橙色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量		
8 明赤褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量		

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは90～95cmである。P5は深さ17cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東部に位置している。規模は，長径82cm，短径59cmほどの楕円形で，深さは52cmである。底面は皿状で，西壁は外傾し，東壁は階段状に立ち上がっている。覆土は各層にロームを含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		

覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

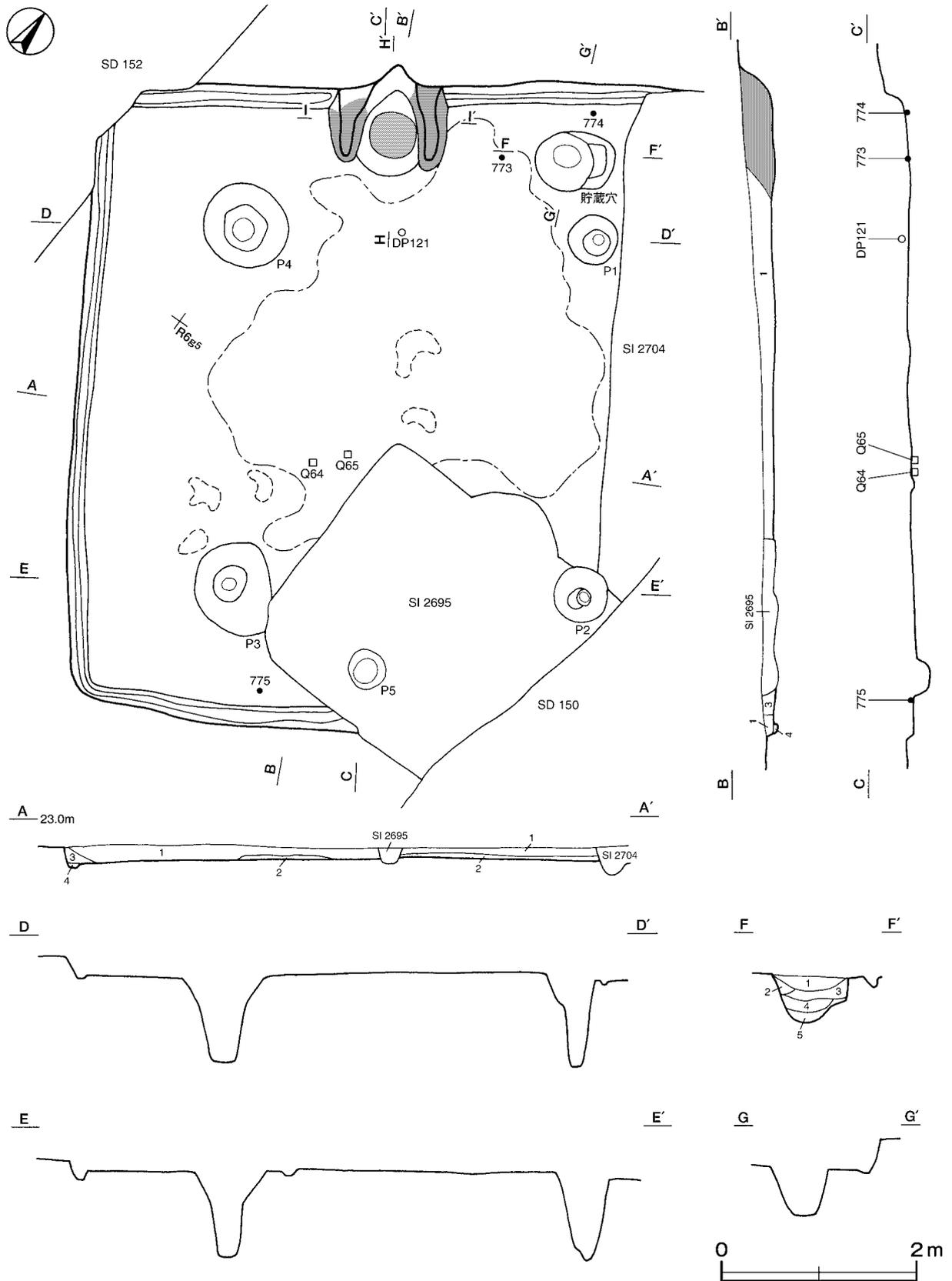
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	3 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック微量	4 褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量

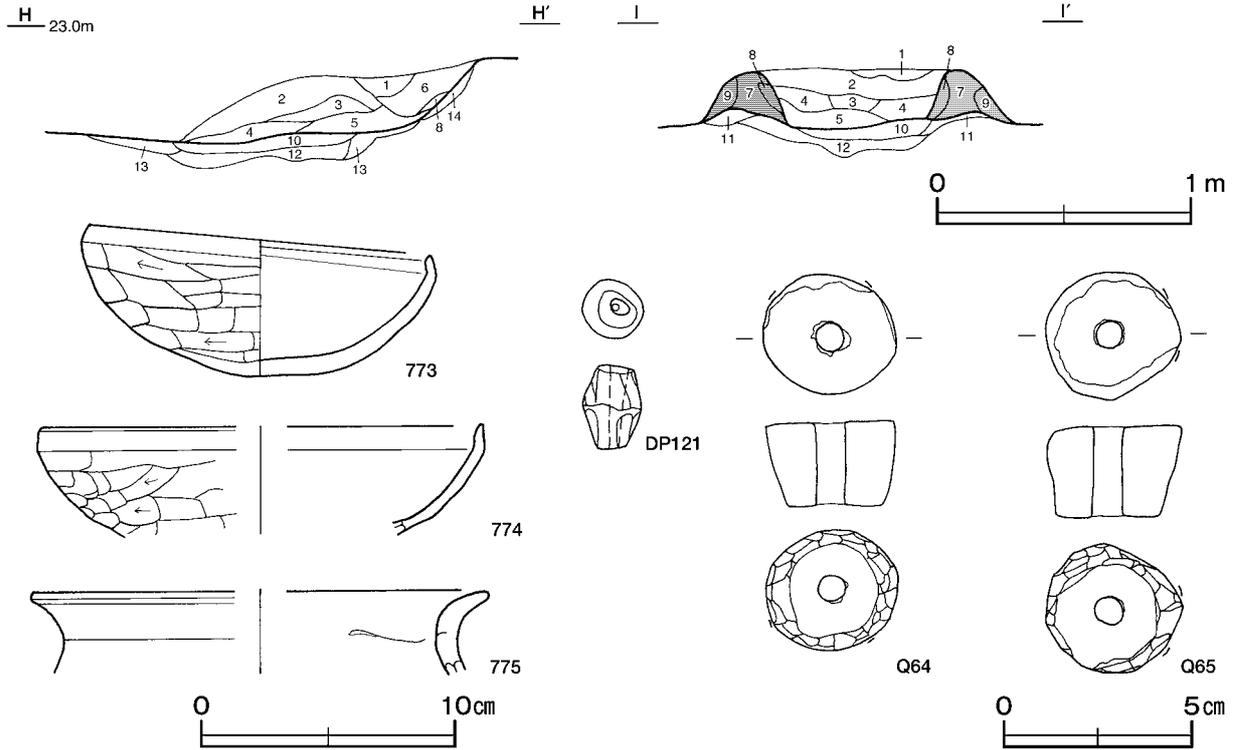
遺物出土状況 土師器片86点（坏34，甕類52），須恵器片2点（甕類），土製品1点（玉），石製品2点（紡錘車）が散在した状態で出土し，いずれも細片で出土量も少ない。773は北東部，774は北壁際東寄り，775は南壁際中央の覆土下層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。DP121は竈

前の覆土下層，Q64・Q65は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 中央部から南西部にかけて焼土の広がり確認できることから，焼失住居の可能性が考えられる。時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第483図 第2703号住居跡実測図



第484図 第2703号住居跡・出土遺物実測図

第2703号住居跡出土遺物観察表（第484図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
773	土師器	坏	13.4	5.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後磨き 内面ナデ	下層	70% PL126
774	土師器	坏	[17.4]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後磨き 内面ナデ	下層	25%
775	土師器	甕	[18.0]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面輪積み痕	下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP121	玉	1.5	2.2	0.5	4.7	土(長石・石英)	素状 中央部から端部にかけてヘラナデ 一方向からの穿孔	下層	PL140

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q64	紡錘車	3.5	2.2	0.75	(28.0)	滑石	円錐台形 両面研磨 二方向からの穿孔 側面ヘラ削り	床面	PL142
Q65	紡錘車	(3.6)	2.4	0.8	(32.1)	滑石	円錐台形 両面研磨 二方向からの穿孔 側面ヘラ削り	床面	PL142

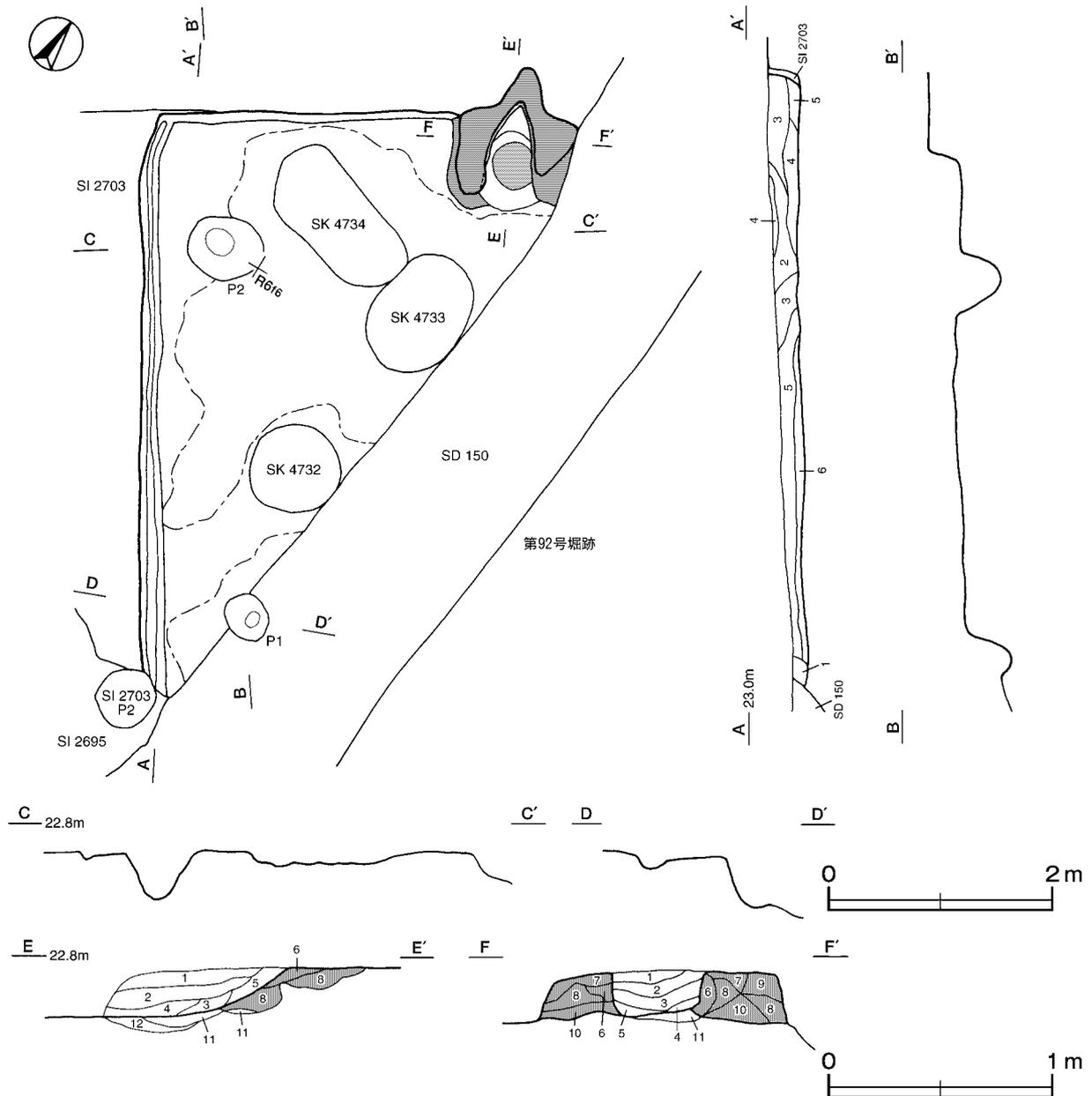
第2704号住居跡（第485図）

位置 調査区東部のR 6 f 6区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2703号住居跡を掘り込み，第2695号住居，第92号堀，第150号溝，第4732～4734号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部および南部を第92号堀，第150号溝に掘り込まれているため，南北軸は4.72m，東西軸は3.80mだけが確認された。主軸方向はN - 28° - Wで方形または長方形と推定される。壁高は6～26cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際まで踏み固められている。西壁下には幅9～19cm，深さ5～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第485図 第2704号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。右袖部外側を第150号溝に掘り込まれているため、遺存する規模は焚口部から煙道部まで96cm、袖部幅は113cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに第10層で芯を作り、第6～9層を貼り付けて構築している。内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に8cm掘り込まれ、火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第6・8層を貼り付けて補強している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量 | 10 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | |
| 7 暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 2か所。P1・P2は主柱穴で、深さはそれぞれ57cm・40cmである。

覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

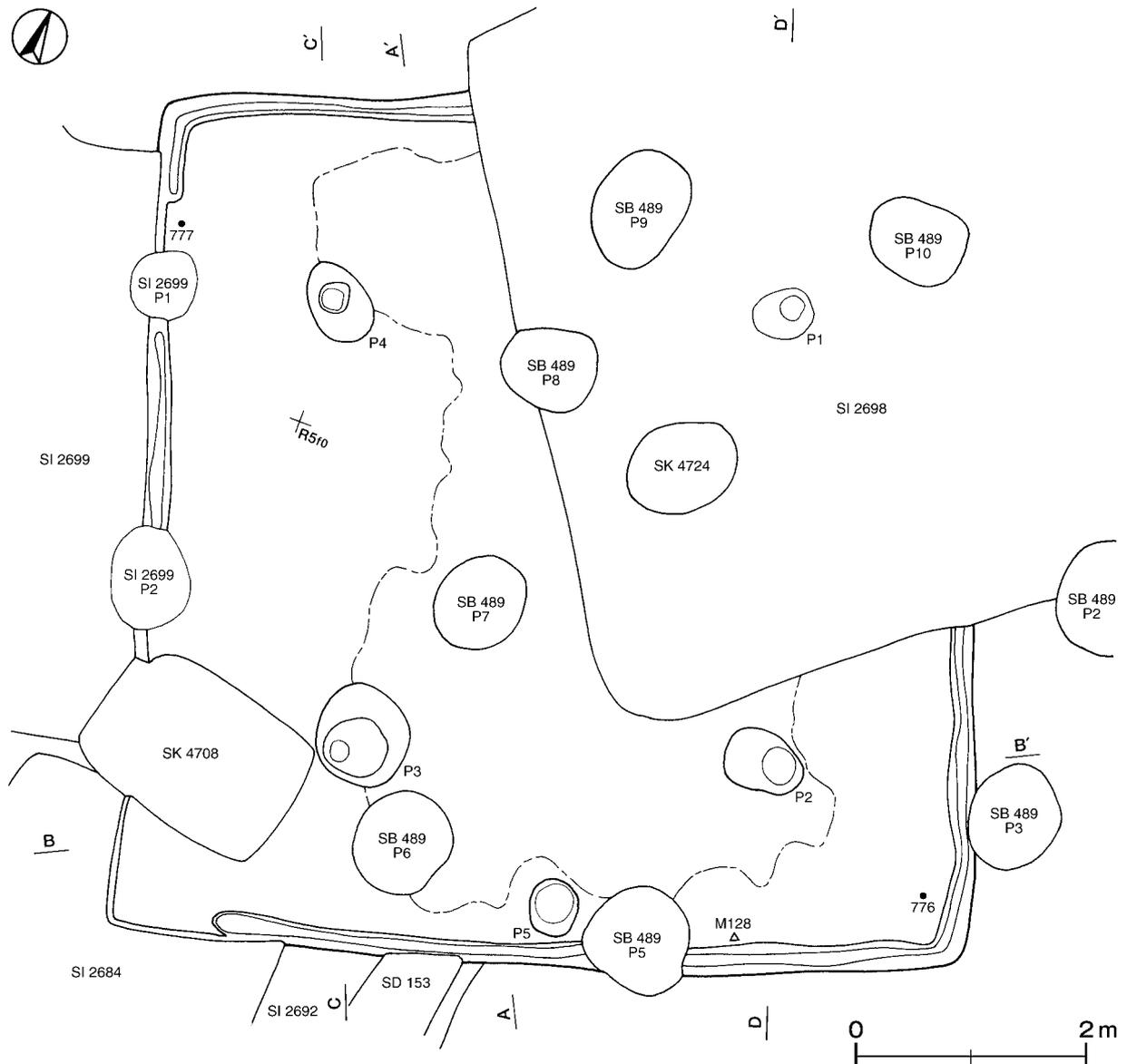
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片103点(坏19, 甕類84), 須恵器片5点(坏1, 蓋1, 甕類3), 土製品4点(支脚1, 不明3)のほか、混入した平安時代の土師器片3点, 土師質土器片5点, 灰釉陶器片1点, 瓦片3点も出土している。ほとんどの遺物は細片であるが、体部と口縁部の境が不明瞭な坏が検出されている。

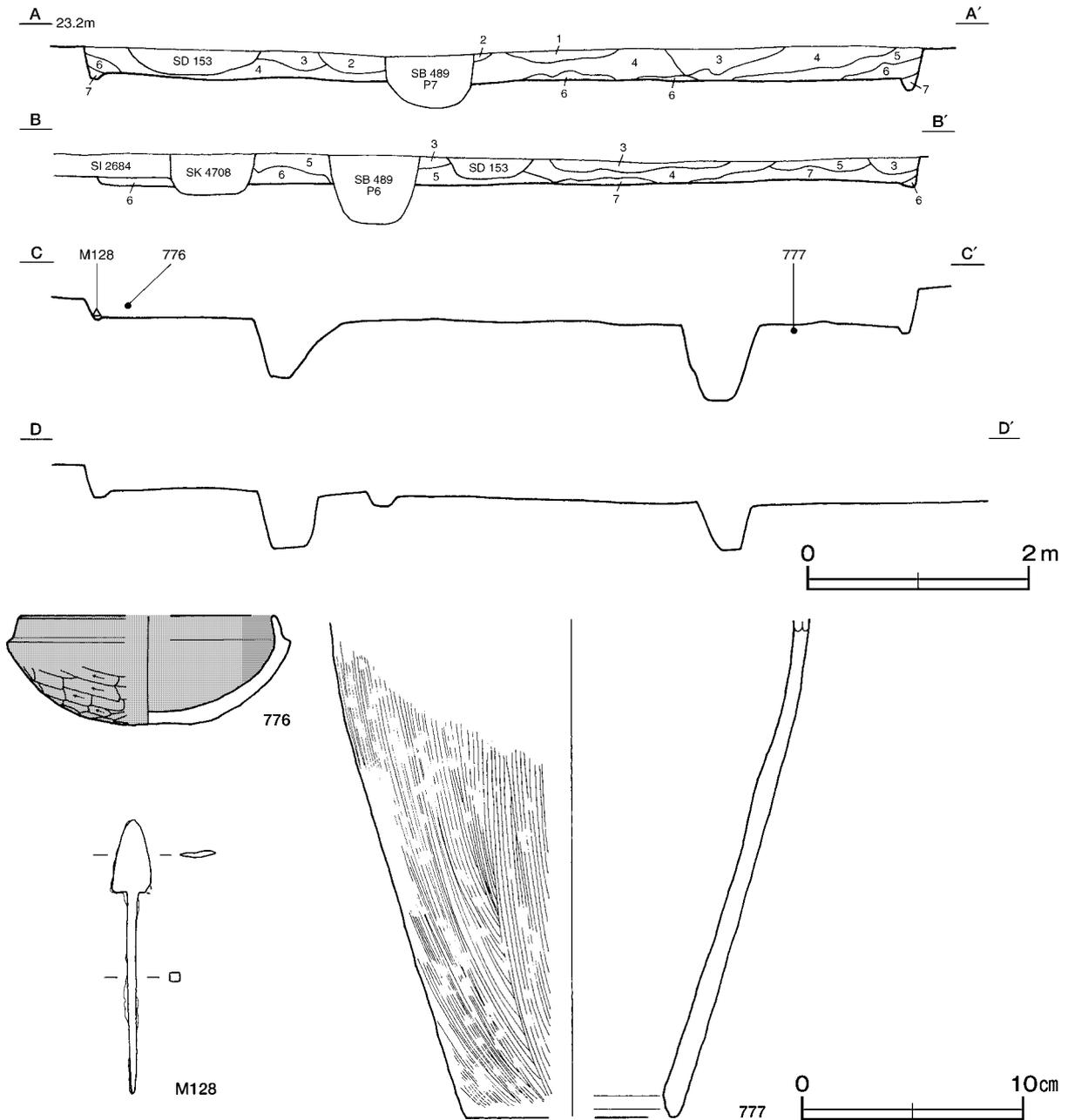
所見 出土土器が細片であるため時期判断は困難であるが、7世紀前葉と考えられる第2703号住居跡を掘り込み、8世紀後葉と考えられる第2695号住居に掘り込まれていることや、覆土中から出土した土師器坏の形態から7世紀前葉以降と考えられる。

第2705号住居跡 (第486・487図)

位置 調査区東部のR5f0区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。



第486図 第2705号住居跡実測図



第487図 第2705号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第2692号住居跡を掘り込み，第2684・2698・2699号住居，第489号掘立柱建物，第153号溝，第4708・4724号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.65m，短軸7.45mの方形で，主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は25～35cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，支柱穴の内側が踏み固められている。壁下には，幅12～17cm，深さ6～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは46～78cmである。P5は深さ23cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。全体的にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量,焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量,炭化物微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片269点(坏47,高坏4,甕類211,甌7),鉄製品1点(鏃),粘土塊1点が出土している。

777は北西コーナー部の床面,776は南東コーナー部,M128は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は,出土土器と遺構の重複関係から6世紀後葉以前と考えられる。

第2705号住居跡出土遺物観察表(第487図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
776	土師器	坏	[11.4]	5.0	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	60%
777	土師器	甌	-	(22.8)	[9.3]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き	床面	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M128	鏃	12.6	(1.8)	0.3~0.5	(9.2)	鉄	三角形 両鑄造 無関	下層	PL145

第2707号住居跡(第488図)

位置 調査区南部のS 4 b6区,標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第95号堀に掘り込まれている。また,耕作による攪乱と削平のため,東コーナー部を除いて床面や竈の火床部がほとんど露出した状態で検出された。

規模と形状 長軸は5.14m,短軸は4.08mを確認している。主軸方向はN-51°-Eである。壁高は最も残りの良い東コーナー部で20cmであるが,立ち上がりの状況は攪乱のため不明である。

床 確認できた部分ではほぼ平坦で,壁際まで踏み固められている。

竈 北東壁に付設されている。規模は,焚口部から煙道部まで110cmを確認し,袖部幅は竈の中軸線で反転復元すると107cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており,火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ39cm掘り込まれている。覆土は第1~4層に分けられ,ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|-------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量,焼土粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量,炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット P1は深さ39cmで,東コーナー部付近に位置していることから,支柱穴と考えられる。

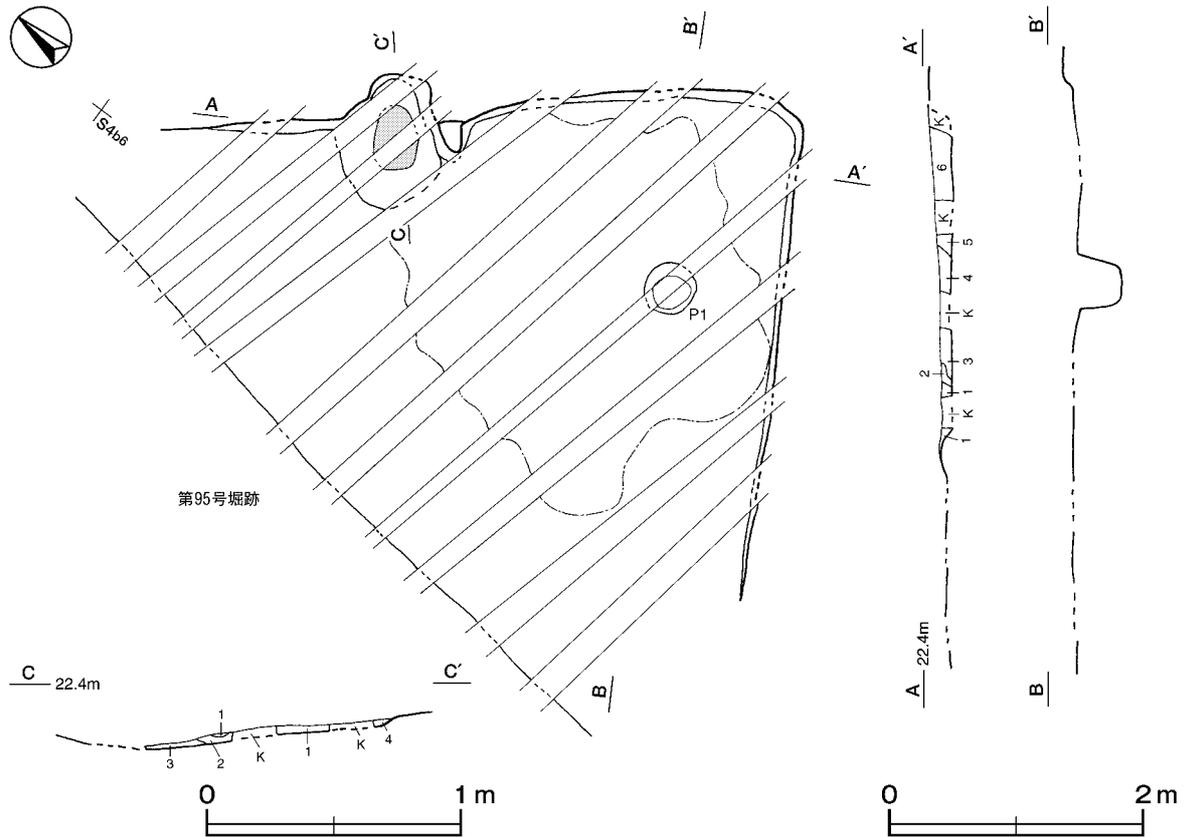
覆土 6層に分けられる。ロームブロックを多く含み,複雑な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量,炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片30点(坏6,甕類24),須恵器片2点(甕類)が出土している。

所見 出土土器がいずれも細片であるため,明確な時期判定は困難であるが,6世紀後葉から7世紀前葉の土師器が主体を占めていることから,当該時期に廃絶した可能性が考えられる。



第488図 第2707号住居跡実測図

(2) 土坑

第5363号土坑 (第489図)

位置 調査区南部のS 4 e7 区, 標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

重複関係 第2706号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.26m, 短径1.66mの楕円形で, 長径方向はN-22°-Eである。深さは30cmで, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

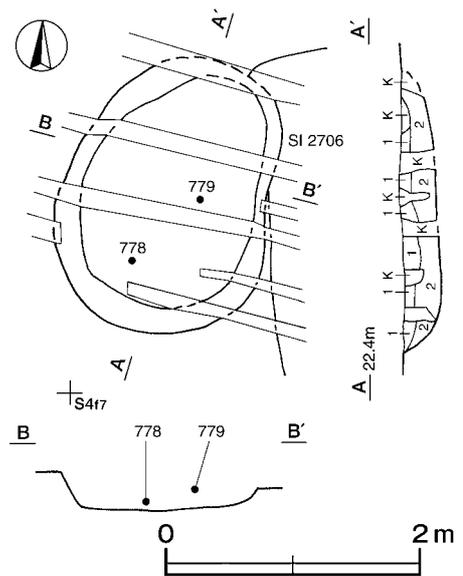
覆土 2層に分けられる。焼土や炭化材をブロック状に含む人為堆積であり, 坑内で火が使用されたと推定されるが, 火を受けた部分は不明瞭で, 埋め戻す際に攪拌されたと考えられる。

土層解説

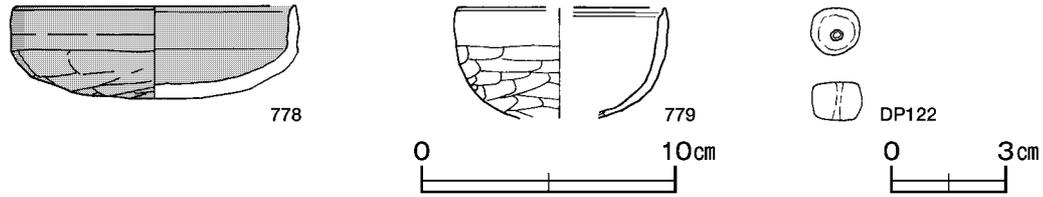
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量
- 2 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材中量

遺物出土状況 土師器片50点(坏24, 高坏1, 甕類25), 須恵器片1点(坏), 土製品1点(土玉)が, 覆土下層を中心に出土している。778・779は, 覆土下層から出土しており, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 坑内で火が使用された可能性があるが, 性格は不明である。時期は, 出土土器から7世紀中葉以前と考えられる。



第489図 第5363号土坑実測図



第490図 第5363号土坑出土遺物実測図

第5363号土坑出土遺物観察表 (第490図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
778	土師器	坏	10.9	3.6	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	90%
779	土師器	坏	[8.2]	(4.3)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP122	小玉	1.3	1.0	0.2	1.9	土(長石・石英)	ナデ 二方向からの穿孔	覆土中	PL140

表42 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考(時期)
								主柱穴	出入口 ビット	炉・竈	貯蔵穴	貯蔵穴			
2592	S 4 g8	N - 6 ° - W	[長方形]	[5.50]×(4.70)	1.5	平坦	-	-	-	-	-	-	不明		6世紀後葉 ~ 7世紀前葉
2594	S 5 c3	N - 8 ° - W	方形	4.24×4.16	26~32	平坦	[全周]	4	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 土製 勾玉	7世紀前葉
2595	S 5 b5	N - 10 ° - W	長方形	5.23×4.45	11~27	平坦	-	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片	7世紀前葉 - 中葉
2596	S 4 h0	N - 12 ° - W	[方形・ 長方形]	7.00×(4.32)	3	平坦	一部	2	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 支脚	7世紀中葉以前
2597	S 5 h2	N - 18 ° - W	[長方形]	4.36×(3.02)	28~42	平坦	[全周]	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片 土製勾玉 土製 支脚 磨石 磨石 刀子	6世紀後葉以前
2598	S 5 a6	N - 10 ° - E	方形	5.10×4.80	8~20	平坦	全周	3	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須惠器 片, 小玉, 支脚	6世紀後葉 ~ 7世紀前葉
2601	S 5 b5	N - 4 ° - W	長方形	5.62×4.96	12~26	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器 片, 土玉, 支脚	7世紀前葉
2603	S 4 e9	N - 24 ° - W	方形	4.86×4.60	32~35	平坦	-	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片	6世紀後葉
2606	S 5 f4	N - 47 ° - W	[方形・ 長方形]	5.92×(2.52)	43~51	平坦	-	1	-	-	竈1	-	人為	土師器片 支脚, 砥石	6世紀後葉
2607	S 4 e8	N - 9 ° - W	[方形・ 長方形]	(5.74)×5.55	8~36	平坦	一部	1	-	-	竈1	-	自然	土師器片	6世紀後葉 ~ 7世紀前葉
2609	S 5 c2	N - 27 ° - W	方形	5.30×5.28	19~50	平坦	全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器片 土製勾玉 土製 切子玉 小玉 土製紡錘車	6世紀後葉
2612	R 4 i6	N - 18 ° - E	[方形]	(7.32×3.41)	19	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片, 砥石	7世紀前葉以前
2614	S 4 c9	N - 29 ° - W	[方形・ 長方形]	(5.44×4.06)	28~32	平坦	[全周]	1	1	-	-	-	人為	土師器片	7世紀前葉
2624	S 5 a8	N - 1 ° - W	方形	5.08×5.01	11~21	平坦	ほほ 全周	4	2	-	竈1	-	人為	土師器片, 支脚	7世紀中葉
2625	R 5 j9	N - 7 ° - W	方形	5.16×4.91	15~20	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	1	人為	土師器片	6世紀後葉
2628	R 4 c0	N - 23 ° - W	[方形]	[6.82×6.78]	4	平坦	-	-	-	3	竈1	-	人為	土師器片, 鎌	6世紀後葉以前
2629	R 4 c0	N - 25 ° - W	[方形]	5.20×4.98	20~32	平坦	一部	4	1	1	竈1	1	人為	土師器片, 支脚	6世紀後葉以前
2634	S 5 c0	N - 3 ° - W	[方形・ 長方形]	6.50×(4.90)	10~20	平坦	[全周]	2	-	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠 器片, 釘	7世紀中葉
2635	R 5 i4	N - 40 ° - W	方形	7.60×[7.00]	10~16	平坦	[全周]	4	2	-	竈1	1	人為	土師器片, 須惠 器片, 土玉	7世紀前葉
2637	R 5 j0	N - 23 ° - W	方形	4.20×4.02	6~22	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 支脚	7世紀前葉
2638	R 4 h8	N - 33 ° - W	方形	7.18×7.10	20	平坦	[全周]	4	1	-	炉3	1	人為	土師器片, 双孔 円板, 刀子	5世紀中葉
2639	S 4 a7	N - 17 ° - E	[方形・ 長方形]	4.20×(2.82)	7	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 須惠 器片	7世紀中葉以降
2640	Q 5 h7	N - 12 ° - W	方形	7.10×6.82	7~10	平坦	一部	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須惠 器片	7世紀後葉
2643	R 5 a3	N - 5 ° - W	[方形・ 長方形]	(3.15×1.64)	12~16	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片	6~7世紀代
2649	R 5 c6	N - 18 ° - W	方形	7.20×6.97	17~36	平坦	-	2	-	-	竈1	-	人為	土師器片 須惠器片, 土玉, 小玉, 支脚	7世紀後葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考(時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2650	Q 5 g5	N - 27 ° - W	[方形・ 長方形]	6.22×(4.56)	4 ~ 5	平坦	[全周]	3	1	-	-	-	人為	土師器片, 須惠 器片, 刀子	7世紀前葉
2657	Q 5 i4	N - 23 ° - W	方形	7.28×7.06	20 ~ 28	平坦	[全周]	4	1	11	竈 1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土玉, 小玉, 土製管玉, 支脚, 砥石	7世紀前葉
2660	R 6 a1	N - 27 ° - W	[長方形]	5.24×(4.24)	24 ~ 32	平坦	[全周]	4	1	2	竈 2	-	人為	土師器片, 須惠 器片, 支脚	7世紀前葉
2661	R 6 a1	N - 42 ° - W	方形	5.24×5.06	24 ~ 42	平坦	全周	3	1	1	竈 1	-	人為	土師器片, 支脚	6世紀後葉
2662	Q 6 h2	N - 17 ° - W	方形	5.72×5.32	5 ~ 18	平坦	[全周]	4	1	2	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠 器片, 球状土錘	7世紀中葉
2663	Q 6 j2	N - 1 ° - W	方形	4.64×4.28	24 ~ 41	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 球状土錘, 砥石, 鉄鏝	7世紀前半
2666	R 6 a3	N - 31 ° - W	方形	7.46×7.20	26 ~ 38	平坦	[全周]	6	1	3	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土玉, 球状土錘, 白土, 鉄製紡錘車	7世紀前葉
2671	R 6 c1	N - 32 ° - W	長方形	5.44×4.90	38 ~ 42	平坦	ほぼ全周	4	1	3	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製 土錘, 土製紡錘車, 支脚, 鉄鏝	7世紀後葉
2674	Q 5 j8	N - 11 ° - W	方形	4.62×4.21	9 ~ 13	平坦	ほぼ全周	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 砥石, 石製支脚, 鉄鏝	7世紀後葉
2675	R 5 a7	N - 11 ° - W	方形	5.74×5.62	41 ~ 56	平坦	全周	4	1	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 支脚, 小玉, 釘	7世紀前葉
2677	R 6 b2	-	[方形]	[8.00×8.00]	28 ~ 30	平坦	一部	4	1	-	-	-	人為	土師器片, 須惠 器片, 支脚	7世紀中葉
2678	R 6 c4	N - 21 ° - W	方形	5.00×4.60	10 ~ 18	平坦	[全周]	3	1	-	-	1	人為	土師器片, 須惠器片, 球状 土錘, 土玉, 石製勾玉, 鉄鏝	7世紀後葉
2680	Q 5 j8	N - 25 ° - W	方形	6.40×6.18	16 ~ 22	平坦	全周	-	-	2	竈 1	-	自然	土師器片, 支脚	6世紀後葉
2681	R 5 f7	N - 10 ° - W	方形	7.22×7.20	40 ~ 48	平坦	全周	4	1	3	竈 1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土 玉, 支脚, 鈿笥, 釘, 辻金具	6世紀後葉
2683	R 5 e8	N - 8 ° - E	[長方形]	5.03×4.22	4 ~ 14	平坦	-	-	-	-	炉 3	-	不明	土師器片	5世紀後葉
2685	R 6 e3	N - 24 ° - W	方形	3.78×3.72	27 ~ 33	平坦	-	4	1	1	竈 1	-	人為	土師器片, 支脚	6世紀後葉
2686	R 6 f3	N - 27 ° - W	方形	5.64×5.42	10 ~ 20	平坦	ほぼ全周	4	2	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土製 支脚, 土製紡錘車, 双孔円板	7世紀前葉
2689	R 6 f2	N - 19 ° - W	[長方形]	[7.72×6.48]	18	平坦	-	2	-	-	-	1	人為	土師器片, 白土, 双孔円板	5世紀後葉
2690	Q 6 i6	N - 30 ° - W	長方形	(5.92)×5.51	10 ~ 32	平坦	ほぼ全周	4	1	4	竈 2	-	自然	土師器片, 球状 土錘, 砥石	7世紀前葉
2692	R 5 g0	N - 10 ° - W	[方形]	[4.20×3.94]	11 ~ 12	平坦	-	-	-	-	炉 1	-	人為	土師器片	5世紀後葉
2693	R 5 c9	N - 85 ° - W	長方形	5.57×4.01	23 ~ 37	平坦	全周	1	1	1	竈 1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 支脚, 石製紡錘車	7世紀後葉
2694	R 5 c0	N - 1 ° - W	長方形	5.48×4.29	15 ~ 19	平坦	-	-	-	-	炉 2	-	人為	土師器片, 双孔円 板, 刺形模造品	5世紀後葉
2697	R 6 g1	N - 23 ° - W	方形	6.25×6.05	12 ~ 15	平坦	[全周]	4	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 磨石, 砥石, 刀子	6世紀後葉
2698	R 5 e0	N - 34 ° - W	長方形	6.30×5.74	30 ~ 38	平坦	全周	4	1	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 支脚, 土製管玉, 土玉, 球状土錘, 鉄鏝	7世紀前葉以前
2699	R 5 f9	N - 28 ° - W	方形	5.31×5.30	12 ~ 20	平坦	[全周]	4	1	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠 器片	7世紀前葉
2700	R 6 c6	N - 20 ° - W	[方形]	4.96×(4.93)	12 ~ 22	平坦	[全周]	4	1	-	竈 1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 土玉, 石製小玉	7世紀前葉以降
2701	R 5 h0	N - 4 ° - W	[長方形]	[4.50]×3.60	6 ~ 14	平坦	一部	-	-	-	竈 1	1	人為	土師器片	7世紀前葉
2702	R 6 d5	N - 29 ° - W	方形	7.00×6.92	7 ~ 14	平坦	[全周]	4	1	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠 器片, 支脚	7世紀前葉
2703	R 6 f5	N - 32 ° - W	[方形・ 長方形]	6.72×(5.48)	10 ~ 30	平坦	[全周]	4	1	-	竈 1	1	人為	土師器片, 須惠器片, 土玉, 石製紡錘車	7世紀前葉
2704	R 6 f6	N - 28 ° - W	[方形・ 長方形]	(4.72×3.80)	6 ~ 26	平坦	一部	2	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠 器片, 支脚	7世紀前葉以降
2705	R 5 f0	N - 20 ° - W	方形	7.65×7.45	25 ~ 35	平坦	一部	4	1	-	-	-	人為	土師器片, 鉄鏝	6世紀後葉以前
2707	S 4 b6	N - 51 ° - E	[方形・ 長方形]	(5.14×4.08)	20	平坦	-	1	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠 器片	6世紀後葉 ~ 7世紀前葉

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

第 2 分冊

平成19(2007)年3月19日 印刷
平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有)川田プリント
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53
TEL 029-253-5551